

2023 年度 事業報告書

2024 年 3 月 28 日

社会福祉法人どろんこ会

目次

1. 朝霞どろんこ保育園
2. 日高どろんこ保育園
3. メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
4. 鶴見どろんこ保育園
5. 越谷どろんこ保育園
6. 志木どろんこ保育園
7. 板橋仲町どろんこ保育園
8. P'S スマイル保育園
9. 三原どろんこ保育園
10. メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム
11. 市川どろんこ保育園
12. 新座どろんこ保育園
13. 仲町どろんこ保育園
14. 新羽どろんこ保育園
15. 清瀬どろんこ保育園
16. 美しが丘どろんこ保育園
17. 大豆戸どろんこ保育園
18. 草加松原どろんこ保育園
19. 越谷レイクタウンどろんこ保育園
20. 駒沢どろんこ保育園
21. メリー★ポピンズ 清瀬ルーム
22. メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
23. つくばどろんこ保育園
24. 岩切どろんこ保育園
25. メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
26. 東寺尾どろんこ保育園
27. 船橋どろんこ保育園
28. 浦安どろんこ保育園
29. ふじみ野どろんこ保育園
30. 武蔵野どろんこ保育園
31. メリー★ポピンズ 市川ルーム
32. 若林どろんこ保育園

33. 中目黒どろんこ保育園
34. 船橋どろんこ保育園分園
35. 南魚沼どろんこ保育園
36. 和光どろんこ保育園
37. 三鷹どろんこ保育園
38. 万博公園どろんこ保育園
39. メリー★ポピンズ 桶川ルーム
40. 北千住どろんこ保育園
41. 一宮どろんこ保育園
42. 郡山どろんこ保育園
43. 学園の森どろんこ保育園
44. 中里どろんこ保育園
45. メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
46. 春日どろんこ保育園
47. 宮下どろんこ保育園
48. つつじヶ丘どろんこ保育園
49. 前原どろんこ保育園
50. 石川どろんこ保育園
51. 馬場どろんこ保育園
52. 読売ランド前どろんこ保育園
53. 守谷どろんこ保育園
54. メリー★ポピンズ 登戸ルーム
55. メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
56. 八山田どろんこ保育園
57. 三筑どろんこ保育園
58. メリー★ポピンズ 南砂ルーム
59. メリー★ポピンズ 松山ルーム
60. 篠栗どろんこ保育園
61. 内箕輪どろんこ保育園
62. メリー★ポピンズ 海老名ルーム
63. 香取台どろんこ保育園
64. 発達支援つむぎ 荻窪ルーム
65. 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
66. 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
67. 発達支援つむぎ 駒沢ルーム
68. 発達支援つむぎ 目白ルーム

69. 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム
70. 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
71. 発達支援つむぎ 池尻ルーム
72. 発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
73. 発達支援つむぎ 府中ルーム
74. 発達支援つむぎ 桶川ルーム
75. 発達支援つむぎ 北千住ルーム
76. 発達支援つむぎ 調布ルーム
77. 発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
78. 発達支援つむぎ 宮下ルーム
79. 子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園
80. 発達支援つむぎ 八山田ルーム
81. 発達支援つむぎ 新羽ルーム
82. 発達支援つむぎ 生田ルーム
83. 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
84. 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
85. 発達支援つむぎ 海老名ルーム
86. 発達支援つむぎ 香取台ルーム
87. 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム
88. 発達支援つむぎ 田無ルーム

2023年度 朝霞どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

朝霞どろんこ保育園及び周辺地域の恵まれた自然環境を積極的に活かし、様々な体験活動や表現活動を安全に行えるように見守った。子ども達が自分で考え、選択し、行動できる活動を保障できるよう、真に必要な機会は何かをスタッフ間で話し合い、活動に取り入れた。乳幼児期は子どもの生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期である事を共通認識とし、明るく安心感のある保育を行った。

ISO14001認証園として地域の子ども達に自園の環境を最大限に活用してもらうべく、自然環境を活かした原体験を地域の子育て世帯や近隣の保育施設へ提供した。法人の子育て理念・目標に基づいて、園児・保護者・職員・地域・行政が相互的かつ協同的に子育てに携わり、地域が一体となった子育て環境の実現向け、大きく前進した年度となった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	心理的に安全な施設環境をつくる。
	実践結果	園全体会議で接遇や施設的美観について話し合いを行った。またスタッフ全員が、子ども、保護者、施設利用者に対して温かい言葉かけや受容的にかかわる事を意識し、安心感を土台とした施設環境作りに向けた取り組みを行った。
	次年度方向性	美観や接遇について、誰がいつ来ても気持ちが良い環境を提供できるよう継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	園内研修を通してお互いが学び合う集団となる。
	実践結果	研修内容については園が直面している課題が題材となる事が多かったが、毎月の園全体会議で研修を行う事で、スタッフ一人ひとりが学び続ける事の大切さ、法人理念の理解へ繋がった。
	次年度方向性	研修動画コンテンツを積極的に取り入れた園内研修の実施。ファシリテーターを行うスタッフをローテーションで変更する。
3	計画・ねらい	怪我・ご意見のケーススタディ研修 自園で起こりやすい怪我の分析、保護者からの貴重なご意見の根幹にある背景を理解する。
	実践結果	自園他園で実際に起きた怪我やご意見の傾向を話し合い、分析と改善策を考える事で、病院受診に至る怪我が前年度より減少傾向となった。
	次年度方向性	次年度に向け、引き続き怪我・ご意見の傾向と対策を考え、大きな怪我を防ぐ。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園での日常から、子どもたちのありのままの姿や成長をわかりやすく伝え続けることで、保護者の安心と信頼関係をつくる。
	実践結果	ポートフォリオやドキュメンテーションの実践は十分とは言えなかったが、連絡帳、タイムライン、ブログの他、保護者懇談会や保育参加を活用し、子どもの姿を発信した。また運動会や生活発表会の実施により、子ども達の成長や普段の生活の様子を伝えた。
	次年度方向性	現状の発信ツールを活用しながらポートフォリオやドキュメンテーションも活用していく。
2	計画・ねらい	目で見て安心できる保育環境を整備する。
	実践結果	園側、玄関、保育室の手作り備品の安全点検を実施。手作り備品の精査を行い、入れ替えや不要な物品を処分した。 日々の清掃については確認表を使用し、実情に応じて随時表を更新しながら、漏れがないよう進めていった。
	次年度方向性	施設的美観維持は継続して実施。園庭の土入れ作業、修繕を年度初めより進めていく。
3	計画・ねらい	個別面談の利用促進。
	実践結果	面談実施が随時可能である旨の周知を行い、保護者が「面談をしたい」と感じたときに即時対応できるよう体制を整えた。
	次年度方向性	今年度同様に面談を必要とする保護者には、「いつでも、何度でも」個別面談を実施し、子育てのパートナーとしての信頼関係を築いてゆく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	潜在的ニーズへの働きかけ。
	実践結果	保育園見学、出前保育での広報以外に、利用者のネットワーク等で地域子育て支援拠点事業を知っていただき、利用したことがない家庭に対して働きかけを行った。
	次年度方向性	自園ならではの活動を前面の出しながら、今年度と同様に積極的な広報活動を行い、潜在的ニーズへ働きかける。
2	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談。
	実践結果	嘱託医による歯磨き教室、調理スタッフ主導で給食試食会を実施した。保護者から質問が多い口腔発達や離乳食について気軽に相談できる場を提供することができた。
	次年度方向性	保育園と子育て支援施設の行事を連動させる。心身の発達について専門知識がある保育者による育児相談が気軽にできる仕組みを作っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	変化を受け入れ学び合う園文化
	実践結果	園会議等で、リーダー層が積極的に自己開示を行った結果、スタッフが発言しやすい環境となった。前例にとらわれず、変化を受け入れ新しい発想や挑戦を歓迎する園文化の土台作りを行った。
	次年度方向性	心理的に安全な職場環境を保ちながら、スタッフが提案したアイデアを積極的に取り、トライアルアンドエラーを繰り返しながら、保育の質を向上させていく。
2	計画・ねらい	チーム保育
	実践結果	スタッフ間で全クラスの子どもの様子を丁寧に共有していった。年度の後半は園がひとつの大きな家のような環境となり、クラス間の垣根が無くなり、園全体が一つのチームとして保育が行われた。
	次年度方向性	配慮が必要な児童への対応についてもスタッフ間で十分な話し合を行い、対象児に対して全員が細やかな手立てができるよう進めていく。
3	計画・ねらい	就学後の子ども達の未来を想像しながら保育計画を立案する。
	実践結果	目の前の子どもの姿を大切にし、子ども達が就学後に必要な力は何かを話し合い、保育計画の立案を行った。
	次年度方向性	10年後20年後の子ども達の未来は、どのような姿になっているかをスタッフ間で話しあい、想像した未来から「子ども達が将来を生きるために必要な力は何か」を逆算思で考え保育計画に取り入れる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を生活の中に取り入れる。
	実践結果	日々の日課として畑仕事、野菜の下処理を実施。梅ジュース作り、味噌作り、たくあん作り等の食材加工や魚の解体を実施。 コンポストを使用し、生ごみ、ヤギ糞、鶏糞を利用した肥料作りに挑戦した。
	次年度方向性	鶏舎の修繕。鶏卵の管理体制を整えていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を前年度から70%に減らす。
	実践結果	給食残渣を定期的に測定し記録を行ったが、毎月の増減についてスタッフ間で検証し改善を実行するサイクルが十分に作られなかった。子どもとスタッフが共に食卓を囲み、喫食の様子を見取ることで、残渣の量は概ね減少傾向となった。
	次年度方向性	前年度比70%減に向け、給食会議で毎月の残渣量について共有し、次月に向けた具体的なアクションプランを考えていく。

3	計画・ねらい	樹木や木材に親しむ体験
	実践結果	柿、梅、花梨、夏みかんを園庭の樹木から収穫し、加工等を行って食す体験を実施。自園だけではなく、遊びに来た近隣園の子ども達も園庭遊びや焚き火体験を盛んに行っていた。
	次年度方向性	土入れ等の園庭整備を実施。地域の子も達が園庭遊びや園庭の樹木や木材に親しむ体験ができるよう積極的に園庭開放を広報していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	90人	89人	92人	137人	91人	535人
年度後半： 10~3月	36人	90人	89人	96人	138人	96人	545人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	251 人	218 人	224 人	218 人	224 人	259 人	251 人	249 人	258 人	231 人	220 人	240 人	2843 人
うち0 歳児	0人	0人	22人	24人	22人	28人	26人	31人	29人	29人	20人	24人	249人

（解説）6月より0歳児の延長利用が開始された。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	2人	2人	2人	3人	13人
うち0 歳児	0人	1人	1人	1人	0人	0人	3人						

（解説）年度後半から利用が増えていった。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
	事務	1人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人	再雇用スタッフ	0人
パート スタッフ	保育士	2人	子育て支援員	1人	用務	2人	嘱託医	0人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	コンピテンシー。 保育の質向上に関わる勉強会。 園内研修（グループワーク・ロールプレイング） 各月のねらいについて共有・各担当者からの報告、共有。
給食運営会議	月1回	食育活動の実施内容・配膳下膳の流れ確認、喫食状況の確認、 給食残渣の報告。
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で発生した事故の検討会、ヒヤリハット・ インシデントの分析と改善計画の策定。
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察と見直し。
リーダー会議	月1回	保育内容の振り返り。園内連携について、園全体の課題共 有と検証。

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長

施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 看護師
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	看護師と共に身体測定・定期健康診断の実施、施設清掃と衛生管理にかかる消耗品及び備品の管理、感染症予防対策の実施を行った。また年間保健計画の振り返りを施設長とともに実施した。
安全対策係	ハザードマップの更新、施設内外の設備点検及び事故防止会議の実施。
防火管理者	実施避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理を行った。消防署との連携窓口業務を行った。
食品衛生管理係	給食残渣の確認。食品の品質衛生管理。食育会議の立案。職員への食品衛生教育を実施した。
畑係	年間農業計画に基づいて畑状況の管理、草刈り、道具類の維持補充、園会議にて畑活動の課題と改善案を共有した。
生き物係	ヤギ・ニワトリ等、生き物の健康管理、子ども達や職員の飼育活動の把握や課題検討における責任者を担った。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と協同して準備・進行を行った。次年度は園主導になりすぎないように開催に向け、保護者との話し合いを増やしていきたい。

彩夏祭係	保護者と協力しながら予行練習等の準備や当日の進行を行った。8月開催のため、予行練習から熱中症に留意しながら実施した。
------	--

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	子どもの発達、興味関心に合わせて随時保育環境の再構成を行った。また園の周辺環境を活かした活動を年間行事計画に取り入れ、タイムラインやお迎え伝達、ブログでの発信を行った。ご意見ご要望に対しては、初動を大切に、感謝と誠実な対応を心がけ保護者の不安感につながらないようにスタッフ間で共有し改善に取り組んだ。
保育参加	4～3月まで 合計21名 が参加済み (3月1日時点) ・各学年では、前年度同様に5歳児保護者の保育参加が最も多かった。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計8名 が参加済み (3月1日時点) ・主な相談内容：園生活の様子、友だちとの関係性、喫食状況。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	人や食材との関わりから、食べる意欲を育てる。
	実践結果	畑仕事による作物の栽培や収穫を通じて、苦手な食材が食べられるようになる等、食に対する意欲や興味関心が育っている姿が見られた。 友だちや保育者と一緒に食べる事で、会話が弾み、食事の時間を楽しみにする姿が見られた。 給食時に調理スタッフが子ども達と関わる事で、喫食状況を把握し、保育スタッフとの連携が密に取れるようになった。
	次年度方向性	食育行事と畑活動を連動させ、調理スタッフ、子育て支援スタッフと子ども達が関わる機会を積極的につくる。
2	計画・ねらい	食の循環を理解し、実感することで生命の尊さを頭と心で理解する。
	実践結果	商店での買い物、畑の収穫物の販売体験、魚の解体や焚火調理体験は、食の循環や命の尊さを知る機会となった。また毎日の鶏の世話による死や採卵の体験を通し、生命のサイクルを学ぶことができた。

	次年度方向性	食品サイクルやアップサイクルについて学ぶ機会をつくる。
--	--------	-----------------------------

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月12日／11月6日に実施
歯科検診	6月8日に朝霞どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月に朝霞どろんこ保育園にて手洗い指導を実施 ② 9月20日に朝霞どろんこ保育園にて服部歯科医による歯磨き指導教室を実施 ③ 12月7～8日、5歳児を対象に性教育を実施
流行した感染症	① 2月にインフルエンザB型、園児12名・スタッフ2名蔓延し、埼玉県朝霞保健所へ報告、2月末に終息 ② 2月に新型コロナウイルス感染症、園児2名に蔓延し、2月末に終息
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	2023年3月24日に朝霞どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ名計19名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、21名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	4月の第2週に朝霞どろんこ保育園にてAED研修をスタッフ計20名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、21名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行い、消毒・換気をこまめに実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み

	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月12日、11月6日 歯科健診 各年1回/6月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊び込める環境の整備
	実践結果	大人が介入し過ぎず、声のトーンを抑え穏やかに関わる事で、子ども達が落ち着いて遊び込む姿が見られた。子どもの発達や興味関心、季節に合わせて、「やりたい」意欲が引き出せる環境を設定した。
	次年度方向性	子どもの関心を出発点とし、連続性と発展性があり、遊びの完結まで時間を要する活動を実施する。
2	計画・ねらい	主体性と協働性を育む園庭環境の整備・改良
	実践結果	安全な状況で火、水、土を最大限活用するための園庭整備、修繕を実行した。冬季を中心に実施した焚き火体験は、火の特質や危険性を理解する機会となった。近隣園による焚き火体験の機会が増え、届出等の手続や手順、焚き火のルールを共有し、安全に行えるよう配慮した。
	次年度方向性	園庭の土入れ作業や修繕を年度の初めか進め、築山の整備を行う。また砂塵抑制のため園庭緑化を検討していく。

3	計画・ねらい	異年齢交流の推進
	実践結果	散歩や戸外活動での異年齢の関りが、少しずつ生活全般へ広がっていった。また兄弟姉妹で登園している子ども達を中心に、園舎内を子ども達が自由に行き来する姿が見られた。
	次年度方向性	異年齢活動とともに、インクルーシブを前提とした環境構成を行う。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	アーチ型トンネル	園庭	毎日	異常なし
2	ままごと遊び用小屋	園庭	毎日	異常なし 9月に解体、処分
3	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
4	焚火台	園庭	毎日	異常なし
5	ままごと道具入れ	園庭	毎日	異常なし
6	丸太橋	園庭	毎日	異常なし
7	登り壁	ホール	毎日	異常なし
8	平均台	ホール	毎日	異常なし
9	スロープセット	ホール	毎日	異常なし
10	移動式用具入れ	ホール	毎日	異常なし
11	収納棚	0歳児室	毎日	異常なし
12	着替え収納棚	0.1歳児室前縁側	毎日	異常なし 11月に廃棄処分
13	かばん掛け	縁側	毎日	異常なし 1月に解体、処分
14	パーテーション	3.4.5歳児室	毎日	異常なし 1月に解体、処分
15	長椅子	3.4.5歳児室	毎日	異常なし 11月に廃棄処分
16	八角型ベンチ	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
17	丸テーブル	3.4.5歳児室	毎日	異常なし 9月に解体、処分
18	製作用収納棚	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
19	テーブル	3.4.5歳児室	毎日	異常なし 11月に廃棄処分
20	歯ブラシ立て	縁側	毎日	異常なし 11月に廃棄処分
21	木製組み立て玩具	3.4.5歳児室	毎日	異常なし
22	アーチ屋根付き小部屋	3.4.5歳児室	毎日	異常なし 11月に廃棄処分
23	ブロック遊び用収納箱	3.4.5歳児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	安全対策係を設置し、係を中心に避難訓練や不審者訓練等を行った。来園者が多い事から日頃から防犯に対する意識を高め、有事の際に迅速な対応がとれるよう備えた。
2	実践結果	水辺のリスクマネジメントとして、川遊びの資格取得した職員が中心となり川遊びやプール遊びを実施した。またプール活動時期前には実際に事故が起きた際に素早い対応がとれるようロールプレイングを実施した。AED 設置場所の変更を行い、全職員が使用法を理解し迅速に対応できる体制を整えた。
3	実践結果	光化学スモッグ対策として、朝霞市の情報を園内外の職員へ共有し、園外で活動している職員については施設長よりマニュアルに基づいた対応の指示を行った。園内については窓を閉め、子ども達の健康状況について留意した。
4	実践結果	応急救命については、看護師と施設長が中心となり、園内研修の中で蘇生方法や怪我の応急手当法等のロールプレイングを実施した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代を担う人材育成の観点から、積極的に受け入れを行った。実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて 具体的かつ家庭的に援助・指導を行った事により、自園の採用へとつながった。実習やボランティア活動の実施に際し、法人理念や地域における役割などを説明することで、園の地域施設としての役割について知ってもらう最良の機会となった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5月30日・6月6日	淑徳大学 教育学部	1人	学生ボランティア体験
5月17日	淑徳大学 教育学部	6人	保育体験・見学実習
7月5～6日	東京こども専門学校	1人	学生ボランティア体験
8月21～9月2日	東京家政大学 短期大学部	2人	責任実習
2月1～20日	十文字学園女子大学 人間生活学部 人間福祉学科	1人	部分実習
2月1～15日	総合学園ヒューマンアカデミー 東京校	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月22～24日	朝霞市立朝霞第二中学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 26名	19日 26名	16日 26名	21日 26名	18日 26名	15日 26名	20日 26名	17日 25名	15日 25名	19日 25名	28日 24名	21日 24名
園内研修	21日 18名	19日 18名	16日 16名	21日 16名	18日 19名	15日 19名	20日 16名	17日 18名	15日 19名	19日 18名	28日 20名	21日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月2・7日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 障害児保育	1名	有
9月2日	園長大学®・保育士大学	保育園における応急手当	1名	無
9月11・13日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	1名	有
11月4・6日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 マネジメント	1名	有
11月10・11日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 乳児保育	1名	有
11月4・16日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	1名	有
11月17・23日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	1名	有
12月13・16日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 食育・アレルギー対応	1名	有

12月12・14日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 乳児保育	1名	有
1月12・15日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 障害児保育	1名	有
1月17・18日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 幼児教育	1名	有
1月18・23日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 保健衛生・安全対策	1名	有
1月26・27日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 食育・アレルギー対応	1名	有
1月29・30日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 幼児教育	1名	有
2月19・26日	埼玉県	埼玉県保育士等キャリアアップ 研修 保護者支援・子育て支援	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	24日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	24日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指し、地域の子育て世帯、小学校、近隣の保育園との交流を積極的

に行った。また新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、「歯磨き指導」等の公開講座、「音楽会」の園行事や地域イベントへの参加を通して地域の子育て世帯との交流が活発に行われた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：わくわくドームすこやか花壇にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：西濃運輸、朝霞養魚場、社会福祉協議会、朝霞博物館、田島ストア、わくわくドーム、浜崎児童館、無人販売所、朝霞第三小学校、朝霞消防署浜崎分署等
世代間交流	毎月 朝霞どろんこ保育園にてシニアボランティアによる演奏会、エイサー指導を実施。
異年齢交流	11月20日に朝霞どろんこ保育園にて児童発達支援センター 元気キッズチルズとの交流会を実施。
その他活動	通年 来園する近隣園との交流を実施。朝霞市が主催する彩夏祭への参加。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保育園と小学校の双方が可能な範囲で行事活動等に参加し、交流を深めていった。子どもの就学への思いを培っていくため、幼保小連絡会議や公開授業に参加し、就学後の実態を把握していった。また保育所保育児童要録送付、必要に応じて個別に園児情報の申し送りを行い、小学校との協力関係を築いていった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月22日	朝霞市立朝霞第三小学校	21名	小学校訪問	子ども間交流
11月8日	朝霞市立朝霞第三小学校 2年生	20名	朝霞どろんこ保育園訪問	子ども間交流
1月24日	朝霞市民会館	2名	幼保小連絡会	職員間交流

3月27日	朝霞市立朝霞第三小学校	54名	小学校訪問	子ども間交流
-------	-------------	-----	-------	--------

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

園全体会議でケース会議を実施。毎月の計画を振り返り、計画に対する子どもの現状を話し合い、随時見直しながら必要な援助を取り入れていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計10回開催 参加者：18～22名

個別支援計画を基に、計画の振り返りを行った。多角的な視点で子どもの姿を捉え、共有すると共に、対象児にとって今必要と考える援助を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

2024年1月朝霞市幼保小連絡会にて、2名の職員が参加し小学校への引継ぎを行った。同年2月に、就学予定園児の保育児童要録を就学先小学校へ送付済み。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
397名	408名	432名	351名	994名	666名	924名	828名	834名	862名	850名	850名	8396名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計62件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計30回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	5名	15名	6名	7名	20名	9名	2名	11名	17名	9名	10名	10名	121名
どろんこ 芸術学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計28回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

どろんこ 自然学校	6名	2名	6名	2名	13名	4名	2名	6名	14名	17名	12名	10名	104名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：：わくわくふれあい花壇にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	12名	12名	8名	0名	0名	2名	6名	6名	0名	0名	5名	5名	56名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：石井、畔上、斉藤

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

前年度同様にお迎えの時の保護者伝達、接遇に関するご要望があったが、衛生面、安全管理に対するご意見は減少した。利用者アンケートの結果を真摯に受け止め、園会議にて改善策を話し合い、実施していった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ：0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：朝霞どろんこ保育園 施設長 石井 崇洋

2023年度 日高どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育目標

「子どもを信じて持つ」

子どもの想いを尊重し自らが考えて行動できるよう環境構成や活動の場の提供を行った。挑戦する心を信じ、失敗することの経験も大切にしながら子どもを見守った。自信をもって何事にも「やってみよう」という気持ちになる子が増え、活動の幅が広がり、園全体が明るく活性化していった。

「混ざり合う保育」

異年齢保育を大切に0から12歳までがお互い良い距離間で関わる機会を持つことで、子どもにとっての学びや尊敬につながり興味・関心へとつながっていった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ほんものの体験
	実践結果	見る・聞く・触れるなど五感を刺激するような直接的体験を常に意識することで、子どもの興味が広がり活動や生活の幅が広がった。
	次年度方向性	火・水・土に触れるなどの原体験や日課の雑巾がけや長距離散歩に力を入れていく。
2	計画・ねらい	学び合う集団
	実践結果	スタッフごとに差はあるが研修に参加をするなど自身で学びにつなげようとする姿が見られた。学び合うという点では発表形式でできたスタッフは少なかったと感じる。
	次年度方向性	学んだことをアウトプットする場を園内会議等で用意し、学びを深めるとともにスタッフ同士で学びを広めていく
3	計画・ねらい	子ども同士の関わり
	実践結果	保育者は必要以上に関わり過ぎないように見守り、子ども同士の関係性に任せていくようにしていった。大人が介入しないことで子ども自身が考えや行動するような姿があった。
	次年度方向性	子どもとの距離間を見極めながら任せていく保育を行う

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	積極的な家庭連携
	実践結果	迎え時には活動ではなく子どものエピソードで様子を伝え安心して預けられるような場となるよう心掛けた。短い時間でも保護者と関わりを大切に、信頼関係を築くことで、より良い子育て環境を目指した。
	次年度方向性	お迎え時に混雑すると待っている時間が長いように感じている保護者の方もいたため、スムーズに行えるようにしていく。
2	計画・ねらい	おもてなしのこころ
	実践結果	保護者に思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝を忘れず、常におもてなしのこころを持ち関わっていけるようにした。あたたかい雰囲気保護者を迎えらるるよう相手の気持ちに立った姿勢でいられるよう意識をした。
	次年度方向性	お迎え時の対応だけでなく美観を意識した整理整頓を心がけ、視覚からも安心できる場にしたい。
3	計画・ねらい	共有機会の増加
	実践結果	お迎え時に伝える保育園でのエピソード以外にもポートフォリオやタイムラインを活用し、子どもの情報を共有する機会を増やしていた。
	次年度方向性	保護者の意見をより積極的に取り入れ、子どもの姿を共有できるような場を考えていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信
	実践結果	保育活動を地域に方にも知ってもらえるよう情報を発信。敷居が低く気軽に立ち入れるような拠点となるようにしていった。
	次年度方向性	大型行事を活用し、地域の子育て世代や小学生などの様々な世代が来園できるような園とする。
2	計画・ねらい	子育て相談や支援
	実践結果	子育て支援センターを利用した保護者にも挨拶から始まり、世間話をするこことで相談をしやすい環境を整えていった。相談室を利用し、相談しづらい内容でも話せる場を用意した。
	次年度方向性	子育て支援を利用している方の心が打ち解けるようなアットホームな関わりを心がけ、引き続き、相談件数が増えるような心地よい場をつくっていく。
3	計画・ねらい	利用者同士が交流
	実践結果	園庭開放や自然学校等、イベントに参加された利用者同士がつながれるような雰囲気づくりをした。

	次年度方向性	引き続き、利用者同士が交流できる場を設定し横のつながりを増やしていく。
--	--------	-------------------------------------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課の徹底
	実践結果	どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり意識を高め、形だけやるのではなく、意味を深めながら実践することで少しずつではあるが日課として成り立っていった。
	次年度方向性	日課や法人のこだわりの理解を深め、活動の質を向上させる。
2	計画・ねらい	子どもの「やりたい」を促す環境構成
	実践結果	子どもの興味・関心を捉え、今の子どもに必要なことやものを環境構成していった。マインドマップなどの手法を使い子どもを真ん中に考えた保育を行った。
	次年度方向性	環境構成についてスタッフが学べる機会を用意し、子どもの「やりたい」を実現できるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	遊び込める環境構成
	実践結果	子どもの発達を捉え玩具を選定していった。玩具の購入や手作り玩具を作成し、子どもの興味・関心を広げる選択制のある環境構成をした。
	次年度方向性	計画的に玩具や家具を購入し、子どもがより集中して遊べる環境を追及していく。
2	計画・ねらい	安全に楽しめる園庭
	実践結果	自然豊かで子どもが裸足で走り回れるよう園庭に土を追加したり、クローバーのタネを植えた。安全で楽しい雰囲気のある園庭の状態をつくっていった。
	次年度方向性	危険物の除去や土の追加については引き続き行っていき、子どもが寝ころべるような園庭を目指す。

〈6〉子どもの「やりたい」を大切にする

1	計画・ねらい	子どもの興味・関心に合わせた活動
	実践結果	子どものエピソードを共有し、興味・関心を共有することで子どもの「やりたい」を叶えられような活動を用意した。

歳児													
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	事務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘 事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／ 全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・イン シデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見 直し

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長

施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	企画運営 日程調整 会場設置 近隣広告配布
運動会係	企画運営 大道具 会場設置 放送 保護者配布物作成
生活発表会係	企画運営 大道具 会場設置 放送 保護者配布物作成

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・法人ならではの活動や、日々の様子を連絡帳、タイムライン、口頭対応、ポートフォリオなどで伝え、安心して子どもを預けられるような工夫を行った。
保育参加	4～3月まで 合計8名 が参加済み (3月15日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月15日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

I	計画・ねらい	食べることで心を豊かにし、元気な身体をつくる
	実践結果	畑活動や食の循環を知る体験等により食材や食事について興味関心を持つるようになっていった。食事を楽しめるような雰囲気づくりを意識し環境構成を行っていった。
	次年度方向性	食材に触れる機会を今年度より増やし

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月7日／11月8日に実施
歯科検診	6月21日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	9月7日に自園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	12月にインフルエンザA、園児20名・スタッフ4名 2月にインフルエンザB、園児13名・スタッフ1名
発作・痙攣等の対応	対応なし。
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に自園にてエピペン研修を受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、23名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・9月2日に自園にて普通救命講習を計20名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月、11月 歯科健診 各年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「やりたい」と思いついたときに実現できる環境
	実践結果	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有し実践した。
	次年度方向性	環境はその都度考え変えていく必要があるため、定期的に見直すことが必要である。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ツリーハウス	園庭	毎日	異常なし
2	見晴台	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策（P.12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
---	------	--

2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P. 14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P. 20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P. 21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的な援助・指導を行った。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月28～9月9日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習Ⅱ
8月28～9月9日	山村学園短期大学	1人	保育実習ⅡⅠ
2月20～27日	大宮こども専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
12月6～8日	高麗川中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 25名	31日 25名	30日 25名	31日 25名	31日 25名	29日 25名	31日 25名	30日 25名	29日 25名	31日 25名	29日 25名	29日 25名
園内研修	21日 25名	19日 25名	16日 25名	21日 25名	18日 25名	15日 25名	20日 25名	17日 25名	15日 25名	19日 25名	16日 25名	21日 25名

〈2〉外部研修への出席

キャリアアップ研修に参加

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	10日 1名	7日 1名	5日 1名	2日 1名	6日 1名	4日 1名	8日 1名	6日 1名	10日 1名	7日 1名	6日 1名
施設長勉強会	19日 1名	24日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に園外に出かけたり、招待したりと近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、地域に愛されるよう計画し実践してきた。またそれにより、つながりをより深めることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：日高総合公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：交番、コンビニ、スーパー、農家等
世代間交流	12月6日に高麗川中学校にて高麗川中学生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

各小学校への挨拶を行い、連携依頼、授業参観等の実施を行った。また、小学校へ不安なく移行ができるよう連携・引継ぎを行った。

〈2〉具体的な連携

- ・就学予定の小学校職員との連携を図り、児童の情報共有。
- ・保育所保育要録の送付。

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践した

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・4～3月に計12回開催 参加者：30名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

児童要録を用いて、小学校との引き継ぎを行った。アプローチカリキュラムを立て、遊びを通して就学に向けての準備をした。就学前には各小学校からの聞き取りもあり、その際子どもそれぞれの引継ぎ事項を共有した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
99名	71名	99名	112名	71名	80名	120名	104名	81名	64名	77名	80名	1058名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計15件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	7名	13名	15名	19名	19名	24名	24名	13名	17名	18名	9名	15名	193名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	13名	7名	13名	2名	2名	0名	11名	6名	6名	5名	14名	5名	84名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：日高総合公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	12名	0名	2名	0名	28名	7名	6名	0名	0名	5名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年8月8日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：宮園 司、嶋山 美鈴、青田 美恵子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：日高どろんこ保育園 施設長 宮園 司

2023年度 メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

今年度基本方針に掲げた内容を念頭に置き、子ども一人ひとりと向き合い、園会議や昼礼を中心に子どもの現在の姿の共有やこれからの成長に繋がる保育展開を職員同士で考え、話し合いを行い、子ども自身が主体的に活動の選択をできるように、試行錯誤を繰り返し行ってきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施する
	実践結果	職員間でなぜやるのかをディスカッションを繰り返しながら、職員間での認識のすり合わせを行い、子どもたちとも話し合いを行ってきたことで、子どもたち自身もやる意味がわかり、意欲的に取り組姿勢が見られるようになった。
	次年度方向性	継続的に取り組みを行い、定期的に振り返りをしながらよりよい取り組みになっていけるようしていく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事や魚や鶏を捌いて食べる体験、コンポスト作成などを通して食の循環や環境への意識が芽生えてきた。
	次年度方向性	継続的に取り組みを行い、環境への意識につながる活動を増やしていきたい。
3	計画・ねらい	小1を知る：小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する
	実践結果	徳丸小学校を中心に職員交流や授業見学を行い、小学校に向けて子どもの育ちに必要な体験は何かを職員同士でディスカッションを行ってきた。
	次年度方向性	職員交流や授業見学を行いながら、職員間でのディスカッションを通して理解を深めていきたい。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践結果	お迎え時の対応としてまだ不十分な所はあるが、着実に話す内容やエピソードの質が上がってきているように感じる。その結果も利用者アンケートに反映されていた。

	次年度方向性	より多くの家庭に子どもの姿や家庭と園での子どもを共有できるように日々のコミュニケーションを大切にしていく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良い施設
	実践結果	第三者の目を意識しながら園内を見渡す意識を持つことで、棚の上の荷物などを片付ける意識定着してきている。
	次年度方向性	意識をしている時は心掛けているが、そうでないときに物が置いたままになってしまうので、常に意識が出来るようにしていく。
3	計画・ねらい	年2回保護者個人面談実施
	実践結果	必要に応じて、面談の声掛けや保護者との情報交換を行った。12月～3月に2～5歳児の保護者と面談の機会を設けた。
	次年度方向性	全家庭と年2回面談を行うことが出来なかったため、面談のスケジュールを前もって設定しバランスよく情報交換が行えるようにしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践結果	子育て支援での来園が247名でした。
	次年度方向性	より多くの方に支援事業を知ってもらい、参加してもらえよう広報も含め行っていく。
2	計画・ねらい	地域公開講座を実施
	実践結果	地域公開講座を今年度1回計画していたが、担当職員の体調不良もあり中止となってしまった。
	次年度方向性	開催が出来るように計画含め行っていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP：学び続ける文化
	実践結果	個人の目標設定を行いながら、園内研修や法人内研修を中心に参加できる職員は参加をして園内でのアウトプットを行い、一人での学びを園の学びにつなげて園全体での成長につなげていった。
	次年度方向性	引き続き学び続けていく姿勢を大切に園での学びにつなげていく。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、逆算した保育計画・アプローチカリキュラム作成

	実践結果	作成方法を学びながら作成をした。
	次年度方向性	引き続き、計画作成を学びながら PDCA を大切にしていく。
3	計画・ねらい	保育所保育指針について理解を深めていく
	実践結果	保育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていった。
	次年度方向性	引き続き、保育所保育指針の学びを深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事や魚や鶏を捌いて食べる体験、コンポスト作成などを通して食の循環や環境への意識が芽生えてきた。
	次年度方向性	継続的に取り組みを行い、環境への意識につながる活動を増やしていきたい。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実践
	実践結果	コンポストを通して循環サイクルを試みが、畑に使うまでは行けなかった。
	次年度方向性	試行錯誤をしながら循環が出来るようにしていく。

〈6〉自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成を作る

1	計画・ねらい	自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成を作る
	実践結果	子どもたちにも選択することが馴染んできて、積極的に活動を選択する姿があり、その中で異年齢での関わりや助け合う姿が増えてきた。
	次年度方向性	引き続き行いながら、選択の幅や方法を工夫していく。

〈7〉期日とルールを守る組織となる

1	計画・ねらい	期日とルールを守る組織となる
	実践結果	期日を明確にすることで職員同士の意識が高まり、期日を守るようになってきた。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	3人
パート スタッフ	保育士	4人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピテンシー ・ 保育の質向上に関わる勉強会 ・ 各担当からの提案や報告 ・ 園内研修 ・ 研修報告
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育計画進捗確認 ・ 献立内容の見直し ・ アレルギー対応の確認 ・ 離乳食の確認、提供方法の確認
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内外の事故記録簿考察 ・ インシデント、ヒヤリハット考察、分析、検証
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの子どもの発達の確認や引継ぎ ・ 要支援児童の個別指導計画振り返り ・ 関係機関との連携

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理点検表を用いて、衛生的に園運営がされているか管理運営を行う 清掃確認、感染症発生時の対応
安全対策係	事故防止点検・設備点検を行うとともに日々点検・補修・修繕手配を行い生活の安全を図る。 事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの記入確認と分析、事故防止への対策 避難訓練の実施・報告・地域への周知・避難袋の確認 備蓄の確認 ハザードマップ作成 事故防止委員会開催
防火管理者	災害に備え定期点検・避難訓練・消防署への定期報告を行う。また消防設備点検を実施する。
食品衛生管理係	食中毒や食品衛生法違反を起こさないよう食品衛生上の管理運営を行う給食会議開催
畑係	農業計画作成・畑の管理・苗、種植え、収穫の調整・畑の管理の調整
生き物係	生き物のエサの管理 虫かごの管理、清掃

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画と運営

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる身近な大人がいることで、心身の安定と遊びを十分に楽しんでいた。 ・様々な素材に触れ、探索活動を楽しみながら、様々な感覚を育んだ。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育った。
保育参加	4～3月まで 合計7名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計41名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・保育園での様子 ・就学に向けて心配事の共有

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践結果	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べることを実践していくために、活動を見直し改善を進めてきた。
	次年度方向性	引き続き活動を見直し改善を進めていき、子どもたちの健康な心と体を育んでいきたい。
2	計画・ねらい	食に興味を持つ
	実践結果	昨年度よりも畑で活動を増やし、畑で野菜を育てて収穫、食べる経験を多く取り入れたことで、子どもたちも畑や野菜に興味関心が出てきていた。
	次年度方向性	引き続き畑での活動を増やし、子どもたち中心に活動が出来るようにしていきたい。

3	計画・ねらい	人と食べる楽しさを感じる
	実践結果	食べたい場所を選択することで、食べたい場所、食べたい人と給食を楽しんで食べていた。
	次年度方向性	0～5歳児での給食を食べる環境も含め考えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月14日／11月8日に実施
歯科検診	6月13日にいとう歯科矯正歯科クリニックにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①4月に保育園にて手洗いうがいを実施 ② 6月に歯みがき指導を実施 ③ 1月17日に保育園にて性教育を実施
流行した感染症	①6月、7月にヘルパンギーナ、園児12名 ②2月にインフルエンザ、園児5名感染報告有り。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用 救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月6日に保育園の策定会議にてエピペンの使用方法を全スタッフが受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフが使用可能
その他保健に関する取組	当園にて志村消防署による救命救急講習を開催。10名受講。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月14日、11月8日 歯科健診 各年1回／6月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月27日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの成長にあった環境を設定する
	実践結果	子どもたちの発達、活動から保育環境の見直しを行い、担任を中心に子どもの成長、季節にあった環境を考え、構成をした。
	次年度方向性	見直しを行う期間が長かった為、1か所ずつ短い期間で見直しを行い改善に努めていきたい。
2	計画・ねらい	見守る保育(子ども理解と適切な援助)
	実践結果	保育者が我慢出来ず、見守る前に言葉が出てしまう場面もあった。
	次年度方向性	保育者間で見守る姿勢を確認し合い、言葉が出そうなときも一呼吸置き、今言葉を掛けるのが適切なのかを考えてから言葉を掛ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	かばんかけ	乳児棟/幼児棟	毎日	異常なし
2	LaQ 用テーブル	幼児棟	使用開始前	異常なし
3	お茶ジャグ設置台	乳児棟/幼児棟	毎日	異常なし
4	パーテーション	乳児棟	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	マニュアルの災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
2	実践結果	マニュアルのケガ事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従って実施が出来た。
3	実践結果	マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。
4	実践結果	マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応することが出来た。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は保育実習の受け入れはなかったが、小中高生を中心に積極的に職場体験の受け入れを行い、保育の仕事を知ってもらう機会を持つことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5～6日	東京こども専門学校	1人	ボランティア実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
6月13～15日	赤塚第一中学校	3人
8月10日	紅梅小学校	2人
8月15日	豊南高等学校/紅梅小学校	2人
8月16日	紅梅小学校	1人
8月18日	上板橋第四小学校	1人
8月23日	紅梅小学校	2人
8月24日	徳丸小学校	2人
8月25日	紅梅小学校/北野小学校	3人
8月28日	紅梅小学校/徳丸小学校	4人
8月29日	徳丸小学校	1人
8月30日	紅梅小学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	27日 21名	26日 21名	22日 21名	28日 21名	24日 19名	22日 19名	19日 19名	24日 20名	21日 17名	26日 18名	16日 18名	21日 18名
園内研修	27日 9名	26日 13名	22日 9名	28日 12名	24日 9名	22日 13名	19日 9名	24日 14名	21日 9名	26日 12名	16日 13名	21日 13名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月8日	板橋区保育運営課	トラフィックスクール研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9～10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

感染症を考慮しながら地域の人と繋がり、子育てをしていくことを目指す。駅前型保育園の子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：電車の見える公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：洋菓子店、図書館、青果店、交番、消防署、100円ショップ、病院、歯科医院、整形外科医院、コンビニエンスストア、スーパー、精肉店、ファストフード店、和菓子店、弁当店、銀行、郵便局、花屋、文具店、ドラッグストア等
世代間交流	5月18日／8月17日にプレゼンメゾン板橋徳丸を訪問
異年齢交流	1月14日に徳丸小学校にて交流会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

- ・保育所保育要録の送付
- ・定期的に職員交流や小学校見学が持つことができ、子どもたちも小学校に向けての準備が出来ていた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月25日	徳丸小学校	2名	今年度の入学の子どもの様子と振り返り（当園相談室）	職員間交流
11月15日	徳丸小学校 1年1組	2名	授業参観、学校訪問の打合せ（徳丸小教室）	職員間交流
1月11日	徳丸小学校 校庭	14名	小学校校庭探検（徳丸小校庭）	子ども間交流
1月18日	徳丸小学校 1年1組	14名	授業参観、校舎内探検（徳丸小学校）	子ども間交流
3月14日	徳丸小学校 1年1組	14名	授業参観、校舎内探検（徳丸小学校）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

現状の子どもの姿を踏まえながら支援の手立てを考えていった。関係機関と連携を取り情報を共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・4～3月に計12回開催 参加者：5名

日々の関わりを振り返りながら毎月子どもの姿を共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。担任以外の関わりでの気づきを共有していくことで、いろいろな見方で状況を把握していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各小学校へ保育所児童保育要録の送付をし、電話や必要に応じて学校へ訪問して様子を丁寧に伝えて連携をとった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	5名	8名	29名	38名	31名	44名	30名	10名	37名	7名	7名	246名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計95件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：電車の見える公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：9月19日

アンケート回答率(スタッフ)…88.2%/アンケート回答率(保護者)…38.9%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月20日に実施

(省察)利用者アンケートと時期が重複したため、回答率が下がってしまった。子どもの育ちを保護者と共有できるよう日々の関係性の充実、園と家庭との連携を第一に考えていく。

〈2〉園による自己評価の実施

2023年11月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：14時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：添島、渡辺、野元、阿部、濱崎、成瀬

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）園に対しての満足度が年々向上してきているので、今後はアンケートの回収率を上げ、子どもの育ちを保護者と共有できるよう日々の関係性の充実、園と家庭の連携を第一に考えていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者:メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム 施設長 添島 崇夫

2023年度 鶴見どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

【語り合いが生まれる施設】

・主体的・対話的で深い学び

園児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、園児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、園生活が充実するようにした。

〈2〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を捉える
	実践結果	参考資料を使いながら各クラス子どもの姿を語り合い、必要な援助や関わりができるように考えてきた。大人の指示が減り、子どもの気持ちに合った援助ができてきた。
	次年度方向性	一人ひとりの園生活が充実できるように、保育所保育指針を読み込み、スタッフ皆が同じ方向を向かっていけるように学びを深める。
2	計画・ねらい	受容的・応答的な関わり
	実践結果	アタッチメントを大切に、一人ひとりの気持ちを尊重して関わられるようにした。
	次年度方向性	相手の気持ち、自分の気持ちをそれぞれが考えて対話できるような環境をつくる。コミュニケーションを大切にする。
3	計画・ねらい	振り返る
	実践結果	各クラス、日々の振り返りを大事に時間を確保した。振り返るときに良かった点と改善点を出すようにした。
	次年度方向性	課題解決の中の過程を大切に振り返っていく。

〈3〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心の入り込んだ接遇
	実践結果	家庭環境を踏まえ、保護者の気持ちに寄り添いながた信頼関係を築き、相談しやすい環境作りをおこなった。

	次年度方向性	個々に合わせた支援が出来るような工夫をする。
2	計画・ねらい	保育者、保護者との連携
	実践結果	お迎え対応やアプリのタイムラインなどで子どもの姿を共有し丁寧な関わりを積極的におこなった。
	次年度方向性	引き続き、タイムライン強化して子どもの姿を共有していく。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターとの関わり
	実践結果	どろんこ祭りを通してサポーターとの信頼関係が深まった。
	次年度方向性	引き続き、サポーターの協力のもと子ども達が安心して園生活を送れるようにする。

〈4〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	出張動物園
	実践結果	ヤギ、鶏の出張動物園を通して、自園の地域に限らず、広い地域と交流した。
	次年度方向性	引き続き、同じ法人内での出張動物園、小学校へ出張動物園を継続的におこない宣伝活動していく。
2	計画・ねらい	食育を通じた地域交流
	実践結果	園内の畑を地域の方と一緒に利用できるように計画していたが、実行できなかった。
	次年度方向性	安定した畑づくりから行う。
3	計画・ねらい	地域に開かれた園
	実践結果	体験保育、出前保育、園開放、小中高生交流、世代間交流、ボランティア受け入れを積極的に行った。
	次年度方向性	引き続き、園庭開放や交流保育を提案し地域の中で大きな家を目指す。

〈5〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	考えるチーム
	実践結果	園内研修ではリーダーに任せることを大事にスタッフ一人ひとりが自分で考えられるように進めていった。
	次年度方向性	主体的に行動できるような環境を作る。
2	計画・ねらい	リーダー層の育成
	実践結果	対話を中心に、繰り返し課題や良かったことを振り返った。
	次年度方向性	リーダーシップが発揮できるような環境を作る。
3	計画・ねらい	対話するチーム
	実践結果	週会議、振り返り、園会議ではディスカッション中心におこない対話を大事にし、相手の話を聞き入れ、自分の意見も言える環境にした。
	次年度方向性	引き続き、振り返りの対話を大切にしていく。

〈6〉環境実施目標

1	計画・ねらい	行き来の出来る保育環境
	実践結果	子どもの気持ちに寄り添い、自分で遊びたい場所を考えていけるように、いつでも自由に行き来できるように環境を整えた。
	次年度方向性	引き続き、自由に遊べる環境をつくる。
2	計画・ねらい	やってみたいが実現できる環境
	実践結果	保育環境の見直しと共に、環境を書き出し、整理した。
	次年度方向性	引き続き、子どもが夢中になれる環境作りを整える。
3	計画・ねらい	園庭環境の見直し
	実践結果	職員会議にて園庭環境の見直し、子どもの興味・関心がどこにあるのか、遊び込めているのかを具体的に語り合った。
	次年度方向性	子どもの姿を追求していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
2023年度 前半：4~9 月	35人	96人	107人	116人	119人	113人	586人
2023年度 後半： 10~3月	36人	96人	108人	120人	116人	117人	593人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	102 人	90 人	110 人	96 人	109 人	79 人	99 人	70 人	61 人	87 人	80人	80人	1063 人
うち0 歳児	0 人	3 人	3 人	5 人	4 人	3 人	2 人	1 人	3 人	1 人	0人	0人	25人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人	0人											
うち0 歳児	0 人	0人											

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート	保育士	7人	補助	0人	調理	1人	事務	1人

スタッフ	用務	0人				嘱託医	1人
------	----	----	--	--	--	-----	----

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント集計報告
ケース会議	月1回	配慮児の対応、振り返り

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内汚染区域の安全管理、備品などの管理
安全対策係	怪我防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	食育会議の計画や実践、安全に対する管理
畑係	畑管理、畑計画に基づいた作業
生き物係	飼育全般に関する管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域交流、支援に取り組む。どろんこ祭りのサポート

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・新入児の園生活に慣れるまでの保護者様とお子様の不安を情報共有、相談しながら、慣れていけるように進めていった。 ・タイムライン、書面での周知を活かしながら保護者様への無理のない発信と共有の場を作った。 ・安全面に関しては保育者の連携不足から課題が残ったが、次年度に向けて保育者自身も主体的に考え、問題解決しようとする姿勢で努めた。
保育参加	4～3月まで 合計名 10が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計30名 が参加済み (3月1日時点) ・

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもの食欲と意欲を育てる
	実践結果	畑仕事を通して苦手な野菜も食べられるように、焚き火で焼き野菜をし、苦手な野菜を育てて収穫して食べることを繰り返した。
	次年度方向性	より一層畑の充実をはかるためスタッフの意識を一つにして豊作となるように環境を整え食の循環を伝えていく。
2	計画・ねらい	食品ロスを減らす
	実践結果	バイキング給食にて自分で食べる量、食べられる量がわかってくると残す児が減ってきた。
	次年度方向性	引き続き、バイキング給食にて自分で量の調節をする。
3	計画・ねらい	クッキング・畑で作物作りを継続的に取り組む
	実践結果	クッキングは子ども中心に必要な物や工程を考えた。
	次年度方向性	引き続き、子ども中心に進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月9日／11月18日に実施
歯科検診	6月9日に鶴見どろんこ保育園を会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月15日に園にて歯磨き指導を実施 ② 8月7日に園にて手洗い指導を実施 ③ 1月4日に園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	① 8月に手足口病、園児6名・スタッフ1名蔓延
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアアップ使用

エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月21日に園にて研修を行う。スタッフ名20、新任スタッフ名4計24名が新たに受講し習得見込み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、24名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	該当なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月9日、11月18日 歯科健診 各年2回／6月9日、11月18日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、11月6日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	衛生管理のもと実行し日々の掃除、チェック。
	実践結果	各リーダー中心に園内清掃、チェックをしたが、スタッフの意識の違いで綺麗を保てない場面が多かった。
	次年度方向性	各スタッフが整理整頓できるようになる。指摘し合える関係を築く。
2	計画・ねらい	みんなの大きな家をイメージし個々の居場所を確保する。
	実践結果	子どもの姿を捉え、個々に安心できる居場所が見つかるように乳児、幼児の部屋の行き来が自由にできるようにした。
	次年度方向性	継続しておこなっていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	月1回の避難訓練実施と共に年2回に不審者侵入訓練実施（保護者にも共有した）。
2	実践結果	子どもの達の命を守るため、災害に備えて保護者との連絡が取れるようにアプリの利用状況を確認した。
3	実践結果	安全マニュアルを2か月ごとに実施し、チェックリストと共に確認をし、保育者との周知に努めた。
4	実践結果	事故防止自主点検を年4回実施。
5	実践結果	日々の保育中のヒヤリハットした内容用紙に報告し事故防止に努めた。
6	実践結果	公園マップ（ハザードマップ）を作成しルート、危険場所、避難場所を職員同士でも確認し合った。
7	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件、影響、情報、注意報を把握し、発令があった場合は内容に応じて張り紙、アプリを掲示し、室内で過ごすなど移動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月7～21日	共立女子大学	1人	責任実習
2月6～17日	東京家政学院大学	2人	調理実習

〈2〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月24～26日	横浜市立横浜総合高等学校	2人
11月2.8.13日	末吉中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 25名	10日 25名	19日 25名	24日 25名	25日 25名	22日 25名	20日 25名	17日 25名	15日 25名	19日 25名	21日 25名	21日 名
園内研修	21日 14名	19日 14名	16日 14名	21日 14名	25日 14名	15日 14名	20日 14名	17日 14名	15日 14名	19日 14名	21日 15名	21日 20名

〈2〉外部研修への出席

該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名

施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の中の大きな家。散歩先で出会った地域の方へ挨拶と園庭開放の宣伝をおこなった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：三ツ池公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：クリエイト、パレット、警察署、消防署、小学校、中学校、サーティーワン、マック、魚屋、八百屋、スーパーなど
世代間交流	毎月第1・3金曜日に当園にて敬老サークル開催
異年齢交流	2月15日に旭小学校にて交流会を実施
その他活動	なし
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

コロナ禍明けにて近隣小学校との交流が多くとれた。子ども達も小学校に行くことの不安が少しずつ減ってきたように感じる。子ども同士の交流はできたが、職員間交流が出来なかった。校内見学はできたが、授業参観への見学も次年度は計画した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月19日	下末吉小学校 1年生	20名	下末吉小学校校内	子ども間交流
10月16日	末吉小学校	22名	末吉小学校（体育館）	子ども間交流
10月23日	末吉小学校	5名	末吉小学校	職員見学
12月14日	末吉小学校	20名	末吉小学校	秋祭り交流
2月15日	旭小学校	20名	旭小学校校庭	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

対象児童の支援計画作成、日々の姿を日案省察に記入。振り返りをおこない丁寧な関わり、児の興味関心はどこにあるのか、他児との関わりの手助けは本児を見守りながらおこなった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：各回5名

現在の状況と、心がけている支援を職員間で共有した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

児童要録や園訪問、交流会の際に必要な事項の引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
41名	20名	405名	638名	321名	296名	649名	418名	287名	385名	386名	380名	4226名

実施項目	詳細													
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30 にて実施													
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30 ⇒計2件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00~12:00 ⇒計0回実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00~12:00 ⇒計1回実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回:三ツ池公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	12名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月21日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻:13時00分

自己評価終了時刻:14時00分

自己評価実施者:井上、佐藤、乳児リーダー、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日:8月25日

アンケート回収率:97%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：鶴見どろんこ保育園 施設長 井上 あゆな

2023年度 越谷どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます。」を保育理念として、にんげん力をつけるために必要な遊び、野外体験を
実践し、“自分で考え、行動する思考”を育めるよう、保育者は指示命令をしない保育を展開した。
法人子育て目標である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を実践し、たくさ
んの人の人との関り合いや体験を通して、感じたこと、考えたことを様々な方法で表現できるように、ま
ずは、子どもの気持ちを受け止める保育を行ってきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	個々の発達に応じた丁寧な保育の実践。
	実践結果	・子どもに対してポジティブな態度を示してきた。きちんと向き合うこと、否定的な態度をとらないことを徹底した。 ・子どもの成長発達を正しくとらえ、常に発達にあった保育環境を提供した。
	次年度方向性	子どもの気持ちに寄り添い、受け止めることを実践し、子どもが安心してのびのびと自分を出せる場となるよう引き続きこころがけていく。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちの尊重、関わりを丁寧に行う。
	実践結果	・子ども自身のほほえみや、笑うことを引き出し、促していく保育を心掛けた。 ・子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底した。
	次年度方向性	丁寧な言葉遣いや、所作で保育ができるように心がけ、身近な大人が子どもたちの手本となることをしっかりと意識した保育を展開する。
3	計画・ねらい	日課・基本保育活動の徹底。
	実践結果	・スタッフ一人ひとりが日課・基本保育活動を実施する意味を理解し背中を見せることができた。 ・毎日継続して実践し、できたことが自信に繋がられた。
	次年度方向性	日課・基本活動を実施する順序や時間配分にバリエーションを増やすことで、日々、さらに質の高い日課と基本活動が実現されるよう引き続き学びと検討を続ける。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日々の様子をタイムラインやポートフォリオ・連絡帳での発信。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムライン、連絡帳を介して、子どもの様子や成長を保護者の方々へ日々、配信することができた。 ・スタッフによる情報発信の精度差をなくすよう、互いに情報発信内容を確認しあうことができた。
	次年度方向性	子どもの成長をより、保護者の方々とも共感できるよう、引き続き毎日の情報配信を行う。併せて、子どもたちの様子がしっかりと伝わるような伝え方の研鑽を積んでいく。
2	計画・ねらい	清潔感があり心地の良い環境を提供する。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・法人指定外、古くなった備品の入替を行った。 ・美感チェック担当による週1回の園内外の確認を行い、気になる箇所については、その都度、清掃を実施した。 ・管理表を用いて確認、実施漏れがないよう努めた。
	次年度方向性	スタッフごとに清掃箇所を担うのではなく、引き続き、清掃担当を仕組化し、現在よりも実施漏れが生じないようにしていく。
3	計画・ねらい	相手の心に入り込んだ丁寧な対応の実施。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーを活用し、ビジネスマナーについて学びを継続して実施した。 ・利用者アンケート結果をもとに、保護者の方々が必要としている対応や情報が何であるかを分析し、その中から改善すべきことを抽出した。改善した内容については、保護者の方々へ保護者懇談会にてお伝えをさせていただいた。 ・来往者の方がお見えになった際には、玄関へのお出迎え、お見送りを徹底した。
	次年度方向性	相手が何を望んでいるか、何を求めているかを様々な形で吸い上げ、その中から必要なことは、今まで以上に迅速に対応できるように心がけていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じて園の活動を保護者、地域の方々へ発信することができた。 ・SNSやその他情報で園を知って来往して下さった方々へは、園スタッフより挨拶することができた
	次年度方向性	SNSでの情報発信回数を現在よりも増やすことで、より園の存在や取り組みをさせていただく機会を増やしていく。

2	計画・ねらい	地域の全ての子育て家庭の方のほっと一息つける場所を目指す。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ちきんえっぐの存在を知っていただくために、市内の施設にご協力いただきチラシを15か所ほど設置していただくことができた。 ・地域の方々の相談や悩みに対して、親身に寄り添い言葉を交わすことを心掛けることができた。
	次年度方向性	地域の子育て世代の方への情報発信や、育児相談などを積極的に行っているよう継続して取り組みをしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子育てのプロとしての意識の水準を向上する。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの追求をすることで、自身の行動を振り返り、特徴を分析することで、長所をより伸ばすことができた。 ・個人ごとの目標設定は定性目標だけではなく定量目標を設定することで、振り返りの際に、具体的に目標達成ができたかを把握できるように工夫し、進捗を2か月ごと確認することで、修正をしながら達成に向けて行動をすることができた。
	次年度方向性	スタッフごとに目標を具体的に立案し、目標の達成に向けて行動することの個人差がまだ大きいため、具体的目標の設定がより質の高いものとなるように園全体として取り組んでいく。
2	計画・ねらい	連携を深めチーム保育力を高める。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・良かれと慣習で実践していた保育ではなく、目の前にいる子どもたちにとって必要な保育とは何かを今いるスタッフ全員が意見を持ち寄り、歴代より紡いできた保育と良いところを混ぜることができた。 ・必要な情報は可視化し、なるべく1か所に掲示するようにした。 ・会議を決定の場として再度位置づけ、全体で決定をすることで、同じ基準で行動をすることができた。結果として、報告連絡相談の回数が減り、情報共有もスムーズになった。
	次年度方向性	スタッフ自らが保育の内容について、今年度よりさらに提案し、会議の場において全体で決定できるようにしていく。
3	計画・ねらい	風通しの良い職場づくり。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月ごとの定期面談において、スタッフよりあがった提案のうち、全体判断が必要だと判断したものは、会議にて話し合いを重ねた。 ・会議で決定したことでも実践するなかで、やり方を変更することで、より良くなると判断したことについては、再度、全体で相談し、変更を繰り返すことを実践し、結果として意見を上げやすい雰囲気になった。
	次年度方向性	今年度の方法を継続し、園全体として引き続き仕組化を進めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	心地のよい環境を整えよりよい子どもの育ちへと繋げる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園内環境は、備品類の整理整頓を行い、不要なものは処分し、必要なものは購入を実施した。 ・園外環境は、2022年度に解体したヤギサークルを保護者様のご協力をいただきながら新たに新設した。
	次年度方向性	改善したことが維持・継続されるよう担当ごとの業務分掌を明確化していく。
2	計画・ねらい	心身の発達や子どもの興味関心にあった保育環境の充実。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ同士で子どもの様子を話し合い、目の前にいる子どもたちにとって最適な環境が何かの検討を継続して実施した。 ・子どもたちが穏やかに過ごせるよう、養護の視点で園全体を眺め、園全体の清掃が日々、行き届いているようにした。
	次年度方向性	スタッフ同士が子どもたち、保育内容についてゆとりをもって考えられるように業務の効率化を追求していく。
3	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残渣記録表を用いて、日、月単位で調理くずと食べ残しが発生しているかを管理し、過剰な廃棄が生じないようにした。 ・畑仕事を通じて、子どもたちへ食材と食への興味と関心がうまれるよう保育を実践した。その中で、夏は畑仕事を徹底することができず、苗をからしてしまうこともあった。 ・調理スタッフも給食の配膳、食育活動を通じて子どもたちとの関りをもつことで、子どもたちの様子を把握し、適切に保育スタッフへの助言と提案を実施した。
	次年度方向性	畑仕事が年間を通じて、園全体として取り組めるよう計画段階で精度が高い立案と、年度中に畑仕事を管理する仕組みと担当者を設ける。

〈6〉畑活動の定着

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが畑の知識を深め全員で畑仕事に携われるようにする。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣農家の方のご協力をいただき、畑に関する知識を深められる機会を設けた。 ・園内、園周辺の雑草とりは、定期的にスタッフ全員で行い、植物に携わる時間を設け、常に意識することを心掛けた。
	次年度方向性	畑仕事が年間を通じて、園全体として取り組めるよう計画段階で精度が高い立案と、年度中に畑仕事を管理する仕組みと担当者を設ける。
2	計画・ねらい	自ら栽培、体験したものを食するという循環から環境、命の大切さに気付く。

実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園の畑で収穫した野菜は、可能な限り子どもたちと漬物やスープなどで食すことを実践した。 ・魚の解体を実施し、命の大切さ、命をいただくことで自分自身が活かされていることを実感する機会を設けた。
次年度方向性	命をいただく機会に使用する食材は、死んでいるものではなく、その場で絞めて捌いてまでを経験できる素材を検討している。

〈7〉 チームワークの確立

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが認めあい、尊重できる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフからの相談に対し、施設長は内容を把握したうえで、人に起因するものはスタッフごとの人権を尊重した対応を心掛けた。 ・属人化された業務は、可能な限り仕組化を行い、チームとして行動しやすい環境を整えることで、結果として互いを認め、尊重できる雰囲気づくりに注力した。
	次年度方向性	保育品質マニュアルに基づき行動がしやすいよう、引き続き仕組化を進めていく
2	計画・ねらい	相手の気持ちや立場にたって考えられるようになる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・各スタッフの1日の業務スケジュールを可視化し、相手の状況を把握することで、報告、連絡、相談のタイミングを相手の立場にたち考えられるよう互いに配慮した。 ・ビジネスマナーについて、園内研修を活用して知識の定着を図った。 ・年2回（4月・10月）人権チェックを行い、誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていくための権利と具体的行動について学びを深めた。
	次年度方向性	子ども、保護者、地域、スタッフという様々な立場ごとの考えを知り、受け入れられる研修の実施を企画する。また、園長大学の動画コンテンツもより活用していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	54人	72人	93人	91人	126人	472人
年度後半： 10~3月	36人	54人	72人	93人	92人	126人	473人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	68人	69人	75人	64人	71人	67人	80人	59人	64人	65人	46人	50人	778人
うち0歳児	0人												

一時保育利用状況

(解説) 一時利用未実地

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	1人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・当月の行動計画の成果発表 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘 事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／ 全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・イン

		シデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
共有会議	月2回	直近2週間の保育計画の確認/直前2週間の保育よりの確認事項
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 看護師
主任会議 ／法人本部	月1回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検を行った。
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施。 環境整備、日々のリスク管理表の追いかけて行った。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行った。

食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。今年度は掲示物を多くし、子どもたちの興味や関心が持てるような取り組みを行った。
SNS・写真係	写真管理、販売用写真の選定、保存用写真の保護管理・選定を行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行った。
運動会係	協働的に準備・進行を行った。
どろんこフェスタ係	準備、進行を行った。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	特になし
保育参加	4～3月まで 合計12名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	よく遊び、よく食べる子へと育つ。
	実践結果	・給食提供は、味が混ざらないように、且つ温かいもの、冷たいもの料理ごとに食器を分けて提供した。

		・バイキング方式を実践し、大人が食べる量を決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりを行ってきた。
	次年度方向性	できることが増えてきているので、来年度も引き続き楽しい時間となるようしていきたい。
2	計画・ねらい	自ら栽培、体験したものを食するという循環から環境、命の大切さに気付く。
	実践結果	これまでは収穫して終わることが多かったが、畑で収穫した野菜を使用して、調理スタッフが子どもたちと皮むき、調理をおこない、できあがった料理を一緒に食べることを行った。
	次年度方向性	乳児も自分で育てたものを食べられるように園庭にプランターを設置し、豆苗などを栽培することで、栽培から食するまで実施しやすい環境を整えていく。
3	計画・ねらい	素材を味わえる状態での提供
	実践結果	収穫した野菜を使用してかじりとりを実施し、素材本来の甘み、苦みなどを子どもたちと味わった。結果として、他の野菜の味はどうだろうと、子どもたちの野菜への興味・関心が高まった。
	次年度方向性	命をいただく大切さを知るために、大型の魚の解体などに挑戦をしてみる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月5日／11月21日に実施
歯科検診	6月8日に越谷どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	歯磨き指導、手洗い指導の実施
流行した感染症	① 4月3日にインフルエンザA型、園児12名感染報告有り。4月7日に終息。 ② 10月10日に手足口病、園児1名感染報告有り。10月25日に終息。 ③ 12月6日に咽頭結膜炎（プール熱）、園児1名感染報告有り。12月15日に終息。

発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年2月22日に自園会場にて柴崎陸哉、新城美羽、柴田朋子、計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児対象に性教育指導を行う ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導、消毒・換気を徹底していった。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	実施なし
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月5日、11月21日 歯科健診 各年1回/6月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	棚や道具の整備、定期的な点検、整備、改善、衛生管理の徹底を継続的に 行い必要なもののみ設置された心地の良い園を目指す。
	実践結果	・現時点での法人指定備品外の備品については破棄を行い、新たに法人指 定品に買替を実施。 ※一部の備品類については、本部とも相談しながら改廃を実施。 ・段ボール保管（長期保存食・小物備品等）は、ケースへの入替を行い、 段ボール保管がないようにし、衛生管理の改善を行う。
	次年度方向性	再度園内の備品の確認を行い、不足する備品がある場合には購入を行う
2	計画・ねらい	子どもが快適に過ごせるように環境を整える。
	実践結果	・室内の環境設定は定期的に子どもたちの遊びやその時々が必要であると 思われる環境構成にし、変化させるようにした。変わらず継続するもの と、新しくするものを見極め子どもたちが充実して遊びを展開できるよ うな環境設定を心がけた。 ・環境設定について話し合い、必要だと思う玩具を都度補充した。
	次年度方向性	保育室や園庭の環境設定を引き続き子どもの発達を見極めながら実践して いく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	駒台	3・4・5歳児保 育室	毎日	異常なし
2	ままごと冷蔵庫	1・2歳児保育室	毎日	異常なし
3	肋木	0歳児保育室	毎日	異常なし
4	のぼりロープ	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・ 避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手 続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マ ニュアルNo.3の災害対策（P.6～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓
---	------	---

		練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従っていった。
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P.8）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットに基づく事故検証の実施。（事故防止委員会）
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P.22）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従っていった。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P.23）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応していった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行っていった。受け入れた際には、保育への興味関心を広めるとともに、生き生きと働く大人の背中を見せ人と人との仕事に喜びや、価値を見いだせるよう働きかけていき、未来の人材獲得へつなげていくようにした。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月3～21日	越谷保育専門学校	1人	責任実習
8月21～9月2日	目白大学	1人	観察実習
2月7～21日	越谷保育専門学校	1人	責任実習
2月8～22日	十文字学園女子大学	1人	観察実習
3月1日～13日	目白大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

2023年度受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 22名	12日 23名	9日 23名	14日 23名	10日 23名	8日 23名	13日 23名	10日 24名	8日 24名	12日 22名	9日 22名	8日 22名

〈2〉外部研修への出席

- ・キャリアアップ研修に参加

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	21日 1名	17日 0名	21日 0名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉施した地域交流

積極的に園外に出かけ、近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、地域に愛されるよう計画し実践する。つながりをより深めていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：平方公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：セブンイレブン、ワヨー株式会社、小林畳店、Bon Bon Terrasse、ベルクス、廣瀬無線電機株式会社越谷センター、越谷平方郵便局、春日部消防署備後分署、風間豆腐店、武里駅、笑来～えるか～、ダイソー等
世代間交流	あすなろホーム越谷、翔裕館にて実施
異年齢交流	・12月13日に越谷どろんこ保育園にて平方小学校1年生と交流実施 ・2月22日に平方小学校にて平方小学校1年生と交流実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は平方小学校1年生と越谷どろんこ保育園にて遊びを通じての交流会の開催、平方小学校にて校内を案内してもらい、授業風景の見学を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月13日	平方小学校1年	60名	遊びを通じて交流しよう（越谷どろんこ保育園）	子ども間交流
2月22日	平方小学校1年	60名	小学校を知ろう（平方小学校）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

要支援児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：6名

要支援園児はいないが気にかかる子に対して話し合いを多く持ち共有している、

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

学校生活との接続の質向上のために、保育要録の活用及び個別申し送りを行っていった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
52名	91名	122名	292名	154名	104名	72名	72名	109名	76名	72名	75名	1291名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計3件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	月2回(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	14名	18名	16名	15名	15名	20名	10名	8名	21名	18名	21名	20名	196名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	月2回(金) 10:00～12:00 ⇒計44回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	24名	20名	30名	46名	16名	16名	4名	17名	11名	12名	12名	208名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～19:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：平方公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	2名	0名	0名	5名	2名	0名	1名	0名	0名	1名	11名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年9月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：13時00分

自己評価実施者：施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：162%

アンケート結果をもとに、当園を利用していただく保護者の方々が何に満足し、何の質向上を願っているのかをスタッフ全員で分析し、行動計画を作成し取り組むことで運営の質向上に繋がる機会となった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきご意見 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：越谷どろんこ保育園 施設長 益田 光太郎

2023年度 志木どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

・法人理念 『にんげん力。育てます。』

・法人保育方針 『センス・オブ・ワンダー』『人対人コミュニケーション』

『こどもの育ちを支える』

マニュアルに記載の通り、どろんこ会が育てる6つの力を軸に、こども一人ひとりが自分の存在を肯定的に捉え、学び、判断し、行動できるようにより多くの機会を設けた。特に日課の充実や畑仕事や自然体験に重きを置き、おとなが姿を見せて、子どもがその姿を真似たくなるように職員一同で心掛け、子ども達も主体的に動くことが増えた。

『気持ちよく過ごせる環境づくり』

園全体の美観意識を統一し整理整頓できている状態が常となるように、努めた。また子ども同志、職員同士も丸くなりお互いの認識を知り合う機会を増やし、子どもの思いから遊びの環境設定の充実を図った。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施する
	実践結果	なぜ日課・基本保育活動を実施するのかを再度職員間で認識の統一をした。その上で、現在出来ている事、出来ていない事を全職員で確認して、どうしたら実施できるかを検討し、実践する中で振り返りを行った。
	次年度方向性	子どもが自ら「豊かに生きる力」を育む為に、子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った保育活動と物的環境設定を行う。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	なぜ今の時代に食材や食の循環・環境教育の実践が必要なのかを職員間で討議し、志木どろんこ保育園として何を行っていくのか取り組みを決め、PDCA サイクル用いて実践した。
	次年度方向性	食材や食の循環で鶏を絞めて食すことを目標に保育年間目標を立て、段階を追って食の循環を体得できるようにする。
3	計画・ねらい	小1を知る：小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する
	実践結果	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を再度学び直しおこなった。月に1回程度小学校1年生の授業を見学した。授業や子どもの様子を実際に見ると共に1年生の担任教諭と情報を得る機会を設け、小学校での取

		り組みを知り、職員間で共有して子どもの成長を考え、話し合い、PDCAサイクル用いて実践した。
	次年度方向性	引き続き、近隣の小学校と連携とり、授業見学や行事に参加する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践結果	保護者の立場に立ち、気持ちに寄り添った接遇とは何かを考え、意見を出し合い、PDCAサイクル用いて実践していく。
	次年度方向性	① 思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝の気持ちを持って関わる。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良い施設。
	実践結果	掃除、片付け、整理整頓を基本に互いに声を掛け合い、いつ見ても気持ちが良い施設を作る。
	次年度方向性	子どもを真ん中に保護者と頼り頼られ合う関係の構築
3	計画・ねらい	年2回保護者個人面談実施
	実践結果	希望する家庭や育ちの共有を望む家庭との面談を実施した。
	次年度方向性	保護者と共に子育てを行うため、保育参加の促進や懇談会欠席家庭との個人面談

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践結果	地域の保護者の子育て支援の為、感染症に注意しながらちきんえっぐや青空保育等を行う。保育園を解放し焚火での焼き芋などの取り組みを通して、遊びの提供や子育て相談を行い、保育園が身近な存在となるように努める。
	次年度方向性	地域に子育て世代にとって開かれた園になる。
2	計画・ねらい	地域公開講座を実施
	実践結果	年1回以上の地域公開講座未実施。(3/1時点)
	次年度方向性	開かれた保育園を目指すために、地域の子育て世代において公開講座を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP：学び続ける文化
	実践結果	全職員が年間目標設定を行い、目標を達成するための学びは行えたが、怪我の発生などの減少は見込めず環境設定に課題が残る。
	次年度方向性	「自ら経験と失敗の体験を選択できる環境設定」を行える職員の育成
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、逆算した保育計画・アプローチカリキュラム作成
	実践結果	子どもの姿と発達を捉え、PDCA サイクルを大切にし、振り返りからの気付きを基に保育計画・アプローチカリキュラムの作成を行ったが、発達に即した遊びの提供等に課題が残る。
	次年度方向性	保育所保育指針の10の姿を体得する。特に協同性、社会性、道徳性、規範意識をロールプレイ等で学ぶ機会を設け、保育の中でどのように実践していくのかを細かく指導する。
3	計画・ねらい	保育所保育指針について理解を深めていく
	実践結果	保育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進め共有を試みたが、その後の実践が都度行えずに滞ってしまう時期もあった。
	次年度方向性	全職員が年間目標を設定し、目標達成の為の学びを常態とする。またその学びをアウトプットしていくことで、チーム力に強化につなげる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事ではにんじんや大根の収穫を行い。干すなど様々な調理方法で食べることで食の方法を知る。また、さんまや魚を焼いたそのままの姿に興味を持ち、命を頂く体験を行った。
	次年度方向性	園庭裏側にある畑の整備を行い、畑仕事を日課とし食の循環を体得する。 食の循環を通して環境教育を行う。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実践
	実践結果	食材の廃棄を減らすため、日々の残食を軽量し、推移の記録を取る。バイキングの様子などを丁寧に見守り、残食の分量を減らすことができた。
	次年度方向性	園庭裏側にある畑の整備を行い、畑仕事を日課とし食の循環を体得する。 食の循環を通して環境教育を行う。

〈6〉 自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成を作る

1	計画・ねらい	自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成を作る
	実践結果	子どもの姿を捉え発達に即したねらいを計画した。朝の会をサークルに変え、一人ひとりが自分の思いを相手に認められる場を設けた。
	次年度方向性	園庭裏側にある畑の整備を行い、畑仕事を日課とし食の循環を体得する。食の循環を通して環境教育を行う。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	72人	72人	120人	119人	120人	539人
年度後半： 10~3月	36人	72人	72人	120人	114人	120人	534人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	24人	141 人	209 人	164 人	157 人	198 人	207 人	232 人	201 人	201 人	180 人	204 人	2118 人
うち0 歳児	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	3人	3人	1人	1人	1人	13人

（解説）一年を通して平均的に利用あり

一時保育利用状況

（解説）一時保育事業利用なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	調理士	2人		
パート スタッフ	用務	2人	事務	1人				

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> 〈1h〉 コンピテンシー・議題が上がった内容 〈1h〉 園内研修
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> 食育計画 献立内容の見直し 喫食状況（残食の記録簿） 検食簿指摘事項の改善について 配膳方法 食育活動実施内容 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成見直し
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	月1回	園長・主任・各リーダーによる報告・連絡・検討

〈2〉 出席した施設外会議 (Web 参加含む)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	コンピテンシー・各園の運営状況報告・各部署からの報告 ケース検討・マニュアルの見直し・運営状況の見直し
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討・各種マニュアル等の改訂、 検討

食育会議	年4回	給食の見直し・食育マニュアルの見直し・各園の取り組み共有
保健会議	年4回	保健マニュアルの見直し・ケース検討
主任会議	月1回	主任業務の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈3〉 係の設置状況

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理点検表を用いて、衛生的に園運営がされているか管理運営を行う・清掃確認・感染症発生時の対応
安全対策係	事故防止点検、設備点検を行うとともに日々点検・補修・修繕手配を行い生活の安全を図る・事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの記入確認と分析、事故防止への対策・ハザードマップ作成
防火管理者	災害に備え定期点検・避難訓練の実施・消防署への定期報告を行うまた消防設備点検の実施
食品衛生責任者	衛生管理点検表・スタッフ細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	農業計画作成・畑の管理・苗、植え、収穫の調整・畑の管理の調整
写真係	個人情報の確認・写真販売

〈4〉 行事係の設置状況

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携を中心的に6家庭と協同し行った。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・美観・環境設定を徹底し子どもが落ち着いて遊びこめる環境の提供に努めた。 ・子ども、大人が思いを伝え合える活動に配慮し、自分の意見を互いに伝え合える機会を増やした。 ・魚の丸焼きや大根の調理などの食育を通して、ありのままの食材が加工される姿を体感する。
保育参加	4～3月まで 合計2名が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・保育園での様子 ・就学に向けて心配事の共有 ・療育について

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践結果	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べる
	次年度方向性	来年度も引き続き活動を見直し改善を進めていき、健康な心と身体を育むことに努める。
2	計画・ねらい	食に興味を持つ
	実践結果	畑で野菜を栽培し、野菜の育ちを目の当たりし、体感することで食材に興味をもつことが出来た。
	次年度方向性	健康な心と体を育むために、身体を使う遊びを十分に行いお腹を空かせ意欲的に食べる。
3	計画・ねらい	人と食べる楽しさを感じる
	実践結果	食べたい場所を選択することで、好きな場所、好きな友達と食べることで食を楽しみ、丁寧な食事マナーなどを伝えることができた。

次年度方向性	子どもの現状を捉え、根拠を持ったアクションプランの作成し運営する。 内容を保護者と共有する。
--------	---

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月1日／11月14日に実施
歯科検診	6月14日に志木どろんこ保育園で実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月 志木どろんこ保育園にて歯磨き指導を実施 ② 6月23日 志木どろんこ保育園にて熱中症について園会議で研修を行う。 ③ 7月 志木どろんこ保育園にて、早寝早起きの指導 ④ 10月 志木どろんこ保育園にて目の健康週間を実施
流行した感染症	① 1月にインフルエンザが園児3名、感染報告あり。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に志木どろんこ保育園にてエピペン研修を計18名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、18名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・5月15日に志木どろんこ保育園にてAED研修をスタッフ計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、17名が使用可能
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み

	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6月23日・11月24日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月28日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月1日、11月14日 歯科健診 各年1回/6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの成長にあった環境を設定する
	実践結果	子どもたちの発達、活動から月1回は保育環境の見直しを行い、担任を中心に子どもの成長、季節にあった環境を考えた。
	次年度方向性	「子どもの発達にあった環境」「子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った物的環境の設定」を月ごとに見直しを行う
2	計画・ねらい	見守る保育(子ども理解と適切な援助)
	実践結果	子どもの様子を注意深く観察し、子どもにあった適切な対応を常に考え、実践することに徹底した。
	次年度方向性	子どもが話し合う機会を作り、自分たちの環境の充実についてレイアウトやルール制定などを共に考えて作り上げる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	壁登り	ホール	使用前	異常なし
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
3	棚	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<p>防災</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の災害対策(P.6～)に則り、消防計画・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。</p>
2	実践予定内容	<p>防災</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の災害対策(P.6～)に則り、消防計画・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従って実施が出来た。</p>
3	実践予定内容	<p>防犯</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の不審者対策(P.14～)に則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従って訓練が出来た。</p>
4	実践予定内容	<p>光化学スモッグ</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策(P.15～)に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応することが出来た。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

昨年度より多くの実習生を引き受けることが出来た。地域の中学校から職業体験のボランティアを受け入れたり、職業体験インタビューを受け入れるなど様々な角度の関わりを行う。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月21日～9月	彰栄保育福祉専門学校	2名	責任実習

業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育てに貢献していく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:すみれ児童公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:宗岡公民館、八百屋、ヤオコー、郵便局、交番等
世代間交流	1月31日にきらめきとシニア交流を実施
異年齢交流	12月13日、20日に宗岡第二中学校の中学3年生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度より取り組みを再開し、アプローチカリキュラムを通じて計画的に小学校との連携を進めた。

就学時には保育所保育児童要録送付、必要に応じて情報の申し送り等実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月28日	宗岡第三小学校	2名	保育参観	職員間交流
11月8日	宗岡第三小学校	2名	情報連絡会	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- 個別支援計画を毎月作成し、必要に応じて見直しを行う。
 - 全職員が周知し、子どもの成長発達を同じ視点で対応していく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

（4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定）

- 毎月の会議で子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。
- 必要に応じた対応と課題について検討していく。職員全員が家庭状況も踏まえ、共通した対応を行っていく

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

- 進級引継ぎは、書面と引継ぎ会議で行う。
- 小学校への引継ぎは、児童指導要録、また各行の担当職員との面談によって行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名						

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	6名	2名	4名	2名	0名	0名	0名	12名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：すみれ児童公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：19時30分

自己評価終了予定時刻：20時00分

自己評価実施予定者：全職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：72%

(省察)

送迎時へのご意見や提案は引き続きあるものの、職員への信頼度への評価を感じた。来年度も引き続き丁寧な対応を行い保護者様と信頼関係の構築を目指す。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべき怪我 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：志木どろんこ保育園 施設長柳澤麻衣子

2023年度 板橋仲町どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

I. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度運営本部 mission でもある『続・原点回帰:子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施する。食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する』『小1を知る:小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する』『大人のにんげん力UP:学び続ける文化の醸成』の3つを意識して運営を行った。

前年度後半から実施していた8時15分からさくらさくらんぼリズム、8時半から雑巾がけ、畑活動、ヤギ掃除をグループで分かれて実施することが日課となって定着できている。食材への意識では、マグロを園児の前で捌く体験を実施した。「魚」から「食材」に変化していく過程を観察したことで、普段魚を食べない児も「食べてみたい」という気持ちが芽生え、魚を食べられるようになった。

「小1を知る」では、小学生を意識した5歳児だけの当番活動や昨年度より多くの小学校見学を実施したことで、小学校への期待を持てるようになった。

毎月の園会議では『私たちが育てる6つの力』の活動を「なぜ」この活動を行っているのか、子どもたちの「なにが育てているのか」を話し合うことで深めることができた。また、保育者としての専門性を高めるために各自が板橋区の研修を活用して学ぶこともできた。

〈I〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ケガをしない強い体を育てる
	実践結果	裸足保育・草履保育、座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、長距離散歩の実践を通して「健康な心と体」を育むことにつながった
	次年度方向性	引き続き「さくらさくらんぼリズム」について、一つひとつの効果や動きの確認などをしていく
2	計画・ねらい	自分でできることを自分でする
	実践結果	畑仕事、縁側給食、自分たちで食事の盛付けの実践を通して「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」を育むことにつながった
	次年度方向性	引き続き「畑仕事」について、子どもたちと一緒に行動の中で体験を積み重ねて経験につながるようにしていく
3	計画・ねらい	全ての人との関わりから判断・行動を身につける
	実践結果	異年齢保育、インクルーシブ生活、銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育の実践を通して「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」を育むことにつながった
	次年度方向性	引き続き「商店街ツアー」で一つでも多くの仕事を目の当たりすることで、人との関わりを大切にできる体験につなげていく

4	計画・ねらい	活動を選択し、自分で考えて行動する
	実践結果	火と関わる、水と関わる、土と関わる、焚き火保育の実践を通して「自然との関わり・生命尊重」を育むことにつながった
	次年度方向性	「火と関わる」体験をすることが少なかったので、意識して「火と関わる」習慣をつくっていく
5	計画・ねらい	生死を知る
	実践結果	ヤギ・鶏・生き物の世話、生死教育、食材と食の循環を知る、性教育の実践を通して「自然との関わり・生命尊重」を育むことにつながった
	次年度方向性	「鶏を捌いて食す」体験を通して、私たちが「命をいただいている」認識ができるようにしていく
6	計画・ねらい	感じたこと・考えたことを表現する
	実践結果	言葉で表現する、描く・つくる、就学前教育（読み書き計算・体操・音楽）の実践を通して「数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことにつながった
	次年度方向性	「描く・つくる」体験が増えたので、引き続き体験を表出できる描画活動を実施していく

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の子育てに対する様々な悩みや疑問などに寄り添い、どう解決していくかの方法を導き出せるようにサポートをし、喜びや充実感が得られるように支援をしていく中で、成長した姿を一緒に喜び合う
	実践結果	日々のお迎え対応や連絡帳でのやり取りや個人面談月間を全学年対象で行ったことで、園児の成長した姿を一緒に喜ぶことができた
	次年度方向性	引き続き保護者に寄り添った個人面談を実施する中で、さらに園生活の姿を見ていただく保育体験につなげていくことで支援へとつなげていく
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良いと思える施設にする
	実践結果	職員が変わり、整理整頓の意識が弱まったことで、棚の上に物が乗っていることがあった。その都度どうしたらいつでも気持ちが良いと思える園になれるか仕組みを検討・実施することで、意識が向上してきた。
	次年度方向性	引き続き整理整頓が維持された状態になる仕組みを作り上げていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援行事について積極的な宣伝を行い、保育園が身近な子育て支援の場としての位置づけになるようにする
---	--------	---

	実践結果	青空保育に関して、地域の方と会うことが少ない中でもお会いした方に「ちきんえっく」（子育て支援活動）について伝えたことで、園見学につながり、さらに入園へとつながった
	次年度方向性	更なる地域支援ができるように広報活動を積極的に行っていく
2	計画・ねらい	板橋仲町どろんこ保育園の保育内容を紹介すると共に、子育ての見通しがもてるように支援を行う
	実践結果	保育体験、出産を迎える親の体験学習を通して子育ての大変さや楽しさを共感しながら支援できることを伝えていった
	次年度方向性	引き続き保育体験や出産を迎える親の体験学習を積極的に実施していくことで負担や不安の軽減につなげていく
3	計画・ねらい	生き物（ヤギやニワトリ）との触れ合いを通して、自然との関わりや地域とのつながりをもつ
	実践結果	引き続きヤギやニワトリ等の生き物の世話をしに地域の方の来園が増えている。近隣園との交流を考えていたが、新型コロナウイルス感染症以外の感染症が流行ったことにより、交流を実施できなかった。
	次年度方向性	感染症の状況に応じて近隣園との交流を実施していく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標に沿った個人の目標設定を行い、目標達成の過程を一緒に考えて進めていく（大人のにんげん力UP）
	実践結果	定期的に施設長や主任の保育同行を実施したことで、その都度気付いたことを共有することができた。また、園長大学®・保育士大学等で学んだことを日々の昼礼や全体会議等で職員に共有することで、保育の共通認識を図ることができた。
	次年度方向性	保育同行をすることで気付きが多くあったので、引き続き各クラスの保育計画に基づいて同行していく
2	計画・ねらい	リーダーを中心に年間を通したコンピテンシー計画を立て、毎月課題に取り組み、改善していく
	実践結果	毎月全体会議や昼礼でコンピテンシーの内容から園の課題を見出して実践することで一つずつ改善することができた
	次年度方向性	引き続き園の課題に沿って実施していく
3	計画・ねらい	次世代を担う職員育成に向けて、職務分野別の仕事を各自に割り振って実施する
	実践結果	職員の異動により、各職務分野（施設長、主任、リーダー等）の役割の意識に差が生じたので、その都度役割を伝えていくこと各自の意識向上につながった
	次年度方向性	引き続き意識付けと役割が滞りなく継続できるように仕組みを明確にしていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	地域に愛されているヤギをもっと身近に感じてもらえるように餌をあげやすくする
	実践結果	ヤギ小屋の修繕をすることはできなかったが、ヤギを見にきてくださっている地域の方には積極的に話しかけて、ヤギの餌をあげる体験を実施していった
	次年度方向性	ヤギ小屋を修繕して、地域の方がいつでもヤギ餌体験ができるようにしていく
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める環境構成を環境係と一緒に整えていく
	実践結果	遊び込める環境を職員間で話し合っ進めていくことで、昨年度より充実したコーナー遊びができるようになった
	次年度方向性	引き続き子どもたちの興味関心にあわせた環境をその都度構成していく

〈6〉日課の探究

1	計画・ねらい	昨年度に続き、一つひとつの活動について「なぜ行っているのか」「どんな力が育まれているのか」を省察することで、課題を見つけ、より良くなるための活動をする
	実践結果	昼礼や全体会議でのディスカッションをしたことで、日課をすることで育まれる力がどういったことなのかを職員が意識することができた。また、法人として考える「私たちが育む6つの力」について各委員会に分けてアクションを決めたことにより、より意識が向上した。
	次年度方向性	引き続き、法人として考える「私たちが育む6つの力」について課題を決めて実施していく
2	計画・ねらい	日々の保育で気付いた子どもたちの姿について語り合う風土を作って、子ども観を共有する
	実践結果	毎月各クラスがポートフォリオを作成していき、子ども観を共有することができた
	次年度方向性	子どものエピソードについて話す機会を増やしていく

〈7〉SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取り組みの追究

1	計画・ねらい	SDGsの目標である1：貧困をなくそう、目標2：飢餓をゼロに、目標3：すべての人に健康と福祉を、目標4：質の高い教育をみんなに、目標5：ジェンダー平等を実現しよう、目標6：安全な水とトイレを世界中に、目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに、目標10：人や国の不平等をなくそう、目標11：住み続けられるまちづくりを、目標12：つくる責任つかう責任、目標17：パートナーシップで目標を達成しよう 上記全ての目標に対して施設長が一人で頑張るのではなく、子どもも大人
---	--------	---

		も一緒になって、一人ひとりが今の私たちにできることを意識して始められるようにする。
実践結果		目標４：質の高い教育をみんなに 目標１０：人や国の不平等をなくそうを意識してインクルーシブという視点で保育を実践していった。子どもたちにも年齢が同じでも発達の違いや特性があることを伝えていくことで、助け合うことや教え合うことが自然とできてきている。 目標１２：つくる責任つかう責任 では地域のスーパーに交渉へ行き、捨ててしまう野菜をやぎの餌として子どもたちがいただくことで、有効活用する体験につなげていった。
次年度方向性		インクルーシブという考え方や保育実践等を保護者や地域の方々に伝えていくことで、理解を深めていく

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	54人	60人	90人	89人	90人	90人	473人
年度後半： 10~3月	54人	60人	90人	90人	90人	90人	474人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	237 人	268 人	226 人	236 人	225 人	248 人	266 人	276 人	243 人	246 人	268 人	250 人	2989 人
うち0 歳児	6人	15人	14人	19人	22人	28人	20人	24人	23人	21人	20人	20人	232 人

（解説）2022年度より0歳児の利用者が減っている

一時保育利用状況

一時保育受け入れなし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人	管理栄養士	2人				
パート スタッフ	保育士	1人	補助	2人	調理	0人	事務	0人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・外部研修報告 ・園内研修 ・保健の話 ・コミュニケーション講座
給食運営会議	月1回	各クラスでの食事の姿の共有、食育活動の振り返り・計画
事故防止委員会	月1回	自園でおきたインシデントや事故の共有・再発防止策検討、他園でおきた事故の共有
週会議	週1回	翌週の週計画の確認・子どもの姿の共有
コンピテンシー会議	月1回	前月の振り返り・当月のアクションプラン進捗確認

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	施設衛生管理、衛生自主点検の実施、感染症予防対策を実施し、棚の上に物が乱雑に置かれなくなった
安全対策係	怪我防止、危険箇所把握、安全点検を実施し、危険箇所の修繕や事前の事故防止につなげた
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画作成と実施、自主点検を実施し、実際に災害が起きた時を想定して職員が行動できるようにした
食品衛生管理係	衛生点検実施、食品の衛生品質管理を実施し、衛生的に食事の提供ができるようにした
畑係	畑の年間農業計画や管理全般、食育計画を実施し、計画的に園児と一緒に畑仕事ができるようにした
生き物係	生き物の飼育に関する管理を実施し、季節に応じて生き物を飼育したことで、子どもたちが生き物に関わったり、触れたりする体験をした
環境整備係	子どもの姿に合わせた環境整備を適時行うことで子どもの創造力を育むことができた
地域交流係	商店街ツアー・青空保育計画、地域交流計画と実施、地域行事参加の対応を実施したことで、昨年度よりも地域交流が豊かになった

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	雨天での開催となったが、自園以外の地域の方も交えてどろんこ保育園ならではのレクリエーションや泥団子作り等を実施した。地域の方にもご案内をしていたことで、たくさんの参加があったので、引き続き地域の園にも案内をして地域交流をしていく。
運動会係	板橋第十小学校での開催となり、オープニングで保護者と職員に

	よるソーラン節を披露することで、一体感を感じられる雰囲気の中で実施することができた。園児が普段から行っている日課や遊びを披露することができて、成長を感じられる運動会となった。
生活発表会係	園内での開催となり、多くの保護者の方の前で、各クラスの普段行っている遊びや劇遊び等の姿を披露することができたことで、達成感を感じられる行事となった。また、製作や発表会を迎えるまでの過程を展示することで、より園児の成長が感じられたという声もいただいた。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育目標を基に、子どもたちの様子や発達に合わせた丁寧な保育を心がけている。一人ひとりの要求を受け止め、愛情豊かに子どもに接し、安心して過ごせるようにしている。雨天時の室内遊びの時は、園内を自由に行き来できるような環境を構成し、ゾーン保育を実施している。自由に行き来するには、職員一人ひとりの視点や考え方が何よりも大切なことをその都度伝えていながら、危機管理意識の向上を図っている。いざという時に備え、避難訓練の実施と省察をし、改善点をあげ、昼礼や事故防止委員会時に改善策を講じ、実施を繰り返して行い、また室内の危険箇所の確認を強化して、安全に留意しながら子どもたちの意欲を大切にしている。 ・ 子どもたちが満足いくまで遊びきることを大切にし、見守る保育を心がけている。人的環境、物的環境、自然社会の事象が相互に関連し合い、保育環境が作りだされることを認識し、子どもの状況にあわせて保育の環境を考え、子どもたちが落ち着いて遊びを楽しんでいる。
保育参加	4～3月まで 合計 13名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計 29名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・ 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	日々の食事が子どもたちの食べる意欲（食育）につながることを意識した関わりを行う
---	--------	---

	実践結果	調理者と保育者の連携をその都度実施したことで、子どもが自ら盛り付けをして、配膳ができるようになってきている。その中でも食に対する意識の個人差が大きいため、見守りながら伝えていくことで、食べる意欲につながっていった。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちの様子を共有しながら食べる意欲につながる実践を実施していく
2	計画・ねらい	子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような食事を提供する
	実践結果	毎日調理室前に昼食を掲示することで、食事を楽しみにしている姿が見られる。また、おいしく食べられる状態と温度で提供しているため、完食しておかわりをする園児も多い。
	次年度方向性	引き続き子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような言葉掛けや食事を提供していく
3	計画・ねらい	畑で収穫した作物を使ってクッキングをし、新鮮な素材の香りや味を味わい、食の意欲に繋げる
	実践結果	畑で収穫した作物をそのまま食べたり、調理方法（焼く、煮る等）を変えるだけで味わったりすることで素材の味を楽しんでいた。また、毎月の食育活動の中で自分たちが関わった食事を食すことで、食への意欲につながっている。
	次年度方向性	さらに子どもたちが畑で収穫した作物に興味関心が持てるような関わりを行うことによって、食への意欲に繋げていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月9日／11月10日に実施
歯科検診	6月26日に園内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月26日に園内にて嘱託医の歯科衛生士による「歯」について考える講習会を実施
流行した感染症	① 10月～11月にかけてインフルエンザA型が流行、園児13名感染。11月13日頃に終息
発作・痙攣等の対応	該当なし

エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また定期的な換気と消毒を実施する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月9日、11月10日 歯科健診 各年1回／6月26日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが気持ち良く生活できるような環境にする
	実践結果	毎日の清掃や玩具消毒によって感染症が蔓延することが少なかった
	次年度方向性	整理整頓に力を入れて、子どもたちが自ら片付ける意識が身につくような環境にする
2	計画・ねらい	子どもたちの興味関心に合わせた環境を構成する
	実践結果	異年齢で活動する機会や子どもたちの興味関心に合わせて定期的に環境を構成していったことで、想像力や創造力を育むことができた
	次年度方向性	引き続き子どもたちの興味関心に合わせた環境とは何かを考察していき、その都度環境を構成していく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	危機管理マニュアルを基本とし、あらゆる事故を想定し事前の予防対策に配慮し、怪我防止に努めた。昼礼や園会議等で随時ヒヤリハット、インシデントの内容を省察することで、大きな怪我を未然に防げるように意識付けをした。
2	実践結果	緊急時に速やかな対応と行動ができるように、毎月1回の防災避難訓練を実施した。訓練後は毎回各クラス内でしっかり省察を行い、昼礼や事故防止委員会で共有し、また改善点に関しては対策を考え、いざという時に備えた。また、池袋防災館へ行き、地震や火事が起きた時にどう行動するかの災害体験を行ったことで、子どもたちの災害への意識の向上につながった。 事故防止委員会において重要な視点の共有、自園・他園の事故記録簿の事故の検証を行い、怪我の防止につなげる。
3	実践結果	子どもの安全を守ることを最優先に、速やかな対応と行動が実践できるよう年2回の不審者侵入訓練を実施した。
4	実践結果	板橋区役所からの情報を基に、光化学スモッグ発生時や暑さ指数の数値が高い時には屋外での運動は差し控え、速やかに屋内に入る等の対応を行った。

5	実践結果	警察官による交通安全教室を実施し、普段の散歩コースを自分たちがどうやって歩くことで命を守ることができるのかを指導していただいた。
6	実践結果	室内ハザードマップ、戸外ハザードマップ、公園内ハザードマップを3ヶ月ごとに見直しを図り、危険箇所への共有を図った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代の保育者を育てるためにも、希望があれば積極的に保育士養成校の実習生受け入れを行った。小中高生の保育所体験では、卒園児（小学1年生～3年生）に夏休み期間の保育体験募集のおたよりを送ったことで、多くの参加者を受け入れることができた。卒園児以外にも昨年度体験した高校生からも今年度も参加したいという申し出もあった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月28～9月9日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
2月5～2日19日	文教学院大学人間学部児童発達学科	1人	責任実習

〈3〉小中高生の受入

日程	学校名	人数
8月10日	広尾学園高等学校	1人
8月24日	広尾学園高等学校	1人
8月1～31日	近隣小学校（弥生小学校、板橋第六小学校、中根橋小学校等）	27人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 22名	9日 23名	2日 23名	4日 23名	4日 23名	1日 23名	6日 23名	3日 22名	1日 23名	8日 23名	2日 22名	8日 22名
園内研修	28日 20名	26日 20名	23日 20名	28日 21名	25日 21名	22日 18名	27日 20名	17日 20名	22日 20名	26日 20名	16日 23名	3日 23名

〈2〉外部研修への出席

職員個人で板橋区の研修会に参加する。また、株式会社日本福祉総合研究所「園長大学・保育士大学」でのWEB受講を進めた

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	該当なし											
デノマークインターシッ*	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「地域から愛される保育園」

開園10年が過ぎたことで、仲町地域に根差した保育園になってきていると感じている。どろんこまつりを自園で実施したことで、園児以外にも多くの地域の方々に園の魅力を発信することができた。商店街ツアーでは毎月テーマを決めているいろいろな店へ訪問したり、世代間交流として4年ぶりに仲町デイサービスセンターの利用者の方々との交流を図ったりすることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:三葉児童遊園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：佐々木生花、東日本銀行、船木畳店、むさしや青果、秋田屋米穀、理髪店オガノ、新井精肉店、渡辺鮮魚、修月堂、いせや、大山園等
世代間交流	11月24日にホールにてヒッポファミリークラブの方々を招いて多文化交流を実施
異年齢交流	8月1日～31日に小中学生の保育体験を実施し、異年齢での交流をはかった
その他活動	6月3日に園にてどろんこまつりを実施
銭湯でお風呂の日	5月より月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は新型コロナウイルス感染症以外にインフルエンザが流行したため、予定通りとはいかなかったが、小学校見学や交流を実施することができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月12日	弥生小学校	15名	小学校を見てみよう（校舎）	授業見学
12月13日	板橋第八小学校	1名	保育園長・幼稚園長・地区小学校 校長連絡会（体育館）	情報交換
12月15日	板橋第六小学校	13名	小学校を見てみよう（校舎）	授業見学
2月14日	板橋第八小学校	12名	小学生と交流しよう（校舎）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議やクラス会議、園会議等で情報を共有しながら、対象児童にあった計画の作成、見直しを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：3～6名

毎月巡回指導の方と午前中の活動を見た上で行き、支援方法を共有し全スタッフで共通した関わりができるようにした。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

ケース会議を基に1年間の保育の振り返りを実施した上で、担任間で引継を実施する。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	8名	33名	16名	52名	44名	43名	42名	0名	11名	6名	10名	267名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計3件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	33名	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	36名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：三葉児童遊園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	2名	3名	0名	0名	2名	3名	1名	2名	0名	0名	2名	17名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

特定非営利活動法人福祉総合評価機構に依頼して受審済み

アンケート配布日：9月11日

アンケート回答率（スタッフ）…95%/アンケート回答率（保護者）…59%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：12月8日に実施

（省察）特に良いと思う点として①自然や人間本来の素朴な生活に根差した毎日のさまざまな活動が、子どもたちの心身を豊かに育み、自己を肯定する力を養っている②食材の吟味や食欲増進を促す環境の工夫、生活の中での食の学びなど、子どもの興味と意欲を高める食事と食育の工夫に取り組んでいる③子どもの主体的・自発的な活動や体験を保障しながら、安全も確保するための、業務の標準化と最適化に向けた仕組みを整えている。といった点が挙げられた。

一方でさらなる改善が望まれる点として①現場の負担の抑制を図りつつ、その一助ともなる、仕事における計画性や、連携・協力に必要な広い視野を組織的に高めたいと考えている②日々蓄積される「タイムライン」を、園・法人の保育の特質を保護者に伝え、相互理解を深める媒体としてさらに活用する工夫が期待される③さまざまに行われる園の安全向上の取組も、よりの確に保護者に伝え、安心材料の一つとしてゆく工夫を期待したい。といった点が挙げられた。

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月23日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：施設長、主任、事務、調理代表

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：85%

（省察）概ね高評価をいただいているが、至らない点に関しては職員に共有して改善を図っている

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0 件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：板橋仲町どろんこ保育園 施設長 石堀 茂雄

2023年度 P'sスマイル保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育理念…「にんげん力。育てます」

保育目標…「センス・オブ・ワンダー」

「人対人コミュニケーション」

私たちが育てる6つの力

「ケガをしない強い体を育てる」

「自分でできることを自分でする」

「すべての人との関りから判断・行動を身につける」

「活動を選択し自分で考えて行動をする」

「生死を知る 食の循環を知る」

「考えたこと・感じたことを表現する」

「にんげん力」とは何か。「子どもは」「にんげんとは」を考えて、私たちが育てたい6つの力にあてはめ保育を実践してきた。実践している中で、子どもたちの「生きる力」を育むためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要であることを改めて実感した。スタッフ一同「子どもにとって必要な体験活動」「体験を重ねることの重要性」に視点を置き、何度も経験を通して喜びや達成感を感じる機会を増やしてきた。常の生活の中で、「自分でやる」「やり遂げたい」という気持ちが育まれ見られるようになってきました。失敗することもたくさんありましたが、子どもたちを「できる」「できない」で判断をするのではなく目標までの過程に目を向けることや子どもの興味や気持ちに目を向けて皆がワクワクし、過ごすことができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ることを第一とする。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが心身ともに心地よいと感じられる環境を整えた。 子どもたちの喜怒哀楽を受け止め、安心や信頼を得て、子どもたちの自己肯定感が育つように援助をした。 遊びこめる環境設定：子どもたちが興味を持っていることに目を向け、最終目的ではなく、その過程に必要な物を用意し、関わった。 休める環境設定：午前中の3時間は、目一杯体を動かし、太陽の光を浴びることで体内時計を整えた。
	次年度方向性	次年度も今年度の取り組みを継続して行っていく その中で、日没後のお部屋の中で、体を横にして休める場や静かな空間で絵本や色塗りなどを行える環境設定をしていく。
2	計画・ねらい	「子どものすることに、無駄なことは何一つない」との考えを保育者の中に定着させ、そのときにその時の子どもの在りのまますを受容し、子どもの

		背景を汲み取り寛容に対応する。駄々こねや反抗期を大歓迎する。 子どものサインや発信を尊重する。大人の価値観を横において、子どもの本質に迫る。子どもの発言を肯定的に受容すると同時に、子どもには、自分の発言に責任を持たせ、「子どもに任せる保育」を忍耐と楽しみをもって行い、Trial&errorの機会が日常に組み込む。
	実践結果	子どもの在りのままの姿を受け止め言葉にして関わってきた。子どもたち同士のぶつかり合いの中でも大人の価値観で話してしまうのではなく子どもの気持ちを引き出せるような言葉かけを意識し取り組んできた。 保育者だけでなく、保育者・調理員・施設長も保育の中に子どものサインや発信を見逃すことがないようにスタッフ同士連携をとり行ってきた。
	次年度方向性	安全確保や先回りをしてしまうスタッフは忍耐力を持ち子どもを信じて待つ。子どもの発言を肯定的に受容すると同時に、子どもには、自分の発言に責任を持たせ、「子どもに任せる保育」を忍耐と楽しみをもって行い、Trial&errorの機会が日常に組み込む。
3	計画・ねらい	散歩9時出発し、戸外でたくさん体を動かす。 ルールある遊びの中で、ルールを守る必要性を知ったり、他者と自分が違うことに気付いたり、相手を思いやり行動する。
	実践結果	保護者様に登園のご理解ご協力のもと9時出発を行うことができた。 2時間半から3時間目一杯戸外で過ごすことで、給食の食べる量が増え、午睡時間で体を休めるという基礎的な流れができてきた。日没まで戸外で過ごすため午後の室内活動では、好きな遊びを見つけて集中して取り組んでいる。静と動のメリハリが見られるようになった。 ルールある遊びの中で、ルールを守る必要性に知り友だちに教える姿がみられるようになった。年下の友だちは自身とは違うことに気付き言葉を変えてみたり、手を繋いだり一緒にやってみる姿が見られる。
	次年度方向性	日課の推進 保育の資質向上

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育者はおもてなし（思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の心の満足度を図る。
	実践結果	・気持ちの良い行き届いた笑顔ある挨拶の受け答えを意識し、ニーズを汲み取る気働きと働きかけを行った。 ・1日の子どもの様子とその姿に成長の意味づけが出来る3分間対応を強化するために3分間対応研修を行った。
	次年度方向性	現状に満足せず、次年度も保育者はおもてなし（思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の心の満足度を図る。
2	計画・ねらい	最大の保護者様支援：「子どもの安全が確保され、様々な体験を通して、体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を十二分に展開する。 いずれも、意味やねらいを深めながら実践する。PDCAを回し、杖により良くなるために学び、努力する。プロセスを大事にする。保護者様との相

		互理解を図る。
	実践結果	どろんこ会グループの日課・基本活動：異年齢活動・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・生き物の世話・畑仕事・戸外での食事・商店街ツアー・銭湯でのお風呂の日・青空保育等を全スタッフで取り組んできた。
	次年度方向性	取り組んでいく中で、最終目的ばかり求めてしまうのではなく、過程に目を向けて、子どもたちと関わっていく。 これらを生きいきと伝達できる可視化：エピソード記録・ドキュメンテーション・毎月の様子を模造紙記載することで、子どもたちの成長に気付き、更なる保育へと繋げていく。
3	計画・ねらい	2023年度・事業計画の明確化・どろんこ会保育の推進度の可視化・説明保護者様と保育や子どもの育ちの目指す姿や目標の共有を図り、相互の理解を図る。
	実践結果	「6つの力」育ちを子どもの姿（活動時の写真）を通して示す・年12回掲示をすることにより、保護者様が保育園の取り組みを知り、子どもの成長を感じることができるようにした。子どもたちにとって必要な体験をご理解して頂き、保護者様のご理解の元保育を進めてきた。
	次年度方向性	掲示物の美観も意識し、保育の取り組みを引き続き発信をしていく。
4	計画・ねらい	保護者様の保育活動に対する保護者様の積極的な参加を促す。 保育活動に関心を寄せ、積極的な参加は、子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促す。
	実践結果	保護者様に保育参加を行っていることを伝える、カレンダー表が見える場所に置いてある、個別面談の実施している掲示を行うなどした。
	次年度方向性	保育参加に参加されるご家庭が増えるように掲示を行うなどする。 面談も定期的に行っていることを保護者様に周知をする。
5	計画・ねらい	卒園後も継続する保育 日々の活動やその中で親切で寛容な関りから、卒園の後も子どもたちや保護者様の方の心のふるさととなる保育園を目指す。
	実践結果	卒園児が来園した時の気持ちの良い接遇を通年行ってきた。 新しいスタッフも卒園児に配慮して名前を覚える、スタッフは自分の名前を名乗り、関心をもって受け入れることを心掛けた。
	次年度方向性	次年度も去年度と同様に卒園後も継続する保育をしていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信「開かれたP's集まれスマイル」 ねらい：駅ビル型の利便性を活用し、いつでも子どもと共に受け入れられる安心基地を地域の子育て家庭に解放する。
	実践結果	散歩先で出会う子育てをされている方に率先し挨拶し名を名乗りP'sスマイル保育園を知っていただくことを行った。子育て講座では、チラシを用意し、配布を行った。園見学に来られた方にも園開放を行っていることを

		発信した。CIAL のホームページを活用し、おたよりを載せていただいた。
	次年度方向性	駅ビル型の利便性を活用し、いつでも園開放を利用していただけるように発信をしていく。
2	計画・ねらい	子育て相談の実践・地域家庭のニーズの把握 フォーマルな子育て相談と同時にインフォーマルな子育て相談を受け入れて、雑談や共に遊ぶ中で、子育ての悩みを聞き、保護者様が感じてられる気持ちの解放を図る。
	実践結果	園解放や園見学の中で、子育て相談を受けることがあった。
	次年度方向性	P's スマイル保育園が子育て相談を受け付けていることを発信していく。
3	計画・ねらい	CIAL 地域向け催事への参加 CIAL テナントとしての意識付けと地域への貢献を図る。
	実践結果	父の日・母の日と CIAL が企画された催事に参加した。
	次年度方向性	CIAL 地域向け催事への参加 CIAL テナントとしての意識付けと地域への貢献を図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上を図る・対コミュニケーション能力を養う 保護者様に安心感・信頼感をもって保育園を利用していただく 保護者様が子どもの成長ぶりに目を見張る3分間対応を展開する保育の視点と丁寧で効果的な言葉を学ぶ（保育ノートの活用と振り返り・話し合い）
	実践結果	新人研修・OJT 研修・タイムラインや連絡帳の振り返り・「言葉」の研修 保育のねらいや意図を語れる保育者集団作り 苦情対応・全職員
	次年度方向性	スタッフ自身が保育の必要性を理解し、取り組めるように話し合える場を増やし資質向上をしていく。
2	計画・ねらい	園内研修の開催：保育技術を身につける ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上
	実践結果	昼礼での進行役やファシリテーションを行った。
	次年度方向性	ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上
3	計画・ねらい	どろんこ会運営方針に沿った保育活動の推進 保育の質の向上 主体的な「にげん力」ある保育者集団を育成する
	実践結果	コンピテンシー追求「計画・実行する」「判断する」 「ダメと言わない保育」とは、またその保育を園の文化として定着させるため話し合いを園会議にて行った。

		「保育マニュアル」「保育運営マニュアル」の読み込み 保育活動の可視化と情報発信：ドキュメンテーション・ポートフォリオなどの掲示を月1回
	次年度方向性	保育活動の可視化と情報発信 自らの意志に基づいて、自らの責任のもとで行動しようとする態度や性質
4	計画・ねらい	リーダーの養成
	実践結果	個からチームビルドへ。メンバー一人ひとりの資質・能力を活かし、チームの相乗効果で効果的な保育へつなげる
	次年度方向性	リーダー層のスタッフが率先して、保育園をより良くするために行動する
5	計画・ねらい	MBO の導入
	実践結果	保育者が主体的に業務の課題を抽出し、質の高い保育・業務の効率化・職員モチベーションアップを図る MBO 説明 1次考課者面談と施設長面談：目標面談と中間面談、評価面談中間面談2回実施（7月・11月）
	次年度方向性	MBO を活用し、スタッフの課題を一緒に進め質の高い保育を行っていきけるようにフォローをしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生活を大事に
	実践結果	スタッフは子どもたちと関わる時には、共感協働し、認め、励まし、見守り、禁止しないで、叱らないで、暖かい応答関係を作る。子どもたちの自尊感情を高め、有能感・肯定感を育てる。スタッフは、手を差し伸べる責任があることを理解し、保育を行ってきた。園会議など振り返る場を設け、他者の話を聞き保育の質を向上できるように取り組んできた。
	次年度方向性	日々の生活を当たり前とせず子どもたちと関わる一日一日を大切に過ごす。
2	計画・ねらい	長距離散歩・自然遊び
	実践結果	子どもたちの「なぜ」や「不思議」を引き出せるような関りや環境設定を行ってきた。すべて保育者が答えるのではなく、子ども自身がさらに考えられるような言葉かけを行い一緒にその性質や仕組みについて考えてきた。自然の中でも保育者の言葉かけを減らし見る・聴く・触れる・味わう・嗅ぐなどを磨き、感じる力、受け取る力、感受性、豊かな感性が育つように取り組んできた。
	次年度方向性	長距離散歩の目的をスタッフが理解し、計画的に実践をしていく。また、保護者様と一緒に取り組んでいけるように可視化にしていく。
3	計画・ねらい	表現：生活を歌いっぱいに

実践結果	スタッフは次に掲げることを知って、保育園の生活を情緒的に、リズム的に進めて、子どもが持つ生体リズム（呼吸や鼓動、歩行・手足の振りなど）を整えてきた。散歩でも、歌のリズムに合わせて手足を振り心地よい雰囲気の中で足腰を鍛えてきた。子どもたちが歌を心地よいと感じ、口ずさむ姿が増えている。
次年度方向性	歌の良さをスタッフ自身が感じ日常の中で計画的に取り組んでいく。ご家庭でもお子様と一緒に歌っていただけるように掲示をする。

〈6〉子どもと職員の非認知能力を育てる

1	計画・ねらい	子どものゾーン保育・保育者のゾーン保育「混ざる」「自己決定を助け合う」
	実践結果	子どもが混ざる・環境づくり、スタッフもワンチーム・クラスを超えて混ざり合い、1人のスタッフがすべての子どもの成長発達や行動特性を把握して、どのスタッフも子どもにとって頼れる安心の存在となるようにしてきた。 シッターノートの活用し、お子様の様子や行事の共有を行ってきた。 昼礼での情報共有 担任会議議事録回覧・押印し、全スタッフが読んでいるのか押印で確認をしてきた。 ヒヤリハットやインシデントの共有と再発防止策話し合いを行い、事故・怪我の予防と対応をしてきた。
	次年度方向性	年齢が違う子同士、障害の有無関係なく、どの子もやってみたいこと・思い通りにならないこと、すべて実際に体験できる場を確保する。
2	計画・ねらい	「やりたい」「挑戦したい」の気持ちを大切に、活動を行う
	実践結果	子どもたちやスタッフが興味を持ち行っている遊びや活動を広げさらに満足感や達成感が味わえる環境づくりを行ってきた。 スタッフがお互いに相手を尊重し合い認め合える人間関係づくりを意識し保育運営を行ってきた。
	次年度方向性	子どもも大人も「やりたい」「挑戦したい」の気持ちを大切に、活動を行う

〈7〉地域と育つ P's スマイル

1	計画・ねらい	世代間交流「届けよう P's の歌声」 新型コロナウイルス感染症発生から3年が経過し、人間関係の中で最も交流が難しかったのはお年寄りではないか。そして、このことは乳幼児期の子どもたちの成長や将来的な思考に大きな影響を及ぼすと想像される。 ねらい：お年寄りに子どもたちの「歌」を届けて元気になってもらう 子どもたちは自分自身が「喜ばれる存在」を分かり、張り切って生活する糧にしたり思いやりの心を育てたりする
	実践結果	月1回ケアプラザに行きお年寄りに歌を届けてきた。

	次年度方向性	次年度も継続し月1回ケアプラザに伺いお年寄りに歌を届ける 伺う日を子どもたちが電話で交渉をする (事前にスタッフがアポイントを行う)
2	計画・ねらい	地域の保育園との交流 新型コロナ感染症から3年が経過し、他園との交流が減ってしまった。 他園の友だちとの交流し、自分たち以外の存在に気付く。
	実践結果	新型コロナ感染症が落ち着き他園との交流を行ってきた。 初めての交流会では、緊張している姿があったが何度も交流会を行って いく中で次第に緊張が解けてきている姿があった。自分たち以外の存在に 付き始めている。
	次年度方向性	継続的に地域の保育園との交流を進めて行く。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況 (延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	0人	8人	10人	12人	12人	12人	54人
年度後半： 10~3月	0人	8人	10人	12人	12人	12人	54人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	54人	45人	60人	57人	44人	46人	58人	57人	77人	41人	47人	50人	636人
うち0 歳児	0人												

(解説) フルタイム勤務の保護者の方も多く、乳児クラスから年長児まで利用者多数

一時保育利用状況

(解説) 今年度は、一時保育を休止

〈2〉 開所時間

7時00分~20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	8人	補助	0人	調理	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修・研修報告 ・個別ケース会議 ・安全対策・課題の検討
給食運営会議	月1回	献立の振り返りと喫食状況の確認・食育・クッキング・行事のメニュー・保護者支援と発信・保育者との連携・環境への活動（地産地消・残食削減など）・畑仕事との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と共有・事故情報の共有と対策・マニュアル確認と実践方法の確認
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有と保育方法の確認・検討 気になる子の情報共有と保育方法の確認・検討
昼礼会議	週1回	指導計画案・週案・行事・子どもの様子・共有事項確認・他
朝礼	日1回	一日の確認（保育・行事）・子どもの様子・体調確認・来客確認・アレルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤する職員のためにシッターノートに網羅する

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡 施設 の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理 感染症予防 対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危機管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検の実 施管理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄のリスト 帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的実施
食品衛生管理係	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 子どもと職員の畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信
生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
環境整備・備品係	美観・保護者様がいつ見ても気持ちが良い施設 園内外の環境整備：子どもの生体リズムを整える環境づくり 室内に自然を取り込む、くつろげる環境設定
内部プロジェクト	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進
地域方	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務と広報係

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 懇親を図る 地域のサービスとしての位置づけをする
鶴見区鶴見中央育児支援イベント	地域の子育て支援の企画と開催

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの1か月の活動内容写真を使い、可視化した掲示を行った。 タイムラインにて、日常の子どもたちの様子が伝わるように意識し投稿を行った。 定期的に個人面談を行っていることを声を掛け、掲示をするなどした。
保育参加	4～3月まで 合計12名が参加済み (3月1日時点) ・3月に予定のご家庭が数件入っている
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計14名が参加済み (3月1日時点) ・3月に進級に関する面談が数件の予定が入っている

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする(3大食育方針)空腹感を感じ、食べたい時や場所、人、食べたいものを食べただけ、子ども自身で選択をする環境を作る
	実践結果	日々の給食での積極的な参加・関り、安心して心地より雰囲気づくり適温給食 他者との関り・影響から学ぶことを知る・繰り返しから知る自己コントロール(適度)を学べるようにしてきた。 身近な大人や友だちを模範したり教わったりして食事のマナーや食事の正しい使い方を知ることができるよう調理員・保育者・施設長・事務も食事マナーを意識し、行ってきた。

	次年度方向性	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする（3大食育方針）空腹感を感じ、食べたい時や場所、人、食べたいものを食べたいだけ、子ども自身で選択をする環境を作る散歩・畑での労働・戸外活動で空腹を得る環境作る
2	計画・ねらい	畑活動と食育活動の連携 畑で育った作物を食する過程を知り、おいしく食べ、自然（日光・水・お度・土・大気）の恵みに感謝し、お世話の大切さを知る
	実践結果	クッキング（ピザ・夏野菜カレー・豚汁） 野外炊飯（カレー作り・釜でご飯を炊く）
	次年度方向性	年間計画による畑活動（計画をカレンダーで表示・野菜の成長を記録する）
3	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験
	実践結果	「リボベジ」・リボンベジタブル（再生野菜）の体験を継続する 調理スタッフとの連携 サツマイモを植えサツマイモの茎を炒めて給食で頂く
	次年度方向性	子どもたちから他の野菜もやりたいと自らが考えやってみようとする気持ちを育む プロジェクト保育・子どもの発案・意見から展開する保育を記録する
4	計画・ねらい	子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成する
	実践結果	バイキング給食
	次年度方向性	自分で選択し、自分で決め、自分で選んだことに責任をもつ体験を日常のさりげない場面に散りばめる葛藤の体験を増やす
5	計画・ねらい	「今日の食材・産地」の継続
	実践結果	献立レシピの配付
	次年度方向性	次年度も継続し、「今日の食材・産地」・献立レシピの配付

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月2日／12月12日に実施
歯科検診	6月13日／11月6日に実施
保健だより	毎月1日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	5月10日に保育室にて手洗い・うがいを実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日にP'sスマイル保育園にてエピペン研修を開催した。スタッフ計18名が受講し取得 ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、18名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	該当なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月2日に実施済み

	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月2日、12月12日 歯科健診 各年2回/6月13日、11月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」ことができる
	実践結果	子どもたちが自分で考え、自分で行動することができるように保育者が先回りをしてしまうのではなく、子どもに尋ねる、一緒に考える場を設けるようにしてきた。(大人の価値観を押し付けないように意識をしてきた)
	次年度方向性	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」 子どもたちが自ら遊びを選択できる環境構成
2	計画・ねらい	保護者様がいつ見ても気持ちの良い施設・子どもの安全の動線が守られ、不要な危険排除された空気づくり 意識的な空間づくりをして、信頼される安心される「選ばれる園づくり」につなげる
	実践結果	衛生管理点検表や内部監査資料を基に、整理整頓や清掃状況の確認を行ってきた。足元にある玩具を拾うなど怪我に繋がらないように安全を確報してきた。
	次年度方向性	保護者様・地域の方がいつ見ても気持ちよい施設作り

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止	事故の防止：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 統計結果から振り返りを行う（月1回） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール・水の事故防止策 散歩引率など 子どもへの安全教育の定期的な実施をした。
---	--	---

2	実践結果 避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策係が計画立案・実施・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全職員で共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行った。 ・P'sの広域避難場所：総持寺（保護者様への周知を図る）
3	実践結果 光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体からの情報で判断、活動を加減した。 ・自治体からの情報を正確に得た。 ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的な芽生えにつなげた。
4	実践結果 災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルの確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わった。
5	実践結果 日々の事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の気づきの共有と報告（ヒヤリハット） ・子どもの様子、玩具、戸外、場面の切り替え、保育者同士の連携 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化に気づき情報を共有し、ハザードマップに書き込みをした。
6	実践結果 苦情・ご意見対 応	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き受け取った保育者はどのようなことにも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一として、取り組んできた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

新型コロナウイルス感染症が落ち着き実習生・中高生の受け入れが始まった。

実習生・中高生の受け入れは、保育者が自分自身を振り返る機会でもあると感じている。実習生・中高生に、指導を行う中で、自分自身の保育を言葉にして語ることでさらにより保育になると感じている。実習生・中高生のニーズに合わせて指導を行うことを意識し、スタッフ一同今年度指導を行ってきた。今後の保育の仲間として、迎え入れることができるように留意してきた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月21～3月26 日	総合学日ヒューマンアカデミ ー横浜校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
2月1日	横浜市立市場中学校	1人

2月22日	横浜市立潮田中学校	6人
-------	-----------	----

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 19名	19日 19名	16日 19名	17日 19名	18日 19名	15日 19名	20日 19名	17日 19名	15日 19名	19日 19名	21日 19名	21日 19名
園内研修	21日 10名	19日 10名	16日 10名	17日 9名	18日 9名	15日 8名	20日 13名	17日 9名	15日 11名	19日 11名	21日 11名	21日 11名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	8日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	1月26日～2月8日に1名のスタッフがアスモンズミーネ保育園にて勤務											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈4〉園独自の育成計画

正職スタッフだけではなく、パートスタッフとも保育をより良くするために昼礼を取り入れてきた。会議に参加できないパートスタッフも保育園の取り組みに意見を出せるように全スタッフの考えが取り入れることができるように用紙を配るなど意見をもらうようにした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園としてPR活動を整える。

利用しやすい仕組み作りをして、地域との交流を深める

まずはP'sスマイル保育園を知っていただくところからスタートをした。公園先で出会う方にチラシを配布やCIALホームページにもP'sスマイル保育園を載せていただき様々なところから情報を得て頂けるように考え取り組んできた。園開放を継続して利用して頂けるようにスタッフ一同考え取り組んでいく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：潮鶴橋公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：CIAL鶴見保安室、鶴見警察署、鶴見消防署、JR鶴見駅、JR鶴見駅鶴見線、理容室、等
世代間交流	月1回 ケアプラザ訪問：高齢者の方とのふれあい
異年齢交流	近隣の中学生との交流・ボランティアの受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

豊岡小学校との子ども間交流を行った。来年度は、他小学校とも子ども間交流・職員間交流を増やしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月14日	豊岡小学校	10名	（豊岡小学校教室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

「今年度対象園児なし」

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：毎月11名ほど参加
個別支援対象児はいない。

適宜ケアが必要な園児について、ケース会議の場を設けスタッフ間の共有と保育の検討を図った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

- ・クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す
- ・小学校との情報交換（12月・1月）：訪問・電話

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	17名	23名	130名	50名	47名	10名	0名	39名	14名	20名	350名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育	月1回 公園名：潮鶴橋公園にて 以下日程にて実施												

(支援センター主催)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	7名	0名	0名	0名	0名	0名	5名	1名	4名	0名	1名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月11日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：18時00分

自己評価終了時刻：19時00分

自己評価実施者：施設長・主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

自由記載欄にて、「自分の支度が行えるようになってきている」「苦手な野菜を食べられるようになった」「友だちや人と積極的に関わるようになってきた」とお子様の成長を感じられる記載があった。保育園生活を通して、生活の力が身に付いてきていると実感をした。一方で、「予定がわからない」「1日の様子がわかからない」と答えたご家庭もあった。1日の流れやイベント開催告知や活動内容を分かりやすく情報を発信していくことが課題と感じた。事前に保護者様にタイムラインや掲示をして、周知していくことを徹底していく。また、1日の活動のねらいを保護者様にも発信し、ご理解ご協力のもと保育を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 1 件

No.	発生日	ケガ(事故)の状況とそれに対する対応結果
1	8月25日	<p>（内容）</p> <p>場所：CIAL屋上 経路：保育園 →CIAL屋上 子どもの人数：1歳児4名 2歳児6名 3歳児1名 4歳児1名（合計14名） で、屋上で遊んでいた。保育室に戻る際に、園児1名屋上にいることに気付かず保育室に戻り、水分補給を行っている際に園児が1名いないことに気づく。屋上に向かうとドアを開けた所で園児を発見。</p> <p>（対応結果）</p> <p>9月に見失い事故詳細と再発防止について保護者説明会実施 以下の再発防止策を徹底して行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児数の確認担当のスタッフが個々に確認した上、声掛けダブルチェックを行う。 ・最後尾のスタッフは、残った園児がいないか最終確認を行う。 ・人数が変動する場合は、必ず2名で人数確認を行い（ダブルチェック）、互いに声をかけ確認する。 ・ハザードマップの再考と修正、全スタッフへの再周知 ・スタッフ研修の実施 <ol style="list-style-type: none"> ① 人数確認、スタッフ配置、リーダーの役割に係る研修の実施 ② 保育運営マニュアル（見失い項目）の再研修。予測・防止・対策と事故発生時対応について、ガイドラインを再確認。 ・施設長・主任の散歩同行と危機管理指導 ・臨時内部監査実施 ・本部・保育スーパーバイザーによる現地巡回指導及び改善状況の確認

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：P'sスマイル保育園 施設長 森田 愛実

2023年度 三原どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

①日課、基本保育活動を行うことの意味や大人の役割、日課を通しての子どもの変化等、振り返りを定期的に行うことで、園全体での日課への意識が向上したように感じる。大人が背中を見せる点では、今後更にねらいをもって取り組む必要がある。

②大人がきっかけを作ることで、子どもが挑戦する活動や、子ども同士で話し合っ解決する場面が見られた。特に幼児クラスでは、ルールのあるあそびを提案した後、子ども同士であそびを展開し継続した活動に繋がった。今後も発達に合わせた経験、体験を職員間で検討しながら進めていきたい。

③環境面では初めて来園する立場になり、気持ちの良い状態を保てるよう環境整備に努めた。一日の終わりに整理整頓し、常に綺麗な状態を維持できるよう、園全体への呼びかけと見回りを強化した。人的面では、お迎え対応のロールプレイを行い、相手の立場に立った接遇について学ぶ機会をもった。地域の方へのアプローチや、青空保育やちきんえっくの参加率向上が今後の課題と言える。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課、基本保育活動の充実をはかる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 朝の活動の流れの見直しを行い、どう工夫をしたらより充実したものになるか、話し合う機会をもちながら進めた。日課を通しての子どもの変化にも目を向け、園会議内で発表し合い、都度振り返りを行った。 雑巾がけや畑仕事等、運動会や生活発表会で保護者に見ていただく機会をもち、日課を通しての成長を保護者と共に感じる事ができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> 日課を通しての子どもの成長に目を向けることを大切に、ひとつひとつの活動の中で、できるようになったことや、子どもからの気づきを情報共有していく。 日課毎のねらいを再確認し、発達に合わせた取り組みができるようにする。
2	計画・ねらい	Trial&Error を経験する機会を充実させる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ルールのあるあそびを保育者が提供し、そこから子ども同士で話し合い、あそびを発展させる様子が見られた。あそびの中で悔しい気持ちやうまくできなかった経験があることで、次の活動への期待に繋がった。 園庭の築山の整備をしたことで、園庭あそびの幅が広がった。乳児クラスの築山の登り下りが活発で、手足を使い自分の力で登る姿があった。下りる際に保育者の手を借りる場面もあったが、何度も挑戦し一人で下ることによって自信に繋げることができた。

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達、年齢にあった活動の工夫と充実が必要と感じる。どんな経験をさせたいか、職員間で話し合う機会をより多くもち、継続した保育を展開させていきたい。 ・自然と触れる機会を多くもち、その中で、子どもからの気づきや疑問をひろい、保育を発展させていけるようにする。
--	--------	--

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	毎日の様子が手に取るようにわかり、安心できる保護者対応を行う。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応のロールプレイを実施し、どんな対応が心地よいか学ぶ機会をつくった。言葉の選び方、声のトーン、表情など職員間で見合うことで、自身の振り返りとなり意識して対応できるようになった。 ・ワンエピソードを職員間で共有し、具体的な様子を伝えられるように努めた。コミュニケーションを多く取り、子どもの小さな成長を伝え合うことで、質の高い保護者対応に繋がるようにした。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・時間帯によって待たせてしまう為、子どもの作品や活動の様子等掲示物を工夫し、待った気がしない対応を行っていく。 ・保護者対応の振り返りを定期的に行い、園全体で意見を出し合いながら、質の向上に努めていく。
2	計画・ねらい	保育参加を通して園での生活を知っていただき、より密に情報交換を行う。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会、定期的なタイムラインでの呼びかけを行うことで、保育参加が毎月一定数あり、情報交換を密に行うことができた。 ・保育参加後、普段の様子を見ていただいたことで、送迎時のコミュニケーションが充実し、保育参加のリポートにも繋がった。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な保育参加への呼びかけを継続し、保育園での様子を見ていただく機会を大切にしていく。 ・個別での面談を随時受け付けていることを伝え、保育参加が難しいご家庭へ、園との情報交換の場があることを周知していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園からの情報発信を強化する。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ちきんえっぐだよりにて、活動報告や園での様子に魅力を感じてもらえるよう記し、園に興味をもってもらえるよう工夫した。 ・園見学が多数あった為、ちきんえっぐの活動やお便りについて知らせ、見学後も園を利用していただけようアナウンスを強化した。ちきんえっぐのリポートもあり、効果があったと言える。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・青空保育の内容を強化し、園を知ってもらえる機会にしていく。普段の公園利用時の挨拶や声かけを意識し、地域の方とのコミュニケーションを密にする。 ・どろんこ祭開催時、近隣への広報の幅を広げ、法人内外の園や地域の方

		から興味をもってもらえるようにしていく。
2	計画・ねらい	近隣園との連携による参加者の確保。
	実践結果	・法人内の園にどろんこ祭のポスター掲示を依頼し、参加者確保に繋がった。
	次年度方向性	・日頃から園同士の交流を深め、連携をスムーズに行えるようにする。他園の地域交流の現状も把握し、自園に取り入れられる取り組みを参考にしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課、基本活動の理解を深める。
	実践結果	・園会議を利用し、現状把握と課題の解決方法をディスカッションし、より充実したものとなるよう取り組んできた。朝の日課に関しては流れが定着している。 ・さくらさくらんぼリズムについて、職員の学ぶ意欲が強く、研修への参加が積極的であった。共通理解できていない部分を再確認し、日々の活動の充実に繋げることができた。
	次年度方向性	・ひとつひとつの活動において、大人が背中を見せて活動できているか、見直ししながら進める必要がある。振り返りを定期的に行いながら、ねらいをもって進めていく。 ・エリアでの情報交換や学び合う機会を作りながら、より充実したものとなるようにしていく。子どもたち同士の交流も行いながら、実践的に学ぶ場を作っていく。
2	計画・ねらい	人的環境の重要性について学び、実践に生かす。
	実践結果	・虐待防止研修、保護者対応のロールプレイ等を通して、個々の保育やかかわりの振り返りを実施した。養護的なかかわりについては、特に重点的に考える機会をもつことで、保育の中で意識してかかわる姿が多く見られた。 ・乳児クラスの室内環境を整えたことで、あそびのコーナー毎に保育者がつき、子どものあそびを近くで見守ることができた。あそびを大人が見せることで、興味をもち真似をして遊び出す様子があった。
	次年度方向性	・挑戦する経験や、好奇心がもてる活動やしかけを工夫する必要がある。単発的な活動にならず、ねらいをもって先を見据えた保育を目指していく。 ・子どもが心地よく過ごす為に、どうかかわるべきかを判断し、養護的配慮が細かくできるようにする。
3	計画・ねらい	エリアで学び保育の質向上に繋げる。
	実践結果	・さくらさくらんぼリズムの研修に参加し、基礎から学ぶ機会をもった。自園の課題がみつかり、すぐに実践に生かすことができた。

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 研修だけでなく、エリアでの対面研修を開催し、情報交換や実践的な学びができるようにする。継続した学びとなるように計画し、エリアで保育の質向上に繋げる。
--	--------	---

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環について実体験から学ぶ。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストの作製により、ヤギの糞や野菜のくずが肥料になっていく様子を知ることができた。かき混ぜる作業や畑に入れて耕す作業等、年齢にあった活動を取り入れた。 ・調理室にて、野菜のくずを利用した水耕栽培を行うことで、子どもたちの観察が日課となり、捨てることなく新しい食材となることを学ぶことができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコンポストを作製し、肥料に変化していく様子を知り、肥料として使用する過程を学べるようにする。 ・調理との連携を密にし、より食の循環が身近に感じられるよう工夫していく。
2	計画・ねらい	植物や植樹を有効活用し、心地よい園庭づくりを目指す。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の植樹の剪定を行い、夏場の日陰確保や安全面に留意して管理を行った。 ・グリーンカーテンの作製を試みたが完成に至らなかった為、作成過程や場所を再検討し、来年度に繋げていきたい。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・築山の整備、グリーンカーテンの設置を行い、春夏秋冬の季節を心地よく感じられる園庭作りを目指す。

〈6〉もう一度来たいと思える園づくり（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	いつ来ても気持ちの良い雰囲気づくりをする。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇面の強化をねらいとし、園会議内でのロールプレイや、ディスカッションを重ねながら、どんな対応が気持ちよいか考える場を設けた。度々振り返りを行うことで、相手の立場に立った対応を意識するようになった。 ・来園者が利用する玄関やアプローチの整理整頓を心がけた。係やクラスからの発信もあり、室内の片づけにも意識が向くようになった。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇面については、今年度同様に定期的な振り返りを行いながら、心地よい対応を目指していく。来園者だけでなく、職員間での挨拶やコミュニケーションを積極的に行い、もう一度来たいと思える園となるようにする。 ・ちきんえっぐ利用や園見学をきっかけとし、園に足を運んでもらえるような丁寧な対応を目指す。

(解説) 利用登録なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	2人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピテンシー ・ 保育の質向上に関わる勉強会 ・ 課題に対するディスカッション
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ メニューの振り返り ・ 食事状況の把握、課題検討
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット、インシデントの検証 ・ 他園事故記録簿から事例の検証 ・ ヒヤリハットからの事例についてのディスカッション
クラス会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育計画の振り返り ・ クラスの課題検討

〈2〉 出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な衛生用品、掃除用具の点検交換を行い、常に清潔が保てるようにした。汚れている箇所や掃除が必要な場所があった際には、職員への呼びかけを率先して行うことで、園全体で意識するようになった。 ・ 嘔吐や下痢が流行した時期には、嘔吐処理のロールプレイを実施した。定期的に処理方法を振り返ることで、咄嗟の判断ができるようになったと感じる。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット、インシデントの検証を行い、自園の危機管理に対する意識向上に繋げた。 ・ 子どもの安全にかかわる事故について検証し、ディスカッションを取り入れながら事故防止に取り組んだ。自園のこととして捉えて考えることで、危機管理の重要性を学ぶことができた。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練時の責任者として、訓練時の最終確認、その月ごとの課題抽出を行った。 ・ 園内の見回りをを行い、火事や事故に繋がる危険箇所や破損場所がないか確認を行った。
食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の調理室内の安全衛生点検から、修繕の必要な箇所を見極め、施設長と連携しながら安全な状態で調理をすすめることができた。 ・ 食材残渣を確認し、子どもの給食の実態を把握しながら、食品管理に努めた。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 餌の管理、発注の実施。 ・ 保育の中で採取した虫やたまごを飼育できる環境を整えた。子どもの目線で生き物に触れたり図鑑等設置するなど、生き物に関する環境設定については、引き続き工夫が必要と感じる。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターズが主となり開催する中で、コーナー設定や当日の分担等協力して実施することができた。 ・地域の方への巻き込みについては、ポスターを近隣園に配布する等集客活動に努めた。地域の方の参加も多数あり、来年度の参加率向上に繋げていきたい。
運動会係	<ul style="list-style-type: none"> ・必要備品の予算設定、役割分担、当日の流れの采配等中心となって行った。早い段階から準備を進めたことで、余裕をもって当日を迎えることができた。 ・分散開催から全クラス一同に集まって開催することができ、運営面でも配慮すべき点多かったが、役割分担が適格であった為、スムーズに進行することができた。
生活発表会係	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの発表内容の確認、当日までのスケジュール管理、当日の采配等行った。 ・一階二階と入れ替えを行いながら開催することで、混雑することなく見ていただくことができた。当日の采配変更があったが、臨機応変に対応することができた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の成長した姿をこまめに伝えるようにし、成長の経過を保護者と共有し合うようにした。家庭での様子をお聞きし、園でのかかわりと合わせながら、一緒に成長の手助けとなるよう援助した。 ・保育参加を勧め、実際の子どもの様子や他児とのかかわりを見ていただき、家庭との連携を十分とれるようにした。
保育参加	<p>4～3月まで 合計49名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのかかわりを見ることができ良かった、自分のことを自分でやろうとする姿を見ることができた、家では出来ないことを保育園では出来ると知った等の感想を頂く。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発語の遅れを検診で指摘されたことを受け、園での様子や友だちとのかかわりについて。 ・発達が遅れているのではないか、他の子の動きについていくことができているか不安になった。 ・排便の自立について。

	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年の子と遊ぶ様子があるか。 ・スイミングで話を聞くことができていると指摘を受け、園での様子が知りたい。
--	---

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏をさばいて食す体験ができたことが大きな成果といえる。何度も職員間で話し合いを重ね、進め方や保護者への情報発信方法を検討してきた。当日は年長年中の希望者22名が参加し、各々の見方、感じ方で参加する姿が見られた。 ・作物を加工し、ジャム、シロップ、干し柿等食材が変化していく様子を知ることができ、味の変化についても体感することができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏や魚をさばく活動を継続する中で、さばくことだけに目を向けず、命を頂いていることの意味や、食事をするありがたさについて、時間をかけて伝えていく。 ・子どもと一緒に試行錯誤しながら畑活動を実施し、食物を育てることの大変さや嬉しさを、大人と一緒に感じられるようにする。
2	計画・ねらい	毎日の給食を楽しみにしながら活動する。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室での取り組みとして、給食で使われる食材を知り、その日の給食に興味をもってもらう為、3色食品群を分類分けできるボードを作成した。年長児中心に食材を分けて貼ることで、食材に種類があることを知り、給食に対して楽しみな気持ちがあつてようになった。 ・午前の活動を名一杯行い、空腹感を感じることで、給食のおいしさをより感じられるようにした。戸外活動後、テーブル拭きや椅子を並べる等、食事の準備から楽しみにする姿が見られた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の皮むきや水あらい等、食材にかかわる活動を活発にし、食べたくなるような経験を増やしていく。 ・大人と一緒に食事を共にする中で、会話を楽しんだり、食べられるようになったことを認めながら、食事を通しての成長を見守っていく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月21日に三原どろんこ保育園にて実施

歯科検診	6月15日に三原どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月27日に手洗い指導を実施 ② 6月29日に歯磨き指導を実施 ③ 7月28日に水分補給についての指導を実施 ④ 10月25日に鼻かみ指導を実施 ⑤ 12月4・5日に性教育を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月28日に三原どろんこ保育園にてエピペン研修を柏木、栗山計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・4月28日に三原どろんこ保育園にて AED 研修を柏木、栗山計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	・胃腸炎流行時に嘔吐処理のロールプレイを実施し、対応の再確認を実施。 ・室内温度、湿度の管理。 ・こまめな換気による感染症予防の実施。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月7日、10月13日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月20日、11月21日 歯科健診 各年1回／6月15日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	遊んでみたいものを自分で選ぶことができ、発達に沿った環境を整える。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児、幼児共に環境の見直しを進めてきた。あそびを選択できる環境作りを最終目標に掲げて取り組んできたが、同線を意識したコーナー作りの段階から進むことができなかった。発達やその時々の子どもの様子を知ること、次の段階に進めると感じる。 ・朝夕の保育場所の改善をしたことで幼児室の環境が充実した。色鉛筆や粘土を常設することで、遊びたい時に自由に使えるコーナーが整った。合同保育での課題であった乳児の安全面の問題も解消された。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・発達を理解し、子どもの成長に必要なあそびを設定できるようにする。 ・職員間での振り返りを大切に、定期的な環境の見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	継続したあそびができる園庭づくりを行う。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・築山の整備をしたことで、特に乳児クラスが登り下りを楽しみ活動が活発になった。何度も失敗をしながら頂上を目指す姿があり、成長した姿を見ることができた。 ・夏場、畑やプランターでの作物の栽培が成功し、食育活動に繋げることができた。土を耕したりコンポストの肥料を混ぜる等、物の変化を感じる

		ことができ、園庭でのあそびの幅が広がった。
	次年度方向性	・築山の整備や園庭の土の補充等、継続して遊ぶことのできる園庭を目指す。土や泥、水に触れる経験を十分できるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	幼児室/乳児室	週1回	6/5に解体・撤去
2	テーブル	幼児室	週1回	異常なし
3	ベンチ	園庭	週1回	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・総合避難訓練時、消防署員に来園していただき訓練の様子を見ていただいた。アドバイスをいただくことで改善点に気づき、緊張感をもって訓練に臨むことができた。 ・備蓄品の補充整理、消火器の交換等、災害時の備えを確認した。
2	実践結果	・ヒヤリハットやインシデントの検証を行い、大きな怪我に繋がらない為にどうしたら良いか検討した。 ・園内設備や家具の配置等、怪我に繋がる可能性のある物について、職員間での共有を迅速に行い、未然に予防できるようにした。
3	実践結果	・定期的な不審者侵入訓練に加え、様々な場面を想定した不審者侵入訓練を職員で計画し実行した。訓練後、ひとりひとりの動きの確認や、どうしたらよかったのか振り返りを行い、防犯への意識を高めることができた。
4	実践結果	・光化学スモッグについて、市から発令させる注意報を逃さないようにし、遊ぶ時間帯や場所を選び過ごすようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

法人の理念に魅力を感じ、自園を実習先を選ぶ学生が多くなってきている。園の特色や大切にしていることを伝えながら、保育の楽しさを感じてもらえるよう、実習担当職員が中心となって指導をおこなった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
----	-----	----	------

7月24～28日	大宮こども専門学校	2人	観察実習
8月28～9月9日	淑徳大学	1人	責任実習
2月5～20日	秋草学園短期大学	1人	観察実習
2月5～19日	越谷保育専門学校	1人	観察実習
2月26～29日	東京工科大学	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
1月17～19日	朝霞第一中学校	5人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 23名	26日 23名	23日 23名	28日 23名	25日 23名	22日 23名	27日 23名	24日 23名	20日 23名	26日 23名	22日 23名	22日 23名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月26日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）	1名	無
9月1日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（障害児保育）	1名	無
9月6日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）	1名	無
9月26日	株式会社ポピンズプロフェ	埼玉県保育士等キャリアア	1名	無

	ツシヨナル	ツプ研修（乳児保育）		
10月12日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）	1名	無
10月13日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	1名	無
10月16日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（保護者支援・子育て支援）	1名	無
11月4日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー対応）	1名	無
11月20日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（マネジメント）	1名	無
12月7日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	無
12月13日	株式会社ポピンズプロフェッショナル	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（食育・アレルギー）	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアーでの地域交流を通し、様々な方との交流や職業に触れる体験ができるよう計画を進めてきた。実際に訪れた場所では、普段見ることのできない場所の見学や、従業員との交流があり、貴重な体験となった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：星の森公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：リゾン、イオン、オリンピック、志木駅等
世代間交流	10月26日に朝霞第三中学校にて授業見学を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

職員間での情報交換が主になった為、小学校訪問や子ども間交流を積極的に行うことが課題として残る。朝霞第五小学校を運動会の会場としてお借りしている為、連携を密にしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月24日	朝霞市進学先小学校	1名	幼保小連絡協議会	情報交換
2月20日	朝霞市内幼学校	1名	幼保小合同研修会（浜崎保育園）	情報交換

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	2名	0名	0名	0名	6名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：星の森公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月16日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）アンケート結果を基に、園会議で保護者対応について学ぶ機会を設けた。どんな対応が心地よいかをテーマに、ディカッションやロールプレイを行い、気持ちの良い対応を目指し改善に努めた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月1日 作成者：三原どろんこ保育園 施設長 大島 奈美子

2023年度 メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」

法人の保育目標

- ① センス・オブ・ワンダー
- ② 人対人コミュニケーション

法人理念及び保育目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切にするようにした。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意した。

また、保育所保育指針にも書かれている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとり意識して過ごすようにした。

子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動の見直し、実施を心がけた。また、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践に取り組んだ。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む。
	実践結果	子どもが安心できる環境の中で、自分の意見を伝え、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いの機会を作るようにした。 全スタッフが応答的な関わりを行い、子どもの思いに寄り添い、受け止めることを心がけた。
	次年度方向性	保育において大切なことであるので、引き続き子ども一人一人に対する応答的な関わりをし、子どもたちの自分を大切にする気持ちを育てていくようにする。
2	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践結果	保育が子ども主体となっているかスタッフ間で都度振り返り、常に子どもが真ん中となっているか意識して保育するようにした。
	次年度方向性	引き続き日々の保育や行事に向けて子どもたちと話し合い、子どもたちが主体となる生活になるように心がけていく。
3	計画・ねらい	子どもたちの毎日に必要な経験を育む保育。
	実践結果	子どもたちの成長、発達を捉え、子どもたちに必要な活動を見極められるよう園内研修を通して学んだ。その際、長期的な見通しを持った保育計画の中で、遊びや生活が連続するように担任間でweb マップを使用しながら共有をするようにした。

次年度方向性	目の前の子どもたちに寄り添った必要な活動が計画に取り入れていくことを念頭にねらいを意識した保育計画を立案していくようにする。
--------	--

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践結果	全スタッフが、挨拶・お迎え時など保護者様に寄り添った対応を実施するようになった。
	次年度方向性	場面によっては十分な対応ができないこともあったため、スタッフ間で工夫しながら接遇を意識した関わり、環境、対応を進めるようにしていく。接遇に関する学びの場を取り入れるようにしていく。
2	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信を支援する。
	実践結果	全スタッフが保護者様と交流し子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がけ対応をするようにした。
	次年度方向性	送迎時や連絡帳、行事を通して保育園での活動をお知らせし、一人ひとりの成長を共に喜び合えるようにする。
3	計画・ねらい	保育参加へのお誘いや、必要に応じて個別に相談する機会を取り入れる。
	実践結果	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会を設け、常に開かれ、相談をしやすい雰囲気作りを心がけた。
	次年度方向性	折に触れ保育参加へのお誘いをし、保育園での生活を知って頂いたり、些細なことでも話しかけて頂けるようなコミュニケーションを日々心掛けていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践結果	青空保育、園開放、子育て講座を実施した。
	次年度方向性	引き続き園を知っていただく機会となるよう実施をし、集客を増やしていけるように地域に働きかけていく。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践結果	小中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
	次年度方向性	卒園児以外にも地域の方が職業体験で園に訪れて頂くようになってきているので引き続き園での開催を周知していく。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践結果	幼児組を中心に、図書館の利用や、アトレ店舗との交流、買い物体験など子どもたちに必要な体験を保育計画に取り入れた。
	次年度方向性	地域の中で育っていく子どもたちに必要な活動を今後も継続していくようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動への原点回帰
	実践結果	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを提供するようにした。
	次年度方向性	日課や保育理念を行うことが子どもたちの成長にどう影響するのかをスタッフ一人一人が自分の言葉で語るができるようにしていく。
2	計画・ねらい	質の高い保育の追究
	実践結果	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努めた。園内研修、スキル講座、園長大学®・保育士大学への参加を促した。
	次年度方向性	スタッフ一人一人が学び続けることを意識できるよう引き続き講座や研修を案内し参加できるようにしていく。
3	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践結果	自身の学びを保護者様、子どもたち、スタッフにアウトプットするようにした。
	次年度方向性	個々にあった研修が必要なタイミングに参加できるよう案内をしていく。学んだことを伝えることで更なる学びになるように引き続きアウトプットとセットとなるようにする。
4	計画・ねらい	接遇力 UP
	実践結果	相手の気持ちに寄り添い接することについて話し合い、課題を見つけ、取り組んだ。
	次年度方向性	社会人として常に相手を思いやり、行動や言葉遣い、整理整頓に継続して取り組んでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践結果	畑・プランターでの野菜の栽培、梅ジュース作り、味噌作り、豆腐作りの実施。
	次年度方向性	園庭がない環境の中でできることを子どもたちとともに継続していく。
2	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通じ、廃棄を削減する
	実践結果	ペットボトルコンポストへ子ども、保育スタッフ、調理スタッフ共に取り組み、廃棄の削減を目指した。
	次年度方向性	試作から本格的に子どもたちと取り組めるようにし、ゴミを減らす事への意識が育つようにしていく。
3	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践結果	日々の給食後に片づけの際、残渣の量に子どもたちが注目できるようにした。

	次年度方向性	日々の残渣の測定を子どもと行ったり、グラフやペットボトルで可視化や重さの体験ができるようにしたりし、残渣削減への取組みを周知していく。
--	--------	---

〈6〉褒める・認める・感謝する

1	計画・ねらい	スタッフ間で連携を行い、チーム保育を行う。
	実践結果	異年齢保育の中でクラスに限らず全ての子どもの様子や成長を全スタッフで見守り、伝えあうようにした。
	次年度方向性	クラスを超え子どもの姿に沿った保育を引き続き行う中で共有の大切さを心がける。
2	計画・ねらい	感謝を言葉で伝えあう。
	実践結果	まずは施設長自ら子どもや保護者様、スタッフに対し、相手の良いところ、頑張っているところに気づき、認め、声に出して褒めるようにした。相手への感謝の気持ちを言葉にして感謝をする機会を園会議で設けた。
	次年度方向性	お互いを認め合うことが当たり前となり、今後も言葉で伝えあうようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	15人	15人	15人	15人	15人	75人
年度後半： 10~3月	15人	15人	15人	15人	15人	75人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	336 人	348 人	364 人	359 人	336 人	348 人	389 人	350 人	377 人	378 人	362 人	360 人	4307 人

（解説）18時以降が延長保育となる。夕飯の提供がほぼ毎日あった。電車遅延の影響も受けやすく降園時に電車遅延があることもあった。

一時保育利用状況

（解説）マンスリー定員が埋まっているため一時利用なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	栄養士	2人				
パート スタッフ	保育士	4人	看護師	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・全園 事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びインシデント の検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画の見 直し
クラス会議	週1回	ねらいの確認、子どもの共有報告等

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年5回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織
食品衛生管理係	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践
畑係	畑の環境整備・年間計画
生き物係	飼育に関する管理
内部監査係	内部監査項目指摘事項減少の推進

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、保護者との連携、地域への告知、安全対策
運動会係	運動会の計画
生活発表会係	生活発表会の計画

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園での様子について ・ 必要な配慮について
保育参加	<p>4～3月まで 合計14名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年と同じ家庭の参加が多かった。今まで参加されたことのない家庭まで広くお誘いできるようにしていきたい。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手帳取得児や、受給者証をお持ちのご家庭と面談を実施。保育参加の日や送迎時に担任や施設長、主任、看護師など随時対応していたので面談という形での実施は少なかった。

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・ 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践結果	プランターや畑での栽培活動に、子どもはもちろん全スタッフが関わった。 野菜洗いや皮むき、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していった。
	次年度方向性	収穫した野菜の調理や普段の給食に関わる活動を引き続き年齢に合わせて行っていく。
2	計画・ねらい	食の循環から食の重要性・大切さを学ぶ
	実践結果	コンポストについて保育スタッフも理解を深め、子どもたちと活用していく。
	次年度方向性	コンポストが試作段階だったので軌道に乗るように子どもたちを巻き込んで活動に取り入れていくようにしていく。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践結果	大豆や小麦粉など調理、加工法で様々なものが作られることを学ぶ。
	次年度方向性	味噌作りからの発展できなこ、豆腐、豆乳が子どもたちにも保護者様にも好評だったので今後も楽しく加工する体験ができるようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月30日／12月6日に実施
歯科検診	6月20日に保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月19日に保育園にて歯磨き指導を実施 ② 7月3日に保育園にて手洗いうがい指導を実施 ③ 12月4日に保育園にて薄着についての話を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・9月15日に園会議にてエピペン研修を実施し、本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み

	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月30日、12月6日 歯科健診 各年1回／6月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践結果	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行うようにした。
	次年度方向性	室内環境の見直しを行い、静と動の空間の設置や子どもたちが落ち着いて安心して過ごす事ができる場所を保障していく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践結果	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行った。
	次年度方向性	室内環境の構成を子どもたちの成長、発達に合わせて見直し定期的に更新していく。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践結果	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えるようにした。
	次年度方向性	大人目線ではなく常に子どもが主体となるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	トンネル（乳児）	乳児室	毎日	異常なし
2	ジャングルジム	幼児室	毎日	異常なし
3	L字パーテーション	保育室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従うことができるようマニュアルの読み合わせを実施した。防災計画に基づき、避難訓練を行った。
2	実践結果 ケガ事故防止	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従うことができるようマニュアルの読み合わせを実施した。事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有しケガや事故の未然防止に努めた。
3	実践結果 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従うことができるようマニュアルの読み合わせを実施した。防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行った。
4	実践結果 光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従うことができるようマニュアルの読み合わせを実施した。また、行政の連絡に従って対応するようにした。
5	実践結果 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにスタッフと共有し安全に過ごすことができるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

コロナの影響からか実習生の受入がない年が続いている。受け入れ可能であることを周知し、保育を目指す学生の受入の場となるようにしていきたい。

地域の中学校からの職業体験の申し入れが3校定着しているので引き続き継続していけるよう交流を深めていく。

〈2〉実習生の受入

受入なし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
9月26～28日	大田区立大森東中学校	3人
10月11～13日	大田区立蓮沼中学校	3人
11月28～30日	大田区立糀谷中学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 17名	19日 15名	16日 16名	28日 16名	18日 16名	15日 16名	20日 16名	24日 16名	15日 16名	19日 16名	29日 16名	31日 16名
園内研修	21日 13名	19日 12名	16日 12名	28日 12名	18日 13名	15日 12名	20日 12名	24日 12名	15日 12名	19日 12名	16日 14名	3日 14名

〈2〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指した。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢をスタッフ全員が持つことができたようにした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：交通公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：東急フローラ、青山フラワーマーケット、大森駅前不二家、JR大森駅交番、八百好等
世代間交流	月1回 ニチイホーム訪問、交流
異年齢交流	7月、8月に小学生の保育園ボランティアの受け入れ 9月、10月、11月に中学生の職業体験の受け入れ
その他活動	9月30日におはなしかごを実施 12月13日にマジックショーを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるように計画を心掛けた。近隣の小学校で畑を借りることになったことから、1年生と5歳児との交流の機会を設け、実施することができた。園に招いたり、スタッフが小学校に伺う機会を作ることが難しかったので引き続きコミュニケーションを取っていききたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月13日	入新井第一小学校	1名	幼保小連携協議会（入新井第一小学校体育館）	職員間交流
2月19日	山王小学校 1年5組	17名	学校を紹介する会（当園 幼児保育室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個々の保育計画を立て、見直しを持って保育にあたることができるようクラス間、ケース会議で話しあいを実施した。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを心掛けた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計10回開催 参加者：正規職員

支援の必要な子どもの様子、課題と支援の方向性の共有を行った。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え合い、連携を取りながら保育をしていくことができるようにした。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

通所施設との連携、つむぎ生田ルームからの訪問支援での連携を引き続き行い、進級後も個々に合わせた最善の体制で保育することができるようにしていく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	9名	9名	14名	33名	48名	37名	8名	34名	5名	6名	7名	191名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒相談なし																									
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3名	0名	3名										
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒実施なし																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名												
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 玄関に無人のフリーマーケットかごを設置																									
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																									
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：交通公園にて 以下日程にて実施																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	3名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	2名	5名	3名	2名	17名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名学研に依頼して受審済み

アンケート配布日：11月16日

アンケート回答率(スタッフ)…91.7%/アンケート回答率(保護者)…55.6%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：1月18日に実施

(省察) 保育園に対する総合的な感想では「満足」以上の回答が94.3%と高く評価していただいた。保育園での活動や食育に関して満足度が高く、今後も子どもたちにとって必要で最善の保育や、食育を計画・実施していくようにしていきたい。第三者評価の実施に関して利用者アンケートよりも回答率が低かったため、次回実施の際には回答締め切り前に再度告知や回答のお願いをするなどしていきたい。

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：池田、相曾、杉田、重枝、渋谷

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）アンケートの結果を通して送迎時の対応に対する課題が継続して見られた。保護者様に寄り添った対応をスタッフ一人ひとりが実施することができるよう、接遇についての学びや、コンピテンシーから園、個人それぞれの課題を見つけ日々取り組んで行くことを大切に取り組みを続けていくようにしていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム 施設長 池田 エミ

2023年度 市川どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～2023年度の基本方針を受けて～

保育者は子どもの「主体性」を第一に考え、発達に合った関わりを充実させることを目標に保育に取り組んだ。上半期は基本方針の理解に力を入れ、下半期は子どもを理解しようとする姿勢を大人が常に意識していく為、園内研修や幼児会議、乳児会議を中心に子ども観のアウトプットの機会に注力をした。

幼児期からの途切れない教育の為に小学校との連携を大切にしていくため、交流会の機会を設けていった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・9時出発の定着を目的とし保育を展開していく。主活動の時間を充実させ、より多くのトライ&エラーを体験の中で引き起こす。
	実践結果	子どもの成長発達や保証すべき体験を子ども主体で考えられるよう、日々の昼礼の時間に振り返りを行い「子どもの姿の共有」を充実させていった。
	次年度方向性	基本方針の充実と保育の質の向上を目的とし園内研修を設けていく。
2	計画・ねらい	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。
	実践結果	「見守る保育」見る＝子ども理解 守る＝適切な援助の理解と定着を目的とした園内研修を行った。
	次年度方向性	子ども観の共有をチームで行い、ねらいに沿った保育を展開していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者参加行事を通してコミュニケーションの充実を図る
	実践結果	保護者参加行事（任意参加）を企画し保護者との積極的なコミュニケーションを目的として実施していった。
	次年度方向性	予想をはるかに超える参加があり、来年度も保護者間の横のつながりを目的とした行事を企画し実施していく。
2	計画・ねらい	子育てスキル講座の紹介など、子育て等に関する様々な支援を行い、保護者が主体的に育児を行えるよう、子育てのパートナーとして共に子どもの成長を共有していく

	実践結果	保護者の立場として考えるということを意識していった。
	次年度方向性	引き続き、保護者理解、保護者支援の観点を意識し研修を行っていく。単に知識の詰め合わせではなく「保護者の気持ちになる」をキーワードにした研修をチームで築いていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育てのスキル講座の活用
	実践結果	子育て相談や子育て世代の繋がりを目的として支援事業を展開していくことを目標としていたが見学の際の相談程度にとどまってしまった。
	次年度方向性	世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）
2	計画・ねらい	地域に開かれた保育園を目指すべく、シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験の機会を大切にしていく。
	実践結果	子育て体験（保育体験月2回）を通して地域子育て支援活動の充実という計画をしていたが実施することができなかった。
	次年度方向性	地域に開かれた保育園として、スペースや時間を有効活用しながら地域の保護者が安心できるような場所を目指していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の質を上げる会議と連動し、幼児教育について理解を深めていく。
	実践結果	保育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていく。ファシリテーションスキル向上も目的とし、学び合う集団を目指していくため園内研修を実施していった。
	次年度方向性	引き続き育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていく。ファシリテーションスキル向上も目的とし、学び合う集団を目指していくため園内研修を目指していく。
2	計画・ねらい	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。
	実践結果	「見守る保育」見る＝子ども理解 守る＝適切な援助の理解と定着を目的としていった。
	次年度方向性	引き続き、園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
---	--------	-------------------------

	実践結果	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題を見つけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指していった。
	次年度方向性	今年度の研修を継続して行い、発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
2	計画・ねらい	発達段階に合わせた関りを行うため、昼礼等で共有した子どもの姿から必要な関りや発達を学んでいく。
	実践結果	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作りを行った。
	次年度方向性	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。

〈6〉就学に向けての取り組み

1	計画・ねらい	7月頃 場所 鬼高小学校 交流会を開催
	実践結果	小学校へ足を運び小学生との交流をしていくことを目的としていたが実現することができなかった。
	次年度方向性	7月頃 場所 市川どろんこ保育園 交流会を開催
2	計画・ねらい	小学生との交流をしていく。交流を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会である。（新型コロナウイルスの影響を考慮して内容の可能性有）
	実践結果	目的とした交流会を開催することができなかった。
	次年度方向性	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を行い、スタッフがアプローチカリキュラムを理解し0歳からのアプローチカリキュラムを充実させ2月に交流会を企画していく。

〈7〉食育活動

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かした活動を実施した。
	次年度方向性	引き続き、調理スタッフとの連携を図りながら食育活動に力を入れていく。
2	計画・ねらい	調理スタッフの積極的な保育参加により離乳食の進み具合や食事の状況を確認、子ども達の野菜への興味関心の向上。年長児は小学校へ向けた認知能力の刺激といった部分の教育をしていく。

実践結果	月1回の給食会議にて情報の共有を行い、調理スタッフと保育スタッフの方向性を確認した。
次年度方向性	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	67人	108人	108人	142人	134人	126人	685人
年度後半： 10~3月	72人	108人	108人	143人	138人	126人	695人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	522 人	651 人	723 人	675 人	677 人	690 人	774 人	692 人	715 人	620 人	611 人	690 人	8040 人
うち0 歳児	9人	38人	49人	56人	67人	60人	70人	67人	91人	94人	94人	94人	789人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	34人	9人	19人	16人	20人	21人	26人	31人	27人	30人	45人	40人	318人
うち0 歳児	0人	0人	2人	2人	4人	3人	4人	4人	6人	16人	17人	15人	73人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	0人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	保育所保育指針・アプローチカリキュラム・エピソード記録に ついての研修・環境勉強会（物的環境・人的環境）・発達勉強 会・子どもの権利条約・子ども基本法
給食運営会議	月1回	給食会議・アレルギー対応・衛星点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット 考察
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
リーダー会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長

主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
保健衛生係	法人全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項を元に開催することを目標としていたが内容から昼礼の際に行うこととし必要に応じて園会議の際に開催した。
事故防止係	設備点検・人権チェック・衛生推進者の職務遂行。園会議にてヒヤリハットとインシデントの分析と考察を行い自園の事故防止に努めた。
環境整備係	消防計画の作成と届け出・自主検査チェック（日常）避難・消火・通報訓練の実施管理・防災対策・自衛消防隊の編成を行った。
食品衛生責任者	衛生管理点検表・職員細菌検査実施・食品衛生上の管理を行った。
畑係	畑活動に対しての発信・現状把握を行った。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	各クラスの代表保護者とコミュニケーションを取りながら進行していった。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での様子と保育園での様子の共有 ・子どもを真ん中に置いた教育の実施に向けた目線合わせ ・子育て相談 ・情報共有
----	---

保育参加	4～3月まで 合計26名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計11名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かした食育活動を展開できた。
	次年度方向性	計画が進まない場面も見られたので調理と保育士が打ち合わせをする時間を多く設けていきたい。
2	計画・ねらい	調理スタッフの積極的な保育参加により離乳食の進み具合や食事の状況を確認、子ども達の野菜への興味関心の向上。年長児は小学校へ向けた認知能力の刺激といった部分の教育をしていく。
	実践結果	月1回の給食会議にて情報の共有を行った。
	次年度方向性	情報の共有のみの留まってしまったことが多かったので、来年度は調理スタッフも積極的に子どもと関わり離乳食等の進み具合や子ども達の様子が感じられるように体制を整えていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月29日/11月16日に実施
歯科検診	6月28日/11月22日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回(全スタッフ対象)
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月21日に手洗い指導を実施

流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計2回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・2月23日のキックオフにてスタッフ計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、16名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・2月23日のキックオフにてスタッフ計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ名のうち、16名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月15日、10月3日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月29日、11月16日 歯科健診 各年2回／6月28日、11月22日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月7日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践結果	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題をみつけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような保育環境の考察と実践を行った。
	次年度方向性	引き続き、発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく為、園内研修や自主勉強会にて子ども観の共有を行う。
2	計画・ねらい	発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
	実践結果	発達段階に合わせた関りを行うため、園内研修で共有した子どもの姿から必要な関りや発達を学ぶ機会を用意した。
	次年度方向性	上半期は日課や基本活動の理解と定着に力を入れており、保育の質や子ども観の共有に重点をおいたのは下半期からであった。来年度は年間を通して保育の質に焦点を当てた研修を実践していく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り
	実践結果	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となるように日々の清掃や美観に対して敏感になるよう事務所を中心に計画的な清掃を実施した。
	次年度方向性	引き続き、日々の清掃に重点をおき誰が来ても気持ちの良い園を目指していく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとった。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備えた。
2	実践結果	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析を行った。

4	実践結果	法人内で事故報告を共有し、自園の事故防止を行った。
5	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。避難訓練・不審者訓練・通報訓練を全職員対象に実施した。
6	実践結果	光化学スモッグ注意報を把握し、園児・職員は室内で過ごした。
7	実践結果	安全対策係による、リスクマネジメントを行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

- ・小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れ
- ・協働で進める保育実習

受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るようにする
実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認する

保育者は、実習指導を担うことでリーダーとしての力を身に付け、キャリアアップする
実習指導での気づきが園全体の保育の質を上げる

以上のことを目的として実習生・中高生の受入れを行った。中高生の受入れは今年度あまり需要がなかったが夏休み期間等に機会を提供できるよう学校機関と連携を図る。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月31日～ 9月15日	和洋女子大学家政学部健康栄養学科	1人	給食実習
8月24日～ 9月5日	目白大学人間学部子ども学科	1人	部分実習
1月22日～ 2月3日	日本児童教育専門学校保育福祉科	1人	部分実習
2月5日～9日	東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科	1人	コミュニケーション演習
2月13日～27日	千葉こども専門学校保育科	1人	実習
2月22日～ 3月9日	目白大学人間学部子ども学科	1人	実習
3月6日～19日	有明教育芸術短期大学子ども	1人	実習

	教育学科		
--	------	--	--

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月26日	市川市立第 中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	7日 30名	12日 30名	9日 31名	7日 31名	4日 29名	8日 29名	6日 29名	10日 29名	8日 29名	12日 29名	16日 28名	8日 28名
園内研修	7日 30名	12日 30名	9日 31名	7日 31名	4日 29名	8日 29名	6日 29名	10日 29名	8日 29名	12日 29名	16日 28名	8日 28名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

新型コロナウイルスを考慮しながら地域の人と繋がり子育てしていくことを目指していった。子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していくことを計画していたが支援センターの利用や園庭開放の認知度が低く、上半期は利用者がほとんどいない状況であった。下半期は見学等の需要も多く、来訪人数が増えた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：遺跡公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：コージーコーナー、伊藤のり店、市川市東消防署、ミスタードーナツ、下総中山駅、市川市中央図書館、マクドナルド、スターバックス、鬼越駅、ダイエー、小林種苗店等
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

・保育所保育要録の送付

保育園で積み重ねられた子どもの育ち（保育所保育指針 第1章総則 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに）を、小学校での生活や学びに繋げていくことが重要と考える。

以下計画について、コロナ禍における就学前支援の取り組みについて小学校と相談・協議を開始する。以上の内容を計画していった。

小学校との連携では受け入れを断られる機会が多く、多くの小学校と連携をとることができなかったが関係を築くことができた小学校とは密に連携をとりアプローチカリキュラムを意識した引継ぎをしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月28日	鬼高小学校	21名	学校探検	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月クラス会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合っ進めていくことを計画していた。引継ぎ、個人の意見だけでなくチームで様々な視点から子どもを捉えられように子ども観の共有を大切にしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

4～3月に計12回開催 参加者：29名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

自園で作成したアプローチカリキュラムをもとに、子どもの発達の特徴を捉えながら保育を展開させた。

保育所保育要録を作成、各園に送付した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	2名	4名	2名	0名	0名	4名	2名	3名	2名	2名	2名	23名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計23件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												

青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：遺跡公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	4名	2名	0名	0名	4名	2名	3名	2名	2名	2名	23名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

スタッフによって伝える内容が違ったり、質問内容の返答が遅かったりすることについてのご意見があった。お迎え伝達の際の充実度を上げていくことを目標とする。

保護者参加行事やコロナ禍で行うことができなかった大型行事について開催を望む声が多くあり、保育園を通して保護者同士の横のつながりを求めているニーズが高いことが伺えた。保育サービスと同時に保護者支援の在り方についても検討していく必要がある。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：市川どろんこ保育園 施設長 築地 駿

2023年度 新座どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

- ・恵まれた自然環境の中で、季節ごとに変化する植物・生き物に触れ、体験したことや感じたことを様々な表現方法で自由表現する子どもが増えた。表現部屋を作り、絵の具やテープ、マジックなど、様々な道具や素材を常設することで、子ども同士の対話が増え、協働して一つのものを作り上げる遊びへと発展していった。また、絵画表現・造形表現が豊かなものになったと感じる。
- ・1年を通してポートフォリオ作成を行い、毎月の園内研修で発表を行ってきた。その結果、子どもの姿を観察する目が養われ、子ども1人ひとりが遊び込める環境を考えるチームとなった。次年度は更に環境整備に注力していく。また、「幼児の終わりまでに育ててほしい10の姿」を学び直し、0歳児から逆算した保育計画を作成・実施していく。
- ・日課は、「大人が教えなければならないこと」を実行していく為の仕組みづくりや職員育成に努めた。次年度は更に一つひとつの意味を理解し、発達に合わせた内容を追求しながら、すべての子どもに生きる力のある心も体も逞しい子を育てていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	協働力を身に付け、次世代を生き抜く力を身に付ける。
	実践結果	日常的な当番活動や運動会、発表会などを通して、子ども同士で試行錯誤し、一つの事を成し遂げる経験ができた。
	次年度方向性	運動会や発表会だけでなく、子どもの発達や興味関心から、日常的な遊びがさらに発展し継続したものになるような環境を整える。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践結果	毎月の園内研修やポートフォリオの作成などを通して子どもの姿を捉える機会を設けた。子どもの姿に応じた環境設定や活動を展開することで、子どもがさらに主体的に活動に参加するようになっていった。
	次年度方向性	ウェブ・マップなどの記録法を活用し、子どもの発達、興味関心、遊びや生活の細かい様子を継続的に記録する。その記録に基づいた保育計画、保育展開を基本とする。
3	計画・ねらい	小学校就学に向けて0歳児からの保育を考察する
	実践結果	全職員を対象に様々な会議や園内研修などを活用し、10の姿への理解を深めていくことで、逆算した保育を進めていくことができた。
	次年度方向性	更に学びを深め、環境の整備・保育者の関わりの質の向上を追求していく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った対応
	実践結果	個別面談を行い、お子さんの保育園での様子やご家庭での様子、保護者の悩みを共有する機会を設けた。
	次年度方向性	日々のお迎え対応や保育参加などを通して子育てのパートナーとして、信頼関係を築いていくと共に、各ご家庭の状況や心情に配慮した気遣いのできる集団となる。
2	計画・ねらい	いつ見ても気持ちのいい施設となる
	実践結果	会議などを用いて美観について繰り返し見直しを行っていくことで美観の意識を持ち、日常的な清掃・整理整頓を行った。
	次年度方向性	美観の意識をさらに高くもち、いつ誰が見ても気持ちのいい施設を全職員で体現していく。
3	計画・ねらい	お迎え3分間対応の充実
	実践結果	お迎え対応では順番に丁寧に対応していくと共に、待った気にさせない配慮としてポर्टフォリオを掲示した。3分間対応には課題が残る。
	次年度方向性	日々のお迎え対応の内容の質の向上。 お子さんの一日の様子をより細かく丁寧にお伝えしていくことを基盤として互いの理解を深め、信頼関係を築いていくことを目指す。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設となる
	実践結果	散歩時の通行人への挨拶の徹底、青空保育を中心とした地域子育て支援の企画運営など地域とのつながりを広げる取り組みを行った。
	次年度方向性	地域との日常的な関わりを目指し、園の畑を一部開放する。生き物や野菜などを通して日常的な関わりと地域子育て支援への呼び込みを行う。
2	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践結果	園外部への発信の強化として園周辺に掲示箇所を増やし新規参加者の呼び込みに努めた。当日も公園に遊びに来られている方への言葉がけを積極敵に行った。
	次年度方向性	引き続き新規参加者・リピーターの参加を増やす為の工夫を凝らし発信しつづけていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人の人間力 UP
---	--------	-----------

	実践結果	園内研修の時間を活用したアウトプットの機会や日々の業務における個別指導を繰り返すことで、大人である職員が主体的に行動しプロの集団として業務を遂行していく姿が見られた。
	次年度方向性	行事準備や日々のタスクをこなしていくスキルや計画性を、保育を深め継続し発展させる方向にもさらに伸ばしていけるよう職員育成に努める。
2	計画・ねらい	同僚性を高める
	実践結果	互いの特性を認め合い、子どもの姿を楽しく語り合う風土がある。
	次年度方向性	それぞれが自身のストロングポイントを十二分に発揮し、互いに支えあい補い合うチームの形成
3	計画・ねらい	分野別リーダーの育成
	実践結果	各係が自分の役割に基づいて課題の抽出から実行まで行き、毎月の園会議にてアウトプットすることを継続して行った。
	次年度方向性	それぞれの役割を明確にするとともに PDCA、OODA のループで記録に残していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	SDGS を意識した生活をする。
	実践結果	調理で出た野菜くずはコンポストに入れ、たい肥にすることを実施し、食の循環を意識した取り組みを行った。
	次年度方向性	コンポストや畑を通しての食の循環だけでなく、ヤギや鶏などの生き物も巻き込んだ食の循環と環境に対しての理解が深まっていくような取り組みを実施していく。
2	計画・ねらい	焚火保育
	実践結果	「調理する」「暖をとる」など人間が生きていくうえで必要な原体験を実施した。火おこしや火の扱いを通して得た様々な気づきを子ども達と共有した。
	次年度方向性	火を扱うリスクや楽しさをさらに多くの時間子どもが体験し、子どもが活動として火を扱うことが主体的に選択できる環境を整えていく。
3	計画・ねらい	危機回避能力を身につける
	実践結果	様々な環境や遊びを通していろんな体の動きを経験し、怪我をしない体づくりを促した。「自ら判断し行動する」を繰り返し経験できるよう子どもの姿に合わせ人的・物的環境を整えていった。
	次年度方向性	様々な遊びや生活の手段を子ども自らが選択し、判断行動していく中で、危機回避能力を身に付けていけるような環境を考察する。

〈6〉子どもの表現力を培う

1	計画・ねらい	表現する喜びを提供する（子どもの権利）
	実践結果	子どもたちが素材を選び取り、表現に没頭できる空間を常設した。子どもたちが継続的に表現活動に取り組んでいる姿が見られた。
	次年度方向性	素材との対話を大切にしながら自由な表現を主体的に取り組める環境を保証する
2	計画・ねらい	豊かな感性を育む
	実践結果	「表現したい」と感じる体験を意識するとともに、感じたことを様々な方法で表現する子どもの姿を受け止める事を大切にしてきた。
	次年度方向性	自ら表現したくなるような体験と素材の提供。 子どもの表現をさらに広げていくような環境の展開していく。
3	計画・ねらい	自己表現を尊重する
	実践結果	自分の思いを伝えようとする眼差しや行動など、言葉以外の表現も丁寧に受け止め、言葉で代弁したりしながら言葉の獲得・言語表現の心地よさが感じられるようにしてきた。子どもからの表現を否定することなく、ありのままを受け止めることを大切にしてきた。
	次年度方向性	全職員が子どもの安全基地となり、子どもの様々な表現を受け止める。

〈7〉子どもの人権と子ども観を尊重した保育

1	計画・ねらい	0歳児から人としてリスペクトし、自己決定を大切にした保育の実践
	実践結果	毎月の園会議を通して、子どもの人権や子ども観についてのディスカッションや研修を行ってきた。日常的に小さな自己決定・自己実現を経験できる環境を設定し保育を行った。
	次年度方向性	一人ひとりの子どもの発達や特性をさらに深く理解し、子どもの気持ちに寄り添った丁寧な保育を目指す。
2	計画・ねらい	子ども一人ひとりの発達に寄り添った保育
	実践結果	発達についての学びを深め、子どもの発達に応じた環境の設定を意識して日々改善を怠らなかった。年齢で分けることなく、自らが主体的に参加できる環境を構築することを常に意識してきた。
	次年度方向性	全職員が発達についてさらに理解を深めていくとともに、すべての子どもの発達要求を満たすことができる環境を常に追求していく。
3	計画・ねらい	子どもの最善の利益

実践結果	応答的な保育・見守る保育を常に意識し、子どもの気持ちに寄り添うことを意識してきた。
次年度方向性	子どもの最善の利益について全職員で常に考え必要な環境を追求し続ける。また、子どもの最善の利益の妨げとなりうる言動についてもしっかりと理解する。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	31人	90人	90人	90人	89人	78人	468人
年度後半： 10~3月	36人	89人	90人	89人	84人	83人	471人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	139 人	152 人	186 人	182 人	168 人	204 人	220 人	284 人	192 人	193 人	222 人	290 人	2432 人
うち0 歳児	0 人	0 人	1 人	8 人	12 人	19 人	26 人	31 人	20 人	22 人	27 人	35 人	201 人

（解説）18時01分以降利用者総人数

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人	4 人	0 人	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	7人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3人

（解説）18時01分以降利用者総人数

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人		
パート スタッフ	事務	1人	用務	2人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育に関わる事項
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント検証 自園、他園事故記録簿からの検証
ケース会議	月1回	要支援児、気になるお子さんの支援について
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 看護師

主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
安全対策係	防犯・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	消防署への届け出・避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生管理係	衛生点検・予防および管理と全スタッフへの指導
畑係	年間を通して食育計画案の作成・実施と、畑の管理
生き物係	生き物の飼育管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・実施

1. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで 合計6名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計38名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑での栽培を通して季節野菜を知り、収穫の喜び・日々の労働の大切さを感じる
	実践結果	労働の大切さを知ることは課題が残る。季節野菜の収穫を喜び、味わいや加工する過程を共有し楽しむことができた。
	次年度方向性	原点回帰。畑仕事を日課として落とし込み、野菜の成長や加工まで子ども達が期待をもって参加できるよう背中を見せ、導いていく。
2	計画・ねらい	食の循環を意識した保育を行う
	実践結果	コンポストの運用を継続して取り組んでいたが、たい肥の活用や多くの子ども達の参加には改善が求められる。
	次年度方向性	子ども達が食の循環の意義を体感し、コンポストやヤギ糞のたい肥づくりにも主体的に関わっていく。
3	計画・ねらい	午前中には十分に体を動かし、お腹を空かして、意欲的に食事を楽しむ。
	実践結果	午前9時には散歩へ出発し、戸外で積極的に体を動かせるよう運動遊びを展開するなどしてお腹の空く生活リズムを整えていった。食事の環境を都度見直し、心地よい食事の環境の整備に努めた。
	次年度方向性	引き続きお腹の空く生活リズムを整えながら、それぞれが心を通わせる心地の良い食事環境を目指していく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月19日／11月9日に実施
歯科検診	6月14日に新座どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月1日に幼児室にて性教育1回目を実施 ② 12月2日に幼児室にて性教育2回目を実施

流行した感染症	① 12月にアデノウイルス、園児7名感染報告有り。1月4日に終息
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に園にてエピペン研修をスタッフ2名、が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、18名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月4日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み

	児童健康診断	内科健診 各年2回／5月19日、11月9日 歯科健診 各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの発達に応じた環境構成
	実践結果	毎月専用の用紙に子どもの姿を記録し、子どもの興味・発達に合わせて定期的に環境の見直しを図った。
	次年度方向性	日々の省察で子どもの姿を捉え、計画へと反映させる OODA サイクルの確立。
2	計画・ねらい	「自ら考え、行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境の整備に努める。
	実践結果	子どもの興味関心や意見を日々の活動に反映させることを行った。室外については課題が残るが、自由な表現を保障するゾーンの常設など、子どもの姿に合わせて室内の環境を何度も見直し改善させていった。
	次年度方向性	全職員が子どもの遊びこめるゾーンの確立を目指しそれぞれの役割を明確にしながざゾーン保育の実践に努める
3	計画・ねらい	見通しを持って生活する
	実践結果	今後の予定を可視化することで子ども達が見通しを持ちやすい環境を整えた。
	次年度方向性	子ども達と共に活動・計画を作り上げ視覚化・共有していくことで見通しや期待をもてるような環境を整備する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	登りロープ	園庭	毎日	異常なし
2	やぎ小屋	園庭	毎日	異常なし
3	パーテーション	園庭	毎日	異常なし
4	長椅子	幼児室	毎日	異常なし
5	鏡	幼児室	毎日	異常なし
6	コンポスト	畑	毎日	異常なし

7	落ち葉プール	畑	毎日	異常なし
---	--------	---	----	------

2. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	【防災】 消防計画に基づき毎月15日に避難訓練を実施した。
2	実践結果	【事故防止】 事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書を活用しその都度再発防止策設定することで事故未然防止に努めた。毎月の事故防止会議では、リスク傾向について分析し危機管理を行っていった。
3	実践結果	【防犯】 年に2回、不審者侵入訓練を実施した。
4	実践結果	【光化学スモッグ】 光化学スモッグ情報で注意報を把握し、発令があった際には速やかに室内に移動した。

3. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

1年を通して実習生の受け入れを行った。子ども達の姿や成長を共有し、保育園で働くことのすばらしさ、やりがいを感じてもらえるよう心掛けた。

〈1〉今年度の振返り実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月24～28日	大宮こども専門学校	2人	体験実習
8月2～8日	國學院大学人間開発学部	1人	教育インターンシップ
8月28 ～9月9日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
2月1～16日	十文字学園女子大学 人間生活学部	1人	部分実習
2月13～26日	東京こども専門学校	1人	観察実習

〈8〉中高生の受入

日程	学校名	人数	内容
7月28、31日	新座市立第三中学校	1人	ボランティア

8月3、4日	新座市立第五中学校	1人	ボランティア
8月8～10日	新座市立第三中学校	1人	ボランティア
8月10日	埼玉県立朝霞西高等学校	2人	ボランティア

4. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	8日 16名	12日 16名	9日 16名	7日 16名	4日 16名	8日 16名	6日 16名	2日 16名	9日 16名	5日 16名	16日 15名	3日 15名
スキルアップ 研修	8日 16名	12日 16名	9日 16名	7日 16名	4日 16名	8日 16名	6日 16名	2日 16名	9日 16名	5日 16名	16日 15名	3日 15名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デノマークインターンシップ	今年度実施。該当者はなし。											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

5. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

子ども達が自ら関わり、自発的に活動し、様々な体験を積んでいくことを大切にしてきた。餅つきや竹とんぼづくりなどの地域交流行事を積極的に行っていくことで地域に開かれた園を目指した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：ホテル公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：スーパーマーケット（アコレ）、パン屋（バンジロー）、消防署、警察署、郵便局など
世代間交流	12月27日に園にて餅つきを実施
異年齢交流	8月9日に園庭にて竹とんぼ作りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

6. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣の保育園の園児や小学生との関わりをもてるような行事を開催した。また、近隣の小学校を訪問し、小学1年生に校内を案内してもらい、子ども同士の交流を図ることで小学校進学に期待の持てるような機会を設けた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月28日	新座第四小学校	2名	幼保小連携推進協議会 （新座第四小学校）	職員間交流
1月22日	新座第四小学校 1年1組～4組	13名	幼保小交流活動 （新座第四小学校）	子ども間交流
2月13日	新座第四小学校	2名	幼保小連携推進協議会 （新座第四小学校）	職員間交流
2月28日	新座第四小学校	1名	情報交換会 （当園保育室）	職員間交流

7. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議にて個別記録から対象児童の様子を共有・振り返り、計画の見直し、課題抽出を行った。また、新座市の巡回相談などを活用し児童を多面的に捉えることで、最適な環境を整えることに努めた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：48名

対象児童の様子、成長、課題を職員間で共有し、全職員の共通理解の基、保育実践をするようにした。個別支援計画については前期・後期に分け年二回の見直しを行っている。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

個別支援計画やケース会議議事録を用いてそれぞれの児童の育ちをクラス間で共有し、次年度へとつなげていく。

8. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	2名	2名	2名	12名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計9回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計8回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：畑中黒目川公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	1名	0名	1名	2名	3名	2名	1名	0名	2名	0名	14名

9. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2022年5月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：横田修太郎、千代田春花

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

園内会議にてアンケート結果をもとに、改善できるところはすぐに着手した。

見えてきた課題に全職員で向かい合い、より良い園を目指していく。

10. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：新座どろんこ保育園 施設長 新居 一枝

2023年度 仲町どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

約3年の経済停滞期間を経てようやく再開された社会の中での園運営となった。社会の価値観が大きく変化した中で自粛していた期間との相違点を確認しつつ、子どもたちの安全安心を確保しながら、未曾有の世界を逞しく生き抜く大人になるために必要なにんげん力育成のために、それらを追い求めて活動を進めた。その点においては保護者へ法人の理念・方針への理解と協力を得ることが必須であり、そのための行動は進めることができた。スタッフは危機管理マネジメントをリーダー中心に取り組むことができ、子どもたちは大きな怪我なくのびのびと成長することができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもも大人も「生き抜く力」＝にんげん力を育む。 日課・基本保育活動の徹底と戸外活動時間の確実な確保。
	実践結果	なぜ活動時間を確保するかを明確にし、さくらさくらんぼリズム・雑巾がけ・座禅を実施した上での9時散歩出発を実施。前日のうちに散歩先を選ぶ習慣を付けることができた。戸外では子どもの主体性を尊重し、多くの体験を含む保育を実践した。
	次年度方向性	上記に加え、前日のうちに「何をするために」どこの公園へ行きたいのかを明確にした上で行き先を選び取り、翌日の登園を楽しみに登園させたい。その日々を繰り返させることで、目的やねらいがあって過ごすからこそ充実感や達成感を自然と味わうことができ、集中力などを育成することができる。
2	計画・ねらい	食の循環・SDGsを考慮した保育の実践をし、子どもの環境への意識を育む
	実践結果	食を通じた環境への配慮、物を大切に作る取り組みを実施した。 コンポスト等を利用した畑活動を実施し、自分で育てた野菜等を使用した食育活動を実施する（梅干し・梅シロップ・干し柿・味噌・ケチャップ等）。 魚の解体（命をいただく活動）を通し、食の循環を知った。
	次年度方向性	鶏の解体を実施し、更に食の循環を身近に感じる。
3	計画・ねらい	小学校1年生を知り、そこから遡った保育活動の実施
	実践結果	国から発信されている幼保小接続の重要性を鑑み、連携プロジェクトを組成しスムーズな接続となるよう取り組んだ。 小学校1年生を見学し、大人になる為に必要なものについて子どもと確認をした。 現在の自園の5歳児の状況を鑑みながら、遊びや生活を通してマネー教育

		等必要な活動を実施する。
	次年度方向性	小学校の教員とコミュニケーションを取り、よりスムーズな接続連携ができるよう取り組んでいきたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え対応の質向上
	実践結果	<p>「笑顔」「挨拶」は前提とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1.2歳児クラスで目標とした「子ども一人ひとりの様子を手に取るようにお伝えする」はスタッフが丸となり、保護者が安心して向かえるよう対応できた。 ・3.4.5歳児クラスではご家庭での会話作りのきっかけとなるような言葉かけをすることができた。 <p>また幼・乳児クラス共にお迎え伝達以外にも連絡帳やタイムライン、保護者懇談会や個人面談を活用しながら子どもの園での様子をお伝えしていくことができた。</p>
	次年度方向性	引き続き継続して実施していく。
2	計画・ねらい	積極的に個別面談、保育参加を行う
	実践結果	<p>年に1回の保護者面談とは別に、面談希望のある方や子育てについて悩みを抱えている保護者に対し、面談の機会を設けた。ご意見に対し園としての解決策の提示や、保護者と一緒に時間をかけて解決を行っていくなど親身に寄り添う対応を進めた。</p> <p>保育参加については年度後半が多かった。保護者の都合が前提となるが、積極的に早い時期にご参加いただけるよう働きかけていく必要がある。</p>
	次年度方向性	保護者面談は年度後半に実施する機会が多かったが、次年度はできるだけ前半に実施し、より良く子どもと一緒に子育てができるよう働きかけたい。また保育参加への声掛けも園より積極的に実施する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ行事の充実
	実践結果	<p>保育園の存在や活動内容を地域へ発信していく必要があり、活動内容についても、コロナ禍を見越して屋外での活動や3密に配慮した活動を企画した。年度後半にかけて、参加をリピートする家庭が増えた。</p>
	次年度方向性	次年度は前半に積極的に取り組み、後半は園職員が関わらなくとも保護者間のみのセルフで活動できるよう仕組みづくりを進めたい。
2	計画・ねらい	地域保護者への関わり

実践結果	子育ての悩みを一人で抱えてしまう状況を作らないためにも、公園や園周辺等で子育て中の親子を見かけた際は積極的に声を掛け、青空保育や園庭開放等のご案内を実施した。
次年度方向性	上記は年度後半での活動が多かった為、前半より取り組んでいく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	職員同士でスキル向上を目指して
	実践結果	ファシリテーション能力の育成を図った。園会議の進行をスタッフが毎月交代しながら実施し、2時間の会議時に参加者が積極的に意見交換できるよう、進めた。
	次年度方向性	アウトプット能力を伸ばさせるため、毎月個別の研修を実施していく。また自園で開催経験を積んでいくことで、今後法人内でも講師として研修を開催できることを目標としていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自分で選び・自分で選択する
	実践結果	散歩の行き先・遊ぶ場所を子ども自身が選択した。 2・3歳児も選択しやすく、絵や写真を取り入れながら自身で散歩の行き先を選べるよう配慮した。
	次年度方向性	前日のうちに子ども自身が選択できる仕組み作りはできたが、何をしたいからそこへ行きたい（目的・目標）を追及したい。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して協同性を育成する
	実践結果	遊びや生活の準備・片付けを一緒に自主的に最後までやりきる子どもが増えた。
	次年度方向性	片付けや清掃を含む労働には、したくなくともしなければならないことがあることを伝えたい。その為にどうするかをスタッフと会話する。
3	計画・ねらい	火・水・土を積極的に使用し、五感を使った活動の実施
	実践結果	火（焚火・クッキング）・水（川遊び）・土（どろんこ遊び）を積極的に行い、五感も使いながら集中力や危険察知能力等を養った。
	次年度方向性	次年度も引き続き実施したい。それには保護者の園方針への理解も進めねばならない。

〈6〉 リスクマネジメントの徹底

1	計画・ねらい	主体性保育の充実のために、安全・安心を前提とする。
	実践結果	「共有」を前提とし、怪我事故・インシデント・ヒヤリハット等のデータ分析と振り返り等を実施し、事故防止委員会を開催しながらスタッフ一人ひとりが園職員として必要なリスクヘッジは何かを常に考えるよう対話ができる。
	次年度方向性	引き続き実施していく。 また子どもの主体性を損なわない配慮を前提とする。
2	計画・ねらい	清掃・美観の徹底
	実践結果	経年劣化した手作り家具・玩具を中心に断捨離を実施し、第三者目線を常に持ちながら美観を維持した。
	次年度方向性	子どもの安全性を考慮しながら、更に断捨離を継続していく。また代わりの家具やインテリア等を配慮しながら進める。

〈7〉 利用者アンケートの内容質向上

1	計画・ねらい	「ご利用中の保育園を他の人に勧めたいですか」項目で前年度比を目指す。
	実践結果	特に保育内容の充実、職員の確実なリスクマネジメントの実施、朝の受入れ時・お迎え時の対応内容、笑顔、子どもの姿の項目に力を入れた上、回答率100%以上を目標とした。結果、NPS5%以上の向上を得られた。
	次年度方向性	次年度も引き続き実施していくことで、より理想に近づけていく。
2	計画・ねらい	求められる改善意見について真摯に対応する。
	実践結果	スピードを以って改善を進め、保護者会等で報告した。
	次年度方向性	引き続き実施していくことで保護者や近隣より信頼を得る。また同業者や中途求職者・学生にも好印象を持たれる園となる。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	12人	18人	24人	24人	24人	108人

年度後半： 10~3月	6人	12人	18人	24人	24人	24人	108人
----------------	----	-----	-----	-----	-----	-----	------

弾力運用前定員は90名

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	469 人	464 人	552 人	489 人	485 人	538 人	574 人	521 人	505 人	468 人	500 人	500 人	6,065 人
うち0 歳児	12人	25人	28人	28人	25人	38人	34人	26人	27人	29人	29人	29人	303人

(解説) 18時以降の利用人数とする。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち 0歳児	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(解説) 弾力化により定員を多く受け入れているため、一時保育利用の受け入れ無し。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	調理員等	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	3人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
-----	------	------

園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・今月の振り返りと来月へ向けての議事内容決定
給食運営会議	月1回	現状の確認と今後に向けての取り組みの進め方
事故防止委員会	月1回	・今月のヒヤリハット・インシデント内容の確認 ・課題解決のむけての話し合い
ケース会議	月1回	要支援児について情報共有、対応検討
リーダー会議	月1回	・園内の保育状況の共有 ・園内保育の質向上に向けての仕組みづくりと課題解決に対する話し合い
乳児・幼児会議	隔週1回	リーダー会議を受けて、各フロア別の詳細な打ち合わせ

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 看護師
主任会議 ／法人本部	月1回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども、職員の健康管理、園舎設備の衛生維持の確実な実施
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検及び事故防止

防火管理者	避難訓練、不審者訓練等の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生管理係	食の安全に関する管理及び維持
畑係	畑の年間計画の遂行と管理維持等
生き物係	ヤギ・ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティアとも連携し準備運営を行っていった。連携が取れ、スムーズな開催となった。
彩夏祭	保護者が主体として準備運営を行っていくが、園としても最大限に協力を行い、数名が踊りに参加し入賞した。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<p>〈乳児〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者との信頼関係を丁寧に築いていき、子どもが保育者に見守られながら安心して生活を送った。 ・子どもの心情意欲を汲み取り、気持ちに寄り添った環境構成を行った。また子どもが自発的に試してみたいと思う環境を準備し保育者が見守る中で十分に遊べるよう工夫した。 <p>〈幼児〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び考え楽しめるような環境構成や遊具の導入等を行った。保育者は側で見守り、必要に応じて援助を行うことで子どもの自発的な行動を引き出した。 ・11月より2歳児が合流したことで異年齢児にて触れ合う中で、互いに刺激を受け合いながら、自分たちで解決し様々なことを学び成長していった。
保育参加	<p>4～3月まで 合計17名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの園での様子が知れてよかった の声多数
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計50名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に発達に関することや交友関係に関する相談が多かった

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食材の流通経路や加工方法を知り、興味関心を高めていく。
	実践結果	三色ボードだけでなく、自園独自で作成した山川海の産地ボードを用いて、食材はどこで収穫されているのかを知ること、食材に対してより興味関心を高めていった。また調理職員が伝えたい内容の絵本を読み聞かせすることで、食に関わる大切なことを子どもたちへ伝える取り組みを実施した。
	次年度方向性	次年度も継続して実施していきたい。
2	計画・ねらい	給食の下処理や調理に積極的に関わりを持つ。
	実践結果	朝の活動時に野菜の下処理を積極的に行った。 また乳児が保育室内で米を炊いたり、幼児が給食メニューを作る等実施し、出来上がる匂いと共にお腹が空く体験を増やしていった。
	次年度方向性	次年度も定期的の実施し、調理スタッフへの感謝や、命を頂くことへの感謝の気持ちを持たせたい。
3	計画・ねらい	保護者×食育支援
	実践結果	調理スタッフが保護者へ直接かかわることで、家庭での食に対する悩みを積極的に解決していった。食育だけでなく給食メニューの共有等も積極的に行った。
	次年度方向性	次年度も継続していきたい
4	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	焚火やコンロ等を活用し、調理の原点、直火を活用した食育活動を積極的に実施した。直火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わった。
	次年度方向性	引き続き積極的に実施したい。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日／11月8日に実施

歯科検診	6月14日に当園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月26日に当園にて「生活リズムについて」の保健指導を実施 ② 7月31日に当園にて「熱中症予防と睡眠について」の保健指導を実施 ③ 10月11日に当園にて嘱託医による「歯磨き指導」を実施
流行した感染症	① 6月下旬よりインフルエンザ、園児10名感染報告有り。7月下旬に終息 ② 10月中旬よりインフルエンザ、園児7名感染報告有り。11月末に終息 ③ 12月にアデノウイルス感染症、園児20名感染報告有り。朝霞市保健所へ連絡。1月4日に終息 ④ 1月にインフルエンザA、園児10名、スタッフ4名感染報告有り。朝霞市保健所へ連絡。1月26日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・2023年3月23日に当園にてエピペン研修を20名スタッフ全員が受講し、うち3名のスタッフが新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名全員が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・2023年3月23日に当園にてAED研修を20名スタッフ全員が受講し、3名のスタッフが新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ20名全員が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底して実施した。

5. 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月7日、10月6日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月28日、11月8日 歯科健診 各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

6. 実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを作り出せるような環境作りを行う
	実践結果	用意された環境ではなく、子どもが可動させることができる棚や大型ブロック等を用意しておくことで、子ども自らが考えて環境を構成し遊び込むことができるよう工夫した。
	次年度方向性	子どもが選び取れる配慮をしながら継続して実施していく。
2	計画・ねらい	衛生・安全管理について
	実践結果	子どもが安心安全に過ごすことが出来るよう、遊具や建具の点検や清掃消毒を都度行った。特に子どもの帽子や歯ブラシの管理については一段と配慮し日光消毒等も行った。
	次年度方向性	引き続き実施する。手作り家具や遊具については経年劣化を確認し、廃棄した後のことを検討しながら（代替製品の購入等を）断捨離を進める。
3	計画・ねらい	園舎の環境美化

実践結果	早番、遅番で園舎内外の清掃点検を行った。また施設長、主任が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行った。
次年度方向性	次年度も引き続き実施していく。より美観が保てるよう常に第三者の目を持ちながら進める。

〈5〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	乳児保育室/幼児保育室	毎週金曜日	異常なし
2	帽子入れ、荷物掛け、本棚	玄関ホール	毎週金曜日	異常なし
3	幼児テーブル	幼児室	毎週金曜日	異常なし
4	活動選択ボード	縁側	毎週金曜日	12月28日に解体
5	お店屋さんごっこ台	幼児室	毎週金曜日	異常なし
6	木製テレビ・冷蔵庫	幼児室	毎週金曜日	12月28日に解体・撤去
7	玩具棚	幼児室	毎週金曜日	異常なし

〈8〉危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	〈光化学スモッグ〉 朝霞市の情報をすばやく園内外の職員へ共有し、園外で活動している職員についてはマニュアルに基づいた対応を指示した。また、園内についても窓を閉め子ども達の健康状況について留意した。
2	実践結果	〈安全対策係〉 係を中心に避難訓練や不審者訓練等を行い、日頃から防犯に対する高め有事の際にスムーズに対応できるよう意識した。また定期的にマニュアルの読み合わせを行い、災害時における対応についての確認を行った。
3	実践結果	〈水辺のリスクマネジメント〉 園会議時に川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を行った。またプール活動時期前には事故が起きた際のシミュレーションを行い、全職員が迅速に対応できるよう対策を行った。

5. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

少しでも採用に繋がる取り組みとなるよう職員一丸となって努力した。中でも中学生の受入れ時は

将来なりたい職業として「保育士」を挙げて貰えるよう取り組んだ。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月31日～8月16日	日本デザイン福祉専門学校	1人	責任実習
2月1日～2月16日	十文字学園大学	2人	観察実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
2月7～9日	朝霞市立朝霞第四中学校	5人

〈4〉 ボランティアの受入

日程	学校名	人数
7月5～6日	東京こども専門学校	1人

6. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 21名	30日 21名	30日 20名	31日 20名	30日 22名	29日 23名	30日 22名	20日 22名	20日 22名	20日 20名	20日 19名	20日 19名
保育の質上げ研修	28日 21名	30日 21名	30日 20名	31日 20名	30日 22名	29日 23名	30日 22名	20日 22名	20日 22名	26日 19名	16日 19名	3日 20名

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名

げる会議)												
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

- ・法人内外で実施される研修を見える化し、積極的に参加を募った。
- ・新卒職員へ向けたフォローアップ研修を施設長が年2～3回行った。

7. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

コロナ禍明けだからこそ地域との繋がりを絶やさずに交流を行っていった。感染予防対策に配慮しながら実施できる方法を模索した。

2023年4月下旬に系列園より子ヤギを引き取ったことでヤギ・ニワトリを見に来られる地域住民が増えた。また園庭解放に来られる家庭が多くなった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：あけぼの公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：朝霞市立図書館、市役所、駅前交番、郵便局、消防署、朝霞駅、東武ストア、アコレ、魚福水産、野菜販売所、ウエルパーク、富久屋、関根製あん所、ブランシュネージュ、サンレモン、セブンイレブン、ピザハット、ドイツ、はっとり歯科、すぎたこどもクリニック、青山フラワーマーケット、まるよし花屋、出雲大社、パン屋、ダイソー等
世代間交流	2月6日に当園乳・幼児室にて中学生との交流（絵本・紙芝居・手遊び等）を実施
異年齢交流	2月27日に朝霞第四小学校教室内会場にて授業見学を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

8. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣の小学校とのコミュニケーションが厳しかったこともあり、積極的な活動が出来なかった。次年度の反省として活かし、どのようにしたら対話できるか検討していく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月26日	埼玉県幼保小連携推進協議会	1名	情報交換	職員間交流
1月24日	朝霞市幼保小連携推進協議会	1名	情報交換	職員間交流
2月27日	朝霞市立朝霞第四小学校1年	24名	授業参観	職員間交流

9. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月数名の個別計画を作成し、都度振り返り・見直しを実施した。また朝霞市の巡回相談時にもアドバイスを貰いながら今後の参考にした。各家庭とも共有し、発達支援施設や子育て支援センターの協力を仰ぎながら取り組んだことで、子どもたちがよりスムーズな園生活が送れるようになったと思われる。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：6名

個別支援計画を参照しながら会議を実施したことで、子どもたちの発達がより伸長するような取り組みが出来た。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

朝霞市が実施した次年度就学幼保連絡会において進級引継ぎに参加したことが、5歳児のよりスムーズな連携ができる一助になったと思われる。

10. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15名	8名	31名	87名	207名	38名	57名	39名	93名	62名	60名	70名	736名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計5件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	9名	4名	4名	4名	12名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	0名	0名	6名	0名	0名	0名	4名	2名	2名	2名	18名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：あけぼの公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	0名	0名	6名	0名	0名	0名	4名	2名	4名	4名	22名

11. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年11月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：西村貴子、岡崎尚子、鈴木典子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：108%

NPS 昨年度比5%アップを目標に、前年度までのアンケート内容を確認の上、自由意見をひとつずつ見直し改善を図った。また回収率100%を目指し、保護者様全員へ言葉かけを行いながらご協力いただいた。その結果108%の回収率となり、NPSも5%向上した。

特に多かったご意見と改善点について保護者懇談会時に報告した。

12. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

特になし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：仲町どろんこ保育園 施設長 西村 貴子

2023年度 新羽どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

社会福祉法人どろんこ会の理念・運営部ミッションの3点（保育の質の向上・運営管理の精度向上・接遇）及び横浜市の「保育・教育宣言～乳幼児の心持ちを大切に～今と未来を生きる子どもたちをはぐくみます」に鑑み、つむぎスタッフも含め、同じ方向性を持ちながら保育・教育を進める。特に、一人ひとりの子どもの意欲・興味を大切にし、養護・教育の両面から子どもの資質・能力の向上を目指すためにチーム保育を大切にしてきた。

新羽どろんこ保育園の園目標の3点を中心に子どもの一人ひとりの育ちに寄り添いながら就学前までには10の姿を見据えて、自分で考え、友だち同士で考えながら答えを出せる集団性の構築を大切にする。それには、乳児期から養護の重要性を常に念頭に置き、一人ひとりのこどもに丁寧におきあい、年長児までにはどの子どもも自己肯定感を培い、自分自身を誇らしげに感じることができるようこどもの力を信じて見守り、援助していくことを大切にしてきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育目標に向かうために、継続性・連続性を考慮した生活、遊びを遂行していく。
	実践結果	つむぎスタッフと一緒にその日の振り返りをするとともに次の日の遊びの継続性・連続性を確保するための環境準備、子どもが意欲を持って取り組んでいる事などひとつひとつ確かめながら保育・教育を行うことに努めた。
	次年度方向性	子どもたちの帰りの会を大切にしながらこどもの意欲・興味から保育の継続性・連続性を沿った保育・教育を行っていく。子ども一人ひとりの状況を明確に把握していく。
2	計画・ねらい	子どもの主体性を重んじた計画⇔実践になっているかを様々な手法で考えていく。
	実践結果	クラスにより、子どもの姿、興味・意欲などをWEBマップ・ドキュメンテーションなどにより、それぞれのスタッフの子どもの見方を出し合い多方面から子どもの姿を捉えるようにした。
	次年度方向性	幼児クラスは特に、つむぎスタッフとともに子どもへの対応・成長点など多面的に出し合いながら一人ひとりの子どもの資質・能力を高めるようにしていく。
3	計画・ねらい	つむぎ職員も含めて、保育士・栄養士・調理員・看護師・作業療法士・用務などがチームとして保育内容の質の向上・充実を図る。
	実践結果	それぞれの得意分野や専門性を活かしながら、子どもの保育・教育に携わった。会議などで、常にスタッフ同士が同じ方向性で進んでいるかをどのスタッフからも意見を出し合いながら進めることができた。

	次年度方向性	常に保育園スタッフ・つむぎスタッフと一緒に実践・行動することによって、子どもの保育を支える大切な人的環境としての意識を高めていく。
--	--------	---

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日々のお迎え時の対応は、保護者に子どもの姿がわかるように丁寧に対応する。
	実践結果	保育士は丁寧と思っても利用者アンケートから不十分さがあったことからどのように保護者に接していくかをスタッフ全員で話し合い、実践を繰り返した。
	次年度方向性	連絡帳と記載事項がかぶらず、一人ひとりのスタッフが一人ひとりの子どもの状況など、具体的な子どもの姿を伝えていくように心がける。また、連絡漏れがないように、確実にチェックしていく。
2	計画・ねらい	保護者懇談会、個人面談の他、保護者から話があった場合、すぐに日時を設定して対応する。
	実践結果	全クラス、前期が終わった段階で、一人ひとりの保護者に来園してもらい、面談を行い、最後に必ず、保育園と子育てが両輪となつて行われているかを確認した。保育園への希望なども必ず伺うようにする。幼児クラスにおいては後期も面談を行う中で、再度、子どもの育ちを確認にした。
	次年度方向性	新入園児の保護者にとっては、初めての保育園生活で不安が多い。日々の丁寧なお迎え対応を重視するとともに、すべてのスタッフがすべての保護者を意識し声をかけ、個人面談などで、じっくりと話を聞く時間を保護者の都合に合わせて行うようにする。
3	計画・ねらい	日々の保育の様子が保護者に理解できるように見える化を図る。
	実践結果	タイムラインは、それぞれが遊んでいる様子の写真をアップすることで、より、子どもたちの様子がわかるようにする。また、保護者担当のスタッフが期ごとなどで、WEBやドキュメンテーションを作成し、保護者に伝わるように視覚化した。畑日誌等、昨年度のほうが充実していたものもあり、今後の課題と感じた。
	次年度方向性	保護者への新羽の保育を見える化しながら伝えることは大切であるが、どのような方法が的確か各クラスで検討を重ね、計画的に実施していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育のさらなる充実を図る。
	実践結果	園独自のチラシを配り、地域の方々と積極的に遊びをするなどを行いながら、地域の方々に保育園に来園してもらうように伝える中、少しずつ保育園に遊びに来る親子も増えはじめた。
	次年度方向性	地区センターと協力をとりながら、さらなる保育園をアピールしていきながら、地域のなかの施設の一つとして安心して来園してもらうように働きかける。

2	計画・ねらい	地域に当園があることをアピールしながら、気軽に来園してもらうようにする。
	実践結果	新羽地区こどもネットワーク会議に参加する機会を得て、定期的に地域の保育園、学童、主任児童委員、ケアプラザなどの集まりに参加し、地域の広がりがあったことにより、保育園を知らせる機会を得た。
	次年度方向性	来年度の研修に参加、学校との連携を充実させるなど、ネットワークの会議に参加し、情報を共有しながら地域の方々が選択できる環境をとり保育園を地域の中に根付くようにしていく。
3	計画・ねらい	園独自の地域向けの取り組みを広げていく。
	実践結果	園の駐車場に、保育園、地域の取り組みを掲示したが、商店街ツアーの中で、新たな地域との交流の幅が広がり、保育園への認知度の広がりも見られた。
	次年度方向性	地域との連携の中で、様々な情報をキャッチし、子育て支援の拠点として位置づけられるように積極的にアピールしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標に向かうための一人ひとりの年間の抱負、MBO を明確にしている。
	実践結果	正規スタッフについては、それぞれの目標が経験年数に見合っているか、具体的な方策が記載されているかなど、確認し、安易な目標設定にしている場合は、それがクリアできたら次の目標を立案するように進めた。また、具体的な方策が曖昧な場合は、再度、方策を考え直し、また、どのスタッフにもエビデンスを残すように伝えた。
	次年度方向性	自分のMBOが1年間通して実践できていないスタッフもいるため、要所でこまめに確認し、アドバイスをしていくことが必要である。
2	計画・ねらい	園目標に向かって日々の実践が積み重なっているか、園内研修で様々なアクティビティを使って検証していく。
	実践結果	毎回の園会議では、予定以外の項目で行わなければならないことが多く、前年度よりも討議の時間が少なかった。しかし、その場で完結しなくてもスタッフ一人ひとりが考えられるようなアクティビティを提示し、一人で考え、グループで考える機会を多く持つことにより、意識を持って取り組むスタッフも多く、子ども主体の保育を追求する保育士も多くいた。
	次年度方向性	各スタッフが積極的に保育・教育を考え実践を積んでいけるように施設長は課題に応じて、WEB,リフレクション、リフレーミング、など多様なアクティビティを提案し、一人で考え、スタッフ同士で考えあう保育を行い、エビデンスを残していくことが重要である。
③	計画・ねらい	子どもの姿について、ドキュメンテーションを使用し、考察していく。
	実践結果	ドキュメンテーションを作成し、毎月の指導計画に活かしているクラスもあれば、つむぎスタッフと一緒に田の字法を用いて、子どもの姿を追求す

		るクラスもあった。方法はそれぞれのクラスで考えた手法で行い、次の月に活用できた。
	次年度方向性	ドキュメンテーションに限らず、それぞれのクラスで見合った方法で、スタッフが丸となって子どもを真ん中にして、保育・教育を考え、実践、課題、考察を繰り返すことができるスタッフ集団を構築する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、ヤギなどの生き物の世話などの活動を継続的に行う。
	実践結果	<p>幼児クラスは、借りている畑で、スタッフが作成した年間のカレンダーに則り、計画的に作物を育てる経験ができる。土の耕し方、道具の使い方などに慣れ、年上のこどもが年下の子どもに教える姿も多くみられるようになる。</p> <p>食材加工では、梅ジュース、梅干し、桑の実ジュース、沢庵、みそなどに挑戦することができる。子どもがプロセスからしっかりと関わり、クッキングとしてではなく、食育の一環として継続的に行ない。プロセスを重視した保育・教育を行なう。</p> <p>ヤギは、親ヤギの死に直面する反面、子ヤギの成長を見る経験ができた年である。ヤギ小屋の掃除については、年上の子どもが掃除をする姿を見て、年下の子どもも真似て、箒ではいたり、デッキブラシで糞を洗ったり等、楽しんで行う姿が顕著である。また、つむぎの子どもたちもえさをスタッフと一緒にあげ、掃除をするなど関わる様子も見られる。</p>
	次年度方向性	新こめぐみが率先して掃除をすることにより、年下の子どもたちがともに掃除や世話を行う大切さを意識していく。
2	計画・ねらい	食材の循環リサイクル、ヤギの糞の堆肥などを持続的に実行する。
	実践結果	土づくりでは、地域の方、保護者から野菜くずを譲りうけ、園内だけではなく、保護者、地域も交えて、畑を活かしていく取り組みを行う。また、コンポストを活用し、畑の土にかえすため、子どもとスタッフが一緒に丘陵公園に運び土づくりを行なう。ヤギの糞を入れる箱をスタッフが制作し、掃除の度に箱の中に入れ、畑に使用する体験も積み重ねていく。
	次年度方向性	時に、野菜くずが余ってしまうこともあったため、丘陵公園及び園内の畑、プランターに計画的に活用できるようにする。また、園内だけでは処理できない場合は、少量ずつ作り、保護者に分けるなど、ベジブロスなどに挑戦してみる。
③	計画・ねらい	子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を構成し、子ども主体の活動や子ども相互の関わりを大切にする。
	実践結果	年長児などが率先してシャベル、鍬などを使用しながら年下の子どもに教える姿が顕著である。扱い方も安定し、真剣に仕事として取り組む姿が多くなる。それを見て、年下の子どもが真似て遊びから仕事へと態度が変化する子どもも多く、収穫までのプロセスを意識する子どもも増え始める。しかし、時には、大人が率先して行ってしまう場面もあったため試行錯誤

		の大切さも含めて子どもと一緒に考え行動していくことも必要と思える。
	次年度方向性	常に、子どもと一緒にいることが重要と思われるので、大人主導にならないように、子どもに問いかけながら何が必要なのか、何故必要なのかを意識しながら継続的に取り組んでいく。

〈6〉 こどもへの応答的な対応を追求する

1	計画・ねらい	子どもに対する際、指示・禁止・命令ではなく、子どもの気持ちを聴くようにする。
	実践結果	指示をするスタッフは少なく、どのような対応が良いのか意識するスタッフが多くなり、大人自身が常に、こどもにとってどのような関わりをすればよいのか、日々の保育の考えていく姿が多くなった。反面、子どもの気持ちを受けとめることと受け入れることの違いの難しさから子どもを誘導し、子ども自身が考えるきっかけをつかめない場合もあった。それを一つ一つ、スタッフ間で話す中で、少しずつ、対応に変化するスタッフも見られた。
	次年度方向性	一人ひとりが、その日の子どもへの対応への言葉がけをメモに取り、苦慮した事やうまくいったことなど、日々の保育・教育の中で、多くを語り合えるスタッフ同士の関係性を築き、クラスへの対応の意思統一、施設全体のビジョンになるように援助する。
2	計画・ねらい	こどもへ言葉がけをする際は、その子どもの近くに行き、小さな声で、何に困っているのか、大人にどうしてほしいのかを語り合う。
	実践結果	遠くから子どもを呼ぶスタッフは少なくなり、何かあるときは大人が子どもの側に行き、子どもと視線を合わせながら話しかけるスタッフが多く見かけられるようになり、落ち着いて、子どもの気持ちを知らうとするスタッフが多くなった。
	次年度方向性	子どもの気持ちを聴くときに、大人が答えを誘導するのではないため、どんなに年齢が低くても発達に合わせた言葉がけを追求する中で、子どもが自己決定できるような言葉がけを日々の子どもとの関わりの中で、学んでいく。
3	計画・ねらい	リフレーミング、リフレクションを行いながら、スタッフの意思統一を図っていく。
	実践結果	各クラスで、さまざまな手法を用いて、子どもへの言葉がけ、対応をどうしていくかを検討した。特に配慮児や子どもが何かに困っている時にすぐに答えが出ないこともあるが、早急に答えを出すと大人の思いに偏ることがあるため、しばらくそれぞれのスタッフが子どもの姿をWEBに落とし込み、子ども自身の良さを追求していくことを明確にしながら、弱点をカバーしていく方法を多くとるようにし、保護者との面談にもそれを基に話していくように心がけた。
	次年度方向性	日々の保育の積み重ねが非常に重要であるため、スタッフ同士で子どもの気持ちをリフレクションし、日々、子どもから学ぶことができるスタッフ集団を構築していく。

〈7〉 チーム保育の充実を図る

1	計画・ねらい	日々、どこかの時間で、つむぎと保育園の職員が子どもの姿、大人の対応を振り返る時間を設ける。
	実践結果	短時間の中で行うため、幼児クラスには田の字法で実践をするように援助すると、それぞれが持ち寄った思いを明確にし、次へと実践を重ねることが多くなった。それにより、他のクラスもおしゃべりで終わるのではなく、どこに課題があるのか、大人との関係性なのか、子どもを見誤っているかなど、日々の保育・教育・支援に活かし始め、年度の後半は、お互いが話せる文化が生まれるようになり、体制なども、しっかりと両施設の状況を考えながら進める姿が顕著であり、保育園の子ども、つむぎのこどもという感覚が徐々に減った。
	次年度方向性	新しいメンバー同士で進めていくにあたって、効果的・有効的な取り組み方法は何かを施設長が提示し、さらに、一つの施設になるように見極めていく、
2	計画・ねらい	すぐに解決できない場合は、期間を設けて子ども側からの視点で考察を行うようにする。
	実践結果	一人ひとりのスタッフが子どもの姿をWEBなどによってとり続け、それを全員の意見として1枚のWEBに起こしてから子どもが、何を望んでいるのか、どうしたら安心できるのかなど、多面的に捉えるようにしていった。特に、保護者との面談を要する場合には、より、子どもの姿をスタッフ全員の視点でとらえていく重要性があるため、面談までの実際の姿を日々それぞれのスタッフが記録し、一つにまとめて話すことにより、子どもの捉え方を保護者と共有する機会となった。
	次年度方向性	日々の保育・教育の中で、当たり前、多面的に子どもの姿をとらえていくことが重要であるが、考え方、子どもの見方の違いがあるときは、必ず、すべてのスタッフが子どもから学んだことを一番に、一人ひとりの子どもの実際の姿から真の子どもの姿を見極められるような方法を見いだし、
3	計画・ねらい	業種を超えた関わりを確固たるものにする。
	実践結果	保育園・つむぎ全体で役割分担することで、スタッフ同士でチームが作れる関係性が出来た。保育士だけではなく、あらゆるスタッフが両施設関係なく自分の役割を超えて、コミュニケーションを図り、進むべき方向性を見いだそうと努力する姿が見られた。また、会議においては、保育士が中心とならず、すべてのスタッフが主人公になれるように進めることにより、日常的にも自らコミュニケーションをとりながら進めていく姿が顕著であった。
	次年度方向性	自ら進んで話しながら一つずつ、クリアしていこうとする姿は良いが、さらに高めていくために、議論の対象となるべきことを施設長やリーダー格が見いだし、提議し、様々なアクティビティを用いて考えさせる中で、さらに一つのチームとして構築させていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	14人	16人	18人	18人	17人	89人
年度後半： 10~3月	6人	14人	16人	18人	18人	16人	88人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	80人	69人	51人	47人	47人	57人	59人	66人	96人	71人	58人	62人	763人
うち0 歳児	0人	0人	0人	1人	2人	5人	1人	2人	9人	3人	2人	2人	27人

（解説）2023年度は0歳児の延長利用者はなかった。また、働き方の変化によるのか、延長保育利用者が減る。

一時保育利用状況

（解説）2023年度は、一時保育を休止。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	0人	調理	2人	事務	1人
	用務	2人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事確認 ・連絡事項 ・討議事項 など
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・運営マニュアル・食育方針に則って旬な課題を協議。 (SDGs、畑仕事、すべてのスタッフとの連携、残渣及び 子ども喫食状況確認 など)
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月間のヒヤリハット・インシデントの分析・検証 ・他園の事案を自園に活かし、未然に防ぐ事故の周知徹底 ・散歩時の見失い・置き去りを起こさない子ども視点の捉え方 ・旬な項目 (SIDS, プール遊び、感染症、下痢嘔吐など)
ケース会議	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・個別配慮児の状況及びスタッフの関わり方の確認、スタッフ の意思統一など
クラス会議	適宜	指導計画、子どもの状況把握、スタッフの意識統一、重要と思 われる案件の確認

〈2〉出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー

子育ての質を上げる会議	月1回	保育士
-------------	-----	-----

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理等行うが、スタッフにより、意識の差があったため、意思統一して行うまでに時間を要する。
安全対策係	避難訓練実行及び検証、環境安全整備、危機管理等、今年度、日々の保育の中で、その都度、スタッフ同士が意識しあいながら進める。特に、散歩時・園庭・室内など、どこにいても必ず役割分担を行いながら、すべてのスタッフが一丸となって子どもの命を守るという観点を忘れずに進める。
防火管理者	避難訓練計画作成、消防計画に則り、火災・地震・自然災害時・不審者対応などスタッフがどのように素早く子どもの安全を第一に行動できるか、また、子どももどのようにして自分の身を守ることができるかを意識して行動させる。
食品衛生管理係	食品の安全に関わる整理や啓発、衛生点検など、確実に実行する。
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主的な行動を援助する共主体を重要視し、年間で畑の管理維持など係とスタッフがともに行動しあいながら行う。 ・子どもの畑仕事に対する意欲を鑑みながら環境整備、スタッフ全員がかかわれる体制を作り、プロセス重視を意識して取り組む。 ・SDGs・ヤギ糞の堆肥づくりなどを率先して指導・提案し・他のスタッフに声をかけながら行動する。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤギの世話・エサの発注などの管理及び環境整備、休日のスタッフの当番の確認などを徹底して行う。 ・子どもが自主的にヤギの世話をし、関わろうとするようにスタッフ全員での取り組みを構築する。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポート
わくわく広場（港北区）係	子育て支援事業、区内他園と連携して、企画から実施までを考え、地域子育て支援ニーズに応じた支援の輪を広げる、

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの発達状況を的確に捉え、応答的な関わりをする中で、子どもが自ら育とうとする力を援助する。 ・子どもの興味関心から遊びを導き、子どもが自ら関わりたいと思える環境を構築していく。 ・異年齢で関わる中で、自主的に行動する力を培うためには、自己肯定感を育ぶことを重視する。 ・年長児になるまでに一人ひとりが自己表現し、葛藤し、自律性を培いながら集団性を構築していく。
保育参加	<p>4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナもあけ、各クラスで保育参加を呼びかけたが、人数は少なく残念であった。 ・新入園児で慣れ保育を申し出た保護者にとっては、室内で一緒に子どもと接する中で、子育ての悩みなどを聞き、他の子どもの様子を見守ることにより、安心して子どもを保育園に預けてもらえるように工夫する。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計84名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスに新入園児が多いことから、乳児クラスにおいても全家庭対象に面談を希望する家庭において、行うようにし、子育ての共有、保育園に対する意見や要望なども聞くようにし、子育てが家庭との両輪で行えるようにする。 ・子どもの発達相談に対しての面談の際は、子どもの実際の姿をスタッフ全員でとらえ、子どもの強み・弱みを見極め可視化する中で、子どもの捉え方を共有できるようにしていく。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

①	計画・ねらい	子どもが意欲的に食事に向かい、食することを楽しむ。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児から幼児クラスまでの子どもたちはバイキングをする中で、子どもが好きなものを好きな友だちと好きな場所で楽しく食事することが定着し、後期になると、食べ残しはほとんどなく、また、おかわり分もなくなるほどよく食べるようになった。また、野菜嫌いの子がいるが、バイキングを通して今まで手に取らなかった野菜も食べるようになるケースが非常に多く、意欲的に食べる子どもの姿が顕著であった。また、野菜全

		<p>般が苦手の子どもも、他の食材を意欲的に食べられるようになった時期を見計らい、子どもに食べられそうな野菜を聞くと自ら積極的に選び、食べるようになった。従って、2歳児から幼児クラスまでの喫食状況で残食は0に近いことが多かった。</p> <p>・0～1歳児も、スタッフが子ども食べられる量を盛り付けたり、子どもに聞いたりする中で、食べる量が増える・おかわりも自ら皿をもって意思表示をする事も増えた。</p>
	次年度方向性	<p>幼児クラスの食具の使い方にスタッフ間に統一性がないため、遊びの中で、手先を使った遊びを取り入れるとともに、保護者と家庭での姿を共有しながら的確な食具の使用をさせていく。</p> <p>どの子どももよく食するようになってきたため、姿勢、マナー等、楽しく一緒に食べているスタッフも意識しながら関わるようにする。</p>
2	計画・ねらい	すべてのスタッフがプロとしての専門性を活かしながら、子どもが自主的に食事を楽しめるように食育を進めていく。
	実践結果	<p>保育士、栄養士、調理員などが子どもと一緒に食事をする中で、それぞれの視点で子どもの食べ方、喫食状況を給食会議で話題にすることもあるが、丁寧に子どもの姿を捉え、どのようにすれば課題となっている部分をスタッフの意識の転換で解決することができるかを検討していく必要もあった。</p> <p>・栄養士、調理員が子どもと関わる中で関係を深める事ができ、食育活動もプロセスを重視し子どもと一緒に考え、工夫する姿も多くなった。</p>
	次年度方向性	栄養士、調理員がどのようにすれば毎日、子どもと食事をする中で子どもの声を拾い専門職の観点から課題を抽出することができるかスタッフ全員で考えていく。
3	計画・ねらい	食育活動。畑での作物づくり、伝承的な取り組み（梅干し・みそなど）を行うとともに、SDGsの観点からのコンポスト、ヤギの糞等を活用した堆肥づくりを子どもと一緒に行う中で、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。
	実践結果	<p>食育活動はその日だけの活動とならないように、早くから調理員と保育士が当日の到達点のためにどのようなプロセスを踏んでいくか話し合い当日を迎えることが多くなった。反面、試行錯誤した結果、失敗を次にどう生かすのか子どもと一緒に考えていくことが不十分な面もあった。</p> <p>コンポスト、ヤギ糞の活用など、意識的に行い、子どもが堆肥を丘陵公園までは首、畑に混ぜるなどの活用もするが、時に、大人がやってしまうこともあり、反省点である。</p>
	次年度方向性	子どもを中心に、保育士と調理員が一緒になって食育活動のプロセスを踏んでいく中で、子どもとともに試行錯誤する状況を一人ひとりのスタッフが現状を明確に把握し、食育に前向きに関わっていくようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月8日／11月9日に実施

歯科検診	6月12日／11月14日に新羽どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月27日に新羽どろんこ保育園にて手洗い指導を実施 ② 1月5日に新羽どろんこ保育園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	① 8月に感染性胃腸炎に園児13名・スタッフ1名罹患し、港北区福祉保健センターへ報告 ② 1月～2月にインフルエンザA及びB、園児15名感染報告有り。2月26日に終息
発作・痙攣等の対応	6月19日に単純性熱性痙攣のため、救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に新羽どろんこ保育園にてエピペン研修を新任スタッフ5名、在職スタッフ名31名、計36名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ36名（つむぎスタッフ含）のうち、36名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	非該当
その他保健に関する取組	ウィルス感染症のため、手洗い指導を個々に行っていく。感染症の流行時は、細部にわたる消毒・清掃を実施し、常に窓を開け換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月8日、11月9日 歯科健診 各年2回／6月12日、11月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「自ら考え、自ら行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内、室外ともに子どもが自発的に関われる環境設定を行う。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意欲を大切にしながらも共主体の観点から道具や材料を随時準備していくようにする。幼児クラスは自分で散歩先にどのような道具や材料があったら【昨日の続き】を高められることができるか帰りの会などで子どもたちが考えて当日、子どもが自ら道具や材料を持っていく姿も見られる。また、何かに挑戦したい、完成させたいという子どもの願いから公園先を選ぶ姿も増えてきた。 ・暑い夏には、子どもたち全員が健康、安全に楽しく過ごすためにどのような遊びを園庭で展開していくかをスタッフ全員で考え、子どもの意欲や興味関心に合わせて遊びこむ姿が見られるようになり、室内との連動もスムーズに取り組めた。 ・秋には自然物を室内にどのように連動させて子どもが楽しみにすることができるかを考え、それを運動会につなげるなどの取り組みが顕著であった。 ・デザインマップを積極的に取り入れることは難しさがあったが、子どもの姿からどんな遊びが必要か、大人主体にならないように保育を進めていた。

	次年度方向性	室内環境において、時期的にデッドスペースになっているところがあり、玩具の入れ替えが子どもの発達に間に合わない面もあったので、スタッフ同士で子どもの興味関心から室内環境のさらなる充実を図っていく。
2	計画・ねらい	ゾーン設定や玩具の安全性を常に確認しながら、発達にあった遊びの取り組みを行っていく。
	実践結果	・日々の清掃の際、玩具の破損や安全性を確認した。また、園庭の玩具は朝の見回りの際に確認しているものの、日中の使い方により、よごれたままのものもあったため、今後の課題である。また、手作り遊具などがあるので、日々、確認を怠らないようにした。
	次年度方向性	ゾーン設定時に、ゾーンで取り組むべきか、コーナーの設定にするのかスタッフ一人ひとりが考え全員に周知される中で、安全に配慮した遊びの取り組みをしていく。
3	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理などのスタッフの共通理解や体制作りの強化を図る。
	実践結果	・保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態を踏まえつつ、施設内外の安全点検に努めた。重大事故発生が起り得る場面に対してはチームの中で、しっかりと役割分担を行いながら大きな怪我につながらないように行動した。 ・事故防止チェック、設備点検などを確実に行う中で、不備がある場合にはすぐに対応をし、スタッフ全員に周知した。
	次年度方向性	スタッフが気づいたことは周知することはできているが、自らどのような行動をするかなど、自分たちで考えられるスタッフ集団を構築していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ロフト	2歳児室	毎日	異常なし
2	パーテーション	各クラス	毎日	クラスにより、適宜撤去をし、7月までに完全撤去完了
3	帽子入れ	縁側	毎日	11月に完全撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	厚生労働省、法人の運営マニュアル・保育品質マニュアル、自治体条例などにに基づき、不明な時は調べながら確実な対応ができるよう行動した。
2	実践結果	安全対策係、避難訓練係を中心に、災害・防犯などに対する意識を高め、シミュレーションを重ねながら的確な判断をしながら行動できるよう日頃の訓練から課題や方法を見いだした。

3	実践結果	怪我においては、新進ともに苦痛を負った子どもと保護者に誠意をもって対応するとともに、全スタッフに周知し、すべてのスタッフが応じられるようにした。
4	実践結果	怪我などが起こった場合には、どこに原因、要因があるのか、時系列のもと分析し、その場にいたスタッフのみならず、すべてのスタッフが自分事として考えられるように視覚化する中で、チームですべての子どもの命を守っていることを意識して取り組んだ。
5	実践結果	過去の事例や予測される事故事例に自園での課題を見だし検証した。また、メディアで取り上げられている事故については、すぐにスタッフ全員に周知し、少しの連携ミスや自己判断が事故につながりかねないことをスタッフ全員に周知した。
6	実践結果	大災害は起こらなかったが、他県の自然災害や保育園に関する事例は自園だったらどうするかをその都度、周知し考えた。
7	実践結果	光化学スモッグ注意報や熱中症には充分注意し、指数などを参考にしながらもどのように遊ばせることが子どもの要求を満たすことになるのかをスタッフ全員で考えながら日々、行動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

・保育園は地域の社会資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生のうけいれは積極的に行う。実習生だった学生が本園に就職するケースもあり、責任重大だと感じる。実習生一人ひとりの特性を考えながら、不安にならずに楽しく実習ができるようにそれぞれの立場でフォローするように心掛けた。

・新羽高校との交流も確固たるものになり、保育園に来園してもらい、高校に行く中で、お互いに学びを強めている。高校生は将来、保育士になりたい学生のため、保育園側では【保育士の仕事】というテーマで学生に講義をする機会を今年度もさせてもらうことができた。

・中学生の受け入れも学校に問い合わせたが、コロナあけ1年目ということで計画に盛り込まれていず、来年度に持ち越しとなる。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月2日～16日	鎌倉女子大学児童学科	1人	観察実習
8月2日～16日	鎌倉女子大学初等教育学科	1人	部分実習
8月17日～30日	相模女子大学学芸学部	1人	観察実習
8月21日～22日	東海大学児童教育部	1人	インターンシップ
2月5日～22日	鎌倉女子大学児童学部	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月16日	高等学校	1人
6月19日	新羽高等学校	6人
8月21日	新羽高等学校	16人
8月28日	新羽高等学校	6人
10月30日	新羽高等学校	6人
11月27日	新羽高等学校	6人
1月22日	新羽高等学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 28名	27日 28名	23日 28名	28日 27名	25日 27名	22日 26名	27日 25名	24日 25名	22日 25名	26日 25名	22日 25名	22日 25名
園内研修	28日 23名	27日 23名	23日 23名	28日 23名	25日 18名	22日 19名	27日 19名	24日 19名	22日 19名	26日 19名		

〈2〉外部研修への出席

・園長大学、保育士大学の視聴を優先したため、2023年度は、外部研修なし（自主的に受講しているスタッフあり）

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名

全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	非該当
デンマークインターンシップ	非該当

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉保育園・つむぎの一体化を図った取り組み

厚生労働省の通達により、保育園と発達支援事業の一体化が明確にされ、分断せざるを得なかった両スタッフ同士の連携を図る取組みを高めていく。保育園の文化の違いと支援の文化の違いから難しい面も多々あるが、午前中においては、保育園の園児、つむぎに通う子どもと分け隔てなく両スタッフが同じ目線で子どもたちを保育・教育、支援をしていくようになり、連携もかなり図られるようになる。子どもたちはどのような場合にも大人がやってあげるのではなく、子ども同士の関係性から育てていくことを理解するスタッフも徐々に増えつつある。途中でつむぎの施設長が交代する中で、スキルアップを行うところまでは至らない面もあるため、来年度はさらなるスキルアップを目指すことが重要と思われる。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

コロナもあけ、地域の拠点として保育園を知ってもらうために、積極的に行動してきた1年である。青空保育の確実な実施、他園との連携、商店街ツアーの拡大に伴う地域社会との連携、高齢者施設での毎月の交流、小学校との交流、学童との交流、小学生の受け入れやケアプラザで行われている地域子育て支援ネットワークに定期的に参加し、地域との交流の広がりなど収穫の多い年となる。また、何よりも保育園で行う園庭開放、自然食堂、芸術学校などに徐々に参加する親子が増え楽しんでもらえる姿も多く見かける。どろんこ保育園ならではの遊びを展開することで、他では味わえない遊びの面白さを味わい、幾度となく参加する親子も徐々に増え始める。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容	
青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：新田公園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：ヨネヤマプランテーション、スーパー、蕎麦屋、キリンビバレッジ、交番、消防署、交番、神社、寺、駅、野菜直売所、ケアプラザ、銀行、郵便局、等
世代間交流	月1回、老人ホーム訪問を実施
異年齢交流	他保育園児との交流、新羽高校との交流、小学生の来訪、学童との交流など、定期的を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は2校と連携を取り、年長児が授業に参加させてもらう機会を得る。また、スタッフが小学校に出向き、教師より話を聞く場に行くことができる。横浜市は国の「虹の懸け橋プロジェクト」の指定都市になっていることもあり、スタッフが子どもたち同士で討議しながら解決していく授業を見学する機会を得ることができる。

また、小学校の教師から、年長児に対して、身の回りの始末など、自園でも意識して行わなければならないことを再度、家庭にも子どもにも知らせながら就学前まで進めていくことができる。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月30日	新羽小学校	17名	学校訪問	ルート確認及び学校見学
5月18日	恩田小学校	1名	授業参観	職員間交流
6月1日	新羽小学校	80名	広域避難場所の確認	ルート確認
12月14日	新羽小学校	1名	授業参観 1年生を迎えるにあたって	職員間交流
1月17日	新吉田小学校	1名	事業参観	職員間交流
2月22日	新羽小学校	16名	1年生との交流	子ども間交流
2月26日	新田小学校	16名	1年生との交流	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

年度当初に要支援児の個別計画を立案し、子どもの変化や人との関わりの変化を毎月1度、スタッフ同士で検証し共有することによって、同じ視点に立ち、子どもを援助できるようにする。また、半期で総合的に見直しを図り、特に気になる子どもに対しては、WEBを一人ひとり作成し、子どもの成長の見える化を図り、多面的に今後どのような支援・対応をするかを検討し、保護者と両輪となって子育てをしていく。インクルーシブを視点に、集団と個、異年齢児と個の対応を丁寧に行いながら検証していく。保育園生活を安心して過ごしながらか、他児とかかわる経験を通して、自らはたつしようとする力を見守っていく。さまざまな手法で、スタッフが一人ひとりの子どもをとらえる術を学びながら共通理解を図り、主訴を明確にしながらかスモールステップでほんの先の見通しを持って、保育・教育を行っていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：毎月7名～10名程度参加

ケース会議は月に1回行うが、子どもの姿の気づきが図られるように、前準備を重要視し、当日参加できないスタッフも一人ひとりの子どもの様子、対応の仕方を理解できるようにする。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

すべての子どもに対してすべてのスタッフが保育・教育にあたるという原則において、日々のこどもへの対応を重視し、進級時には、子どもの育ちの確認と発達に応じた対応の仕方を明確にしていく。小学校への引継ぎは、保育所保育要録以外に、保護者との確認のもと、一人ひとりの子どもが安心して小学校での生活がおくれるようにと引き継いでいく。保育園との生活と異なる学校生活において、子どもが不安や困りごとを感じている事柄については、応答的な対応の仕方を丁寧に引き継いでいく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12名	33名	46名	182名	40名	72名	57名	40名	44名	34名	38名	40名	638名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	6名	12名	20名	14名	16名	16名	22名	17名	24名	28名	28名	203名	

どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	12名	0名	8名	2名	6名	21名	4名	4名	6名	63名
勝手籠設置	(月)～(土)7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：新田公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	10名	中止	中止	中止	2名	2名	8名	2名	4名	中止	4名	40名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月6日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、つむぎ施設長、主任、児発管、各クラスリーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

保育園に対して信頼度も上がり、安心して子どもたちを預けてくれている様子が伺える。とはいえ複数のご意見をいただく。ご意見に対してのすべての回答は、秋の全体懇談会の時に、保護者に口頭でお知らせする。また、当日おいでになっていない保護者の方もいるので、一つ一つの質問に対する回答を掲示し、アプリの「お知らせ」でも保護者に周知する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべき怪我（事故） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：新羽どろんこ保育園 施設長 黒川 裕子

2023年度 清瀬どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

予測困難な厳しい時代を生きていかねばならない子どもたちが「生きる力」を持ってよく生きることができるよう、子どもの人権を尊重し、個々の状況や行動、発達を踏まえつつ子ども自身で考え行動ができるための環境を設定し最善の促しを行った。

どろんこ会の子育て理念、子育て目標の下、広い園庭や地域の豊かな自然環境を活かした清瀬どろんこ保育園ならではののびのびとした保育を行った。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力」の基礎となる「にんげん力」を育む
	実践結果	さくらさくらんぼリズム、座禅、雑巾掛けの実施と午前9時の散歩出発が定着し、日課・保育の基本活動励行と質の向上が図られた
	次年度方向性	それぞれの日課・基本活動の持つ意味の理解を深め取り組みを継続する
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	定期的に魚の解体をして食べる食育の場を設定、収穫作物を園庭の焚火で料理する機会も複数回提供した
	次年度方向性	畑仕事や食育の更なる充実を図り、子どもが自らの体験を通して身に付ける環境を提供する
3	計画・ねらい	「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握する
	実践結果	「生活・遊び」に関することについての子どもの自己選択を尊重する風土が醸成された
	次年度方向性	大人が子どもに背中を見せ、教えねばならないことを計画的に用意し環境を設定する

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者と成長を喜びあえる信頼関係を築き発展させる
	実践結果	全てのスタッフが全クラスの子どもの様子を共有し、お迎え時の対応でも保護者と成長を喜びあえる信頼関係づくりを進めた。日々の連絡のほか年間を通して随時個別面談を実施した
	次年度方向性	実践内容を次年度も継続し、更なる充実化を目指していく
2	計画・ねらい	スタッフの誰もが「挨拶」「お迎え対応」を自然にできるようになる
	実践結果	「笑顔、挨拶」を心掛け、心のこもった対応を行うことを全員で意識し取り組んだ。園見学などの外部の方からも好評価をいただくことができた
	次年度方向性	職員間のチームワーク力を高め、活気のある明るい園を目指し「笑顔、挨拶」を一層充実させていく
3	計画・ねらい	子どもの育ちが見える指導計画と子どもの姿の共有

実践結果	行事の有無に関わらず画像掲示を積極的に行い、保護者目線での可視化に努めた
次年度方向性	お迎え時の展示も引き続き行い、画像映像での可視化に継続して取り組んでいく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	広い園庭を活用した「火・水・土」の体験の提供
	実践結果	自園ならではの環境を活かし、焚き火、水遊び、どろんこ遊び、畑仕事など地域の親子に「火・水・土」の直接体験をしてもらった
	次年度方向性	引き続き地域に開かれた園を目指す強力なツールとして「火・水・土」の体験の提供を継続して行う
2	計画・ねらい	子育て相談の拠点として「気軽に話せる、聞ける場所」になる
	実践結果	看護師、栄養士、保育士それぞれの専門性を活かし、ちきんえっぐ来訪者園庭解放利用者などからの相談に応じた
	次年度方向性	引き続き「気軽に相談できる場所」としての認知度を高めていく
3	計画・ねらい	「子育て家庭のつながりの場」コミュニティスペースの提供
	実践結果	自然食堂に子育て4家族が集い親交を深めるなど在園児との交流の機会も提供。清瀬地域活動事業補助金を活用したイベント開催を通して「つながりの場」を設定した
	次年度方向性	引き続き「子育て家庭の場」としての認知度を高めていく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	常に清潔で美しい環境を維持する
	実践結果	「整理整頓・清掃」に全員が着意を持ち続けた結果、水準向上し内部監査でも好評価を得た
	次年度方向性	居心地の良い園を目指し美観維持への自覚、啓蒙を継続する
2	計画・ねらい	本音で語り合えるスタッフ集団を目指す
	実践結果	時に議論し合いながら、各種会議体を有効に活用し各自の思いを保育に反映させる動きが出てきた
	次年度方向性	大人も主体性を持ち、考え学んでいく行動の中で強固なスタッフ集団を構築する
3	計画・ねらい	「大人のにんげん力アップ」
	実践結果	スタッフの社会人としての資質向上の為、園内研修を有効に活用して啓蒙を実施した。
	次年度方向性	コロナ禍を経てコミュニケーション能力の欠落が懸念される中で人間関係の基本「挨拶」を基盤にメンバー全員のにんげん力を高める
4	計画・ねらい	保育の質の向上のためのスタッフのスキルアップ
	実践結果	多くのスタッフがスキルアップ研修に積極的に受講し、全科目履修者も出るなど自己啓発に努めた

	次年度方向性	特に若年層を中心にスキルアップ研修受講や、園長大学®保育士大学講座受講を進める
--	--------	---

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	給食残渣は他園対比極めて少ない実績であり、法人内会議において好事例として自園の工夫を発信した
	次年度方向性	定着した給食残渣の少なさを維持し、更なる改善の余地を模索していく
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事や食材加工のほか、魚を解体して食べる行事を複数回実施するなど命を頂く有難さを知る環境教育を行った
	次年度方向性	環境教育を充実させることに加え、環境目標を意識した行動を実践する
3	計画・ねらい	省エネルギー、省電力、カーボンニュートラルの実現
	実践結果	日常における無駄の排除を大人が実践する中で、改善点が明確化した
	次年度方向性	光熱費削減の見える化を通じ、大人の行動改革を行い更なるエネルギー省力化を目指す

〈6〉選ばれる園をつくる

1	計画・ねらい	「人と環境の魅力が感じられる」温かい雰囲気
	実践結果	「主体的に行動し充実感のある子どもたち」の育成や「園庭・保育室内の魅力ある環境」の構築に全体で取り組んだ
	次年度方向性	園の魅力の重要な要素として温かい雰囲気を全員で醸成していく
2	計画・ねらい	「自園の価値を自らの言葉で伝えられる」スタッフの説明力の向上
	実践結果	入園面談や園見学時の説明機会の経験を重ねることで着実に説明力を向上させた
	次年度方向性	日常のお迎え対応や連絡帳記載を軸に、説明力強化を続けていく
3	計画・ねらい	全スタッフで共有できる客観的数値目標の達成に向けた取り組み
	実践結果	内部監査指摘項目数の削減に取り組んだものの、改善途上。保護者評価NPS 数値はほぼ横ばいの結果となった
	次年度方向性	外部目線を意識した行動を職員間で定着させることで改善を間断なく進めていく

〈7〉業務分担の可視化

1	計画・ねらい	園全体・各人の業務内容の可視化
	実践結果	「準備、実施、振り返り」の行動様式がチーム内で定着。翌日の行動計画や役割分担、当日の変更や職員配置などの情報をチャット機能の活用で適時共有し円滑な業務遂行に寄与
	次年度方向性	引き続き共有の徹底を行う
2	計画・ねらい	日常ルーティン業務の着実な消化

実践結果	嘔吐処理や感染症拡大時対応などマニュアルに沿った行動を基本に、各種チェックリストも適切に活用しながら確実な業務実施に努めた
次年度方向性	各種チェックリストも効率的に活用し、漏れの無い業務遂行を進める

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	12人	12人	20人	19人	20人	89人
年度後半： 10~3月	6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	256 人	250 人	280 人	281 人	302 人	264 人	271 人	276 人	311 人	254 人	250 人	250 人	3245 人
うち0 歳児	0人	0人	1人	0人	1人	0人	2人	1人	1人	0人	1人	1人	8人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人	8 人	15 人	15 人	7 人	11 人	19 人	10 人	9 人	15 人	15 人	15 人	139人
うち0 歳児	0 人	0 人	6 人	7 人	5 人	7 人	11 人	6 人	4 人	8 人	7 人	7人	68人

（解説）「一般型」一時保育

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	7人	補助	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育内容の充実化、園児個別の事例共有 ・園として取り組むべき課題への検討
給食運営会議	月1回	食育活動実施内容、喫食状況、離乳食進行状況
事故防止委員会	月1回	自園、系列園で発生した事故のケーススタディと改善策検討。当月のインシデント・ヒヤリハット分析検討
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	リーダー保育士・施設長・主任による報告連絡相談
乳児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討
幼児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症予防対策を 通年実施
安全対策係	危険個所の点検、見失い防止、室内外の設備点検実施
防火管理者	消防計画の作成、これに基づいた消火通報及び避難訓練実施 消防関係の設備点検実施
食品衛生管理係	食材の衛生管理と在庫状況管理 食育会議の計画と実践、食品安全に対する管理や啓蒙
畑係	農業計画実施のための環境整備、管理
生き物係	園内の動植物の飼育育成計画立案と管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ（保護者）と協働し企画立案、当日までの準備、当日の進行、反省会などを実施。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	生涯にわたる生きる力の基礎となる「にんげん力」を培うため保育所保育指針に掲げる保育の目標ならびに法人理念と目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めた。 ・生きていく「知識・技能の基礎」 ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の基礎」 ・学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」
保育参加	4～3月まで 合計8名 が参加済み (3月1日時点) ・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計70名 が参加済み (3月1日時点) ・随時、希望する保護者に対し実施。面談月間を設定し参加し易さを提供した ・「保護者面談記録」を活用

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	好きな友達や身近な大人と親しみをもって、楽しく心ゆくまで食べる
	実践結果	給食においても異年齢保育の良さを活かしコミュニケーション力を育んだ。年間を通し縁側や園庭も活用した気持ちよく食事する環境を提供した
	次年度方向性	バイキング給食を通じた多くのコミュニケーション機会の提供と気持ちよく食べることが出来る環境を設定する
2	計画・ねらい	意欲的に食事に向かい、魚や野菜を中心とした和食を好んで食べる
	実践結果	出汁や旬を大切にしたり和食の良さを保育参加の保護者にも伝えることが出来た
	次年度方向性	畑仕事や食育全般に注力することで食への関心を高めていく
3	計画・ねらい	分かち合う事のすばらしさや大切さを感じながら食事をする
	実践結果	給食を含め異年齢での活動や焚き火を用いた食育を通じ思い遣りの心を育んだ
	次年度方向性	当園の広い畑を活用した収穫物の食育への有効活用を一層強化する

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月8日・15日／11月10・16日に実施
歯科検診	6月1日に清瀬どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月、歯磨き指導を実施（5歳児は歯垢染出液を活用） ② 6月、手洗いの歌、ばい菌スタンプ使用した手洗い指導実施 ③ 8月、5歳児対象に「鼻をかむ」方法と重要性を指導 ④ 9月、3～4歳児対象に絵本を活用した性教育を実施 ⑤ 1月、5歳児対象に性教育を実施
流行した感染症	2月にインフルエンザB型、園児25名・スタッフ4名蔓延し、多摩小平保健所へ報告。2月20日に終息。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用 その他、11月16日に午睡中空息懸念事象発生し救急要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月14日に清瀬どろんこ保育園にてエピペントレーニングを保育士スタッフ4名、調理スタッフ1名、計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、25名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・11月11日にブリヂストンこころ保育園にて上級救命救急研修を保育士スタッフ2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	感染症発生状況に応じ、うがい指導手洗い指導の徹底の他、消毒や換気の頻度見直しを機動的に実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月8日・15日、11月10日・16日 歯科健診 各年1回／6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	主体性を育む
	実践結果	子どもたちが自ら選択する「遊び、生活」に関わる物的環境を提供した
	次年度方向性	自己選択に支障のない物的環境とあわせ、大人が見守る、背中を見せる人的環境の充実化を進める
2	計画・ねらい	社会性を育む
	実践結果	異年齢、インクルーシブ環境を通じ人と関わる力を育んだ
	次年度方向性	引き続き異年齢、インクルーシブ、見守る保育を実施していく
3	計画・ねらい	協同性を育む
	実践結果	他児と試行錯誤をしながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことのできる環境構成を提供した
	次年度方向性	継続して他の子どもと協同することの楽しさを知る環境を提供する
4	計画・ねらい	豊かな感性を育む
	実践結果	火・水・土や身近な自然に触れる機会を最大限に設定し、自然への畏敬や生命の不思議さや尊さに気付き大切にする気持ちが育まれる環境構成を提供した
	次年度方向性	自園の環境を活かした環境の提供を継続する
5	計画・ねらい	創造性を育む

実践結果	表現を楽しむ活動を年間通じて実施。地域活動事業の一環で行った表現遊びにおいては数多くの紙コップを使った表現活動を行い感じたことや考えたことを表現する過程を楽しんだ
次年度方向性	様々な素材に触れ、新たなものを生み出す感動などの創造性を育むための環境を提供していく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ツリーデッキ	園庭	毎日	異常なし(2023年10月撤去)
2	平均台	園庭	毎日	異常なし
3	丸太ベンチ	園庭	毎日	異常なし
4	ロープ渡り	園庭	毎日	異常なし
5	自然木の平均台	園庭	毎日	異常なし
6	布のブランコ	園庭	毎日	異常なし
7	タイヤ山	園庭	毎日	異常なし
8	屋台	室内	毎日	異常なし
9	遊技台	室内	毎日	異常なし(2023年8月撤去)
10	トンネル潜り	室内	毎日	異常なし
11	東屋	室内	毎日	異常なし(2023年12月撤去)
12	井形棚	室内	3か月毎	異常なし
13	テーブル	室内	3か月毎	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	（防災）備蓄品点検を年2回実施。必要数の確保を確認している
2	実践結果	（ケガ事故防止）危機管理マニュアルに定められた各種点検チェックを行い、故障個所の早期検知と対策に努めた。SIDS 防止策の徹底から午睡中園児の窒息を遅滞なく検知し適切な対応により大事無きに至った事例あり
3	実践結果	（防犯）消防、避難訓練を計画通りに実施した
4	実践結果	（光化学スモッグ）注意報発令は限定的であったが、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従った対応を行った

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

- ・実習生、中高生の受入れは原則断らず積極的な受け入れを実施した。
- ・中高生の夏季休暇中のボランティア受入れは清瀬市社会福祉協議会仲介案件や法人広報案件以外にも個別参加者も増加した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14～26日	日本児童教育専門学校	2人	観察実習・部分実習
10月16日～27日	東京医療秘書福祉&IT 専門学校	1人	観察実習・参加実習
11月6日～11月17日	総合学園ヒューマンアカデミーチャイルドケアカレッジ こども保育専攻	1人	観察実習・部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月24～28日	清瀬市立清瀬第六小学校	1人
7月25～8月25日	清瀬市立芝山小学校	1人
7月28～8月9日	清瀬市立清瀬第五中学校	1人
8月8日～8月18日	東久留米市立久留米中学校	1人
8月16～8月28日	清瀬市立清瀬第七小学校	2人
10月26日～27日	清瀬市立清瀬第二中学校	4人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 25名	12日 28名	9日 21名	14日 18名	10日 22名	8日 17名	13日 21名	10日 22名	8日 21名	12日 21名	16日 20名	3日 26名
園内研修	14日 25名	12日 28名	9日 21名	14日 18名	10日 22名	8日 17名	13日 21名	10日 22名	8日 21名	12日 21名	16日 20名	3日 26名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月25日	東京都多摩小平保健所	令和5年度栄養管理講習会	1名	有

3月4日	東京都多摩小平保健所	令和5年度栄養管理講習会	1名	有
------	------------	--------------	----	---

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

- ・コロナ禍に一服感が見られた中、インフルエンザ等の蔓延に留意しつつも地域交流に注力した。2023年1月から再開した銭湯でお風呂の日は子どもたちに定着、商店街ツアーはコロナ禍以降一部抑制的な拠点はあるものの総じて協力を得られ有効な機会創出ができた。
- ・清瀬市の地域支援事業補助金を活用したイベントを開催し家庭及び地域に開かれた園を目指した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:清瀬中央公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:ふれあい通り商店街、清瀬駅周辺、竹丘商店街、清瀬消防署 等
世代間交流	原則月1回「信愛デイケアセンター」を訪問、高齢者との交流を実施。 (感染症状況を見つつの開催)

異年齢交流	小学生、中学生職場体験を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

・感染症の影響を睨みつつも、ほぼ制約の無い環境での交流が実現した。子ども間の交流において園児の小学校入学に対する不安感の払拭に繋がった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月24日	清瀬市立清瀬第三小学校	18名	展覧会観覧(体育館)	子ども間交流、職員間交流
2月8日	清瀬市立清瀬第七小学校	20名	小学1年生と他園児との交流（体育館）	子ども間交流
2月9日	清瀬市立清瀬第三小学校	20名	小学1年生と他園児との交流（体育館）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・主に支援が必要な園児3名の個別支援計画を作成し、毎月のケース会議においてフォロー共有を実施。他の支援が必要と思われる園児については個別面談にて保護者と情報交換し、必要に応じ発達支援施設を利用。当該児の心身の発達が促された。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：4名
主に支援が必要な園児3名についてケース会議を開催した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	18名	35名	13名	46名	69名	75名	52名	70名	66名	30名	474名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計4回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	8名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	12名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育	月1回 公園名：清瀬中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	3名	2名	1名	0名	1名	1名	1名	9名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時50分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：山崎健、金子隼人、木本(菊田)宗子、藤本十望

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：89%

アンケート回収率100%には未達であったが、自由記載ご意見欄では総じて子どもの発達についての好評価が多く厳しいご意見は前年度に引き続き少ない印象であった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：清瀬どろんこ保育園 施設長 山崎 健

2023年度 美しが丘どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

人と関わる力 人に伝える力を育み、心と個性を大切にする保育を目標に掲げる中で、毎日のあそびの中で、子どもたちが試行錯誤しながら目的を達成していく経験を積むことを重点に関わりを持ってきた。子ども同士の関わりがより盛んになり、試行錯誤することが多かったように感じる。また、子どもたちの個性を大切にするに加え、スタッフの個性を大切に過ごすこともできていた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども主体な保育を前提に、子ども同士が話し合い、考え合う場を設けることで協力・協働性を身に着ける
	実践結果	自由と放任は非常に難しく紙一重であるため、1年を通してスタッフ間で考え行動したが、スタッフの言葉掛けにより、考えるサポートはできていた。
	次年度方向性	子どもたちが自ら行動することが出来るような環境を課題とする。
2	計画・ねらい	子どもの姿の振り返り/園全体で共有し共通理解を深める
	実践結果	チャット機能を利用し、日々の子どもの姿を全スタッフで共有することが出来た。また、園内研修の場で子どもの様子や行動の意図等を検討し合った。
	次年度方向性	更に深い子ども理解にしていくため、様々なアクティビティを用いて継続的に検討していく。
3	計画・ねらい	子どもたちの発達段階を見極めて、子どもの様子に合わせた環境、関わりを提供することで、活動の連続性や新たな興味関心に発展させる。
	実践結果	子どもたちの発達段階をスタッフ間で対話し、子どもたちに必要な環境を考えていくことはできたが、時間の有効活用が出来ず、活動に連続性を持たせることや新たな興味関心を産むことができなかった。
	次年度方向性	活動の連続性を持たせることの出来る環境や遊びを発展させることが出来るような仕掛けを検討していく。
4	計画・ねらい	アタッチメントを意識した関わりをすることで、自分の感情をコントロールする力を育む。
	実践結果	主に0・1歳児において子どもたちの安心できる環境を常に考え関わりを持っていた。一方、2歳児や3歳児に対しての安心できる環境は充実しきれていないことがあったように感じる。
	次年度方向性	感情をコントロールする為に、子ども同士で対話し解決していく体験を更に増やしたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え対応の充実を図り、子どもの様子が手に取るように伝わる
	実践結果	お迎え対応時では丁寧に関わることを意識したことで、保護者が記入する連絡帳等の反応に変化があった。
	次年度方向性	お迎えが重なるタイミングでの対応や待たせてしまった時のひとことなど細部まで丁寧に行う。
2	計画・ねらい	常に相談できる雰囲気作りをすることで、家庭と保育園の連携を強化
	実践結果	前年よりも相談をして下さるご家庭が増えた。
	次年度方向性	悩みを抱えているが言い出せないご家庭に対してのアプローチを考えていきたい。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流を保護者同士の関わりを深める
	実践結果	どろんこサポーターズによる企画や保護者参加行事を実践したことで多くの方に交流を持てる機会の提供が出来た。
	次年度方向性	様々な角度から交流の方法などを検討し、継続的に実践をしていく。
4	計画・ねらい	保育園からの発信を強化し保育園の運営を理解していただく
	実践結果	ドキュメンテーションやエピソード記録など、掲示し園での様子や活動を発信した。また、発信方法を主にタイムラインで行った。写真の説明だけにならないように、前後の子どもの姿も記載することで保育園の運営を理解して頂けるように努めた。
	次年度方向性	ドキュメンテーションやエピソード記録など掲示だけでなく、見た保護者からのコメントなどいただける仕組みを構築することで、共育を意識した園運営をしたい。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	火・水・土で遊べる環境を提供し、地域の親子が直接体験を出来るようにする
	実践結果	園庭開放やちきんえっぐに参加された地域のへ様々なアクティビティを用意し直接体験を提供できた。
	次年度方向性	集客の方法を検討し足を運んで下さる地域の方を増やす。
2	計画・ねらい	見学時の丁寧な対応を行うことで、保育園に興味を持ち保育園の良さを感じていただく
	実践結果	園見学の日程など希望に応えられるよう努めた。また、ただ園運営を伝えるだけにならないように子どもの姿や今後の想像ができるよう関わった。

	次年度方向性	継続してお子様を預けた際の想像ができるように関わりたい。
3	計画・ねらい	地域子育て支援に関する情報の提供及び集客
	実践結果	ケアプラザの掲示板に毎月ちきんえっぐだよりを掲示していただいたが、集客に結びつかなかった。
	次年度方向性	スタッフと共にどうすれば集客が出来るかを考えていき、地域の方に園を知っていただく機会を増やしたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進捗状況を明確にしていく
	実践結果	園目標を細分化したことで、毎月の振り返りを行うことが出来、実行していく流れを確立してきた。
	次年度方向性	継続的に目標に向かう環境や仕組みを考えていきたい
2	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿」を理解し学び続ける大人集団になる
	実践結果	子どもの姿を追っていき共有することはできた。
	次年度方向性	子どもの姿を追って学びに繋げていくアクティビティを検討したい
3	計画・ねらい	子どもが主体となる日課・基本保育活動の実施
	実践結果	子ども自らが日課・基本活動に取り組んでいた
	次年度方向性	自ら取り組むことが出来ていない子どもや、気持ちが向かない子どもへのアプローチを検討したい

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	活動の選択が保証されている環境
	実践結果	室内環境では制作コーナーを設けるなど、コーナーの種類が充実した年となった。
	次年度方向性	各コーナーや戸外遊びでの選択が保証される環境作りを検討したい
2	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化

	実践結果	前年度に比べ大人が火・水・土に関わる機会が増えたため、子どもたちの姿に変化があった。
	次年度方向性	今年度同様に大人が遊び込む姿、本気で楽しんでいる姿や共に遊ぶ環境を用意していきたい
3	計画・ねらい	子どもたちの活動をサポートする人的環境
	実践結果	子どもの姿を見ることが優先となり、活動のサポートをすることが少なかったように感じる。
	次年度方向性	子どもたちが活動する中で、大人の思考を先回りし、仕掛けを用意することで活動の発展や継続を検討したい

〈6〉 “なんでだろう”

1	計画・ねらい	子どもの姿や心の動きを考える
	実践結果	スタッフ個々に「なんでだろう」と考えていたが、園全体での共有や相談なのが弱くアプローチに結びつかなかった。
	次年度方向性	子どもたちの行動から予測し、考えを深める中で遊びの連続性を意識した保育展開をしたい
2	計画・ねらい	保育士同士のコミュニケーション
	実践結果	スタッフ同士の保育の会話については、休憩時間などで子どもの話をするのが大幅に多くなった。ただ、スタッフの子どもとの関わりの意図などの深い話までとはならなかった。
	次年度方向性	子どもについての会話は増加したため、さらに深められるような研修や、深める子が重要と感じられるような研究を行いたい
3	計画・ねらい	保護者や地域との関わり
	実践結果	雨天時のお迎えの際にタオルを渡すなど配慮が見られるようになり、おもてなしの心が育ったと感じる。
	次年度方向性	お迎え時や受け入れ時など保護者の表情を読み取り、適切な対応を心がけていきたい。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：	6人	8人	10人	10人	12人	10人	56人

4~9月							
年度後半： 10~3月	6人	8人	10人	11人	12人	9人	56人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	95人	101 人	127 人	75人	65人	148 人	139 人	132 人	167 人	154 人	77人	20人	1300 人
うち0 歳児	0人	3人	8人	4人	4人	16人	17人	27人	32人	24人	12人	10人	157人

一時保育利用状況

実績なし

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	9人	栄養士	1人	調理員等	2人		
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	看護師	1人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・子どもの姿共有
給食運営会議	月1回	・アレルギー対応

		<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食対応 ・食育について
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの検証 ・安全対策 ・インシデントの共有
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画 ・振り返り
リーダー会議	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間の連携や共有 ・保育運営に関する共有
フロア会議	月2回	<ul style="list-style-type: none"> ・月案の確認 ・振り返り ・子どもの姿共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年6回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	手洗い・うがいの指導や歯磨き指導に加え、清掃面やチェックシートの記入確認を実施
安全対策係	避難訓練及び安全対策についての窓口となり、確実に実行できるよ

	うに働きかけた。
防火管理者	火の取り扱いについて、日々の確認と焚火保育時の火の管理指導を実施
食品衛生管理係	食の安全に関わる管理の実践
畑係	年間計画に基づき、畑やプランターの整備・管理の責任者として子どもたちと共に収穫を行う
生き物係	生き物の世話や体調管理を実施

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	係りを中心に役割分担がよく出来ていた。今年度は園での主催となったが次年度は保護者へ少しずつ委託していく流れを構築したい。
運動会係	準備から当日の流れなど細かく計画し終えることができた。次年度も継続したい。
生活発表会係	各年齢や異年齢での関わり・姿を保護者へ伝えることが出来たと感じる。また、大人が主体とならない活動を行ったことで、子どもたちらしい姿が印象的であった。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	年間目標「人と関わる力、人に伝える力を育み、心と個性を大切にする保育」を常に意識し、大人主体ではなく、子どもの意思を尊重した保育を意識して行った。
保育参加	4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	意欲を持ち給食を食べる子ども
	実践結果	午前中の活動を多く取り、お腹を空かせ食欲を掻き立てられるようにした
	次年度方向性	遠距離散歩を行いより体を動かせる活動を行う
2	計画・ねらい	食への関心を深め命の大切さを学ぶ
	実践結果	マグロの解体やコンポストでの堆肥作りに加え、鶏を捌く体験を行った
	次年度方向性	継続的に命の大切さを検討し日々意識できるような関わりを検討する
3	計画・ねらい	食材に感心を持つ
	実践結果	魚の解体、鶏の卵の収穫、野菜の下処理などを行った
	次年度方向性	食材に関心を持つためのアクティビティを検討したい
4	計画・ねらい	炭火保育の実践
	実践結果	主に秋・冬に炭火保育を行った。風向きを考え、火を付けることなど、子どもたちが思考錯誤しながら実践を行えた
	次年度方向性	継続的に行い火に触れる機会を設けていく

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月15日／11月2日に実施
歯科検診	7月5日／11月15日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	4月26日に美しが丘どろんこ保育園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に美しが丘どろんこ保育園にてエピペン研修を全スタッフ受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、23名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防の為、手洗い・うがい、換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月15日、11月2日 歯科健診 各年2回／7月5日、11月15日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境を通して行う教育
	実践結果	子どもにとって最適な環境設定を行うためにフロアでの会議を行った
	次年度方向性	スタッフ間での会議を継続し、子どもたちの興味関心の矛先を考えた上で環境設定をしたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	幼児室/乳児室	毎日	8月14日に撤去
2	丸太ベンチ	園庭	毎日	異常なし
3	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
4	竹のぼり	園庭	毎日	3月29日に撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	見失い事故及び怪我事故防止対策 他園で起きた事故を自分ごとと捉え、スタッフ間で共有した。
2	実践結果	光化学スモッグが発令された際は、社用携帯のチャット機能を活用し迅速に全スタッフへ共有を行った。また、マニュアルの読み合わせを行い、光化学スモッグ発令の際の対応について再確認を行った。
3	実践結果	遠足や銭湯でバスを利用し移動する際は、バスルールに従って危険を予測し行動した。

4	実践結果	防災対策 毎月の避難訓練において、避難経路や通報訓練などは的確に行えていたが、訓練と思いながらの訓練になっている
5	実践結果	防犯対策 不審者に対する訓練については、保育者に時間の通知を行わず臨機応変に対応できるようシミュレーションを行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生が不安にならないこと、実習終了後いつでも遊びに来てもらえるような関わりをテーマに実習生と関わった。実習中には指導や振り返りを丁寧に行うことや、困っていることに対し寄り添うことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月16～27日	東京医療秘書福祉&IT 専門学校	1人	観察実習
2月7～22日	田園調布大学子ども未来学部 子ども未来学科	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
コンピテンシー自己採点	21日 17名	19日 14名	23日 14名	21日 16名	18日 15名	22日 18名	27日 17名	17日 20名	22日 17名	19日 14名
園内研修	21日 17名	19日 14名	23日 14名	21日 16名	18日 15名	22日 18名	27日 17名	17日 20名	22日 17名	19日 14名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月14日	家庭ラボ	マネジメント	1名	無
1月12～13日	園長大学®保育士大学	乳児保育	1名	無
2月3～4日	園長大学®保育士大学	障害児保育	1名	無
1月19～20日	園長大学®保育士大学	幼児保育	1名	無
2月17日	ポピンズ	食育アレルギー	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

小学校訪問、老人ホームの訪問、絵本読み聞かせ、ボランティアなどを積極的に行った。特に老人ホームの訪問では、交流依頼初めて保育園にお招きしての交流が叶った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：美しが丘公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：たまプラーザ駅前交番、元石川消防出張所、イトーヨーカドー、ベルグーの4月、北部市場、山田が営む肉屋等
世代間交流	7月24日に美しが丘どろんこ保育園にて小学生と交流を実施 月1回美しが丘どろんこ保育園にてヒルデモア訪問を実施
異年齢交流	中学生・高校生の受け入れなし
その他活動	6月14日に美しが丘どろんこ保育園にてスペインを知ろうを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

感染予防の為中止となっていた小学校との関わりが再開し、年長児の小学校への期待値などが膨らむことができた。保育園スタッフが小学1年生の学びをより理解し、逆算した子どもへのアプローチを強化していきたい

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月13日	美しが丘小学校 1年生	9名	学校探検・1年生と遊ぼう	子ども間交流
1月31日	奈良の丘小学校	多数	健やかな子育て講演会	スタッフ間交流
2月27日	元石川小学校 1年生	9名	学校探検	子ども間交流
2月28日	美しが丘小学校 1年生	9名	1年生と遊ぼう	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

気になる児に対しては個別支援計画を作成しケース会議等で共有している。また、ケース会議に限らず日頃から昼礼やクラス会議等で定期的に共有を行っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：6～10名
毎月ケース会議の時間を設け子どもの共有や対応方法等を話し合った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・2月各小学校に保育児童要録の写しを提出した。必要に応じて、電話や対面で引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	17名	16名	21名	207名	16名	59名	15名	12名	5名	16名	5名	389名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	0名	0名	7名	2名	0名	5名	5名	5名	8名	2名	36名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	1名	7名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：美しが丘公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	3名	0名	0名	0名	1名	3名	0名	0名	1名	0名	0名	9名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：18時00分

自己評価終了時刻：18時30分

自己評価実施者：園会議参加者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：86.7%

（省察）昨年度に比べ回収率が向上した。子どもたちの活動にご理解をしていただけていると時間している。ただ、園内の清掃・衛生面や安全面に対しての課題が残った。敷地内を清潔に保つことと整理を心がけ、安全な環境を提供できるように最善を尽くしたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 大豆戸どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の理念である「にんげん力」を育てるために、私たち保育者は子どもの個性を受け止め、一人ひとりが協力しあい、共通の目的をもって子どもと共に活動を実践し、互いに逞しくしなやかさをもつことで、子どもを真ん中にし、保護者や地域の方々と共に考えて、共に学び直し、共に学びあう環境を目指した。

また、自園ならではの保育から子育ての支えの一つとなるために、子どもたちの姿を発信することを日常化し、保護者や地域の方々とつながりながら、共にどんな経験が子どもを逞しくしなやかに成長していくかを常に考えて伝え合い、見守り、寄り添いながら、にんげん育ての素晴らしさを経験することができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育者としての現況からみる課題における園内研修を実施する。
	実践結果	月1回の園内研修において、どの保育者でも主導を取り、プロの保育者としての現況からの課題出しを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を計画から実施、振り返りまでを行った。
	次年度方向性	子どもについて保育者が多角的に捉えることを継続する。 また、自園の保育の特性を見直し続けながら、一貫性を持ち、子どもについての語り合いの大切さに改めて気づけるようにする。
2	計画・ねらい	他園保育者・保護者・地域の方々と語りあえる地域公開の自主勉強会を開催する。
	実践結果	保育者・保護者・地域の方々からの昨年度からの子育てについての悩みや相談を基に自園の特性や自園での活動からの経験を織り交ぜながら、地域公開とはならなかったが、他園の保育者と自主勉強会を行った。
	次年度方向性	保育者・保護者・地域の方々からの子育てについての悩みや相談を基に自園の特性や自園での活動からの経験を織り交ぜながら、他園の保育者と自主勉強会を行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもについて語り合いながら、互いを知り、学びあえる保護者懇談会を実施する。
	実践結果	毎年2回の保護者懇談会を開き、法人や園からの共有事項を確認すると共に、保育者と保護者が子どもについて語りあった。子育ての悩みなど保護者同士で共有しあい、互いを知るよいきっかけとなった。
	次年度方向性	子どもについて語り合い、学びあえる保護者懇談会を実施し、保護者同士の繋がりも持てる場にしていく。

2	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもの日々、経験していること知ることができる保育参加を実施する。
	実践結果	保育参加をすることで、子どもがどんなことを経験から学んでいるかを保護者が一人の保育者として知り、今後の子育てのヒントにつながるようにしたが、周知不足から保育参加についての詳細が分からず、参加者が少なかった。
	次年度方向性	保護者にも分かりやすいように掲示物を作成し、保護者の参加を増やしていく。保護者も実体験をすることで、子どもや保育者と共に経験をして学ぶ大切さを継続して伝えていく。
3	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもや子育てについての悩みや相談ができる保護者面談を実施する。
	実践結果	日々の保育者との関わりだけでなく、保護者の希望に応じて子育てについての悩みや相談を話し、保護者に寄り添いながら、共に考えあえる機会を提供した。
	次年度方向性	保育者が一人ひとりの保護者にとってどんなことが安心につながるかを模索する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援活動「ちきんえっぐ」の活動を知ってもらい、活動に参加する中で自園の魅力も伝える。
	実践結果	「芸術学校」「自然食堂」「寺親屋」「青空保育」についてポスターの掲示や散歩時の保育者からの声掛けにより、地域の方々にも共に活動を通して自園について知っていただいたが、地域の方々への十分な認識には至らなかった。
	次年度方向性	園ならではの特性をより特化して、地域の方々にもわかりやすく、いつでも気軽に立ち寄れる印象を作り、開示する。
2	計画・ねらい	ベビーステーションや絵本の貸し出し、子育て相談などをよりわかりやすく表示する。
	実践結果	地域の方々に向けての周知不足となり、改まった子育て相談件数は少なかった。一方で、園庭開放などの活動の中で、子育て相談につながることもあった。
	次年度方向性	保育者が保護者や地域の方々にとってどんなことを安心して相談したいと思うか、より園に立ち寄りなるかを再考し、模索する。
3	計画・ねらい	地域の方々・保護者・他園の保育者と語りあえる地域公開の自主勉強会を開催する。
	実践結果	保育者・保護者・地域の方々からの昨年度からの子育てについての悩みや相談を基に自園の特性や自園での活動からの経験を織り交ぜながら、地域公開とはならなかったが、他園の保育者と自主勉強会を行った。
	次年度方向性	地域の方々・保護者・他園の保育者と語りあえる場を増やし、ニーズに合わせ、学びにつなげていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発言し、学びあえる環境を作る。
	実践結果	どの保育者も日々の中での保育についての雑談や毎週1回のフロア・学年会議内でも自分の言葉で伝え、相手の思いも聞ける職場環境を日常化した。
	次年度方向性	相手の特性に応じて伝える方法を改めて考え、お互いにとって自然に需要でき、認められる関係性を目指す。
2	計画・ねらい	保育者としての現況からみる課題における園内研修を実施する。
	実践結果	月に1回の園内研修において、施設長・主任・中堅リーダーの保育者が主導を取り、プロの保育者としての現況からの課題出しを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を行った。
	次年度方向性	園内研修をすることで、自園の保育の課題を捉え、自分で学んだことを整理し、みんなに伝えることで
3	計画・ねらい	主任・中堅リーダーが園運営についての組織マネジメントの計画の一員となる。
	実践結果	施設長から園の基本方針に基づいて、月1回のリーダー会議を開き、主任・中堅リーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行した。また、チームの中のリーダーとしての役割を改めて振り返り、各チームの改善点を出しながらチームの向上に努めた。
	次年度方向性	どろんこ会の理念も念頭に置き、園を運営する上で園の基本方針が安定できるように話し合い、模索する。また、チーム形成における組織マネジメントを継続して学んでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話を日課として実践することで食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	毎日の畑仕事や月1回のお園訪問での鶏の世話を通して、食材加工などの食育活動へつなげ、計画から実施、振り返りまでを行った。
	次年度方向性	畑活動や生き物の世話を日課として継続する中で、食の循環を知り、食育加工や食育活動へつなげていく。
2	計画・ねらい	子どもの食べる意欲を育て、給食残渣を減らし、食材の循環サイクルを実行する。
	実践結果	毎日の子どもの喫食状況を把握し、保護者と共有しながら給食残渣を減らしていった。
	次年度方向性	子どもの食べる意欲を育て、給食残渣を減らしていく。加工することによって、保存できるものを知り、実際に作り、保存状態し食すまで行う。

〈6〉 チーム保育の実践の日常化

1	計画・ねらい	質の高い保育を維持するための話し合いを行う。
	実践結果	週一回のフロア・学年会議に限らず、日々の報告・連携・相談の中で、子どもの成長や変化に応じて、常に保育者同士が話しあえる環境を作った。
	次年度方向性	どんな時も子どもの興味や発達を捉え、保育者同士で話し合える環境を継続し、チームで子どもを見ることの大切さを再認識する。
2	計画・ねらい	主任・中堅リーダーが園運営についての組織マネジメントの計画の一員となる。
	実践結果	施設長からの園の基本方針に基づいて、主任・中堅リーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行した。
	次年度方向性	どろんこ会の理念も念頭に置き、園を運営する上で園の基本方針が安定できるように話し合い、模索する。また、チーム形成における組織マネジメントを継続して学んでいく。

〈7〉 保育環境の整備

1	計画・ねらい	チーム保育を維持するための話し合いを行う。
	実践結果	週一回のフロア・学年会議に限らず、日々の報告・連携・相談の中で、子どもの成長や変化に応じて、常に保育者同士が話しあえる環境を作った。
	次年度方向性	どんな時も子どもの興味や発達を捉え、保育者同士で話し合える環境を継続し、チームで子どもを見ることの大切さを再認識する。
2	計画・ねらい	園内研修で「日課」「戸外環境」「室内環境」について保育者間で丁寧に振り返り、課題出しを行う。
	実践結果	年2回（上記・下期）に分けて計画・実践・振り返りを行った。また、日々の振り返りで補えない部分を次の子どもの成長や展開を予測して具体的に保育者間で話しあう。
	次年度方向性	子どもの興味や発達を捉え、保育者同士で語り合える環境を継続し、計画性を持って、環境構成を行う。

〈8〉 危機管理マネジメントの育成

1	計画・ねらい	過去の事故例を共有し、事故の予防に努める。
	実践結果	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットのケースから、今後、予測されそうな事故を毎週1回の昼礼で共有した。
	次年度方向性	事故防止係が中心となり、全保育者で日々の活動からヒヤリハットの案件を意識して話し合いを行い、安全性を保つ。
2	計画・ねらい	園内設備の細やかな点検を行い、安全性を保つ。

	実践結果	事故防止係・用務員が中心となり、園内設備の安全性を確認しながら、全保育者にも共有した。
	次年度方向性	事故防止係・用務員が中心となり、全保育者で日々の活動から設備の不具合を意識し、早急な修繕をすることで保育の安全性を保つ。
3	計画・ねらい	園内研修で「人権・危機管理」について、保育者間で丁寧に振り返り、課題出しを行う。
	実践結果	日々の振り返りで補えない部分を次の子どもの成長や展開を予測して具体的に保育者間で話し合った。
	次年度方向性	保育者間の危機管理に対する意識に一貫性を保てる研修を継続して行う。その上で今まで気づくことができなかった危険箇所はないかを話し合い、改善する。

2. 施設運営

児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	0人	5人	17人	13人	12人	28人	75人
年度後半： 10~3月	4人	12人	26人	21人	14人	28人	105人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	124 人	142 人	149 人	144 人	137 人	174 人	194 人	190 人	190 人	152 人	160 人	160 人	1903 人
うち0 歳児	0人	2人	1人	2人	4人	7人	2人	11人	10人	5人	5人	5人	54人

一時保育利用状況

（解説）2023年度は休止していたので、利用者なし。

〈1〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈2〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	9人	補助	2人	調理	2人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	アレルギーの確認、クラスの給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
リーダー会議	月1回	園全体の運営、人材育成計画立案・共有
昼礼	週1回	事務連絡、子どもの様子共有、事故・怪我共有
フロア会議	週1回	フロアごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子共有
学年会議	週1回	クラスごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も何が健康保持につながるのかを再確認した。
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施し、保育者は何が事故や怪我につながるのかを再認識した。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、より具体的な反省点も見えた。
食品衛生管理係	食品衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通じた畑・食育計画立案・実施、畑の管理を子どもも保育者も何が作物の育成や食物連鎖につながるのかを再確認した。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を広める機会を設定し、鶏などの生き物の世話を通して、子どもも保育者も何が生き物への愛着や食物連鎖につながるのかを再認識した。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と共にどろんこ祭りの企画立案をし、近隣園のまめどくれっしゅと共に開催した。
運動会係	運動会の計画を立案し、実施した。子どもの成長を見て頂けた温かい会になった。
生活発表会係	生活発表会の計画を立案し、実施した。子どもの成長を見て頂け

	た温かい会になった。
--	------------

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	普段の生活を見て、一緒に活動していくことで、子どもの育ちや園での取り組みを知っていただくことができた。保育者が子どもの安心基地になり、安全な配慮を意識して取り組んでいることをお伝えすることができた。
保育参加	4～3月まで 合計7名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計7名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	野菜や花などの食物を育てることで畑仕事の充実感を得る。
	実践結果	日々の畑仕事（土づくり・畝づくり・種まき・苗植え・水やり・雑草とり・収穫）から、命を育てて命をいただく大切さを学んだ。夏季は暑さからの配慮不足もあり、野菜が枯れてしまい、成長が見られなかったことが課題となった。
	次年度方向性	日々の畑仕事を日課とした上で、子どもと共に命を育てて命をいただく大切さを知り、一年を通して作物の変化を感じていく。
2	計画・ねらい	自分が「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ」選択する。
	実践結果	子どもの食に対する意識や意欲が育めるような環境を保育者が意識して日常化した。一人ひとりの子どもの喫食量も増えていた。
	次年度方向性	日々の食事を意識した上で、子どもが楽しく食べる食事環境の大切さを知り、食事に対する子どもの変化を継続して見ていく。
3	計画・ねらい	食育についての学びを教わる機会を作る。

	実践結果	挨拶やマナー、食事の使い方等、食育指導を取り入れ、身に付けていた。食育指導で学んだことを他児に教える姿がみられた。
	次年度方向性	日々の食事に関することを意識した上で、子どもと共に食事環境の大切さを知り、食事に関することに対する子どもの変化を見ていく。
4	計画・ねらい	他園で鶏などの生き物の世話をすることで命の大切さに触れる。
	実践結果	他園へ訪問し、鶏など生き物の世話をすることで命に触れる機会が持てた。
	次年度方向性	他園に訪問し、鶏など生き物の世話をすることで命を育て、その命が日々の給食食材や自然環境へ繋がっていることを教えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月1日／11月16日に実施
歯科検診	6月1日／10月26日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月・9月に園にて「手洗い・うがいを知ろう」を実施 ② 6月に園にて「歯磨きについて知ろう」を実施 ③ 12月に園にて「性教育について知ろう」を実施
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月～2月にインフルエンザに疾患、関係者28名感染報告有り。 ② 6月～11月にプール熱、溶連菌に疾患、園児6名
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアアップ使用 その他、11月20日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月23日に園にてエピペン研修を全スタッフ28名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、25名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み

	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月1日、11月16日 歯科健診 各年2回／6月1日、10月26日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの興味や姿を捉えたエピソードからドキュメンテーションを作る。
	実践結果	子どもの興味や姿を捉えたエピソードを交えたドキュメンテーション作りを行い、子どもの姿を的確に捉えた環境について話し合い、毎月1回の園会議内で発表し、園内にも掲示した。
	次年度方向性	子どもの姿を捉え、保護者や地域の方々にも伝わりやすい視覚化を目指す。
2	計画・ねらい	日課、園内環境の美化・緑化の向上に努める。
	実践結果	毎月1回、美化・緑化・生き物会議を行い、園内環境についての見直しを行い、日課の見直しや園内の美化・緑化・生き物の世話についての実践の向上に努めた。

次年度方向性	園内の清掃・整理整頓をする中で園を清潔な印象や美観を保てる具体案を 実行していく。
--------	--

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	保育室内	毎日	異常なし 11/7に解体・撤去
2	園庭玩具棚	園庭	毎月1回	玩具棚の機能に不備はないか 確認した。
3	泥場	園庭	毎月1回	破損などがみられたが、修復 し、元の状態に戻した。
4	築山	園庭	毎月1回	劣化が見られるので、7月・1 月に土の増加や補修をした。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防犯計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日行う。また、うちのコアプリにて災害緊急連絡先を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先を情報共有する体制をとった。
2	実践結果	事故防止・設備点検を年6回行い、「怪我や事故防止」に最善を尽くした。
3	実践結果	全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内での状況を共有し、事故防止策を探った。
4	実践結果	年2回不審者訓練を実施し、避難経路・不審者侵入防止・通報訓練を全職員が行った。
5	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書の運用をし、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防いだ。
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった貼紙等を掲示し、通知した。
7	実践結果	年2回、交通安全指導を子どもに行い、交通安全について子どもと学ぶ機会を作った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的な受け入れも行き、保育実習を通して自園の保育を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守ることの大切さやどろんこ会グループ

の日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に教え、伝えた。

また、これを機会に体験や実習期間が終わっても参加できる行事などのイベントにも声をかけ、誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験できる機会として大学生と交流会を持ち、食育について継続的に学びあった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
12月4日～8日	大妻女子大学家政食物学科食物学専攻科	2人	観察実習、部分実習
12月11日～15日	大妻女子大学家政食物学科食物学専攻科	1人	観察実習、部分実習
2月6日～10日	東京家政学院学部食物学科	1人	観察実習、部分実習
2月13日～17日	東京家政学院学部食物学科	1人	観察実習、部分実習

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 27名	26日 24名	23日 25名	28日 25名	25日 25名	22日 25名	27日 28名	24日 27名	22日 29名	26日 30名	16日 30名	21日 30名
保育の質研修	28日 21名	26日 21名	23日 18名	28日 21名	25日 22名	22日 18名	27日 20名	24日 20名	22日 21名	26日 19名	16日 26名	21日 29名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月6日	港北こども家庭支援課	令和5年度港北区保育実践研修	1名	無

6月13日	横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会事務局	幼保小教育連携研修会」	2名	無
7月5日	港北こども家庭支援課	令和5年度主任保育士研修	1名	無
7月6日	港北福祉保健センター	3区合同給食施設栄養管理 研修会	1名	無
7月7日	横浜市総合リハビリセンタ ー1階ホール	療育セミナー	1名	無
8月2日	横浜市総合リハビリテーシ ョン ぴーす新横浜	療育参観	1名	無
7月21日～ 8月7日	横浜市こども青少年局 教育支援課	食物アレルギー講習会	1名	無
8月29日	横浜市こども青少年局	ミドルリーダー研修	2名	無
7月3日～ 12月18日	港北区子ども家庭支援課	障害児保育研修	1名	無
11月17日	港北福祉保健センター	給食栄養管理研修会	1名	無
9月28日	横浜市こども青少年局	食物アレルギー	1名	無
9月19日	横浜市こども青少年局	衛生管理講習会	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	23日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	17日 1名	23日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	該当者なし											
デモンクインターンシップ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。また、保育者の特性に応じて個別に業務の振り返りを多くとり、複数人での臨時会議の機会を提供することでチーム意識の確立とお互いの長所・短所を踏まえたチームでの補い方を経験から学び、保育の質を上げることに繋がった。

〈5〉日々の状況に応じて、系列園との自主勉強会の実施

同じ法人内で近隣の他園と共に「子どもの命を守り、子どもが主体的に活動できるための関わり」について、適宜、話し合い、子どもの命を守ることの大切さの継続的な見直しや普段の子どもの様子から子どもが主体的に活動できたエピソードを教え合い、記録し、より保育の学びを深めていくことを行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくこと通して、園の存在を理解していただくと共に、地域目線で子どもたちの成長や安全、保育者の子どもの関わり方を第三者としての視点から見守っていただけるとしていった。

また、積極的に園を開放することで、地域の子育て支援に貢献し、子育てについて語りあえる機会や場所を提供することに努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：太尾町第二公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：、港北資源循環局、横溝屋敷、港北水再生センター、法華寺、港北警察署、港北消防署、港北車庫、大豆戸小学校、熊野神社等
世代間交流	1か月に1回 特別養護老人ホーム（さわやか苑）を訪問し、実施を行った。
異年齢交流	7月22日にまめどくれっしゅと共にどろんこ祭りを実施
その他活動	12月4日に園にてフルール音楽会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

横浜市スタートカリキュラムに基づき、保育者が小学校を見て知り、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通して計画的に幼保小連携を進めていった。また、幼保小連携会議に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校学習指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいった。

就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月21日	大豆戸小学校 1年生	18名	球根植え（大豆戸小校庭）	子ども間交流
12月18日	港北区幼・保・小教育事業「合同研究会」	1名	港北区公会堂	職員間交流
1月29日	大綱小学校 1年生	17名	学校体験、お店やさんごっこ（大綱小教室）	子ども間交流
1月31日	太尾小学校 1年生	17名	学校体験、お店やさんごっこ（大綱小教室）	子ども間交流
2月21日	大豆戸小学校 1年生	17名	学校体験（大豆戸小体育館）	子ども交流
3月13日	大豆戸小学校 職員	1名	保育参加（大豆戸どろんこ保育園）	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況などを観察し、学年会議やフロア会議の中で振り返りと保育者の共有を行い、見直した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：2～3名

毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し、配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10名	10名	6名	391名	15名	93名	10名	0名	16名	0名	2名	0名	553名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数5名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	5名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計6回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	8名	0名	0名	0名	16名	0名	6名	0名	30名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：太尾町第二公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10名	0名	6名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	16名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：11時00分

自己評価実施者：古山郁美、荻原汐理、大山智美、松本琴絵、金子葉夏

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：64%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：大豆戸どろんこ保育園 施設長 古山 郁美

2023年度 草加松原どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育を実践し、その中で養護と教育が一体化され『生きる力』の基礎を培う事を目標に日課・基本保育活動を大事にしながら保育を展開していった。その中で、子どもたちが主体的に遊びを通して様々な体験や幅広い豊かな人間性を育み、安心と楽しさが溢れ、自発的に子ども同士が関われるような環境で過ごせる園作りに努めた。また、地域の方との挨拶や行事を通してたくさん関わりを持つことができた。そして、小学校1年生の授業参観に積極的に参加し、小学1年生を知り就学までに育みたい10の姿を目指した保育を実践していった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動を理解し、養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践結果	日課・基本保育活動を深め、充実するために保育者の配置や動き方を確認し実践した。
	次年度方向性	日課・基本保育活動を深めることを継続して行い、保育者が見本となって行っていく。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的になり、自ら選択し遊び込めるようにする。
	実践結果	必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをし、ゾーン保育が確立するために園全体で取り組んだ。
	次年度方向性	ゾーンの確立に向け継続的に子どもの姿を読み取り環境構成を作っていく。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え子どもが伸び伸びと遊べる環境を作る。
	実践結果	環境構成が変わったことより、子どもの選択肢が増え遊びの広がりが見られた。
	次年度方向性	物的環境と人的環境は子どもにとって重要な環境になっていくので継続して行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践結果	実際に保育参加をしてもらい子どもの様子や園での取り組みを理解してもらえるようにした。
	次年度方向性	保育参加について発信し、参加率を増やしていく。

2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語る集団にする。
	実践結果	3分間対応のロールプレイや園内研修を行い、保護者の方が話したい・聞きたいと思えるような関係作りを実践した。
	次年度方向性	待っていると感じない工夫をし、充実した3分間対応になるようにする。
3	計画・ねらい	タイムラインや連絡帳の充実。
	実践結果	タイムラインでは1日のどんな事を伝えたいのかを明確にし、連絡帳では子どもの様子や成長を簡潔にわかりやすく伝えられる内容に努めた。
	次年度方向性	タイムラインでは伝えたい思いをわかりやすく継続して行っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	一時保育・ちきんえっぐ・青空保育へ多くの方が安心して利用できる環境づくりをする。
	実践結果	途中で休止になってしまったが、一時保育利用者が多くリピーターを増やすことができた。また、ちきんえっぐの参加人数が昨年度よりも増えた。
	次年度方向性	一時保育を利用したい方がたくさんいるので、支援できるようにしていく。
2	計画・ねらい	地域の方も参加できる行事を開催する。
	実践結果	どろんこ祭りではどろんこサポーターと協力しながら地域の方が参加できるような企画を立て来客数を増やすことができた。
	次年度方向性	地域の方が参加できるものを発信し、利用する方の人数を継続させていく。
3	計画・ねらい	園庭開放やちきんえっぐの利用者を増やす。
	実践結果	園庭開放やちきんえっぐと利用者が前年度よりも増やすことができた。
	次年度方向性	発信した分利用者が増えるので工夫して告知をしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが持っている力を発揮し、保育を楽しめる集団になる。
	実践結果	日々の保育の振り返りや見直しをし、改善することを繰り返し行った。保育者が失敗を恐れずやりたいことに挑戦できる環境作りに努めた。

	次年度方向性	PDCA サイクルは大切なので継続して行っていく。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践結果	『園長大学@保育士大学』の動画を活用し研修を行い、園内研修を充実させた。
	次年度方向性	学び合う場が持てるようになっているのでスタッフ発信で今後も「おこなうていく。
3	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践結果	スタッフの伸び悩みを聞き、解決の糸口を一緒に探し課題解決を行う。コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にし、次月に迎えられるような環境作りを行った。
	次年度方向性	目標に向かって取り組む姿勢やコンピテンシーを活用していくことが確立してきているので継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	たい肥作りの実践をする。
	実践結果	園庭へたい肥作りの環境を整えた。
	次年度方向性	たい肥に対して園全体で深められるようにする。
2	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践結果	食育にて食材の加工を体験し、畑活動が充実し収穫まで体験できた。
	次年度方向性	味噌作りが継続されているので過程を子どもたちと一緒に体験できるようにしていく。また、畑活動から食育へ繋がられるように今後も工夫していく。
3	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践結果	給食残渣を減らせるように調理方法を工夫し取り組んだ。
	次年度方向性	徐々に減ってきているので、視覚的要素を取り入れながら継続していく。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育

1	計画・ねらい	子どもに対して日々丁寧に関わる保育をする。
---	--------	-----------------------

	実践結果	笑顔が溢れ、応答的な関わりを持ちながら保育を実践した。また、日々の関わりの中で子どもの声に耳を傾けながら共感できるように努めた。
	次年度方向性	言葉の掛け方一つで丁寧な保育に繋がることに意識を持ち実践していく。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団にする。
	実践結果	子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験・共感できるようにした。また、保育者自身が一緒に楽しめるような行事を考え実践した。
	次年度方向性	保育者自身がゆとりをもって一緒に楽しめるような環境作りを継続していく。
3	計画・ねらい	スタッフ間で子どもの様子や保育について語り合う環境作りをする。
	実践結果	楽しめた事や発見したことを語り合えるような時間と場づくりをし、日々の保育について PDCA サイクルできる時間を作れるようにした。
	次年度方向性	時間作りの仕組みがスタッフ間でできるようになったので継続して行う。

〈7〉気持ちの良い保育園作り

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践結果	美観を考え園内外の清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよく思えるように研修を行い実践した。整理整頓や次の人が気持ちよく使える環境作りをした。
	次年度方向性	清掃分担や清掃時間の見直しを常に行い、全員が清掃への意識を高く持てるようにする。
2	計画・ねらい	園に関わる人が笑顔で、コミュニケーションの取りやすい雰囲気作りをする。
	実践結果	園内や近隣の方等と自然に挨拶の飛び交う関係作りをし、感謝の気持ちを忘れず、言葉として伝えられる関係作りを行った。
	次年度方向性	近隣の方より挨拶が気持ち良いと言ってくださっているので維持していく。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践結果	園内研修を行い、電話、来客、保護者対応の確認や相手の立場に立つことを学んだ。
	次年度方向性	どんなことにも自分事として捉え考えられるようなコミュニケーションの取り方を学び続ける。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	72人	108人	108人	108人	108人	540人
年度後半： 10~3月	35人	72人	108人	108人	108人	108人	539人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	131 人	119 人	141 人	137 人	144 人	141 人	171 人	154 人	101 人	107 人	111 人	110 人	1567 人
うち0 歳児	0人	0人	1人	0人	3人	1人	0人	2人	1人	1人	0人	0人	9人

（解説）草加市・法人規定の夕延長をされている人数を反映した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	36人	27人	23人	26人	21人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	133人
うち0 歳児	1人	9人	6人	9人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	29人

（解説）9月から休止。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート	保育士	3人	補助	2人	調理	1人	事務	1人

スタッフ	用務	1人	嘱託医	2人
------	----	----	-----	----

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・活動や行事の振り返り
給食運営会議	月1回	食育活動の共有・振り返り、アレルギーマニュアルの確認、各クラスの食事の共有、給食残差の確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・事故記録簿の共有と分析、ハザードマップ更新確認
クラス会議	月1回	保育内容の検討、環境設定の見直し、共有事項の確認

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理と改善・疾病の予防処置
安全対策係	全スタッフの安全に関する意識付け、ハザードマップによる危険個所の共有、施設における安全点検
防火管理者	消防計画を作成し防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生管理係	衛生点検・給食マニュアルに沿って実施
畑係	畑の環境整備、スタッフの計画意識付け、植物の情報共有
生き物係	飼育動物の健康管理・環境改善、清掃用具と餌の管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	企画・立案・計画・役割分担・保護者との連携
運動会係	立案・計画・役割分担
生活発表会	立案・計画・役割分担
幼保小中連携係	連携会議・部会への参加、小学校との連携

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿に合わせたゾーン保育の環境設定の実践と振り返り。 ・安心した環境の中で様々な人と関わり、信頼関係を築きゆとりある保育の実践。 ・遊び込める環境のもと遊びが充実する保育の実践。 ・子どもたちが主体となって自己表現する場作りをし、表現する楽しさを味わえるようにする。 ・動植物の飼育栽培の実践
保育参加	<p>4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児クラスにて保育参加

保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・園での様子と家庭事情の共有
--------------	--

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自分が食べる適量、時間、場所を選択し食べる意欲を育てる。
	実践結果	・幼児自身が自分で盛付・配膳して食べる事を基本とし、未満児は自分で口に入れる事で自分の食べられる量を知れるように取り組んだ。 ・調理員・保育士・施設長等スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲み美味しさを共有しながら食べた。 ・食べたい場所を選択できる環境づくりを行った。
	次年度方向性	落ち着いて食べる環境作りを考えていく。
2	計画・ねらい	様々な食材に親しむことや旬の素材に気付き食に興味を持つ。
	実践結果	畑で野菜を栽培し収穫したものを味わい、野菜洗い、皮むき等食事作りに積極的に関わられた。 調理室前に献立から気になるメニューや食材を視覚的に興味を持てる環境づくりを実践した。
	次年度方向性	畑活動や食育活動が連動して経験できる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践結果	魚を解体する様子を見て命をいただいていることを感じ、味噌作り、ケチャップ作り、梅ジュース等加工食品作りの体験を行った。
	次年度方向性	食の循環を知るきっかけ作りをしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月22日／11月16日に実施
歯科検診	6月1日に保育園室内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月2日に当保育園にて歯磨き教室を実施 ② 9月12日に当保育園にて手洗いうがい教室を実施 ③ 12月22日に当保育園にて命を守る・性教育を実施
流行した感染症	① 1月にインフルエンザ、園児25名感染報告有り。2月2日に終息 ② 12月に水痘、園児17名感染報告有り。1月9日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に当保育園にてエピペン研修をスタッフ計22名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、20名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐処理、アレルギー除去食提供、与薬方法のロールプレイを行い全スタッフで確認。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月22日、11月16日 歯科健診 各年1回／6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に取り入れて伸び伸びと遊べるような環境づくりをする。
	実践結果	・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかをこどもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定を実践した。 ゾーンの作り方や環境設定について園全体で話し合う機会をたくさん作り、実践していった。
	次年度方向性	ゾーンの確立に向けて実践を積んでいく。
2	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りや自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践結果	必要な物が整理整頓された空間作りをし、保育室内・外の安全な環境整備のための工夫を継続して行った。
	次年度方向性	遊び込める空間作りを継続して作っていく。
3	計画・ねらい	園庭の環境充実。
	実践結果	園外ではなく園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え保育に生かし充実できるようにした。
	次年度方向性	園庭の築山での遊びが充実していたので環境を整えていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パレット遊具	園庭	毎日	異常なし
2	テーブル	子育て支援室	毎日	異常なし
3	カブトムシ台	保育室	毎日	異常なし
4	トイレスリッパ置き	トイレ	毎日	異常なし
5	リュック掛け	保育室	毎日	異常なし、1月より撤去
6	鳥小屋	園庭	毎日	異常なし
7	やぎ小屋	建物裏	毎日	異常なし
8	やぎの柵	園庭	毎日	異常なし
9	平均台	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練の実施。防災設備の点検実施。
2	実践結果	年2回の不審者侵入訓練の実施。
3	実践結果	保護者や送迎者の確認をし、オートロックによる外部侵入者の立ち入りを防ぐ。
4	実践結果	インシデントやヒヤリハットからの分析と改善。
5	実践結果	園内・園外ハザードマップと散歩ルートマップの作成と情報共有。
6	実践結果	警察や草加市からの不審者情報提供の周知。
7	実践結果	光化学スモッグ注意報の際情報の周知と園児・スタッフは外出を自粛する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

中高生については学校の方針で受け入れることが出来なかった。実習生については多くの学生を迎えることが出来た。保育実習の場を提供し次世代育成支援を行うため、実習生に寄り添い保育の楽しさを伝えていった。実際に子どもと関わることで子どもの様子を知り、様々な発見をすることで充実した学びの場となっていた。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月12～23日	東京こども専門学校こども総合学科	1人	観察実習
7月31日～8月10日	国際学院埼玉短期大学幼児保育学科	1人	責任実習
8月3～23日	越谷保育専門学校幼稚園教諭保育士養成学科	2人	責任実習
8月21日～9月2日	帝京平成大学保育幼稚園コース	1人	責任実習
8月21日～9月2日	目白大学人間学部子ども学科	1人	観察実習
8月28日～9月11日	東京成徳短期大学幼児教育科	1人	責任実習
10月10～23日	東京こども専門学校こども総合学科	1人	観察実習
11月6～17日	埼玉東萌短期大学幼児保育学科	1人	責任実習
11月13～27日	こども教育宝仙大学こども教育学部	1人	責任実習
11月13～27日	ヒューマンアカデミー チャイルドケアカレッジこども保育専攻	1人	責任実習
11月28日～12月13日	東京こども専門学校こども総合学科	1人	責任実習
2月8～22日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	1人	部分実習
3月1～13日	目白大学人間学部子ども学科	1人	責任実習

〈3〉 中高生の受入

・実施無し

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 21名	12日 21名	9日 23名	14日 24名	18日 23名	8日 23名	13日 22名	10日 22名	8日 22名	12日 23名	16日 22名	8日 22名
園内研修	14日 17名	12日 15名	9日 16名	14日 12名	18日 14名	8日 11名	13日 13名	10日 12名	8日 12名	12日 16名	21日 20名	3日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月12・13日	どろんこ会	東京都保育士等キャリアアップ研修 乳児保育	1名	有
1月19・20日	どろんこ会	東京都保育士等キャリアアップ研修 幼児保育	1名	有
3月1・2日	どろんこ会	東京都保育士等キャリアアップ研修 障害児保育	2名	有
3月8・9日	どろんこ会	東京都保育士等キャリアアップ研修 乳児保育	1名	有
3月23・24日	どろんこ会	東京都保育士等キャリアアップ研修 マネージメント	4名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の方との挨拶が自然に交わされるような関係作りが確立してきている。どろんこ祭りでは地域の方が大勢参加して下さり、園での様子を知ってもらう機会を作ることができた。また、商店街ツアーや行事では今まで関われなかった方との交流をすることや、関わりを再開できるなど地域の方との関係作りを幅広く持てた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：松原団地西口公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：肉屋日山、松原交番、草加市立中央図書館、草加八潮消防局、草加市文化会館、獨協大学前駅、カインズホーム等
世代間交流	11月22日に松並木にて勤労感謝交流を実施
異年齢交流	2月21日に栄小学校にて小学生との交流会を実施
その他活動	12月1日に当保育園にて音楽演奏会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

幼保小中推進委員会を通してアプローチカリキュラムについて話し合う場を多く持てたこと、また、実際に子ども同士が交流できる場を作れたことにより週がうに向けての期待へと繋げることが出来た。小学校1年生の授業を園全体で積極的に参加できたことにより小学校の様子を知るきっかけとなった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月19日	新田小学校 1年	2名	幼保小連絡協議会 授業参観(新田小教室)	職員間交流
6月14日	栄小学校 1年	1名	授業参観(栄小教室)	職員間交流
6月21日	松原小学校 4年	1名	研究授業参観（松原小教室）	職員間交流
9月22日	松原小学校 1年	3名	授業参観(松原小教室)	職員間交流
10月26日 11月9日	栄小学校 5年	18名	交流会（栄小教室・体育館）	子ども交流

勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：松原団地西口公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	2名	2名	0名	0名	2名	4名	4名	2名	2名	2名	2名	26名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年7月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：施設長、主任、保育士、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察) たくさんの方にアンケートのご協力をいただきました。日々の保育を理解して下さるご意見やネズミ対策、保護者対応、保育参加等課題を見つけるきっかけとなった。いただいたご意見を大事にし、安心して預けて頂ける環境や気持ち良い園作りを今後も続けていけるようにする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク (HP・メール・電話)、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：草加松原どろんこ保育園 施設長 鈴木 聡子

2023年度越谷レイクタウンどろんこ保育園 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

0歳児から5歳児のつながりを大事にし、大きな家として助け合い、支え合いながら思いやりあふれる園を目指し、にんげん力の本当の力を身に付けるために日々の日課の継続や本物の遊びを追求できる環境を大事にできる園を目指します。

①基本保育の意図や取り組む成長過程を大事にし、にんげん力を高めます。

一人ひとりの発達を理解し体づくりやけがをしない体づくりを目標に個に合わせた発達について知識を深め、遊びや生活を通し基礎の体づくりに努めます。

②畑づくり土づくりを大事にし、食の循環に親しみます。

給食の残渣を土づくりに生かしながら、食の大事さ、ものを大事にする気持ち、命の尊さを育み、子ども自身が選択し生活を豊かに楽しめるように環境を整えます。

③大人も子どもも遊びを楽しみ一緒に成長をします。

自ら学び、日々試行錯誤を繰り返しながらも挑戦し続けるスタッフの育成や互いに支え合い刺激し合いながら連携できるチーム作りに努めます。

④整理整頓された心地よい園を目指します。

誰が来ても心地よい園であるように、子どもたちと一緒に意識を高めながら、整理整頓された気持ちの良い園を目指します

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自ら学ぶ意欲を育み研修や講座に参加することで、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。
	実践結果	自分だけの理解でなく共有や思いを伝えることで、スタッフ同士刺激し合い、互いに高め合っていくチームにしていくことができた。
	次年度方向性	興味を持った講座から学んだことをスタッフにアウトプットしていくことが少なかったため次年度の課題としていきたい。
2	計画・ねらい	自らの気づき、子どもの育ちや心の動きを読み取り、保育力を高める。
	実践結果	発達に応じた環境・関りを日々試行錯誤し、失敗や変化を恐れずに様々な事に挑戦し変化し続けることを一緒に楽しめる同僚性を高めていくことができた。
	次年度方向性	発達に応じた環境・関りの知識をさらに深め、失敗や変化を恐れずに様々な事に挑戦して行く同僚性をさらに高めていきたい。
3	計画・ねらい	楽しいをとことん追求し、日々変化しつづけ、成長を一緒に楽しめる関りの質の向上に努めていく。
	実践結果	スタッフ同士での意見交換や発達の共有を通し子どもの気持ちに向き合い、様々な視点から子どもを捉え、その子自身に向き合っていくことが少

		なかった。
	次年度方向性	個々の発達の理解やスタッフ同士の共有が不十分だったため来年度の課題として努めていきたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く。
	実践結果	お迎え時の際に子どもの様子を丁寧に伝え、心地よい会話、関わり方、話しやすい雰囲気を作っていく。また、成長や発達と一緒に喜び、共有・共感してともに子育てしていく楽しさを伝えることが今後の課題となった。
	次年度方向性	お迎え時対応では、子どもたちの育ちや様子をわかりやすく丁寧に伝えることができなかったため今後はコミュニケーションの取り方・共有の仕方・スタッフ一人ひとりの意識を高め努めていきたい。
2	計画・ねらい	専門性を生かした支援とともに的確で相談をしやすいスタッフの雰囲気づくり に努め、保護者とのコミュニケーションを大切にしていく。
	実践結果	行事や保護者懇談会等でのわかりやすく育ちの説明や共有を行い、子どもたちの成長を共に悩み、喜び関係性を深めていくことができた。
	次年度方向性	育ちや成長をさらに楽しめる行事を考えながら、保護者との共有の場をさらにより良いものとして行けるようにする。
3	計画・ねらい	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩みに応じ、子どもの良さを伝えながら、今後の子育てについて一緒に考えていく。
	実践結果	保護者の変化を読み取り、言葉掛けをして子育てなどでの不安や悩みを和らげていくことができた。
	次年度方向性	次年度も継続して保護者の変化を読み取り、言葉掛けをして子育て等の不安や悩みを和らげる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域と密な関係性を持ち、互いに協力し合える開けた場としての機能に努める。
	実践結果	越谷レイクタウン周辺の地域を活かし、地域交流を深め、地域を盛り上げ、より関係性を深めていくことができた。
	次年度方向性	園開放や周辺地域を活かし交流を深めることができたが、青空保育での定期的な交流ができなかったため、今後地域との関わりも深めていきたい。
2	計画・ねらい	子育てに悩みや不安を抱えている地域の方にも、開かれた園となるように機会をつくる。
	実践結果	子育てサロンの声掛けや、団地内・園外先での細やかな配慮や挨拶を通し交流を大切にしていけることができた。

	次年度方向性	保育者が率先して挨拶の手本となり今後も継続して行っていきたい。
3	計画・ねらい	地域の方との連携や交流を大事にし、ともに支え合う園となるように機会を作る。
	実践結果	近所や地域の方の特技や職を活かし、園での交流できる機会を増やして関り親しみを持てるようにしていくことができた。
	次年度方向性	近所や地域の方とさらに園に足を運んでもらう機会をより増やし今後も交流を深めていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自ら学びたいと思う向上心を持ち、スタッフ一人ひとりが目標に向かって努力していく。
	実践結果	学びたいものを選択し、園長大学@保育士大学等を活用しながらスタッフが進んで学んだことや感じたり考えたりした事をアウトプットする力を身に付けることが今後の課題となった。
	次年度方向性	進んで学んだことや感じたり考えたりした事をアウトプットする力を身に付ける機会を定期的に作ることができなかつたため、今後研修の機会を設けたい。
2	計画・ねらい	視野を広げ、報告連絡相談が密に行われ、風通しの良い同僚性や雰囲気を作る。
	実践結果	話し合いをする機会や時間を作り、コミュニケーションをとっていく。様々な視点から意見を言い合える同僚性を築き、スタッフ一人ひとりの保育や価値観を伝え合える機会を作ることができた。
	次年度方向性	話し合いをする機会や時間を定期的に作ることができなかつたため、定期的に作るとともに自然に話し合いができる雰囲気を作っていく。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、チームとしての連携を大切にす。
	実践結果	互いを認め合い、一人ひとりが自分らしく保育を楽しむ中にも子どもを真ん中に置き、子ども中心に関わることができた。
	次年度方向性	互いを認め合い、一人ひとりが自分らしく保育を楽しむ中にも子どもを真ん中に置き、子ども中心に動けることを継続しながら、しっかり連携の取れた関係性を深めていきたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動の充実と一つでも多くの経験と学びにつなげていく。
	実践結果	苦手な事にどう立ち向かい挑戦するのか、葛藤する気持ちを大事にしながらコントロールする力を身に付け、得意な事を見つけていくために、様々な本物の体験と継続を大事にしていくことができた。

	次年度方向性	単発的な活動になってしまうことが多く、継続的に行い子どもたちの声を拾いながら対話的な学びを深めていけるようにしたい。
2	計画・ねらい	本物の環境や様々な経験ができる環境を整えていく。
	実践結果	様々な経験を通し、幼児期を見据え挑戦する意欲や立ち向かえる探求心を深めていけるにんげん力を身に付けるために環境の見直しや工夫を行うことができた。
	次年度方向性	定期的な環境の見直しや今の子ども達に向き合いより良い環境を工夫して展開させていけるように今後も取り組みたい。

〈6〉大人も子どもも全力で遊びを楽しむ保育の充実

1	計画・ねらい	センス・オブ・ワンダーを目標にスタッフ自身が様々な感性をのびのび表現できる場を作っていく。
	実践結果	スタッフ自身の経験の幅を広げ、保育者自身の経験値をあげ遊びの幅を広げていく。また、スタッフ自身の興味関心をとことん深めていくことができた。
	次年度方向性	経験を活かし、そして経験の幅を広げながら挑戦し、何事にも前向きに取り組んでいけるように今後も努めていきたい。
2	計画・ねらい	大人が背中を見せて一緒に行い、想いを共有していく。
	実践結果	子どもだけでなくスタッフが全力で保育を一緒に楽しみ失敗や経験を増やしていくことで豊かな遊びを十分に作っていくことができた。
	次年度方向性	子どもと真摯に向き合い、様々な経験を通し豊かな遊びの質を高めていけるようにしていく。

〈7〉整理整頓された気持ちの良い園

1	計画・ねらい	基本的な清掃や衛生環境を保ちながら、一人ひとりの心地よい園の意識を高める。
	実践結果	必要なもの、ものの使い方、子どもたちの生活する導線を考え、誰もが心地よく過ごせる環境や整理整頓の仕組みを考えていくことができた。
	次年度方向性	整理整頓された心地よい環境を継続しより良い暮らしの中で子どもたちと落ち着いて向き合える環境を整えていきたい。
2	計画・ねらい	じっくり遊び込める保育環境を整える。
	実践結果	見せ方や置き方、導線を工夫し子ども達自身が主体的に遊ぶ意欲を高められる環境設定の工夫や提案をしていくことが今後の課題となった。
	次年度方向性	スタッフ自身も主体的に考え、行動しながらより良い環境を整えていく。
3	計画・ねらい	食や環境の循環について親しみ知識を深めていく。

実践結果	ヤギやニワトリなど生き物の世話や、労働を通し、命の尊さ並びにヤギ糞や落ち葉、残渣等廃棄物の削減に取り組み資源を再生する循環の意識を高めることができた。
次年度方向性	今後も継続してニワトリやヤギ、資源の再生する循環を実感することで、労働の重要性や命の大切さを感じられるよう関わりを深めていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	84人	108人	114人	114人	114人	570人
年度後半： 10~3月	36人	84人	108人	114人	111人	114人	567人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	79人	73人	94人	92人	73人	84人	100 人	86人	81人	98人	80人	80人	1020 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	4人

（解説）延長保育料が発生した人数を集計

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

（解説）一時保育実施なし

〈2〉 開所時間

7時00分～19時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	14 人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	1人	嘱託医	2人
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・グループワーク
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・研修
ケース会議	随時	情報共有・課題検討振り返り
学年会議	随時	保育内容の確認・情報共有・子どもの様子報告等

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、子どもの発達や保育の理解を深めることができた。
保護者・地域参加行事	保護者会での保護者同士でのつながりを持つことができた。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりと丁寧に関わり、豊かな心を育むことでのんげん力の基盤となる土台を作ることができた。 ・子どもの思いを受け入れ、応答的で豊かな関わりを通し信頼関係を築くことができた。
----	--

保育参加	4～3月まで 合計15名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	楽しい雰囲気の中で様々な食材に興味関心を持てるように素材の味を活かし一人ひとりが満足できる食事の時間を創る
	実践結果	盛り付けや見た目、提供の仕方を工夫し、自ら食べたくなる雰囲気を作り関わっていく。食事のタイミングや活動量を考え空腹を感じ食べる楽しさを育てることができた。
	次年度方向性	食べる環境設定や導線を考え、落ち着いた雰囲気の中さらに食事を楽しみ食への意識を高めていけるようにする。
2	計画・ねらい	全スタッフが食事に携わり、食事の時間を大事にしながら発達段階・口腔発達を共通理解し食事の仕方を身に付けていく。
	実践結果	家庭と保育園との連携を大切にしていく。育ちの共通理解を定期的に行うことができた。
	次年度方向性	口腔発達を十分に理解しつつ、保護者と理解を深めながら丁寧に離乳食等を進めていけるようにしたい。
3	計画・ねらい	食の循環を意識し、無駄のない食の環境づくりを考える
	実践結果	食や食材の循環を感じられるリアルな経験を大切にしていく。余り物や残食から作り出せるアイデアを引き出していくことができた。
	次年度方向性	食事の量も増えてきているが、食の循環や食への意識をさらに高めていけるように畑を通した本物の経験を深めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月8日／11月30日に実施
歯科検診	6月12日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 2月20日に保育室にて手洗い指導を実施
流行した感染症	2月にインフルエンザ、園児10名・スタッフ2名蔓延し、保健所へ報告、2月22日に終息
発作・痙攣等の対応	9月29日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・2023年3月23日に実施した2023年度キックオフ研修で4月1日配属予定スタッフのうち24名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・12月8日に越谷どろんこ保育園にて普通救命講習Ⅲを計8名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底することができた

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月8日、11月30日 歯科健診 各年1回／6月12日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自らが選択し主体で遊び込める環境を整える。
	実践結果	ゾーン保育について深める。育ち発達の理解を深め、適切で豊かな環境の試行錯誤を日々取り組んでいくことが今後も課題である。
	次年度方向性	ゾーン保育について知識をさらに深め、発達に適した環境を常に整え遊びの発展を楽しめる環境にしていく。
2	計画・ねらい	四季の身近な事象に親しみ、興味関心を深めていく。
	実践結果	自然に親しむ経験を大切にしていく。一人ひとりの気づき発見を大事にし、主体的に関り興味や探求心を深めていくことができた。
	次年度方向性	対話的な学びを深め、探求心を持って今後も深めていけるように関わっていく。
3	計画・ねらい	身近な人と関わり安心して心地よく過ごしていく。
	実践結果	定期的な掃除、整理整頓を心掛け、必要なものだけがある心地よい環境を整えていく。
	次年度方向性	敵的な清掃、整理整頓、心地よい園への環境づくりへの意識をさらに高めていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	園庭テーブル2台	園庭	毎日	異常なし
2	室内テーブル2台	室内	毎日	異常なし

3	絵本棚	室内	毎日	異常なし
4	園庭おもちゃ棚	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。マニュアルの徹底。
2	実践結果	事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践結果	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。
5	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。
6	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントを周知、徹底する
7	実践結果	園外・園内ハザードマップとお散歩マップの見直し・更新・共有。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

積極的に受け入れたことで、実習生が保育士の仕事にさらに期待を持ち、行事やボランティア活動に意欲的に参加する姿が多くみられた。また、スタッフ自身も温かく受け入れ仲間意識をもち丁寧に関わることで楽しんで子どもたちと関わる事ができていた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5～6日	東京こども専門学校	2人	観察実習
7月10～24日	淑徳大学教育学部こども教育学科	1人	責任実習
7月24日～ 8月5日	淑徳大学教育学部こども教育学科	1人	責任実習

8月3～21日	越谷保育専門学校	1人	責任実習
8月14～26日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
9月4～15日	大原子ども専門学校	1人	責任実習
10月16～27日	東京未来大学福祉保育専門学校	1人	責任実習
2月1～16日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	1人	観察実習
2月13～19日	東京こども専門学校	1人	観察実習
2月13～27日	道灌山学園保育福祉専門学校	1人	観察実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
11月7～9日	松伏第二中学校	2人
2月13日	草加高校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 25名	12日 26名	9日 24名	14日 24名	25日 24名	15日 25名	13日 24名	10日 23名	12日 23名	12日 23名	16日 23名	3日 23名

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた温かさが感じられる保育園であるために、子育て支援を行い子どもの健やかな成長を保障できるように取り組む。

地域の方が自由に園を利用していただきながら園運営の理解を深め、地域の方の見守っていただける保育園となる。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：見田方遺跡公園公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：HondaCars、トマト園芸、セントラルスポーツ、ペッツファースト、PETEMO、カスミ フードスクエア、ローソン、セカンドストリート、セブン-イレブン、Jネットレンタカー、ネットトヨタ埼玉、サーティーワンアイスクリームイオンレイクタウン mori 店、梅の花、ヴィラ・デ・マリアージュ、キャトーズ・ジュイエ Tokyo 等
世代間交流	1月16日 川柳小学校5年生と交流会を実施
異年齢交流	7月・10月・3月 kids 花音の園児交流を実施
その他活動	1月・2月に小学校にて連絡会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学を見据え、必要な経験や身につけておきたいことを把握するために、小学校見学や教職員の交流を計画的に実施する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し、「5歳児と1年生の年間連携計画」に沿った保育を逆算しながら展開していく。昨年度に引き続き、幼保小連携推進事業へ積極的に参加し、他園や小学校との情報交換をすることで、就学を見据えて必要なことを考えていく。小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録の送付、児童情報の申し送りや面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月17日	明正小学校	20名	運動会練習見学（明正小学校庭）	子ども間交流
1月31日	川柳小学校 5年生	19名	交流会	子ども間交流
1月16日	明正小学校	2名	連絡会	職員間交流
2月13日	川柳小学校	1名	連絡会	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

要支援児がいる場合は、一人ひとりの様子に合わせて年間・半期ごとに計画を作成する。関わっていく中でケース会議を行い、見直しをしながら丁寧な支援を考えていくことができた

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：20名

要支援児の過ごす保育室によって、担任だけではなくチームとして話し合い、関わりを検討していく。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進学先の小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育委員会に必要な応じて相談する。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	4名	6名	106名	7名	138名	17名	26名	9名	12名	10名	10名	351名

実施項目	詳細													
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30 にて実施													
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30 ⇒計0件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	不定期(月2回) 10:00~12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	2名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	6名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00~12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	4名	
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~19:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：見田方遺跡公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	4名	2名	0名	4名	0名	4名	2名	0名	0名	0名	0名	4名	16名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：施設長・主任・園事務リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

No.	発生日	ケガ(事故)の状況とそれに対する対応結果
1	4月7日	(内容) 夕方の降園時対応の際、出入り口から園外へ出て第五公園方面付近まで園児が出てしまっていることに気づかず、見失いが30分程度起こる。 (対応結果) 送迎時の出入り口付近でのスタッフ対応。施錠の強化を行った。また、後付けで鍵を新たに追加し、セキュリティを高めた。

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：越谷レイクタウンどろんこ保育園 施設長 榊原夏美

2023年度 駒沢どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育園の安定した運営はもとより、今年度は併設園としての取り組みに重きを置いて園運営を行ってきた。

朝の受け入れ時から、戸外活動、昼食までの、日々の生活の共有。どろんこ祭り、運動会、生活発表会など行事の合同開催と、ほぼすべての活動を共に進めてきた。

その中で、園、つむぎどちらの子どもたちにとっても、様々な体験が大きな学びになり、個々に応じて成長が遂げられていることが実感できた1年であった。

併設園の理念【子どもが自分で考えて生活する家 身近な大人がすべての子を育てる家】

園 目 標 【ともに学び ともに歩み 個々が輝ける場所に】

今後も上記の理念と園目標に近づけき、子どもたちの健やかな成長に帰依するように、両スタッフ間での学びの場を設け、闊達な意見交換を行い、試行錯誤しながら、日々研鑽を積んでいきたい。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	小学校1年生を見据えて、子どもが自主性、主体性を発揮できる環境構成作り
	実践結果	・11月頃からこめタイムと称して、5歳児だけの活動時間を増やしたり、子どもたちを中心とした話し合いの時間を設けてきた
	次年度方向性	・年度当初からこめ組の子どもが主導となり、話し合いの場や、意見交換の場をもうけるようにする ・学校公開の日程を調べ、各小学校に足を運ぶ機会を増やす
2	計画・ねらい	子ども同士で話し合い、子どもが自身で活動を選択できる保育
	実践結果	・一日の振り返り、翌日の予定を伝えるなかで、話し合いの場を設けるようにしてきた ・定期的に保育室内の環境の振り返りを行い、レイアウトや玩具の入れ替えをおこなってきた
	次年度方向性	・話し合いの場を多く設けることで、自分から話し合いの場で発言しやすいようにしていく ・友だちの発言や、意見に耳を傾けられるようにしていく ・子どもの興味や関心を受け止めながら、室内環境や玩具の設定をしていく

3	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションの向上によるチーム保育
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園、つむぎ両スタッフでの話し合いの場が増え、情報共有する機会が増えた ・保育中も必要に応じて、随時情報共有することで、安全確認などおこなうことができた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き話し合いや、意見交換、情報共有をこまめに行う ・園内研修などの機会を利用して、お互いのスキルを高め合う

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園生活、子ども理解を深めていただくために保育内容の可視化
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動報告、月間の活動報告、行事にちなんだ、ドキュメンテーション、エピソード、ポートフォリオなどを作成し掲示してきた ・食育、畑、クッキングに関しても、適宜ポートフォリオを作成掲示してきた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションに関して学びを深め、活動報告に留まらず、活動に至るまでの経緯や子どもたちの気づきや、成長が読み取れるものを掲示できるようにする ・タイムラインや連絡帳を通して、子どもたちの様子を分かりやすく伝えていく
2	計画・ねらい	開かれた園づくりを行っていく
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、タイムラインや連絡帳、ドキュメンテーションをこまめにあげ、保育内容を伝えるようにしてきた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインの件数を増やし、日々の活動をわかりやすくする ・お迎え時の3分間対応を行い、その日の子どもの様子が分かるようにする
3	計画・ねらい	園行事や保育参加を通して園での実生活を体験して頂き、理解や関心を高めていく
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスを中心として、多くの保護者様に保育参加をして頂くことができた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児クラスにおいても保育参加しやすいように、保育内容を伝えていく ・事前に園行事や保育内容を具体的に伝え、保育参加の促進に努めていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、ちきんえっぐの実施にて、保育園への興味、関心を持っていただく
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・青空保育をはじめとして、子育て支援活動広報活動に努めてきたが、利用者はご少数であった

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・青空保育の開催場所を未就園児が遊びに来る公園に変更する ・掲示場所を検討し、多くの方の目に留まるようにする
2	計画・ねらい	子育て相談の実施により、地域の子育て支援の促進
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園見学時に子育て相談を受けることもあったので、いつでもだれでも園スタッフが対応できるように共通認識していく
	次年度方向性	未就園児のお子様をお持ちのご家庭が園に足を運びやすくなるよう、園の行事や活動の広報活動にも力を入れていきたい。
3	計画・ねらい	どろんこ祭り、保育所体験などを通して、園の行事や保育参加の推進
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所体験においては一定数の参加があり、園や園児の様子を知っていただくことができた ・どろんこ祭りにおいては、卒園児は多数の参加があったが、未就園児や近隣の方の参加においては更なる広報活動が必要である
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初より広報活動を推進し、さらに集客数を増やしていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	個々のスタッフに応じた育成計画を作成する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の経験に応じて MBO を設定したが、意識はしているものの、実行においては目標半ばのスタッフもいた ・定期的に個人面談などを実施し、計画が遂行できるように意識付けしてきた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの経験やスキルを熟慮し、個々に応じた MBO の設定を行う ・短期、中期で MBO の進捗状況を確認し、達成できるように面談や助言を個別に行う
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・園長大学、保育士大学をはじめとして、法人内外の研修会への参加により、子ども理解と保育のスキル向上、保護者支援力の向上に努める
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より法人内で運営が開始された、園長大学の講座の受講者が増えたつつある ・スタッフによって研修受講意識に開きがある
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体で研修に参加する意識を高めるとともに、受講した後スタッフ間への情報共有を徹底し、得た知識を日々の保育で実践していけるようにする
3	計画・ねらい	園内研修の実施
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に応じて園内研修を行ってきたが、その時々々の必要と感じた事象については、予定外でも園会議の場を利用して研修の場を設けてきた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの姿勢はできつつあるので、学んだことを自園に状況に置き換え、具体化、実践していく方法を見出す

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動や魚の解体を経験することで、食の循環や命をいただくことのことを知る
	実践結果	・大きなマグロの解体ショーや、小魚の解体を通して、命を頂くことの尊さと、魚の臓器を知ることができた
	次年度方向性	・魚などの解体ショーを通して、命を頂くことの意味や尊さを知る機会を設けることで、食の循環を実感できるようにする
2	計画・ねらい	残菜を利用してコンポストでたい肥作りをし、畑に肥料として使用する
	実践結果	・コンポストでたい肥作りをし、畑に肥料として使用したが、通年の運用とはならなかった
	次年度方向性	・子どもたちもコンポストについて理解を深め、意識を高めることでこまめに手入れをし、通年運用できるようにする
3	計画・ねらい	身近な植物や自然物に目を向けることから、環境問題へと意識を広げていく
	実践結果	・環境問題に関して話題としては認知しているが、身近な事象としてはとらえきれていない
	次年度方向性	・身近な問題として、子どもたちと話し合いの場を設けるなどして、意識を高め、継続した取り組みとしていく

〈6〉季節に応じた自然体験

1	計画・ねらい	身近な自然物に触れ、四季の変化を感じる
	実践結果	・その時々季節を感じられるよう、散策先の選定に配慮し、動植物に触れる活動内容を意識的に盛り込むようにしてきた
	次年度方向性	・子どもたち自身から、季節の移り変わりに気づけるような保育計画、活動内容を準備していく
2	計画・ねらい	身近な動植物に触れ、自然や生き物を大切にする気持ちを育てる
	実践結果	・ウサギとメダカの飼育を行っていたが、多くの子が関わることはできなかった
	次年度方向性	・日々の生活の中に、日課を定着させていく ・多くの子が関われる方法を模索していく
3	計画・ねらい	火・水・土に親しむ
	実践結果	・日々の戸外活動にて、土や水に親しむことができた ・火に関しては幼児においては焚火や焼き芋を実践できたが、乳児に関しては、焚火の体験はできなかった

	次年度方向性	・園庭でなくとも火の体験ができる方法や計画を検討し、実践できるようにしていく
--	--------	--

〈7〉発達支援つむぎ 駒沢ルームとの統合

1	計画・ねらい	併設園としての活動の共有
	実践結果	・8時30分から園とつむぎスタッフによる受け入れの実践 ・午前中の活動をすべてともに行い、食事もともにする
	次年度方向性	・目標はおおむねたっせいできており、継続して行っていく
2	計画・ねらい	両スタッフ間での子ども理解、情報共有を深めるための仕組み作り
	実践結果	・クラス会議、事故防止委員会、ケース会議にもつむぎスタッフが参加し、情報共有してきた
	次年度方向性	・次年度も継続しつつ、お互いに学び合える場を設け、子ども理解とスキルアップにつなげていく
3	計画・ねらい	日課の在り方や考え方を再考し、子ども一人ひとりが主体的に取り組める環境について追究する
	実践結果	・日課は実施しているが、スタッフ、子ども共に取り組み姿勢に違いがある
	次年度方向性	・日課の在り方について、両スタッフで再検討し、子ども一人一人が自ら取り組もうとできるようにしていく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	53人	90人	108人	116人	125人	112人	604人
年度後半： 10~3月	54人	90人	108人	117人	126人	114人	609人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	74人	93人	105 人	106 人	78人	80人	103 人	112 人	116 人	86人	112 人	100 人	1165 人

うち0歳児	2人	1人	0人	3人	2人	2人	4人	2人	7人	4人	7人	5人	39人
-------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	43人	50人	61人	55人	67人	73人	54人	45人	58人	60人	70人	60人	696人
うち0歳児	0人												

(解説) 0歳児の一時利用事業は実施していない。

〈2〉開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・つむぎとの情報共有と振り返り ・事故防止委員会 ・共有事項の確認
給食運営会議	月1回	食育計画の進捗状況、アレルギー対応、喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故をもとに、再発防止策検討
ケース会議	月1回	個別対応を要する子の情報共有、対応策の検討

リーダー会議	月1回	園とのつむぎのリーダーによる、保育・支援計画の確認 情報共有など
--------	-----	-------------------------------------

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年5回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の安全管理や備品などの管理・衛生点検
安全対策係	ヒヤリハット・インシデント振り返り、ハザードマップの見直し、 事故防止委員会の運営
防火管理者	避難訓練の立案・実施・反省
食品衛生管理係	食材の衛生管理・在庫確認と管理・給食運営会議の運営
畑係	畑の管理・栽培計画の進捗確認
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	<p>どろんこサポーターズの皆様のお力添えを頂きながら、7月15日(土)、大盛況のなか無事に開催することが出来た。</p> <p>開催にあたっては事前から計画的に準備されてきたこともあり、前日も短時間で設営も進み、当日も円滑に祭りが開催されていた。</p> <p>会場の面積と収容人数を鑑みると、今年度同様に乳児、幼児の2部入れ替え制での実施を検討していきたい。</p>

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<p>コロナ感染予防の観点からの行動規制や自粛措置がなくなり、どろんこ祭り、運動会、生活発表会の行事をはじめとして、銭湯、商店街ツアー、異世代交流なども、実施することができるようになり、多くの体験ができた。</p> <p>天候が許す限り、午前中は戸外での活動を存分楽しんできており、戸外活動により体力と免疫力が向上しているのか、巷で感染症が流行している際も、自園では感染症蔓延もなく、通年通して欠席者も少なかった。</p> <p>次年も子どもたちの健全な成長と主体性におきながら、戸外活動、自然体験の充実を図りつつ、異年齢保育、インクルーシブ保育とは何か、どのような保育計画を立て、どのような準備と援助が必要か、子どもたちにとって最善の利益は何か、日々、スタッフ間で追求しながら保育にあたっていきたい。</p>
保育参加	<p>4～3月まで 合計36名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスを中心に多くの保護者様に保育参加をして頂いた。 <p>保育参加していただくことで、園での活動や生活やの流れ、子どもたちの興味や関心を実感して頂くことができた。</p> <p>また、給食を共に召し上がって頂くことで、味だけでなくバイキング給食の様子や、食べ進みの様子も見て頂くことができた。</p>
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計99名が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学、進級、家庭での生活習慣などの相談が主となる。 ・乳児においては、食習慣、生活リズムに関する相談が主となる。

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	意欲的に食が進むような環境づくりと、食育計画の実施
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食時に食器が割れることが多かったが、机の配置などを再検討することで、食器の破損は減少してきた ・残渣は減少しつつあるが、食の進みに開きがある
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・机の配置について再検討するとともに、食具の使い方について伝える機会をもつ ・各年齢の発達や食べ進み嚥下についての学びを深める
2	計画・ねらい	栽培、収穫、クッキングと連続性のある取り組みを行っていく
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した野菜を、給食の食材として提供することで、苦手としていた野菜も食する姿も見られた ・計画に合わせて栽培したが収穫に至らない野菜もあった
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培から収穫に至るように、栽培計画を立てるとともに、栽培する野菜の育て方を、子どもたちに学び栽培にあたるようにする
3	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなマグロの解体ショーや、小魚の解体を通して、命を頂くことの尊さと、魚の臓器を知ることができた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・魚などの解体ショーを通して、命を頂くことの意味や尊さを知る機会を設けることで、食の循環を実感できるようにする

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	年2回（6月・11月実施済み）0歳児においては月に1回実施
歯科検診	年1回（6月実施済み）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月9日に幼児保育室にて歯磨き指導を実施 ② 9月28日に保育室にて手洗い指導を実施 ③ 1月31日、2月1日に保育室にて性教育を5歳児のみに実施
流行した感染症	通年通して大きな感染症の流行無し

発作・痙攣等の対応	対象事象なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日現在26名が、研修受講し、修得済み
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月23日に駒沢どろんこ保育園保育室にてキックオフ研修で、山口ゆきえ 計1名が新たに受講し習得済み ・ 本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い指導を実施 ・ 消毒・換気を徹底する。 ・ 心肺蘇生、AED操作の周知と講習、嘔吐処理の確認とロールプレイングを実施する ・ SIDS 防止、午睡チェック方の徹底の為、ロールプレイング実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月12日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み

	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月12日、11月14日 歯科健診 各年1回／6月9日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	園内、園外危険個所を認知し、子ども自らが興味や関心のもとに、遊びを見つけ、遊び込める
	実践結果	・定期的に室内環境を見直し、子どもの発達や興味に合わせた環境作りをしてきた
	次年度方向性	・子どもの発達や興味をとらえることで、遊びに集中し遊び込める環境作りを適宜作る力をつけていく
2	計画・ねらい	安全・衛生に配慮快適に遊び込める環境整備
	実践結果	・定期的に園内、園外の危険個所を点検し、ハザードマップに反映させることで、スタッフ間で危険個所の共有をしてきた
	次年度方向性	・危険な個所や行動を察知し、適切な援助や保育を提供できるようにしていく
3	計画・ねらい	ハザードマップの作成と有効利用と怪我の低減
	実践結果	・定期的にハザードマップの見直しをしてきたが、危険個所や環境の変化に気付いたごとに、加筆してきた ・大きな怪我はなく、怪我也減少傾向にある
	次年度方向性	・ハザードマップは必要に応じて適宜、加筆と刷新していく ・ヒヤリハットとインシデントを適宜作成、分析を行い、スタッフ間で共有し、怪我の低減につなげていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	座卓テーブル	幼児保育室	毎日	異常なし
2	マルシェ棚	幼児保育室	毎日	12/28に解体

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画の作成と届出 ・ 毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・ 災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認 ・ 災害用の備品の管理と点検
2	ケガ、事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・ SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・ 事故報告簿、インシデント・ヒヤリハット報告書の検証 ・ 投薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・ エピペン講習
3	防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理マニュアルの不審者対策に則り、年に2回不信者侵入訓練の実施 ・ カメラ付きインターホンでの防犯対策 ・ 施設内の鍵、自動扉、避難経路の定期点検
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフへの光化学スモッグの知識の習得のための勉強会 ・ 光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は1名のみの実習生の受け入れとなった。

0歳児クラスから幼児クラスまで2日～3日で、それぞれのクラスに入り観察実習、幼児クラスにおいては部分実習を実施。それぞれのクラスにおいて子どもとの関りを楽しみ、模索しながらも、前向きに取り組んでいた。

自園のスタッフにおいても多くの気づきや学びがあり、改めて自園の保育運営や保育スキルに関して振り返ることができた。実習生、自園のスタッフ共に相乗効果が得られることが実感したので今後も積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14日～26日	日本児童教育専門学校	1人	観察・責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
6月5日～7日	目黒区立大鳥中学校	4人
8月18日・28日	駒沢大学附属高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 26名	12日 26名	9日 26名	14日 25名	18日 25名	8日 25名	13日 25名	10日 25名	8日 25名	12日 26名	16日 26名	23日 26名
園内研修	14日 24名	12日 23名	9日 22名	14日 22名	18日 22名	8日 20名	13日 22名	10日 22名	8日 22名	12日 24名	16日 24名	21日 26名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月19日 6月21日 9月20日 1月22日	世田谷区	世田谷区ミドル研修2年次	1名	有
5月26日 7月12日 8月8日 11月2日 1月10日	世田谷区	世田谷区ミドル研修1年次	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	25日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	25日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクイターシップ	1月29～2月6日に1名のスタッフがアスモンズミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉発達支援つむぎ 駒沢ルームとの研修会

毎月の園会議には園とつむぎの両スタッフが参加し、月のテーマに合わせて勉強会を行っている。各年齢の発達や保育スキル、個別支援を要する子どもに対しての、理解や支援や援助の方法を共に学び合うことで、スタッフ全体のスキルアップと併設園としての役割を果たせるようにしていきたい。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

世代間交流においては、正和クラブのご協力もあり通年として毎月訪問し、製作活動や季節のイベントをともに楽しみ、関りを深めることができたので、次年も継続して行っていきたい。園見学や子育て相談の為に、園に足を運んでくださるご家庭は多かったが、青空保育やちきんえっぐの参加者はごく少なかった。次年度は取り組みや実施日を多くの方に知っていただくため、掲示の個所を増やし、公園に遊びに来ている方に活動内容を記載しているチラシなどを配るなどしていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：駒沢公園（こもれび広場）にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ピザハット、駒沢パークカフェ、叙々苑、代官山青果店、西友、サミット、LORObicycies、一風堂、ローソン等
世代間交流	老人リハビリ施設（正和クラブ）訪問・交流を月に一日、毎月実施
異年齢交流	近隣小学校との交流、小学生の保育体験、中学生、高校生の職場体験の受け入れ、近隣の高校、大学との交流
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は当初予定していた小学校の運動会見学や、小学生との交流、小学校教諭との勉強会の実施は叶わなかったが、小学校の学校公開日に参加することで、実際に授業を見学することができた。学校公開日は各学校で定期的に行われており、参加には多くの制限はないようなので、次年度は就学先の小学校の公開日を年度当初に調べ、積極的に参加できるように準備していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2月8日	深沢小学校	19名	学校公開日（深沢小学校）	小学校内を見学 子ども間交流
2月7日	深沢小学校	4名	当園相談室	小学校接続に向けて小 学校教諭との共有会

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児無し

要支援時においては、各クラスの担任を中心個々に応じた計画を立案してきた。定期的に振り返りを行うことで、個々の成長や特性を捉えたものとするようにしてきた。

計画に関しては、スタッフ間でも共有することで、それぞれの子どもの理解と適した支援や援助を行えるようにしてきた。

歩みはそれぞれではあるが、取り組みに消極的だったことが改善し、苦手としていたことが自分なりの方法で成し遂げる姿が見られるようになった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：10名

毎月月末にケース会議を実施してきた。園とつむぎの両スタッフ間で振り返り、情報共有、意見交換をすることで、子ども理解を深め、個々に応じた援助が出来るようにしてきた。

また、ケース会議で得た情報や関わり方に関しては、園、つむぎスタッフ全員が理解する必要があるため、園会議でも共有してきた。

今後も継続して行うことにより、更に適切な援助が出来るようにしていきたい。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

5歳児においては、10月頃より就学を見据えて全家庭の個人面談を実施してきた。園での生活状況を伝えるとともに就学が円滑に行えるように援助してきた。

また、就学予定の小学校の担当教諭と、就学に必要な情報共有と引継ぎを行った。

進級児においては、面談希望の有無を尋ねたうえで面談を実施し、園での様子をはじめとして、生活習慣、友だちとの関わり、食事、トイレトレーニングについてなどお伝えすることで、親子共に円滑に進級できるようにしてきた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	3名	5名	75名	9名	12名	17名	8名	0名	1名	2名	4名	137名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計6件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名 福祉総合評価機構に依頼して受審済み

アンケート配布日：9月11日

アンケート回答率(スタッフ)…100%/アンケート回答率(保護者)…63.9%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月30日に実施

2月13日に福祉総合評価機構の担当者、アンケートと審査結果をもとに振り返りを行った。概ね保育、運営共に良好と評価を頂戴したが、今後さらに園運営の向上の為に3点ほど助言を頂いた。その助言をもとに、下記3点に留意して園運営を行っていきたい。

- ・保育の評価や反省をもとに保育計画の立案を工夫し、成長していく子どもたちの活動が充実したものになるようにする。
- ・安全確保のための様々な取り組みを保護者様に伝えるとともに、安心して預けていただけるように、安全管理を徹底していく。
- ・各スタッフの意識の向上につながるような、育成計画とマネジメントを行っていく。

第三者委員会の存在に関して保護者間に認識が薄いため、今後は玄関先に概要を記載したプリントを掲示するなどしていきたい。

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月10日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：16時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：施設長、主任、乳児リーダー、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：70%

今後もお子様の成長を実感して頂けるように、日々の保育内容の可視化と、園行事開催の工夫を行っていききたい。

頂いたご意見、ご提案に関しては真摯に受け止め、子どもたちが安心、安全に遊び込める環境づくりを行い、保護者様から信頼を深められるよう、スタッフの接遇力、保育スキルの向上に努め、安定した園の運営を行っていききたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：駒沢どろんこ保育園 施設長 高井 めぐみ

2023年度 メリー★ポピンズ清瀬ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

- ・保育の質、ならびにスタッフの専門性の向上に繋げていくためポートフォリオ作りに本格的に取り組み、ひとり一人の子どもへの理解を深めた。
- また、ポートフォリオをひと月に一回更新する事で送迎時に保護者様に閲覧して頂き、子どもの成長を共有したり園の保育を理解して頂くことが出来た。
- ・畑活動や食育活動を通して乳児にも分かりやすい食の循環や環境教育を実践出来た。
- ・子どもの育ちの連続性を見通し、乳児期に必要な活動を日課として実施した。また幼児クラスへの接続を見据え、年度の終わりには2歳児クラスの系列園での体験保育を行った。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を捉えるため、ポートフォリオ作りに本格的に取り組み、保育の質の向上をはかる
	実践結果	ポートフォリオの作成に取り組む意義についての研修を行い、子どもの姿の共有をすることで全スタッフの子ども理解が深まった 自分のポートフォリオを園会議にて発表する事で保育の質の向上にも繋がった
	次年度方向性	ポートフォリオ作りは継続しつつ、ドキュメンテーションにも新たに取り組み更なる保育の可視化に努める
2	計画・ねらい	食材や食の循環を知り、環境への意識を育む
	実践結果	食材の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥づくりを大人と一緒にを行った。作った堆肥で野菜を育てることで「育てる、収穫する、食べる」の循環を体験した
	次年度方向性	堆肥作りは引き続き継続していく 大人は命をいただく活動として鶏を絞めて食す体験をする 子どもには絵本や魚の解体などを通して乳児なりの理解ができるような命の教育を行う
3	計画・ねらい	発達の連続性を捉えるために幼児と交流し、小学校への接続を見据える
	実践結果	夏休みの期間を利用してボランティアを募り、小学生との交流を図った 園外保育や移動保育などで近隣園を訪問し、幼児と交流をした
	次年度方向性	近隣の卒園児にボランティアを募り、夏休みだけでなく冬休みにも来てもらい小学生との交流の機会を増やす

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との信頼関係の構築のため、日々真摯に丁寧に誠意ある対応を心がけ、子どもの育ちを共有する
	実践結果	子どもの小さな体調の変化や成長をポートフォリオなどで共有したり、保護者の子育ての不安や保護者自身の体調の変化にも気付き、保護者の心に入り込んだ接遇を心掛けた
	次年度方向性	ひとり一人の保護者が【現在】何を保育園に求めているかを知るため、相談しやすい関係づくりに努め、随時面談を行う
2	計画・ねらい	待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕掛けづくり
	実践結果	ポートフォリオの掲示を定期的に行い、送迎時に閲覧してもらうことで待った気がしないサービスを実践できた。概ね好評だった
	次年度方向性	ポートフォリオに加え、ドキュメンテーションも定期的に掲示し、園の保育をより理解してもらいながら待ち時間が楽しみに変わるようなサービスにレベルアップしていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	近隣の方々や来訪者に大人が率先して挨拶を行い、園に親しみを持っていただく
	実践結果	園見学や保育所体験など気軽に園の様子を知っていただく機会を企画した
	次年度方向性	道行く人に畑活動に興味を持ってフェンス越しに覗いたり声をかけていただき園に親しみを持ちその後の園訪問に繋げていく
2	計画・ねらい	メリー★ポピングス清瀬ルームを地域の方に知っていただき「選ばれる園」になる
	実践結果	地位活動事業や子育て支援のチラシの掲示をしたり、近隣施設や連携施設を訪問しチラシを配布したりしたが、「選ばれる園」になるにはもう少し工夫が必要だと感じた
	次年度方向性	地域活動事業や子育て支援のチラシを人通りのある園のフェンスに見やすいように掲示したり、青空保育の時間を変えるなどの工夫により地域住民に園の存在を知ってもらいその後の入園に繋げていく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権を歴史から学び、自分たちの園の子どもの権利を考える
	実践結果	園会議にて子どもの権利条約について学び、個人ワークを行った事例をもとにディスカッションをして学びを深めた
	次年度方向性	園会議にて保育のプロとしての本物の実力つけるため、計画的にワークに取り組み、保育士としての土台固めをする

2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えるため、ポートフォリオ作りに本格的に取り組み、保育の質の向上をはかる
	実践結果	ポートフォリオの作成に年間で取り組み、一か月に一回更新していった。年度途中で内容のレベルアップを図るため、園会議にて自分のポートフォリオを発表しフィードバックをしあった
	次年度方向性	ポートフォリオ作りは継続し、加えてクラスごとにドキュメンテーションを作成し保護者に閲覧してもらうことで保育の可視化を目指す
3	計画・ねらい	相手の気持ちに寄り添った対応を考え実践する
	実践結果	園会議にて子どもにも大人にも、相手の気持ちに寄り添い敬意を払い丁寧に対応できるようにロールプレイを行う
	次年度方向性	園会議にて役割を交代しながら相手の気持ちに寄り添った丁寧な保護者対応のロールプレイを行い、実践できるようにする

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環を知り、環境への意識を育む
	実践結果	食材の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥作りを大人と一緒に作る。作った堆肥で野菜を育て、「育てる、収穫する、食べる」の循環を体験でき、乳児なりの理解ができた
	次年度方向性	調理くずを使用した堆肥作りは引き続き日課として行い、絵本や魚の解体などを通して乳児なりの理解ができるような野菜以外の命の教育を保育に取り入れる。大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園にて経験する
2	計画・ねらい	室内における子どもの発達に合わせた環境を構成する
	実践結果	子どもの姿を共有し、今の子どもに合った環境構成を考えるために月に一度環境構成の会議を行ったが、全スタッフが子どもの特性を理解するのは難しかった
	次年度方向性	まずはクラス会議などで子どもの姿の共有を行い【現在】の子どもたちの興味関心に合わせた環境構成を考えて、丁寧な実践に繋げていく
3	計画・ねらい	園庭における子どもの発達に合わせた環境を構成する
	実践結果	実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験し、観察記録を大人と一緒に取り、ドキュメンテーションを作成することにしていたが、みかんは実がならず、リンゴもほんの少ししか実らなかったため、ドキュメンテーションの作成には繋がらなかった
	次年度方向性	引き続き実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験する。園庭の環境構成においてもクラス会議などで子どもの姿の共有を行い【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成の話し合い見直しを行っていく

〈6〉 体験活動ができる環境構成

1	計画・ねらい	自園ではできない体験（自然体験等）
	実践結果	広い園庭で自然物に自ら関わり探索したり、自園ではなかなかできないダイナミックな泥遊びで土に触れ、免疫を獲得し菌に強い体作りができた 移動保育ではヤギや鶏の小屋掃除や餌やり糞の始末などを経験できた
	次年度方向性	引き続き移動保育や近隣の大型園への訪問を通じて、自園では経験できない自然体験や命とのふれあい、生き物の世話を身近なものとしていく
2	計画・ねらい	幼児との交流
	実践結果	大型の近隣園や系列園の幼児と交流し、自園では経験できない年上児との交流を通して【生活、労働、遊び】を自然と学んでいった
	次年度方向性	引き続き幼児との交流を継続させ、年度の後半には訪問回数を増やしていきたい

〈7〉 インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	健常児・障がい児が頼りあい、手を差し伸べ合う
	実践結果	お互いの違いを個性ととらえることが出来るよう、絵本などで子どもが理解できるような取り組みを行おうとしたが、年齢的に今現在在籍している障がいの子とも健常の子ともとの境界線がなく、計画やねらいを大人向けに変更していった
	次年度方向性	次年度はまた成長とともに子どもの姿が変わってくることと思うので子どもの姿を見ながら計画やねらいを考えていく
2	計画・ねらい	日課や基本活動を行い、生きる力を育む
	実践結果	9時出発をして午前中目一杯活動することで、自然を感じ感情を表現し健康で安全に過ごすための身体の使い方を覚えていくこととしたが、一年を通して日課や基本活動が十分にでき、怪我をしない身体作りや様々な体験活動が出来たと思う
	次年度方向性	引き続き日課や基本活動を大切にしながらも子どもたちの興味関心に合わせた活動の継続も大切にしていきたい

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	27人	89人	106人	0人	0人	0人	222人
年度後半： 10~3月	30人	75人	85人	0人	0人	0人	190人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	35 人	20 人	49 人	59 人	50 人	65 人	54 人	41 人	36 人	40 人	36 人	0人	485 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	18 人	11 人	15 人	3人	0人	4人	3人	2人	0人	56人

（解説）固定の児童が週4日ほど利用している

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	1人	1人	0人	5人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

（解説）固定の児童が利用

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12 人	栄養士	1人	調理員等	1人		
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	1人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育振り返り、献立振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
クラス会議	1回	クラスの計画の振り返り、次月計画の検討。個別の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理系	子ども及びスタッフの健康保持のために、環境の維持向上に努める
安全対策系	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検

防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と保持
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画は園が主導をとる形になったが、当日の運営にはどろんこサポーターズも参加し交流が出来た。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの育ちを共有するため、ポートフォリオを取り入れた。お迎え時に見ていただくことで、保育園での子どもの姿を保護者様にも知っていただけた。 ワンフロアにしたことで、異年齢での関わりが増え、子どもたちの興味関心が広がった。
保育参加	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計17名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> 懇談会で希望者を募り、面談を行った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と身体を育むために、身体を使う活動を十分に行い、お腹を空かせて食欲を十分にかきたてる
	実践結果	戸外活動を午前中目一杯行い身体を動かして遊ぶことが出来たため、おかわりをよくするようになり残渣が減ってきた

	次年度方向性	引き続き午前中の戸外活動を目一杯行いお腹を空かせた状態で昼食が取れるようにしていく
2	計画・ねらい	好きな場所で好きな友だちと一緒に食べる
	実践結果	5月よりコロナが5類となった時点からスタッフも子どもたちと一緒に食事をとれるようになり、より子どもたちの食に対する意欲が高まってきたように感じた
	次年度方向性	引き続き、好きな場所で好きな人と食べることが出来るように環境を整えて食事が楽しい時間となるようにしていく
3	計画・ねらい	日課の畑仕事で育てた野菜を収穫し、採れたての美味しさや加工した後の違った美味しさを知る
	実践結果	調理くずを利用した堆肥を作り、作った堆肥を使用して作物を育てたり、収穫した野菜を調理して食べたりして食の循環を乳児なりに感じていた
	次年度方向性	畑活動をはじめとした食に関する実践は引き続き継続していく。その活動に加え命を頂く食育活動を通して乳児にも分かりやすく魚の解体や絵本を用いて命の教育をとりいれていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月6日／11月14日に実施
歯科検診	6月7日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 4月23日に自園にて手洗い指導を実施 ② 6月2日に自園にて歯磨き指導を実施 ③ 2月5日に自園にて鼻かみ指導を実施
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、15名が使用可能 6月2日に自園にて歯磨き指導を実施
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	手洗い指導、及び消毒、換気の徹底により感染症の予防に努める

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月6日、11月14日 歯科健診 各年1回/6月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	食材や食の循環を知り、環境への意識を育む
	実践結果	食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥作りを大人と一緒にを行った。また、作った堆肥で野菜を育て、「育てる、収穫する、食べる」の循環を体験し、環境への意識が育まれた
	次年度方向性	引き続き環境への意識を育むため、堆肥づくりを大人と一緒にやっていく

2	計画・ねらい	実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験する
	実践結果	鉢植えて育てていた蜜柑の木を移植したが、実がなるまで育てることはできなかった
	次年度方向性	蜜柑だけでなく、リンゴの木にも注目して実のなる様子を子どもと一緒に観察し、観察記録をドキュメンテーションに繋げていく
3	計画・ねらい	室内における子どもの発達に合わせた環境を構成する
	実践結果	子どもの姿の共有を行い【現在】の子どもの姿に合った環境構成を考え、月に一度室内環境見直しの会議を行った
	次年度方向性	クラス会議などで子どもの姿の共有を行い【現在】の子どもたちが遊び始める環境構成を話し合い、その都度見直しを行っていくようにする

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ままごとキッチン	保育室	毎日	異常なし
2	パーテーション	保育室	毎日	異常なし
3	ミニテーブル	保育室	毎日	異常なし
4	絵本棚	保育室	毎日	異常なし
5	制作用品収納棚	保育室	毎日	異常なし
6	絵本棚	子育て支援室	毎日	異常なし
7	すのこベンチ	玄関	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	怪我、事故防止 事故防止チェックリスト、設備点検（4.7.10.1月）を年4回実施。
2	実践結果	事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告、事故報告書の分析・改善策の共有。
3	実践結果	防犯 年2回不審者侵入訓練を実施。
4	実践結果	光化学スモッグ 清瀬市より光化学スモッグ注意報の連絡が入り、指示に従う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

職場体験ボランティア、保育実習を積極的に受け入れ、子ども達が様々な人と関わる機会を増やせた。また、実習生を指導することで自分の保育を振り返る機会にも繋がっていきスキルアップを目指せた。実習生は年間で1名。13日間の受け入れとなった。

小中高生のボランティアは34名、17日間の受け入れとなった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月28～9月9日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月5～7日	清瀬第三中学校	3人
8月17～18日	文華女子高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 17名	12日 17名	9日 16名	21日 16名	18日 16名	15日 15名	20日 14名	17日 14名	15日 15名	19日 15名	20日 17名	21日 17名
園内研修	14日 17名	12日 17名	9日 16名	21日 16名	18日 16名	15日 15名	20日 14名	17日 14名	15日 15名	19日 15名	20日 17名	21日 17名

〈2〉外部研修への出席

- ・今年度は該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	第1回: 9月20日にmeetにて1名(施設長 or 保育士)が出席 第2回: 11月29日に本社にて1名(施設長 or 保育士)が出席											
デンマークインターンシップ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉新卒スタッフ、中途スタッフ、パートスタッフなど部門別のグループ面談

新卒スタッフ、中途スタッフ、パートスタッフなど部門別のグループ面談を年に期ごとに行い、自分自身の振り返りをしたり、園全体の問題点などを出し合ったりして次年度の自分自身の目標をたてる指標づくりに繋げた

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域とかかわっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていくことと、園庭開放や子育て支援事業を充実して地域子育て支援に貢献することを方針としてきたが青空保育に工夫が必要だと感じているため、次年度の課題とする。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 中央公園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：、清瀬消防署竹岡出張所、清瀬松山郵便局、光文堂、ココカラファイン、東村山警察署梅園駐在所、ミーツ、ちよだ鮎、小糸うどん、シカゴチキン、セブンイレブン、肉の大丸、等
世代間交流	月2回午後 サニーライフ清瀬デイサービスを訪問
異年齢交流	地域の小中学生ボランティア、清瀬どろんこ保育園と相互交流
銭湯でお風呂の日	該当なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

保、幼、小連携会議に参加して、幼児から小学校への接続についての問題点や課題について共有した。会議の中で乳児園だが発達連続性の話をして乳児期から大切にしていることを小学校の職員に伝え、共感を得た。次年度も連携会議には出席予定。

〈2〉具体的な連携

小学校との具体的な連携は無し

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、要支援児はいないが、年2回の清瀬市発達支援センターとことこの巡回指導を受けた。専門家のアドバイスをもとに毎月ケース会議を開き、個別支援計画を作成。子どもの様子を共有しながら適切な支援、援助を行い次月に向けて見直しを図った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度該当なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

3歳児から進級していく施設（保育園、幼稚園、子ども園他）からの問い合わせがあった際は、在園期間中の子どもの様子を引き継ぎする。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	14名	9名	52名	33名	49名	61名	0名	110名	0名	0名	328名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ⇒計0件相談なし													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(木) 10:00～12:00 ⇒来訪者0名実施なし 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(火) 10:00～12:00 ⇒来訪者0名実施なし 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：清瀬中央公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：10月10日

アンケート回答率(スタッフ)…100%/アンケート回答率(保護者)…51.4%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：12月25日に実施

12月25日のヒアリングまでに第三者評価についての説明が丁寧だったことと準備までの日数に余裕があったことで、当日のヒアリングがスムーズに出来た。評価は概ね良かったので次年度は課題の所に力を入れていきたい。

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：山田千恵、鈴木裕子、伊藤斉子、関真由美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：77%

園に対する評価はおおむねよく、子どもが楽しみながら通えているという意見が多かったが、お迎え対応のスタッフによるばらつきや、タイムラインの偏りや少なさなどの指摘もあった。次年度はご意見をもとに更に安心してお預け頂ける園を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリーポピンズ清瀬ルーム 施設長 山田 千恵

2023年度 メリー★ポピンズラスカ茅ヶ崎ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

社会福祉法人どろんこ会の保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」をもとに、子どもも大人も「考えること」を大切に、保育を行った。

好奇心や探究心を大切に、自分で決め、やりたいことを心から楽しむことを追求した。

どろんこ会の理念「にんげん力。育てます。」の実現に向けて努力した。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの興味関心を観察し、意見を聞きながら保育計画を立てる。
	実践結果	朝の会や帰りの会で話し合う機会を設け、子どもも大人も一緒になってやってみようことを考えた。子どもの声を聞くことは出来たが、それを受けて更に発想を広げ、深めることは大人の援助が必要であり、大人が考えることが大切なことが改めて課題となった。子どもの様子をスタッフ間で語り合った。
	次年度方向性	保育について学びを深め、子どもの姿から柔軟にねらいを考え、変更する。子どもの声を聞き、それが議論となるように導く。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的に「やってみよう」気持ちになるよう、環境を整備する。
	実践結果	活動の選択制の自発的な広がり促進した。静と動のスペースを分けるなど、全スタッフが環境整備を分担し、月毎に振り返ったが、更新できなかった月もあった。子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続した。
	次年度方向性	子どもたちにも環境整備に参加してもらう。意見を伝える機会や仕組みづくりを行う。散歩先の選択肢を増やしたり、散歩に行かない選択も出来たりと人的・物的環境の一層の充実を図る。
3	計画・ねらい	プロジェクト保育を推進し、他者との協働・感情コントロールや達成感を体験する。
	実践結果	子ども同士が異年齢を含むグループで話し合い、ぶつかり合いながら役割を分担し、物や活動・遊びを創り上げた。0歳児・1歳児・2歳児も年齢の枠に拘らず、発達に合わせたグループで活動した。
	次年度方向性	興味関心や成長・発達にそったグループを異年齢で構成することが常態化し、互いに学び合うことが自然と行われる。幼児では長期間のプロジェクト保育を実施し、子ども同士が互いに刺激し合い、協同性を発揮しながら学びを深める。

4	計画・ねらい	日課を通して生きる力を育む。
	実践予定内容	長距離散歩や座禅、さくらさくらんぼリズム体操・歌・雑巾がけなどの活動を、日々積み重ねた。完全に日課として定着した。
	次年度方向性	日課として取り組みつつ、日々の流れ作業にならないようにそれを行う意味を問い直しながら、子どもが生き生きと参加できるように工夫する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園の保育方針が理解され、信頼関係のもと協同して子どもと向き合う。
	実践結果	保護者懇談会・保育参加・タイムライン・掲示物などを通して方針の共通理解を深めた。
	次年度方向性	懇談会でのグループワークを継続し、保育者と保護者が協同することの意義をより深めていく。
2	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、子育てに見通しが持てるよう、子育てを楽しめるよう支援する。
	実践結果	お迎え対応・個別相談などを通して、一人ひとり違う個性があること・子どもの力を信じることを伝える。懇談会等で食に関する悩み相談や情報発信を行った。保護者との共催行事を通して、保護者同士のつながりや地域とのつながりを深めた。
	次年度方向性	丁寧なお迎え対応を継続する。調理スタッフもお迎え対応に参加し、食の悩みを聞き取り情報発信に活かしていく。保護者との共催行事を通して保護者同士のつながりや地域とのつながりを深めていく。
3	計画・ねらい	「子どもも保護者も行きたくなる保育園」を目指し、保護者の心に入り込んだ接遇を行う。
	実践結果	目と体と心を相手に向けて挨拶を心掛けた。「2歳児クラスのみんな」でなく「その子」が何をしていたかが伝わるお迎え対応をした。一人ひとりの保護者が何を求めているかを考えて対応を行った。
	次年度方向性	保育者の保育の質を向上させることで、一人ひとりの様子を細かく伝える力量を高めていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	他園、小学校と連携し、接続をスムーズに行い、園が地域に根差すようにする。
	実践結果	他園に遊びに行く、招くなどの交流保育を行った。小学校の行事参加などを行うことが出来なかった。担任間での交流が深められなかった。
	次年度方向性	小学校へ積極的に働きかけ、行事参加や学校訪問を行っていく。スタッフ同士の交流も進めていく。
2	計画・ねらい	ラスカ茅ヶ崎のテナント交流を行い、同じ駅ビル内の一員としての認知を高める。

	実践結果	ラスカ業務部を園に招き交流した。ラスカ内店舗での買い物やバックヤード見学などは行えなかった。カルチャースクールの方々との交流が出来なかった。
	次年度方向性	ラスカ営業部との関係を継続していくなかで、店舗とのつながりも深めていく。カルチャースクールの方々と交流していく。
3	計画・ねらい	地域の子育て世帯の利用を増やす。地域の協力者を増やす。
	実践結果	商店街ツアーや保護者とのつながりから、地域の子育て協力者、様々な活動をしている方々と一緒に活動を行った。
	次年度方向性	今年度のつながりを活かし広報活動を充実させ、顔見知りの関係を増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修を通し、園(法人)と自分の目指す保育がどこにあるのか、どこに向かっているのかを、スタッフ同士で意見交換しながら明確にする。
	実践結果	毎月の園会議内で、コンピテンシーに取り組んだ。
	次年度方向性	今年度の継続をしながら、コンピテンシーの意義をより有意義な物にしていく。
2	計画・ねらい	目標を明確にし、スタッフが自分を高めていく仕組みを作る。
	実践結果	全スタッフが組織目標と個人目標を設定した。年2回以上施設長との面談を行い、達成度や課題の確認をした。
	次年度方向性	引き続き組織目標と個人目標を設定し、それが園の組織力向上と保育の質向上に結び付くようにしていく。
3	計画・ねらい	様々な第一線で活躍する先達からの学びを得て、自らの人間力を高める。
	実践結果	法人の動画配信（保育士大学）を利用し、理想の保育や子育ての未来について語り合った。
	次年度方向性	法人の動画配信を利用した座学を継続し保育の理念を深めつつ、遊びや運動、言葉がけ等の実学研修も取り入れ、より理想に近づけるように学び続けていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環や食材への興味を深め、命を頂くことを知る。
	実践結果	畑で採れた野菜を子ども自身が調理した。残食を堆肥にした。魚屋と一緒に魚を捌き、食した。
	次年度方向性	残食をコンポストにする活動を本格化させる。魚屋と一緒に行うだけでなく、自分たちでも魚を捌いてみる。

2	計画・ねらい	海への漂流物から SDGs への関心を広げる。
	実践結果	ゴミ拾いやマイクロプラスチックを見つけながら、それらがどこから来てどこへ行くのかを考える活動を展開した。
	次年度方向性	一過性の活動とならないように、地道に継続していく。
3	計画・ねらい	環境監査を行い、環境活動のさらなる向上や、環境法令順守状況の確認を行う。
	実践結果	年度内に2回、監査員の個別訪問監査と書面監査を行った。
	次年度方向性	今年度の方針を継続し、スタッフの意識を高めていく。

〈6〉海遊びの充実

1	計画・ねらい	海での遊びを充実させる。茅ヶ崎海岸まで徒歩30分の恵まれた環境を活かし、センス・オブ・ワンダーを体感する。
	実践結果	全ての年齢で海へ散歩に行き、砂遊びや水遊びをほぼ毎月実践した。砂浜を走り、波と鬼ごっこ、シャベルで大きな穴を掘るなど思い切り遊んだ。
	次年度方向性	全ての年齢で海に行く頻度を増やし、センス・オブ・ワンダーを全身で体感していく。
2	計画・ねらい	地引網を行い、海の恵みを体感する。
	実践結果	1度目は雨天のため、2度目は台風のため中止となった。
	次年度方向性	実施する方向で調整を早目に行っていく。
3	計画・ねらい	自然物を利用して製作を行う。
	実践結果	石や貝殻・流木を拾い、色々なものに見立てたりして製作に活用した。
	次年度方向性	海に道具を持っていきその場で描いたり製作したりするなど、表現の幅を広げていく。
4	計画・ねらい	海への漂流物から SDGs への関心を広げる。
	実践結果	ゴミ拾いやマイクロプラスチックを見つけながら、それらがどこから来てどこへ行くのかを考える活動を展開した。
	次年度方向性	継続が大切な活動として、地道に続けていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	3人	9人	12人	12人	15人	15人	66人
年度後半： 10~3月	3人	9人	12人	12人	15人	15人	66人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	98人	123 人	104 人	106 人	129 人	117 人	130 人	125 人	139 人	116 人	129 人	135 人	1451 人
うち0 歳児	0人	2人	0人	11人	16人	10人	14人	13人	13人	12人	15人	12人	218人

（解説）7月より短時間勤務が終了し、0歳児延長保育が増加した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	7人	17人	6人	13人	22人	5人	5人	8人	9人	8人	8人	108人
うち0 歳児	0人	3人	6人	1人	5人	14人	1人	2人	5人	5人	4人	5人	51人

（解説）毎月登録があり、利用者が増加した。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	調理	1人	事務	1人

他育休2人（常勤保育士、常勤看護師1人ずつ）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	調理・食事提供の改善検討
事故防止委員会	月1回	園でのヒヤリハット、インシデント、事故検証
ケース会議	月1回	要支援児他の情報共有・検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	避難訓練の計画・実施

防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理業務
食品衛生管理係	食材の発注及び品質管理、調理室の衛生管理
食育係	畑の管理、食育・クッキングの計画実行
地域交流係	地域の各機関との情報交換、交流企画の計画・実施
リズム係	さくらさくらんぼリズム運動の計画・改善
表現係	表現活動の計画・改善
環境係	園内環境の整備・計画・改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画管理、保護者との連携、地域への告知
運動会係	運動会の計画管理、地域への告知
生活発表会係	生活発表会の計画管理
卒園式係	卒園式の計画管理、保護者との連携
入園式係	入園式の計画管理

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活や遊びの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身に付くようにした。 ・食事の姿勢の乱れが見られたので、玄関に「食べる姿勢、大丈夫ですか？」と題したお便りを掲示した。 ・保護者懇談会では、「子どもになって考えよう」のテーマで、子どもの視野や視力、触覚などを実際に感じてもらい、子どもが自分で経験しようとする際にどのような見守りや言葉かけが必要かを保護者同士で話し合ってもらった。
保育参加	<p>4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べて参加数が半減した。コロナ禍が落ち着いた事で在宅勤務が減少し、参加しづらくなっている背景も考えられるが、より声かけが必要であった。

保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点) ・要支援児の面談。その他保育相談は迎え時に対応しており、面談の場を設ける必要性が生じた件は無かった。
--------------	--

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが自分で食べる量を自分で決め、「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ」食べる意欲を育む。
	実践結果	幼児は自分で時間を見ながら食事の準備をし、おかわりも含めて自分の食べられる量だけ自分でよそった。
	次年度方向性	今年度の方向性を継続しながら、食事のマナーについて日々の関わりから学んでいけるようにする。
2	計画・ねらい	噛む力を育て、素材の味を味わえる状態で提供する。
	実践結果	一人ひとりの咀嚼状況を把握しながら、離乳食や手づかみ食べの野菜を提供した。
	次年度方向性	調理者と保育者が連携を密にし、乳児担任だけでなく全員が、離乳状況や喫食状態について共有していく。
3	計画・ねらい	食の循環や食材への興味を深め、命を頂くことを知る。
	実践結果	畑で採れた野菜を子ども自身が調理した。残食を堆肥にした。魚屋さんを招き、捌いた魚を食べた。
	次年度方向性	コンポストをより推進し、取り扱う量を増やしていく。魚を保育者も捌き、命を頂くことをみんなで体感していく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月26日／10月25日に実施
歯科検診	6月14日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月14日に園にて歯磨き指導を実施 ② 12月26日に園にて性教育を実施 ③ 1月15日に園に手洗い指導を実施
流行した感染症	① 11月にインフルエンザ、園児28名スタッフ6名感染報告有り。 12月5日に終息
発作・痙攣等の対応	発生無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に園にてエピペン研修を佐藤輪、濱本直美、湯上優子計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	12月、インフルエンザ対策としてうがい・手洗いの指導を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月8日、10月7日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/4月26日、10月25日 歯科健診 各年1回/6月14日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月22日、10月28日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭15分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践結果	環境係を中心に、全スタッフが環境整備を分担し、月毎に振り返り・更新を行った。子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続した。
	次年度方向性	継続して行っていく。より子どもの興味関心に即した環境整備を行っていきけるよう学びを深める。
2	計画・ねらい	整理整頓を常に心がけ、必要な物だけを置く気持ちの良い環境の下、子どもが活動しやすい動線作りを行う。
	実践結果	毎日・毎週・毎月の清掃チェック表を作成した。担当を決めたが、誰がいつ、何を行えばよいか、どういう状態が整理整頓された状態か、理解しづらかった。
	次年度方向性	担当をより明確にし、子どもにとって使いやすい環境が出来るように子どもも大人も一緒に整理整頓を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	どろんこ遊び場	園庭	毎月	異常なし
2	平均台	園庭	毎月	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練・消防計画を行った。火災・地震発生時の避難方法を確認した。アプリを使用し、園児の安否情報を発信した。
2	実践結果	事故防止チェック、設備点検チェックを実施した。怪我発生時には対応フローチャートに従い対応した。
3	実践結果	園内及び法人内で事故防止委員会を毎月実施し、ヒヤリハットやインシデントなどを共有・検証・再発防止策を共有した。

4	実践結果	園内・園外のハザードマップを作成・随時更新し危険個所の確認を行った。
5	実践結果	防犯対策として不審者侵入訓練を実施した。ラスカ警備員による巡回を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

コロナ禍が開け、実習生・中高生の受け入れが再開した。実習生の受け入れは主任と各担任が中心となり、活動のねらい、予想される子どもの姿、保育者の援助を事前に伝え、振り返りで話し合った。保育者の日々の保育を見つめ直す作業にもなったと感じる。中高生の受け入れは、地域との関わり、子育て支援の視点からもより積極的に行っていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14～22日	日本児童教育専門学校	1人	部分実習
2月15～29日	総合学園ヒューマンアカデミー横浜校	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月7日	茅ヶ崎市立浜須賀中学校	4人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 19名	26日 19名	30日 17名	28日 19名	18日 19名	29日 19名	27日 19名	30日 19名	22日 19名	26日 19名	16日 19名	6日 19名
保育士大学動画視聴	21日 14名	26日 13名	30日 14名	28日 14名	18日 13名	29日 12名	27日 13名	26日 8名	22日 12名	26日 10名	16日 15名	3日 10名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	20日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	19日 1名	20日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

保育所の果たす社会的役割として、地域との交流を促進する。園が地域の一員として認知されるよう、前年度からのつながりを深め、新たなつながりも求めて積極的に取り組んでいく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:中央公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:図書館、美術館、交番、消防署、床屋、魚屋、花屋、和菓子屋、スーパー等
世代間交流	月1回デイサービス訪問 月1回紙芝居の会来園
異年齢交流	12月25日アイルド保育園と交流保育 11月7日浜須賀中学生受け入れ
その他活動	11月29日に園にてマジックショーを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

子どもの発達の連続性を見据えた上で、就学を見通した保育を行った。感染症流行の推移を見ながら、小学校訪問や行事見学など、子ども間交流を実施した。茅ヶ崎市幼保小教育連携研究会との連携は行うことが出来たが、近隣の小学校との学習指導要領や架け橋プログラムの読み解きなど、相互理解を深める取り組みは行えず、次年度への課題となった。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月11日	梅田小学校	1名	保幼小連絡会（梅田小教室）	スタッフ間交流
10月19日	梅田小学校	13名	学校参観（梅田小学校）	子ども間交流
10月20日	梅田小学校	1名	保幼小担当者会（梅田小教室）	スタッフ間交流
11月22日	茅ヶ崎小学校	21名	勤労感謝交流（茅ヶ崎小教室）	子ども間交流
1月18日	梅田小学校	1名	保幼小連絡会（梅田小教室）	スタッフ間交流
1月25日	梅田小学校	1名	保幼小担当者会（梅田小教室）	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

4歳児1名の要支援児について、4月に担当を決め、同月に担当が前期個別支援計画作成。5月に保護者面談を行い、保護者のねがいと指導計画を共有した。また、発達支援室に週1日通所しているため担当同士の情報共有を行った。10月に前期評価を作成、同月に後期個別支援計画作成。同月、2回目の保護者面談を行い、保護者のねがいと指導計画を共有した。3月に後期評価を行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：5名

施設長、主任、担当、担任で行い、支援計画や面談結果、毎月の様子を共有。支援方法の見直しなどを行い、他スタッフに議事録にて共有した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

4歳児1名については、次年度も引き続き要支援児として、通所施設との連携、保護者との共有を行っていく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15名	18名	34名	36名	127名	82名	85名	95名	14名	15名	16名	15名	552名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計3回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	2名	0名	4名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	10名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	2名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：中央公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	6名	2名	3名	0名	0名	0名	2名	4名	0名	0名	2名	0名	19名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年8月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：施設長、事務、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：88%

（省察）一昨年度、昨年度に比し、満足度は全体的に向上している。NPSは2021年度21.3%、2022年度46.5%、今年度55%。お迎え時の対応など接遇面で満足度が向上した。保育の質を向上させるとともに丁寧な対応を心がけていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズラスカ茅ヶ崎ルーム 施設長 渡邊 功

2023年度 つくばどろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育所保育指針と社会福祉法人どろんこ会の理念や会保育方針に則り、つくばどろんこ保育園の園目標である「チーム保育で支えよう！子どもの生きる力」を合言葉にして、全スタッフが認識しながら保育にあたった。園目標に沿って、保育内容や環境を考え合う場を設け、その実践を互いが共有しながら園全体の保育の高みを目指した。

●子どもの基本的人権を尊重し受容的な関わりを大事にする中で、子どもが自分の意見や考えを出しやすい環境を整え、受け止めてもらいながら自分らしさを発揮できるように保育を進めた。

●「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に向けて、子どもの心情・意欲・態度の健全な育ちを促すために、一人ひとりの発達に合わせた保育計画を立案し、その実践の記録を活用して見取っていった。

●どろんこ会の日課や基本活動を十分に体験することで、その中から生まれる「生活を営む力」「強い体」「人との関わり」の育ちを促した。また、活動を通して、子どもが自分の役割を考えるきっかけとなるように働きかけ、生きる力の体得に繋げた。

●つくばの土地の文化継承や食の循環を、園行事や保育内容に盛り込み、園スタッフがその意図を意識しながら進めたことで、スタッフと子どもが共に楽しみながら学ぶことができた。

●園会議において、「生きる力」を支えるための環境について話し合いを深め、チーム保育を進めるための目線合わせの場を多く設けた。また園内研修では、スタッフ一人ひとりが自分の得た学びを、皆の前でアウトプットすることで、自らの学びを確かなものとし、自信に繋がった。今後はそのスキルを地域へと還元していきたい。

●園を利用される方々に最高の対応が提供できるように、園の組織目標として位置づけをした。全スタッフがグループごとに年間目標を設定して取り組み、目標に沿って実践した。その実践結果を全スタッフが互いに共有することで、保護者対応に対する意識が格段に上がり、対応内容にも深みが増しつつある。今後も継続していきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	<p>計画：日課・基本活動を毎日繰り返し行うことで、子どもがその意味を理解しながら、「生きるための力」を身につける。</p> <p>ねらい：全スタッフが日課・基本活動の意味を理解し毎日の習慣として続けることにより、子どもが「自らやろうとする意欲」から「やったことが自分だけでなく人のためにもなる」ことを感じて、社会の中で生きるための基礎となるようにする。</p>
---	--------	---

	実践結果	日課・基本活動は毎日の取り組みとして定着しており、自らやりたいという意欲をもって楽しんで行うことで、その意味を理解しつつある。
	次年度方向性	「生きる力」からさらに深めて、社会生活をするために必要な生活力を身に付けるための手立てとして、積極的に日課活動を活用していく。
2	計画・ねらい	計画：子どもがバランスのとれた心身の発達を促せるように、養護と教育の一体的な保育を展開する。 ねらい：全スタッフが「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、保育内容に片寄りがないように見極め、常に子どもの伸びる可能性を考えられるようにする。
	実践結果	10の姿を育てるために、バランスの取れた活動内容を整え、スタッフ全員がその育ちを意識しながら保育を取り組んだ。
	次年度方向性	10の姿の中でも、協同性・社会性・規範意識の育ちに配慮しながら、子どもの持つ能力や資質を大事に育てていく。
3	計画・ねらい	計画：生活や遊びの様々な場面における成長や気付きを、エピソードやドキュメンテーションとして継続的に記録し、子どもの心情の汲み取りや保育環境作りに活用して、次の実践に繋げる。 ねらい：記録から検討を重ねることで、スタッフ間の子どもの共有や保護者や子どもたちとのコミュニケーションツールとして利用する。
	実践結果	子どもの成長場面をエピソード記録やドキュメンテーション記録として、継続的に記録し、会議等でその見取りの勉強を行い、子どもへの関わりへの手立てとした。また、保護者へ開示することで、園の取り組みを伝えるツールとして活用した。
	次年度方向性	生活力の体得のための手立てとして、子どものやる気や物事を根気強くやり遂げようとする姿を大事にし、記録として作成する。人的・物的環境を考え協議する場でも活用する。
4	計画・ねらい	計画：伝達共有事項、事故や怪我の改善事項に向けて、「可視化」の体制を作り全スタッフの周知を徹底する。 ねらい：伝達や共有漏れを防ぎ課題意識を全員が持つ。 スタッフ全員が良いことも悪いことも共有することで仕事への向き合い方や気持ちの一体化を目指し、共に悩み喜ぶ健全な保育園運営を行う。
	実践結果	保護者への伝達事項や事故・怪我の共有の大事さとそれに向けての可視化の体制作りに、全スタッフが注力した1年だった。継続して確実に実施することは未だ難しいので、今後共有漏れなどの課題の改善に努める。
	次年度方向性	次年度も一日に必要な情報を共有し、必要なことは全スタッフで解決しながら、保育への活用や保護者対応へと繋げる。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：送迎時には、大きく明るく気持ちの良い挨拶する。また自分できるところの最高の対応を実践する。 スタッフの誰もが、相手の顔を見てその表情を読み取り、相手の今の状況に寄り添った言葉かけを行う。 ねらい：スタッフの誰もが「園の顔」であることを認識し、自分がされて嬉しい丁寧な対応を心掛け、保護者と互いの気持ちを開いた信頼関係を築
---	--------	---

		く。
	実践結果	園の組織目標として実践する中で、3分間対応においての話し方や内容を吟味し、スタッフの誰もが「園の顔」として気持ちの良い挨拶や対応を心掛けた。
	次年度方向性	その日の心に残った場面をリアルタイムに丁寧に伝え、自分がされて嬉しい対応を実践する。
2	計画・ねらい	計画：毎日の生活や遊びの姿から子どもの成長を読み取り、記録に残し、その日のうちにリアルタイムに丁寧にお伝えする。 ねらい：先の見通しを持った保育内容を基に、保育の専門職としての視点から様々なツールを活用して伝え、今後の保育に役立てると共に園に安心してお預けいただく。
	実践結果	記録の作成は、子どもの育ちを保育者の目線から保護者へ伝える手立てとして、大変大きかった。4年間の蓄積のエピソード記録の継続は、保護者の感謝のお声からも、園との信頼関係を築くのに役立った。
	次年度方向性	エピソード記録のみならず、保育の様子を写真入りでリアルタイムに玄関掲示することや、発表会などで1年間の成長の変化をスライドショーにしてお見せする場面を今後も継続して提供していく。
3	計画・ねらい	計画：保護者からのご意見ご要望には、謙虚な気持ちを持って受け止めながら対応し、今後の実現に向けて相手の気持ちを尊重して改善や実現に努める。 ねらい：保護者の生の声を感謝の気持ちを持って耳を傾けることで、開かれたより良い保育園を目指す。
	実践結果	年1回の利用者アンケートを実施し、100%の回答を得た。また日頃頂いたご意見に対して改善できるところは、全スタッフが情報共有して、真摯に善処することに努めた。良いところは今後の励みとした。
	次年度方向性	保護者の生の声には、感謝の気持ちを持って耳を傾け、開かれたより良い園を目指す。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：子育て支援「ちきんえっぐ」の拠点として「子どもは地域の中で育つ」ことを念頭にして、地域交流の場としての役割を果たす。 ねらい：居心地の良い環境と気持ちの良い対応を心掛け、地域の親子の心の拠り所になることで、地域社会に貢献する。
	実践結果	地域の子育て支援「ちきんえっぐ」の利用者が年度前半は多くなかったが、コロナ感染症が5類になったことにより、夏頃から園庭解放に訪れる家庭が少しずつ増えてきた。地域交流の場として、今後も訪れる方々を迎えたい。
	次年度方向性	地域交流の場としての役割を果たすためにアナウンスに力を入れ、来園者の増加へと繋げていく。
2	計画・ねらい	計画：「就学までに育てたい子どもの10の姿」を見据えて、子ども一人ひとりの乳幼児期の成長を支え、その保育実践を小学校へと繋げる。 ねらい：就学までの子どもたちのバランスの良い心身の発育に向けて、保

		育内容を吟味し、その育ちを保証する。子どもの育ちと保育者の手立てを 実践記録として残し、責任を持って小学校へ送り出す。
	実践結果	小学校との交流が活発化し、子どもたちが運動会見学に招待され、また職員が1年生の授業参観に参加するなど、コロナ禍以前の交流が戻ってきた。Webを活用しての子ども同士の交流よりも、対面での交流を通して実際に目で見て感じ、体得することを優先した活動を行った。
	次年度方向性	「就学までに育てたい10の姿」を目指し取り組んできた内容を基に、その実践をもって近隣の小学校と連携し交流を重ね、小学校へと繋げる。
3	計画・ねらい	計画：中学生・大学生の職業体験や保育参加や実習生の受け入れを通し、若い世代の育成を後押しする。また、子どもたちが地域の様々な世代と積極的に関われる環境を整える。 ねらい：子どもたちが地域の様々な年齢層と交流し、地域社会との繋がりを意識して生活できるようになる。
	実践結果	近隣の中学校2校から職場体験の依頼を受けて、中学生18名を受け入れた。また、3校の連携校から3名の実習生を受け入れ、将来を担う若い世代の育成に努めた。交流を重ねる地域の老人施設とは、コロナ禍の影響で、長い間対面での交流は持てなかったが、今年度は敬老の日のプレゼントの作品作りや年末年始の挨拶回りを通してお正月飾りを作ってお渡しするなど、短い時間ではあったが触れ合って交流を図り、大変喜んで頂けた。
	次年度方向性	地域社会の貢献を目指して交流の継続に努め、子どもたちが地域社会との繋がりを感じながら生活できるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：全ての子どもとスタッフの人権を保障する。人を大事にすることで互いの気持ちを受容し、問題は自分事として皆で解決し、穏やかに優しさが優先する園の風土をつくる。 ねらい：子どもも大人も各々が持つ個性を認め、その良さを尊重することで、誰もが安心して生活し前向きに自己発揮できる。
	実践結果	子どもとスタッフが共に、互いの個性を認め、各々の気持ちを尊重することで、寛容で安心感の持てる園の体制を整えることに注力した。その結果、自らの意見を活発に発言し共感し合いながら、スキルを向上させるべく前向きに保育に向き合うことができた。
	次年度方向性	互いの基本的人権を尊重し、自己発揮できる環境を継続して保証していく。
2	計画・ねらい	計画：スタッフ一人ひとりが自身に必要な研修を考え、自ら選び取って積極的に参加し、自身を高めていく。 ねらい：自らの課題や今後の保育に役立つスキルを考え、子育てのプロとして自らを高めることができるスタッフを育てる。またお互いに研修に参加しやすいスタッフ間の協力体制を築く
	実践結果	自身のスキル向上のために、必要な研修を自ら考え選択し、計画的に参加することが出来ていた。学び得たスキルを保育に役立てていくために、学びを発信する場を今後さらに広げたい。

	次年度方向性	保育者の資質を高めるために努力する姿勢を、園がしっかり後押しする体制を作り、全スタッフが学びに意欲的になる。
3	計画・ねらい	計画：園の MBO から自身が出来る役割を考え、各々が組織 MBO と個人 MBO を作成し、努力を重ねて実践していく。 ねらい：各々の MBO が園の MBO と連動していることを認識し、全スタッフで取り組み達成していくことが園の質を高めることを理解すると共に、組織の一員として貢献できるようにする。
	実践結果	個人と組織の目標を意識して、各々が高みを目指して取り組む姿勢が大変目立った。保護者対応や危機管理については、組織目標として掲げたことで、全スタッフが一丸になって取り組み、園全体の質の底上げに繋がった。
	次年度方向性	MBO で掲げた事柄を達成してきたことが、園の体制作りに寄与したことに自信を持ち、今後も各々が自らの役割を考えながら努力を重ね、実践していく。
4	計画・ねらい	計画：「自らの学び」を人前で発表し、子どもやスタッフ間や地域へと役立てる。 ねらい：保育者として、また人として得たいスキルなどを、発信を目的として外部研修、本、SNS、園長大学®・保育士大学の受講などから習得し、その学びを人前でインプットし、自分らしさを演出する。
	実践結果	全スタッフが園内研修の中で「自らの学び」を発表することを実践した。スタッフ一人ひとりが発表に工夫を凝らし、時間を有効に使いながら発表に繋がったことは、自らのスキルの向上と共に、互いが相手の持っている力を知る意味で新しい刺激となった。
	次年度方向性	次年度は、自らの保育の強みと弱みを見つめ、弱みを強みに変えるべく「自らの保育実践」を計画し、行動に移すことを目的として、その実践の報告をし合い、互いの学びの場を作る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：私たちの生活は、素晴らしい食材や食の環境があって始めて成り立っていることを理解し、体験活動の中に取り込む。 ねらい：豊かな生活の中の食環境を意識して生活し、食への感謝の気持ちを持つ。
	実践結果	4、5歳児の子どもたちがアイビー保育園の子どもたちと一緒に、「まぐろの解体」を見学した。実際に海で釣りあげられるところの映像を視聴し、その海で採れたまぐろをスタッフが解体するところを見学することで、ただ美味しく味わうだけでなく、生きている命をいただくことを実感できたようだった。また、「鶏を絞めて食す」体験では、自園で飼っていた鶏を絞めて、羽を剥ぎ食すところまでを行った。体験の同意を保護者から得た子どもだけが行ったが、真剣な表情で参加をしていた。「いただきます」の意味を知らせ感謝の気持ちをもてるように進めた。
	次年度方向性	今年度同様に、田畑を耕し、収穫から得た農作物を使ってクッキングや食材加工までの体験に繋げる。また鶏を絞めて食する体験も行う中で、豊かな食生活を送れることや命に感謝する気持ちを育てていきたい。

2	計画・ねらい	計画：食材の循環サイクルの実践を通して、生活の知恵を園の生活の中で最大限に生かす。 ねらい：給食の野菜くずや山羊・鶏の糞を堆肥として、子どもとスタッフが食の循環の知識を得て、生活に活用する。
	実践結果	子どもたちが山羊や鶏の世話や糞の清掃をすることで、その糞を発酵させ堆肥になることを学んだ。給食室から出る野菜くずや糞を堆肥として畑に活用し、食の循環サイクルを園の生活でも体験できるように環境を整え、保育内容に盛り込んだ。
	次年度方向性	子どもとスタッフが食の循環の知識を得て、年上児が年下児に知らせながら今後も生活に活用していくようにする。
3	計画・ねらい	計画：給食残渣を減らし、誰もが出された食事や食べ物を大切にする。 ねらい：子どもの頃から、廃棄にかかる環境への負担を少なくして、食べ物を粗末にしない意識を育てる。
	実践結果	給食のバイキングにて、子ども自ら食べられる量を伝えて食べきれることや、苦手なものもスタッフの言葉かけで一口を試し、食べたなら美味しく最後まで食べきれたなどの姿から、前年度に比べて、給食残渣が減った。また、給食スタッフも野菜の切り方を考えて廃棄する部分を減らし、前回残食が多かった献立や味付けを見直しの工夫をした。
	次年度方向性	子どもの頃から、食べ物を粗末にしないことを生活の中で覚え、大人が背中を見せることで習慣づけたい。

〈6〉チーム保育の充実

1	計画・ねらい	計画：チーム保育のテーマ「子どもの生きる力を支える」について人的・物的環境の両面から話し合い、非認知能力の育ちを高めることを目的として、スタッフ間が共有しながらチーム保育を進める。 ねらい：スタッフが子どもの育ちのために、チームの中の自身の役割と環境の在り方を探り、自分の言葉で提案して実践する
	実践結果	子どもの生きる力を支えるために、各々のスタッフは用意した環境や実践したことを場面ごとに振り返り、記録としてシートに残し、毎月の園会議の中で報告した。互いのよい場面を自分の保育に取り込むことで、学び合いに繋がった。
	次年度方向性	「チーム支えよう！子どものやる気と根気」を園目標として、生活力の体得のための手立てを考え、保育者もみずから背中をみせていくようにする。
2	計画・ねらい	計画：4名でチームを組み、毎月のゾーン会議で「面白遊び」を企画し、園全体で異年齢が関わって思い切り遊ぶ。全スタッフが楽しく展開できるように協力し、振り返りを持って次月に繋げる。 ねらい：季節や自然物を利用して異年齢と一緒に遊ぶことができる企画を考え、チームが責任を持ってリードする。遊びの深まりと継続性に重点をおき、ゾーン計画を保育計画と連動させていく。
	実践結果	毎月の保育計画とゾーン計画を連動した。年度当初に各クラスから1名ずつの4人のチームを年間で決定しておくことで、全スタッフが自分の受け持つ月を意識しながら「面白遊び」を提案し、推し進めることが出来た。

		季節や行事を取り入れ、無理なく異年齢が関わって遊ぶことができるように協力して取り組めた。
	次年度方向性	今年度同様に、ゾーン保育を継続して進める。異年齢の関わりの中で、保育者の援助の仕方や環境構成について協議し、保育内容の偏りに配慮しながら PDCA サイクルを活用し保育を進める。
3	計画・ねらい	計画：全スタッフが園の環境・保育体制・保育内容に対して、より良い環境を目指して意見や課題を提案し、自らファシリテートする。 ねらい：全スタッフが人任せにせず、自園にとって働きやすい環境や改善に向けてチームとして協力していく。
	実践結果	様々な場面でスタッフが自身の役割に責任を持って、活発に発言する姿勢が目立った。しかし、発信された事柄の停滞や、全体に伝わらない場面も見られたので、全スタッフが協力し自ら行動に移すことの大切さを認識し、次年度の改善に繋げる。
	次年度方向性	今年度同様に継続して進め、自園の働きやすい環境や保育体制を作るべく、自ら考えて提案し、協力・行動するチームを目指す。

〈7〉地域の文化継承

1	計画・ねらい	計画：つくばの地に生活して根付いた文化や食の環境について体験活動を通して楽しみながら継承していく。 ねらい：受け継がれてきた生活の中での営みにはその成り立ちに意味があることや、多くの知恵が盛り込まれていることを、子どもや若手スタッフが学ぶ機会とする。
	実践結果	日本の古くからの伝承行事「端午の節句」「七夕」「十五夜」「節分」「ひな祭り」を始めとして、つくばの地域での伝統文化「ならせ餅」「どんど焼き」「お正月飾り作り」など、子どもたちにその意味を知らせながら保育に取り入れていった。さらに、稲わらを使って「稲わら半紙作り」を行い、その半紙を使ってランプシェード作りに発展させて生活の成り立ちを教える場にした。食の循環では、園で収穫した渋柿を干し柿に、さつまいもを干し芋にして味わった。また4歳児で仕込んだ味噌を使って、5歳児になって味噌汁を作る体験に繋げるなど、子どももスタッフも楽しみながら食の循環を学んだ。
	次年度方向性	つくばの地で営まれ受け継がれてきた生活文化や食文化を理解し、その多くの知恵を体験を通して学び、大事に継承していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：	90人	90人	90人	90人	102人	90人	552人

4~9月							
年度後半： 10~3月	90人	90人	90人	90人	102人	90人	552人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	176 人	188 人	209 人	208 人	193 人	207 人	244 人	193 人	192 人	202 人	231 人	173 人	2416 人
うち0 歳児	8人	7人	6人	14人	13人	20人	21人	17人	17人	24人	19人	4人	170人

(解説) 年間通して、延長をご利用される家庭数は変わらないが、年度後半に徐々に0歳児の利用が増えている。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	3人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	1人	6人	6人	6人	25人
うち0 歳児	0人	1人	1人	6人	5人	6人	19人						

(解説) 12月以降、一時保育の登録者が増え、利用者も増えた。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	2人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営の課題や共有事項の話し合い ・園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況と嗜好の確認/食事環境や配膳方法の共有と改善/食育 や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故ケーススタディと改善策/ ヒヤリハットの共有と対策
ケース会議	0回	該当児なし
クラス会議	月1～2回	クラス運営の共有と課題の抽出を検討
リーダー会議	月1回	各クラスリーダーによるクラス運営報告と検討事項の協議
ゾーン会議	月2回	ゾーンリーダーと月担当者による計画の立案と振り返り

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生環境の管理をして、その保全に留意した。また疾病予防の清掃消毒作業を日々実施した。
安全対策係	ハザードマップの作成と3回の見直し更新を行った。また毎月の避難訓練や年2回の不審者侵入訓練や備蓄品の点検を実施した。
防火管理者	消防計画を策定し、日常自主点検等の防火管理上必要な防火管理業務を実施した。
食品衛生管理係	食品の扱いと厨房の衛生環境を適切に実施し、給食提供を行った。食育計画を立て、その実践を進めていった。
田畑係	田畑を整備し、計画的に年間を通して作物の世話と管理を行い、食育活動へと繋げた。
生き物係	山羊・鶏・メダカの環境を整え、餌を適切に発注し餌管理を行った。
環境整備・絵本係	園舎内外の環境の整備や安全点検、倉庫の整理と備品の補充、園内掲示物の点検を行った。また絵本棚の整理整頓や本の修繕も実施した。
地域支援係	地域の小中学校との交流、実習生の受け入れ、老人施設との交流の機会を作った。
ゾーン保育係	年間を通して、毎月のクラスリーダー4名と共に保育の計画作成と実践の振り返り、また保育環境について話し合いを行い、その記録を残して全スタッフに共有周知した。
研修係	毎月の園内研修の進行と統括を実施し、園内研修記録に振り返りを纏めた。
写真係	クラスからアップされた写真を点検し、毎月アルバムに写真公開した。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重し、どろんこ祭りの企画・準備・活動を共に実施した。
子育て支援係	園庭解放や一時保育への利用者が増え、後半「ちきんえっぐ」の参加者もあったので、体験活動を楽しめるように進めていった。

地域支援交流係	小学校とは子ども間交流として、運動会見学や授業への参加、また授業参観で職員間の交流が持てるように連絡を取り合った。実習生の受け入れと、中学生には職場体験の場を提供した。地域の老人施設には、子どもたちの制作物を渡すなどの交流を図った。
---------	--

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児上半期：一人ひとりとの応答的な関わりを大切にして、自主性や意欲の芽生えを育てていった。 ・乳児下半期：簡単な言葉を、生活や場面ごとに表現できるように支援した。また、生活に必要な習慣を身に付け、健康に過ごす基礎を育てた。 ・幼児上半期：自然遊びや生活体験を通して、自ら考え工夫して遊ぶ楽しさを養った。様々な体験を自らの五感を通して表現できる環境を整えた。 ・幼児下半期：友だちとの関わりの中で、折り合いをつけるための調整力の育ちを支援すると共に、その環境を整えた。自然界の営みを理解し、生活に取り入れて遊ぶことを大事にして進めていった。
保育参加	<p>4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月31日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会で参加を呼び掛けることで、昨年度に比べ参加者が増えた
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月31日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス内での子ども同士の関わりの様子についての相談が2件、自我への対応についての相談が1件あった。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<p>計画：子どもの身体発達に合わせた日課活動や戸外活動を十分に行い、お腹がすいた感覚をもって良く噛み素材を味わい、食べたいものを食べたいだけ食べてその美味しさを感じる。</p> <p>ねらい：活動の後の食事の美味しさ、お腹のすくりズムを体で感じ、自ら意欲的に食べる。</p>
	実践結果	<p>日課活動が定着し、9時出発で午前中一杯しっかりと戸外活動することで、お腹を空かせて美味しそうに食事する姿があった。今日のお昼ご飯を楽しみに話題にする子どもも多く、給食残渣の減少にも繋がった。0歳児</p>

		は手づかみ食べて自らの口に運ぶ姿があり、生きる力の芽が感じられた。
	次年度方向性	日課活動や戸外活動また畑活動など、身体を十分に使って遊び労働することを基本として、お腹のすくりズムを整えていく。
2	計画・ねらい	計画：年上児が配膳や盛り付けを行い、異年齢が助け合って食事環境を整え、好きな人と好きな場所で会話を楽しみながら食事をする。 ねらい：年上児が年下児のお世話をしながら自ら食環境を整えられる自立心を育て、好きな人と食事をする楽しさを実感する。
	実践結果	5歳児が中心となり、年下児の配膳を手伝い、好きな人と好きな場所で食べることを食事の基本として、スタッフも共に食卓を囲んだ。年度後半には2歳児も加わった。当番活動の中で、食事の準備や片付けも子どもが主体的に進め、異年齢で会話が弾む場面も見られた。後半になって、5歳児が4歳児にその役割を引き継ぐと、嬉しそうに取り組む4歳児の姿があった。
	次年度方向性	今年度同様に継続して、年上児が食事環境を整えていく場面を設定して、皆で揃って楽しく食事する。
3	計画・ねらい	計画：田畑活動を通して、自ら育てた作物や米を調理し味わうと共に、堆肥作りなどの食の循環を学ぶ。 ねらい：人々の暮らしには、食べ物を粗末にせず食の循環を利用した工夫や環境を活かした知恵があることを理解し、自然の恵みに感謝する。
	実践結果	年間スケジュールに沿って田畑の手入れをすることが、スタッフの意識の中で定着し、子どもたちが日課活動として、作物への水やりや雑草抜き・間引き・堆肥作りなどをすることが日常の仕事となっている。堆肥を畑に漉きこみ、大きくなった作物は収穫して味わい、食の循環を学ぶ機会とした。
	次年度方向性	飼育している鶏を絞めて食す活動を含めて、食の循環の活動を子どももスタッフも園の生活の中に無理なく取り入れ、先人の知恵を学ぶ機会とする。
4	計画・ねらい	計画：地域の文化や加工体験を皆で学びながら、子どもたちに継承する。 ねらい：茨城つくばの土地の文化を子どもやスタッフが共に学び、生まれ育った地域への理解と郷土愛を育む。
	実践結果	つくばの土地で根付いた文化として、餅つきからの紅白餅を花に見立てて飾る「ならせ餅」、稲わらから作る「しめ縄」や「正月飾り」、それらを纏めて1年の豊作や幸せを願い、お焚き上げをする「どんど焼き」など、つくばの地に残る風習文化を園で体験し、子どもたちへ伝えた。また、味噌作り・干し芋や干し柿・梅干し作りなど、加工食品を作る過程を子どもたちと体験し、楽しく食文化に触れた。
	次年度方向性	地域に育まれた文化を大切に継承していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月14日/11月8日に実施

歯科検診	6月9日/11月20日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月9日/11月20日に本園にて歯磨き指導を実施 ② 10月3日に本園にてうがい指導と手洗いチェッカーを用いて手洗い指導を実施 ③ 12月11～12日に本園にて5歳児向け性教育を実施
流行した感染症	① 7～8月に新型コロナウイルス感染症、園児10名・スタッフ2名に感染し、8月31日に終息 ② 12月にインフルエンザ、園児12名・スタッフ3名に感染し、12月28日に終息
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自園にてエピペン研修をスタッフ計22名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	職員の衛生に対する啓発や感染症発生時の処理の仕方、プール使用の塩素の取り扱い、緊急連絡や対応についてのロールプレイなどを行った。感染症が起きた場合には消毒・換気を徹底した。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月14日、11月8日 歯科健診 各年2回／6月9日、11月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月18日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：職員は、園で出来るところの感染症の予防の環境をつくる。 ねらい：園内のスタッフ間や子ども達への感染を防ぎ、安心して過ごせる園の環境を整える。
	実践結果	7～8月にコロナ感染症が流行り、12月にはインフルエンザが流行したため、特にスタッフの手洗いを徹底した。また、室内やトイレ・玩具を感染症時の消毒対応に切り替え、以上児と未満児のクラス交流は、治まるまでの間控えるなどの対応を行った。保護者への情報提供を早目に行い、協力を仰いだ。
	次年度方向性	感染症の兆しが見えたら、早急にスタッフと子どもの手洗いやうがいを徹底し、また消毒対応を実施して予防の環境を整える。
2	計画・ねらい	計画：子ども・保護者・来客者の目線に立って園舎内外の清掃・整理整頓と管理を行う。 ねらい：誰の目にも、いつも清掃の行き届いた気持ちの良い園の環境を心掛け保持をする。
	実践結果	園庭は草木の管理を始めとして、毎朝の掃き掃除で余分な枝葉が無いように、水廻りや足洗場は泥で汚れやすいため小まめに清潔を保ち、利用者の目線から気持ち良いと感じる環境作りと行き届いた管理を行った。

	次年度方向性	今年度の環境を継続して保全することで、清掃が行き届いている状態がスタッフの中で当たり前とできるように努める。
3	計画・ねらい	計画：園庭や園庭建造物の危険物や危険箇所の有無を確認、点検する ねらい：子どもたちを危険から守り、安全に遊ぶ場所を確保する
	実践結果	毎朝、園庭の危険箇所を確認するため、早番が遊具点検を行った。また、毎月25日には月の点検を行い、見落としが無いように安全な環境体制を保つようにした。
	次年度方向性	園庭のハザードマップの作成時に、危険箇所のチェック項目を設けて十分に活用し、全スタッフで共有しながら子どもが安全に遊べる環境を用意していく。
4	計画・ねらい	計画：保育室の遊具類の点検と衛生環境の保持をする ねらい：子どもの生活周りの安全と衛生面のチェックを小まめに行い、健やかな育ちを支える
	実践結果	保育室内に破損や壊れかかった遊具がないか、また年齢に相応しくない危険な遊具が紛れていないかなどを、保育者が常に確認していった。また、週1回の玩具の消毒や衛生備品の補充、湿温度の設定、生存確認のチェックの徹底など、子どもにとって衛生的な環境に十分に配慮した保育に努めた。
	次年度方向性	子どもの身近な生活環境の安全と衛生面は、保育者の細やかな目線と対応が必要であることを全スタッフで認識し、今後も常にその意識を持って怠らせずに実施する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太の平均台	園庭	毎日	異常なし
2	乳児用平均台	園庭	毎日	異常なし
3	三角アスレチック	園庭	毎日	異常なし
4	幼児用平均台	園庭	毎日	異常なし
5	四角基地	園庭	毎日	異常なし
6	園庭遊具片付台	園庭	毎日	異常なし
7	堆肥場	畑	毎日	5/2 杭を4本新たに入れ補強
8	一人用テーブル (2台) / つい立て	幼児室	毎日	異常なし
9	子ども用ロッカー (2つ)	幼児と2歳児保育室	毎日	異常なし
10	大型テーブル (2台)	2歳児保育室	毎日	11/10 4隅の角のコーナーフックを交換
11	飾り台 (6台)	玄関、2歳児保育室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果 防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時対策として、毎月消防計画に基づいた避難訓練を実施した。そのうち年2回は総合避難訓練を実施し、消防署より来園頂き、消化訓練や通報訓練を通して指導と講話を受けた。 ・防災設備（自動火災探知機・煙感知器・誘導灯・排煙窓）の点検を実施した。 ・アプリ（うちのこ）「緊急時のお知らせ」にて子どもの安否、園舎の状況、避難先の情報を発信した。 ・災害時に向けて、備蓄品点検（6・12月）と保護者への子どもの引き渡し訓練（10月）を実施した。
2	実践結果 防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の不審者侵入訓練を実施した。そのうちの1回は警察官の方が不審者となって訓練を行い、不審者対応の子ども向け・保育者向けの講話を受けた。 ・つくば市役所からの不審者情報提供を都度受ける体制を整えた。 ・防犯センサーを駐車場に設置している。 ・保護者登録情報に基づいて、送迎時の引き渡し確認を徹底した。 ・門扉の施錠については、保護者懇談会において、送迎時の施錠の徹底についての協力をお願いした。
3	実践結果 光化学スモッグ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば市からの「光化学スモッグ注意報」の発令を受けた場合、それに従い戸外活動を自粛する体制を整えている。
4	実践結果 暑さ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば地域の暑さ指数情報に基づき、指数の高い場合は園外保育を控え、涼しい時間帯の活動や水遊びに切り替えた。
5	実践結果 怪我事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの作成にあたり、園長が同行して道中や散歩先での危険箇所を点検して全職員で共有した。3か月一度の割合で新たな危険箇所を全職員に周知しマップの更新をした。 ・園外保育時はハザードマップを事前に確認し、都度ダブルチェックで人数確認を行った。また現地では事前に危険物の有無を点検してから遊び進めた。 ・当日の怪我は全職員に周知し、予防と改善について話し合い、その後の適切で丁寧な保護者対応に繋げた。 ・プール時の監視2名の配置体制を徹底すると共に、事前の事故対応のロールプレイを実施し職員の意識を高めていった。 ・バス乗降の前後と乗降時の職員配置と安全のための配慮について全職員で周知した。 ・消防署による救急救命の講習会をエリアで開催し、全職員が取得した

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は大学や専門学校から実習生を3名、近隣中学校2校から職場体験の18名の依頼を受けた。

実習生には子どもの育ちに合わせた保育者の関わりや支援の仕方、また保育園の役割について学ぶ場を提供した。中学生の職場体験では、保育士の仕事に興味を持って体験を希望する学生に、子どもと関わる楽しさを十分に感じてもらえるように対応し、次世代の育成支援を行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月5～16日	筑波研究学園専門学校	1人	責任実習
7月3～19日	東京未来大学	1人	責任実習
10月23日～ 11月8日	帝京平成大学人文社会学部 児童学科保育幼稚園コース	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月25～27日	学園の森義務教育学校	8人
7月31/8月1日	春日学園義務教育学校	10人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 24名	16日 23名	20日 22名	18日 22名	15日 22名	19日 22名	17日 23名	21日 23名	19日 24名	16日 23名	16日 23名	21日 23名
マニュアル研修	18日 24名	16日 23名										
成長記録活用研修					15日 22名	19日 22名	17日 23名					
自らの学び発表研修		16日 23名	20日 22名	18日 22名	15日 22名	19日 22名	17日 23名	21日 23名	19日 24名			
保育計画研修								21日 23名	19日 24名			
保護者による就学に向けて							27日 15名					

の研修												
さくらさくら んぼリズム研 修 (web)									11日 13名			
さくらさくら んぼリズム研 修 (香取台)									15日 3名			

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月10日/17日	つくば中央消防署	普通救急救命講習	13名	<input checked="" type="radio"/> 有 or <input type="radio"/> 無
12月4日/ 12月13日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	有 or <input checked="" type="radio"/> 無
1月10日/ 1月22日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	有 or <input checked="" type="radio"/> 無
12月18日	つくば市子ども部	園外活動の見守り講習会	2名	<input checked="" type="radio"/> 有 or <input type="radio"/> 無
令和4年前 期・後期	茨城県	茨城県保育士キャリアア ップ研修	7名	<input checked="" type="radio"/> 有 or <input type="radio"/> 無
2月7日	つくば市教育局学び推進部	令和5年度幼児教育と小学 校との連携・接続の研修	1名	<input checked="" type="radio"/> 有 or <input type="radio"/> 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施 (全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	参加者なし											

デンマークインターンシップ

参加者なし

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉「自らの学び」をアウトプットする場の構築

園会議の5～12月の8か月をかけて、毎月2～3名ずつ、一人1回を目標に、本やSNSなど様々なツールから得た学びを、自分なりの方法で皆の前で発表する機会を設けた。学びを形にして人前で分かりやすく伝えるための言葉選びや自分らしい創意工夫が見られ、互いのスタッフの新しい一面を知る機会となった。楽しい学びの場であったと同時に、この経験が自信となり自分の確かな力に繋がった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

商店街ツアーでは、コロナ禍が明けたことにより、事前にお店に連絡を取ることで快く受け入れをしてくださるところが多く、子どもたちは様々な仕事を間近で見学し、お話を聞く機会を得た。老人施設訪問では、短い時間ではあったがお年寄りと逢って言葉を交わすことができた。子どもたちが制作したお正月飾りや敬老の日のプレゼントを渡すと、大変喜んで頂けた。交通安全教室では、つくば市交通課の方々に、また不審者侵入訓練では、交番の警察官に、本園にご来園頂き、交通ルールや不審者対応の講話と指導を頂き、子どもたちも熱心に耳を傾けていた。その他には、地域の方を招いてシャボン玉ショーやジャグリングを実施して子どもたちとの交流を楽しんだ。また高速道路公園の依頼を受けて、5歳児が守谷SAの花壇の花植えの手伝いを行い、地域に役立つ活動を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：みはらし公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ミートコ、筑波ハム、仙七、カスミ、ケーズデンキ、研究学園駅前交番、つくば市中央消防署、研究学園郵便局等
世代間交流	5月8日に本園にて地域のお兄さんを招いてジャグリングを見学 9月25日に老人施設「新つくばホーム」を訪問実施 12月27日/1月4日に近隣挨拶回りを実施 9月21日に本園にて地域の方を招いてシャボン玉ショーを実施

異年齢交流	12月14日に本園にて「正月飾り作り」を実施 12月22日に本園にて「ならせ餅」を実施 1月12日に本園にて「どんど焼き」を実施
その他活動	5月9日にアイビー保育園が「田植え」体験に来園 6月26日/1月9日に本園にて交通安全教室を実施 9月19日にアイビー保育園が「稲刈り」体験に来園 9月29日にアイビー保育園に招かれ、まぐろ解体を一緒に実施 10月17日に5歳児が守谷 SA の花壇の花植えに参加 11月9日に守谷どろんこにてエリア合同収穫祭を実施 11月24日に本園にて警察官による「不審者侵入訓練」実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

4月には近隣校から職員が授業参観の招待を受け、6月には別の近隣校から子どもへの運動会見学の招待を受けるなど、年度初めから活発な交流が再開した。また秋から冬にかけては、2校から子ども間交流の一環として小学校1年生の授業に招かれ、一緒に遊ぶなどの交流が持てた。また年度末の3月には他の学校から、校内見学や小学校紹介のご招待を受け、子どもたちは恵まれた連携の中で就学への期待を膨らませることができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月11日	春日学園義務教育学校	2名	新年度挨拶	職員間交流
4月25日	研究学園小学校/ 学園の森義務教育学校	2名	新年度挨拶	職員間交流
4月28日	研究学園小学校 1年	2名	授業参観（1年生）	職員間交流
6月13日	学園の森義務教育学校	職員2名 子ども 32名	運動会見学	子ども間交流
11月29日	春日学園義務教育学校 1年	職員2名 子ども 15名	授業参加	子ども間交流

12月4日	研究学園小学校	職員2名 子ども 15名	授業参加	子ども間交流
3月	学園の森義務教育学校 1年2組	職員2名 子ども 15名	校内見学・学校紹介	子ども間交流
3月	就学先全校		5歳児15名の就学先に保育要録を提出	職員間連携

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度開催なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

進級及び小学校への引継ぎなし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	4名	36名	357名	3名	16名	21名	10名	6名	19名	38名	25名	539名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計3件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	4名
どろんこ 芸術学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計3回実施済み												
	参加者延べ人数												

どろんこ 自然学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	10名	2名	0名	0名	0名	4名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：みはらし公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	2名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	7名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名 ペリージョンソンホールディングス株式会者に依頼してISO9001：2015を受審済み
 経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：11月30日に実施

(省察) 園審査の結果、指摘事項なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月23日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み

自己評価開始時刻：12時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：瀧澤佳子、菊地敏子、飯泉日南子、間中菜月

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察) 保護者への気持ち良い挨拶や保育者からの受け入れ時の聞き取りについては90%のご家庭が満足との回答を頂きました。また保育内容の活動の流れは明確で分かりやすいとの回答も90%あり、園の保育内容を十分にご理解いただけている結果となりました。保育環境については昨年度に比べて改善され、園内の清潔で整頓され、子どもにとって安全な環境が保たれているとの高評価をいただきました。しかしながら、スタッフ間での情報共有について20%程度のご家庭でご満足いただけていない結果があったので、今後の改善事項としていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

今年度の報告すべきご意見や苦情はなし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：つくばどろんこ保育園 施設長 瀧澤 佳子

2023年度 岩切どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

①一人ひとりの育ちを大事にする

一人ひとりの育ち今を大事にし、これからを見据えながら丁寧に関わることを実践してきた。スタッフ間での子どもの姿の共有も行ってきたが、十分に共有できていない部分もあった。次年度はより細かく共有できるよう対話の場を積極的に設け、一人ひとりの育ちを大事にした保育を展開していく。

②子どもの生きる力を育む基本活動、環境教育の実践

生き物の世話、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズムは日課として定着してきている。一方で9時出発や畑仕事に関しては、取り組み方に課題が見られる。子どもや職員の動線を整理し日課としての定着を確立していく。

③子どもの「やってみたい」を実現する保育

環境の再構築を繰り返し、また、遊びの場を設けることで自分のやってみたいことへ挑戦する姿がある。ある物を使って考えながら遊びを展開する場面もあった。あらためて、物的環境、空間の設定の大事さを感じるとともに課題もあった。引き続き、環境を整えながら子どもの「やってみたい」が実現できるようにしていく。

④学ぶ、考える、協働するなかでのにんげん力UP

様々な活動の中で、子どもなりに考え、学び遊びを展開したり継続したりする様子が見られた。その中でスタッフの学ぶ、考える、協働することでのにんげん力UPも重要である。次年度は子どももスタッフもにんげん力がUPする保育実践を目指していく。

⑤保護者の心に入り込んだ接遇、美観

接遇に関しては挨拶や対応の仕方など少しずつ丁寧な立ち振る舞いがスタッフに身につけ実践している様子がある。しかし、心に入り込む接遇まで到達していない部分が多い。良いところは伸ばしつつ、

課題感はスタッフで学びを深めながらより良い接遇を行う。美観に関しては、必要ないものを整理するなど美観を整える意識をして取り組んできた。今後は誰もが同じ基準で整えられる美観意識をさらに高めていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	基本活動の取り組みの確立
	実践結果	取り組む時間帯、取り組み方などを明確にしてきたことで明確になり生き物の世話や畑仕事など基本活動の定着してきた。

	次年度方向性	9時出発がまだ定着しきれていない部分があるので9時出発をするためにはどうすべきか逆算で行動を考え実行していく。 子どもの大人もやるべき役割、やるべきこととして日々取り組むよう活動の理解を深める。
2	計画・ねらい	養護を大切にしたい関わり
	実践結果	園会議や週会議などの場で養護について話しながら理解を深め保育の実践にいかせるようにした。
	次年度方向性	引き続き、学び続け養護の視点を充実させ子どもが心地よく安心して過ごせる場所や安心できるスタッフになるようにする。
3	計画・ねらい	小学校の丁寧な接続へむけて、保育指針、アプローチカリキュラムの理解を深める
	実践結果	アプローチカリキュラムを作成し、担任間で共有しながら就学へ向けた取り組みを行う、5歳児と小学校1年生の授業を見学させてもらう取り組みをした。
	次年度方向性	年度の早い時期に、スタッフが小学校授業見学をさせてもらうことで、接続へ向けた取り組みに具体的にイメージを持ちながら逆算して活動を計画していけるようにする。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	すべての始まりは挨拶から
	実践結果	相手に聞こえるように、立ち止まり頭を下げて元気に挨拶をすることを実践してきた。迎え入れられるという安心感を得てもらえるように丁寧な対応を心掛けた。
	次年度方向性	社会人として基本的なことであるが、挨拶が一番大事であるので引き続き元気に挨拶をすることをモットーに丁寧な対応を実践していく。
2	計画・ねらい	落ち着いた誠実な保護者対応
	実践結果	保護者対応をする際、急がず落ち着いた対応をすることで保護者も話しやすい雰囲気を作ることが心掛けていたが、送迎時の混雑する時間帯になるとせわしなくなってしまうところがあった。
	次年度方向性	お迎え伝達の仕方の工夫を検討し、落ち着いた立ち振る舞いで対応できるようにする。
3	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った保護者支援
	実践結果	お迎え伝達の際、できるだけ細かくお子さんの様子を伝えながら保護者とコミュニケーションを図り寄り添った対応を意識しながら取り組んだ。
	次年度方向性	遊びの面、生活面など一人ひとりのお子さんの姿を把握するため、担任間での子どもの姿の共有を密にし、こまやかな子どもの姿の伝達をする中で保護者とともに成長を喜んだり、困り感を一緒に考えたりしながら支援を行っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園開放等の子育て支援活動の広報拡大
	実践結果	地域の子育て支援ネットワークの会議や自治体のホームページでの広報は行ったが、ちきんえっぐだよりを近隣施設に配布し広報活動を計画していたが、実施できていなかった。
	次年度方向性	近隣施設(児童館、市民センター等)への広報活動を積極的に行い地域に開かれた子育て支援活動を実践する。
2	計画・ねらい	地域のネットワークの活用
	実践結果	岩切子育てネットワーク主催のお祭りのお手伝いをするなどし、地域との関わりを育んだ。
	次年度方向性	岩切子育てネットワークの SNS で可能な範囲の情報提供を行い、地域に根付いた活動が実践できるようにする。
3	計画・ねらい	園紹介の作成
	実践結果	毎年、市民センターにて園紹介の掲示をさせてもらっていたが今年度は実施がなかった。園紹介はなかったが、塗り絵や製作物の展示などを行った。
	次年度方向性	次年度も、岩切地域の活性化を意図とし依頼があった取り組みには積極的な参加を目指していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	法人の基本方針の理解を深める
	実践結果	日課の取り組みについて振り返りを行い、共通認識、共通理解を深める。活動によっては、子どもたちへの働きかけが十分でなく、取り組むに差が見られた。
	次年度方向性	スタッフの理解は進んでいるので、日課のやるべきこととしての意識を大人も子どもも持ちながら取り組んでいく。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP
	実践結果	挑戦することに消極的な様子はあるが、コミュニケーションをとる中で各々のやりたいことを引き出していった。実践したことで保育の楽しさを感じ、意欲へつながった部分もあった。
	次年度方向性	日々のコミュニケーションの中でスタッフの挑戦したいことを引き出していき、保育を楽しみながら自分で保育を展開する推進力を身につけ、にんげん力 UP につなげる。
3	計画・ねらい	次世代のリーダー育成

実践結果	施設長が前に出るのではなく、リーダーが中心となり保育を進めていく意識を共有しながら業務をし、育成に努めた。自ら発信するなどリーダーは役割を理解し他のスタッフとの関わりを持つ部分もあった。
次年度方向性	年度の初めに施設長がすべきこと、リーダーがすべきことを確認することで役割のすみわけをする。役割を理解し、スタッフを巻き込みながら推進する力を培い次世代の育成を行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物の糞による堆肥づくり、調理くずによるコンポストにおいて食の循環や環境への意識を育む
	実践結果	ヤギの糞によるたい肥をつくり、畑を耕す際に活用する。コンポストは給食のスタッフが取り組みを実施したが、子どもとの取り組みまで十分に行えていない部分があった。
	次年度方向性	引き続き、ヤギの糞等でたい肥作りを実施していく。コンポストは給食スタッフと連携を図り、子どもと一緒に取り組めるよう充実を図る。
2	計画・ねらい	子ども自身が配膳することや食育体験、食育への取り組みを通し食べ物の大切さを知り、残渣を減らす取り組みの実践
	実践結果	食べられる量を把握し、配膳するようにしたことで残渣は昨年に比べ減っている。
	次年度方向性	食育などを通して、食材の大事さを知らせながら残渣を減らす取り組みを引き続き実施していく。

〈6〉チーム保育

1	計画・ねらい	同僚性を高める
	実践結果	クラスでの話し合いや園会議などで同僚性が高められる研修を実践する。
	次年度方向性	会議などでの話し合いの場だけでなく、子どもや保育について語る場を積極的に設けていく。
2	計画・ねらい	Trial and Error からの学び
	実践結果	保育にについて話し合う場をクラスごとに設け、スタッフのやりたいことを引き出し実践につなげた。実践したことで達成感につながる。
	次年度方向性	引き続きクラス等で話す場を設け、スタッフのやりたいことを実践できるようサポートし、スタッフがいきいきと保育ができるようにする。
3	計画・ねらい	あたりまえの保育を見直す
	実践結果	養護面など学び、丁寧な関わりを実践しようとしている。実践に対し互いに振りかえることも実践に向けていた。

	次年度方向性	ゆとりを持った保育の展開をするにはどのような関わりが必要かをチームで話し合いながら、日々の保育をあたりまえとせず質の向上に向けていく。
--	--------	---

〈7〉 接遇、美観

1	計画・ねらい	思いやり、誠実さ、謙虚さなど心を込めた立ち居振る舞い
	実践結果	来客が来た際の対応など、徐々にではあるが心を込めた立ち振る舞いが実践できるようになってきている。
	次年度方向性	“相手はどうか”を意識しながら、次年度も思いやりや謙虚さをもった立ち振る舞いを行う。
2	計画・ねらい	必要な物以外置かない美観の徹底
	実践結果	不要なものはだいぶ減ったが、美観を保つ部分では継続できていないところがある。
	次年度方向性	園全体で同じ視点を持ち、整理整頓ができるようあるべき状態を可視化することで同じ認識を持ち取り組めるようにする。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4～9月	49人	101人	108人	122人	111人	120人	608人
年度後半： 10～3月	54人	108人	108人	132人	110人	126人	638人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	25人	401 人	543 人	489 人	444 人	374 人	432 人	387 人	432 人	406 人	400 人	400 人	4733 人
うち0 歳児	0人	0人	1人	2人	0人	1人	3人	4人	26人	5人	5人	5人	52人

（解説）2月、3月は見込みの数値

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	21人	18人	18人	18人	11人	18人	18人	27人	30人	16人	18人	18人	231人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	12人	6人	5人	6人	6人	37人

(解説) 2月、3月は見込みの数値

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修(事業計画記載のテーマで研修)
給食運営会議	月1回	食事の様子 アレルギー児の確認 食育活動の共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの分析 危機管理等の共有
ケース会議	月1回	要支援児の現状と課題の共有
週会議	月1回	各クラスの子どもの様子の共有 運営面での共有

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症予防に関する衛生管理 感染症流行時の情報発信、共有
安全対策係	施設内、外の設備、遊具の点検 安全管理 スタッフの危険認識の共有
防火管理者	災害を想定した訓練の実施 設備の点検
食品衛生管理係	マニュアルに基づいた衛生管理 給食の提供
畑係	畑計画の作成 年間を通じた畑の管理 種、苗の購入
生き物係	飼育の管理 堆肥作り エサの管理、購入

〈4〉 行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	サポーターズと協同での企画、運営 地域を巻き込んだ行事の実施
岩切市民まつり	岩切市民まつりのお手伝い ブース展開

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<p>【乳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの欲求を満たし、情緒の安定を図る ・新しい生活に慣れ、生活リズムを整えながら安心して過ごす ・身近な大人との信頼関係のもと様々なことへの興味関心を育む ・自ら様々な事象に関わり、感性を豊かにする ・身近な大人との信頼関係が構築され、自分の気持ちを安心して表出する ・一人ひとりの遊びを保障していく <p>【幼児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な習慣を身に付けていく ・興味関心を持ったことに自ら関わり主体的に遊びを進めていく ・言葉や行動で自分なりに思いを伝えようとする ・話し合ったり、試行錯誤したり仲間と協働で遊びを進める力を育む ・自己決定しながら主体的に生活する ・自分で考えたり、工夫したり、判断したりしながら創造性を培っていく
保育参加	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点) ・子どもの姿の共有
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点) ・保育園生活の中での姿の共有

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑仕事、食の循環、環境へ自ら関わろうとする意欲を育む 加工する食育体験活動を通して食材に興味関心を持つ
	実践結果	堆肥作りは子どもたちと一緒にいながら食に対する意欲を育てていった。素材そのものや、加工する過程を知る活動を行うことで食材や食への興味関心を広げていた。
	次年度方向性	次年度はコンポストを子どもと一緒に取り組む活動を充実させていく。
2	計画・ねらい	家庭的な雰囲気の中で大人も子どもと一緒に食べる 一人ひとりに合わせた食事、食生活を整え食への意欲を育む

	実践結果	食べたい人と食べたいものをおいしく食べられる環境を整えた。家庭と連携を図りながら一人ひとりの食事の様子に努めた。
	次年度方向性	家庭での様子や園での様子をさらにこまやかに伝えあい、食事の環境を整えていく。
3	計画・ねらい	四季や伝統行事の食を知る食育活動の実施
	実践結果	旬の食材や伝統行事の食事など食育活動を通して知らせ、季節を感じる機会を持っていた。
	次年度方向性	次年度も伝承行事等を通して季節を感じる機会を積極的に設けていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月13日／10月12日に実施
歯科検診	6月1日に園会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月1日に園にて歯ブラシ指導を実施 ② 11月1日に園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	① 9月にインフルエンザA型、園児24名・スタッフ4名蔓延し、仙台市へ報告
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月31日までに園にてエピペン研修を、新入スタッフ計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
その他保健に関する取組	感染症蔓延予防のため、手洗い指導を行う。また、消毒、換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/4月13日、10月12日 歯科健診 各年1回/6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月26日、10月23日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理整頓された居心地の良い場を作っていく。
	実践結果	清掃チェック表の改定を行い、実施しやすい形に見直す。内部監査チェック表も活用しながら整理整頓に努めた。

	次年度方向性	常に整った環境作りを実践できるように、可視化することで場を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもが主体的に関わったり試行錯誤したりできる環境作り
	実践結果	ゾーンについて学び、環境の再構築を実践してきた。子どもと一緒に環境を作っていくことで試行錯誤しながら遊びこめるように場を整えた。
	次年度方向性	乳児も幼児もその時の子どもの姿に合わせて、遊びの場の再構築を都度行い、環境を整えていく。
3	計画・ねらい	消毒、換気、室温湿度の管理の徹底 安全管理の徹底
	実践結果	感染症蔓延防止における消毒、換気、室温湿度の管理を行った。 手作り遊具は経年劣化を想定し点検を実施するとともに、必要に応じて取り壊しを実施した。
	次年度方向性	手作り遊具、玩具の日々の点検を実施し安全面に配慮する。残り少なくなってきたが、残っている手作り遊具の取り壊しを実施する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	岩切ビックウエーブ	園庭	毎日	異常なし 11月ごろに半分解体・撤去
2	吊り橋	園庭	毎日	異常なし
3	小屋	園庭	毎日	異常なし
4	製作テーブル	1階保育室	毎日	異常なし
5	ドリームハウス	1階保育室	毎日 ※経年劣化、環境改善の視点から5月31日までに解体処分をする	5月末に解体・撤去
6	乳児用雲梯	2階倉庫	毎日	異常なし(現在使用なし)
7	レゴ台	1階保育室	毎日 ※経年劣化のため6月30日まで解体処分予定	異常なし 解体準備ができ次第解体予定
8	お一人様コーナー	1階保育室 2階保育室	毎日	異常なし
9	ベンチ	2階保育室 園庭	毎日	異常なし
10	丸太の平均台	2階保育室	毎日	異常なし
11	ハイハイスロープ	2階保育室倉庫	毎日	異常なし
12	太鼓橋	2階保育室	毎日	異常なし
13	本棚	1階保育室	毎日	6月ごろに解体・撤去

14	カウンターテーブル	ちきんえっぐ	毎日	12月ごろに解体・撤去
----	-----------	--------	----	-------------

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	園庭遊具、室内遊具とも手作りのものに関しては毎日点検を行う。点検の際に劣化や危険箇所があった際には使用中止とした。
2	実践結果	毎月様々な災害を想定した避難訓練を実施することで非常時にも速やかに対応できるよう訓練を実施した。
3	実践結果	怪我や事故が発生した場合には、都度検証と分析を行い同じことが起きないようにスタッフ間で共有する。自園、他園の事故記録簿の共有し再発防止に努めた。
4	実践結果	不審者侵入に備え、ピンクタスキの役割の意味を定期的に確認した。
5	実践結果	ハザードマップ、ルートマップの見直しを年4回実施した。
6	実践結果	事故防止委員会での自園の事故、ヒヤリハットの検証と分析を実施。危機管理の共通理解。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生、職場体験を含めたくさんの学生の受け入れを行った。実習や体験を通して、子どもと関わる楽しさを感じてもらうことができ、実りのある実習、体験になった。引き続き、次年度も安心して楽しく実習や体験ができるよう環境を整えていく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月3日～14日 7月25日～8月8日	聖和学園短期大学	1人	観察・参加実習 責任実習
5月8日～19日 8月21日～9月1日	尚綱学院大学	2人	観察・参加 実習 責任実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
11月16日～17日	利府町立しらかし台中学校 利府町立利府中学校	5人

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	20日 22名	18日 20名	15日 20名	20日 20名	17日 20名	21日 20名	19日 23名	16日 22名	21日 22名	18日 23名	29日 23名	25日 23名
園内研修	20日 18名	18日 16名	15日 16名	20日 16名	17日 14名	21日 16名	19日 16名	16日 16名	21日 16名	18日 16名	21日 20名	21日 20名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月18日	園長大学®保育士大学講座	SIDS 家族の会から学ぶ命の重さ	14名	無
12月21日	園長大学®保育士大学講座	保育を嫌いになりそうになった時の処方箋	15名	無
1月12日～13日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	2名	有
1月14日21日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	1名	有
2月3日～4日	保育士キャリアアップ研修	食育・アレルギー対応	2名	有
2月19日26日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
3月1日～2日	保育士キャリアアップ研修	障害児保育	2名	有
3月8日～9日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	3名	有
3月23日～24日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣の児童館や異世代交流で交流を持った学校にどろんこ祭りに参加してもらった。交流が一度で途切れることなく、継続した交流の場を持つことができた。感染症の流行等で、高齢者施設とはなかなか交流を持つことができなかったが、引き続き連携をとり実施に向けていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 一号公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先: カワチ、コープ、洞ノ口交番、サイコー等
世代間交流	8月22日に園にて高校生と畑仕事を実施
異年齢交流	1月26日に岩切小学校にて授業体験を実施
その他活動	6月2日に園周辺にてサイコーのスタッフとゴミ拾いを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学に向けて年長児が授業を見学したり、参加させてもらったりする機会を設けることができた。次年度も、子どもの学校見学とスタッフの授業見学を実施したいと考える。アプローチカリキュラムを作成し、就学へ向けてスタッフ間で取り組みの共有を行った。幼保小連絡会では、就学児の情報共有を丁寧に行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月15日	岩切小学校	1名	保幼小連絡会（岩切小学校）	職員間交流
1月26日	岩切小学校 1年4組	21名	岩切小学校	学校見学・子ども間交流
2月2日	菅谷台小学校	1名	保幼小連絡会（菅谷台小学校）	職員間交流
2月13日	南材木町小学校	1名	保幼小連絡会（南材木町小学校）	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの姿をスタッフ間で共有しながら、個別支援計画のもと関わっていく。保護者とも様子を伝えあうなど連携を図りながら支援についての見直し等も行う。月1回ケース会議を実施し現状の課題や支援について話し合いをする

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計9回開催 参加者：6名

子どもの姿からの現状の課題、支援についての共有。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保幼小連絡会の資料作成や情報共有、保育児童要録の作成を行う。進級、就学へ向けて保護者と連携を図る

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	9名	2名	0名	2名	6名	2名	0名	0名	0名	0名	21名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：一号公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：スタッフ全員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

お迎え時の対応について、お待たせしてしまう点や伝達内容の充実という点において十分な対応ができていないところがあった。一方で、これまでより具体的に伝えてくれるスタッフが増えたというお話もあった。園会議にて、よりよい伝達の伝え方の研修を実施やロールプレイをしながら改善に努めた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見:0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）：0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：岩切どろんこ保育園 施設長 山本 明子

2023年度 メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

今年度、大きく2つの方針を軸に一年をスタッフと子どもたちと過ごした。

1つ目の「日課を心から感じ、やってみたいを形に」という目標は、「日課」を生活習慣として捉え、そこから様々のことに「やってみたい」気持ちを持って取り組んでいけるよう、日課の状況を見直し、自然な形でスタッフ、子どもたちが取り組み続けたことで、少しずつ丁寧な日課として取り組むことができた。また、日課による成長が、日々の遊びや活動に活かされる場面も多々あり、焼き芋体験やお店屋さんごっこなど子どもたちのやりたい声を拾い、スタッフと一緒に考えながら進める場面も見られた。一方で、玄関先での人数確認や準備などスムーズな散歩出発がなかなか上手くいかず、時間内の出発が難しいことが浮き彫りとなった。次年度は十分な戸外活動を確保できるように、スムーズな散歩出発をどのようにすればよいか、心掛けることは何かをスタッフ全員で考えていけるようにする必要があると感じた。

2つ目の「どろんこ会の子育てを、地域の方々とともに」は、スタッフ間の連携や産休に入るスタッフなど体制が落ち着かない時期が続き、地域への発信がなかなかできなかったのが現状にあった。立地的には良いものの、幅広く発信をしないと集客が望めないことが改めて浮き彫りしたため、次年度はスタッフ全員で地域に向けて自園の良さ、法人の良さを発信し続ける体制を整えていきたい。

しかしながら、今年度は小学校との連携をとることができ、授業参観や研究授業の参加、小学校探検の実施を進めることができた。引き続き、良好な関係を維持していけるようにする。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	定期的な日課・基本保育活動の見直しと実践
	実践結果	各学年、定期的な話し合いの場を設けることができ、そこで日課や次週の活動内容などを話し合い、実践できるようになってきた。
	次年度方向性	定期的な話し合いだけでなく、日々の保育でもスタッフ間で都度対話し、見直していく意識をもてるようにしていく。
2	計画・ねらい	週に一度は「やってみたい」を形にしていく実践を行う
	実践結果	日々の遊びの中で、子どもたちのやりたいことを公園などで楽しめるように心掛けていたが、大々的な活動や取り組みは少なかった。
	次年度方向性	協同的な学びに繋がるよう、見通しを持った関わりの中で子どもたちの興味関心を引き出せるように、子どもを「知る」ところから探求していく姿勢をつくっていく。
3	計画・ねらい	保育者同士の語り合いの場を定期的につくる

実践結果	定期的な話し合いの場を設けることができ、日課や活動内容の修正を行うことができた。
次年度方向性	話し合いの場をつくることはできたが、話し合いの内容をさらに深められるよう、コーディネートする力を養えるようにしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	玄関対応にて必要な情報を正確・丁寧にお伝えする
	実践結果	玄関担当のスタッフを増やし、昨年度より丁寧な関わりを意識してお伝えすることができた。
	次年度方向性	お迎えが重なった際に、玄関の状況と保育現場の状況を共有することが難しく、臨機応変な対応が確立されていないため、どのように各所を補い支えていくか体制を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもの発達において正確な情報を発信していく
	実践結果	玄関担当のスタッフを増やし、昨年度より丁寧な関わりを意識してお伝えすることができた。また、スタッフも笑顔で保護者に様子を伝える場面も増えてきた。
	次年度方向性	日々の遊びの様子のみならず、遊びからどのような成長が垣間見られたか、端的且つ丁寧に話ができるよう、遊び、発達の探求をスタッフ自らが行えるようにしていく。
3	計画・ねらい	年間行事など、必要な情報をこまめに発信
	実践結果	タイムラインでこまめに発信していたが、利用者アンケートにて逆に見逃しやすいというご意見をいただいたため、今後はおたよりと併用して活用していく。
	次年度方向性	おたよりとタイムラインを併用し、適宜必要な情報を発信し、保護者が困らないような体制をつくっていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐの活動内容を積極的に発信
	実践結果	人員体制が安定せず、積極的な発信にまで至ることができなかった。
	次年度方向性	スタッフ一丸となって、ちきんえっぐ内容を地域に向けて発信する体制を整えていく。
2	計画・ねらい	園庭開放の充実を図る
	実践結果	人員体制が安定せず、積極的な発信にまで至ることができず、園庭開放も同じ状況だった。

	次年度方向性	スタッフ一丸となって、ちきんえっぐ内容を地域に向けて発信する体制を整えていく。
3	計画・ねらい	誰もが参加したくなる活動を選択
	実践結果	策定会議2日目で、参加しやすい活動を選択はしたが、スタッフの連携、産休スタッフなどもおり、積極的な発信にまで至ることができなかった。
	次年度方向性	スタッフ一丸となって、ちきんえっぐ内容を地域に向けて発信する体制を整えていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学の講話を園会議で視聴、学びの機会をつくる
	実践結果	園会議の際に、予め動画を視聴したうえで施設長が解説し、その内容に対し自身の保育を振り返る機会を設けた。
	次年度方向性	学びの機会を継続しつつ、自身の保育を振り返る、またはチームで振り返る場を園会議で設けていく。
2	計画・ねらい	保育を語る場をつくり、自身の保育のリアルを伝える
	実践結果	園会議だけでなく、週会議でも話せる機会をつくることができた。しかしながら、予定の確認に重きが置きやすく、保育の探求までに繋ぐには時間とファシリテーションのスキルが足らなかった。
	次年度方向性	普段から保育に対し対話できる関係性をスタッフ間で持てるように、日々の何気ない会話を大切にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	残食を軽減し、肥料として畑へ再利用する
	実践結果	コンポスト作成までには至らなかったが、残食軽減のため残渣記録を見つづ栄養士と相談し、食材量の調節を話し合い、実践することはできた。
	次年度方向性	コンポスト作成ができるよう、見通しをもった計画・実行していく。また、継続して残渣記録を併用して残食状況を把握していく。
2	計画・ねらい	畑活動を通し、野菜への興味関心、収穫した野菜を食育へと繋げる。
	実践結果	収穫した野菜を使って、サラダや焼き芋体験に繋げることができた。
	次年度方向性	収穫した野菜をより柔軟な食育に繋げるために、スタッフも子どもたちも栄養士も、楽しい環境、関わりを意識して展開していく。

〈6〉積極的な現場の指示

1	計画・ねらい	適切な保育マネジメントを行う
	実践結果	保育現場に入り伝える機会をつくっていったが、なかなか真似てみたり、参考にしたりするスタッフは多くはなく、逆にスタッフからの相談を主任と共有し導いていけるよう関わり方を変えたことで、自ら動き出すスタッフが少なからず出てくるようになった。
	次年度方向性	スタッフ間にどれくらい介入するか、距離をどの程度保つかを見極め、引き続き適切な関わりを意識していく。
2	計画・ねらい	具体的なアイデアを形にする援助
	実践結果	スタッフの「やりたい」ことを形に叶えられるよう、親身に話を聞き、一緒に実践まで繋げられるように関わった。
	次年度方向性	引き続き、スタッフの「やりたい」ことが何かを引き出せるような関わりを意識していく。

〈7〉物事を俯瞰して判断する

1	計画・ねらい	一人で判断できないものは、仲間と共有する
	実践結果	主任、事務、リーダーに都度情報を共有するよう努め、時折自身の判断を聞いてもらったことで、合理的且つ納得のいく判断が少しずつできるようになった。
	次年度方向性	俯瞰意識を高く持ち、冷静且つ相手の立場で考えたうえで判断、発信できるよう今後も意識していく。
2	計画・ねらい	様々な情報の中で、自身の芯なる答えを伝える
	実践結果	スタッフのやりたいことを叶えられるよう、園の長としてスタッフ間、保護者、法人へ発信するよう努めた。
	次年度方向性	自身の考え、園としての考えを分けて考えるようにし、場面に合わせた回答、発信に今後も努めていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	12人	18人	18人	20人	17人	91人

年度後半： 10~3月	6人	12人	17人	16人	19人	17人	87人
----------------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	256 人	288 人	300 人	297 人	258 人	324 人	355 人	374 人	323 人	352 人	330 人	300 人	3757 人
うち0 歳児	25人	14人	25人	30人	30人	29人	38人	42人	27人	28人	25人	30人	343人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	38人	29人	42人	18人	22人	18人	5人	4人	3人	6人	6人	6人	197人
うち0 歳児	17人	21人	31人	13人	14人	12人	2人	3人	1人	0人	0人	1人	115人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	施設長	1人	主任	1人				
パート スタッフ	保育士	2人	事務	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修 ・各月の保育振り返り(環境再構成含む)
給食運営会議	月1回	翌月の食育体験、献立等の共有
事故防止委員会	月1回	当該月のインシデント、事故記録簿の怪我・事故傾向の共有
ケース会議	月1回	気になる子どもたちの情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健衛生関連の情報発信、それを保育内に取り入れることができた。
安全対策係	室内遊具の安全点検の実施、事故記録簿等から危険行動や危険箇所の情報を共有し、スタッフ間で意識して気を付けることができた。

防火管理者	消防設備の点検、避難経路の確認、大災害時の対応共有
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに沿って給食を提供
畑係	年間農業計画に沿って種付け、収穫
生き物係	今年は昆虫等に触れ合うことはできたが、飼育までには至らなかった
美化委員会	各種掃除箇所の押印確認、掃除重点箇所の発信

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポの方々と協力しながら、準備から開催まで一緒に行うことができた。次年度は保護者の方々が主軸で開催できるようサポートしていく。
運動会係	事前準備があまりスタッフ間で共有が遅いことがあり、前日に慌ただしく準備をする様子があったが、当日は無事怪我もなく行うことができた。
生活発表会係	運動会の反省を受け、事前準備から計画的に進めることができた。しかし、総練習や内容の吟味、施設長主任の助言・共有が遅かった。
卒園式係	各準備物を担当振り分けし、適宜進捗を確認、卒園式の練習状況を共有しながら全員で進めていった。
入園式係	花の手配や装飾準備を担当スタッフが中心となって進めた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの「やりたい」をできるだけ汲み取り、遊びへ繋げていけるようにした。 ・子どもたちの動線を考え、日々環境構成を考え、展開した。 ・散歩距離を伸ばしつつ、子どもたちのやりたい遊びを見据えて、活動場所を選択するようにした。 ・発達に合わせた遊び、関わり方を意識し、一人ひとりが丁寧さを持って子どもたちに関わるよう努力した。
----	---

保育参加	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点) ・特に大々的に保護者へ案内をしていないため、次年度は掲示などで気軽に参加できるようにしていく。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点) ・発達支援センターの情報共有や園での成長の様子を保護者と共有し、園と家庭でどのように援助していくかを話し合った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	温かい雰囲気の中で、子どももスタッフも食事の時間を楽しく過ごす
	実践結果	年度後半からは、給食室の先生方も一緒に子どもたちと昼食をともに食べることができ、楽しい雰囲気の中で食べることができた。
	次年度方向性	子どもたちと一緒に食べる中で、どこにねらいを持って子どもたちと関わるのか、発達や育ちを見据えながら柔軟に援助、介助して引き続き温かい雰囲気を持って過ごせるようにしていく。
2	計画・ねらい	出汁の粉末をみそ汁に入れたり副菜に和えたりするなど、食材を再利用し最後まで活かす
	実践結果	出汁に使ったかつお等を粉末にしてふりかけをつくってスタッフが食べるなど、食材の再利用を大人側で活かすことはできた。
	次年度方向性	子どもたちも再利用を意識としてもてるように、食材がどのように再利用できるかを一緒に考えていけるよう、食育とからめながら柔軟に保育計画を立てられるようにしていく。
3	計画・ねらい	自分の食べる量を、自分で決めていく
	実践結果	年度後半は2歳児も自分で盛り付ける様子も見られ、全体的に自分で食べる量を見て盛ることはできていたが、盛りすぎたり、少なすぎたりするなど、極端な盛り付けも見られた。
	次年度方向性	保育者や栄養士が、適宜子どもが盛り付ける際に言葉を掛け、適量を盛り付けられるような指導を今後意識して行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月18日／10月17日に実施

歯科検診	6月21日にメリー★ポピンズ エスパル仙台ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月12日に自園にて歯ブラシ指導を実施 ② 12月11日に自園にて手洗い指導を実施 ③ 2024年1月12日に自園にて性教育を実施
流行した感染症	8月21日にインフルエンザ、園児34名・スタッフ6名蔓延し、仙台市へ報告。9月5日に終息
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、20名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	該当なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスが5類になったが、引き続き手洗いうがいを励行し、感染対策に努めた。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／4月18日、10月17日 歯科健診 各年1回／6月21日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自発的に日課を取り組めるような環境づくり
	実践結果	日課を毎日の習慣にできるよう、スタッフ間で連携をとりながら習慣化できるようになってきた。
	次年度方向性	日課の習慣化はできてきたので、時間のコントロールや散歩までのスムーズな準備、行動ができるよう意識していく。
2	計画・ねらい	協同的な学びができる環境設定
	実践結果	異年齢での関わりが主だったため、5歳児特有の協同的な学びの機会をつくるのが行事の前後が多く、自然発生的な学びの連続性を導くことが難しかった。
	次年度方向性	担任間、スタッフ自身の意識を高め、見通しを持った保育の形成、実践と振り返りができるようなチーム編成、対話を行えるよう指導、助言していく。
3	計画・ねらい	様々な遊びに仕掛けをつくる
	実践結果	遊びの環境を保障することはできたが、仕掛けづくりまでには及ばず、発展的な遊びは少なかった。
	次年度方向性	保育の営みが保障と発展性、連続性を加味したものになれるよう、スタッフ一人ひとりが保育及び育ちの見通しを持って関わられるよう、学びの機会と実践を担保できるような仕組みをつくっていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	竹馬スタンド	屋上園庭	毎日	今年度に廃棄
2	木製キッチン	屋上園庭	毎日	今年度に廃棄
3	レゴブロック用テーブル	幼児室	毎日	異常なし
4	製作ワゴン	幼児室	毎日	異常なし
5	室内ボルダリング	幼児室	毎日	各箇所修繕、異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難訓練(毎月)、総合避難訓練(年2回)の実施 計画通り実践することができた。
2	実践結果	事故防止(年4回)、設備点検(年4回)の実施 滞りなく、各箇所の点検を行うことができた。
3	実践結果	不審者侵入訓練(年2回)の実施 感染症が流行したため、2回目の日程を変更して行ったが、計画の内容通り行うことができた。また、警察の方の指導もいただくことができた。
4	実践結果	ビル全体避難訓練(年1回)の実施 滞りなく参加することができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は、非常に多くの実習生を受け入れることができ、スタッフにとっても学びある年となった。観察実習が主ではあったが、短い期間内でも丁寧に指導する場面が見られ、実習最終日にはスタッフを交えて懇談する機会を設け、温かい雰囲気の中で振り返りを行うことができていた。

また、中学校の職場体験を受け入れるにあたり、支援の必要な学生たちを受け入れる運びとなった。はじめ、スタッフに戸惑いが見られたものの、体験が始まると温かい気持ちで受け入れ、優しく指導する様子が見られた。

次年度も積極的に実習生等を受け入れ、保育の面白さ、尊さなどが感じられる期間にできるよう、善処していく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月13日～16日	東北労災看護専門学校	1人	観察実習

7月3日～6日	仙台こども専門学校	7人	体験実習
7月25日～28日	仙台医療秘書福祉専門学校	6人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月24日～26日	仙台市立富沢中学校	8人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 22名	31日 22名	30日 22名	31日 22名	31日 22名	29日 21名	31日 22名	30日 22名	28日 22名	31日 22名	29日 23名	29日 22名
園内研修	21日 8名	26日 18名	23日 18名	21日 16名	25日 13名	22日 12名	27日 6名	24日 16名	22日 16名	26日 17名	該当 なし	該当 なし

〈2〉外部研修への出席

- ・園長大学@保育士大学の動画視聴(園内研修にて活用)
- ・どろんこ会監修 東京都保育士キャリアアップ研修の受講(zoomにて受講、報告書提出)
- ・保育デザイン研究所監修 宮城県保育士キャリアアップ研修の受講(動画視聴、報告書提出)

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 0名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 0名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉職員個人別育成計画

3カ月に1回の割合で定期面談の予定だったが、中間面談、最終面談の2回にとどまってしまった。しかしながら、面談という形はとらなくとも、普段の会話や相談にはしっかりとスタッフの気持ちを受け止め、やってみたいこと、これから行う内容をともに確認しながら進めることができた。

一方で、全体周知の意識付けや、主任との連携など、細かな部分で至らぬ点も見られたため、次年度は個々の成長しようとしているところを見極め、的確な助言や指導を行えるようにしていく。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度、「身近にある憩いの場」としてテーマを掲げスタートしたが、人員体制をなかなか安定させることができず、スムーズなスタートを切ることができなかった。これらの流れから中々脱却することができず、なかなか地域交流の機会をつくることができなかった。

次年度は、改めて今年度の目標を維持しつつ、地域に根付いた交流の場を作れるよう善処していきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：五橋公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：榴岡図書館、いたがき、仙台朝市、仙台ガーデンパレス、ヨドバシカメラ、エスパル館外、ホテルメトロポリタン、阿部鮮魚店、榴岡天満宮、お茶の井ヶ田、仙台銀行等
世代間交流	2月8日に医療秘書福祉専門学校にて発表会を実施
異年齢交流	5月23日にリゾート＆スポーツ専門学校にて体育指導を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は毎年運動会で体育館をお借りしている、仙台市立東二番丁小学校との連携を多くとることができた。具体的には自園のスタッフが授業参観、研究授業の見学をさせていただいたこと、また、小学校を訪問し、学校体験を実施することができた。次年度も継続して関係を維持し、定期的な交流

へ結び付けていけるようになっていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月4日	仙台市立東二番丁小学校	1名	授業参観の見学	1年生の授業を見る。
12月12日	仙台市立東二番丁小学校	1名	研究授業の見学	1年生の研究授業を見る
1月17日	仙台市立東二番丁小学校	17名	学校探検	小学校の校舎内を見て回る

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

担当のスタッフを中心に定期的なケース会議、関わりと援助方法を話し合いながら、適宜修正、共有することができた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：3～5名

要支援の児童のみならず、気になる児童も含めケース会議にて援助方法の確認、修正、実践振り返りを行い、全スタッフへ共有した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への引継ぎは、幼保小連絡会及び児童要録を持って丁寧に引継ぎ内容を記載し、3/7（木）に完了した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	150名	1名	1名	0名	0名	1名	1名	0名	150名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計5件相談実施済み

自然食堂 親子ランチ 交流	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計0回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名												
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計0回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名												
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置																									
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																									
青空保育 （支援セン ター主催）	月1回 公園名：五橋公園にて 以下日程にて実施																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	0名	0名	1名	0名	2名	3名	0名	0名	0名	1名	0名	7名
	0名	0名	0名	1名	0名	2名	3名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	7名												

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時30分

自己評価実施者：施設長、主任、乳児リーダー、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察)

全体的に温かい言葉をいただいた一方、玄関対応の丁寧さや情報伝達の共有が弱いご指摘をいただいた。また「他の方に自園を紹介したい」というアンケートでは50%を切っていたため、利便性や立地だけでは園児獲得には繋がらず、改めて保育の質、及び保護者対応の質が問われる結果となった。以上を踏まえ、改めて保育・接遇に磨きをかけることを最優先事項とする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ(事故含む) 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日

作成者：メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム 施設長 中村 友紀

2023年度 東寺尾どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

どんな子ども皆、善く生きようとしている考えのもと、子どもたちの姿を捉え、受け止めることを、主体の基礎作りとした。昨年度以上に、「体験活動」を Trial & Error 中から育み、当園における体験活動を以下、どろんこ会グループとしての目指す園の姿と併せて、子どもも大人もその成長を楽しみながら、自ら考え表現実施していく保育園を作る基盤を作り上げていった。

続・原点回帰として

・日課・基本保育活動を実施、戸外活動9時出発・午前午後2回散歩・畑仕事・生き物の世話・長距離散歩、朝の日課 8:15～12:00をめいっぱい活動し日課・基本保育活動を行うリズムを作った。

・畑仕事を実施し、3大食育方針を推進し、その記録を社外に広報

・子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける活動の実行した
小1を知るは、小学校連携が課題となっている。

・大人のにんげん力アップ

学び続ける文化として、園長大学、保育士大学を活用し、実践に落とし込んでいった。

・接遇神対応

研修を行いながら、日々の振り返りの中で実践していった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが自己を十分に発揮し、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねる。
	実践結果	生命の保持と情緒の安定を図る養護と自発的・自主的活動を図る教育が一体となった保育を強く意識していくべく、情報共有、振り返りに力を入れていった。
	次年度方向性	養護は、幼児クラスにおいて不足している課題が残った。「自発的」「自主的」を併せてその課題解決に繋げていく。
2	計画・ねらい	子どもの個人差、子どもの姿を考慮しながら、保育内容を創意工夫する。
	実践結果	「私たちが育てる6つの力」を「目指す子ども像(10の姿)」を照らし合わせスタッフ間でよく話し合いながら実践、保育内容を工夫し、会議毎に振り返り、質の向上に努めていった。
	次年度方向性	基本、マニュアル、「私たちが育てる6つの力」を「目指す子ども像(10の姿)」といった大前提を踏まえて臨んでいく。
3	計画・ねらい	保育の専門性を高め、自ら考える保育を実践する。
	実践結果	園長大学保育士大学と身近な研修を通して、専門職として、保育の資質向上を高め多様なニーズへの対応を図りながら、専門性と人間性の向上に努めていった。

	次年度方向性	インプットしたものを現場や育児相談へとアウトプットし、自身へも消化できるよう、学びの場から発信の場へと広げていく。
--	--------	---

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭へ子どもの姿や保育の姿の発信「こだわりの保育の可視化・見える化」を推進
	実践結果	日誌、タイムライン等保育書類をエピソード記録・保育ドキュメンテーション化する頻度で上げていき、毎日の積み重ねを可視化できるように確立していったが、途上中である。
	次年度方向性	継続して行くことで、子どもの姿を捉える力を一層向上させ、こだわりが見える発信をしていく。
2	計画・ねらい	いつでも、どんなことも、誰でも、子どものため共に考える場、相談できる時間を作る。
	実践結果	いつでも、どんなことでも話し、相談できる保育園として、門戸を開き、随時育児相談できる支援体制にしていたことで、リピーターが増えたが、相談し辛いという言葉は少なくない。
	次年度方向性	相談し辛いという意見が出ないくらいに、育児に携わるすべての人に対して、いつでも、どんなことでも話し、相談できる保育園として、門戸を開き、随時育児相談できる支援体制にしていく。
3	計画・ねらい	以上を①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝 を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践結果	サービスは無料、無償のものではない前提を踏まえ、保育者と保護者様との礼節、敬意を以て、保護者支援に臨んだ。
	次年度方向性	主体的で対話的な保育者と保護者様との礼節、敬意を以て、保護者支援に臨みながら、神接遇を目指す。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て拠点としての役割を向上させる。
	実践結果	地域の子どもの障害や発達上の課題が見られる機会はなかった。他系列園との合同子育て拠点で、その選択肢を見ることができた。
	次年度方向性	地域の子育て拠点としての役割を向上させる。
2	計画・ねらい	地域交流事業(ちきんえっぐ)の向上、交流のハブ組織を目指す。
	実践結果	おたより(ちきんえっぐ)を活用し、公園などで地域の方と言葉を交わしたときに、「いつ」「どんなことを」行っているかなど、対話を通して、繰り返し知らせていくことで、利用者が若干増えた。
	次年度方向性	エリア拡大し、地域交流事業(ちきんえっぐ)の認知度向上、交流のハブ組織を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「子ども中心」の保育実践のための子ども観を育む。
	実践結果	エピソード、保育デザインマップは活用できなかったが、日々の保育の中から、日常的に振り返りことが、チャット機能を活用でき、子ども中心の保育を探求していった。
	次年度方向性	日常的にできるチャット機能を活用し、アセスメント、振り返りを行い、「子ども中心」の保育実践に臨む。
2	計画・ねらい	保育の連続性を追求する中で、チーム保育を充実させていく。
	実践結果	保育 web のほかに、チャット機能を活用しながら、日常の保育の連続性を PDCA、OODA サイクルで、クラス会議、ケース会議、園会議など、その時に有効な打ち合わせの中で検証していった。ただ、チーム保育としては、対話面が課題である。
	次年度方向性	機能を活用した上で、対話していくことで保育の連続性を追求する中で、チーム保育を充実させていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた上で、3本の柱、5領域、10の姿の重要性を追求していく中で、子どもの資質・能力育むことで、「生きる力」の基礎を理解していく。
	実践結果	対話を意識し、話をする機会を多く持ち、互いの意見を出し合う中で、より多面的な子どものとらえる上で、8つの窓の視点で検証していったが、偏ってしまう。 ・スタッフが定期的に園内交換研修を行っていく土台を作った。
	次年度方向性	研修のインプットと対話のアウトプットで、「生きる力」の基礎を理解していく。
4	計画・ねらい	社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。
	実践結果	コンピテンシーを深堀しながら活用していった。また、事務、スタッフ間で昼礼にて常に接遇の日常的に振り返り、チャット機能で周知していった。
	次年度方向性	どろんこ保育園としての社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	子どもたちにとって最善の利益となる保育環境を試し続ける。
	実践結果	子どもの最善の利益をとして食材循環サイクルを意識しながら、目標、ねらいを「見通し」として置き、その上で、保育者と子どもたちと一緒に作り上げていけるようにした。
	次年度方向性	食材循環サイクル、SDGs の実行

2	計画・ねらい	子どもの姿から、直ぐに提案、仕掛けることができる保育の探求をしていく。
	実践結果	子どもの姿を中心に置き、そこから考える環境への配慮を意識付け、冷暖房と自然の気候を感じながら「省エネ」の関心を促していった。
	次年度方向性	省エネ・省電力・カーボンニュートラルの実現
3	計画・ねらい	自園だけでなく、地域、他園、全ての子どもたちにインクルーシブな保育環境を探求する。
	実践結果	多角的に考え、環境も混ぜ合わせながら、身の回りの環境を包括的に捉えられるように、保育者の意識を促すことから始めた。
	次年度方向性	陸の豊かさをも守る活動の実践

〈6〉主体的・対話的に深く学ぶことで作り上げていくチーム保育

1	計画・ねらい	主体的に深く学んでいくスタッフ集団になる
	実践結果	年間策定会議を起点に、子どもたちのために必要な経験から、体験してほしい、学んでほしいことを見通した上で、スタッフが主体的に計画を立案し、保育活動に臨んでいった。
	次年度方向性	主体的に考え、ヒヤリハットに気付けるスタッフ集団になる
2	計画・ねらい	対話的に深く学んでいくスタッフ集団になる。
	実践結果	立案した計画と実践を元に、振り返ったうえで、次に臨んでいったが、しっかりとしたりフレクションまではできなかった。できた、できなかったという反省ではなく、できなかったことをとことん話し込んでいくことはできた。
	次年度方向性	インシデント、対話的に深く考察し、通院事故を削減していく。
3	計画・ねらい	背中を見せるスタッフ集団になる
	実践結果	保育士だけでなく、施設長、事務、用務、調理全スタッフが臨み、背中で伝えていった。
	次年度方向性	マニュアル遵守を前提に、主体的で対話的に、事故防止委員会を実施し、再発事故をゼロにする。

〈7〉インクルーシブ保育の充実

1	計画・ねらい	主体的に深く学んでいくスタッフ集団になる
	実践結果	1 配慮の必要性を、子どもの姿から、混ざった状態での保育できるケース会議を実施し、多くの保育者視点を集めるための口頭だけでなく、チャット機能を活用し共有していった。
	次年度方向性	個別配慮、受容というフレームアウトする保育にならないようにする。
2	計画・ねらい	個別配慮が必要な園児に対しては、様々な対応を検討する。
	実践結果	配慮を要する子が埋もれてしまわないように、ケース会議で対象の子どもについて、リフレクションをしながら多方面から子どもをとらえることにより、他の子どもにも同じように必要な気付きにつなげていった。
	次年度方向性	配慮、支援が必要な園児に対しては、多様な視点で対応を検討する。
3	計画・ねらい	インクルーシブでタイバーシティな保育の実践。
	実践結果	包括性だけでなく、多様性も考慮した保育に臨み、日々の記録の中での「エピソード化」をし、タイムラインへ活用していくようにした。子どもの姿そのものとそこでの関わりを日常の日誌で記録し、多様な姿、視点のエピソードを共有しながら、ケース会議へ繋げていった。
	次年度方向性	タイバーシティなインクルーシブ保育の実践。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	90人	140人	150人	177人	162人	180人	899人
年度後半： 10~3月	90人	144人	150人	180人	162人	180人	906人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	192 人	159 人	210 人	212 人	171 人	174 人	139 人	158 人	156 人	152 人	161 人	160 人	2044 人

うち0 歳児	1人	4人	14人	14人	11人	11人	10人	9人	10人	17人	21人	20人	142人
-----------	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	------

一時保育利用状況

該当なし

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	19人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務員	1人		人		人		人
パート スタッフ	保育士	12人	補助	1人	用務	2人		人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、クラスの給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	保育計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
リーダー会議	週1回	全クラス、園内の振り返り、内部監査是正

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症対策の変革期として考慮しながら、子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も何が健康保持につながるのかを再認識した。
安全対策係	特に施設外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施し、保育者は何が事故や怪我につながるのかを再認識した。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、子どもたちの意識も高まった。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通じた畑・食育計画立案・実施、畑の管理、畑通信の作成し、子どもも保育者も何が作物の育成や食物連鎖につながるのかを継続していくことが課題である。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を広める機会として緑道の生き物の飼育を設定し、鳥などの生き物の世話を通して、子どもも保

	育者も何が生き物の愛着や食物連鎖につながるのかを再認識した。
--	--------------------------------

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域参加も増え、ヤギを鶴見どろんこから連れてくることで、イベントの盛り上がりと共に、どろんこらしさを広報することができた。
子育て支援・相談担当係	子育て支援事業の企画立案・実施した。イベントは、参加人数が定着していった。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・新入児の園生活に慣れるまでの保護者様とお子様の不安を情報共有、相談しながら、慣れていけるように進めていった。 ・子どもの事故の経緯に関しての不十分さへのご意見に対して、現場検証、事故経過の明確化と事故防止委員を早急且つ丁寧に実施していくように変えた。 ・配慮児との関りでのご意見要望あり、関連機関との意見交換をしながら、担任を中心に保育の是正対応をしていった。 ・行事時の保育（土曜保育）、保護者懇談会での保育（延長保育）について、原則保育ではない保育に関しての要望。どろんこサポーターでの融資保育の提案し、企画に繋がった。
保育参加	<p>4～3月まで 合計31名 が参加済み （3月1日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの29件が「大変良かった」で、概ね好評である。 <p>その中で、「まあよかった」の中に、次の課題がある。鼻水を出している子への養護的配慮、「私のママは来てくれない」と言われたと参加保護者様より話があり、参加できる保護者様を増やすことが次年度の課題である。</p>
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計53名 が参加済み （3月1日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に就学前相談

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが、クッキング、畑での作物づくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
	実践結果	畑で作ったものを、その場で、そのまま食べ、素材の味を実体験したり、クッキングをしたりして生長と収穫を楽しめるようにしていった。一過性の行事をではなく、生活の中の行事として、継続的且つ日常的に楽しむ「クッキング」としての食育を目指した。
	次年度方向性	子どもが主体となって、畑での作物づくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
2	計画・ねらい	全スタッフが専門性を活かしながら、子どもが自主的に食事をするように食育を進めていく
	実践結果	調理員・保育士・施設長と一緒に食べながら、会食することを楽しめる機会の復帰はできなかったが、会話を楽しんだ。 子どもたちが配膳、下膳できるように環境設定した。
	次年度方向性	全スタッフが専門性を活かしながら一緒に会食し、子どもが自主的に食事をするように食育を進めていく
3	計画・ねらい	SDGs の観点からの調理過程の野菜くずや残食などを堆肥づくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなど、子どもと一緒にを行いながら、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。
	実践結果	調理前の野菜くずの一部を使ったコンポストは、日課として実施できた。調理後の残食も活用したコンポストや、鳥類、魚類の餌作成(乾物)と、使用できる可能性を全て使っていくことを子どもたちと考えたものの実践は難しかった。
	次年度方向性	SDGs を深め、調理過程の野菜くずや残食などを堆肥づくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなどを広げ、子どもと一緒に、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／11月7日に実施
歯科検診	6月19日／11月13日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月に東寺尾どろんこ保育園にて手洗い指導を実施

流行した感染症	① 5月に胃腸炎、園児6名 ② 12月～1月コロナ、園児3名、職員2名、2月にインフルエンザ、園児14名感染報告有り。職員2月中旬に終息
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアアップ使用 その他、8月4日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	2023年3月のキックオフにてエピペンの研修を看護師より指導。中途入職のスタッフへ都度指導を行う。41名が習得済み。 本日時点で、在籍スタッフ名のうち、38名が使用できる。
その他保健に関する取組	感染症および他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底し、予防に努めた。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月20日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月27日、11月7日 歯科健診 各年2回/6月19日、11月13日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。
	実践結果	子どもの姿を起点に、異年齢児が混じりあう環境の中で、発達の違いを考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるかなど、web を用いながら考察展開し、試行錯誤していった。
	次年度方向性	室内・室外ともにだが、特に室内を子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。
2	計画・ねらい	安全な環境を作るのではなく、安全性を確認していく、維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
	実践結果	玩具の破損や材料の確認、設置場所の安全性など、各担当の係が中心になって、チェックリストで日常的に確認していった。
	次年度方向性	安全性を確認していく、維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
3	計画・ねらい	前述1、2の環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。
	実践結果	環境だけではなく、子どもの姿を踏まえて、保育中の事故防止のため、施設内外の安全点検に努めた。 事故防止チェック、設備点検など確実にいき、不備がある場合にはすぐに対応し、全スタッフに周知した。
	次年度方向性	環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具 なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練を実施した。「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全
---	------	---

		を確保できる体制を整えていった。
2	実践結果	<p>ケガ事故防止対策</p> <p>保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め、ケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にした。</p> <p>ケガ、事故記録、ケガに至らなかった記録を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ事故防止委員会を実施していった。</p>
3	実践結果	<p>防犯対策</p> <p>定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 笛の携帯 2. 代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認 3. 不審者情報の収集（各関係機関と連携を取り）不審者情報を随時収集する。 <p>適宣、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示等を行う。</p>
4	実践結果	<p>光化学スモック対策</p> <p>発令中は発令内容に看板・張り紙等の文書を掲示し、スタッフ・園児を屋外へ入れ、原則屋外活動は行わなかった。発生件数も少ない。</p>
5	実践結果	<p>熱中症対策</p> <p>過度な水分補給による塩分、電解質不足による脱水症状を考慮した正しい水分補給を理解した上で、子どもたち自らが水分補給できる環境設定をした。水分の損失が多い天候下では、活動そのものを随時検討し、中止とした。</p>
6	実践結果	<p>感染症対策</p> <p>マニュアル、規定での日々の消毒を徹底し、過度な消毒にも留意しながら、感染対策した。</p> <p>法人、園、自治体、保健所と連携を取りながら対策していった。</p>
7	実践結果	<p>情報収集</p> <p>横浜市防災情報に登録完了。該当地域の情報を詳細に収集し、早期対応に努めた。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生受け入れ希望 3名

ボランティア、園見学希望の大学・専門学校の依頼は積極的な受け入れを行い、活動を通して自園の保育士を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守る大切さやどろんこ会グループの日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に伝えた。

また、これを機会に体験やボランティア、園見学が終わっても参加できる行事などのイベントにも誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験できる機会を持った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月19日～7月1日	学校法人 岩崎学園横浜保育福祉専門学校	1	保育実習Ⅰ
7月3日～7月31日	豊岡短期大学通信教育部こども学科	1	保育実習Ⅰ・Ⅱ
8月21～9月5日	東京福祉保育専門学校	1人	保育実習Ⅱ

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 44名	12日 44名	9日 44名	14日 44名	18日 43名	8日 43名	13日 38名	10日 38名	8日 38名	12日 38名	16日 38名	8日 38名
園内研修	14日 44名	12日 44名	9日 44名	14日 44名	18日 43名	8日 43名	13日 38名	10日 38名	8日 38名	12日 38名	16日 38名	8日 38名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月16日	社会福祉法人 どんご会	吉永安里助教授（幼児教育から小学校教育への接続）	1	有
1月25日	こども青少年局保育・教育支援課	「幼保小の架け橋プログラム」特別研修会	2名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 0名	16日 0名	20日 0名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名

全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	該当者なし
デンマークインターンシップ	該当者なし

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

保育園・地域・家庭が一丸となるよう子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組んだ。また、地域の方が自由に園を利用し相談しあえる仲間であられるように、月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、「ちきんえっぐ保育室」を解放し、年間計画のもと地域交流を行ったことで、リピーターが増えていった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：白幡公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：永島青果店、FUJI スーパー、郵便局、クリエイトセブンイレブン、ローソン等
世代間交流	毎月第2水曜日にサンライズ・ヴィラ東寺尾にてシニア交流を実施
異年齢交流	11月24日に白幡公園にて鶴見区年長児交流を実施
その他活動	7月22日に東寺尾どろんこ保育園にてどろんこ祭りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

新型コロナエイルス対策が本格的に明け、子どもの発達の連続性を見据えた上で、保育所における保育がおこなわれていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか小学校と積極的な連携が取れるようになってきた。ただ、大型行事の交流では、まだ制限があり、交流機会の課題は残る。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月8日	西寺尾第二小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
1月24日	上寺尾小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
1月26日	獅子ヶ谷小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
1月29日	大口台小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
2月19日	馬場小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
3月1日	旭小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
3月4日	上星川小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換
3月4日	福野小学校	4名	東寺尾どろんこ保育園	情報交換

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況などを観察し、学年会議の中で振り返りと保育者間の共有を行い、見直した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：5名

毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し、配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引き継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
200名	241名	401名	98名	60名	149名	336名	229名	327名	220名	239名	240名	2740名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計53件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計43回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	25名	0名	0名	2名	4名	4名	4名	4名	43名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：白幡公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		0名	20名	10名	0名	0名	0名	12名	2名	0名	2名	2名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

株式会社 学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：10月16日～11月6日

アンケート回答率(保護者)…49.6%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：1月19日に実施

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月22日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、主任、統括リーダー、各担当リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）システムの面では、引き続き写真の購入方法に関しての要望や再販希望、画面表示の円滑化などが多く上がっていた。保育では、どろんこ会理念に関して共感賛同の声が多く上がったが、幼児、異年齢児クラスに関しては、養護面での配慮不足が多く課題と上がり、スタッフの目が行き届いていないのではという不安もあるが、子どもの成長や異年齢児で過ごすことの利点を感じられている印象と葛藤が見られた。異年齢児との関わり合いを主とした園内研修の充実なども考慮していき、子どもの主体性に応答できるような環境を維持していく。やはり、スタッフの入れ替えの多さの指摘も多く、スタッフ定着を図るべく配慮を要する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

No.	ご意見 受付日	一次対応者	ご意見内容とそれに対する対応結果
2	1月4日	園	<p>（内容）</p> <p>置き去り事故の発生 場所：荒立公園 経路：園→白幡神社→荒立公園 子どもの人数：3歳児21名、4歳児15名、5歳児14名 園から帰園する際、白幡神社で人数確認した際に園児1名いないことに気づく。荒立公園に戻ったところ、階段脇の茂みの中で園児を発見。</p> <p>（対応結果）</p> <p>本部、自治体、お子様の保護者様への即日の事故検証報告。保護</p>

			<p>者様と相談した上で、全世帯に向けて1月17日に保護者説明会を開催し、1月23日に議事録を配布。</p> <p>以下、再発防止を徹底して行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・人数確認時のマニュアルの再確認（人数確認・スタッフ配置・役割）・すべての公園のハザードマップの再確認（人数確認場所・危険箇所）・実際の散歩を想定したロールプレイング研修実施・施設長主任の戸外活動前のリスク管理・散歩同行・スタッフ指導の継続的な実施・本部スタッフ・スーパーバイザーによる巡回指導とモニタリング
--	--	--	--

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：東寺尾どろんこ保育園 施設長 宮入講一

2023年度 船橋どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中で以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念 『にげん力。育てます。』

子育て目標 『センス・オブ・ワンダー』

『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく事を意識していった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める。
	実践結果	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って様々な活動を進めていく事が個人差はあるものの実践された。
	次年度方向性	プロジェクト保育の内容を偏りのないよう計画的に進めていく。
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践結果	畑にて野菜の生産をし、下拵え、クッキング、食の循環を学ぶ事が進められたが、畑の作物が計画通りには出来ていなかった。
	次年度方向性	実践可能な内容を計画し、計画通りに進められるようにする。
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり。
	実践結果	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置することがなかなか出来なかった。
	次年度方向性	監査前のみではなく、日常的に整理整頓が習慣化できるような工夫を考えて進めていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践結果	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進めた。
	次年度方向性	保護者の情報共有の強化。知らなかったという事の撲滅。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ。
	実践結果	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進めた。
	次年度方向性	保護者に対する畏敬の念を常に意識し丁寧な対応を持続する。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ。
	実践結果	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定。
	次年度方向性	保護者の思いを察し、保護者と共に児童に寄り添う思いをしっかりとお伝えしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援室(本園)の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践結果	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)の実施は保育園見学においての子育てアドバイスにとどまってしまった。
	次年度方向性	子育て支援室(本園)の活性化、園行事へのお誘いの強化。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践結果	月1回の近隣公園での青空保育の実施は出来たが、その予告と実践時の招集活動の促進はなかなか進められなかった。
	次年度方向性	毎月の定着行事として地域へ広報強化。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践結果	老人施設・公民館・商店への挨拶は実施出来たが、訪問については先方の状況により対応が困難なケースもあった。
	次年度方向性	コロナ禍の状況を確認しながら無理なく進めていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践結果	研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り理解を深める事は出来ている。
	次年度方向性	虐待について認識は出来ていても他の人の行為を注意することがなかなか進められていないので共同責任という意識を高めていく。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践結果	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める事は個人差があるものの徐々に進められてきた。
	次年度方向性	個人個人の得意を認め合い、実践できるように日々の保育にも具体的に取り入れていく。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践結果	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく事は、生活発表会で集大成として具現化出来た。
	次年度方向性	大きな行事(どろんこ祭り・運動会・生活発表会)を目標及び節目としてステップアップしていけるように持続、継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践予定内容	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える。
	次年度方向性	環境整備の継続
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践予定内容	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	人対人コミュニケーションの継続
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践予定内容	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる。

	次年度方向性	協調性・平等性の意識の継続
--	--------	---------------

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践結果	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進められた。
	次年度方向性	児童や保育者、保護者について良いところ探しをし、常に前向きに明るい話題を絶やさないように生活を進めていく。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践結果	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
	次年度方向性	気付きの力、俯瞰能力を高める研修も考え取り入れていく。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践結果	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることが出来る人材の育成。
	次年度方向性	園長大学、保育士大学の視聴を共有し、日々の保育や生活に活かせるように話し合う時間を作っていく。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践結果	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える努力を継続した。
	次年度方向性	見学案内をすべての職員が対応できるように進めていく。
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践結果	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	挨拶の徹底。立ち止まり姿勢を正し丁寧に挨拶を実施する。
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。

実践結果	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる事を意識して進められた。
次年度方向性	気付きの足りないと感じた時にはそのままにせず感情的にならず穏やかに伝える工夫を進める。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	60人	72人	138人	144人	138人	588人
年度後半： 10~3月	36人	60人	72人	138人	144人	138人	588人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	200 人	247 人	276 人	254 人	223 人	243 人	270 人	269 人	278 人	260 人	270 人	250 人	3040 人
うち0 歳児	0人	1人	0人	2人	6人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	1人	12人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	33人	16人	22人	14人	30人	31人	38人	57人	55人	50人	55人	53人	454人
うち0 歳児	1人	16人	1人	2人	4人	4人	5人	5人	5人	5人	5人	5人	58人

（解説）

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	5人	補助	人	調理	人	事務	人
	用務	1人					嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・各行事の打ち合わせの実施。
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について振り返りを実施した。
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返りを行った。
ケース会議	月1回	支援の必要な児童についての話し合いを実施した。
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通しを考えていった。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生管理係	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
船橋市民フェスティバル係	実施無し。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事が自分で出来る事は自分でするように支援した。 ・沢山の経験から多くの事が感じられるように原体験の機会を多く設けた。
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢を問わず、子どもたちが自分で遊びを選択できるような環境設定をした。 ・異年齢での活動の機会を多くし、園が子どもたちの『大きな家』になるように努めた。
保育参加	4～3月まで 合計11名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点) ・

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践結果	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう事が進められた。
	次年度方向性	その日の給食のメニューを知りその素材を知り関心を持って味わう事が出来るようにする。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践結果	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つことが年齢によるが意識出来てきている。
	次年度方向性	年齢に合わせた食の楽しみ方(盛り付け、バイキングなど)を進めていく。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践結果	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事はコロナ禍の為、はじめは出来なかったが、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す事は進められた。
	次年度方向性	コロナ禍が沈静されることにより、調理員・保育士・施設長が子どもと共に食事し子どもの食事について理解が深まるように進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月13日／1月16日に実施
歯科検診	6月14日に会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月14日に保育室にて歯科指導を実施 ② 11月14日に保育室にて手洗い指導を実施 ③ 2月20日に幼児室にて性教育を実施
流行した感染症	② 5月にコロナ、園児5名・スタッフ5名蔓延し、本部へ報告 ② 2月にインフルエンザB、園児22名感染報告有り。2月19日に終息
発作・痙攣等の対応	計0名に対し、計0回ダイアアップ使用 その他、5月26日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月21日に会場にてエピペン研修をスタッフ22名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・4月13日に会場にて研修をスタッフ21名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月日、10月日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月13日、1月16日 歯科健診 各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践結果	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定を進められた。
	次年度方向性	季節や興味を前面に室内環境の整備を進めていく。
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践結果	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直すことは出来たが、屋や保護者の混乱を招いた場面も見られた。
	次年度方向性	年度当初に朝夕の出入り口の設定を決定する。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践結果	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進めることは出来たが子どもたちと共にあまり実施出来なかった。

	次年度方向性	散歩コースを子どもたちと共に検証しハザードマップの作成を進める。
--	--------	----------------------------------

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具はなし。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践結果	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践結果	不審者対応訓練(年2回)
4	実践結果	設備点検(年4回)
5	実践結果	事故防止委員会
6	実践結果	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践結果	光化学スモッグの対応

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生、見学実習については積極的に受け入れた。学生の不安な気持ちを受け入れながら、保育を楽しみ、保育士の仕事に魅力を感じてもらうことが出来るように対応した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5日～7月6日	東京こども専門学校	1人	観察実習
8月16日～8月29日	帝京科学大学	1人	責任実習

8月30日～9月12日	目白大学	1人	部分実習
10月2日～10月16日	千葉こども専門学校	1人	部分実習
1月22日～2月3日	日本児童教育専門学校	1人	部分実習
2月2日～2月21日	愛国学園保育専門学校	1人	部分実習
2月5日～2月19日	目白大学	1人	責任実習
3月4日～3月9日	東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻	2人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
月～日	高等学校	0人
8月3日	広尾学園中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 19名	19日 18名	16日 20名	14日 19名	18日 19名	15日 19名	20日 20名	17日 20名	15日 17名	19日 18名	16日 17名	3日 19名
研修	21日 19名	19日 18名	16日 20名	14日 19名	18日 19名	15日 19名	20日 20名	17日 20名	15日 17名	19日 18名	16日 17名	3日 19名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月3日～8月3日	ポピンズ	キャリアアップ研修(乳児保育)	3名	有
9月1日～10月2日	ポピンズ	キャリアアップ研修(保護者支援)	3名	有

9月15日～10月16日	ポピンズ	キャリアアップ研修(マネジメント)	1名	有
12月8日～1月12日	ポピンズ	キャリアアップ研修(マネジメント)	3名	有
1月5日～1月6日	日本福祉総合研究所	キャリアアップ研修(保護者支援)	2名	有
11月27日～12月26日	ポピンズ	キャリアアップ研修(障害児保育)	2名	有
12月16日・17日	日本福祉総合研究所	キャリアアップ研修(食育アレルギー対応)	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

船橋どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるように進めた。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していくように企画を進める事が出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：天沼池弁天公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：駅前交番、花屋、スーパー、魚屋、体操教室、空手教室、ケーキ屋、パン屋、郵便局、駄菓子屋、美容院、歯医者等
世代間交流	9月6日に専門学生との世代間交流を北公園にて実施
異年齢交流	8月23日に大学生との異年齢交流を保育園にて実施
異文化交流	11月6日に外国人保護者による異文化交流を本町4丁目公園にて実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

児童の進学先を優先し、地域の小学校との交流を積極的に実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月8日	船橋小・湊小・南本町小	1名	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続(管理職)研修(船橋市総合教育センター)	職員間交流
7月26日	船橋小・湊小・南本町小	1名	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続(一般職)研修(船橋市総合教育センター)	職員間交流
11月20日	南本町小学校 1年1組	21名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
12月12日	市場小学校 1年組	22名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
1月24日	湊町小学校 1年組	20名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流

2月16日	船橋小学校	22名	1年生との交流会（小学校体育館・教室）	子ども間交流
2月19日	葛飾小学校・塚田小学校・八栄小学校・南本町小学校・市場小学校・船橋小学校・海神小学校・文京区窪町小学校・開智望小学校	各1名	就学に関する連携	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- ・個別計画の作成をした。
（行動、感覚、姿勢、運動、聞こえ、言葉、コミュニケーション、保護者や他の子どもとの関わりなど）
- ・個別計画の見直しと今後の支援についての話し合いを進めた。
- ・保護者との面談を実施し課題と方向性を共有した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・4～3月に計12回開催 参加者：6名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

【進級引継、および、小学校への引継】

- ・小学校教諭が「読みたくなる」保育所保育要録を送付した。
- ・幼児期の学びを教科へ
学習指導要領、「スタートカリキュラム」との接続を確認し進めた。
- ・船橋市乳幼児発達支援関係機関との情報交換し協力関係を築くことを進めた。
- ・関係機関の機能を有効にし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできる事を目指した。
- ・保護者、保育園、船橋市総合教育センターの共通理解の基、「引継ぎのための連絡票」を送付した。
- ・保幼小連絡協議会「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方合同研修会」に施設長、幼児担任が参加した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
35名	30名	30名	467名	40名	60名	503名	40名	35名	100名	55名	100名	1495名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	2名	名	2名	名	名	名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：天沼弁天池公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	82名	27名	0名	0名	48名	33名	28名	名	12名	名	名	230名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年月日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：齋藤みどり、飯塚舞子、藤代綾香、

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察)

アンケートの回答率は非常に良好だった。大半はお褒めの言葉をいただけたが、中にはお迎え対応に関しての指摘も見られた。職員全員で自分事として受け止め対処していくように周知した。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：船橋どろんこ保育園 施設長 齋藤 みどり

2023年度 浦安どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会の理念「にんげん力。育てます。」にんげん力はどうしたら育まれるのかを試行錯誤しながら過ごした1年であった。

保育者は、日課、基本保育活動の意味を理解し実践を丁寧におこない、子どもの成長、人格形成に必要な体験を日常的に行うことで生活力、生きる力を身につけられるよう努めた。

子どもは、泥々になって遊び、保育者は子どもが十分に遊び込めるような環境設定をした。

ゾーン保育では、0歳児～5歳児が毎日様々な場所へ戸外活動に行き、異年齢での交流が当たり前になった。5歳児が0歳児の手を取り、一緒に遊び過ごす中で自然と子どもたちの関わりが密になっていた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課の充実
	実践結果	戸外活動9時出発・午前午後2回散歩・畑仕事・生き物の世話・長距離散歩・座禅・雑巾がけ・裸足保育・園側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・さくらさくらんぼリズム、全ての活動の意味を理解したうえで子どもたちとともに日々実践した。
	次年度方向性	戸外活動は寒くなり、戸外に出る時間が減少気味になってしまったことがあった。どうしたら戸外活動の時間を確保できるのか、次年度につながるようにしていきたい。
2	計画・ねらい	ゾーン保育の充実
	実践結果	0歳児～5歳児が毎日の戸外活動をゾーンに分かれ一緒に過ごした。ともに遊び、一緒に過ごす中で自然と子ども同士の関わりが増えた。
	次年度方向性	0歳児、1歳児は11時半まで、2歳児～5歳児は12時までが午前活動の時間として日々過ごしていたが、全クラスのゾーン散歩では行き方に苦慮した。次年度は活動時間を考慮したゾーン散歩を検討していきたい。
3	計画・ねらい	戸外体験活動
	実践結果	子どもたちは泥々になって遊び込む姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、戸外活動の時間を十分に確保することで自然に触れて遊び込むことができるようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践結果	日々の清掃と、整理整頓を行い、いつでも気持ちのいい園内環境をととのえることで利用者アンケートではたくさんのお褒めの言葉をいただいた。

	次年度方向性	現在よりも更に美観意識を持ち、園内の環境を整えていきたい。
2	計画・ねらい	全員がMBO 目標として「お迎え対応」を掲げる
	実践結果	ゾーン保育を実践していく中で、園内すべての子どもの様子を全職員が把握するようにした。お迎え時3分間対応では、一人ひとりの子どもの様子を丁寧に伝えられるよう努めた。 3分間対応を丁寧にするあまり、降園時の保護者様をお待たせしてしまうことがあった。お迎えの混雑時には複数の保育者がお迎え対応に出て、なるべくお待たせしないようにした。
	次年度方向性	引き続き、お迎え対応を丁寧に行っていくことで、子ども、保護者からも信頼される園を目指していきたい。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育の参加者増
	実践結果	参加者0人であった。マイ浦安（WEB 子育て情報サイト）に配信しているが、青空保育への参加を希望する方がいなかった。
	次年度方向性	開催方法、地域への周知の仕方を見直し、地域の子育て支援拠点となるようにする。
2	計画・ねらい	地域の子育て支援の拠点となる
	実践結果	どろんこ祭りは、地域へのポスター掲示をお願いしたことで100名を超える地域の方が遊びに来られた。ちきんえっぐでのイベントはリピーターが多かったものの、新しく来てくださる方が少なかった。
	次年度方向性	開催方法、地域への周知の仕方を見直し、地域の子育て支援拠点となるようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	学び続ける保育士集団になる
	実践結果	年12回の園会議の際、職員が講師となり園内での研修を実践した。また、園長大学®・保育士大学の動画を園内研修で視聴した。
	次年度方向性	引き続き、学び続ける集団となるべく研修を行っていきたい。
2	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学の動画視聴を奨励
	実践結果	MBO 目標で、園長大学®・保育士大学の動画コンテンツを観る、ということを目指した職員が複数いた。経験が豊富な職員については、動画視聴に留まらず、知り得た学びを園内研修等で発表し、学びあう機会を作った。
	次年度方向性	学びの機会として適宜動画視聴し、知り得たことを学びあいにつなげられる集団になりたい。
3	計画・ねらい	背中を見せられる大人になる

	実践結果	毎日の日課はもちろん、子どもたちの見本となって一緒に行い続けることで信頼関係が形成されていると感じている。
	次年度方向性	大人が子どもの見本となるよう日々の日課に取り組んでいきたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自己選択できる環境作り
	実践結果	クラス年齢に関わらず、すべての子どもが「大きな家」で過ごし、誰もが自分のやりたいこと、居たい場所を自己決定できるようなゾーン保育を実践した。
	次年度方向性	引き続き、自己決定が可能なゾーン保育の実践を行っていきたい。
2	計画・ねらい	SDG's への取り組み
	実践結果	保育者からの17の国際目標理解への取り組みはほぼ行われずであった。
	次年度方向性	生きる上で私たち、子どもたちが意識しなくてはならない環境問題について、一緒に考え必要なことを実践していけるようにしたい。
3	計画・ねらい	食物残差の減量化
	実践結果	給食の調理過程で出るゴミと養分のない使用済みの土でコンポストを作り土の再生を年2回実践に成功した。 子どもはバイキング給食を実践、自分で食べられる量をよそい、完食する喜びの経験を繰り返す中で、「もっと食べてみよう」という食に対する意欲が育まれていると感じている。
	次年度方向性	引き続き、コンポストでのゴミ減量の取り組みを行う。 食への意欲のある子を育むべく、バイキング給食を継続する。

〈6〉小1を知る

1	計画・ねらい	教育課程を知る
	実践結果	保育士2名が実際に小学校の授業を参観し保育活動に必要なことを把握した。内容を他職員に共有し、園内での活動につなげた。
	次年度方向性	引き続き、小学校接続に向けて必要なことを園内に落としつけていけるよう参観や研修に参加していきたい。
2	計画・ねらい	アプローチカリキュラムの作成
	実践結果	アプローチカリキュラムを作成したことで子どもにとって必要なことがわかり、園内での就学を見据えた活動の実践につながった。
	次年度方向性	今行っている就学を見据えた活動を精査し、子どもたちが小学校への期待をもって過ごせるようにする。

〈7〉 食の循環を知る

1	計画・ねらい	育てる、食べる、活用する
	実践結果	自園の畑で育てた、さつまいも、とうもろこし、なす、ピーマン、大根などを収穫し、自分たちで調理して食べることで食への意欲が育まれたと感じる。 加工の際出たごみをコンポストで堆肥にして作物を育てたことで、食の循環を知りうる機会となった。
	次年度方向性	作ること、食べることを楽しむ子どもでいっぱいになるよう、引き続き楽しみながら食の循環を意識した取り組みを行っていきたい。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	332人	1090人	1198人	1177人	1449人	1493人	6793人
年度後半： 10~3月	633人	1138人	1139人	1237人	1337人	1452人	6936人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	149 人	169 人	195 人	223 人	212 人	174 人	181 人	177 人	174 人	192 人	190 人	190 人	2226 人
うち 0歳児	0人												

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
------------	-----	-----	-----	----	-----	----	------	----

パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人		
-------------	-----	----	----	----	--	--

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	献立振り返り、食育体験計画共有、アレルギー対策
事故防止委員会	月1回	当月の事故記録、インシデント、ヒヤリハットの振り返り、他園の事故記録分析・再発防止策話し合い
ケース会議	月1回	要支援児の姿、個別計画の立案・振り返り
昼礼会議	週1回	保育計画の振り返り、子どもの姿共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生・予防に関する提案を園会議で共有
安全対策係	事故防止委員会の開催、年2回不審者訓練実施
防火管理者	避難訓練実施、消防署への届け出
食品衛生管理係	衛生点検、食の安全食育活動の取り組み
畑係	年間農業計画の元、種、苗購入
生き物係	子どもたちと一緒にカブトムシ、かたつむり、ヤゴの世話をした

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることは自分でできるように支援した。 ・日々異年齢での活動し、園全体が「大きな家」になるよう努めた。 ・ひとつではなく、たくさんの経験から自分で活動が選択できるよう、環境設定を行った。 ・お腹がすくまでめいっぱい遊ぶ時間の確保をした。
保育参加	4～3月まで 合計50名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

運動会、生活発表会は子どもの成長を伝える機会としてだけではなく、保護者の方にも楽しんで

らえるよう、一緒に汗を流し、笑いあえる会を目指し計画を実践した。多くの保護者様に、「楽しかった」「子どもの成長を感じた」と言っていた。

・保育参加・保護者面談は随時開催

今年度は保育参加への参加呼びかけを多くしたことで、50名の保護者様が参加してくださいました。

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践結果	コンポストを活用し、土の再生を年2回行った。年間スケジュール通りに作物を収穫した。
	次年度方向性	魚の解体について、今年度は実践に繋がらず、次年度の取り組みとして計画していきたい。
2	計画・ねらい	食材に触れる
	実践結果	毎日の日課として食材に触れたり、下処理をしたりすることが当たり前になった。朝、5歳児は当番の子が包丁を使い、その日の食材を切ることも日課であった。
	次年度方向性	今年度は日々の活動の集大成として、5歳児クラスが生活発表会で包丁を使う姿を保護者に見ていただき、実際に切ったものを調理して食した。次年度にも繋げていきたい。
3	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践結果	4, 5歳児を中心に、三色ボードを使い、栄養についての学びの時間を確保した。バイキング給食で自分の食べる適量を知り、食べる意欲が育まれたと感じる。
	次年度方向性	生きているもの、命をいただいていることを実感できるように、命をいただく活動の実践を行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月13日／11月14日に実施
歯科検診	6月7日／11月8日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 7月3日に幼児クラスにて手洗い指導を実施 ② 1月9日に1歳児クラスにて歯磨き指導を実施
流行した感染症	特になし

発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・2023年3月23日にエピペン研修をスタッフ21名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、18名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・7月29日に浦安市消防本部にて救命救急研修をスタッフ8名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
衛生管理	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月13日、6月14日 歯科健診 各年2回／6月7日、11月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する	年2回／4・10月の園会議時

	チェック	⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが活動を選択し、生きいきと遊べる環境作り
	実践結果	ゾーン保育では、自分で行きたい場所に行き、遊びを決定することを日々繰り返し行ったことで、「誰と」「何をしたい」を自己決定できる子どもたちが増えた。
	次年度方向性	今年度同様、自己決定できる環境を作り、子どもたちのありのままの姿を受け止め見守っていききたい。
2	計画・ねらい	魅力を感じる環境作り
	実践結果	戸外活動だけではなく、園内でのゾーンでも保育者がそれぞれに環境設定を行い、魅力ある遊びが展開されていた。幼児クラスの子の間でスライムづくりがブームになっていることがあった。
	次年度方向性	異年齢での活動の中で、年齢によっては危険になりうる遊びも展開が予想されるため、見守り体制を整えていききたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	生き物飼育台	玄関	毎日	異常なし
2	着替え掛け	幼児室	毎日	異常なし
3	収納棚	縁側	毎日	異常なし
4	レゴブロック入れ	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	<p>1. 年間計画に沿って月1回の避難訓練(火災、地震を想定。通報訓練、引渡し訓練含む)を実施。うちのこアプリを利用し、保護者向けの書き込みを行なう</p> <p>2. 事故防止チェックリスト（年6回）</p> <p>3. 不審者対策訓練実施（年2回）</p> <p>4. 設備点検（年4回）</p> <p>5. 事故防止委員会（自園ヒヤリハット・インシデント事例の共有、検</p>
---	------	--

		証、再発防止対策及び法人内発生事故の記録簿回覧共有) 6. 地域河川氾濫を想定した水防計画の作成
2	実践結果	毎月の避難訓練では、様々な発生状況を想定して訓練を行うことができた。乳児は慣れない状況に泣いてしまうこともあったが、保育者が寄り添うことで落ち着いて参加することができた。 幼児は、訓練だとわかるとふざけてしまう、また保育者の話を聞かずに他児と話しをしている場面も見られたため、その都度訓練の大切さを知らせた。
3	実践結果	不審者訓練では、侵入を防ぐことより、遠ざけること、園内で安全に集まる事を目的としておこなった。幼児室以外は内側から施錠できないため、縁側と玄関の境にある扉と玄関扉の施錠を最優先に行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

後進育成を目的とし、保育士養成校、栄養士養成校からの依頼を受け、実習生を受け入れた。また保育士養成校から実習ボランティアを受け入れた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5～6日	東京こども専門学校	2人	ボランティア、見学実習
8月14～16日	江戸川大学こどもコミュニケーション学科	2人	体験実習
8月24～9月8日	愛国学園保育専門学校	1人	責任実習
2月6～17日	東京家政学院大学	2人	給食管理実習

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ	21日	26日	23日	21日	25日	29日	27日	24日	22日	26日	16日	21日

一自己採点	20名	20名	19名	18名	17名							
園内研修	21日 20名	26日 20名	23日 19名	21日 19名	25日 19名	29日 19名	27日 19名	24日 19名	22日 19名	26日 19名	16日 18名	21日 17名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	18日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	18日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

老人福祉施設や他保育園などとの交流を予定し、交流を楽しんだ。5歳児クラスは老人福祉施設への訪問の際に鍵盤ハーモニカを持参し取り組んできたものを発表したり、お年寄りと一緒に指先を使ったゲームを楽しんだりした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容	
青空保育(保育園主催)	月1回	公園名: 船の公園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：マルエツ、マクドナルド、金の栗、泉銀、セブンイレブン、福秀商店、日産等
世代間交流	月1回 4月～3月シニア交流を「こうゆうデイサービス」で実施
異年齢交流	8月23日に保育園にて卒園児との交流を実施
その他活動	3月7日に愛和元町保育園にて5歳児クラス交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学を視野に入れ、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を目指して、年長児の保育計画を立案し、1年生との接続がスムーズに行なわれるように連携をすすめた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月29日	南小学校 運動会	2名	運動会見学	職員2名が参加
10月20日	南小学校 2年	18名	園見学	町探検で来訪
12月16日	南小学校 1年	2名	授業参観	職員2名が参加
12月18日	東小学校 1年	13名	小学校見学	こめ組13名が小学校見学

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの姿から、課題の見直し、立案をしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：19名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

ISO9001受審 認証継続

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価実施者：正規職員全員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）子どもが一日をどうすごしているのか、わかりづらいとのご意見をいただいたことで、実際に見てもらう機会として保育参加への参加を呼びかけ、園での生活を見てもらう機会を多くした。多数、園内が整頓され、きれいになったとの嬉しいお言葉をいただいた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべき意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべき怪我（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：浦安どろんこ保育園 施設長 吉野 美和子

2023年度 ふじみ野どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子ども一人ひとりの育ちに合った適切な環境の中で、保育士が子どもの自ら学ぶ機会を排除する事なく、時には大人がやってみせ、生きる力のある心も身体も逞しい子どもを育てていくことを意識してきた。また、ヤギの世話や畑仕事、焚き火などの原体験を通して、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養えるよう努めた。大人の子どもへの関わり・言葉掛けが子どもたちの内面の発達に影響する事を意識し、丁寧に関わりをもつ中で、年少児が年長児を安心して真似る流れができていた。関わり合いの中でのぶつかり合いや失敗体験を通し、思考・工夫し、感情のコントロールをする、非認知能力を育む環境づくりをしていくことができていた。メリハリを意識した保育実践を繰り返すことで、集中する姿、遊び込む姿が多くみられる保育環境になった。一人ひとりの個性を大事にした保育を実践し、様々な人と関わりながら自分を認め、自己肯定感を育む場所となるよう、インクルーシブ保育を体現していく中で、危機管理や丁寧な保育、子どもを見る目を更に養い保育スキルの向上が課題である。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもを育て、人との関わり・日々の生活の中での発達の成長・育みを保障していく。
	実践結果	ポートフォリオやドキュメンテーションを掲示することで、日々の生活を知ってもらえるようにした。専門的な内容の掲示も増やし園の目指す保育の共有に努めた。
	次年度方向性	掲示がある事の発信やアテンドを行い、保護者と一緒に変化や過程を共感する機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、個を認め、見守り、主体的に活動できるように最後まで見届ける保育をしていく。
	実践結果	子ども一人ひとりを人間として捉え、人権を大切に、安全に生活を送ることのできるよう常にアンテナを張り、心を置き、流さない思考を大事にした。
	次年度方向性	発達を踏まえた関わりを常にできるように、学びを深める。 子どもの様子の伝えあいを日々意識して行う。
3	計画・ねらい	心身発達の理解を深め、活発な対話のできるチームで一つのを創り上げる保育実践を行なっていく。
	実践結果	ディスカッションを繰り返し、職種の壁を越えて対話を行った。
	次年度方向性	自分たちで学び、発表していく。アウトプットを繰り返し行う。思考し、考えを言葉にし、ねらいを持った保育を常に意識して行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の見える化
	実践結果	日々の保育、園内外での子どもたちの様子・成長が伝わるような視覚的な情報の発信、送迎時の対応を通し、関係づくりに全職員で努めた。
	次年度方向性	ブログの内容を掲示し、保護者との対話を更に増やし共育ちに力を入れていく。掲示がある事の発信やアテンドを行い、保護者と一緒に変化や過程を共感する機会を増やす。
2	計画・ねらい	子ども達を共に育てる
	実践結果	「子どもを真ん中に」を捉え、子どもにとって何が大切か考え、共有し合える関係、関わり合うことを大切に互いに子どもを育てるパートナーである事を意識した。
	次年度方向性	成長を共に感じ、時には悩みながら一緒に変化の過程を感じられる関りや支援を目指していく。子どもにとって何が大切かを共有し、共に考えられる関係を構築していく。保護者の気持ちや状況に寄り添い、子どもの最善の利益を考える。
3	計画・ねらい	利用者のニーズに合わせた選ばれる施設を目指す
	実践結果	いつでも気持ちの良い施設を維持する。保護者の目線に降りた対応を心掛ける。
	次年度方向性	保護者の目線に合わせた対応を意識する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の憩いの場の提供。
	実践結果	地域のニーズを捉え、子育て世代の方同士の繋がりや多世代の憩いの場となるよう意識した。
	次年度方向性	園に留まらず、園外へ向かう支援を行っていく。
2	計画・ねらい	子育て支援の相談や情報収集できる場。
	実践結果	保育園行事への参加・交流等、大人も子どもも様々な体験ができる拠点とし、子育て支援の場としての役割を意識した。
	次年度方向性	安心して利用できる雰囲気を意識し、更なる利用者を増やす。
3	計画・ねらい	支援内容の発信と利用しやすい環境構成。
	実践結果	活動内容が見えるように事務所や玄関の目の付きやすい場所に掲示を行い、外部への発信としてもブログの配信を行った。

	次年度方向性	地域の子育て拠点として選ばれるよう、より広報活動に力を入れる。
--	--------	---------------------------------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの心の動き、気持ちに気付く事のできる職員集団となるため、子どもの様子を日常で共有できる「対話的で個を尊重しあえる」環境を構築していく。チーム保育の実践。
	実践結果	昼礼を基本にしながら、共有することに重点を置いてきた。園会議では、個々が試行し意見が出しやすいよう、小グループでのディスカッションを繰り返し行った。
	次年度方向性	あそびに夢中になれる環境をチームで考察し、保育者同士が積極的に情報共有・意見交換することで多面的に子どもを捉え、個々の理解を深めていく。
2	計画・ねらい	アウトプットを意識し「振り返り」をしっかり行いファシリテーション能力を高める。個々の学びを深めると共に、園全体の質の向上を目指す。
	実践結果	実践報告会や発達の学びを個々に行う。聞くだけの研修から、誰もが学んで伝える研修意識してきた。
	次年度方向性	自ら学んだことを内部研修として実施していく。法人研修を利用し研修の講師の仕方も意識して学びブラッシュアップしていく。
3	計画・ねらい	職種（保育士、看護師、調理師、用務、事務）、経験、年齢にとらわれず、全職員が保育者として一人ひとりの子どもに向き合うことを基本とする。それぞれの専門性を存分に生かし、子どもの主体性を引き出す保育を行う。
	実践結果	各専門分野を理解した上で、色々な角度からの関りを実践した。
	次年度方向性	専門分野以外の知識を増やし、多方面からのアプローチが出来るように知識の幅を広げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への配慮、意識を育む保育
	実践結果	畑仕事（種まき・育てる・間引く・収穫）・食材の加工（梅・味噌・ケチャップなど）生き物の世話・命をいただく活動を実施。
	次年度方向性	自ら栽培に携わり、収穫を経験しながら、実体験としての循環を経験させていく。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	給食調理における破棄を減らす、残渣やヤギ糞鶏糞の再利用など、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持ち、コンポスト設置。

	次年度方向性	今年度の経験を子どもたち自ら活かし、自発的に思考しながら実行できる環境を整える。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実施
	実践結果	木育として木材を利用した活動の実施、園庭改良、木陰を感じる空間の維持、ペーパーレス化を実施。
	次年度方向性	製作に取り入れ、自園の豊かな自然を実感できる環境を整える。

〈6〉リズムあそびの充実化

1	計画・ねらい	計画：園会議毎にリズム研修を行う ねらい：ケガをしない丈夫な体づくりを行う
	実践結果	基礎となるリズムの習得、集団リズムの習得を図る。実践し振り返りを行った。
	次年度方向性	自ら学びたい事柄を精査し、受け身の研修から学び取る研修へシフトチェンジしていく。
2	計画・ねらい	計画：スキル講座の主催をする（リズムを行うモデル園となるよう） ねらい：主催する側となることで、手本となることを経験する（自身とルームのスキルUPにも繋げる）
	実践結果	園会議での園内リズム勉強会を行い、実践と振り返りを行った。
	次年度方向性	細かな動きや、ねらいを学び、実践で活かせるようにしていく。発達を捉えた介助を学ぶ。
3	計画・ねらい	計画：集団リズムを取り入れていく ねらい：ケガをしない丈夫な体づくりを行う中、他者と関りながら体を動かす楽しさを経験する
	実践結果	幼児を中心に集団リズムを取り入れた。乳児はわらべ歌や、触れ合い遊びを取り入れた。
	次年度方向性	季節や発達にあったリズムを実践できるようにする。

〈7〉ふじみ野の伝統を園と共につくる

1	計画・ねらい	荒馬踊り、太鼓を活動に取り入れていく。現在子どもたちがとても興味をもって取り組んでいる民舞のため、更に学びを深めふじみ野の特色となっていくよう活動に組み込んでいく
	実践結果	リズム体操の後に荒馬踊りを取り入れた。現在は馬役を子どもが行っているが、跳人役やお囃子をする役も設け、自分の得意分野で参加できるようにした。
	次年度方向性	園全体での学びを深めていく。

2	計画・ねらい	計画：運動会や地域の方に向けて披露する機会を設ける ねらい：披露することで自信に繋がる場の提供を行う
	実践結果	運動会での披露、地域の方を呼んで披露等、披露する場を作り、ブログで活動の様子を発信した。
	次年度方向性	経験の場を増やし、楽しみながら習得できる環境を構築する。
3	計画・ねらい	計画：すべての職員が太鼓、笛、踊りのいずれかの知識を深める ねらい：職員全員が子どもに対し伝承者となれるようにする
	実践結果	園内勉強会として盛り込む。習得した職員が次の職員へ教えていけるよう、伝承していくことを大切に、知識を深めるよう努めた。
	次年度方向性	色々な地域の民舞に触れる機会をもち、選んで参加できる環境を構築する。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	108人	108人	84人	120人	108人	564人
年度後半： 10~3月	36人	108人	108人	88人	120人	108人	560人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	120 人	129 人	144 人	132 人	128 人	147 人	174 人	190 人	154 人	115 人	186 人	180 人	1799 人
うち0 歳児	0人	1人	0人	2人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	0人	6人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	2人	1人	0人	2人	10人	6人	11人	4人	20人	27人	26人	28人	137人
うち0	1人	0人	0人	0人	0人	1人	6人	4人	17人	25人	25人	28人	107人

歳児														
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	0人	栄養士	4人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	事務	2人
	用務	1人	看護師	1人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事の振り返り実践報告、ディスカッション、研修計画に基づいた園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議、食に関するエピソード共有、ディスカッション
事故防止委員会	月1回	自園・他園の事故分析、再発防止策の立案と振り返り
ケース会議	月1回	子どもの様子・状況の共有、対応についてつむぎとの連携・情報の共有
リーダー会議	月1回	園長・リーダーによる園運営・各クラスの連絡・課題の抽出及び検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長

施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理 安全管理
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者訓練の計画・実施・振り返り 防災実施点検の管理・設備点検・事故防止点検の実施・振り返り
防火管理者	災害対策・消防計画に則り避難訓練の実施・自主点検の実施 避難訓練の計画・実施・振り返りを行う
食品衛生管理係	給食・提供食材の安全・衛生管理
畑係	年間畑計画に則り、子どもと共に行う畑活動の実施・計画の振り返り及び検討 畑の管理
生き物係	飼育動物の健康管理・飼育活動の意義の理解・計画の検討 飼育環境整備
美化係	園庭・室内の清掃整備の計画・伝達

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口
保育環境整備係	園庭・室内の環境整備・どろんこサポーターズとの連携・整備作業の計画・実施

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・その都度、保護者の方のご意見を聞き、日々の送迎時にコミュニケーションをとることを心掛け、共に成長を喜び合う関係づくりを心がけた。
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み（3月1日時点） ・子どもとの応答的な関わりを感じていただき、安心感を持っていただけた。また、異年齢の関りがどんなものが実際に見てもらい素敵だったとの感想をいただけた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み（3月1日時点） ・専門職の意見を聞きながら、担任・施設長で家庭での姿を伺いながらアドバイスをを行った。

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	共に食べる喜び、心地良さを味わえることのできる関わり、コミュニケーションを大切に食事の時間・空間づくりをしていく
	実践結果	食べたい時に・食べたい場所で・食べたいものを・食べたい人と・食べたいだけ食べる、を意識して行った。
	次年度方向性	お腹が空いたという経験を通して食への意欲を高める。食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じることで食に対する意欲を高められるようにする。
2	計画・ねらい	食に旬がある事を知り季節を感じながら様々な地域の産物を生かした食事を体験する 様々な伝統食や行事食・郷土料理を体験する
	実践結果	野菜の収穫から調理に繋がる活動や、行事食、郷土料理の食育活動を年間通して行った。
	次年度方向性	縁側給食を通して、四季を感じながら食べる場所の提供と自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定
3	計画・ねらい	野菜等を自ら栽培・収穫し、食べる喜びを経験する 日々の活動の中で空腹感を感じることで活動を保証し、食欲へと繋げる。
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れた
	次年度方向性	食の循環 戸外での十分な活動を保障し、食欲へと繋げる環境の構築

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月14日／11月15日に実施
歯科検診	6月29日に保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月30日に自園にて保健センター虫歯予防健康教育を実施 ② 9月7日に自園にて手洗い指導を実施 ③ 12月7日に性教育を実施
流行した感染症	胃腸炎（12月中旬）
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、12月20日に痙攣のため救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に園にてエピペン研修を全スタッフ25名が受講し習得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

		※対象物がない園及び JW 園は削除すること
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月14日、11月15日 歯科健診 各年1回／6月29日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	清潔且つ衛生的で安全な、気持ちのよい環境の中で心地良く活動ができるよう、施設内の清掃整備を行う
	実践結果	清掃・環境構成の委員会を立ち上げ、システム化を進めた。スタッフ一人ひとりが自分事と捉えることを意識した
	次年度方向性	利用者目線での心地よい環境を構築する
2	計画・ねらい	子ども自らが遊びを見つけ意欲をもって遊びだし、遊びこめる環境になっているか、大人の思いや意図が先行することのない様、今子どもたちに何が必要かをその都度見直しを実施し、環境を整えていく
	実践結果	振り返りを定期的に行い、環境とその時々の子どもの姿をスタッフ間でディスカッションを繰り返した。
	次年度方向性	振り返りの頻度の見直しを行い、環境についての学びを増やしていく
3	計画・ねらい	園庭・室内の環境整備、安全に考慮した保育環境を整え、法人のこだわり・裸足保育・機会を排除しない保育実践をしていく
	実践結果	子どもたちが自分で選択できる環境を意識し、スタッフ間の共有を行った
	次年度方向性	交ざり合いを意識した環境構成を構築する

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	1歳児室、幼児室	毎日	7月に解体・撤去
2	ジャグ台	縁側、幼児室	毎週土曜日	7月に解体・撤去
3	飼育台	玄関	毎週土曜日	異常なし
4	ベンチ・テーブル	園庭	毎日	異常なし
5	かまど	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練・消防計画を行う。火災・地震発生時の避難方法を確認。アプリを使用し、園児の情報を発信した。
2	実践結果	事故防止チェックリスト・設備点検チェックの実施。怪我発生時、対応フローチャートに従う。ヒヤリハット報告書・インシデント報告書の検証をし、再発防止策に重きをおき、怪我や事故、保育の見直しを行った。看護師による園内講習（応急手当・エピペン・ダイアップ）を行った。
3	実践結果	年2回不審者訓練の実施、笛の携帯・送迎者の把握及びつむぎルーム・子育て支援センター利用者へ言葉掛け・インターフォンでの確認を行い、地域との連携をし、安全・防犯への意識づけをしていった。
4	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意報等を把握し、発生時には発生時対応を行政連絡、対応をした。園児・職員は室内で過ごす、健康状態の確認をした。
5	実践結果	怪我発生時の対応、職員の情報共有(お迎え伝達ボード記入、口頭での伝達の徹底)翌日の対応等、保護者に心を配る、誠意をもった対応をする事を常に意識付けをした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

コロナ禍で受け入れ先を失った実習生の受け入れ先となり、健康面も配慮しながら受け入れた。子どもと関わる楽しさや保育士のやりがいを感じてもらえるよう、気持ちのフォローも大事に考えて行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月5～9日	大宮こども専門学校	1人	観察実習

2月8～27日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	2人	観察実習
2月26～3月9日	文教学院大学人間学部児童発達学科	1人	部分・責任実習
3月6～19日	有明芸術短期大学子ども教育学科	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

今年度なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 25名	12日 25名	9日 25名	7日 25名	4日 24名	8日 24名	6日 24名	10日 24名	8日 24名	12日 25名	29日 25名	29日 25名
虐待防止・危機管理研修	14日 32名											
発達研修		12日 31名										
さくらさくらんぼリズム研修			9日 31名			8日 24名	6日 24名					
エピソード研修				7日 31名								
保育の実践振り返り研修					4日 27名			10日 34名		12日 31名		
行事についての研修									8日 30名			

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月18～19日	東京都	キャリアアップ研修	1名	無

2月3～4日	東京都	キャリアアップ研修	1名	無
1月12日	東京都	キャリアアップ研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	10日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	10日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)										

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

コロナ禍が開け、いつも通りの生活に戸惑う事がない様、利用者の目線に合わせて支援することを心掛けた。変化共有するだけでなく、そこまでの過程や今必要な支援は何かを常に考え、一緒にできることを行ってきた。地域の方へも言葉をかけることを意識的に行う事で園とのつながりを作れるように心掛けた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 亀久保西公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先: セブンイレブン、横山青果、はなこう、大井交番、富田商店、大井ショッピングセンター、大井郵便局、立麻医院、アポロ歯科、畳の橋本、大井図書館、西消防署、ベルク等
世代間交流	6月13日に保育園にて文教大学学生さんによる出し物会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

直接的な交流はできなかったが、散歩時に小学校の近くを通り校外から小学校の様子見ることはできた。小学校へスムーズな接続を実現するため、保育園保育要録を送付、電話での情報の申し送り面談を実施。

- ・幼保小連絡協議会の実施
- ・各小学校と電話にて情報申し送り

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個々の保育計画から日々の子どもの様子を観察、記録をし、全職員、保護者様とも共有しながら振り返りを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：8名前後 つむぎスタッフと保育園スタッフと一緒に支援の方向性を確認しながら、振り返りと計画の共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継については、電話での共有を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
128名	129名	191名	296名	169名	140名	132名	142名	126名	128名	120名	130名	1843名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計22回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10名	14名	10名	32名	31名	6名	10名	20名	10名	12名	22名	20名	197名
どろんこ 芸術学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

どろんこ 自然学校	2名	4名	2名	3名	0名	7名	6名	0名	6名	2名	4名	5名	41名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：亀久保西公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	9名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	4名	4名	2名	21名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年8月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：15時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：内田あゆみ、岩崎亮子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：126.3%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：ふじみ野どろんこ保育園 施設長 内田 あゆみ

2023年度 武蔵野どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の子育て理念と園目標を実現するために、自園で出来ることを実践しながら保育を行ってきた。今出来ることに最大限に取り組み、特にインクルーシブ保育や長距離散歩、日課の見直しを行ってきた。インクルーシブ保育では、発達支援つむぎ 武蔵野ルームとの連携をしながら、「一人ひとり丁寧に」「みんなと一緒に生活する」ことを目指し、たくさん体験を行った。

畑改革では、畑内にコンポストを作りあげ運用を始めた。給食残渣は目標達成できるまでに近づいてきている。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育…個性の違いを認め合い、その違いを踏まえたうえでどのような関わり方をするのが望ましいか生活の場で学び、今後の社会で生き抜くうえで必要な力の基盤を育てる。 ① 他者との協同 ②感情コントロール ③目標の達成 ④成長を楽しむ
	実践結果	インクルーシブ保育を実践している。個人の特性を理解しながら関わり、友だちとの関係を深めていった。つむぎスタッフとのケース会議も行った。
	次年度方向性	引き続きつむぎスタッフを交えたケース会議を続行していく。 発達についての勉強会を行い、スタッフの意識を高めていく。
2	計画・ねらい	続・原点回帰：どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり 子どもたちが自ら活動を選び行動し毎日充実した日々を過ごしている。
	実践結果	日課・基本活動は、習慣になり子どもたちから活動する姿が見られるようになった。次年度は畑仕事の習慣化に取り組む。
	次年度方向性	日課・基本活動は、引き続き行っていく。こめ組を中心に行えるように体制を整える。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP。 コンピテンシーの追及。
	実践結果	毎月のコンピテンシーは実践することが出来た。 園長大学や保育士大学講座の視聴はなかなか出来なかった。
	次年度方向性	コンピテンシーは毎月行い、全スタッフが目標に向かって行動を行い自分のスキルアップに繋げていく。 面談は随時行える環境を引き続き行っていく。 園長大学や保育士大学講座を視聴し、勉強会を行えるようにしていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	朝の受け入れ・お迎え対応の充実。
---	--------	------------------

	実践結果	朝の受け入れ・お迎え対応は、エピソードを話せるようにしていったが待ち時間が発生することもあったので、「待たせない対応が出来る」ようにしていく。
	次年度方向性	保護者対応について勉強会を行い、全スタッフが同じ保護者対応が出来るようにしていく。
2	計画・ねらい	個人面談実施（随時・月間）
	実践結果	個人面談は随時・月間と行うことが出来た。月間は予定より遅くなったが9月にたくさんの保護者が参加して、ゆっくりと話をすることが出来た。
	次年度方向性	引き続き同じペースで行っていく。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流を深める。
	実践結果	どろんこ祭りでは、どろんこサポーターを募集して保護者同士の交流を深める機会を作ることが出来た。懇談会、運動会、生活発表会時にも交流ができる環境を整えていった。
	次年度方向性	引き続き保護者同士の交流の場を設けていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	つむぎ 武蔵野ルーム、つむぎ 田無ルーム、就労 武蔵野ルームとの連携
	実践結果	つむぎ 武蔵野ルーム、就労 武蔵野ルームとの連携を行い、インクルーシブ保育を実践した。つむぎ 田無ルームとの連携は出来なかった。
	次年度方向性	引き続き連携を行い、インクルーシブ保育を実践していく。つむぎ 田無ルームとも連携する。
2	計画・ねらい	保育所体験、自然食堂、自然学校、芸術学校、寺親屋、青空保育の実施。
	実践結果	保育所体験、自然食堂、芸術学校、青空保育の参加者があった。（自然食堂、芸術学校はコロナ禍以来の参加だった。）
	次年度方向性	子育て支援をしていることを宣伝していく。チラシを配布、掲示を増やしていく。リピーターを増やして行く。
3	計画・ねらい	小中高生職業ボランティアの受け入れ実施。
	実践結果	小学生、中高校生
	次年度方向性	引き続き行い、保育園での職業体験を増やして行く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	発達について
	実践結果	園会議にて、つむぎスタッフが毎月「発達について」の勉強会をしてくれたので学ぶことが出来た。
	次年度方向性	つむぎ併設園として、引き続き勉強会を開催していく。
2	計画・ねらい	「6つの力」を考え、掘り下げて具体的なアクションプランを話し合い、実践していく。
	実践結果	「さくらさくらんぼリズム」「長距離散歩」の実践はできたが、「6つの力」勉強会は出来なかった。
	次年度方向性	毎月、勉強会が行えるようにしていく。
3	計画・ねらい	園長大学・保育士大学講座勉強会
	実践結果	園長大学や保育士大学の視聴は数回しか出来なかった。
	次年度方向性	園長大学や保育士大学の視聴を強く推し進めるとともに、視聴後は園内で意見交換や勉強会を開き、学びの共有を行う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑—1年間を通しての活用。
	実践結果	畑改良後、1年を通し野菜、花の栽培やコンポスト作りが出来た。 日課での畑仕事は達成出来なかった。
	次年度方向性	引き続き行っていく。「畑仕事を日課に」を達成できるようにしていく。
2	計画・ねらい	室内環境整備「毎日きれいな保育室の持続」。
	実践結果	「清掃チェック」を毎日守り、保育室内の環境を整えることができた。
	次年度方向性	継続して「きれいな保育室」を保っていく。

〈6〉続・原点回帰 「日課にこだわる」

1	計画・ねらい	さくらさくらんぼリズム8：15開始。
	実践結果	毎日8：15に開始することが出来た。

	次年度方向性	引き続き行っていく。また新しい曲も取り入れていく。
2	計画・ねらい	散歩9時出発。
	実践結果	9時出発が増えてきている。
	次年度方向性	幼児組の人数確認が素早く確実に出来るようにしていく。 乳児組は引き続き9時出発を継続していく。
3	計画・ねらい	畑仕事。
	実践結果	日課にはならなかったが、前年度と比較し畑に機会を増やすことができた。コンポストも完成させることができた。
	次年度方向性	畑仕事は日課として確立させる。

〈7〉子育てで見に付く「6つの力」

1	計画・ねらい	「6つの力」③「全ての人との関わりから、判断・行動を見に付ける」の体験活動
	実践結果	インクルーシブ保育を実践してきた。子どもたちから関わる姿が増えてきている。
	次年度方向性	継続してインクルーシブ保育をつむぎスタッフと共に実践していく。
2	計画・ねらい	「6つの力」①「ケガをしない強い体を育てる」の体験活動
	実践結果	日課の習慣化、長距離散歩の実践が出来た。長距離散歩では、達成感を感じる子どもたちがたくさんいた。
	次年度方向性	継続して行っていく。
3	計画・ねらい	「6つの力」⑤「生死を知る」「食の循環を知る」の体験活動。
	実践結果	「ニワトリの死」を目の前で体験し、土に返すことを知る。5歳児は「イワシの手開き」を行い「食の循環」を行った。
	次年度方向性	一定の成果が得られたと感じており、次年度もこれらを継続する。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	90人	108人	120人	118人	108人	580人
年度後半： 10~3月	36人	90人	105人	120人	115人	102人	568人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	225 人	217 人	256 人	274 人	223 人	227 人	228 人	236 人	277 人	174 人	142 人	150 人	2629 人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	1 人	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人	4人

（解説）3月は見込み人数

一時保育利用状況

（解説）一時保育受け入れなし。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
	用務・バス 運転手	1人		人		人		人
パート スタッフ	保育士	5人	事務	1人	用務	1人		人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー・離乳食確認、食育について
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の解析、再発防止
ケース会議	月1回	発達の気になる園児の情報共有と次月の方針について
クラス会議	月1回	1週間の振り返り、次週の計画。月末に次月の計画

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の個人衛生点検、毎月の衛生管理点検実施。園内の衛生管理が保てるように看護師、調理師が中心となり活動を行った。

安全対策係	室内外の設備や手作り玩具の安全管理をして、点検を行った。 不審者侵入訓練の実施。
防火管理者	避難訓練、消防設備点検の実施。
食品衛生管理係	衛生点検の実施。給食衛生管理マニュアルに沿った対応を行った。
畑係	年間を通した食育計画案の作成と実施。畑の管理を行った。
生き物係	エサなど必用物品の発注を行った
図書係	園内の絵本、紙芝居の管理、発注。管理表の作成を行った
卒園アルバム係	卒園アルバム内容の検討、実施、作成

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、どろんこサポーターズの結成
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針にあげた保育内容が実現できるように日々保育を行った ・スタッフのスキル向上の為、毎月の園内研修を行った。 ・エリア研修、保育の質会議に参加しスキル向上を行った。 ・子どもたちが楽しめる保育を実践してきた。
保育参加	4～3月まで 合計28名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計54名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べることの楽しさと食への意欲を育てる。
	実践結果	バイキングをしたり、異年齢で食べたり、大人と食べたりしながら、食への意欲が育ってきている。
	次年度方向性	引き続き行って、楽しく食べる環境を整えていく。
2	計画・ねらい	噛む力や食べる意欲を育てる。
	実践結果	離乳食は、個人の発達に合わせて食材の大きさに対応しながら「噛む」力をつけていった。
	次年度方向性	引き続き行っていく。「食べる」意欲を高めていく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムを確立し、食に対する意欲を育てる。
	実践結果	午前活動（9時出発や長距離散歩）の充実により、空腹のリズムが確立されてきている。
	次年度方向性	引き続き行っていき、食べ残しを減らしていく。
4	計画・ねらい	食材の大切さや感謝の気持ちを育む。
	実践結果	畑仕事を通して食の循環の直接体験を行うことができた。 収穫した野菜を自分で「おく」「洗う」「切る」などを通して食べることで、食の循環を体験できた。
	次年度方向性	畑仕事を日課にしながら、引き続き行っていく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月17日／11月16日に実施
歯科検診	6月20日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①5月18日にあずき組歯磨き指導を実施 ②5月31日にあずき組手洗い指導を実施 ③6月12日にこめ組歯磨き指導を実施 ④6月16日にあずき組鼻かみ指導を実施 ⑤6月26日にむぎ・こめ組「プライベートゾーンを知ろう」実施 ⑥10月12日にこめ組「からだののしくみ」実施 ⑦1月5日にひえ組歯磨き指導を実施 ⑧1月20日にこめ組性教育を実施
流行した感染症	①10月にインフルエンザ、園児6名感染報告あり ②1～2月にインフルエンザ、園児19名、職員3名感染報告あり
発作・痙攣等の対応	今年度、対応なし。
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に保育園にてキックオフ時にスタッフ19名、つむぎスタッフ5名、計24名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、20名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置無し（徳洲会病院にあり） ・4月21日に園会議にて救急救命講習研修をスタッフ名19名、つむぎスタッフ4名、計23名が新たに受講し習得済み（消防署田無出張所の方が講師） ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、18名が使用可能
その他保健に関する取組	園児の健康状態を把握。既往歴・予防接種歴の把握。水遊びの際の安全・衛生管理。健康保険証・乳児医療証の有効期限確認。身体測定毎月20日。園会議にて職員への保健関係の情報提供・指導。新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導を行った。また消毒・換気を徹底した。救急用品の定期的な点検。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／5月17日、11月16日 歯科健診 各年1回／6月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	乳幼児の育ちを捉え、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に、点検・整備・改善を行い必要に応じて新たに製作していく。
	実践結果	環境会議がなかなか出来なかったが、クラス会議時には話し合うことが出来た。
	次年度方向性	子どもの発達を学びながら、引き続き環境整備を行っていく。
2	計画・ねらい	子どもが自ら環境に関わりながら、好きな場所で好きな仲間と遊び込む経験ができるように環境づくりをする。
	実践結果	あそびの中で、好きな場所で好きな仲間とあそび込む姿はたくさん見られた。
	次年度方向性	引き続き行っていく。
3	計画・ねらい	必要なものが必要な場所、必要な量、整理整頓されている状況を維持し、必要な時にそれが使えるようにする。
	実践結果	整理整頓が出来ていないことがあり、子どもたちがやりやすい環境の維持が出来なかった。
	次年度方向性	整理整頓をしっかりと行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	乳児室お家	2階保育室	毎日	異常なし
2	乳児室ロッカー	2階保育室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	毎月一回避難訓練を実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討。
2	ケガ事故防止	ケガ事故防止：事故防止チェック年4回、設備点検年4回の実施。 インシデント報告書、ヒヤリハット報告書、事故記録簿の作成。 毎月事故防止委員会の開催。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施。不測の事態に備える。保育者の動きや合言葉の確認をした。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ：自治体からの連絡で対応。
5	情報共有の徹底	全ての事項の情報共有を強化していく。（昼礼、園会議、緊急事故防止委員会、事故防止委員会）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生は予定通り受け入れ、全日程終了できた。

初めて特別支援学校の高校生の用務の実習を受け入れた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月28日～9月9日	日本児童教育専門学校	2人	責任実習
1月29日～2月1日	都立田無特別支援学校	1人	用務実習
2月8日～2月22日	十文字学園女子大学	1人	部分実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月14日	第6中学校	1人
8月16日	第6中学校	1人
8月18日	田無第一中学校	1人
8月21日	都立小平西高等学校	1人
8月28日	都立田無特別支援学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 24名	19日 25名	16日 25名	21日 24名	18日 23名	15日 23名	20日 24名	17日 24名	15日 24名	19日 24名	16日 24名	15日 24名
園内研修	21日 19名	19日 16名	16日 19名	21日 19名	18日 15名	15日 18名	20日 16名	17日 16名	15日 15名	19日 14名	16日 23名	21日 18名

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる 会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「地域の方と積極的に関わり、いつでも来てもらえる保育園を目指していく。」の振り返りは、子育て支援としての来訪が増えた。園見学者が多く「保育所体験」のことを伝えると参加に繋げることが出来た。

「小中校生の職業ボランティアを積極的に受け入れていく。」は夏休み、冬休みと参加者がたくさん来てくれた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：おおぞら公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：桜堤交番、西東京市消防署田無出張所、桜堤郵便局、あみの歯科、新町児童館、セブンイレブン、つむぎ武蔵野ルーム
世代間交流	月1回 フローラ田無とのシニア交流を実施
異年齢交流	発達支援 つむぎ 武蔵野ルームの放課後デイの中高生と空き地での交流を実施
異文化交流	6月23日にオーストラリアとWEBで繋ぎ交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

上向台小学校との交流を3回行うことが出来た。

上向台小学校からは、入学する子どもたちの様子の引き継ぎを電話で行った。

向台小学校からは、1年生担任が園にいらして、入学する子どもたちの様子の引き継ぎを対面で行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月27日	上向台小学校 2年生	16名	課外学習（武蔵野どろん こ保育園）	保育者と子どもたちと の交流
11月17日	上向台小学校	15名	上向台小学校	展覧会見学
2月15日	上向台小学校 1年2組	16名	授業体験（上向台小教室 と校庭）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議、クラス会議、園会議で情報を共有しながら計画の作成、見直しを行ってきた。
発達支援 つむぎ 武蔵野ルームのスタッフも参加して会議を行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・ 4～3月に計12回開催 参加者：各クラス担任
毎月定期的に行い、園児にとって良い対応を考えながら進めてきた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

園児の進学先の小学校に申し送りを行いスムーズに進学できるように連携をとった。
5歳児担当者が進学先の小学校の担当者と対面や電話で申し送りを行った。
保育要録を各小学校に提出した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	4名	13名	16名	63名	20名	55名	11名	2名	8名	6名	5名	207名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み																								
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計5回実施済み																								
	参加者延べ人数																								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	0名	0名	2名	6名	0名	3名	0名	0名	4名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み																								
	参加者延べ人数																								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	0名	0名	0名	2名	0名						
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置																								
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																								

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：今村真里、大泉裕也、佐々木弘美、本田乃彩

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：109.5%

(省察) 回収率は昨年度より良くなり100%を超えたが、全家庭が回答したかは分からない。

ご意見は改善をして、次年度同じご意見が出ないようにしていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク(HP・メール・電話)、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図

る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0 件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ 0 件

※なお、報告書内の 3 月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：武蔵野どろんこ保育園 施設長 今村真里

2023年度 メリー★ポピンズ市川ルーム 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「みんなが楽しく」を大切に1年間活動した。

ワンフロア的环境を活かし、異年齢の子どもたちが園内を自由に行き来することで、年上児が年下児の面倒を見、年下児が年上児の行動に憧れを持つ姿が多く見られた。

多くの体験を用意し、子ども自らが興味関心のある遊びを選択出来る環境構成をすることで、主体的・自発的に、自分で考え行動する場面が年齢問わず多く見られた。また、畑活動を盛んに行い、子どもの食への興味関心を高めることが出来た。

小学校との連携について、交流活動、見学等の実施、小学校指導要領の園内研修を行うことにより、子ども、スタッフ共に意識の高まりは見られたが、次年度以降更に活動の充実を図りたいと考える。総じて、充実した活動を送ることが出来た。次年度以降も更に充実した保育内容を検討していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	室内・戸外を問わず、子どもが中心となり遊びや行動を選択できる環境作りを常に考え実践する
	実践結果	その時々の子どもの発達状況を考慮し、担任週会議、園会議で環境についての話し合いを行った。
	次年度方向性	子どもの発達状況を考えた環境構成を引き続き検討しながら、環境づくりを実践する。
2	計画・ねらい	スタッフ個々が、園長大学・保育士大学講座を使い、設定した目標に向けて専門的な知識と技術を高め、常に自己研鑽を重ねていく。園内研修で知識を共有する。
	実践結果	園会議に於いて、得た知識を発表する機会を多くし、園全体のボトムアップを図るよう努めた。
	次年度方向性	施設長、主任だけでなく、リーダースタッフに講義する機会を多くしたことで、園全体の保育の質が向上した。
3	計画・ねらい	子どもの発達状況を理解した上で、連続性がある保育計画を作成する
	実践結果	担任週会議、園会議等の日程を考慮した計画作成のスキームに基づき、前月の子どもの姿を踏まえた次月の保育計画の作成を行った。 発達状況を理解し、発達の連続性を保つことが出来るような計画作成を意識した。
	次年度方向性	発達状況の理解、連続性を保つ計画作成について継続する。
4	計画・ねらい	保育者、子ども、保護者と一緒に安全教育を進める

	実践結果	避難訓練の内容を保育者と子どもと一緒に考え実施した。 保護者懇談会に於いて、子どもの安全についての知識を発信した。
	次年度方向性	幼児を中心に、避難しなければならない理由、状況、避難方法を考えられるような言葉掛けを大切にした。保護者懇談会で、保護者に安全教育の内容を共有した。
5	計画・ねらい	エピソード記録やポートフォリオを作成し、自園の保育姿勢を発信する。
	実践結果	エピソード記録を保育者の経験値別に作成し、スタッフ間で共有し玄関に掲示した。 月1回、ポートフォリオを作成し玄関に掲示した。保護者が待った気がしないお迎え対応に活かした。内容をチャットで共有した。
	次年度方向性	エピソード記録、ポートフォリオの玄関掲示について、保護者に好評の様子がある。次年度も継続する。
	計画・ねらい	日本の伝統行事を知り、理解を深める
	実践結果	伝統行事について、事前導入を大切にした。絵本、手遊び、歌、体操等を取り入れた。
	次年度方向性	行事がイベントにならないようにすることを意識し、引き続き導入を大切にしている。
	計画・ねらい	挨拶、応対、環境を念頭に置き、気持ちの良い接遇を行う
	実践結果	園内研修で接遇について学んだ。日々の対応について、スタッフ同士気になる点があれば、逐次共有改善をした。朝の登園時、挨拶運動を行った。
	次年度方向性	接遇研修、挨拶運動について、次年度も継続する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立った接遇を心掛ける
	実践結果	日々の連絡帳やタイムラインを施設長・主任がチェックし、内容の充実にも努めた。園内研修やチャットで内容を共有した。
	次年度方向性	接遇について、次年度も継続する。
2	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、環境設定に必要なものをしっかりと揃え、気持ちの良い、選ばれる施設を作る
	実践結果	清掃責任者による点検を実施した。
	次年度方向性	総じてルール通り行われた。行事等、業務が立て込む時期に疎かになることがあったため、次年度に向けて取り組み方を再考する。
3	計画・ねらい	保護者とコミュニケーションをとり、安心して子育てが出来る環境を作る

実践結果	保護者対応の方法について園会議で事例検討を行った。保護者面談の機会を作り、安心してコミュニケーションが取れるような関係構築を目指した。
次年度方向性	保護者対応方法について、次年度も継続して事例検討を行う。面談の機会も多用していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園開放の機会を地域にアプローチしていく
	実践結果	園見学にいらした方や、訪問する商店街の方に園開放の機会をお伝えし、いつでも園に遊びに来ることが出来ることを周知した。
	次年度方向性	園開放の周知を更に進める。園が地域の子育て拠点となることを目指す。
2	計画・ねらい	地域の方が楽しむことが出来るような活動を提供する
	実践結果	年間のちきんえっぐ活動計画を、地域の方が足を運びたくなるような魅力的なものとするよう努めた。
	次年度方向性	ちきんえっぐ活動計画について、内容を再考し、更なる充実を目指す。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	経験の浅い職員については、法人ルール・方針の理解・日々の業務の習得を目指す。 子どもと可能な限り関わり、子どもを知る、子どもの思いを感じることを目指す。
	実践結果	保育品質マニュアルの読み込みを各自行った。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目標にし、各自取り組んだ。総じて目標を達成することが出来た。エピソード記録を適宜作成した。
	次年度方向性	マニュアル読み込み、講座受講について継続し、保育の質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	中堅職員については、法人理念・園目標の具現化に必要な事を考え、実践することを目指す
	実践結果	日々の保育についての振り返りを行いチャットで共有した。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指し、受講内容を会議で発表した。 月1回のドキュメンテーションを作成した。経験の浅い職員のフォロー、指導に注力した。
	次年度方向性	中堅スタッフの底上げを引き続き図っていく。
3	計画・ねらい	リーダー職員については、運営部 mission・園事業計画の実現・十分な安全管理を念頭に置き、園全体の様子を把握し、職員を統率することを目指す

		す。
実践結果		園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回以上目指し、受講内容を会議で発表した。行事についてのドキュメンテーションを作成した。新入職員、中堅職員のフォロー、指導に注力した。
次年度方向性		リーダー、中堅スタッフの役割を明確にしながら、更なる園全体のボトムアップを目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園内の整理整頓に努め、気持ちよく過ごすことが出来る園を目指す
	実践結果	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努めた。
	次年度方向性	次年度も継続して取り組む
2	計画・ねらい	子どもの発達段階を理解し、安全に十分配慮した環境構成を行う
	実践結果	子どもの発達段階について、園内研修や講座受講により学び、担任週会議や園会議で環境について話し合い環境構成した。
	次年度方向性	発達段階を理解した上での環境構成に引き続き努める。
3	計画・ねらい	生き物、畑に触れられるような環境を作る
	実践結果	係りを中心に、環境を活かした畑活動を行った。飼育可能な生き物を常に考え、子どもたちと共に飼育した。
	次年度方向性	担当だけでなく、園全体でより良い活動を目指して取り組む。
4	計画・ねらい	あいさつ、気持ちの良い接遇が出来る環境
	実践結果	保育者が、子ども、保護者、地域の方等に率先して挨拶した。挨拶運動を年に数回実施し、気持ちの良い挨拶が日常になるよう努めた。
	次年度方向性	保育者が率先して、日々気持ちの良い挨拶をしていく。

〈6〉学ぶ集団となる

1	計画・ねらい	園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講する
	実践結果	各スタッフが、園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講し、園内研修で各スタッフが学んだ内容を共有した。

	次年度方向性	講座の受講、学んだ内容の共有を継続する。
2	計画・ねらい	日々の事象に対する疑問を、子どもと一緒に解決していく
	実践結果	日々の戸外活動で出会う自然、食べ物、行事、出来事等々に関する不思議を子どもと一緒に調べ、得た知識を周囲に伝える機会を作った。
	次年度方向性	子どもの不思議に共感する姿勢を継続する。
3	計画・ねらい	行事に関しての理解を深め、保育に活かす
	実践結果	行事に関しての理解を深め、子どもたちに発信し、行事が単なるイベントにならないように努めた。
	次年度方向性	引き続き、行事についてスタッフが理解を深め、子どもに伝えていく。

〈7〉子どもの発達段階を学び、子どもの様子の理解を深め、生きる力を持った子どもを育てる

1	計画・ねらい	各年齢の子どもの発達段階の理解を深める
	実践結果	園内研修、園長大学・保育士大学の講座を通し、子どもの発達段階の理解を深め、日々の保育に活かすよう努めた。園内研修で、離乳食や、アレルギー食について学んだ。
	次年度方向性	子どもの発達段階についての理解を更に深めていく
2	計画・ねらい	様々な原体験、様々な人と交流する機会を多く持ち、生きる力を持った子どもを育てる
	実践結果	子ども自身が、自分で出来ること、やりたいこと、夢を他者に伝えることが出来るような機会を多く用意した。
	次年度方向性	年上児を中心に、人前で話す機会を多く用意する

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：	21人	48人	60人	51人	60人	78人	318人

4~9月							
年度後半： 10~3月	36人	48人	60人	48人	55人	78人	325人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	419 人	423 人	514 人	467 人	473 人	456 人	490 人	457 人	410 人	436 人	430 人	430 人	5,405 人
うち0 歳児	5 人	5 人	28 人	33 人	37 人	34 人	32 人	41 人	42 人	44 人	40 人	40 人	381人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事会議、クラスの様子の共有、園内研修
給食運営会議	月1回	当月献立内容の振り返り、次月食育活動内容検討
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の内容分析、事例検討等

ケース会議	月1回	気になる子の対応について共有、対応方法検討
昼礼会議	月2回	子どもについての伝達、インシデント、ヒヤリハット報告
担任会議	週1回	クラス担任での園運営に関しての相談、共有、計画立案

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理点検簿の管理、その他衛生関係の点検
安全対策係	安全点検、事故防止チェック、設備点検チェック
防火管理者	避難訓練の消防署への届出、設備点検、事故防止点検等
食品衛生管理係	給食関係の食品衛生管理
畑係	畑の管理、土入れ、種まき、手入れ、コンポスト管理など
生き物係	金魚・メダカ・カメの飼育管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画の立案、準備、祭りの実行を行った。準備から当日まで、総じて楽しむことが出来た。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことについて、自分で出来ることは自分で出来るように支援した。 ・多くの体験から、多くの事が感じられるように原体験の機会を多く設けた。 ・年上・年下問わず、子ども達が自分で遊びを選択できるような環境設定をした。 ・異年齢での活動の機会を多くし、園が子ども達にとって「大きな家」となるように努めた。
保育参加	4～3月まで 合計13名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計7名 が参加済み (3月1日時点) ・保護者面談実施

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を広げる
	実践結果	野菜の下処理、米とぎを子どもと一緒にやった。 年上児が年下児の配膳を手伝うことで、食への関心を高めるようにした。 バイキング給食を取り入れ、自分が食べることが出来る量を知るように支援した。
	次年度方向性	下処理や米とぎについて、次年度も継続する。
2	計画・ねらい	十分な遊びから自然とお腹が空く子ども、意欲的に食べる子を育てる

	実践結果	午前中の活動の充実をはかり、十分に遊び、お腹が空くような状況を作るよう努めた。
	次年度方向性	午前中の戸外活動の充実を重視する。お腹がすく状況を作る。
3	計画・ねらい	残菜をコンポストに取り入れ、再生土を利用し自ら栽培したものを食する事で、食に対しての愛着や感謝の気持ちを抱き、自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践結果	スタッフがコンポストや野菜栽培についての知識を高め、活動が充実したものとなるように努めた。畑係を中心に野菜の栽培、収穫計画を立て実行した。一部のスタッフに頼っていることが多かった。
	次年度方向性	コンポストや野菜栽培について、園スタッフ全員で共通認識を持って取り組んでいく。
4	計画・ねらい	離乳食、アレルギー、口腔発達、食具の利用の仕方等について、適切な援助を行う。噛む力を育てることが出来るような援助を行う。
	実践結果	スキル講座、園内研修を利用し、スタッフ個々が必要な知識を学び、適切な援助を行うように努めた。離乳食、アレルギーについては、全体的に理解が深まったと感じる。
	次年度方向性	引き続き学びを継続し、適切な援助を行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月22日/11月9日にメリー★ポピンズ市川ルームにて実施
歯科検診	6月14日/11月8日にメリー★ポピンズ市川ルームにて実施
保健だより	毎月25日に児童数にて配布
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	6月1日に園にて歯磨き指導を実施
流行した感染症	① 12月にはやり目、園児5名感染報告有り ② 1月にインフルエンザA、園児5名感染報告有り
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用

エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4月9日に園にてエピペン使用研修をスタッフ21名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・4月9日に園にてAED使用研修をスタッフ21名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を逐次行った。消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月22日、11月9日 歯科健診 各年2回／6月14日、11月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月7日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理、整頓、清潔を意識し、子どもがいつでも気持ちよく生活出来るようにする
	実践結果	清掃担当を中心に、園内の清掃状況のチェックを行った。繁忙期等、疎かになる時があった。
	次年度方向性	清掃について、次年度も継続して取り組む
2	計画・ねらい	子どもの発達段階を理解し、発達を促すことが出来るような画材・紙・素材・楽器などを準備し、個々の興味関心や発達に応じて制作できる環境を作る
	実践結果	担任週会議、リーダー会議、園会議を利用して子どもの姿を共有し、その時々に必要な環境を設定した。製作に必要な素材の準備が遅れてしまうことが時折あった。
	次年度方向性	その時々で最善の環境を変え、変化させていくことを次年度も継続する。
3	計画・ねらい	子ども達がいつでも休養できる環境を整備する
	実践結果	子どもが必要な時に体を休めたり、静かに本を読んだりすることが出来る環境を設定した。
	次年度方向性	長時間保育になる子どもの状況を見ながら、必要な環境を用意する。
4	計画・ねらい	戸外でも製作活動が出来るように準備する
	実践結果	自然物を利用した製作活動や、日頃室内で行っている描画活動等を戸外でも行うことが出来るよう努めた。春秋を中心に、自然物で製作をする姿が見られた。
	次年度方向性	戸外での製作活動に引き続き注力する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	木製トンネル	乳児室	毎日	異常なし 10/14に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践結果	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯、排煙等）
3	実践結果	年2回の不審者侵入訓練
4	実践結果	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践結果	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践結果	オートロックで外部侵入者の立ち入り禁止
7	実践結果	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控える

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

2名の実習生と、3名の中学生を受け入れた。保育士育成の観点と保育の仕事を知ってもらうことを念頭に置き関わった。生徒、受け入れ側双方にとって総じて良い機会となった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14～28日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習
8月14～16日	日本児童教育専門学校	1人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10月12～13日	市川市立第三中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	7日 21名	12日 20名	9日 20名	8日 19名	4日 19名	8日 19名	6日 19名	10日 19名	8日 19名	12日 19名	9日 19名	8日 19名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月25日	市川市教育委員会	保幼小連携アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム研修会	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	20日 1名	18日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	20日 1名	18日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育て負担や不安、孤独感が高まってきているため、保育園・地域・家族が一丸となって子育て支援を行うことを念頭に置いた。保育園が原体験の宝庫になるように、活動を工夫し地域に発信した。月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行った。2回のマジックショーと音楽鑑賞会が好評を得た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：平田公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：日比谷花壇、ヤオコー、OKストア、平田郵便局、消防署、本八幡駅等
世代間交流	月1回だんらんの家デイサービス市川菅野で利用者との交流を行った
異年齢交流	12月13日に八幡小学校との交流を実施
その他活動	7月13日、1月11日に園にてマジックショーを実施 2月15日に園にて音楽鑑賞会を実施 2月27日に園にて交通安全教室を実施
銭湯でお風呂の日	月2回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との交流活動、小学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加を通じて小学校との交流を図った。就学、子どもの未来を見据えて小学校教育について学び、職員研修の中で小学校学習指導要領を紐解き、交流をし、日々の保育に活かすことに努めた。学習指導要領スタートカリキュラムとの接続が出来るように努める。また、卒園児の小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付、児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月13日	市川市立八幡小学校	11名	小学校訪問（校舎・校庭見学）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画を作成し、月1回の会議の際、情報を共有し見直しを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：19名

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行った。
 気になる子について、個別支援計画を作成し、園会議で様子や対応方法の共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への進級に際し、保育児童要録の作成、引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
19名	4名	6名	90名	15名	11名	25名	14名	10名	39名	46名	5名	284名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：平田公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	17名	雨天 中止	雨天 中止	猛暑 中止	猛暑 中止	猛暑 中止	0名	2名	4名	15名	2名	10名	50名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月11日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：清水千春、竹田美咲、鳴尾凧沙

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

日々の異年齢活動に対して評価、理解をいただいた。お迎え時の対応や、駐輪場の使い方についてご意見をいただいた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべき（事故含む）ケガ

報告すべき（事故含む）ケガ 0件

以上

作成日：2023年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ市川ルーム 施設長 抜井佳代子

2023年度 若林どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の理念、目標に向かってスタッフ一同走ってきたが、時折思いがけないことが起こり、立ち止まりそうになることもあった。

しかし、日本の宝である子どもたちを力強くたくましく育てるという使命感を抱きながら、成長の土台づくりを止めることは決してせず、歯を食いしばりながら前進してきた。子どもたちはあたりまえのように畑仕事や生き物の世話、雑巾がけの日課活動を行い長距離散歩に出かける。大人があたりまえのように行う姿を見て子どもたちも真似をし、自ら実践することが日常となってきた。

畑仕事では苗の間引きをし、水やりをするなど手を掛けないと枯れてしまうこと、水をやりすぎると根腐れを起こすなど加減についても学びがあった。生き物についても同様で、小屋の掃除や糞を堆肥にするなどの循環を日常で学び、世話をすることの意味と命の大切さを子どもたちと考えることができた。

年上、年下、障がいのある無しに関係なく関わりながら生活をし、それもあたり前の姿となり、大人も子どもも平等であり対等であることを大切にしてきた。

2023年度は若林どろんこ保育園入園希望者が3桁になるなど知名度も広がっている。入園を希望した保護者、子どもたちの期待を裏切らないよう全身全霊でどろんこ会の保育を実践していくことが求められていた。スタッフ各々がいろいろな思いを抱きながらも、嫌な顔一つ見せずに毎日子どもたちと向き合い、保育を実践してきたスタッフの頑張りや成長を讃えたい。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課、基本活動の実践、継続
	実践結果	日課の大切さ「やらねばならぬ」あたりまえのこととして実践できるようになってきた。大人が変われば子どもも変わることを感じた。
	次年度方向性	大人が背中を見せること、やって見せることの継続をあたりまえのこと、日常として行っていく。
2	計画・ねらい	人間形成の土台作り
	実践結果	子どもたちが認められていると感じられるよう、一人ひとりの気持ちを受け止めながら丁寧に関わってきた。サークル活動で自分の意見を発言したり、友だちの意見を聞いたりすることで、いろいろな考え方がることを学んだ。

	次年度方向性	子どもたちの思いや意見を汲み取りながら、自分たちで考え、話し合える環境の充実を図る。また、保育者は見守りながら最後まで見届けるようにしていく。
3	計画・ねらい	多様性を認め合い、共に生活をする
	実践結果	障害がある子も無い子もお互いの存在を認め合いながら、対等に交わり生活することができた。
	次年度方向性	今年度同様、多様性を認め合いながら、混ざり合い、それが当たり前のように毎日を過ごすことができるようにしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	個々の家庭の状況を受け止め、子育ての喜びを共有する。
	実践結果	話を聞いてほしいと声を掛けてくれる保護者については語り合うことができたが、こちらから声をかけても相談までは繋がらない場合もあった。常日頃のコミュニケーションを大切に、たわいもない話から始められるようにできればよかった。
	次年度方向性	常日頃、仕事で忙しい保護者ではあるが、状況を見ながら普段話があまりできない保護者にも気を配りながらコミュニケーションを図っていくようにする。
2	計画・ねらい	子育てをする保護者の立場になり、一人ひとりのスタッフが心を込めた丁寧な対応をする。
	実践結果	スタッフによって対応の仕方に違いがあった。全スタッフが同じように対応ができるよう、子どもや保護者について共有し、対応の仕方を考えたいと実践すべきだった。
	次年度方向性	先輩保育者が対応している姿を見て、真似てみるどころから始めていく。最初から上手いかななくても、心を込めて一生懸命対応をすること大切であることを知り、実践できるようにしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の拠点となるよう「ちきんえっぐ」「青空保育」「園庭開放」の周知を広める。
	実践結果	「園庭開放」では近隣の方が子どもたちの遊んでいる様子を見て興味を示し、来園する方が増えてきた。また「ちきんえっぐ」「青空保育」に関しては広報活動が思うようにできなかったため、参加者がほとんどいなかった。
	次年度方向性	「ちきんえっぐ」「青空保育」について知っていただくための広報活動をしていく。また、園庭開放で来園された方にもどろんこ保育園での活動に興味を持っていただけるよう、積極的に関わっていくようにする。

2	計画・ねらい	学校、幼稚園、保育園、施設との交流を図る。
	実践結果	小学校の学習発表会見学や学校訪問をして交流を図ることができた。また、中学生と職場体験を通して交流をし、関わる事ができた。幼稚園、保育園、老人ホームなどの施設との関わりは、インフルエンザや感染症の流行があり計画通りに交流ができなかったのが残念である。手紙のやり取りを通して交流をした。
	次年度方向性	感染症など時期を鑑みながら計画した交流を実践できるようにしていく。また、学校、幼稚園、保育園、施設に連絡をし、状況を把握しながら交流を進めていくことができるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	専門性を高め、刺激しあえる関係性を作る。
	実践結果	保育情勢や研修で学んだことを共有しあうことはできたが、現場で生かすことができたかという点、そこまではたどり着けなかったり、現実は思い通りにいかなかったりすることもあった。
	次年度方向性	一人ひとりの学びたいという気持ちを理解し、できることから学び、実践できるようにしていく。スタッフ同士、誘い合いながら向上心を高めていくことができるようにする。
2	計画・ねらい	認め合い、成長できる職場を目指す。
	実践結果	いろいろな考え方がある中で、お互い話し合いながら保育を進めてきた。それでも腑に落ちないことや、共有不足、本当の気持ちを出し切れないこともあったため、まとまらないこともあった。
	次年度方向性	お互いを認め合いながら、お互いの考えかたを尊重し成長し合う集団を目指していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材、食の循環を学び、環境に対して興味関心を持つ
	実践結果	畑仕事では失敗しながらも作物を育て、食材を加工する経験ができた。ヤギの糞を堆肥にすることや、肉や魚などの命をいただくことについて学ぶことができた。
	次年度方向性	命をいただくことについては、こどもたちに実体験を通して学べるような機会を作っていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践結果	給食残渣を減らすため、子どもたち自身が食べられる量を把握できるように言葉を掛けながら、楽しく食べることができる雰囲気作りをしてきた。また、給食の食材についても必要量をきちんと量り、なるべく無駄がでな

		いようにした。結果、昨年度に比べ残渣量が減ってきている。
	次年度方向性	給食残渣を今年度よりも減らすことを目標とする（70パーセント削減を目指していく）

〈6〉子どもの人権

1	計画・ねらい	子どもは大人と同等であり、平等である
	実践結果	子どもも大人も同等であり平等であることをスタッフが理解し、子どもたちに耳を傾けながら関わることができた。もっと子どもたちが自分の思いを表現できる環境を整えていくことが課題であると考えている。
	次年度方向性	子どもは大人と平等であることは今後も変わらず、尊重しながら対等な関係性を築いていく。
2	計画・ねらい	子どもの人権や不適切保育についての研修の実施
	実践結果	子どもの人権や虐待について、研修を繰り返すことでスタッフ同士考える機会や、自分の保育を振り返る機会ができた。
	次年度方向性	来年度も子どもの人権、虐待について研修を行い、学びを深め、自らの保育を振り返る機会を設けていく。

〈7〉人間性の向上とキャリアアップ

1	計画・ねらい	働きやすい環境作り
	実践結果	意欲を持って働くことができるような環境作りを目指したが、目の前の業務で精いっぱいになってしまったところがあった。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりの思いや話に耳を傾け、どんなことに困っているのかを受け止め、一人ひとりを大切にしていく。また、スタッフ同士よい関係性が気づけるように環境を整えていく。
2	計画・ねらい	多様性を認め合い、受け止める
	実践結果	多様性や多様な考え方があることを寛容に受け止め、否定することなく仲間意識が持てるようにしてきたが、時には上手く歯車が合わないこともあった。
	次年度方向性	育った環境や考え方の違いを受けとめながら、同じ目標に向かっていく仲間であるという意識を持ち、関係性を築いていくようにする。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	9人	18人	18人	28人	24人	22人	119人
年度後半： 10~3月	0人	17人	18人	28人	24人	22人	118人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	186 人	222 人	236 人	193 人	177 人	244 人	231 人	210 人	239 人	277 人	240 人	250 人	2705 人
うち0 歳児	0人	0人	1人	3人	0人	6人	18人	0人	17人	0人	15人	15人	125人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	8人	7人	18人	34人	0人	0人	4人	0人	0人	1人	0人	0人	72人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	3人
パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・連絡事項 ・園事業報告
給食運営会議	月1回	保育との連携、実践の計画、アレルギー児、離乳食の共有
事故防止委員会	月1回	自園及び、系列園で起きた事故の共有と改善
ケース会議	月1回	個別支援の経過、気になる児の支援計画、共有
乳幼児週会議	週1回	次週の計画と週の実践の振り返り
リーダー会議	月1回	乳幼児リーダーで連携や改善点、共有をする

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	薬品管理、衛生環境整備、感染症対策対応
安全対策係	事故防止委員会開催、安全点検、ハザードマップ製作と管理
防火管理者	消防計画、消防自主点検確認
食品衛生管理係	食品衛生管理、給食会議開催
畑係	畑全般、管理
生き物係	やぎ、鶏の世話、餌発注、ヤギ当番管理、その他生き物管理
教材備品発注管理	教材、備品の発注と管理
環境係	園庭全般の安全管理と保持、子どもが遊び込める環境の提案と保持
1階フローアーマネージャー	1階フローアーマネージャー環境の整備と安全、製作、描画など遊び込める環境整備の提案と実施
2階フローアーマネージャー	1階フローアーマネージャー環境の整備と安全、製作、描画など遊び込める環境整備の提案と実施
掃除分担	掃除分担、実施、改善、確認

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの手厚い協力を得て、在園児はもちろんのこと、卒園児や地域の方々など大勢の参加があり大盛況であった。保護者同士の繋がりもできたことが大きな収穫であった。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患をお持ちの保護者に対して、子育てについて不安に思うことや悩みなどを聞く機会を設けた。 ・言葉についての相談では、個人差があることや、少しずつ語彙が増えているこ
----	--

	とを話しながら成長を共有した。
保育参加	4～3月まで 参加なし (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・随時、希望する保護者に対し実施
運営委員会	実施無し

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食の意欲を育む
	実践結果	スタッフ全員が子どもと共に給食を食べることで、子どもの食べ具合や食べ方などを把握することができた。また、コミュニケーションを取りながら食事をすることで食べる意欲に繋がった。
	次年度方向性	子どもと一緒に食事をする事、また、丁寧な食事に繋がるようにスタッフの位置や配膳について考え、実践できるようにしていく。
2	計画・ねらい	自分のことは自分でする
	実践結果	子ども自身が食べられる量を把握し、ジブンで配膳できるような環境を整えたるようにした。皿を割ってしまうことが多々見られたが、どうしたら割れないようにできるか子ども自身が考えるきっかけとなっていた。
	次年度方向性	自分のことは自分でやってみることは変わらないが、大人が丁寧に教えていくことで、落ち着いて行動できるようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月12、13日／10月11、12日に実施
歯科検診	6月15日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月12、13日に保育室で「手洗いの仕方」を実施 ② 5月25日に1階保育室で「手洗いの話」を実施 ③ 6月2日に1階保育室で「歯の話」を実施 ④ 7月6日に1階保育室で「夏の過ごし方」を実施 ⑤ 8月10日に1階保育室にて「鼻のはなし」を実施 ⑥ 9月7日に1階保育室にて「お腹のはなし」を実施 ⑦ 10月13日に1階保育室にて「バイ菌やウイルスから体を守るには」 ⑧ 11月13日に1階保育室にて「骨のはなし」を実施 ⑨ 12月15日に1階保育室にて「鼻のかみかた」を実施 ⑩ 1月15日に1階保育室にて「ご飯が体をつくる」を実施 ⑪ 2月5日に1階保育室にて「体内時計のはなし」を実施 ⑫ 3月18日に1階保育室にて「大きくなる」を実施
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染症 <ul style="list-style-type: none"> 6月 園児 1名 7月 園児 1名 8月 園児 2名 スタッフ2名 1月 園児 1名 2月 園児 1名 スタッフ1名 ② 感染性胃腸炎 <ul style="list-style-type: none"> 5月 園児20名 6月 園児 2名 8月 園児 3名 9月 園児 5名 10月 園児 2名 12月 園児 2名 1月 園児 2名 2月 園児 8名 <p>1週間で10名になった時点で仙台市運営支援課に報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ RS ウイルス <ul style="list-style-type: none"> 7月 園児 1名 8月 園児 1名 ④ ヒトメタニューモウイルス <ul style="list-style-type: none"> 10月 園児 1名 12月 園児 2名 ⑤ ヘルパンギーナ <ul style="list-style-type: none"> 6月 園児 2名 7月 園児 1名 9月 園児 1名 ⑥ アデノウイルス <ul style="list-style-type: none"> 5月 園児 1名

	6月 園児 1名 12月 園児 1名 ⑦ 溶連菌感染症 6月 園児 1名 11月 園児 2名 1月 園児 1名 ⑧ インフルエンザ A 9月 園児 3名 10月 園児 1名 11月 園児 33名 スタッフ7名 12月 園児 25名 スタッフ1名 1月 園児 1名 ⑨ インフルエンザ B 2月 園児 4名
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に自園保育室にてエピペン研修をスタッフ21名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・AED 設置無し
その他保健に関する取組	新型コロナウイルス感染症、その他感染症予防について、うがい指導、手洗い指導、誤飲、誤嚥について、SIDS について、消毒、喚起の徹底

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／4月12、13日 10月11、12日 歯科健診 各年1回／6月15日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが選択し、主体性を育む環境設定
	実践結果	子どもたちが自ら遊びを選択し、遊び込める環境設定を模索してきた。都度、環境を変化させていくことが継続できない時もあり、道半ばである。
	次年度方向性	子どもの現状を把握しながら、遊びを選択し、遊び込める環境を作っていく。また、環境を子どもの発達に合わせて変えていくようにする。
2	計画・ねらい	子ども同士が思いや考えを言い合い、試行錯誤しながら活動を展開する。
	実践結果	保育者は子どもの想いや、やってみたいと思っていることを尊重し、子どもたち自らが気づき話し合える環境を作るようにした。決着がつかない時は言葉を掛けながらなるべく子どもたちで話し合い、協力しながら進めていくことができるよう配慮した。
	次年度方向性	保育者によっては、どこまで子どもたちに任せていいのか加減をつかめない時もあったようだ。子どもの思いを汲み取りながら子どもの主体性を育むことができるよう働きかけていく。
3	計画・ねらい	玩具と素材の充実

実践結果	年齢にあった玩具を揃え、充実させることができた。また、遊びを次に繋げていくことができるように環境を整えた。
次年度方向性	年齢にあった玩具の充実を図ることができたが、季節によつての製作や素材の工夫を充実させていきたいと考える。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太	園庭	毎日	異常なし
2	やぎ小屋	園庭	毎日	異常なし
3	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルに則り、消防計画、避難訓練、防災自主点検、危機管理マニュアル整備、自営消防組織と安全対策係の設定を行った。 （災害時にはフローチャートに従う）
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアルのケガ防止策、安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び整備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行った。（ケガ発生時にはフローチャートに従う）
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行った。 （緊急時にはフローチャートに従う）
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握をするようにした。実際は光化学スモッグの発令無し。 （発生時には光化学スモッグ発生時対応及び、行政連絡に従って対応する）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度も実習生と中学生の職場体験の受け入れを行った。どろんこ会の保育を知ってもらうため、また、保育士という職業について興味を持ってもらえるように関わってきた。実習生が不安にならないように温かく迎え入れ、丁寧に疑問や質問に答えるようにしてきた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
9月11日 ～22日	桜花学園大学保育学部 国際教養子ども学科	1人	責任実習
11月6日 ～17日	仙台医療福祉専門学校 医療保育科	2人	観察実習
9月11日 ～22日	仙台幼児保育専門学校 幼児科	1人	観察実習
10月2日 ～14日	仙台幼児保育専門学校 幼児科	1人	責任実習
11月20日 ～12月2日	宮城学院女子大学 教育学部	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月8日 ～10日	八軒中学校	3人
11月8日 ～10日	南小泉中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 24名	26日 25名	23日 25名	21日 24名	25日 24名	22日 23名	27日 26名	24日 26名	22日 25名	26日 23名	22日 23名	22日 22名
園内研修	21日 1名	26日 14名	23日 14名	28日 15名	25日 16名	22日 14名	27日 19名	24日 20名	22日 16名	26日 18名	28日 10名	21日 11名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月19日	仙台市運営支援課	看護職員連絡会	1名	有 or <input type="radio"/> 無
8月5、6日 9月2、3日	宮城県	宮城県医療的ケア児等コーディネーター・支援者養成研修	1名	有 or <input type="radio"/> 無
10月14日	社会福祉法人檸檬会	幼児教育研修	1名	有 or <input type="radio"/> 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	28日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	実施なし											
デモンクインターンシップ	対象者無し											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉経験年数別研修

経験年数別の研修を計画したが実施が困難であった。しかし、月回の全体での研修を実施することでいろいろな分野で経験年数関係なく学びを深めることができた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

常日頃から交流をしている地域の方々との関係性を大切にしていくようにした。地域の保育園や幼

稚園との交流を計画していたが、先方との日程調整がうまくいかず実行できなかった。来年度は計画の立て方を考えていくようにする。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：南小泉交通公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：いちふく、村上生花、産直市場」ぐるぐる、ヨークベニマル、セイムス、しまむら、旅立ち稲荷神社、肉のマルハチ、宮城第一信用金庫、若林警察署、若林消防署河原町分署 等
世代間交流	6月、9月、3月に老人施設チアフル遠見塚の利用者の方々に感謝の気持ちを込めて手紙と手作りプレゼントを渡す。
異年齢交流	11月18日 若林どろんこ保育園 中学生との交流を実施 6月20日 六郷小学校 小学生との交流 11月7日 若林小学校 小学生との交流
地域拠点活動	7月22日に若林どろんこ保育園にてどろんこ祭りを開催 未就学児や地域の親子へ向けての園庭開放、ちきんえっく誘致、子育て支援、相談
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校訪問をすることで、子どもたちの就学への期待が高まった。また、幼保小連携での職員間交流では、子どもたちの現状や支援について共有することで理解が深まった。子どもたちにとってもスタッフにとっても充実した交流ができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月22日	六郷小学校 1年生	22名	六郷小学校多目的室	子ども間交流
11月7日	若林小学校	22名	音楽学習発表会見学（小学校体育館）	子ども間交流

1月25日	若林小学校	1名	学校訪問	職員間交流
1月25日	沖野小学校	1名	学校訪問	職員間交流
1月29日	沖野東小学校	1名	学校訪問	職員間交流
1月31日	南小泉小学校	1名	学校訪問	職員間交流
2月1日	蒲町小学校	1名	学校訪問	職員間交流
2月2日	古城小学校	1名	学校訪問	職員間交流
2月8日	遠見塚小学校	1名	学校訪問	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度対象園児無し

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

・ 4～3月に計12回開催 参加者：61名

子どもの状況について話し合い、具体的な関わり方を共有した。また、家庭についても共有しながら保護者支援に繋げていった。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

進級時、就学時に子どもの様子を伝え合い、共有、引継ぎを行うことができた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23名	24名	29名	43名	67名	44名	158名	109名	45名	77名	53名	40名	470名

実施項目	詳細																									
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施																									
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み																									
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名												
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	1名	0名	2名	1名	2名	0名	0名	0名	1名	2名	1名	10名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置																									
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																									
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：南小泉交通公園にて 以下日程にて実施																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	0名	1名	2名	0名	2名	1名	1名	2名	0名	0名	0名	9名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審無し

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：12時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、主任及び当日出勤の全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

理解をしていただいている保護者もいたが、中には厳しいご意見もあった。そのご意見は有難く貴重なご意見と捉え、是正できるようにスタッフ全員で取り組んでいくようにする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告する案件なし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガなし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：若林どろんこ保育園 施設長 門脇 篤子

2023年度 中目黒どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育新時代と言われ、新型コロナウイルスからも解放されていった2023年度。変化が目まぐるしい時代を幸せに生きるためにはどんな力が必要なのか、自分で自分を育てようとする力を持っている子どもたちに私たちは、法人の子育て理念「にんげん力。育てます」を鑑み、適切な環境の基、子どもと関わりながら“Try&Error”を繰り返し、さまざまな体験を通じて学びを深めたり発展できたりするようにしてきました。

そして、子どもが自分で選んで、自分で決めて、自分の生活を営むことができるよう、どろんこ会グループの日課・基本活動にこだわり、課題を見つけ、常によりよくするために学び・努力する過程を子どもたちと一緒に大事にしてきました。その結果、子どもたちは身体を使うことを楽しみ、自分で考えたり、工夫したり、人とかがわって何かをすること、共感することが大好きになってきました。また、園目標を定め、どろんこ会が目指す園の姿のポイントを柱に保育内容の充実や保育の質の向上に努めました。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人の理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって全スタッフが計画的・数量的・体系的な行動計画をもち、実践する
	実践結果	どろんこ会グループが目指す園の姿、園目標、個人の課題に基づいて開催した園内研修（園長大学・保育士大学）を軸に、「目指す子どもの姿」「園目標」に適った故魚津になっているのか、具体的に行動レベルで何が組織として評価し改善していった。
	次年度方向性	法人の理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって全スタッフが学び続け、日々の保育の積み重ねを大切に保育の基本を習得していく。
2	計画・ねらい	「生きる力を育む」ための日課・基本活動を理解し、保育に従事する。
	実践結果	基本活動の「日課」は何のために行うのか、子どもの育ちにどのようなかわりがあるのかをスタッフ全員で学び直した。そのうえで、デイリープログラムの見直しを行い、基本活動が定着できるような枠組みに組み換え無理なく行えるようにした。その結果、生活にメリハリが生まれ、遊びが充実してきている。
	次年度方向性	生活リズムが整うように朝のスタート（日課）から規則正しい生活習慣の自立へと導き、家庭と協力して子どもが主体的に活動できるようにしていく。
3	計画・ねらい	相手を尊重した丁寧な言葉と対応
	実践結果	子どもと平等な立場の大人として、子どもたちを上から見下ろさず、同じ目線で対話することを心がけた。また、傾聴の姿勢で子どもの言葉、表情、しぐさに進んで耳を傾け、子どもの気持ちを引き出し、共感しあう関係づくりに努めた。

	次年度方向性	登園時の挨拶から子どもの一人一人の名前を丁寧に呼び挨拶することから始める。そのような具体的な対応から、丁寧な保育を進めていく。
--	--------	---

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの姿、日々の保育の様子を可視化する。
	実践結果	子どもの姿が手に取るようにわかるようなタイムラインやタイムラインでは伝えきれない子どもの姿やエピソードを保育ドキュメンテーションなど、あらゆる方法を用いて掲示した。子どもの成長した姿や保育園で子どもたちがどのような活動をしているのか理解していただくことで、保育理念や中目黒どろんこ保育園の保育目標を少しでも理解していただくように努めた。
	次年度方向性	保育園の目指す「子ども像」保育のあり方の情報を精査しわかりやすく伝えていく。常に保護者とともに協働の子育てを意識していく。
2	計画・ねらい	保護者と一緒に作る保育を目指す。
	実践結果	保護者懇談会では法人の理念、中目黒どろんこ保育園の保育方針を日々の姿から、目に見える姿だけでなく、その取り組みを通してどのような力が育っているのか、日々の活動にはどんなねらいがあるのか「子ども主体」の保育を伝えた。 また、保育参加を積極的に推し進め「子どもも大人も多様性に満ちている」ことを実感していただいたり、保育者とは違う保護者の視点から、保育の運営に対して貴重なご意見をいただいたり、協働的保育を進めるきっかけとなった。
	次年度方向性	全家庭を目標とした保育参加の推進。保護者が保育者として保育に参加していただくことで、さらに協働の子育てを推進していく。 また、子育て相談、保護者個人面談を積極的に進めていく。
3	計画・ねらい	明るい挨拶と丁寧な言葉遣い（①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝を忘れずに、おもてなしの心を込めたサービスの提供）
	実践結果	接遇研修、ロールプレイ研修などを通してスタッフが自分の言葉遣いについて直し、気持ちの良い挨拶を心がけた。
	次年度方向性	毎月の園会議等の場で、挨拶やお迎え対応など、自己評価し接遇の向上に努める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て拠点として交流の場となる保育園を目指す
	実践結果	保育所保育指針「地域に開かれた子育て支援」及び東京都の保育所地域子育て支援を鑑み、保育所の役割や機能を達成するための地域のニーズを把握し地域の資源として保育園を利用できるようにした。
	次年度方向性	関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフに共有されるようにする。
2	計画・ねらい	地域に開かれた保育園「ちきんえっぐ」の認知度を高め、活用を進める。

	実践結果	ちきんえっぐだよりやチラシなどを用いて、積極的に地域に周知した。また、散歩先の公園で出会った親子にも積極的に言葉を交わし、興味をもっていただくようにした。
	次年度方向性	地域に開かれた保育園として積極的に広報活動を展開し、目に見える形で保育園の姿をご理解いただくようにちきんえっぐだよりやチラシを作成していく。
3	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践結果	青空保育の内容がマンネリ化しないように、担当保育士だけでなく、それぞれのスタッフの個性が生かされるような取り組みとしていった。また、つむぎ池尻ルームの親子の参加を呼びかけ、インクルーシブ保育の推進を図った。 参加している親子に対して、この地域に中目黒どろんこ保育園があり、ちきんえっぐが利用できることをチラシなどをお渡しして知らせた。
	次年度方向性	地域子育て支援、つむぎ池尻ルーム（インクルーシブ保育）と連動し、青空保育に参加された保護者に対してちきんえっぐでの活動を知らせていく機会としていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	コミュニケーション能力を高める。
	実践結果	挨拶をするときにはスタッフから率先して立ち止まりお名前を呼んで、はっきりと相手に伝わるように努力した。 子どもについては登園時、目を見て笑顔で名前を呼び、言葉をかけるようにした。
	次年度方向性	基本的な生活習慣の基本は挨拶から、気持ちの良い挨拶をスタッフ、保護者、子ども、すべての人が気持ちよく挨拶ができるように活動していく。
2	計画・ねらい	どろんこ会グループの日課・基本活動に対して全スタッフがその意味を理解し、実践できる人材の育成。
	実践結果	子どもの姿を的確にとらえることができるように、週会議やクラス会議の場で共有する。そのうえで日課・基本活動が子どもの育ちにどのようなにかわっていくのかを考察。年間指導計画の省察とともに振り返り検証した。日課・基本活動は実際の保育の中で計画的に取り入れることができた。
	次年度方向性	日課・基本活動を規則正しい生活リズムの確立を目指し、デイリープログラムの見直しと評価を継続する
3	計画・ねらい	「生きる力」とは何か。主体性とは何か。共感するとは何か、の追求
	実践結果	毎月の園内研修(園長大学・保育士大学)等で学び、小グループで話し合い保育課題を抽出。課題解決の手立てをフレームワークを活用して考察。事業計画の進捗と共に振り返り、改善していった。
	次年度方向性	どろんこ会の理念、子育て目標について、スタッフ全員が学び続けていく。その機会を園内研修他あらゆる機会に学びの機会としていく。
4	計画・ねらい	保育の連続性、継続性を追求する中で、チーム保育を充実させていく。
	実践結果	保育の連続性を PDCA サイクルで評価推進。具体的には週会議、クラス会

		議等で保育ウェブやデザインマップ、フレームワークなどを活用して、その時に有効な打ち合わせの中で検証し、職責の枠を超えて保育の質上げにチームで取り組んだ。
	次年度方向性	切れ目のない保育をチームで取り組んでいく。
5	計画・ねらい	保育目標実現を目指して、スタッフが主体的に行動計画を明確にする。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが課題を抽出し、保育目標を実現するためには何をすべきかを明確にし、進捗状況を確認した。 スタッフ一人ひとりのMBOの実践を確実なものにしていくため、施設長、主任、リーダーはそれぞれ、こまめな個人面談などを通してモチベーション維持に努めた。
	次年度方向性	施設長、主任、リーダーはそれぞれ、こまめな個人面談などを通してスタッフの各目標を明確にし、進捗を図る。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	どろんこ会グループの3大食育方針の追求
	実践結果	食育3大方針の「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」、「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」、「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を実践していく。
	次年度方向性	全スタッフは子どもと一緒に食べ、咀嚼力や味覚を育てるためにもひとり一人を観察し、子どもの姿を的確にとらえ、手立てを検討していく。
2	計画・ねらい	子どもが育てた食材や季節の食材を使用し、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わう
	実践結果	農業計画と連動し、さまざまな食育体験の活動を通して咀嚼、味覚の発達を促してきた。
	次年度方向性	噛む力(咀嚼力)を養うためにも、遊びの充実、姿勢の見直し等、ひとり一人の食べる姿に着目し、観察。支援の手立てを考えていく。
3	計画・ねらい	SDGsを子ども自身が考えられる環境を提供する
	実践結果	子どもが食材や食の循環（コンポストによる肥料作りや残食調査等）・環境への意識が芽生え育つ活動を展開した。
	次年度方向性	子どもと共に残食量の減量を図ったり、コンポストで肥料をつくり、野菜作りに活用するなど、SDGsの取り組みを推進する。

〈6〉チーム保育の充実を図る

1	計画・ねらい	意見が言いやすい雰囲気づくりと子どものことが常に話題となる、職員集団を構築する。
	実践結果	毎日、各クラスごと5分～10分間の振り返りの時間をもち、子どもの姿を共有した。 ボトムアップを図り、園会議等会議では批判しない、まずは受け入れる姿勢を基本として、若手職員や給食や用務・事務職等、言いやすい雰囲気づくりと仕組みづくりに着手し、若手職員からも意見が出され会議が活発に行われるようになった。

	次年度方向性	スタッフひとり一人が自分の意見を持ち、保育園運営に関わり保育の質の向上に貢献していく仕組みの定着を図る。
2	計画・ねらい	主任、リーダー格が保育現場の引率者として、連携を強め課題の抽出を図り、スタッフ全員で検討する。
	実践結果	リーダー会議を適宜行い、課題の抽出、改善について検討し、園会議等の場でスタッフがそれぞれの立場で自分事としてとらえるようにした。
	次年度方向性	スタッフ全員が園の課題を自分事としてとらえ、改善に向け話し合い、具体的な行動をとるようにする。
3	計画・ねらい	職員同士。認め合い感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉で表現する。
	実践結果	スタッフ同士、気持ちのよい挨拶を心がけた。小さなことでも力を貸してくれたり、寄り添ってくれたりした時には感謝の気持ちを「ありがとう」と伝えるようにした。 業務が特定のスタッフに偏らないように公平で平等な役割分担を確認しあうよう、チャットなどを利用して確認した。
	次年度方向性	相手に伝わるような言葉かけを心がけ、チーム全体が気持ちよく行動できるようにしていく。また、業務分担が公平で平等な役割分担になっているのか確認していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	54人	59人	71人	72人	73人	72人	401人
年度後半： 10~3月	54人	60人	72人	78人	72人	78人	408人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	413 人	454 人	550 人	515 人	623 人	539 人	566 人	577 人	558 人	536 人	491 人	520 人	6342 人
うち0歳児	20人	57人	72人	83人	116人	97人	111人	99人	100人	100人	105人	72人	1012人

（解説）今年は0歳児の利用が増加傾向にあり、突発的な利用も増加している。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	33人	29人	29人	38人	40人	34人	34人	33人	39人	37人	36人	40人	422人
うち0歳児	6人	8人	8人	11人	17人	15人	15人	20人	20人	18人	28人	27人	193人

(解説) 毎日2名枠がほぼ埋まり、0歳児の利用者が半数弱、他1歳児、幼児クラスの順で利用されている。

〈2〉開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	15人	看護師	2人	栄養士	4人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・児童処遇改善検討 ・園として取り組むべき課題討議及び研修
給食運営会議	月1回	運営部ミッションに則り、園の課題を協議、食育計画の振り返り
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデント事例に鑑み、事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	月1回	支援が必要な配慮児の状況把握、職員の意識統一などを行う

週会議・クラス会議	週1回・ 月1回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の 確認
-----------	-------------	------------------------------------

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 看護師
主任・ 児童発達支援管理責任者会議 ／法人本部	年5回 (4.7.10.12.1月)	主任・施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理などを行った。
安全対策係	避難訓練実行及び検証、環境安全整備、危機管理などを行った。
防火管理者	施設の火元管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニチアチブをとった。
食品衛生管理係	食品の安全に関わる管理や啓発・衛生点検を行った。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニチアチブをとった。
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の飼育活動の把握や課題検討におけるイニチアチブをとった。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポートを行う。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・登園渋りについて ・離乳食及び偏食について ・トイレトレーニングについて ・友だち関係について ・情動のコントロール ・言語発達について
保育参加	4～3月まで 合計10名が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計20名 が参加済み (3月日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・支援児の前期、後期のねらいについて ・トイレトレーニングについて ・友だちとのかかわり ・小学校への接続について

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	一人一人の口腔機能の発達を理解し発達に合わせた支援をする
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度のはじめに園内で離乳食勉強会を開催し、口腔発達への理解を深めた上で食事支援をすることができた。 ・調理スタッフも食事介助に入り、子どもの口腔発達の様子を直接確認し理解をした上で調理にあたることができた。 ・食形態を変更する際は施設長も含め子どもの口腔発達を評価し、子どもの発達に合った支援ができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き調理・保育スタッフ共に口腔発達への知識や理解を深める。(勉強会開催、各自スキルアップ、子どもの姿を直接確認する等) ・施設長を含め関わるスタッフ全員で口腔発達を評価し個々に合った食事を提供する。

		・家庭の食事の様子を共有し保護者支援も併せておこなう。
2	計画・ねらい	食べたいもの・好きなものが増える子ども
	実践結果	<p>・食事の際に苦手な食べ物について声かけするのではなく「どれが好きだった？」等の前向きな声かけをおこなったことで食べたいものや好きなものが増えていく様子が見られた。</p> <p>・好きなものを家でも食べたいという子どもの声を受け、保護者向けに人気メニューのレシピを配布したところ家庭でも食事に関するやり取りが増えた。</p> <p>・一緒に食事をする際に「どうやって作ったの」「誰がつくったの」といった会話が子どもたちの中から出たことから食事への興味関心の高まりを感じる事ができた。</p>
	次年度方向性	<p>・前向きな声かけによりさらに食べたいもの・好きなものが増えるような支援を実施する。</p> <p>・人気メニューのレシピ配布を継続して実施する。 (子どもや保護者とのやり取りを大切に、メニューをピックアップ)</p>
3	計画・ねらい	一緒に食べたい人がいる子ども
	実践結果	<p>・食事をする際に一緒に食べたい人を誘って食事をする様子が見受けられた</p> <p>・一緒に食べたい人がいてもなかなか声をかけられずにいる子どもには気持ちを聞き、思いを伝えられるよう支援することができた。</p>
	次年度方向性	・引き続き一緒に食べたい人と食事ができる環境づくりや、一緒に食べたいという思いを伝えられるよう支援していく。
3	計画・ねらい	食事づくり・準備に関わる子ども
	実践結果	<p>・子どもが自分で盛り付けて食べる完全バイキング形式を2～5歳児で実施することができた。</p> <p>・クッキングの活動を通じ作って食べる一連の流れを体験し、達成感や満足感を味わうことができた。</p>
	次年度方向性	<p>・引き続き幼児クラスは完全バイキング形式、1・2歳児は食事の様子を直接見たり保育スタッフと連携し子どもの育ちに合わせて段階的にバイキング形式取り入れる。</p> <p>・クッキングの活動以外にも「作って食べて後片付け」の一連の流れを体験し達成感や満足感を味わえるような活動を取り入れる。</p>
3	計画・ねらい	食生活や健康に主体的に関わり、食べることを会話する子ども
	実践結果	・人気メニューのレシピ配布を通じて子ども同士、職員と、保護者と食べることに関する会話が増えた。
	次年度方向性	<p>・コンポスの活動を通じてSDGsの観点からも食について考えられるような取り組みを実施する。</p> <p>「作って食べて後片付け」の一連の流れを体験し食事に関わる人への感謝気持ちが育つような取り組みを実施する</p>
3	計画・ねらい	自分の体に関心を持つ
	実践結果	・バイキング形式の配膳を通じて自分が食べられる量がどのくらいかについて理解できるようになってきた。

次年度方向性	・自分が食べられる量だけではなく自分の体に合った望ましい量についても理解できるよう支援する。
--------	--

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月27日／11月24日に実施（あわ組は毎月実施）
歯科検診	6月22日に11月30日自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月22日に自園ホールにて歯科医師による歯磨き指導を実施 ② 7月3日に自園ホールにて熱中症予防の指導を実施 ③ 1月29日に幼児室にて手洗い指導を実施
流行した感染症	季節ごとの感染症の報告が数件ずつ上がったものの、大きな流行はなく、いずれもすぐに収束した。
発作・痙攣等の対応	キックオフ時、11月の園会議に全スタッフに向けて熱性けいれん時の対応確認とダイアアップ挿入のロールプレイを行った。11月にダイアアップ坐剤を1名分預かった。
エピペン使用できるスタッフの状況	・キックオフ時にエピペン練習用キットを用い、全スタッフがロールプレイを行い、使用方法を確認し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ全員が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	9月、10月に各1日ずつ上級救命講習を行った。消防署の講師を招き、スタッフの半数以上が受講し、有資格者が20名以上となった。
その他保健に関する取組	医療的ケア児が1歳児クラスに入所した。それを受け物品の拡充などの環境整備や日常のケアや緊急時対応などについてスタッフ間での共有を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月27日、11月24日 あわ組0歳児については毎月実施 歯科健診 各年2回／6月22日、11月30日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月7日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的にかかわれる環境設定に努める。
	実践結果	子どもの興味関心、意欲から道具や材料などを用意し、週会議やクラス会議において、発達にあっているのかを検証した。 異年齢児が混ざり合う中で、発達委の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるか等、保育 Wev などを用いて考察し改善していく。
	次年度方向性	環境と共に育つ子どもたちの姿をスタッフ間で共有し、遊びこめる環境設定を意識した見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	「遊びこむ場」を定期的に検証し見直していく。

	実践結果	夢中になって遊びこむ場の空間・時間・他者との共有を保証し、子どもの発想を受け止められる環境設定になるよう、2～3か月に1回、見直しを行った。
	次年度方向性	保育計画をもとに子どもの姿から遊びこめる環境をスタッフ間で共有し、定期的に見直ししていく。
3	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理など職員の共通理解できる体制を整え強化する。
	実践結果	危ないから排除するのではなく、安全性を確認し維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性、心身の状態にあった環境設定を仕掛けていった。 睡眠中、プール活動中、水遊び中、散歩中、食事中、歯磨き中などの場面では命にかかわる重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、職員同士の連携を強化していった。 玩具や園児の持ち物などは衛生管理に注意し清潔を保つようにスタッフが意識した。 事故防止チェック、設備点検などを確実にを行い不備が認められた時には速やかに対応し、スタッフに周知した。
	次年度方向性	安全対策・衛生管理について全スタッフが知識を高め、安全・衛生を担保する仕組みを確立していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	やぎ小屋	園庭	毎日	異常なし
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	厚生労働省、法人の運営マニュアル・保育品質マニュアル、自治体条例・規則に基づいて的確に行動する。
2	実践結果	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎日の消防計画に基づいた避難訓練や消化訓練の実施。また、施設長を中心に日頃から「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整えた。
3	実践結果	ケガ事故防止対策 保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め施設長はケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートには更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にした。

		ケガ、事故発生時または「ケガに至らなかったが、一步間違えたらケガをしたであろう」という場合の記録(ヒヤリハット)を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じようなケガ・事故の発生を防ぐようにした。
4	実践結果	<p>防犯対策</p> <p>定期的な不審者侵入訓練の他、日々の不審者対策として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 笛の携帯 2. 代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明の確認。 3. 不審者情報の収集(各関係機関との連携)不審者情報を随時収集した。適宜、文章やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示を行った。
5	実践結果	<p>光化学スモック対策</p> <p>「光化学スモック注意報」が発令された場合、予報・注意報・警報・重大緊急警報に従って、園児、スタッフの安全を確保するようにした。</p>
6	実践結果	<p>熱中症対策</p> <p>正しい水分補給を理解したうえで、子どもたちが自ら水分補給ができる環境を整えた。天候によっては戸外活動を控えた。</p>
7	実践結果	<p>有事の際は、地域と連携し地域防災マップに則り、園児、スタッフの安全を確保するようにした。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育園は社会資源であり、地域研修の場として、実習生・職場体験等を受け入れる責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成と共に、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当園では中学生の職業体験や保育士養成校の保育園見学、保育体験、保育実習等様々な形で受け入れてきました。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月21日～9月2日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習
9月4～15日	埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
6月5～7日	目黒区立大鳥中学校	4人

6月21～23日	目黒区立東山中学校	4人
----------	-----------	----

7. スタッフ研修

〈1〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月27.28日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修障害児保育	1名	無
8月26.27日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修保健衛生、安全対策	1名	無
12月2.3日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修食育アレルギー対応	1名	無
8月5日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修障害児保育	1名	無
1月14.21日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修食育アレルギー対応	2名	無
12月9.10日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修障害児保育	1名	無
2月17日	社会福祉法人どろんこ会	キャリアアップ研修保護者支援・子育て支援	1名	無
3月10.17日	社会福祉法人絆友会	キャリアアップ研修保護者支援	1名	無
10月29日 11月3日	社会福祉法人絆友会	キャリアアップ研修幼児教育	1名	無
1月7.8日	社会福祉法人絆友会	キャリアアップ研修乳児保育	1名	無

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名

施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人理念おける保育方針の「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛あされる存在になるよう計画し実践した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：なべころ坂公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：sakanabacca、祐天寺駅、中目黒駅前図書館、ペットのコジマ、田村商店、祐天寺、まいばすけっと、東急ストア、ナンカ堂、ヤマト運輸、クリーニング24等
世代間交流	1月24日にグランダ中目黒にてを正月の集いを実施
異年齢交流	6月5日に中目黒どろんこ保育園ホールにて中学生との交流を実施
その他活動	9月27日になべころ坂緑地降園にてクリーン大作戦を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

子どもの発達の連続性を見据えたうえで、保育所における保育が行われていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているのか小学校と連

携できるように働きかけた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月11日	中目黒小学校 1学年	12名	学校探検（中目黒小学校 教室、体育館、校庭）	子ども間交流
12月16日	下目黒小学校	12名	しもめ発表会(下目黒小 学校体育館)	子ども間交流
2月14日	下目黒小学校 全学年	12名	作品展（下目黒小学校教 室）	子ども間交流
2月13日	中目黒小学校 全学年	12名	（中目黒小学校教室）	子ども間交流
3月11日	烏森小学校 新6学年	12名	烏森小学校（教室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別保育計画を作成し、家族や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的にひとり一人に応じた保育内容や配慮を実践した。毎月の個別ケース検討を実施し、園全体での共通理解を図った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・ 4～3月に計12回開催 参加者：6名
- ・ 医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有した。
- ・ 保育所の保育者全体に対しても障害児保育への正しい知識が持てるように配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

障がいのある子どもの生活の質が高められるよう、子どもの特性を活かすような支援の経過を伝えた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	4名	10名	28名	17名	32名	42名	75名	27名	33名	10名	10名	292名

実施項目													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計21件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育	月1回 公園名：なべころ坂公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	6名	6名	2名	4名	6名	4名	10名	8名	8名	8名	62名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、主任保育士、保育士、調理スタッフ、事務スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：62.7%

（省察）保育所運営に対するご理解をいただくにあたって、保護者様との連携が遅かったり、わかりづらかったり、もう少し丁寧に対応すべきだと感じた。また、保護者参加行事に対して保護者間のつながりを大切に考えている方も多く、その要望に応えられるようにしたいと感じている。いただいたご意見を参考に、2024年度取り組んでいくこととする。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：中目黒どろんこ保育園 施設長 中村利江

2023年度 船橋どろんこ保育園分園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中で以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念『にんげん力。育てます。』

子育て目標『センス・オブ・ワンダー』

『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める。
	実践結果	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って様々な活動を進めていく事が個人差はあるものの実践された。
	次年度方向性	プロジェクト保育の内容を偏りのないように計画的に進めていく。
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践結果	畑にて野菜の生産をし、下拵え、クッキング、食の循環を学ぶ事が進められたが、畑の作物が計画通りには出来ていなかった。
	次年度方向性	実践可能な内容を計画し、計画通りに進められるようにする。
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり。
	実践結果	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置することがなかなか出来なかった。
	次年度方向性	監査前のみではなく、日常的に整理整頓が習慣化できるような工夫を考えて進めていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践結果	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。

	次年度方向性	保護者の情報共有の強化。知らなかったという事の撲滅。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ。
	実践結果	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。
	次年度方向性	保護者に対する畏敬の念を常に意識し丁寧な対応を持続する。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ。
	実践結果	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定。
	次年度方向性	保護者の思いを察し、保護者と共に児童に寄り添う思いをしっかりとお伝えしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援室(本園)の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践結果	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)の実施は保育園見学においての子育てアドバイスにとどまってしまった。
	次年度方向性	子育て支援室(本園)の活性化、園行事へのお誘いの強化。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践結果	月1回の近隣公園での青空保育の実施は出来たが、その予告と実践時の招集活動の促進はなかなか進められなかった。
	次年度方向性	毎月の定着行事として地域へ広報強化。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践結果	老人施設・公民館・商店への挨拶は実施出来たが、訪問については先方の状況により対応が困難なケースもあった。
	次年度方向性	コロナ禍の状況を確認しながら無理なく進めていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
---	--------	----------------------

	実践結果	研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り理解を深める事は出来ている。
	次年度方向性	虐待について認識は出来ていても他の人の行為を注意することがなかなか進められていないので共同責任という意識を高めていく。
2	計画・ねらい	大人の間接力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践結果	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める事に個人差はあるものの徐々に進められてきた。
	次年度方向性	個人個人の得意を認め合い、実践できるように日々の保育にも具体的に取り入れていく。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践結果	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく事は、生活発表会で集大成として具現化出来た。
	次年度方向性	大きな行事(どろんこ祭り・運動会・生活発表会)を目標及び節目としてステップアップしていけるように持続、継続していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践予定内容	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える。
	次年度方向性	環境整備を継続する。
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践予定内容	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	人対人コミュニケーションを継続する。
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践予定内容	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる。
	次年度方向性	協調性・平等性の意識を継続していく。

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践結果	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
	次年度方向性	児童や保育者、保護者について良いところ探しをし、常に前向きに明るい話題を絶やさないように生活を進めていく。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践結果	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
	次年度方向性	気付きの力、俯瞰能力を高める研修も考え取り入れていく。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践結果	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることが出来る人材の育成。
	次年度方向性	園長大学、保育士大学の視聴を共有し、日々の保育や生活に活かせるように話し合う時間を作っていく。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	環境整備・施設の美しさを保つ・自信をもっての見学案内が出来る。
	実践結果	日常清掃・整理整頓の徹底・五感を働かせ保育環境を整える。
	次年度方向性	見学案内をすべての職員が対応できるように進めていく。
2	計画・ねらい	人対人コミュニケーション・気持ちの良い挨拶の徹底
	実践結果	大人が子どもの手本となる。笑顔を絶やさずコミュニケーション力を高める実践。
	次年度方向性	挨拶の徹底。立ち止まり姿勢を正し丁寧に挨拶を実施する。
3	計画・ねらい	協調性・平等性の意識を持つ。子どもにも伝えられる。
	実践結果	雰囲気を感じる力・今、相手が何を感じているか察知し対応する力を育てる。
	次年度方向性	気付きの足りないと感じた時にはそのままにせず感情的にならず穏やかに伝える工夫を進める。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
年度前半：4~9月	24人	72人	72人	168人
年度後半：10~3月	36人	72人	72人	180人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	45人	53人	52人	53人	41人	52人	82人	66人	70人	60人	65人	60人	699人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	19人	35人	34人	35人	21人	28人	30人	202人

（解説）3月は予測にて入力

一時保育利用状況

一時保育は実施なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	施設長	1人	保育士	4人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・情報共有 ・各行事の打ち合わせの実施。
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について振り返りを実施した。
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返りを行った。
ケース会議	月1回	支援の必要な児童についての話し合いを実施した。
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通しを考えていった。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議／法人本部	年6回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・

食品衛生管理係	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
船橋市民フェスティバル係	実施無し

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事が自分で出来る事は自分でするように支援した。 ・沢山の経験から多くの事が感じられるように原体験の機会を多く設けた。 ・年齢を問わず、子どもたちが自分で遊びを選択できるような環境設定をした。 ・異年齢での活動の機会を多くし、園が子どもたちの『大きな家』になるように努めた。
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点) ・

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践結果	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう事が進められた。

	次年度方向性	その日の給食のメニューを知りその素材を知り関心を持って味わう事が出来るようにする。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践結果	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つことが年齢によるが意識出来てきている。
	次年度方向性	年齢に合わせた食の楽しみ方(盛り付け、バイキングなど)を進めていく。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践結果	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事はコロナ禍の為、出来なかったが、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す事は進められた。
	次年度方向性	コロナ禍が沈静されることにより、調理員・保育士・施設長が子どもと共に食事し子どもの食事について理解が深まるように進めていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月13日／1月16日に実施
歯科検診	6月14日に会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	(ア) 6月14日に保育室にて歯科指導を実施 (イ) 11月14日に保育室にて手洗い指導を実施 2月20日に幼児室にて性教育を実施
流行した感染症	2月にインフルエンザB、園児3名感染報告有り。2月10日に終息
発作・痙攣等の対応	計0名に対し、計0回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月21日に会場にてエピペン研修をスタッフ22名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、10名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・4月13日に会場にて研修をスタッフ10名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、10名が使用可能

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載
-------------	---

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月13日、1月16日 歯科健診 各年1回/6月14日、
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月日、10月日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	室内環境の整備
---	--------	---------

	実践結果	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定を進められた。
	次年度方向性	季節や興味を前面に室内環境の整備を進めていく。
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践結果	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直すことは出来たが、屋や保護者の混乱を招いた場面も見られた。
	次年度方向性	年度当初に朝夕の出入り口の設定を決定する。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践結果	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進めることは出来たが子どもたちと共にはあまり実施出来なかった。
	次年度方向性	散歩コースを子どもたちと共に検証しハザードマップの作成を進める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具無し。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践結果	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践結果	不審者対応訓練(年2回)
4	実践結果	設備点検(年4回)
5	実践結果	事故防止委員会
6	実践結果	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践結果	光化学スモッグの対応

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生、見学実習については積極的に受け入れた。学生の不安な気持ちを受け入れながら、保育を楽しみ、保育士の仕事に魅力を感じてもらえるように対応した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14日～26日	保育専門学校	1人	責任実習
2月13日～27日	千葉こども専門学校	2人	観察実習

〈3〉中高生の受入

今年度は受入れ無し

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 10名	19日 10名	16日 10名	14日 10名	18日 9名	15日 9名	20日 9名	17日 9名	15日 9名	19日 9名	16日 9名	3日 9名
研修	21日 10名	19日 10名	16日 10名	14日 10名	18日 9名	15日 9名	20日 9名	17日 9名	15日 9名	19日 9名	16日 9名	3日 9名

〈2〉外部研修への出席

7月3日～8月3日	ポピンズ	キャリアアップ研修(乳児保育)	3名	有
9月1日～10月2日	ポピンズ	キャリアアップ研修(保護者支援)	3名	有
9月15日～10月16日	ポピンズ	キャリアアップ研修(マネジメント)	1名	有
7月3日～8月3日	ポピンズ	キャリアアップ研修(乳児保育)	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

船橋どろんこ保育園分園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるように進めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:本町中央公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:駅前交番、花屋、スーパー、魚屋、体操教室、空手教室、ケーキ屋、パン屋、郵便局、駄菓子屋、美容院、歯医者等
異年齢交流	8月23日に大学生との異年齢交流を保育園にて実施
異文化交流	11月6日に外国人保護者による異文化交流を本町4丁目公園にて実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 対象児なし。

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

対象児なし。

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度対象児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

今年度対象児なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

対象児無し。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10名	10名	10名	10名	40名	20名	171名	30名	10名	10名	10名	10名	341名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												

青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：本町中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	3名	5名	名	名	4名	3名	3名	3名	名	名	名	名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年月日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：齋藤みどり、飯塚舞子、小林美穂

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

今回のアンケート結果ではだいぶ良い印象の回答が多く、日常の朝の受入れ、お迎え対応などの満足度も高かった。今後も保護者との信頼関係をより深めていけると良いと思う。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）0件

以上

2023年度 南魚沼どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

人口減少で少子化が加速している地域の中で、入園児数が前年度を超え、75名の定員を上回り、弾力化による受入れにより3月末には88名となった。どろんこ会の保育方針と園庭環境に魅力を感じ広域から、自園を選んで通って下さることに感謝の1年であった。ようやくコロナ禍から明けたところで、熊出没警報が出され、散歩に出ることが出来ない日が続く南魚沼の大自然のフィールドに保育が実践できなかつた事は残念でならない。この一年、そこをカバーする園庭の広さを活かした保育の実践に力を入れてきた。「どろんこ大地の芸術祭」などは全学年が関り、大胆な表現活動として継続して取り組み、保護者の方からも好評を得た。また、9月のどろんこ祭りは地域の系と系盆踊りとコラボ開催としたことで、参加者が800人を超えるような盛況な祭りとなり、在園児のみならず、多くの卒園児が参加し、子どもの参加が少ないことが課題であった地域の行事への貢献にも繋がった。今年度を振り返り、乳幼児期の子どもたちには本物の体験が必要であり、心の原風景となる多くの体験を大切にしたい保育を実現するには南魚沼は最高の環境であることを改めて感じた。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	原点回帰の意味、法人理念を理解する。 ねらい:原点となる創業者の思いをエピソードから知り、法人の理念・方針等を深く理解し、思いを持って業務に当たる姿勢を育成する。
	実践結果	保育や仕事に対して、スタッフの考え方は様々であることは当然であるが、考え方が違っても同じ方向を目指して行く集団であることは、保育の質の向上の視点から見ても必要であるという事を折に触れ、周知を図ってきた。
	次年度方向性	全ての職員が共通理解することは容易ではないが、保育の質の向上を目指して進もうとするスタッフが認められるような職場の風土は大事であり、継続した取り組みは必要である。
2	計画・ねらい	ゾーン保育実現のためのチーム保育の実践。 ねらい:日課、基本保育活動の充実をチームで図る。実践を通してチーム保育を実現する。
	実践結果	日課は定着し、スタッフもさくらさくらんぼリズム体操の曲をピアノで弾くスタッフが増えている。8:00～雑巾がけ、歌、さくらさくらんぼリズム体操、サークル、座禅、畑活動、生き物の世話から、散歩9時出発とスムーズな流れが定着している。 室内環境は、整理整頓の継続に課題が残る。戸外活動はクマ出没で散歩が実現できなかったものの、園庭での表現活動は多彩な内容へとレベルアップした。
	次年度方向性	日課は全てのスタッフの共同が無ければ実現は難しく、

3	計画・ねらい	子どもの主体的な活動から考える日課・基本保育活動の充実。 ねらい:日課の意義の再確認と主体性とは何かを、共通の軸として日々の保育を充実させる。
	実践結果	日課は子どもたちが選択し、畑活動か生き物の世話など選んで自ら行動する姿が見られる。一人ひとりを見守る中で、自分だけがやりたい仕事を独占し、片寄った作業となっている場面に保育者がどう関わっていくかも次の課題としてあげられる。
	次年度方向性	主体性とは何かを、職員間で共有し、子どもたちの姿と照らして考える事が次年度の更なる日課の充実に繋がると考える。
4	計画・ねらい	食の循環への意識を育む環境教育とは何か。 ねらい:本物の体験を通して、大人も子どもも一緒に実践し学ぶ食育。
	実践結果	堆肥作りから、畑作り,収穫から食すまでを年間通して、体験したが畑の畝の土が固すぎ、野菜が根を張ることができずに根菜は不作であった。堆肥作りは研修会も実施し、取り組んでみたものの、継続した日々の管理が行き届かなかった。
	次年度方向性	畝作りの段階で土の量や堆肥の割合に配慮した畑の収穫を目指すことで、子どもたちの更なる意欲につながると思われる。
5	計画・ねらい	小学校との連携 アプローチプログラムを考える。 ねらい:文部科学省「架け橋プログラム」とは何かを知り、南魚沼市の現在の連携状況の共有とこれからの展望の理解。
	実践結果	園内研修にお於いて、「架け橋プログラム」について知る機会を持ち、保育児童要録の意義について共有した。保育所児童要録は、その年の担任が記入して引き継ぐ体制としたが、子どもの育ちの姿を記入する書き方は、研鑽が必要であると感じる。
	次年度方向性	保育児童要録の書き方は、引き続き研鑽が必要と思われる。小学校へのスムーズな引継ぎを意識して、取り組むべき重要な業務である。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	購入しなくなる写真の公開による保護者との保育の共有。 ねらい:子どもの生き活きた表情を保護者に伝え、成長を共有する。
	実践結果	一部の職員の写真の撮り方の技術が向上し、タイムラインの内容も向上した。写真も保護者が購入しなくなるような写真が多く掲載されるようになったことで、スタッフ全体の意識向上となっている。
	次年度方向性	子どもの成長の場面を捉えようとする意識にもつながる写真撮影は、保育の質の向上にもつながると思われる。
2	計画・ねらい	保護者アプリ(うちのこタイムライン)発信強化、感動するお迎え対応、連絡帳の充実(接遇対応力研修)による保護者への支援。 ねらい:園で実践している保育への理解を保護者に深めて頂き、保育実践内容が口コミで拡大する。
	実践結果	スタッフの撮影技術向上のための研修を実施し、生き活きた子どもたちの様子を撮影する技術は向上した。積極的にタイムラインをアップする意識を啓発し、一日のアップ枚数も常時、5~6枚であった。タイムライ

		ンを楽しみにしているという保護者の声も多かった。
	次年度方向性	更なるスタッフの技術向上と、より多くのスタッフの意識向上を継続することが望まれる。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターズとの活動連携強化。 ねらい:2022年度のサポーター活動が次の世代へつながり、保護者同士の繋がりが、子育ての支えとなる活動に寄り添う。
	実践結果	どろんこ祭りはどろんこサポーターの方々が中心となり、運営された。子どもたちにも好評で大変盛況で合った。サポーターの方々と地域の方々とのつながりにも貢献していただいた。クリスマス会や卒園式などを通して保護者同士のつながりが生まれている。
	次年度方向性	年長児保護者中心に活動されてきたことが、次の保護者世代に繋がってゆくことが期待される。すでに、そこを見据えている保護者がいらっしやると思われる。
4	計画・ねらい	気楽な子育て相談機能の強化。 ねらい:共同パートナーとして、子育て相談で頼られる場所となる。
	実践結果	日常の何気ない会話の中から、保護者の様子を機にかけ、相談したケースは、10件を超え子どもの育ちを保護者と共に分かち合ってきた。子どもたちの成長における関係性は、成長と共に難しくなる部分があり、日々の送迎時の会話の中で思いを聞き取りお伝えしてきたが、深い理解を得ることの難しさが課題となった。保護者会などの機会に、更なる理解を深めるための講和などの必要性も感じている。
	次年度方向性	子どもの育ちに、保護者との共有は重要であることに鑑み、日々の送迎時の会話、日常的な会話などに加え、理解を得る機会の創出が望まれる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐの出前保育の内容の充実。 ねらい:子育て中の保護者に、手を差し伸べる支援の姿勢をアピールする。
	実践結果	アートステーション・キッズパークや塩沢公民館を会場に出前保育の充実を図った。近隣の公園で遊ぶ親子は少数であるため、会場を工夫し、積極的なアプローチを心がけた事で、利用者数は増大した。
	次年度方向性	冬期間や猛暑の夏なども継続した子育て支援に取り組めるよう、引き続き積極的なアプローチが望まれる。
2	計画・ねらい	地域と共に伝統を受け継ぎ繋ぐ「どろんこまつり」の開催。 ねらい:地域で5年前に復活した「糸と糸盆踊り」とのコラボ開催で地域を盛り上げ、地域の子育て支援に寄与する。
	実践結果	「糸と糸盆踊り」「どろんこ祭り」のコラボ開催は大変好評で双方に良い効果をもたらしたと評価できる。参加総数は800人を超え、想像以上に子どもたちには思い出深い経験となった。卒園児も多く参加し、人と人のつながりや絆を感じる機会となった。
	次年度方向性	今後も「糸と糸盆踊り」と「どろんこ祭り」のコラボ開催が望まれる。長く地域の伝統行事として、受け継がれて欲しいと考える。

3	計画・ねらい	子育て中の保護者の自主的な子育て講座の定期開催。 ねらい:子育て中の保護者の自主活動を支援し、保護者同士の繋がりの機会を創出し、支え合う子育て支援を行う。
	実践結果	講座に参加され、保護者同士のつながりの機会となったものの、自主的な事業展開には至らなかった。
	次年度方向性	保護者同士のつながりは、子育てしていく保護者にとっては、子育て力の発揮に繋がるため、新たなアプローチを模索する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	地域の社会資源としての役割を担い行動するスタッフを育成。 ねらい:これからの保育を担うスタッフが園の顔となり、地域の一員として貢献する。
	実践結果	保育所の役割を理解し、保育の質の向上に向けて取組もうとする前向きなスタッフの姿があり、困難な状況でも子どもたちにとってどうかという視点がぶれることなく進んできた。園数が増えたことも、その結果であると捉えている。
	次年度方向性	さらなる質の向上に向けて、邁進してほしいと願う。
2	計画・ねらい	主体的に学ぶスタッフ育成。インプットからアウトプットの実践。 ねらい:自ら学ぶ姿勢を持つスタッフが良い影響を及ぼし、アップデートしていく職場の風土作り。
	実践結果	園会議において、全スタッフのアウトプットタイムを実施。 キャリアアップ研修を自主的に受けるスタッフも増え、自分自身のレベルアップを目指して、積極的なスタッフが増えた。
	次年度方向性	更なる質の向上に向け、主体的に学ぶスタッフが増えることに期待する。
3	計画・ねらい	背中で見せる大人、先輩の背中を見る姿勢をスタッフに育む。 ねらい:日課・基本保育活動等はスタッフが背中を見せて行い、関わる子ども、他のスタッフの姿から学び、保育の質を向上させる。
	実践結果	日課は定着し、0歳から5歳児までの子どもたちが日課の流れに乗って活動する姿が日常の保育となった。自然な流れに乗り、子どもたちが活動する姿になるまでは、見守りと保育者の意図やねらいが必要であると感じている。日々の保育が重要であると感じている。
	次年度方向性	主体的な子どもの活動の理解を深め、スタッフ間の共有が図られることが望まれる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥作りを通じた保育環境作り。 ねらい:給食残渣、山羊の糞、落葉などを利用して、堆肥作りに年間を通して取組み、畑作りに使用する。
---	--------	---

	実践結果	外部講師を招いて「堆肥作り」に取り組み、堆肥場を拡大して、堆肥作りに年間通して取り組んできた。 思うような堆肥にはならなかったものの、子どもたちと共に日課の中で取り組んできたことは、成果であったと捉えている。
	次年度方向性	次年度の畝作りに使用できる堆肥となり、作物がより良く育つ畝作りに繋がると思われる。
2	計画・ねらい	井戸水、用水の有効活用。 ねらい：園内の井戸水、小川の用水を子どもたちの遊び以外に有効活用する方法について年間通して模索する。
	実践結果	ビオトープ、井戸水は最大限活用した保育活動が実施できている。恵まれた水環境は夏の暑さ対策や作物を育てることに活用されてきた。
	次年度方向性	引き続き、有効活用が望まれる。
3	計画・ねらい	ビオトープの環境整備。 ねらい：蛙、カワニナ、水カマキリ、糸トンボなど水辺の生き物が息づくビオトープ環境を更に整備し、自然体系を身近に観察する環境を作る。
	実践結果	猛暑の夏でも、ビオトープがあることで子どもたちの遊びは継続し、様々な生き物も生息し、子どもたちにとっては恵まれた環境であった。
	次年度方向性	引き続き、ビオトープ整備を行い子どもたちが、定点観察できる場所として管理することが期待される。

〈6〉 絵葉書になるような園舎景観保持・掃除の行き届いた園舎

1	計画・ねらい	絵葉書になるような景観の園庭・園舎環境を保持する。 ねらい：心を込めて、丁寧に管理されているという事が一目で感じられる美観を保つ。
	実践結果	園庭から見える巻機山等の自然の中に溶け込み絵葉書になるような景色が撮影できる景観は維持された。夏場の草刈りや室内の環境整備などは仕組み化し、全ての職員で取り組んできた。いつだれが訪問しても良い環境を整えてきたと思う。
	次年度方向性	仕組み化しながらも、課題も感じられ次年度は再構築が必要と思われる。
2	計画・ねらい	掃除の行き届いた園舎。 ねらい：日々の業務の中に掃除を組込み、常に園舎の隅々まで掃除が行き届いている状態を維持する。
	実践結果	細かな課題や経年劣化による不具合などの課題が浮き彫りとなっている状態。掃除は仕組み化する中で、保たれてきたが細かい課題も感じられる。
	次年度方向性	掃除の分担など、再構築が必要である。
3	計画・ねらい	突然の訪問でも、自信を持ってお迎えできる園内環境。接遇の基本。 ねらい：保育環境として当たり前である整理整頓された環境を維持するために、全スタッフの意識を高める。

実践結果	整理整頓は意識の高い職員により、維持されてきた。忙しい業務の中でも整理整頓された環境は保育環境としても、安全管理面でも必要であることを周知徹底してきたが課題が残された。
次年度方向性	整理整頓された環境維持は、引き続き全スタッフの責務であることの共有が望まれる。

〈7〉にんげん力を高め合う園内研修

1	計画・ねらい	にんげん力を高め、豊かな人生を求めて。 ねらい：豊かな人生を私たちスタッフも歩むためには、にんげん力を高めることであり、そのための学びである事を知る。
	実践結果	保育の質を高めようという意欲的な姿勢のスタッフが多数となり、園全体で学びに向かう姿勢が整えられてきたと思う。反面、広い視野を持たずに葛藤するスタッフもいる。
	次年度方向性	保育者の自己研鑽は必須であり、更なる園全体での学びを高める機会の創出が望まれる。
2	計画・ねらい	批判的思考力を持つことの大切さ ポジティブ思考を持つ。 ねらい：柔軟な思考力を持つことは、自分自身の成長につながる事を理解し、学び続ける姿勢を持つ。
	実践結果	批判的思考力とは何かを学ぶ研修を実施。柔軟な考えでアップデートし続ける必要性を学ぶ、きっかけになった。
	次年度方向性	臨機応変な姿勢はチームづくりの基本であり、これからの保育の姿勢に欠かせないものであることから、今後も学びの機会が必要とされる。
3	計画・ねらい	相手の立場に立つ 目配り 気配り 心配り(神対応の接遇)。 ねらい：接遇マナーを身に着けて、社会人として成長する。
	実践結果	保育者は五感を働かせて、目配り、気配りはあらゆる場面で求められる保育者の姿勢であるが、登園時の朝の受入れ時に、受付業務に集中しすぎ、大切な事がおろそかになるという課題が感じられる。
	次年度方向性	接遇は相手の立場に立つことであり、保育者としての自己研鑽が全てのスタッフに求められる。

〈8〉次世代を担うリーダーの育成

1	計画・ねらい	日課、基本保育活動を中心にリーダーが保育をリードしている。 ねらい：理念や方針を理解し、目指すべき方向にリーダーが全スタッフを導こうとしている。
	実践結果	乳児リーダー、幼児リーダーの4名が協力し合い、試行錯誤で取り組んできた。上手くいかない事も多く、葛藤しながらも子どもたちの成長の姿に助けられ進んできた。手話やサークル活動を加えて、静かに心が響き合う保育を目指してきた。
	次年度方向性	リーダーが中心となり、自信を持って保育をリードしていく事に期待したい。
2	計画・ねらい	ゾーン保育が展開する環境が整っている。 ねらい：チームとしてスタッフ一人ひとりが、責任を持って環境作りに取り組むよう

年度前半： 4~9月	13人	79人	70人	145人	72人	108人	397人
年度後半： 10~3月	31人	78人	72人	144人	72人	108人	505人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	21人	5人	9人	15人	14人	7人	0人	2人	24人	34人	34人	30人	195人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(解説) 降雪期は保護者の就労(スキー場など)により、利用者が増となる。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人

(解説) 今年度は、0歳児1名の利用者であった。料金が近隣より高額であることや空き枠がないことが稼働率の低下の要因と考えられる。

〈2〉 開所時間

7時00分~20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16 人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	再雇用スタ ッフ	1人						
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	用務	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2、3月は 策定会議に て実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・スタッフのアウトプットタイム 全スタッフの保育の質の向上に向けて実施した。
給食運営会議	月1回	子どもたちの喫食状況、嗜好、残食量、個別の食事摂取状況への配慮などを共有した。
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハットの分析結果から見えた改善策検討、共有した。 ・事故やインシデント報告から振り返り再発防止策の検討を実施した。
ケース会議	月1回	特別支援が必要な児にたいするモニタリング内容の共有を行った。
リーダー会議	随時	保育の課題や検討事項など必要な時に随時実施した。
担当者会議	随時	音楽、体育、環境、畑・田んぼなど各系の会議は随時実施し全体に共有した。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年3回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児の衛生・健康管理を看護師中心に実施。衛生管理は、コロナ禍を明けても、引き続き対策は気を緩めずに実施した。
安全対策係	園児の安全管理について、組織的に取り組み、散歩に対してはハザードマップを更新時期に確実に更新し、マニュアルを遵守した。
防火管理者	定期的な消防設備点検を実施した。
食品衛生管理係	調理担当者を食品衛生管理係とし、食糧品の安全管理に努めた。食育活動においても、担当者と連携して実施した。
畑係	猛暑の夏の畑管理が難しく、畝の大きさや土の柔らかさに課題があった。
生き物係	鶏は園庭から、近隣へと行動範囲を広げるため、近所の方々にはご理解を得られるようにあいさつ回りを欠かさなかった。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーター中心に実施すると同時に「糸と糸盆踊り」とコラボ開催で実施。800人の参加があり、盛況であった。地域に根差した園を目指して、役割を担えたと感じている。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の申し出により、子育て相談を随時実施 ・子どもの発達に関して、ケース会議を実施 ・気になる状況においては、積極的なアプローチによる相談実施 ・関係機関との連携により、保健師訪問とケース会議実施
保育参加	<p>4～3月まで 参加者無し (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参加への呼びかけは今後の課題。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計11名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の子育て相談、友だちとの関わりについてなど

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	堆肥作りを日課として行う 畑・田んぼ活動 ねらい: 食材・食の循環への意識を育む環境教育を実践する
	実践結果	外部講師による堆肥作り研修実施。 年間通して、給食残渣、落葉、山羊・鶏の糞等で堆肥場を作り、堆肥作りを実施。
	次年度方向性	次年度、畝作りに活用予定。
2	計画・ねらい	子どもたち・スタッフが一緒に給食を共に味わう縁側給食実施。 ねらい: 巻機山を眺めながら、子どもと全スタッフが共に味わう。
	実践結果	全スタッフと子どもたちで年間通して、縁側で給食を実施し、四季折々変化する巻機山を眺めながら、子どもとスタッフが共に味わった。
	次年度方向性	猛暑の夏も、厳冬の冬も縁側の扉があることで縁側給食の実施は可能であり、次年度も実施予定。
3	計画・ねらい	噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する。 ねらい: 地場産の食材に可能な限りこだわる。 仕入れる素材の旨味を味わう。 噛む力を育てる調理に留意。
	実践結果	給食の具材の大きさに配慮し、特に野菜は丁寧に調理しながら、野菜の大きさや固さに留意し、噛む力を育てることに配慮した。嚥下や咀嚼に課題がみられる乳児が増えていると感じている。
	次年度方向性	家庭との連携を図りながら、咀嚼や嚥下の状況を把握し、噛む力を引き続き育てる必要を感じている。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月17日/10月18日に実施
歯科検診	5月19日/10月20日に南魚沼どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月9日に自園にて虫歯予防教室開催 ② 12月5日に自園にて栄養指導を実施

流行した感染症	① 12月に、発熱、咳、風邪症状等、園児11名・スタッフ0名蔓延し、南魚沼市保健課、医薬予防課へ報告 ② 2月に咳、発熱、嘔吐等、園児10名感染報告有り。2月8日に終息
発作・痙攣等の対応	ダイアアップ園保管 計1名に対し、ダイアアップ使用無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月12日に自園にてエピペン使用研修をスタッフ21名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、21名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・7月2日に南魚沼消防本部にて上級救命講習をスタッフ2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、21名が使用可能
その他保健に関する取組	うがい、手洗いの励行、おもちゃ消毒、喚起などへの配慮し、徹底した。 積極的な戸外遊びで、冬も雪遊びを行い、外気に触れて健康な体の維持増進を図った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／5月17日、10月18日 歯科健診 各年2回／5月19日、10月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月12日、10月日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが思考錯誤しながら遊べる、園庭環境作り。 ねらい:築山、ビオトープ、小川、広場、野草など園庭で子どもたちが日々、自分のやりたい遊びを選んで満足いく遊びが展開できるような環境を整える。0歳から5歳児までが、混じり合い遊ぶ。
	実践結果	年齢ごとのサークル効果で、こどもたちが落ち着き、生活の流れがスムーズになっていった。夏ころには日課にスタッフと園児が参加し、日常の保育の流れとして、子どもたちが自主的に活動を選んで行っていく姿となった。
	次年度方向性	個の動きにとらわれない、集団の活動としての流れを大切に継続した日課活動が望まれる。
2	計画・ねらい	身近な環境に興味や関心を持つ。 ねらい:長距離散歩、商店街ツアー、青空保育などを通して地域を知り、様々なものに興味や関心を持つ。
	実践結果	4～6月は積極的に外へと出かけたが猛暑の夏と秋からは熊出没警戒警報により、園外に出ることができなかった。
	次年度方向性	熊出没は今後も予想されるが、園児の安全を最優先に情報を収集しながら、可能な活動を実施していく。
3	計画・ねらい	自分で遊びを選び、友だちと協同し、工夫して遊べる室内環境作り。 ねらい:子どもたちが見通しを持ち、自分のやりたい遊びに取り組み、子ども同士の関わりの中で、協同する体験等を主体的に取り組める室内環境作り。
	実践結果	室内遊びコーナーのルールは年長児が主体でルールを決める等、子ども主体で決めながら、遊びを展開した。年齢ごとに適したおもちゃを自由に使う時に、乳児が混じる時間への課題が感じられる。
	次年度方向性	今年度の状況を踏まえて、次年度は更なるコーナーの充実が図られるように配慮していきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期	点検結果
1	雨具かけ	幼児室	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
2	ベンチ	事務室	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
3	出前保育の看板	玄関	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
4	ピーステーブル	玄関	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
5	生物飼育台	縁側	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
6	たまご販売台	玄関	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載
7	ベンチ(2客)	幼児室	毎日7:00過ぎ	点検チェックリストに記載

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	緊急事態を想定したアプリによる緊急安否情報訓練を年2回実施。 元旦に発生した能登地震では、スタッフの安否コネクトによる、スタッフの安否確認が行われた。
2	実践結果	避難訓練へのスタッフの意識を高めるように啓発。担当制で全てのスタッフが責任を持って実施するようになった。
3	実践結果	法人ルールに従い怪我が発生した時には、迅速に対応。病院受診は年間2件であった。ヒヤリハット事例収集は強化し、月の収集件数に拘り、分析、改善というPDCAサイクルによる安全対策を行ってきた。
4	実践結果	不審者訓練1回目は駐在所の警察官による、指導の下実施。2回目のスタッフによる訓練は、スタッフが先読みしすぎた訓練で効果が得られたかには、疑問が残った。
5	実践結果	不意なJアラートにより、注意を向けることが国も困難状況で、情報キャッチが難しかった。保育中は防災ラジオが便りであることが再認識された。
6	実践結果	個人情報については、園内研修で徹底したが、保護者アンケートから一部のスタッフによる不信感につながる意見があり、再指導を徹底した。
7	実践結果	広域避難等のライフライン停止を想定し、災害キャンプ訓練を実施した。非常食喫食訓練を合わせて行い、災害時の備えについて再確認した。
8	実践結果	原子力災害は常時、忘れないように行政の訓練等の情報も得ながら、緊急アプリの活用なども視野に入れておく。
9	実践結果	クマ出没警戒警報は、異例の事態で合った。子どもの安全を最優先にする。
10	実践結果	コロナ感染症は第5類にぶるいされ、近隣でも流行の気配はあったが、集団発生することはなかった。感染対策は怠らずに実施。

11	実践結果	少雪、暖冬の年であったが、氷点下による凍結などには注意を要した。大雪と変わらない対応で安全確保を行った。
----	------	--

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

保育実習生の受け入れ数は0件と残念であったが、保育見学は10名が雪遊び体験に訪れ、子どもと本物の自然体験をした。小学校2年生、中学生の職業体験、保育体験は子どもどもにとって貴重な体験の機会となった。交流の機会は子どもたちにとっても必要な体験であり積極的に受け入れを行っていききたい。次世代を担う子どもたちに、保育体験で保育の魅了を感じる機会として受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
受け入れなし			

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月2日	中之島小学校	27人
2月14日	塩沢中学校	32人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 21名	10日 21名	14日 21名	12日 22名	9日 22名	13日 22名	11日 22名	7日 22名	13日 22名	10日 22名	26日 24名	10日 24名
園内研修	12日 21名	10日 21名	14日 21名	12日 22名	9日 22名	13日 22名	11日 22名	7日 22名	13日 22名	10日 22名	26日 24名	10日 24名
環境から保育（食育）を考える研修	6月14日に南魚沼どろんこ保育園・遊戯室にて21名のスタッフ、58名が Web 参加。 収支報告											

講師：青木拓也さん	事業計画にて計上した予算		実際の支出	
	講師料 (交通費含む)	3万円	講師料 (交通費含む)	3万円
	合計	3万円	合計	3万円
今、子どもたちに必要な保育の中の「雪育」 講師：小野塚彩那さん	10月11日に今泉記念館アートステーションにて22名のスタッフ、83名が Web 参加。 収支報告			
	事業計画にて計上した予算		実際の支出	
	講師料	20万円	講師料	20万円
	合計	20万円	合計	20万円

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
		園長大学®保育士大学にて受講者多数		

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	29日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デノマークインターシッパ	1月26日～2月8日に4名の法人代表スタッフが参加											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金 地域公開講座開催

南魚沼市子ども子育て支援体制整備総合推進事業助成金を使用して、外部講師による地域公開講座を開催した。

第1回 子育ての質を上げる研修会の開催

【公開講座】環境から保育(食育)を考える研修

【講師】南魚沼市在住 ひらくの里ファーム代表 青木拓也さん

【開催日時】2023年6月14日(水) 17:30~19:00

【参加者数】79名

第2回 子育ての質を上げる研修会の開催

【公開講座】今、子どもたちに必要な保育の中の“雪育”

【講師】南魚沼市在住 オリンピックメダリスト・プロスキーヤー 小野塚彩那さん

【開催日時】2023年10月11日(水) 18:30~20:00

【参加者数】105名

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

日々の生活の中で、近隣の方との交流の機会を大切にしてきた。鶏が近所の庭先に出入りし、ご迷惑をおかけしている事をきっかけにして、会話が発展するなど鶏が交流に一躍買ってくれている。

さらに、地域で復活した「糸と糸盆踊り」は開催5回目となり、地域に根差した祭りとなっている。その祭りの課題である子どもの参加が少ないことから、次世代を担う子どもたちに是非、体験させたいと「どろんこ祭り」をコラボ開催とした。これまでにない賑わいとなり、800人を超える盛況ぶりとなった。地域の方々と手を携え、これからも歩いていく事が自園の役割だと強く認識した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:木六神社にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:池田酒店、喜多村ラーメン店、上村屋、エネオス農協、JA 種菌センター、南魚沼生産組合等
世代間交流	9月1日に木六神社にて糸と糸盆踊りを実施
異年齢交流	2月14日に自園、園庭にて塩沢中学校3年生とふれあい体験を実施
その他活動	6月29日に自園にて台湾の中学校とzoomを繋ぎ交流会を実施
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学先が小学校4校となる今年度は、春期から各校と訪問や情報交換の機会を持ち、継続的に子どもの育ちを見守ってきた。アプローチカリキュラムを備え、就学に向けた就学前教育も無理なく行ってきた。学びに向かう力を育てるという幼児期の基本の姿勢を大事に、サークル活動や保育計画にも子どもたちの意見を取り入れる等、主体的な活動と子ども自身が見通しを持って、生活する姿を大切にした保育を小学校にも理解されるように連携してきた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月20日	中之島小学校	300名	中之島小学校 運動会	子ども間交流
5月29日	中之島小学校	8名	中之島小学校視聴覚室 幼保小連絡会	職員間交流
5月30日	上田小学校	7名	上田小学校 幼保小連絡会	職員間交流
6月28日	上田小学校	18名	塩沢地区 保幼小連絡会	職員間交流
7月13日	中之島小学校	8名	就学相談の打ち合わせ	職員間交流
2月9日	中之島小学校	35名	中之島小学校 半日体験入学	子ども間交流
2月9日	塩沢小学校	50名	塩沢小学校 一日入学	子ども間交流
2月16日	六日町小学校	50名	六日町小学校 半日体験入学	子ども間交流
2月16日	上田小学校	30名	上田小学校 一日入学	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

要支援児の個別の計画については、モニタリングした結果を毎月の会議で共有し、保護者のニーズも踏まえて、次の目標とねらいを設定して育ちを見守ってきた。聾学校との連携や交流保育、小学校教諭の定期的訪問なども受け、その結果も踏まえてケース会議を実施し就学相談へと連携した。

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年9月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：若杉絵里子、田村真由子、松井曜子、駒形朋子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

全体に園に対する保護者の期待が高いことが伺える。さらに何よりも、保育者の対応や笑顔で接する姿勢が、何よりの子育て支援であることが記述内容から読み取れる。保護者のご意見を真摯に受け止め、改善すべき点は改善へ、保育内容への理解や励ましの言葉はありがたく受け止め、更なる質の向上を目指して、進みたいと考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：南魚沼どろんこ保育園 施設長 若杉 絵里子

2023年度 和光どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

●続原点回帰

- ①子どもの「生きる力を育む」ために日課・基本保育活動を丁寧に実施する。
- ②食材食の循環・環境への意識を育む環境教育の実施。

●小1を知る：小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する。

●接遇、神対応：相手の気持ちに寄り添い、丁寧に心のこもった対応をする。

これらを2023年度の基本方針として保育実践を行ってきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育者自身が子ども達になってもらいたい姿に合わせて、PDCAをしっかりと行い保育計画を立てる。
	実践結果	乳児会議、幼児会議を定期的に行い、子どもたちの様子や保育計画の振り返りを行っている。また子どもたちの様子を共有し、異年齢での生活を有意義なものにしている。
	次年度方向性	子どもたちの様子や興味、関心を見極めて環境を準備し、コーナー保育からゾーン保育を確立する。
2	計画・ねらい	日課をしっかりと行う。
	実践結果	散歩9時出発を軸として、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、座禅の実施が定着している。日課の意味の理解に関しては次年度も引き続き行う必要がある。
	次年度方向性	日課の意味を深める。 畑仕事が日課となり、実った物を余すことなく食することができるようになる。
3	計画・ねらい	防げた事故を起こさない。
	実践結果	危機管理リーダーがインシデント、ヒヤリハットの検証を行い、毎月の事故防止委員会でヒヤリハット検証と対策を話し合っている。
	次年度方向性	引き続き、ヒヤリハット、インシデント検証を行い、毎月の事故防止委員会にて対策を講じ、大きな事故を未然に防ぐ。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	異年齢での関わりや、直接体験を通じての成長していく子どもの育ちを伝える。
---	--------	--------------------------------------

	実践結果	子どもたちの姿が分かるように、日々子どもたちの様子を細めに写真に収め、毎月の写真販売で販売している。 子どもの成長が見えることや、友だちとのやり取りをタイムラインにてお知らせしている。
	次年度方向性	ブログなどで子どもたちの育ちを視覚的に発信する。
2	計画・ねらい	利用者がいつ見ても気持ちの良い環境を作る。 保護者、来訪者がいつ見ても整理整頓されており、気持ちの良い施設をつくる。
	実践結果	・DIYで造った棚、パーテーションなどを経年劣化に伴い撤去している。 ・棚の上は閉園時には綺麗になっている状態を心がけている。 ・用務職員の掃除箇所を明確にし、常に綺麗な状態を保てるようにしている。
	次年度方向性	・常に棚の上が綺麗になっている状態にする。 ・四半期に一度室内環境を考えていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園の様子を外部発信する。
	実践結果	子育て世代が集まる場所へちきんえっぐだよりを置かせてもらう計画をしていたが、実際は動けずに終わっている。
	次年度方向性	ちきんえっぐの担当が自覚を持って、外部発信に力を入れていく。
2	計画・ねらい	コロナ感染対策をしながら、地域の方が集う場所の提供をする。
	実践結果	月に2度実施している自然食堂には、参加者が増加している。
	次年度方向性	予定しているちきんえっぐの行事には、参加者が増えるような取り組みをし、和光どろんこ保育園を知ってもらう機会にしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	各自が自身の課題を見つけ成長する。
	実践結果	自分自身の課題を洗い出し年間目標を設定し、組織目標を達成するために自己目標を立てて、各自が意識できるようにしてきた。年度の途中で施設長との面談を実施し、目標についての振り返りを行なったことで各自の成長に繋がった。
	次年度方向性	引き続き各自が自分自身の課題を見つけて、成長していけるようにする。

2	計画・ねらい	自己啓発と知識の向上を目指す。
	実践結果	月一度実施している園会議の場において、1時間は研修の場を設けどろんこ会主催の園長大学、保育士大学の視聴を行った。職員同士で自身の考えを出し合うアクティブラーニング法やロールプレイングでの学びの場を多く取り入れ、保育実践に繋げている。
	次年度方向性	引き続きどろんこ会主催の園長大学、保育士大学の視聴及び埼玉県主催のキャリアアップ研修受講し、会議時にアウトプットする時間を設けていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	どろんこ会指定家具の統一を図る。
	実践結果	DIY 作成の玩具、棚、テーブル等の整備を行い、どろんこ会指定の家具に整えている。
	次年度方向性	日々の保育の中で子どもたちの様子に注目して、子どもたちの興味・関心に合わせて環境を準備していく。
2	計画・ねらい	環境の整った保育室を意識する。
	実践結果	物の管理場所を明確にして適切な管理の基、使用している。 自分が保育から上がる時には、棚の上やその日に使用した物を片付けてから帰るように心がけている。
	次年度方向性	棚の上がきちんと整理され、どの部屋も環境が整い、清掃も行き届いた状態にする。

〈6〉和光ルームと協同で研修会を実施する

1	計画・ねらい	5月、8月、12月の年3回 和光ルームと合同で保育に関する内容の研修会を行う。
	実践結果	双方の都合により、8月、12月に和光ルームと協同で次年度系列から持ち上がる2歳児に関しての情報交換会を実施している。まだ始まったばかりで手探り状態ではあるが、職員同士の交流は深められた。
	次年度方向性	今年度の反省を生かし、和光ルームの2歳児が自然と和光どろんこ保育園に馴染めるような取り組みを考えていきたい。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	12人	12人	20人	16人	20人	86人
年度後半： 10~3月	6人	12人	12人	20人	15人	20人	85人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	304 人	224 人	286 人	292 人	251 人	304 人	304 人	326 人	304 人	208 人	200 人	200 人	3203 人
うち0 歳児	21人	0人	2人	3人	2人	21人	21人	23人	21人	4人	4人	4人	126人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

（解説）保育者確保の関係で、11月1日より一時保育事業を停止している

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
	再雇用スタ ッフ	0人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人	用務	1人

パート スタッフ	保育士	0人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人					嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・衛生管理研修 ・事故防止研修 ・メリー★ポピンズ和光ルームとの合同研修
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子に関すること ・食育に関する事項
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデント検証 ・自園、他園事故記録簿からの検証 ・全国事故からの検証
リーダー会議	10回	・園運営に関すること、園会議内容
幼児会議	週1回	・保育の振り返りと計画、行事に関すること
乳児会議	週1回	・保育の振り返りと計画、行事に関すること

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長

主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の汚染区域、園周辺の衛生管理や備品等の管理・感染症予防・身体測定・定期健康診断の実施と保護・職員への衛生教育
安全対策係	連携・不審者情報の掲示安全な人的物的環境の整備、点検・避難訓練実施・消防署、警察署との連携
防火管理者	避難訓練計画の立案・設備の防火管理・消防設備点検の実施
食品衛生管理係	食品の品質衛生管理・食育会議の立案・職員への食品衛生教育
畑係	年間農業計画と実施の責任者

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターと協同し、準備進行を実施する

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・養護の行き届いた環境を目指している。また子どもを主体として愛情を持って受容的・応答的な関わりを日々心がけている。 ・活動で経験したことを様々な形で表現している。 ・体調や怪我に留意しながら、保護者が安心して預けることができる環境を全スタッフが意識している。
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)

保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)
--------------	----------------------------

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

I	計画・ねらい	食の循環教育 食育を通じて食を支える環境に感謝し、持続していく事の大切さを知る。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事は定着せずに終わっており、畑仕事の難しさを痛感した年であった。 ・キエー口を作り、給食で出た残飯はたい肥として使えるようにしている。 ・給食で出た物は自分が食べられる分を皿に盛り、無駄のないようにしている。食べられることに感謝の気持ちを育む関わりを心がけている。
	次年度方向性	できた堆肥を使い、畑仕事を日課となるようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月5日／10月30日に実施
歯科検診	6月8日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月1日に乳児室にて性教育①を実施 ② 12月4日に乳児室にて性教育②を実施
流行した感染症	① 5月 インフルエンザ 園児1名 ② 9月 インフルエンザ 園児9名、スタッフ4名 ③ 1月 インフルエンザ 園児2名 ④ 11月 インフルエンザ 園児11名、スタッフ2名 ⑤ 12月 インフルエンザ 園児5名

	⑥ 6月 ヘルパンギーナ 園児4名 ⑦ 8月 ヘルパンギーナ 園児1名 ⑧ 8月 溶連菌感染症 園児1名 ⑨ 12月 溶連菌感染症 園児1名 ⑩ 12月 アデノウイルス 園児2名 ⑪ 1月 アデノウイルス 園児1名 ⑫ 8月 ヒトメタニューモウイルス 園児1名 ⑬ 9月 ヒトメタニューモウイルス 園児1名 ⑭ 10月 手足口病 園児1名 ⑮ 12月 手足口病 園児2名 ⑯ 1月 流行性角結膜炎 園児1名 ⑰ 1月 新型コロナウイルス 園児4名、スタッフ1名
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計0回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に幼児室にてエピペン使用研修を15名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月5日、10月30日 歯科健診 各年1回／6月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	年1回 8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	雨天時での環境を考える。
	実践結果	雨天時でも充実した日を過ごせるように環境を準備している。 また子どもたちの興味に合わせて四半期に一度環境整備を行っている。
	次年度方向性	4半期に一度環境整備を行い、子どもたちの興味に合わせた環境を整えていく。
2	計画・ねらい	DIY で作った家具等を撤去することで、空いた空間にどろんこ会指定の家具等を使って、子どもたちが遊び込める環境を新たに作る。
	実践結果	DIY で造った家具の撤去は、大型の物は終了している。
	次年度方向性	DIY で作った家具が数個残っているため、劣化状態を確認しながら撤去する方向に進めていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	1F、2F 保育室	毎日	劣化が見られたものから撤去
2	登り壁	1F 保育室	毎日	劣化が見られ次第撤去予定
3	木製テーブル	1F 保育室	毎日	問題なし
4	カバン掛け	縁側	毎日	劣化が見られ次第撤去予定
5	ピザ窯	園庭	毎日	窯の中は撤去、外枠に関しても劣化が見られ次第撤去予定
6	焚火台	園庭	毎日	問題なし
7	平均台遊具（板）	園庭	毎日	問題なし
8	道具入れ	園庭	毎日	劣化が見られ次第撤去予定

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難消火訓練/水害・火災・地震・通報等（毎月）
2	実践結果	園庭遊具・施設設備安全点検実施（年6回）
3	実践結果	9月10日普通救命講習会実施
4	実践結果	6月,11月に不審者侵入訓練実施
5	実践結果	光化学スモッグ、高温注意情報発令時の掲示、発令内容に準じた活動
6	実践結果	10月30日埼玉県県民生活部防犯交通安全課主催の交通安全教室実施
7	実践結果	ハザードマップ、ハザードルートの随時見直しと更新

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

どろんこ会本社人事採用部と連携して、積極的に実習生の受け入れを行っている。実習の内容としては、保育体験や観察実習の受け入れを行った。将来の人材育成であることを踏まえて、目標を持って実習に励むことができるように丁寧に指導を行っている。また実習生を受け入れることで、スタッフ自身の保育を見直す機会にしている。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月24日～28日	大宮こども専門学校	2人	体験実習
8月2～3日	東京こども専門学校	1人	ボランティア
1月15～26日	東京未来大学福祉保育専門学校	1人	体験実習
2月1～16日	十文字学園女子大学	1人	体験実習

〈3〉中高生の受入

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	28日 18名	26日 18名	23日 19名	21日 17名	25日 16名	22日 12名	20日 14名	24日 16名	22日 15名	26日 17名	16日 17名	20日 17名
保育の質をあ げる研修	28日 18名	26日 18名	23日 19名	21日 17名	25日 16名	22日 12名	20日 14名	24日 16名	22日 15名	26日 17名	16日 14名	なし

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
11月18.25日 12月5.8日	埼玉県保育士等キャリアア ップ研修事務局	乳児保育研修	4名	有 or 無
8月26日.9月 2日 9月6.9日 12月7.11日	埼玉県保育士等キャリアア ップ研修事務局	保健衛生、安全対策研修	3名	有 or 無
1月20.28日	埼玉県保育士等キャリアア ップ研修事務局	マネージメント研修	1名	有 or 無
1月20.27日	埼玉県保育士等キャリアア ップ研修事務局	食育、アレルギー研修	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	22日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	10日 1名	7日 1名	6日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	10日 1名	7日 1名	6日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期目標設定」と併せて、次期育成計画を、施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度中間面談の実施を行い、進捗確認を実施した。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園を目指す。公開講座を開くなど、地域の子育て世帯、高齢者、小学校、近隣の保育園との交流を行う。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：外環C広場
商店街ツアー	週1回 主な行き先：いなげや、坂下ショッピングセンター、和光郵便局、和光消防署、高橋畳店、新倉造園、陶遊工房、パパピニョル、セブンイレブン、太郎寿司、氷川神社、堀江駄菓子屋、新倉小学校、和光市駅前交番、東林寺、リトルベアー等
世代間交流	12月15日に異文化交流会（中国を学ぼう）を実施
異年齢交流	11月15日に北原小学校にて学校交流会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

園児の小学校への移行がスムーズになるよう幼保小連絡協議会と協力して、近隣園、小学校教職員と連携を図った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月11日	北原小学校	2名	1年授業参観	職員が1年生の授業を見学する

11月15日	北原小学校 1年	20名	北原小学校	子ども間交流
--------	----------	-----	-------	--------

10. 要支援児

今年度、「対象園児なし」

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4名	4名	4名	6名	6名	9名	13名	17名	12名	2名	12名	12名	101名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒相談なし												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	4名	4名	6名	4名	9名	10名	17名	12名	2名	12名	12名	101名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計20回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	2名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	5名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：外環C広場にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年5月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：13時00分

自己評価実施者：鈴木優奈、長島弘美、井上昇代

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：77.4%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

なし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：和光どろんこ保育園 施設長 井上 昇代

2023年度 三鷹どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の子育て理念、子育て目標をもとに、育てたい6つの力が育まれるように保育を行ってきた。また三鷹市内で一番安心して預けられる選ばれる園を目指し保育の質があげられるように実践してきた。今年度はスタッフが多く入れ替わり、保育の土台が崩れたが後半はスタッフの意識も高まり目標に近づくことができた。スタッフの個々のスキルの差や情報共有、保育の質、環境などに課題が残るため来年度は力を入れていきたい。またスタッフが入れ替わっても変わらない保育の土台を構築していきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人の日課・基本活動を見直し質の向上を目指す。
	実践結果	スタッフの入れ替わりが多かったため、昨年度より質が向上せず現状維持になってしまった。スタッフの意識としては、当たり前に行う活動になり工夫しようとしている。
	次年度方向性	スタッフが入れ替わっても揺るがない土台を構築していく。
2	計画・ねらい	小学校1年生を知り、逆算した保育計画の作成と保育の見直し。
	実践結果	昨年度より小学校との交流を持つことはできたが、スタッフの意識に差があった。
	次年度方向性	公開授業に参加し、5歳児担任以外でも小1を知る機会を設けていく。卒園していくときの姿から逆算した保育計画が立てられるようにしていく。
3	計画・ねらい	保護者対応の質の向上
	実践結果	保護者対応の研修を行い、その状況に合わせてアドバイスを行ってきた。対応内容が充実するようになってきたが、利用者からはスタッフによって差があると指摘があった。お待たせしない工夫として、食育の様子や保育の様子をドキュメンテーションにして玄関に置いたり、制作を飾ったりしたが、利用者満足度は得られなかった。
	次年度方向性	引き続き、保護者対応の質が上がるように研修をしていく。また、お待たせしないようなシステムをスタッフで考えていく。
4	計画・ねらい	室内外の環境に見直し、改善
	実践結果	乳児クラスの室内環境の見直しは子どもたちの発達に合わせてその都度改善することができた。園庭の環境改善ができなかった。

	次年度方向性	室内環境の見直しは、引き続き発達に合わせて定期的に行っていく。園庭改良は来年度、全スタッフで取り組んでいく。
--	--------	--

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	どのスタッフが対応しても、保護者の気持ちに寄り添った対応ができるように保護者対応のスキルをあげる。
	実践結果	保護者対応の研修を行い、その状況に合わせてアドバイスを行ってきた。どのような時に保護者は寄り添ってほしいかを伝えてきたが、利用者からはスタッフによって差があると指摘があった。
	次年度方向性	保護者の気持ちに寄り添うとはどういうことかを全スタッフで話し合い、どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	お迎え時に待たされた気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕組みづくりをする。
	実践結果	食育の様子や保育の様子をドキュメンテーションにして玄関に置いたり、制作を飾ったりしたが、利用者満足度は得られなかった。
	次年度方向性	保護者の方をお待たせしない、システムを構築する。
3	計画・ねらい	一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝える。
	実践結果	様々な伝え方を模索したが、スタッフによって差があるとの指摘が多かった。
	次年度方向性	どのような内容を伝えてもらえると嬉しいかを研修し、お互いに高めあっていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	三鷹どろんこに子育て支援センターがあることを、多くの方に知ってもらえるように広報活動に力を入れる。
	実践結果	パンフレットを散歩先で配布できるようにリュックに入れていったが、散歩中に地域の方に会うことが少なかった。 後半は近隣の園や児童館等にパンフレットを置かせていただき、集客率があがってきた。
	次年度方向性	週5日開催し、地域の方が利用しやすい支援センターにしていく。
2	計画・ねらい	保育体験
	実践結果	子育て支援センターの利用者や園見学の方に、保育体験を行っていることを伝えると、興味を持ってくださり参加者が多かった。 保育園の様子がわかり楽しかったとの感想が多く聞かれた。再度体験してくださる方もいた。

	次年度方向性	前年度に引き続き、保育園を身近に感じてもらう活動のひとつとして取り組んでいきたい。
3	計画・ねらい	青空保育
	実践結果	園児の散歩時間帯と地域の方の散歩時間帯がずれているため、公園に地域の方が集まらず実施できなかった。
	次年度方向性	時間帯をずらし、集客率が上がるようにして実行していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	どのスタッフが対応しても、保護者の気持ちの寄り添った保護者対応ができる。
	実践結果	保護者対応の研修を行い、その状況に合わせてアドバイスを行ってきた。どのような時に保護者は寄り添ってほしいかを伝えてきたが、利用者からはスタッフによって差があると指摘があった。
	次年度方向性	保護者の気持ちに寄り添うとはどういうことかを全スタッフで話し合い、どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	乳幼児～小学生までの発達を知り、保育計画や保育内容を見直す。
	実践結果	小1から逆算しての保育計画と保育内容の見直しを行うことができなかった。
	次年度方向性	スタッフが入れ替わっても、小1から逆算した発達にあった保育ができるように来年度は見直しを行っていく。
3	計画・ねらい	マネジメント力をつけ、業務時間内に業務が終了できるようになる。
	実践結果	コンプライアンスプロジェクトを作り、業務時間内に業務が終了できるようなシステムを考えてきたが、中々時間内に業務を終了することができなかった。スタッフの意識も変えることが難しかった。
	次年度方向性	引き続き、プロジェクトチームを作りスタッフの意識改革を行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	必要なものだけがあり、整理整頓された環境を整える。
	実践結果	必要のないものを処分していったことで、すっきりはしてきたが整理整頓ができず、棚の上に物がある状態が多くみられた。
	次年度方向性	常にきれいな状態が持続するのはどのようにしたらよいかをスタッフで話し合い実行にうつす。
2	計画・ねらい	園庭改良（草花や土で遊べる園庭づくり）

	実践結果	環境係がアンケートをとり、園庭のイメージ図は出来上がったが実行に移せなかった。
	次年度方向性	環境係を中心に計画をたてて実行する。
3	計画・ねらい	掃除の行き届いた清潔な環境
	実践結果	スタッフの意識の差が大きく、日々清掃が行き届いた環境にはできなかった。
	次年度方向性	スタッフの意識が上がるように、きれいな状態を写真で伝えイメージが持てるようにする。また掃除がきちんとできるシステムを構築していく。

〈6〉小1を見て知り、逆算した保育の遂行

1	計画・ねらい	発達の勉強会を実施する。
	実践結果	計画をたてることはしたが、勉強会は実施できなかった。
	次年度方向性	計画を立て直し、勉強しあえるシステムを構築していく。
2	計画・ねらい	小学校の学校開放に参加し、小学校を知る。
	実践結果	平日の公開授業に参加する予定だったが、人員の関係で参加できなかった。
	次年度方向性	来年度は、事前に小学校の公開授業日を確認し必ず参加できる体制をとる。
3	計画・ねらい	小1から逆算した保育計画の作成
	実践結果	小1から逆算しての保育計画と保育内容の見直しを行うことができなかった。
	次年度方向性	スタッフが入れ替わっても小1から逆算した発達にあった保育ができるように来年度は見直しを行っていく。

〈7〉保育の原点にかえり保育の質を向上する。

1	計画・ねらい	日課の意味を学びなおし、自園の良いところと課題点を抽出しひとつひとつの質をあげていく。
	実践結果	スタッフの入れ替わりが多かったため、昨年度より質が向上せず現状維持になってしまった。
	次年度方向性	スタッフが入れ替わっても揺るがない土台を構築していく。

2	計画・ねらい	子どもが自己選択し主体的に活動するとはどういうことかを理解し、試行錯誤しながら保育の質をあげていく。
	実践結果	子どもたちの気持ちを尊重し主体的に活動できるように工夫をしながら保育を行ってきたが、まだスタッフ主導になってしまう場面もみられた。
	次年度方向性	今年度の課題点を洗い出し、より子どもたちが主体的に活動できる保育を実践していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	15人	18人	17人	19人	20人	95人
年度後半： 10~3月	6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	222 人	236 人	244 人	198 人	194 人	242 人	202 人	203 人	219 人	210 人	220 人	220 人	2610 人
うち0 歳児	13 人	26 人	27 人	19 人	22 人	34 人	30 人	25 人	24 人	20 人	26 人	26 人	292人

（解説）3月は見込み数

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	13 人	6 人	9 人	12 人	9 人	24 人	8 人	9 人	17 人	4 人	5 人	5 人	121人
うち0 歳児	0 人	2 人	5 人	8 人	2 人	3 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人	1 人	23人

（解説）3月は見込み数

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	2人	用務	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の懸案事項検討 ・行事内容の確認
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・喫食状況 ・アレルギー、離乳食状況共有 ・食育計画
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、自園・他園の事故記録簿に基づき事故再発防止策検討
ケース会議	月1回	・発達の気になる子の支援計画をもとに振り返り、来月の支援計画検討
リーダー会議	月1回	・リーダー層における園の課題抽出と検討
各クラス会議	週1回	1週間の振り返り、次週の計画の見直し。月末は次月の計画検討
各行事会議	随時	各行事企画、行事終了後の省察

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	室内外の衛生状況の確認、および徹底
安全対策係	保育環境の検討、整備、確認
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画及び実施
食品衛生管理係	食材の発注及び品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物の世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配
図書係	園内の図書の管理、必要図書に購入

〈4〉行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	通常開催となり、園児、保護者以外にも卒園児、地域の方がたくさん来園し賑やかなお祭りとなった。来園者が予想以上に多かったため、混雑してしまう面もあったため来年度は改善していきたい。

運動会係	通常開催となり、園児、保護者、職員がひとつになった楽しい行事にすることができた。開園までお待たせしてしまう等の課題点は来年度改善していきたい。
生活発表会係	通常開催となり、たくさんの保護者の方が来園し、みんなで園児の成長を見守る温かい行事となった。兄弟児の保護者の方たちにお待たせしてしまうことがあったため、来年度は改善していきたい。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの入れ替わりが多かったため、基本に立ち返っての保育となる。前半は予想以上に保育の質が保てず苦心したが、後半はスタッフの意識も高まりチームワークも良く安定した保育ができるようになってきた。 ・プロジェクトチームに分かれて課題点を改善していく取り組みを行ったが、プロジェクトによって改善の差が出てしまった。来年度も引き続き、取り組んでいきたい。 ・リスク管理・保育の質・環境と課題が残るため、来年度も引き続き取り組んでいきたい。
保育参加	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計72名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は入園、進級後の不安が少しでもなくなるように6月より面談を開始した。早めに行ったことで、新入園児の保護者の方とも早く信頼関係が築けた。計画としては11月以降に2回目を行いたかったが実行できなかった。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	命をいただいていることを知り、食べ物を大切にすることをそだてる。
	実践結果	子どもたちの前で魚をさばき、食することで命をいただいていることを伝えた。コンポストを一緒につくり、野菜の皮等が肥料になることを伝えた。

		残債も少なくなり、子どもたちも食べられる量を食べるという意識が高まっている。
	次年度方向性	引き続き、命をいただいていることを知る食育や、食べ物を大切にする心が育つ活動を多く取り入れていく。
2	計画・ねらい	自分たちで準備、盛り付け、配膳して食べることができる環境（人的・物的）を整え、意欲的に食事できるようになる。
	実践結果	テーブルを拭く等の準備を積極的に行うようになった。バイキングも意欲的に行うことができた。
	次年度方向性	子どもたちにとってさらに良い環境を作り、意欲的に食事ができるようにしていきたい。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体的に畑仕事に取り組み、栽培→収穫→調理→食べるというサイクルを体験する中で食に関する興味、関心を育てる。
	実践結果	畑・食育のプロジェクトを立ち上げたことで、スタッフの意識が変わり子どもたちが積極的に畑仕事に取り組めるようになった。
	次年度方向性	引き続き、プロジェクトチームのスタッフを中心に子どもたちが主体となって、畑仕事に取り組んでいけるようにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月21日／11月15日に実施
歯科検診	6月8日に実施 保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月30日に園にて三鷹市歯科講習会を実施
流行した感染症	① 10月にインフルエンザ、園児26名・スタッフ4名蔓延し、三鷹市、多摩府中保健所へ報告
発作・痙攣等の対応	無し
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月1日に保育園にてエピペン研修をスタッフ25名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	---

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 0歳児：各年12回/毎月1回第3水曜日 1歳から5歳児：6月21日/11月15日に実施 歯科健診 各年1回/6月8日内科健診
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	【園庭】自分たちで環境に働きかけて遊びが作りだせる環境
	実践結果	環境プロジェクトを立ち上げて計画は立てたが、実行に移すことができなかった。
	次年度方向性	プロジェクトチームを継続し、細かく計画をたてて実行していく。
2	計画・ねらい	【保育室】発達にあわせた遊びこめる環境
	実践結果	乳児クラスは、定期的に子どもの発達にあわせて環境を変えることができた。幼児クラスが同じような環境になってしまい、環境構成を発達に合わせて変更することができなかった。
	次年度方向性	乳児、幼児ともに子どもの発達に合わせて変えられるように時期を予測して話し合い、確実に変更できるようにしていく。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設。
	実践結果	スタッフの意識の差が大きく、日々清掃が行き届いた環境にはできなかった。
	次年度方向性	スタッフの意識が上がるように、きれいな状態を写真で伝えイメージが持てるようにする。また掃除がきちんとできるシステムを構築していく。また、来園者の目線になってチェックし環境が保てるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	丸太	園庭	毎日	異常なし
2	パーテーション	幼児室・乳児室	毎日	異常なし 5/26に解体・撤去
3	台・棚	幼児室・乳児室	毎日	異常なし 5/29に解体・撤去
4	家（枠組み）	幼児室・乳児室	毎日	異常なし 5/30に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災：避難訓練（火災・地震・通報）毎月実施
2	実践結果	防犯：不審者訓練 年2回実施
3	実践結果	事故防止：事故防止委員会を実施（毎月）し、園会議にて全スタッフの共有。ハザードマップの更新。園内研修の実施。
4	実践結果	光化学スモッグ：市内保育園連絡網にて連絡を受けその都度対応。
5	実践結果	SIDS 防止：午睡チェックの徹底。園内研修実施。
6	実践結果	怪我をしない強い身体をつくる：毎日の散歩の距離を日々延ばし、強い身体作りができるようにした。
7	実践結果	情報共有：共有事項は速やかにチャットに流して全スタッフで共有できるようにした。他、各会議にて共有。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

中高生の受け入れは夏休みに職業体験・ボランティアの参加希望があったので受け入れを行った。実習生は学校より依頼のあった学生を受け入れた。両方とも受け入れることによって、スタッフの学びにつながった。来年度も積極的に受け入れていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5～6日	東京こども専門学校	2人	ボランティア実習
2月8～22日	十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科	1人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月24～25日	都立赤羽北高等学校	2人
7月26～27日	都立神代高等学校	1人
7月26～27日	白梅学園高等学校	1人

8月2～3日	佼成学園高等学校	1人
8月7～8日	山脇学園高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	27日 26名	29日 26名	29日 24名	29日 25名	28日 24名	27日 24名	27日 24名	28日 24名	22日 24名	26日 24名	26日 25名	26日 25名
園内研修	27日 26名	29日 26名	29日 24名	29日 25名	28日 24名	27日 24名	27日 24名	28日 24名	22日 24名	26日 24名		

〈2〉外部研修への出席

参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	22日 1名	19日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	22日 1名	19日 1名	18日 1名	21日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉プロジェクトチームに分かれてのスキルアップ(昨年度より継続)

三鷹の課題にあわせた4つにプロジェクトを立ち上げたが、活動面において差異が生じた。

成果としては内部監査プロジェクトの活動により指摘事項1桁にすることができた。また畑活動と食育をつなげるプロジェクトでは、調理職員も朝の畑の日課に加わったことで園児が積極的に畑活動

をすることができた。環境とコンプライアンスのプロジェクトは軌道に乗らずに課題を改善することはできなかった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

誰でも立ち寄りやすい拠点となり、地域に開かれた保育園を目指したがちきんえっぐでの活動を思うように活用できなかった。子育て世代だけでなく地域の方と交流する点においては、一緒にラジオ体操を行い、保育園の行事に参加していただく等の活動が開始できた。来年度はさらに交流を深めていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：あさかぜ公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：消防署、うーおの森、サンドラック、イトーヨーカ堂、さかなやさん、コーナン等
世代間交流	12月19日になんじゃもんじゃ森にラジオ体操や焚火をして交流 1月11日になんじゃもんじゃ森にてどんと焼きを行い交流。
異年齢交流	夏休みに小中高生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は、井口小学校と連絡を取り、発表会のリハーサルを見学に行く等の交流がはかれた。来年度は公開授業にスタッフが参加する等今まで以上に交流を深めていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月11日	井口小学校	2名	地区連絡会（井口小家庭 科室）	職員間交流

10月31日	井口小学校	2名	地区連絡会（井口小家庭 科室）	職員間交流
11月30日	井口小学校 1年生	5歳児 20名 職員2名	学芸会リハーサル（井口 小体育館）	子ども間交流
1月29日	井口小学校	2名	地区連絡会（井口小家庭 科室）	職員間交流
2月28日	井口小学校 1年生	5歳児 20名 職員2名	学校体験（1年生教室）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月のケース会議、クラス会議、園会議で情報を共有しながら、対象児童にあった計画の作成、見直しを行った。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：6名

毎月定期的に行い、発達支援センターの巡回後の支援方法を共有し全スタッフで共通した関わりができるようにした。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

園児の進級先の小学校に申し送りを行い、スムーズの進学できるように連携をとった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25名	32名	56名	287名	139名	73名	317名	47名	29名	70名	99名	70名	1234名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み																									
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計14回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	5名	2名	15名	16名	13名	7名	0名	6名	0名	6名	13名	10名	93名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計13回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2名	2名	2名	4名	14名	8名	0名	4名	0名	6名	20名	10名	72名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置																									
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																									
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：あさかぜ公園にて 以下日程にて実施																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名												

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時30分

自己評価終了時刻：11時30分

自己評価実施者：大久保奏、池田素、望月由紀子、山田理子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察) 今年度も保護者の方にご協力いただき回収率100%にすることができた。利用者調査から抽出される課題点としては、主に以下の3点があげられる。

- ・インクルーシブ保育での子どもたちの成長を伝える。
- ・保護者対応(待ち時間・内容)
- ・環境(保育室の棚・縁側等の清掃)

来年度に向けて全スタッフで改善できるように取り組んでいきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

「報告すべきご意見 0件」

〈1〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：三鷹どろんこ保育園 施設長 山田 理子

2023年度 万博公園どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会の法人理念である自分で考えて行動することを念頭に置いて保育を進めてきました。今年度の保育目標である【はぐくむ種広がれいろとりどり】を目標に様々なことに挑戦してきました。年間を通して1つの事象から、子どもの心の動きを読み取り、職員と保護者で語り合い共有をすることを心掛けてきました。様々な体験をする中で、一人ひとりの感情と向き合い、良さを引き出し、輝きが増すように丁寧に育ててきました。子どものその先を見据えて、自らの力が存分に発揮できるように、人と関わる力や活動を選択する力を重点的に整えていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育について考え、知識を深める
	実践結果	日課のとらえ方や、長距離散歩など、一つずつ意味を掘り下げて、理解してから行うことにより、生き生きと取り組む姿が見られた 子どもの発達や姿を捉えて、保育計画の立案に努めた
	次年度方向性	日課を一つずつ意味がある事を認識し、質を高めていく 発達段階に合わせた保育の展開と子どもの心の動きを捉える
2	計画・ねらい	就学前に身につける、生きる力の基礎となる心情・意欲を育む
	実践結果	自分が大切な存在と感じられるように、一人ひとりと向き合い関わっていった。人との関わり中で、周りの状況や判断する場面では、感情と向き合う時間を持つようにした。相手の気持ちに気づき、折り合いがつけられる姿が見られるようになった
	次年度方向性	他者との共同の中で、自分の気持ちを大切にし、相手の気持ちも大切にできるような場を設ける
3	計画・ねらい	子どもが自発的に関われる環境を子どもと共に作っていく 物的・人的環境を整え、ゾーン保育の充実を図る
	実践結果	子どもたちに必要なものは何かを考えて、興味関心があるもの取り入れ、話し合いを重ねて改善してきた。一つの大きな家と捉えて、人的環境を整えて、意識も変化が見られた
	次年度方向性	物の整理の仕方、見直しのタイミングを考えながら、子どもの好奇心をくすぐるような環境づくりを進めていく

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者に寄り添い、いつでも笑顔で心地良い対応をする
	実践結果	笑顔で傾聴・丁寧な対応を心掛け、支援の仕方をチームで話し合い構築していった。
	次年度方向性	全職員が同じ温度感で対応できるように、丁寧な対応を心掛ける
2	計画・ねらい	子どもの育ちを喜び合えるような場を提供する
	実践結果	子どもの輝く一場面を3分間対応で伝えられるようにした お迎え対応の仕方について、話し合いをして内容の充実を図った その日のうちに活動の速報を作り、育ちを共感できるようにした
	次年度方向性	子どもの育ちを分かち合い、保護者と共感し合えるような掲示物や場を提供していく
3	計画・ねらい	保護者がいつみても気持ちが良い施設にする
	実践結果	子どもたちの探求心を満たす教材や資材が、整理整頓することにより必要な物が明確化した 在庫管理や清掃も意識して行えるようになった
	次年度方向性	必要な物の見極めと、管理のしやすい在庫の量の確立 一人ひとりの意識を高め、清掃しやすい環境の維持

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとって、子育て支援の入口となるような存在を目指す
	実践結果	青空保育、自然食堂、芸術学校、園庭開放などを実践し、地域の子ども同士、子育て家庭同士が繋がる機会を提供した。
	次年度方向性	地域の子ども同士、子育て家庭が繋がる機会を提供し、安心して子育て相談ができる場となれるようにする。
2	計画・ねらい	地域内外との繋がりを深めて、子育て支援拠点としての役割を担う
	実践結果	青空保育でのちきんえっぐ活動の広報、園見学の人たちへのアナウンス、商店街ツアーや実習生との交流を通して、子育て拠点であることを発信していった
	次年度方向性	地域内外との繋がりを深め、子育て拠点の役割を担う

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の基本の再確認、理論と実践の紐付けし、チームの資質向上
	実践結果	各々の保育者としての資質向上を図るために、日々の保育の積み重ねと振り返りを大切に。保育所保育指針の解析し、実際にあったこととの紐づけをして考えられる機会を提供し、チームで考えられるようにした。
	次年度方向性	実践で学んだことを、幼児期の最後までに育てほしい力の10の姿に結びつけて考えられるようにする。課題をチームで抽出して、日々アップデートしていく。
2	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP
	実践結果	一つの事例から、学び合えるような場を提供し、自らの学びをアウトプットし、自己研鑽に努めることができた 全スタッフに目標設定を行い、進捗状況の確認と面談を行った
	次年度方向性	目標設定を一人ひとりに合っているかを確認し、進捗状況を追う 学び合う姿勢を持ち、学んだことはアウトプットしていく
3	計画・ねらい	保育の目線や捉え方について話し合う
	実践結果	園会議の中で、1枚の写真から子どもの育ちを読み取れることを継続して行った。個々の目線や捉え方を学び合った
	次年度方向性	1枚の写真から、更に深く読み取れるように話し合う機会を増やす 保護者にも子どもの育ちを発信していく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環を毎日の畑仕事から感じられるようにする
	実践結果	日々の畑仕事から、収穫、野菜くずからの堆肥作り、種蒔きと体験を通して気づきがあった
	次年度方向性	畑で育てたい野菜を調べ、様々な方法で挑戦する機会を設ける 堆肥づくりにも意欲的に取り組めるようにする
2	計画・ねらい	命をいただく
	実践結果	鮭の解体や、鶏を捌いて命があるものを食べる経験をした 感謝して食べると同時に、生かされていることを学んだ
	次年度方向性	命あるものをいただいていることに感謝の気持ちをもつ いただきますの意味を考える機会を与える
3	計画・ねらい	食材の加工への興味をもつ
	実践結果	旬の食材を長持ちさせる、日本ならではの伝統食への加工を行った 普段食べている調味料へ加工し、原材料の興味が深まった

	次年度方向性	作ってみたい調味料を調べて、加工の過程も考える 伝統食への加工も、様々な方法で試してみる
--	--------	---

〈6〉 チーム保育の強化

1	計画・ねらい	様々な角度から子ども見る視点を磨く
	実践結果	一つの大きな家として、全職員が全ての子どもと関わりを持つことが自然にできた 互いの目線や捉えかたを話し合う機会を設けて、一人ひとりと深く関わる ことができた
	次年度方向性	全職員ですべての子どもを育てる感覚を持ち、子どもたちの心の動きを読み取り会話が弾むようにする
2	計画・ねらい	学び合う姿勢への導き
	実践結果	一つの事例から、経験したかのように互いに学び合うことができた。 理論との紐付けも習慣化できるように導いた
	次年度方向性	学び合うことが、チームとして、園全体でできるように導く
3	計画・ねらい	コンサルテーション能力を高めていく
	実践結果	各リーダーは課題を抽出し、職員に適宜支援・指導をこまめに行った
	次年度方向性	各々が得意分野を活かし、互いに認め合い吸収できる場を設けていく

〈7〉 100 の本物の体験を追う

1	計画・ねらい	子どもたちの挑戦する気持ちを後押しする
	実践結果	職員、保護者は見守り、答えを導き出せるように一緒に考える機会を設けた 保護者と同じ温度感になれるように、速報や口頭でその日のうちに伝えた
	次年度方向性	速報を出す機会を増やし、子どもの育ちを共有する場を設ける 子どもの様子を見極めながら、後押しできるようにする
2	計画・ねらい	旬の野菜の加工方法を学ぶ機会を提供する
	実践結果	旬の野菜を日本ならではの調理方法を子どもたちと加工方法を調べ、作り、食べる楽しさを味わう
	次年度方向性	作る楽しさや、保存して味わう楽しさを知る。 味の変化についても考える機会を与える

3	計画・ねらい	日本ならではの行事に触れる
	実践結果	ならせもちや門松づくりなど、興味が持てるような環境を用意し、実際に体験する中で知識を深めた。
	次年度方向性	伝統行事について、更に深く調べたくなるような環境を用意し、理解を深めていく

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	90人	90人	90人	90人	108人	108人	576人
年度後半： 10~3月	90人	85人	90人	90人	108人	108人	571人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	149 人	140 人	158 人	151 人	143 人	135 人	161 人	140 人	140 人	130 人	126 人	130 人	1603 人
うち0 歳児	1人	2人	2人	12人	5人	8人	11人	11人	16人	7人	8人	10人	93人

（解説）

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	8人	14人	3人	2人	6人	6人	10人	13人	11人	10人	83人
うち0 歳児	0人	0人	7人	7人	3人	2人	6人	6人	9人	13人	10人	10人	73人

（解説）見学者やロコミで一時保育の登録者数が増えた

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	2人		
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・活動の振り返り、共有事項
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食事環境の見直し ・食育目標の当月の振り返り ・給食内容の検討
事故防止委員会	月1回	・事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、再発防止策
ケース会議	月1回	・配慮を要する子どもについての共有と協議
リーダー会議	適宜	・リーダーによる、園全体の検討事項の協議
担任会議	週1回	・質の高い保育を行うために、課題抽出と協議

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長

主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、園全般の管理
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策を行う
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な防火管理業務を実施した
食品衛生管理係	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	サポーターが中心となり、事前準備や当日の役割分担など協力し合い開催することができた。卒園児や地域の人たちも訪れて、関係構築に繋がった。
子育て支援・相談係	子育て支援ちきんえっぐの広報に務め、定期的を開催し交流の場を提供した。子育てに関する相談業務を実施した。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの現状にあった環境を考えて、話し合いを重ねて日々アップデートして、子ども主体的な活動が引き出されているのかを考えていた ・朝の畑仕事や雑巾がけなど丁寧に行う姿が見られるようになってきた
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩では心を動かす散歩の実践で、楽しみながら距離を延ばすことができ、お腹を空かせてからご飯を食べるリズムが確立した ・意見を伝え合い、子どもたちがやりたいことができる環境が用意されて、受け止めてくれる人がいて、心が安定して過ごせていた
保育参加	4～3月まで 合計17名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	空腹感を感じられる子ども、意欲的に食べられる子どもになる
	実践結果	午前中の活動を充実させて、お腹が空いてから食事するリズムが確立した。食に対しても、食べる喜びを感じながら意欲的に食べる子が増えた
	次年度方向性	戸外活動の質と時間の充実と、心も体も満たされる食事時間を過ごせるようにする
2	計画・ねらい	SDGs を視野に入れた食の循環を知る
	実践結果	畑で収穫した野菜を味わう。野菜を育てるためには、堆肥作り、土を改良する。食の循環を、肌で感じる事ができた 鮪の解体、鶏を捌く、命をいただく体験を通して、生かされていることに気づく。いただきますの意味を考える機会となった
	次年度方向性	命をいただく体験を通して、食べ物のおりがたみに気づき感謝の気持ちを持つ
3	計画・ねらい	食への関心を広げる
	実践結果	調理する過程も、器具を使い行うことにより調理する喜びを知ることができた。 行事食や郷土食にも触れる機会があり、伝統文化を知ることが深めていきたい。
	次年度方向性	食への関心を広げるために、食環境を整えていく 様々な食事に触れる機会を作り、食事に彩を添える

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月7日／11月1日に実施
歯科検診	6月12日／11月8日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月1日に5歳児に手洗い指導を実施 ② 12月7日に5歳児に性教育を実施 ③ 2月13日に1歳児に歯磨き指導を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	対象園児なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に自園にてエピペン研修を中島愛織、成澤朱里、計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・7月1日、7月15日に万博公園どろんこ保育園にて救急講習を中島愛織、成澤朱里、計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	職員に感染症発生時の嘔吐処理の仕方やロールプレイを行う。プール使用の塩素の取り扱いの仕方を行う。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月7日、11月1日 歯科健診 各年2回／6月12日、11月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月12日、10月10日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びの幅が広がるような環境設定
	実践結果	子ども目線に立ちながら細かい修正を加えながら、改善していった 子どもの成長とともに、環境も変化していった
	次年度方向性	子どもの目線に立つことを大切にしながら、細かな修正を加えていくこと を継続していく
2	計画・ねらい	子どもたちの活動が継続的に考えられる環境の設定
	実践結果	遊びが継続できる安心感から、遊びが継続し遊びの幅も広がった 続きを考える楽しみも増えて、形を変えながら続いていった
	次年度方向性	続きを楽しむにできる環境を、どのゾーンでも行えるようにする

3	計画・ねらい	子どもたちが安心できる環境を作る
	実践結果	1つの大きな家として、どの空間においても安心できる環境を整えていくために話し合いを重ねた。心の安心基地になるために、何が大切かを考えて丁寧に一人ひとりと向き合った。
	次年度方向性	心の安心基地を作れるように、話し合いを重ねていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	レゴテーブル	幼児保育室	毎日	異常なし
2	配膳台（2台）	幼児保育室	毎日	異常なし
3	一本橋	園庭	毎日	異常なし
4	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし
5	廃材入れ	玄関ホール	毎日	異常なし
6	平均台（2台）	遊戯室	使用前	異常なし
7	かまど	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	（防災）毎月の消防計画に基づき、避難訓練と消火訓練を行った（年12回）消防署との合同訓練では通報訓練を行い、有事の際に慌てずに対応できるように繰り返し訓練している 引き取り訓練・不審者侵入対策では、実際に想定しながら保育者の配置や連携の取り方を確認した
2	実践結果	（けが防止）園会議内にて事故防止委員会を開催し、事項要因の分析・対策防止に努めている。リスク管理表を活用し、傾向と対策を話し合う SIDS に関しては定期的にガイドラインの確認・生存確認についてのテストを行う
3	実践結果	（防犯）不審者訓練、保護者への引き取り訓練を行った つくば中央警察署より、定期的に周囲防犯パトロールを実施していただく
4	実践結果	（光化学スモッグ）今年度発令なし

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、一人ひとりに合わせて具体的にかつ家庭的に援助指導を行った。今年度も筑波大学医学部看護学類からの実習生を受け入れ、養護教諭への様々な視点が持てるように学びの場を提供した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月12～23日	東京子ども専門学校	1人	責任実習
7月3～19日	東京未来大学こども心理学部	1人	責任実習
10月2～13日	筑波大学看護学類	3名	観察実習

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 24名	10日 24名	13日 23名	11日 23名	8日 22名	12日 22名	10日 22名	14日 22名	12日 21名	10日 21名	16日 22名	21日 22名
園内研修	12日 20名	10日 21名	13日 18名	11日 20名	8日 17名	12日 19名	10日 19名	14日 19名	12日 18名	10日 18名	16日 17名	21日 22名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月1日/15日	つくば市中央消防署	普通救命講習	1名	有
8月2日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
11月6日	キャリアコンサルティング	キャリア集合研修	1名	無
12月18日	つくば市子ども部	園外活動見守り講習会	1名	有

2月27日	つくば市教育局学び推進部	幼児保育と小学校教育の連携・接続のための研修	1名	有
-------	--------------	------------------------	----	---

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	16日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	16日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	参加者なし											
デモンクイターシップ	参加者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の商店や官公庁との繋がりを深め、様々な世代と交流を行った。来年度は更に地域に根差した保育園となれるよう、更に密接に連携し機会を増やしていく

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 吉祥公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先: 万博記念公園駅、セブンイレブン、ダイソー、万博交番、トモニー、ジョイフル山新、イーアス、いおり庵、コメリ、スズキ、カスミ、みのぶう動物病院、島名郵便局等

世代間交流	月1回ハッピーアワーズとの交流 園外保育、日常保育の中で積極的に交流する
異年齢交流	日々の生活の中で、異年齢で共に過ごす ちきんえっぐ利用者と積極的に交流する 小学校で授業見学と交流をする
その他活動	7月13日 カスミによる訪問学習（フードロスについて） 10月5日 スポーツトレーナーによるかけっこ教室 11月9日 5園合同収穫祭に参加する 12月5日 中国出身の保護者によりスライドを見ながら話を聞く 12月8日 産院で働いている保護者より、赤ちゃんが生まれる話を聞く

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

香取台小学校が近隣に開校し、以前に比べて身近に感じる事ができた1年でした。積極的に関わるにより、交流の場も増えたように感じます。小学校だけではなく、園での子どもたちの育ちをみてもらうことで、互いを知り理解することに繋がりました。滑らかな接続ができるように、更に深くコミュニケーションが図れるように、継続していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月31日	島名小学校	2名	高山学園保幼小連絡会 （島名小学校）	職員間交流
9月19日	香取台小学校 1年生	3名	授業参観 （香取台小1年生教室）	職員間交流
10月14日	香取台小学校	21名	運動会見学 （香取台校庭）	職員・子ども間交流
11月24日	香取台小学校 2年生	10名	町探検 （園庭）	職員・子ども間交流
11月24日	香取台小学校 1年2組 担任	1名	園見学・交流会について （当園保育室）	職員間交流
12月1日	香取台小学校 1年2組	20名	保幼小交流会 （香取台小教室）	子ども間交流
12月4日	香取台小学校	1名	お礼状をいただく	職員・子ども間交流

	2年生		(当園保育室)	
12月8日	香取台小学校 1年2組	20名	お礼状を届けて、オープンスクール参観 (香取台小教室)	子ども間交流
2月14日	香取台小学校 1年2組	20名	学習発表会参観 (1年2組)	子ども間交流
2月27日	香取台小学校	1名	幼児教育と小学校教育の 連携・接続のための研修 会(香取台小学校)	職員間交流
2月29日	香取台小学校	20名	お礼状を届ける (1年2組)	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・今年度、対象園児なし

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・今年度、対象園児なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8名	20名	19名	18名	19名	14名	2名	6名	4名	0名	6名	8名	124名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み																									
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計11回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	8名	10名	12名	8名	0名	6名	2名	6名	2名	0名	2名	4名	60名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計8回実施済み																									
	参加者延べ人数																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	5名	7名	2名	16名	4名	0名	0名	2名	0名	4名	4名	44名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置																									
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行																									
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：吉祥公園にて 以下日程にて実施																									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	0名	5名	0名	0名	3名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名	12名
	0名	5名	0名	0名	3名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名	12名													

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名 ペリージョンソンホールディングス株式会社に依頼してISO9001:2015を受審済み
 経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：12月1日に実施

(省察) 園審査の結果、指摘事項なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年12月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長及び当日出勤の全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

高い回収率となり、様々なご意見が寄せられた。貴重なご意見に、一つひとつのご意見に、考え改善する機会となった。より良い園運営を目指し、保護者様のご期待に沿えるように精進していく

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：万博公園どろんこ保育園 施設長 田中 恵

2023年度 メリー★ポピンズ 桶川ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

急速な少子化が進む中、メリー★ポピンズ 桶川ルームは桶川駅前という利便性を活かし開園7年目を迎えても尚、園児数は定員に達している。また、一時保育の利用者も年々増加している現状から、今後も高い保育需要が見込まれる。

併設の発達支援つむぎ 桶川ルームと協働でインクルーシブ保育を行ってきた。地域の先駆けとなるよう、外部発信も進めたことで入園希望者、児童発達支援利用希望者も増加している。障害のある、無しに関わらず、子どもたちの力を信じて生きる力、意欲を育み、たくさんの経験のできる保育の場を提供してきた。

さらなる保育内容の充実、質向上に向けて、スタッフの学びを深め、チーム保育を強化していく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力のある子どもを育てる。
	実践結果	どろんこ会グループの日課と基本活動である、散歩9時出発・畑仕事・生き物の世話・長距離散歩を実践し、日常生活・遊び・労働から生きる力を育ててきた。
	次年度方向性	日課の部分を大切に、子どもの生きる力を育む保育を継続していく。
2	計画・ねらい	異年齢・インクルーシブの関わりの中で、他者との協働、感情コントロール、目標の達成を実現できる環境構成をし、見守る。
	実践結果	スタッフもインクルーシブに関わる背中を見せ、共に生活する中で子ども同士の関わりを大切に過ごした。
	次年度方向性	・異年齢での直接体験を通し、1つのことを協働でやり遂げられる機会の提供。 ・子ども同士の関わりを大切に、保育士がすぐに入るのではなく、自分の思いを伝え合い、感情のコントロールが出来るように見守る。
3	計画・ねらい	小学校1年生を知り、逆算した保育を行っていく。
	実践結果	スタッフが小学校の見学に行き、保育の場で実践できる内容を考え、子どもたちに提供した。
	次年度方向性	実際の1年生の様子を見ることで、見通しを持って園生活が送れるようにする。スタッフ、子どもの小学校との交流の機会を増やしていく。
4	計画・ねらい	保護者、来訪者が見て気持ちの良い施設を作り、おもてなしの心を持って最高級の接遇で対応する。

	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の美観を維持し、整理整頓を徹底した。 ・接遇研修を園内で行い、スタッフのスキル向上を図った。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き美観の維持を行う。 ・スタッフ全員の接遇の向上の為、研修機会を増やす。
5	計画・ねらい	地域にインクルーシブ保育を発信し、ちきんえっぐ利用者を増やす。
	実践結果	市内の子育て支援センターにチラシを置いたり、見学者への案内などを強化したりして、ちきんえっぐ利用者に繋げた。
	次年度方向性	インクルーシブ保育についての取り組みを園外に発信していく。相談会などを実施し、地域の保護者の拠り所となる。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者と、子どもの育ちについて協働的に関わる。
	実践結果	家庭での様子をヒアリングしたり、園での様子をお伝えしたりすることで、保護者と子どもの育ちについて関わっていった。
	次年度方向性	保護者に園での取り組みを理解していただき、スタッフと一緒に子どもたちを見守る存在となるよう協力体制を築いていく。
2	計画・ねらい	園と保護者の情報共有の場を積極的に作り、信頼関係を築く。
	実践結果	どろんこサポーターを募り、一緒にどろんこ祭りを行うことで、園と保護者との繋がりを強化した。
	次年度方向性	どろんこサポーターのさらなる活性化を図り、保護者と園が共に子どもを育てていく環境を作る。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流の場、スタッフとのコミュニケーションの場を作る。
	実践結果	保護者同士では、バーベキューを行ったり、休日に遊びに出かけたり等、交流の機会が多く持てた。
	次年度方向性	保護者とスタッフの交流の場がより持てるように、どろんこサポーターの活動を増やしていく。
4	計画・ねらい	発達に関する悩みを気軽にできる場を作る。
	実践結果	子育て相談会を実施し、発達に関する悩みを相談できる場を作った。
	次年度方向性	保護者の心配事や、不安などに寄り添うため、勉強会を開催する。つむぎについて知っていただく機会を作る。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践結果	保育所保育指針を勉強会で読み解き、スタッフ自身が地域における子育て支援の重要性の理解をはかった。
	次年度方向性	全てのスタッフが、自主的に地域とつながる工夫を探し、地域の子育て支援の強化を意識する。
2	計画・ねらい	地域の子育てしている保護者の安らぎの場となる。
	実践結果	ちきえっぐ利用者の強化を図ったことで利用者が増えた。
	次年度方向性	一層の地域向けの公開を進め、相談会等も積極的に開催していく
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携強化
	実践結果	どろんこ祭りで関係各所にも案内を配り挨拶を行ったことで、連携が出来るようになった施設も増え、地域のつながりが増えた。
	次年度方向性	桶川市のボランティア団体等の活動にも積極的に参加し、地域との関わりをより強化していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	どろんこ会グループのマニュアルの徹底
	実践結果	園会議等でロールプレイを繰り返し行い、マニュアルの徹底を行った。
	次年度方向性	全てのスタッフが同じ水準で保育を行うことができるように、引き続きマニュアルの徹底を行う。
2	計画・ねらい	法人の取り組みである、雑巾がけ、座禅、畑仕事等の日課を行うことの理解を深める。
	実践結果	園会議で日課を行う意味を考え、実践できるようにした。デイリープログラム通りに進めることができないこともあったが、都度やり方を話し合い、工夫を重ねた
	次年度方向性	どろんこ会グループが定める日課について理解を深め、スタッフ一人ひとりが自分の言葉で語るができるようになる。
3	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践結果	人の前で発表する機会や、アウトプットする機会を多く設けることで、自分自身の成長に繋げられるようにした。会議の進行等リーダーに任せることで、ファシリテーターができるようにした。回数が少なかったため、会議体によっては、次年度も任せていく。

	次年度方向性	現場での状況を広く見る視野が持てるように、自分のクラスだけでなく全体の状況把握ができるような仕組みを作っていく。
--	--------	--

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	自分で野菜を畑で育て、収穫し、食する経験を通じ、食について考える機会を作った。 梅ジュースを作り、伝統的な食文化に触れる機会を設けた。 食の循環というところまでできなかったため、次年度に繋げていく。
	次年度方向性	畑作業を通して、食について関心が持てるように引き続き取り組みを強化する。また、魚の解体等を通して、食の循環や、命をいただくことについても学べる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践結果	野菜洗いや皮むき等、給食の手伝いをする場面を増やし、食への関心を広げたことで残渣減少に取り組んだ。
	次年度方向性	残渣を減らすことで、環境負荷が減っていくという仕組みを子どもと一緒に考える取り組みを行っていく。
3	計画・ねらい	木や竹、花などに触れる機会を作り木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。
	実践結果	桶川市のボランティア団体と駅前花壇の整備を行ったり、どろんこ祭りで木工遊びを行ったり秩父市から木の玉のボールプールをお借りするなど、木と触れ合う機会を多く作ったことで木育の推進を図った。 全国植樹祭に向けた苗木のスクールステイを行い、森林保護について関心を持つ機会を作った。
	次年度方向性	苗木のスクールステイでは、引き続き苗木の世話をすることで森林保護について関心を持ち、緑を大切に育てる心を育てていく。 また、近隣のボランティア団体等とも積極的に関わり、環境について考える機会を持つ。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践結果	保育園、つむぎのスタッフの垣根を無くし、全てのスタッフが全ての子どもを見守るチーム保育を行った。 要支援児のケース会議では、つむぎスタッフからの助言も得て、その子に必要な支援が行っていただけるよう環境設定を行った。
	次年度方向性	引き続きインクルーシブ保育が推進できるよう、園の保護者にもつむぎについて知っていただく機会を作り、併設園としての保育を行っていく。

利用総人数	11人	9人	12人	8人	25人	14人	15人	16人	8人	8人	16人	17人	157人
うち0歳児	0人	0人	0人	3人	2人	1人	1人	3人	4人	0人	3人	2人	19人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パートスタッフ	保育士	6人	補助	0人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・施設長会議からの報告事項確認
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・給食計画実施内容の確認 ・喫食、残食状況の確認と共有 ・配膳、片付け方についての提案 ・離乳食・未食・アレルギーの確認と共有
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・インシデントの分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ ・ハザードマップの見直し
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・個別計画の振り返りと次月の課題抽出
週会議	週1回	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児、幼児に分かれ、次週の予定確認 ・共有事項の確認 ・活動内容、環境設定について

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い指導 保育者への習慣づけを促し、そこから真似をする子どもたちへの促しを行った。 ・熱中症対策 絵本や紙芝居等を用いて、熱中症に対する意識を持てるようにした。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・避難靴のサイズ確認を定期的に行い、保護者に促した。 ・園内、降園先の危険個所を洗い出し、ハザードマップに追記した。 ・修繕に必要な箇所には、適切に修繕を入れた。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練の実施、消火訓練の実施。 ・訓練前は、ポスター掲示を行い、近隣に周知した。
食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室の衛生管理 ・離乳食児、アレルギー児への対応
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・作物栽培の計画、準備、購入

	・畑での物品購入の発注
絵本係	・保育室の絵本の整理 ・図書館から借りた絵本の管理と返却
備品係	・消耗品、保育材料等の管理、発注
写真係	・写真販売の写真の整理と確認 ・月別、クラス別の写真ホルダーの作成

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	併設のつむぎと一緒に企画準備から行った。近隣の施設や店舗にチラシやポスターを設置、マインさんの協力も得てたくさん告知していただいたので、地域の方の参加も多く大盛況だった。今年度は、桶川みどりの会の木工遊びコーナーや、秩父市から借りた木のボールプールなどを設置し、木との触れ合いを楽しめるコーナーを作り、木育の推進も行った。
運動会係	ことぶき広場をお借りしての開催予定だったが、天候不良の為、園内での開催とした。 慣れている園内で行ったことで、子どもたちののびのびとした姿を見せることが出来た。
生活発表会係	子どもたちの成長の様子を見ていただけるように、園内での開催とした。各クラスの出番以外にも、製作を自由に見ていただける部屋を作り、成長を感じていただける機会とした。
入園式・卒園式係	入園式は、天気が良かったので園庭で開催した。広々とした空間で行えたことで、子どもたちも落ち着いていて保護者様にも好評だった。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園での保育の様子を伝える為、お迎えボードを玄関に設置し、一日の様子を伝えられるようにした。また、持ち物や連絡事項もお伝えできるようにした。 ・連絡帳やタイムライン、お迎え対応時などに、丁寧にお伝えした。
----	---

保育参加	4～3月まで 合計18名 が参加済み (3月1日時点) ・保育の様子がいつでも見られるように、玄関にカレンダーを設置し、常時公開を行った。年度末などは利用が多く、アンケートでも好評を得た。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・発達に関する相談、園での様子や、友達との関わりに関して相談があった。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・意欲的に食べる子どもが増えるよう、食への関心を広げる。
	実践結果	・十分に遊び、身体を動かし、自然とお腹の空く環境を作った。 ・生活の中で、玉ねぎの皮をむいたり、野菜洗いしたり、食事作りや準備に関わった。 ・畑仕事から、食への興味を広げることが出来た。
	次年度方向性	野菜洗いや、皮むきなど給食への関わりを増やし、興味関心を広げていく。献立等を表示しておくことで、その日に自分が口にする物の栄養素などにも興味を広げていけるようにしたい。
2	計画・ねらい	・保育士、栄養士、全てのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う。
	実践結果	園内研修で、口腔発達について学び、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わえるようにした。 発達に応じて食形態を変化し、柔軟に対応することが出来た。
	次年度方向性	STのスタッフなどにも協力いただき、発達の観点からみた口腔機能等の学びの機会をスタッフに提供する機会を設けていく。
3	計画・ねらい	・自然の恵み、命の大切さに気付く。
	実践結果	畑で育てた野菜を収穫して食したり、梅ジュース作りなどを行ったりした。 しらすのパックを広げて、小さな海の生き物を探し、海の生き物について興味を持てるようにした。
	次年度方向性	自分たちで育てた作物の調理を調理する機会を多く作っていく。また、魚の解体や、鶏の解体等、大人が子供に対して学びの場を提供していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月21日／11月22日に実施
歯科検診	6月23日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月21日に保育室にて手洗い指導を実施 ② 7月21日に会場にて熱中症対策を実施 ③ 1月に5歳児対象に性教育を実施
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	対象なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に幼児室にて研修を須藤裕太、小室純子、計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、23名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・スタッフ向けに救急救命講習を年2回行い、本日時点で、在籍スタッフ19名のうち、19名が使用可能 (AEDは、隣接の歯科医と商業施設内にあり)
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する ・性教育 ・救急救命講習

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月21日、11月22日 歯科健診 各年1回／6月23日、
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月日、10月日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理・整頓を意識し、必要なものを以外置かない気持ちの良い空間を作る。
	実践結果	掃除の仕組み作り、声を掛ける担当などを決めて、整理整頓された環境が維持できるようにした。
	次年度方向性	内部監査における指摘事項の是正を中心に、仕組み作りを再構築し、施設全体で取り組んでいく。
2	計画・ねらい	子どもが自発的に興味、関心のあるものに取り組み、自ら学び挑戦し続けられるような環境設定を行う。
	実践結果	つむぎと協働して保育室の室内環境づくりに取り組んだ。
	次年度方向性	玩具に関しては充実してきたが、活動の動線に関してはまだ改善の余地がある。子どもの動線、スタッフの動線を考えた環境設定に取り組んでいく。

3	計画・ねらい	ホンモノに触れる機会を作る。
	実践結果	クラリネットやフルートなどのホンモノの楽器に触れたり、木で作った玩具に触れたり、ホンモノに触れる機会を作った。
	次年度方向性	併設のつむぎと合同での活動をさらに充実させ、桶川ルーム全体で戸外活動の選択の幅を広げていくことを目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具 なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	園における事故に関する安全管理危機管理マニュアルを設置し、全ての職員は各自内容を読み込み理解して、マニュアルに基づいた運営管理を行った。
2	実践結果	事故発生時における危機管理マニュアルを設置し、全ての職員は各自内容を読み込み理解して、マニュアルに基づいた運営管理を行った。
3	実践結果	職員は応急処置に関する基本的な知識を持ち、事故発生時には適切な連携を取った。 職員全員が万が一の事故発生時、被害者に対し誠実に対応する心構えを持った。外部的要因による事故に関する安全管理・職員の共通理解と施設内の体制の確保を行った。 施設外の活動における安全確認や不審者等の情報がある場合の連携体制の確認を行った。
4	実践結果	防火管理者を選任し、所轄の消防署へ遅滞なく届出た。消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を作成し、消防計画の内容を周知、実施した。 避難、消火、通報訓練は、法令、通達で定められた回数実施した。 避難器具や消火器を適正な場所に設置し消防設備等の自主点検を行った。
5	実践結果	夏場は、環境省と県から発令される熱中症警戒アラートに従い、戸外活動の制限や、日陰で過ごせるよう配慮した。
6	実践結果	光化学スモッグでは、桶川市からの情報を素早く職員に周知し、園外にいる場合は素早く日陰に入り園に戻るなどの対応を取り、子どもたちの健康状態に留意した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は、実習生7名、ボランティア等1名の受け入れを行い、事業計画に記載した受け入れ方針に基づいて実習指導を実施した。つむぎとの併設園ならではのインクルーシブ保育についても学びの

場を提供することが出来た。

一方で、中高生の受け入れに関しては0名だった為、次年度以降は地域の学校等とも連携を取り、積極的な受け入れを目指していく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月24日～ 28日	大宮こども専門学校	2人	観察実習
8月3日～ 21日	越谷保育専門学校	1人	保育体験
9月1日～22日	星美学園短期大学	1人	責任実習
2月5日～ 19日	埼玉福祉保育医療製菓調理 専門学校	2人	観察実習
2月13日～ 27日	大宮こども専門学校	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 18名	12日 18名	9日 18名	14日 19名	18日 19名	8日 20名	13日 20名	10日 20名	8日 20名	12日 19名	21日 19名	3日 19名
保育実践研修	14日 18名	12日 18名	9日 18名	14日 19名	18日 19名	8日 20名	13日 20名	10日 20名	8日 20名	12日 19名	21日 19名	3日 19名

〈2〉外部研修への出席

今年度なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	今年度出席なし											
デモンマクインターンシップ	参加者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域との交流の中で子どもたちを育てる為、桶川市のボランティア団体の方たちと駅前花壇の整備を行ったり、どろんこまつりでは、木工体験の指導にいらしていただいたり、地域の方との触れ合う機会を多く持つことが出来た。次年度も今年度の関わりをさらに発展させていきたい。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 駅西口公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先: フローラルいけだ、ヨークマート、マルエツ、東武ストア、JA、駅西口公園、郵便局、交番等
世代間交流	10月3日に幼児室にて敬老会を実施
異年齢交流	7月4日に幼児室にて桶川西高校水族館を実施
その他活動	5月16日に駅前花壇にて花壇整備を実施

保育園交流	7月21日にカオルキッズランド保育園2歳児17名と園庭遊びを実施
-------	----------------------------------

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

スタッフの小学1年生の授業見学や、子どもの小学校訪問等、交流の機会を持つことが出来た。小学生の姿から逆算した保育を行っていくため、次年度も学ぶ機会を増やしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月5日	桶川西小学校 1年生	4名	1年生教室	スタッフ間交流
2月28日	桶川西小学校	12名	学校探検	小学校を知る
2月29日	桶川小学校	12名	授業参観	小学校を知る
2月29日	桶川市内小学校	2名	連絡協議会(桶川市役所)	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画作成の対象者は1名。10月より3名。支援計画作成後は、月に1回振り返りのケース会議を行った。主任、担任の他、つむぎスタッフも加わり、専門的な視点からも意見を出して会議を行うことが出来た。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：5名

毎月月末に、ケース会議を開催。つむぎスタッフも参加し、発達を促すことができる支援計画を立てていった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

要支援児への援助内容や支援内容などは、スタッフ全員で周知し、継続的な支援が行っていただけるように配慮した。また、全てのスタッフが同じように支援できる体制を作った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26名	26名	40名	485名	61名	98名	43名	80名	51名	63名	38名	60名	1071名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：駅西口公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	12名	14名	0名	2名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	6名	38名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：千葉彩華、軽部瑛子、村田千恵美、

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

普段あまり話をする機会の少ない保護者の方や、祖父母の方々にもアンケートにご協力していただき、回収率が100%を上回ることができた。子どもを中心に、園のより良い運営のため、また利用者の方の思いも受け止める為に今後活かしていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ(事故含む) 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：保育園 施設長 千葉 彩華

2023年度 北千住どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

- (1) 北千住どろんこ保育園では「にんげん力。育てます。」という法人の子育て理念に基づき、保育を展開してきた。

生涯にわたって意欲をもち、逆境にも耐えうる力を身につけ人生を歩んでほしいという思いの下、指示、命令を子どもに行うのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い見守り、大人が背中を見せて、自分で選び自分で決める経験の積み重ねができる保育を行ってきた。また北千住どろんこ保育園は発達支援つむぎ北千住ルームと併設されているため、併設されている環境を最大限に活かしながら、子どもも職員も保育園、つむぎということに左右されず、子どもを中心に置き、どの職員でも対応しかかわっていただける保育を目指し、そのために必要な環境構成や人員配置の徹底した仕組みづくりを考えた。課内の保育園やメリー★ポピンズ北千住ルームと連携を図り、職員同士の意見交換や勉強会の中で、お互いに学びあい保育の質の向上を目指して保育を行うことができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	丁寧なかかわり、美しい日本語を話せる職員集団を目指す。
	実践結果	子どもに対してきちんとした日本語で話をすることやきれいな言葉づかいで保育を行うことはおおむね達成したと感じる一方で、自分の思う動きに近づけてしまうようなかかわりが見られることもあった。 都度注意したり、園会議の議題にあげたりして議論しあうことで職員がみな穏やかで丁寧な保育ができるようになったと感じる。 人権について学びを深め、より丁寧な対応とはどんなことなのかを振り返る機会を設けた。
	次年度方向性	次年度も引き続き、丁寧な保育を行っていく。言葉遣いは特に気を付けて子どもの鏡になることを意識した保育を展開していく。
2	計画・ねらい	虐待の定義について学び、子どもが伸び伸びと過ごせる保育を展開する。
	実践結果	園内研修を定期的に行った。また、法人内で行っている人権チェックとは別に人権チェックを個人で行うシートを用いてどんな際にどのような対応が虐待につながるのかを学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	人権については自分を見つめ直すという観点から定期的に行っていく。
3	計画・ねらい	保育者・職員は常に温かくポジティブな養育を目指し、共感力を身につける。
	実践結果	子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底した。そのようなこころもちでいられないような姿が見られた際にはしっかりと指導してきた。全体的に丁寧に子どもにかかわることはできており、

		大きな声で指導する保育は行われていない。
	次年度方向性	さらに職員一人一人が自覚をもって意識して行っていく。特に新しく園に来る職員にはしっかりと徹底できるように周りの職員も指導に当たれるようにする。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	最高の子育てパートナーとなる。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置いた保護者支援を目指す。
	実践結果	子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をし、保護者の方に、元気や希望がわいてくるような最高のお迎え対応を目指してきた。また、お迎え伝達の環境も整え、ゆっくりと座って待っていただけるような環境作りも行った。
	次年度方向性	引き続き、保護者との時間は和やかで、ホッと安心できるような取り組みをしていく。
2	計画・ねらい	どろんこサポーターズや、おやじの会の活動の場をつくり、保護者同士がつながりを持てるような活動をする。
	実践結果	どろんこサポーターの方々から厚いご協力をいただき、園庭改造など、積極的にご協力いただくことができた。特に築山を改造する際には父が音頭を取ってくださり、立派な築山ができた。
	次年度方向性	いろいろな場面でご協力いただけるような取り組みを活発に行っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践結果	子育て支援事業としての定期的な取り組みを行い、年4回地域の保護者やお子様向けにイベントを開催した。
	次年度方向性	補助金等を最大限に利用し、地域の方々と繋がれる場を作っていく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐという場を知っていただき、気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践結果	ヤギの餌やり、園庭解放が人気で定期的に園へ足を運んでいただくことができた。
	次年度方向性	引き続き園に気軽に来ていただけるようにPRしていく。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせるような場として「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。

	実践結果	子育て相談、保育園体験、寺親屋の開催を行った。
	次年度方向性	同じ年頃のお子様がいるご家庭を繋げていくことができるようにしていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもにかかわる全ての職員が丁寧な保育を実践できる職員を育成する。
	実践結果	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら全員が丁寧な保育を実践した。
	次年度方向性	さらにコンテンツが増えたので、しっかり学べる機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践結果	子どもに丁寧にかかわることは定着してきた。
	次年度方向性	さらに新しい職員にもそのような対応ができるよう、人権については学び続ける
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育を学ぶ。
	実践結果	毎日の振り返り、定期的に行われる園会議において話をする機会を作り、常に何がいいのかを模索してきた。 職員の意識が壁をなくすというところに向くことができるようになった。
	次年度方向性	常に追求し続けることが大事で、追求し続けたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生きる力をはぐくむために今行うべきことは何かを考え、そのために整えるべき環境は何かを考えられる職員集団となる。
	実践結果	園児が自己選択すべきことは何かをディスカッションし、そのために必要な環境とは何かを考え続けてきた。
	次年度方向性	大人の生活力の低下により、思うような結果にならなかった。まず大人の生活力の向上も同時に取り組んでいく必要があると考える。
2	計画・ねらい	園スタッフ自身のにんげん力を育てる。子どもたちのにんげん力をはぐくむためには大人のにんげん力(人的環境)が大切であることを学ぶ。
	実践結果	日課については1年を通して取り組んできた。公開保育や、他園研修に行き、今自園でできることは何かを追求し、アクションプランを立てて実践したことで、しっかりと日課がなんであるかを理解し、取り組むことができた。

	次年度方向性	法人が大事にしている日課がさらに良い取り組みになるように保護者にもご協力いただきながら進めていく必要がある。
3	計画・ねらい	食の循環についての意識を高める。
	実践結果	今年度も鶏の解体を行った。子どもたちは命の大切さをしっかりと実感し、命をいただき生きているということを実感することができた。
	次年度方向性	運営本部 mission にもなっているので、引き続き次年度も行っていきたい。

〈6〉 真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践結果	発達の早い子も、緩やかな子も、その子の豊かな生活とは何であるかを職員が話し合い道を見つけていく取り組みをした。大人も子どもも壁をなくすという簡単なようで難しいことに本気で取り組んだ1年であった。互いに相手を思いやりながら取り組むことができるようになった。
	次年度方向性	とにかく、子どもの成長発達をしっかりと捉え、一人一人にあった保育や支援を行っていける余剰にする。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切に作る園づくりをする。
	実践結果	保育園、つむぎという枠を取り払い、園児をつむぎ職員が対応する、見守る、保育園職員がつむぎ利用児の対応をする、見守ることを実践してきた。またそのかわりについて共有を密に行い全職員が一人一人の把握ができ、一緒に丁寧な対応ができるようになってきている。
	次年度方向性	さらなる併設園としての取り組みを見据え、向上するために学びや考えをしっかりと持ちながら保育、支援を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	37人	72人	78人	95人	120人	120人	522人
年度後半： 10~3月	42人	72人	78人	102人	120人	120人	534人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	27人	27人	30人	26人	21人	27人	22人	26人	22人	21人	30人	30人	358人
うち0歳児	1人	1人	2人	2人	2人	2人	2人	4人	2人	2人	2人	2人	24人

一時保育利用状況

未実施施設のためなし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	バス運転手	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	1人						

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・当月の行動計画の成果発表 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘 事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／ 全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・イン

		シデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
週会議	週1回	1週間の予定確認・情報共有
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。

食品衛生管理係	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめ ・大勢の方々にご来場いただき、400人に上るご来場者があり大盛況に終わった。
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめ ・今年度は常東小学校をお借りしての開催だった。成長を感じていただける取り組みができ、保護者の方々から大変感動したとの感想もいただくことができた。
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめ ・運動会からのさらなる成長をということで、日常の子どもの様子をまとめ、のびのびと参加する様子を見ていただくことができた。こちらも子どもの成長が感じられたというご意見をたくさんいただくことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	特になし
保育参加	4～3月まで 合計15名 が参加済み (3月15日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月15日時点)

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	友だちや身近な大人と親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる
	実践結果	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをし、楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をしながら実施することができた。
	次年度方向性	午前めいっぱい使い園外で活動した後で給食に流れていけるような取り組みを考えていく。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践結果	コンポストづくりを行い、土にかえたものを使って畑活動をすることができた。日課の中で子どもたちが取り組むことができ、より身近なものになった。
	次年度方向性	もっとヤギ糞やチモシーなども入れ、コンポスト入れ物の横に穴をあけて空気を入れ、土に循環するスピードを上げていく必要がある。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月25日／10月26日に実施
歯科検診	7月5日に自園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 8月23日・9月7日に自園会場にて手洗い指導を実施 ② 12月6日に自園会場にて歯磨き指導を実施 ③ 12月6日に自園会場にて鼻のかみ方指導を実施
流行した感染症	① 5月にRSウイルス1名感染報告あり ② 6月にプール熱1名感染報告あり、新型コロナウイルス1名感染し足立区へ報告 ③ 7月にインフルエンザA型1名感染し足立区へ報告、RSウイルス感染症5名、ヘルパンギーナ1名感染報告あり ④ 8月にプール熱2名、感染性胃腸炎1名感染報告あり、新型コロナウイルス2名感染し足立区へ報告 ⑤ 9月～10月にプール熱17名、流行性角結膜炎3名蔓延し、10月10日に終息 ⑥ 10月に溶連菌2名感染報告あり、インフルエンザA型1名感染し足立区へ報告

	<p>⑦ 11月にインフルエンザA型2名感染し足立区へ報告、流行性耳下腺炎1名感染報告あり</p> <p>⑧ 11月～1月に手足口病12名蔓延し1月15日に終息、溶連菌感染症17名(スタッフ3名)蔓延し1月11日に終息</p> <p>⑨ 12月にインフルエンザA型園児10名(スタッフ4名)蔓延し、足立区へ報告、</p> <p>⑩ 1月にインフルエンザA型4名、B型2名、新型コロナウイルス1名、感染し足立区へ報告、溶連菌感染症1名感染報告あり</p>
発作・痙攣等の対応	対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<p>・3月23日に自園会場にてエピペン研修を野田尚子、野村実久、箕輪真美、計3名が新たに受講し習得済み</p> <p>・本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、22名が使用可能</p>
AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	<p>・4月15日に自園会場にて普通救命講習を青木雅美、鈴木愛子、野村実久、箕輪真美、西田奈央、宮澤叙栄、金子仁美、羽部由美、櫻井仮奈子、袴田明世、土屋璃歩、大貫琴美、古橋茜、小川桃佳、佐藤優実、佐野亜美、7月30日に草加松原どろんこ保育園にて普通救命講習を佐藤彩乃、8月6日に自園会場にて普通救命講習を丸島雅子、野田尚子、計19名が新たに受講し習得済み</p> <p>・本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、21名が使用可能</p>
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導を行い、保育中もこまめに手洗いをするよう徹底した。消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／5月15日、10月18日 歯科健診 各年1回／7月3日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。
	実践結果	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有し実践した。
	次年度方向性	環境はその都度考え変えていく必要があるため、定期的に見直すことが必要である。
2	計画・ねらい	年に2回、全職員で話し合いをし、必要だと思う玩具の6月、12月に玩具の補充をする。
	実践結果	人的環境・物的環境について勉強会で学ぶ。園会議の中で定期的に講義や、ディスカッションを行ってきた。
	次年度方向性	今何が必要かは普段の保育からくみ取れないといけないので、日ごろの子どもとのとらえ方を向上させる必要がある。
3	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践結果	みんなで学びあう時間をあまり持てなかった。視聴する時間が持てなかった。
	次年度方向性	あまり職員の視聴時間を確保することができなかった。園会議等で宿題にし、ディスカッションするような取り組みをした方が良いと思う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	テーブル	園庭	12月まで毎日	異常なし
2	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
3	ブランコ	園庭	毎日	異常なし

※テーブルは12月に撤去済み

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策（P.12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P.14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、怪我発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P.20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P.21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行った。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導した。

実習生に関しては保育が楽しいと思える保育実習の場を提供し、自分が思い描く保育士像に希望が持てる体験を実践することを心掛けた。また、実習を終えて、より具体的に保育士として働くイメージをもって、どろんこ会で働きたいと思える実習生を増やせるよう丁寧に対応した。結果、自演において実習をした2名がどろんこ会に就職。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
5/15~5/25	道灌山学園保育福祉専門学校	1名	保育実習Ⅱ
6/19~7/1	日本児童教育専門学校	1名	保育実習Ⅱ
7/5・7/6	東京こども専門学校	2名	ボランティア実習
8/14~8/28	日本児童教育専門学校	1名	保育実習Ⅰ
8/28~9/9	日本児童教育専門学校	1名	保育実習Ⅱ
8/28~9/9	実践女子大学	1名	保育実習Ⅱ
9/13~9/28	日本児童教育専門学校	1名	保育実習Ⅱ
10/16~10/27	小田原短期大学	1名	観察実習
10/17・10/19	日本児童教育専門学校	1名	観察実習
2/1~2/16	十文字学園女子大学	2名	保育実習Ⅰ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
4月22日	女子聖学院高等学校	1人
4月24日・25日	大妻高等学校	1人
5月15日・29日	女子聖学院高等学校	2人
6月1日、2日、8日、9日	足立学園中学校	2人
7月27日	女子聖学院高等学校	1人
7月31日、8月7日	大妻高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ	28日	26日	30日	28日	25日	22日	27日	24日	22日	26日	22日	22日

一自己採点	25名	24名										
園内研修	28日 25名	26日 25名	30日 25名	28日 25名	25日 25名	22日 25名	27日 25名	24日 25名	22日 25名	26日 25名	22日 25名	22日 25名

〈2〉外部研修への出席

キャリアアップ研修に参加

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に園外に出かけたり、招待したりしながら近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、地域に愛されるよう計画し実践してきた。またそれにより、つながりをより深めることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:千住旭公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:杉本青果店、フラワーショップアオキ、八百屋昇鈴、荻野青果店、亀井畳内装、千住消防署、平井フルーツ、青山フラワーマ

	ーケット、千住神社、北千住郵便局 等
世代間交流	8月8日に自園にてなわとび作り、給食交流を実施
異年齢交流	7月27日に自園にて小学校を知ろう、給食交流を実施
その他活動	10月12日 絵本の読み聞かせと選び方講座 11月17日 音楽遊び講座～初めて触れる音楽～ 1月19日 玉ねぎ染め講座 2月26日 離乳食講座 を実施 毎日園庭開放実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

足立区接続期カリキュラムをもとに、北千住どろんこ保育園アプローチカリキュラムを作成し、小学校へのスムーズな移行ができるように小学校との連携を図りながら取り組めるよう努めた。幼保連携協議会などで千住地区内の幼保による情報交換や、地域の情報なども収集し、より具体的な取り組みを行うことができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月18日	千寿小学校	1名	幼保小連携会議	協議会
7月11日	千寿常東小学校	3名	職員間交流研修	見学・
11月16日	千寿常東小学校	8名	展覧会见学	見学
1月	千寿常東小学校	3名予定	幼保小連携会議	協議会
2月20日	千寿常東小学校	20名	給食交流会	参加・交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：25名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

併設園の特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
116名	178名	139名	208名	168名	692名	1070名	741名	767名	713名	1085名	750名	6627名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計8件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	2名	4名	4名	4名	0名	8名	0名	0名	0名	8名	40名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	4名	2名	50名	6名	10名	10名	4名	0名	0名	4名	90名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：千住旭公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	16名	15名	15名	10名	11名	20名	10名	15名	20名	20名	18名	20名	210名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：宮澤叙栄・金子仁美・佐藤彩乃・大貫琴美・鈴木藍子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

・園へのご理解をいただき、概ねご満足いただけている数値だった。その中で、不満足、改善してほしいというような満足度の低い方もおられることをしっかりと肝に銘じ、お子様最優先で園運営にあたることが大切であると思う。

保護者の方へは日ごろからコミュニケーションを密に取りながら、安心してお子様をお預けいただく基盤づくりを引き続き行っていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 一宮どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

恵まれた環境を活かしながら、保護者や地域を巻き込んだ自園の田んぼでの米づくりから収穫までの体験を毎年繰り返してきました。成長の様子に関心を持って草取りなど行うようになり今後につなげていきたいです。園庭で思いっきり体を動かすこと長距離散歩などを通してケガをしない体づくりを目指して、体のバランスできてきたように感じています。今後も安心、安全を目指して職員全員危機意識の向上努めて参ります。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育士、栄養士、看護師、事務員、用務員などすべてのスタッフがそれぞれの専門知識と技術のスキルを磨き、常に自己目標に向かって研修などを利用して勉強に励む
	実践結果	各自目標設定して半年に一度振り返りをして足りないところなど考えていき実行に移すことができた。
	次年度方向性	今年やってみて足りないと思ったことを出し合って新たに目標を立てていく
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して子どもの心に寄り添い、見通しを持って物的、人的環境を整え、計画的に保育を実践する
	実践結果	子どもたちの声を聴きながら、環境を考えてお互いに声に出していくようにした
	次年度方向性	いろいろなことを詳しく勉強して話し合いを多く持っていく
3	計画・ねらい	子どもの主体性を伸ばすために、子ども同士で生じた課題は子ども同士で解決できるように話し合うことを普段から行い日常の姿としていく
	実践結果	声に出して子どもたちのすがたを伝えて共有していくようにした
	次年度方向性	今後も続けていく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大切な子どもを預ける不安をしっかりと把握し、安心して仕事ができるように日々の様子をスタッフ全員が共有出来るようにしていく
	実践結果	子どもたちの成長を保護者さんと共有していけるように伝えていった

	次年度方向性	とても大事なことなので今後も継続していく
2	計画・ねらい	保育園は【いつ誰もが来ても良い所】だと地域の方々に浸透させていく
	実践結果	昨年度に比べて地域の方々が参加してくれることが増えて、保育園に興味を示してくれる人増えた
	次年度方向性	園の様子を今後もいろいろな場面で発信していく
3	計画・ねらい	年2回予定の保護者懇談会において、保護者に日々の子どもの姿を伝えると同時に保護者間の交流を深めていく
	実践結果	年々参加してくださる保護者さんが増加している
	次年度方向性	参加して一つでも役立つ情報を伝えて満足いく会にしてい

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての悩みや不安に対する相談や親子で遊ぶ機会の提供などを多く持ち、地域の中での子育て機能を明確にして、対象となる人々の拠点となる
	実践結果	一宮だけでなく近隣の方、都内の方などが来園されることが増えた
	次年度方向性	発信をしてネットワークを広げていく
2	計画・ねらい	保育園は【いつ来てもいい所】として、地域に浸透させていく
	実践結果	青空保育などで交流を図りながら来園してくださる方が増えた
	次年度方向性	来園した方に保育園の理念等を話して共感してまた来園したいと思ってもらえるようにしたい
3	計画・ねらい	地域の集まりや行事に参加しながら交流を深めていく
	実践結果	新型コロナウイルスの関係で前半は参加が難しい状態でしたが、後半はさんかができて交流ができてきた
	次年度方向性	地域に密着した保育園を目指しているので行動範囲を拡大していく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	それぞれが自発的に学び、話し合いを繰り返すことで、共有する機会を増やし、学び合い、支え合う保育者集団をつくる
---	--------	--

	実践結果	他の園を見学する機会を持ちたかったのですが今年度は数人しかできずに終わってしまった。
	次年度方向性	自園だけでなくほかの園に行く機会を増やしいろいろな環境に触れて自分を見直す機会を持つ
2	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションを高めていきながらお互いの思いを共有できる様な話し合いの場を多く持つ
	実践結果	コミュニケーションはとても大事なものでいつも心がけて行っていた
	次年度方向性	今後どうして大事なのかを話し合いながら続けていく
3	計画・ねらい	ダメと言わない保育・自己肯定できる保育を日々考えながら実践をすることで、子どもが自ら主体的に活動し、自発的に生活できるように援助できるスタッフ育成をする
	実践結果	悩んだら確認しながら行っている
	次年度方向性	子どもたちにもとても大切なことなので話し合いながら継続していく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園庭に木が多くあると同時に落葉が多くあり園庭のはじめに穴を作りそこに入れて肥料づくりをしているので、子どもたちに声をかけて園全体で取り組む
	実践結果	自分たちでできることを話し合いながら保育者と一緒に行っていた
	次年度方向性	環境を生かしてできることを確認して継続していく
2	計画・ねらい	稲づくりをしていて藁の活用を増やしていく
	実践結果	藁を最後まで利用していくことができた
	次年度方向性	今の利用方法に新しく考えて対応していくようにする

〈6〉食の大切さを知る

1	計画・ねらい	年間を通して野菜や植物の成長に関わり、収穫や食育活動等で、健康な体を作ることや生命の大切さを理解できるようになる
	実践結果	失敗を恐れずいろいろなことに挑戦してきた
	次年度方向性	失敗の原因を調査して次へと繋げていく

2	計画・ねらい	食べたいものを食べたい人と食べただけ食べる経験をもとに食への関心を持たせていく
	実践結果	職員全員と一緒に食事をとることで食に興味関心ができた、バイキングをする事で自分の食べる量などを把握できた
	次年度方向性	このまま継続しながら楽しい時間になり、不得意のものが食べられるようになる
3	計画・ねらい	園庭にある広い畑での四季折々の野菜づくり・コメづくり・芋掘りを経験させ、また火起こし体験も行い・焼き芋・ピザづくりなど食の循環・工程を知り、食べることの楽しさ、作ることの楽しさ感謝の心を育ませる
	実践結果	いろいろなことを経験することでできることが増え楽しみにする子が増えてきた
	次年度方向性	これからもたくさんのことを行い新しい発見をする

〈7〉 大きな家の中で、全年齢の子どもたちが自由に行き来する保育園

1	計画・ねらい	子ども、保護者、スタッフが三位一体となり保育ができる保育園
	実践結果	どこへ行くのにも抵抗感がなくなってきた
	次年度方向性	いろいろな場所があることで目的を持って楽しみに登園できるようにする
2	計画・ねらい	異年齢の子どもたちが広い園舎・園庭を自由に行き来し、様々な友達と関わり合い、お互いに手を差し伸べたりしながら、子どもたち、職員の笑顔がいっぱいの保育園にしていく
	実践結果	お互いに行き来できている
	次年度方向性	興味のある環境にしていく

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	18人	148人	119人	147人	202人	216人	850人
年度後半： 10~3月	48人	150人	126人	150人	204人	221人	899人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	55 人	53 人	25 人	94 人	84 人	25 人	92 人	95 人	100 人	85 人	91 人	91 人	890 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人								

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	1 人	1 人	9 人	3 人	3 人	8 人	16 人	19 人	20 人	6 人	2 人	2 人	88 人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	4 人	3 人	4 人	1 人	1 人	1 人	16 人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	2人	調理	1人	用務	1人		

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の振り返り、こどもの姿の共有、保育の質の振り返り、 園内研修

給食運営会議	月1回	アレルギーの確認、食育活動、食に関する内容の確認
事故防止委員会	週1回	事故、ヒヤリハット、インシデントの検証、見直し
ケース会議	月1回	配慮を必要とする子どもの姿の共有
リーダー会議	週1回	各クラスの問題点、保育内容について
クラス会議	その都度	保育内容、環境、問題点

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年5回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	實方

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生管理係	食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間を通しての企画、種、苗の購入
生き物係	世話をしながら命の大切さを知らせていく

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と連携して一緒に行う

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で混じり合っ遊びを楽しむ ・身の回りのことなど自分でできることは自分でする ・食べることを楽しむ
保育参加	4～3月まで 合計41名 が参加済み (3月15日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計36名 が参加済み (3月31日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもたちと一緒に食事をしながら、表現や仕草などを見て健康状態を確認する
	実践結果	一緒に食事をする事で楽しんでいたのと、子どもの様子も細かく見られた
	次年度方向性	今年度と同様継続していく
2	計画・ねらい	子どもたちが参加する食育活動に力を入れながら、命ある素材が食べ物になることを知らせる。畑で野菜を栽培することで、食の工程や循環を知り旬の食材にも気が付きながら食に興味関心をもって関わりを深めていく
	実践結果	いろいろな経験することで興味関心を持つ子が増えた
	次年度方向性	目的の内容をしっかりと持ち明確にしていく

3	計画・ねらい	季節の恵み、行事食、伝統食などを取り入れながら、子どもたちが楽しみに待つ給食提供に努める
	実践結果	いつも食事は楽しんでいて美味しいとの声が子どもたちからきこえていました
	次年度方向性	食事の大切さを知らせながらメニューを子どもたちと考えていけるようにしたい

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月22日／11月16日に実施
歯科検診	6月20日／11月14日一宮どろんこ保育園会場にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	手洗い・うがいの遂行・歯磨き指導・性教育
流行した感染症	11月にインフルエンザA、園児20名・スタッフ4名蔓延し、本部、町役場へ報告
発作・痙攣等の対応	ダイアアップ・・・4名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフの状況	・スタッフ22名が習得済み ・新入職員5名については3月21日に受講
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保険関係研修、会議に参加 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月22日、11月16日 歯科健診 各年2回／6月20日、11月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが遊びを選択して、楽しんで遊び込めるブース作り、また危機リスク防止に繋げていく
	実践結果	自分たちの遊びたいものを考えて遊ぶ中での危険なこと等伝えていき気をつけて遊ぶようになってきた
	次年度方向性	どんな時に怪我が起きやすいかなど自主的に話し合いを行えるようにしたい
2	計画・ねらい	生命の大切さを知り、どのようにしていけば良いかをかんがえていく
	実践結果	今年度は出来なかった
	次年度方向性	みんなで話し合いしていろいろな経験をする中で知らせていく

3	計画・ねらい	自分たちのことはできるだけ自分で考えて行動できるようにする
	実践結果	子どもたちの話し合いをよく聞いて職員で話し合いをしていった
	次年度方向性	具体的にいろいろな意見を出し合い進めていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	木製ベンチ	園庭	毎日（朝1番）	異常なし
2	焚き火コーナー	園庭	毎日（朝1番）	異常なし
3	火起こし体験コーナー	田んぼ	毎日（朝1番）	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って、避難訓練、Twitter の書き込み
2	実践結果	不審者訓練（年2回）不審者は職員がなり子どもたちに知らせていく
3	実践結果	事故防止委員会を開き事故の検証と防止対策の話し合い
4	実践結果	設備点検、自主点検（毎日行う）
5	実践結果	インシデント、ヒヤリハットの検証、共有、再発防止策などの確認
6	実践結果	法人内の事故発生記録簿の全職員回覧、再発防止策の話し合いをこまめに行う
7	実践結果	光化学スモッグの連絡が入り次第すぐに対応

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

茂原高校よりインターンシップでの要請があり子どもたちとの触れ合いを多く持ってもらう。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月31～8/10日	千葉こども専門学校	3人	観察実習
8月28～9/8日	聖徳大学児童学部児童心理科	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月29日～8月1日	茂原高等学校	6人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	15日 33名	16日 33名	21日 33名	25日 33名	5日 33名	29日 31名	25日 31名	30日 30名	5日 29名	22日 28名	9日 28名	8日 28名
園内研修	13日 27名	12日 30名	9日 26名	14日 27名	4日 24名	29日 22名	13日 23名	10日 22名	8日 25名	12日 24名	20日 29名	21日 29名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

新型コロナウイルスでなかなか交流がもてなかったが、6月以降は積極的に行うことができた

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：上市場中央公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：玉前神社、南消防署、魚や、布袋庵等
世代間交流	月1回介護ステーションよつばで交流
異年齢交流	小学生卒園児中心に行う
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 今年度実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度はコロナウイルスが収まり、小学校との交流がありました。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
10月25日	東浪見小学校 1年	3名	授業参観	職員間交流
2月14日	東浪見小学校 1年	2名	体育館	子ども間交流
3月5日	一宮小学校 1年	37名	一宮小学校	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児無し

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

・ 4～3月に計12回開催 参加者：200名

要支援園児はいないが気にかかる子に対して話し合いを多く持ち共有している

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

・ 年度末、担任からの進級児について全スタッフ共有

・ 小学校との引継ぎとして、小学校との面談、保育要録送付

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14名	29名	32名	28名	35名	69名	110名	50名	46名	64名	0名	0名	477名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒相談計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計20回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3名	6名	4名	0名	15名	21名	19名	18名	6名	17名	10名	10名	129名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計20回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	2名	0名	0名	4名	0名	0名	7名	7名	0名	7名	27名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：上市場中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉 園による自己評価の実施

2023年10月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：乳幼児担任、栄養士、各リーダー、主任

〈2〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）昨年度に比べて子どもに対して細かく見ていて保育園での姿がわかりましたとの意見が多くありました。そして保育士の笑顔が多くみられる相談しやすくなった。日常の生活が理解できるようになってきたのですがいろいろな様子を発信してほしい

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきご怪我（事故含む）：0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：一宮どろんこ保育園保育園 施設長 末永富貴子

2023年度 郡山どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

スタッフそれぞれが日課活動の意味を理解し、子どもたちが主体的に楽しく取り組めるような丁寧な関わりが行われていた。子どもたちの日課活動の流れが定着しているため、やらなければならないことの意識を持ち、主体的に取り組む姿があった。子どもたちの興味・関心を探り、発達や季節に合わせて子どもたちに経験してほしい活動、気づきを促すような環境を考えてスタッフ同士が連携して取り組んでいた。常に清潔、清掃を心掛け、気持ちの良い環境を維持していた。スタッフが自身の弱み、強みを理解してはいるが、成長のための目標を持って学び続ける姿は今後も継続していくことが求められる。畑仕事をマネー教育に繋げることで、畑仕事の大切さや労働の大変さを経験できる活動となり、子どもたちの育ちの願いを持って関わる事ができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	様々な視点から子どものニーズを探り、学年会議、フロア会議にて子どもの興味・関心を話し合い、今後の保育環境を考える。
	実践結果	水曜日・・・0歳児、1歳児のフロア会議 木曜日・・・2歳児、幼児のフロア会議 金曜日・・・昼礼
	次年度方向性	異年齢で過ごす中でそれぞれの気づきを共有するために、フロア会議を多く取り入れたことで、連携がしやすくなっている。
2	計画・ねらい	園長大学@保育士大学講座を視聴しながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。
	実践結果	自分の強みを理解して興味を持った内容を学び、園会議でアウトプットしていくことで学びを深めていった。 すぐに保育に取り入れられることは保育に活かし、自分のものにしていくとする姿があった。
	次年度方向性	園長大学@保育士大学講座の情報を確認し合うことで情報を共有し、共に学び合うことを継続して一人ひとりの意識を高めていく。
3	計画・ねらい	どろんこギャラリーを活用し、自らの気づき、子どもの育ちや心の動きを読み取り、保育力を高める。
	実践結果	スタッフから発案されたどろんこギャラリー（玄関入口両脇の掲示）を活用し、月に一度のペースでエピソードを作成しているスタッフに偏りが見られた。
	次年度方向性	エピソードを作成するねらいをスタッフに共有し、子どもの活動を捉える視点の再確認、自身の保育の振り返りになることを伝え、楽しみながら作成できるようにしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く。
	実践結果	個別面談と保護者懇談会を6月に実施。お迎え3分間対応をより丁寧に行った。その他、保護者の希望や縁側の声掛けにより、その都度面談を実施。
	次年度方向性	一人ひとりの家庭状況を把握してスタッフ間で共有し、対応を合わせていく。必要に応じた個別面談を引き続き実施していく。
2	計画・ねらい	保護者の変化を読み取り、声掛けをして子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。
	実践結果	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩み相談に応じ、子どもの良さを伝えながら、今後の子育てについて一緒に考えていく関わりを心掛けてきた。
	次年度方向性	引き続き保護者の思いに寄り添い、家庭での様子も共有してもらいながら、子育てへの不安や悩み相談に応じて丁寧に関わっていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「ちきんえっく」のおたよりを公共機関に配置し、興味を持ってもらい参加人数を増やす。
	実践結果	自然学校、自然体験、芸術学校などの活動内容を具体的に発信してきたが、参加人数に変動はなかった。
	次年度方向性	実施内容と参加の仕方を明確にしていく。畑の野菜を使用する際は、時期を把握して実施日を検討していく。
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める。
	実践結果	どろんこまつり・季節ごとのマルシェを計画し、公共機関にポスターなどを掲示して知らせることで参加を促してきた。新型コロナウイルス感染予防のための人数制限がなくなったことで、たくさんの方が来園され、地域の交流の場になっていた。
	次年度方向性	園の保育を知っていただくこと、保育を理解していただくためには地域交流がとても大切だと考える。引き続き地域参加の園行事を実施できるように計画していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標を持ち、具体的な取り組みを明確にする。
	実践結果	普段のコミュニケーションの中で、スタッフの弱みや強みを抽出して伝え合い、年間目標を立てた。10月に面談を行い、上期の振り返りと下期での目標の確認を明確にしていった。必要に応じて個別面談を実施し、アドバイスを行った。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりと目標の振り返りと目標の確認は大事なことで、半年に一度の面談とスタッフの様子に応じて個別面談を継続していく。

2	計画・ねらい	常日頃から園長大学@保育士大学の講座内容を確認することを意識し、興味を持った講座を自ら視聴して学び続ける。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが、園会議にて自分の強みの部分などの情報を共有することで、仲間を巻き込みながら共に学び合う機会になった。また園会議で園長大学@保育士大学の講座を視聴することで、内容の把握、今後の活動の取り組み方の話し合いに繋がっていった。
	次年度方向性	スタッフ一人ひとりが情報をインプットし続け、アウトプットの方法を考えて伝えていくことは学びに繋がっていく。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、チームとしての連携を大切にする。
	実践結果	園内研修にてお互いの強みと感ずることを伝え合うことで、それぞれの存在意義を確認し、感謝の気持ちを持てた。施設長、主任はスタッフ一人ひとりの日頃の保育の姿や試行錯誤しながらの取り組みを認め、伝えることでモチベーションアップに繋がっていった。
	次年度方向性	施設長、主任はスタッフ一人ひとりのモチベーションを探り、自分の気づきを具体的に伝えることで信頼関係を築いていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	魚の解体を経験することで、命をいただくことへの興味を持つ。
	実践結果	魚が生きるために必要なことは何か気づいたことを伝え合ったり、興味を持てるように図鑑で調べたりして、自分たちも生きるために命をいただいていることを知るきっかけとなった。
	次年度方向性	食の循環に気づいたり、興味を持ったりできるような活動を考えて、子どもたちと一緒に実践していく。
2	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組み、その時に何が必要かを考える。
	実践結果	野菜の成長を見守り、畑の状態や季節によって何をしたら良いのかを考えて取り組み、収穫する喜びを感じていた。
	次年度方向性	日課の1つでやらなければならないことと理解し、子どもも大人も積極的に関わり、気づきを学びへと広げていく。

〈6〉大人も子どももわくわくする保育

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味・関心を探る。
	実践結果	学年やフロアごとに日々の保育での気づきや振り返りをしていく中で、子どもの興味・関心を捉え、今後の関わり方や保育準備をチームで探り、実践へと繋がっていった。
	次年度方向性	子どもが興味を持っていること、季節や発達を考えていく中で経験してほしいことなどの願いを持って保育計画を立て、子どもが選べる環境を構成していく。
2	計画・ねらい	子どもの年齢に合った経験してほしい活動を用意する。
	実践結果	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所、時間を確保しながら、スタッフ同士が連携して取り組んでいた。

		スタッフも子ども一緒に Trial&Error を楽しみ、子どもの興味・関心を引き出していった。
	次年度方向性	子ども一緒に Trial&Error を楽しみ、興味・関心を引き出していくことは大事なことになるので、継続していく。スタッフ間の連携を意識する。

〈7〉 保護者との関わり

1	計画・ねらい	保護者のニーズに合わせた丁寧な関わりをする。
	実践結果	子ども一人ひとりの家庭環境、事情を把握し、共有が必要と思われる内容はスタッフ間で共有し、対応を統一してきた。必要に応じて園側から声をかけて個人面談を実施し、保護者のニーズを探り、情報の共有と今後の保育へ活かせる手立てを話し合う場を設けてきた。
	次年度方向性	保護者の変化に合わせたかかわり方や対応を考え、必要に応じた丁寧な支援をしていくことが大切である。
2	計画・ねらい	あたたかい雰囲気の中での保護者対応を心掛ける。
	実践結果	朝の受け入れ、お迎え時などは保護者の顔を見て笑顔で対応し、子どもの育ちを丁寧に伝えることで信頼関係を築いてきた。
	次年度方向性	丁寧な3分間対応の継続とスタッフ間の情報共有が大事なため、一人ひとりが意識していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	72人	89人	89人	90人	90人	466人
年度後半： 10~3月	36人	72人	89人	90人	88人	90人	465人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	142 人	118 人	148 人	155 人	148 人	145 人	139 人	122 人	158 人	106 人	110 人	人	1491 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	2人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	1人	2人	0人	8人
うち0歳児	0人	1人	2人	0人	0人	0人	3人						

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	調理	0人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	・離乳食の進捗確認、アレルギー対応、食育計画
事故防止委員会	月1回	・リスクマネジメント研修
ケース会議	月1回	・気になる子へのかかわり方、今後の対応
フロア会議	週1回	・保育の振り返り、今後の活動計画、環境構成

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内の衛生管理、行政対応の実施
安全対策係	リスクマネジメントを中心に実施
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画、自主点検を実施
食品衛生管理係	衛生点検、給食提供マニュアルに沿って実施
畑係	年間計画に沿って実施
生き物係	餌の管理、飼育環境の整備実施

〈4〉行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域支援に取り組みながら実施
クリスマスマルシェ	地域支援に取り組みながら実施

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・なし
保育参加	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計76名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調べられた空間で心地よく食べられるよう連携する。
	実践結果	調理を担当者は、子どもが「美味しそう」と思えるようなきれいな盛り付けや提供の仕方を工夫していた。 一人ひとりの食べ物への興味を把握し、子どもに合わせた言葉を心掛けることで子どもの食への関心を育てていた。
	次年度方向性	調べられた空間を維持しながら、子ども一人ひとりの食への関心を把握し、情報を共有することでチーム連携をしていく。
2	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践結果	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「あそぶ」「くう」「ねる」のリズムを整え、気持ちよく過ごしてきた。
	次年度方向性	園での様子を家庭と共有し「あそぶ」「くう」「ねる」のサイクルの大切さを伝えていく。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫したものをいただく、加工体験を大切にし、食べ物への興味を高めてきた。 魚を解体する体験を通して、自分たちが命あるものをいただいて生きること、生き物の命の循環について考える機会を設けた。
	次年度方向性	食事は命あるものをいただくことで成り立っていることを経験できる場を用意する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月28日／11月1日に実施
歯科検診	6月7日に保育園室内にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月2日に保育園にて歯磨き指導を実施 ② 6月2日に保育園にて手洗い・うがい指導を実施 ③ 12月26日に保育園にて性教育を実施
流行した感染症	① 5月にインフルエンザ、園児19名蔓延し、郡山市へ報告 ② 11月にインフルエンザ、園児12名・スタッフ3名蔓延し、郡山市へ報告
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月14日に保育園にてエピペン研修を4月に加わったスタッフ大内、計1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	・感染蔓延防止のため、状況に応じてうがい指導・手洗い指導を行い、玩具消毒を実施 ・こまめな換気を徹底してきた

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月28日、11月1日 歯科健診 各年1回／6月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	スタッフ同士で連携を取り、子どもの探索活動を見守る。
	実践結果	学年で区切ることなく、大きな家の一人として子どもの主体性を大事にし、チームで連携することを心掛けてきた。
	次年度方向性	異年齢保育の良さを継続できるように関わりを大事にし、子どもが主体性を持って活動できるよう配慮する。
2	計画・ねらい	環境構成では集団での空間、個の空間を大事にしながら構成していく。
	実践結果	遊びの内容によって遊び込めるような場を確保し、個の空間を確保することで、一人ひとりの活動を大事にしてきた。
	次年度方向性	子どもの発達や成長を考慮し、玩具選びや空間を工夫しながら子どもが活動を選べるようにする。
3	計画・ねらい	整えられた空間で過ごし、子どもたちにも整える習慣が身につき安心して過ごす。
	実践結果	スタッフが整理整頓の仕方を伝え、気持ちの良い環境を心掛けることで、子どもたち自身が物を大事にする気持ちが育まれてきた。
	次年度方向性	清潔な場で過ごす心地良さを感じ、安心して過ごせるような環境の保持。スタッフ一人ひとりが整理整頓を心掛ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	幼児フロア	毎日	異常なし
2	木製スロープ	乳児室前の縁側	その都度	異常なし
3	木製トンネル	乳児フロア	毎日	異常なし
4	木製テーブル	幼児フロア	毎日	異常なし
5	木製ハウス	幼児フロア	毎日	異常なし
6	竹馬台	園庭	その都度	異常なし
7	泥場の枠組	園庭	その都度	異常なし
8	焚火ベンチ	園庭	その都度	異常なし
9	木製し字サークル	幼児フロア	毎日	異常なし
10	木製ドレッサー	幼児フロア	毎日	異常なし
11	名札台	玄関	その都度	異常なし
12	木製テーブル・椅子	園庭	毎日	10/24に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとった。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災難に備え、マニュアルの徹底を図った。
2	実践結果	事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図った。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント、ヒヤリハット報告の分析を継続する。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い動きを確認し、併せて不審者侵入訓練を実施した。また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象として実施した。
5	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。
6	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントを周知、徹底した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は延べ10名の実習生を受け入れた。どろんこ会の保育に興味を持ち、子どもとの関わり方の大切さを実感している学生が多かった。スタッフ一人ひとりが主体的に動き、子どもたちが主体的に活動するための理解をし、実践していくことで保育の楽しさを伝えていかななくてはならないと感じた。

今後も実習生の受け入れを積極的に行い、子どもと共に過ごす中で気づきや楽しさを伝え、どろんこ会が実践している保育へ魅力を感じてほしいと思う。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月6日～16日	仙台こども専門学校こども総合学科	1人	観察実習
7月3日～14日	仙台こども専門学校こども総合学科	1人	責任実習
8月19日～30日	郡山女子大学短期大学部幼児教育学科	1人	責任実習
8月21日～9月1日	帝京大学教育学部初等教育学科	1人	責任実習
8月21日～9月1日	郡山女子大学短期大学部幼児教育学科	1人	責任実習
10月16日～27日	小田原短期大学保育学科	1人	観察実習
10月10日～17日	郡山女子大学家政学部食物栄養学科	2人	給食管理実習
2月13日～27日	郡山女子大学短期大学部幼児教育学科	2人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
	希望した学校なし	0人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 22名	12日 22名	9日 23名	14日 23名	18日 23名	8日 23名	13日 22名	10日 22名	8日 22名	12日 22名	16日 22名	3日 22名
リスクマネジメント研修	14日 22名	12日 22名	9日 23名	14日 23名	18日 23名	8日 23名	13日 22名	10日 22名	8日 22名	12日 22名	16日 22名	3日 22名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月18日	園長大学®保育士大学講座	子どもの感性を解き放つのはあなた次第1話・2話	14名	有
8月18～19日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
11月11日 15日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	2名	有
11月21日 25日	保育士キャリアアップ研修	保護者支援	1名	有
11月24日 27日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
11月29日 12月6.20日	保育士キャリアアップ研修	食物アレルギー	1名	有
1月12日	園長大学®保育士大学講座	小1を知る 幼児教育と小学校教育を 「架け橋プログラム」	14 名	有
1月20日 26日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
1月23日 27日	保育士キャリアアップ研修	保護者支援	2名	有
2月2・6日	保育士キャリアアップ研修	幼児教育	1名	有
2月9・10日	保育士キャリアアップ研修	乳児保育	1名	有
2月24～25日	保育士キャリアアップ研修	障害児保育	1名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 2名	17日 2名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名

全社員研修

10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた温かさが感じられる保育園であるために、子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう配慮した。地域の方が自由に園を利用していただきながら、園運営の理解を深めるため、どろんこまつりやクリスマスマルシェで事前周知を積極的に行い実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：開成山公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：開成山交番、マキシム、カトリック郡山教会 柏屋、ヨークベニマル台新店、ヨークベニマル島店、ダイソー島店 郡山市役所、等
世代間交流	実施なし
異年齢交流	実施なし
異文化交流	9月27日に保育園にて「アメリカの文化を知ろう」を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校へのスムーズな移行を考え、アプローチカリキュラムの内容を確認しながら内容の充実を図ってきた。運動会練習の見学、学校見学をすることで、小学校での活動に興味を持てるように配慮した。幼保小連携推進事業で他保育園・幼稚園・小学校との情報交換を行った。保育所保育要録を送付し、児童情報の申し送りの電話面談を実施した。また、気になる子の情報を早めに共有し、今後の学校生活がスムーズになるよう連携を図った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月9日	大槻小学校	1名	令和5年度幼保小連携推進事業	職員間交流
10月12日	開成小学校	18名	運動会練習見学	子ども間交流
10月26日		1名	令和5年度幼保小連携推進事業	職員間交流
11月15日	桜小学校	1名	入学予定者連携	子ども間交流
2月14日	開成小学校	17名	学校見学	職員間交流
2月16日	薫小学校	5名	入学予定者連携	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月の振り返りを行い、一人ひとりの姿を共有しながら支援の手立てを考えていった。保護者へは日々の生活の様子を丁寧に伝え、家庭と対応をすり合わせていくことで子どもが安心して過ごせるように配慮した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：8名

日々のかかわりを振り返りながら、毎月それぞれの気づきや対応での変化などを共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各小学校へ保育所児童要録を送付し、電話にて一人ひとりの様子を丁寧に伝えたり、来園していただいたりして連携を図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	4名	99名	17名	27名	19名	29名	90名	28名	15名	5名	333名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計3件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	3名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	5名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：開成山公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	3名	5名	0名	0名	2名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	17名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：11時00分

自己評価実施者：施設長・主任・調理スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：105%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：郡山どろんこ保育園 施設長 佐藤 陽子

2023年度 学園の森どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子どもたちの「やりたい！」をかなえる環境作りのため、ゾーン保育の勉強会を定期的に重ね、主体的に遊びこめる環境を構成していく。子どもたちが保育園内を自由に行き来し、異年齢同士の関わりを深め、遊びたい場所、遊びたい仲間を選び過ごす中で起こりうる様々な TRAIL & ERROR の経験ができるような仕掛けを考え、実行している。

就学に向け、小学1年生の姿から逆算した子どもたちへの保育を考えて、近隣小学校へ積極的に働きかけ、学びの機会を設けてきた。

畑仕事を通して食の循環・環境の意識を高めるため日課として活動し、循環や環境の意識を身に付け持続可能な活動を取り入れてきた。鶏を捌くことで命をいただく体験もし、収穫した野菜とともに食育の充実を図る。

食事の重要性や楽しさ、食文化を理解し、命をいただくこと、感謝の心を育む。

子ども・スタッフたちが青空保育などに出て、関心を持ってもらう機会を提供し、声掛けをすることにより、園での催しなどへ誘い掛け、子育ての不安や負担、孤立感を感じないように支援していく。

チームとして、4つのテーマを追いかけ、子ども主体の保育へ取り組んでいく。それぞれのテーマを深める中で保育のつながりにも気づき協同性を高めていく。

園内、園外の研修に積極的に参加することにより学びを深めることを継続していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して居心地良く過ごせる環境の中で、子どもとのやり取りを丁寧に行う。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓、いつみても気持ちが良い空間作り ・正しい言葉使い、丁寧な対応
	次年度方向性	いつも初心に帰り、丁寧な保育を心掛ける。
2	計画・ねらい	主体的に集中して遊びに取り組める保育の中で、自己選択を促しつつ、温かく応答的に関わっていく。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を捉えた保育計画の構築 ・環境のローリングアップ ・自分の言葉で気持ちを伝える
	次年度方向性	ゾーン保育の学びを継続しながら、子どもたちの成長に合わせて変更を重ねていく。

3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目的と意識を持ち、計画を実行・実践する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の振り返りを語り合う ・保育計画検討委員会の継続
	次年度方向性	一人ひとりの意識を高める必要は高い。明確な目標を持ち、P D C Aを重ねる。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	掃除が行き届き整理整頓された気持ちの良い園の環境を常に維持する
	実践結果	・マンスリーコンシェルジュの継続
	次年度方向性	より良い環境づくりとして、チーム別テーマの中に取り込む
2	計画・ねらい	ポートフォリオやタイムラインなど園内での様子や成長が伝わる情報の発信
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーション等の研修を深め、感動を与えられる発信を目指す ・定期的な発表
	次年度方向性	テーマ別学びでの発表・掲示を継続する
3	計画・ねらい	保護者からの発信を見逃さず、丁寧に受け止める
	実践結果	・3分間対応の内容を深め、子育ての楽しさや成長を共に喜び合い、支援につなげていく
	次年度方向性	保護者のニーズを捉え、丁寧な対応や手に取るような保育の内容を伝えていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域すべての子育て家庭を対象とし、ちきんえっぐを拠点とした憩いの場を提供する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報交換 ・楽しみにできる計画・企画 ・園活動への巻き込み
	次年度方向性	青空保育などを通して、子育て世代に働きかけ、園へ誘い掛けることを積極的に行う

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の基本を確認、保育者としての資質の向上を図る
	実践結果	・保育所保育指針の学び
	次年度方向性	基本からの学びを継続
2	計画・ねらい	園スタッフがそれぞれの専門力を高めるとともにチームとしての力を高め ていく。
	実践結果	・個人目標の設定 ・協力すれば達成できるチーム作り ・グループに分かれてのテーマ探究
	次年度方向性	個人の目標、チーム保育の目標と設定し、更なる探求をを深める
3	計画・ねらい	積極的に研修に参加し、学び得たことを発信、実践につなげていき、参 加・協働型研修を目指す
	実践結果	・頑張り見える化 ・できること勉強会担当制 ・こども環境管理士資格試験挑戦
	次年度方向性	名称の変更等はあるとしても、学びの機会、発表の場は継続していく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への意識を育む
	実践結果	・畑仕事で世話・収穫をしたものの加工 ・調理くずの有効活用 ・生き物の糞・資材等を堆肥化し循環
	次年度方向性	調理くずの削減を目指して堆肥化、畑への循環を継続する 鶏を捌き、命の循環を知る
2	計画・ねらい	木育を通じて環境保護・保全のための活動を実践する
	実践結果	・どんぐり銀行（豊かな生活をつくるお手伝い）
	次年度方向性	豊かな自然づくりとしての苗木植樹まで繋げる

〈6〉スタッフの協力体制の確立

1	計画・ねらい	得意な分野を生かし、苦手な分野にチャレンジできるようなスタッフ同士の互いに違った個性を尊重する体制作りをする
	実践結果	・できること勉強会を計画実行する
	次年度方向性	チーム保育を通し、発言の場を広げ、テーマを追っての探求を深めていく
2	計画・ねらい	風通しの良い人間関係作りを心掛け、明るい園を目指す
	実践結果	・「ありがとう」感謝の気持ちを伝える ・「私がやります」自ら進んで取り組む姿勢をもつ ・園全体の協力の輪をつなげていく。
	次年度方向性	明るい園作りを継承し、伝え、繋げていく
3	計画・ねらい	チームの力、信頼関係を築くためのアクティビティの実施
	実践結果	・園内研修時に簡単なゲームを行い、人とのかかわりを考える
	次年度方向性	園内研修にて、その時々テーマにあったアクティビティの実施

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	88人	89人	89人	90人	108人	103人	567人
年度後半： 10~3月	90人	88人	90人	90人	108人	103人	568人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	204 人	181 人	213 人	158 人	142 人	104 人	99 人	114 人	108 人	90 人	116 人	100 人	1629 人
うち0 歳児	0 人	7 人	14 人	16 人	27 人	19 人	18 人	21 人	18 人	14 人	22 人	20 人	196人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	2人	6人	12人	12人	38人
うち0歳児	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	2人	6人	12人	12人	38

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	3人		
パートスタッフ	事務	1人	用務	1人	嘱託職員	1人	嘱託医・歯科医	2人
	保育補助	1人						

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園として取り組むべき課題への研修
給食運営会議	月1回	乳児の離乳食進行検討、乳幼児の喫食状況検討
事故防止委員会	月1回	事故報告書の分析、再発防止、ヒヤリハット、インシデントの報告
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて

リーダー・クラス会議	週1回	園長・主任・リーダーによる報告・連絡・検討 保育の計画と振り返り、児童処遇検討
乳児・幼児会議	月2回	乳児クラス、幼児クラス対象に保育の計画と振り返り大型行事の検討など
週会議	週1回	全クラスを対象に報告・連絡、大型行事の検討など

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回のスタッフ訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生管理係	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理

畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児やスタッフの畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児やスタッフの生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
写真係	園児の写真管理、販売用写真の選定、確認販売用および保存用写真の保護管理・選定
環境整備・備品係	園内外の環境整備状況の管理、備品の点検と補充
地域係	地域住民や団体などへの対外的な窓口業務管理
厚生係	スタッフ厚生に係る業務

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う
運動会係	保護者と協働的に準備・進行を行う
生活発表会係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加を通して、子どもの様子を知っていただき、日々の様子や家庭での気になることについて深く意見交換した。 ・保護者面談の際には家庭での様子を傾聴し、面談の場で終わることなく、定期的に面談の場を設け継続した情報交換を進めた。
保育参加	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月8日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	共に食べる楽しさ・心地よさを味わえる食事の場作りを大切にする
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢と一緒に食事をする ・空腹感を感じて意欲的に食べる ・保育者を含めての園側給食での共食を基本とし、楽しみを共に感じる
	次年度方向性	バイキング形式での給食復活などで一緒に食べる楽しみが戻ってくる。楽しい雰囲気の演出にも力をいれる
2	計画・ねらい	自ら栽培、体験したものを食するという循環から、環境、命の大切さに気付く
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑活動、堆肥作りを全スタッフと子どもが共に行う ・行事食、伝統食作り・加工品作りを体験する ・食と命のつながりの体験や知識を知る機会を提供する
	次年度方向性	引き続き食育に力を入れて色々な体験を計画していく。命をいただく活動にも臨む
3	計画・ねらい	さまざまな素材を楽しみながら、自分で意欲的に食べることを大切にする
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・手掴みたべを推奨 ・素材を味わえる状態で提供する ・食べる機能の発達を捉えた援助を行う
	次年度方向性	子どもの意欲を高めるための援助のために、個々の発達を捉える目を養う

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月21日／11月15日に実施
歯科検診	6月20日／11月21日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月26日に保育室にて手洗い指導を実施 ② 11月30日に保育室にて歯磨き指導を実施 ③ 12月13・14日にちきんえっぐにて性教育を実施

流行した感染症	① 10月にインフルエンザ、園児27名・スタッフ0名蔓延し、報告12月3日に終息 ② 2月に胃腸炎症状、園児27名・スタッフ6名感染報告有り。3月●日に終息
発作・痙攣等の対応	6月27日に痙攣で救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月18日に自園会場にてエピペン研修をスタッフ21名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・6月10・18日につくばどろんこ保育園会場にて救急救命講習をスタッフ9・3名計12名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	感染予防のため、手洗い・うがい指導、消毒換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月16日に実施済み

	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月21日、11月15日 歯科健診 各年2回/6月20日、11月21日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月18日、10月10日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが快適に過ごせるように環境を整える
	実践結果	・温度・湿度・環境など適切に保ち、衛生管理に努める
	次年度方向性	心身ともに安心できる清潔で過ごしやすい環境を整える
2	計画・ねらい	子どもが主体的に育つ環境を作る
	実践結果	・環境改良委員会設置
	次年度方向性	チーム保育でゾーン保育を深めていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ひな壇	幼児室	毎日	異常なし
2	配膳台	幼児室	毎日	異常なし
3				
4				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルに則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、S I D S 防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

高校生のボランティア受け入れにより地域とのつながりにもなった。

実習生を受け入れることでスタッフの意識が高められ、実習生から気づきを与えてもらったことで保育の振り返りに繋がった。園での実習より保育への道が決まり、入職にもつながる。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月21日～9月2日	帝京平成大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月10日	藤代紫水高等学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	18日 25名	16日 24名	13日 24名	11日 24名	8日 23名	12日 23名	10日 23名	14日 23名	12日 23名	15日 23名	20日 24名	21日 24名
園内研修	18日 25名	16日 24名	13日 24名	11日 24名	8日 23名	12日 23名	10日 23名	14日 23名	12日 23名	15日 23名	20日 24名	3日 21名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月5～10日	園長大学®保育士大学	「わからない」から「やってみたい」に変える 実践から学ぶ、インクルーシブ保育	1名	有
6月23日	園長大学®保育士大学	保育所におけるセルフ防災研修	2名	有
6月7日	園長大学®保育士大学	アート支援研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	10日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	10日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
主任・ミドル会議	20日 3名	11日 3名	22日 3名	20日 3名	24日 3名	21日 3名	19日 3名	21日 3名	21日 3名	18日 3名	22日 3名	22日 3名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域全体での大家族を目指して、新規開拓など働きかけ、新しい関係を築く。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：ブランデ広場にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：東光台青空市場、サンキ、ミニストップ、昭和シェル、タイヨー、マツダ、ケーズデンキ、研究学園専門歯科、セカンドストリート、BLANDE、西松屋、つくば市中央消防署、コーナン等
世代間交流	6月13日に学園の森義務教育学校にて運動会見学を実施
異年齢交流	12月4日に研究学園小学校にて秋ランド参加を実施
その他活動	11月9日に守谷どろんこ保育園にて合同収穫祭を実施
	9月25日に自園にて筑波大学ラグビー部と交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

近隣新設小学校へも働きかけ、子ども間交流の場を増やした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月25日	つくば市立学園の森義務教育学校	2名	新年度打合せ	職員間交流
4月25日	つくば市立研究学園小学校	2名	新年度打合せ	職員間交流
4月28日	つくば市立研究学園小学校 1年生	2名	授業参観（一年生各教室）	職員間交流
6月13日	つくば市立学園の森	19名	運動会見学（学園の森義	子ども間交流

	義務教育学校 1年生		義務教育学校校庭)	
10月27日	つくばどろんこ保育園	3名	「保護者兼小学校教諭の立場から就学に向けて伝えたいところ」	幼保小接続担当者研修
12月4日	つくば市立研究学園 小学校 1年生	19名	「秋ランド」参加	子ども間交流
1月24日	WEB	3名	「お子さんの気になる行動が見られるときには？」	幼保小接続担当者研修
2月27日	つくば市立学園の森 義務教育学校	1名	「幼児期の育ちと学びを小学校へカリキュラムでつなぐ」 グループ協議	保幼小接続担当者研修
3月6日	つくば市立学園の森 義務教育学校 1年生	19名	「小学校生活をのぞいてみよう」	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

- ・ 個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して相互理解を図り、子どもの発達状況についてスタッフ間で情報を共有し、認識の相違をなくすように努める。
- ・ 集団保育の中で馴染みにくい子どもには、他児との集団の中で育ち合い社会で生きていく手立てを支援するようにする

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

- ・ 4～3月に計12回開催予定 参加者：園会議参加者
- ・ 医療機関や専門機関による療育方針・方法を知る。
- ・ 担当者会議も必要に応じて行い、全体周知していく。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	11名	4名	0名	0名	20名	10名	6名	11名	8名	14名	10名	94名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：ブランデ広場にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	9名	4名	0名	0名	18名	10名	6名	11名	8名	14名	10名	90名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年12月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時30分

自己評価実施者：澤部彩香、山根摩耶、中野久子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：107.4%

（省察）NPS47とおおむね良好な結果となったが、どちらともいえないという中間層の満足度をあげるためにどうするかが課題と思われる。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：学園の森どろんこ保育園 施設長 根本 美佳

2023年度 中里どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

新型コロナウイルスへの感染対策が緩和され、コロナ禍以前と同じように保育運営ができた。園に来訪して下さる地域の方の人数も増加し、地域事業の行事においても目標集客数を概ね達成した。戸外活動では、引き続き園外へ出て自然物との関りを意識した。四季折々の自然物を取り入れ、散歩先でも毛糸などを使用して作品を作り上げた。保護者参加行事では、どろんこサポーターズの方の協力も得られ、新しい企画にも挑戦することができた。子ども同士の気持ちのぶつかり合いでは、保育者は介入しすぎず、子ども同士での解決を目指した。時には、相手の気持ちを代弁したり、考察したりすることで、自分とは違う考えもあるということを生活の中で体験できるよう心掛けた。自然体験・人との関りを中心に意識して保育した。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課活動の充実を図る
	実践結果	続・原点回帰ということで、保育の流れから見直しを図った。 畑の水やり・生き物の世話を朝の日課に定着させることで、安定した実施が実現できた。
	次年度方向性	引き続き、日課の定着を目指す。 散歩9時出発へ近づけるために、朝の会と雑巾がけの順を変更していく。
2	計画・ねらい	見守る・継続する保育の実践
	実践結果	レゴブロックコーナーを大きく変更した。台をまるごと作成台にし、飾る棚を設けることで、明日も遊びの続きができる環境づくりを工夫した。 行事ごとに導入を丁寧に行うことで、単発的な体験にするのではなく、子どもの意識が継続して当日を迎えられるよう目指した。
	次年度方向性	引き続き、行事の日程を逆算して準備導入することで、行事への意識の継続を実現させていく。
3	計画・ねらい	異年齢・インクルーシブ保育の確立
	実践結果	年齢で活動を分けるのではなく、子ども自身が参加したい遊びを選びとることができた。幼児が乳児の面倒をみるなど積極的に関わる様子が見られ、年下児が年上児に憧れて真似る様子も増えてきている。
	次年度方向性	小グループのなかで子どもをリーダーに任命することで、年上児が年下児を配慮するなど、子ども同士で自然に助け合える環境を定着させる。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者様の心に入り込んだ接遇
---	--------	----------------

	実践結果	受け入れ・お迎え伝達時には、子どもたちの様子が細やかに伝わるような伝達内容を意識した。週でクラスごとに詳細に伝達内容を記すことで、誰が伝達しても一日の様子が保護者様に伝わるよう努めた。 伝達のポイントについての接遇研修を園内で5月・課内で1月に実施した。
	次年度方向性	引き続き、早い時期に接遇についてディスカッションを行い、相手が嬉しいと感じる気遣い・対応を学ぶ。伝達事項には、簡潔かつ様子が手にとるように伝わる表記を目指す。
2	計画・ねらい	利用者様に選ばれる施設となる
	実践結果	2024年度入園第一希望者は、44名だった。 昨年度より10名以上の増加を実現した。
	次年度方向性	保育園見学対応に重点をおき、園内の活動実績をブログ等で発信し続けていく。地域事業活動や、子育て世帯へ向けた育児支援事業にも積極的に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践結果	日常的な清掃に力を入れ、常に一定の清潔を保つよう目指した。 時期を設定し、計画的に断捨離したことで、不必要なものを廃棄した、
	次年度方向性	目に見える場所は日常的に清潔を保つ。 目に見えない場所（倉庫内など）の整理を実施することで、保育材料の取り出しを円滑にしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に根付く活動の充実
	実践結果	清瀬市の地域事業を活用し、地域の方にも保育園へ足を運んでもらえる機会を積極的に設けた。 清瀬市のボランティア団体が運営している川を守る会や自然を守る会との連携も実現し、自然を中心とした保育活動を取り入れた。
	次年度方向性	引き続き、清瀬市のボランティア団体とも連携をとりながら、自分たちの住んでいる町を意識した活動にとりこんでいく。
2	計画・ねらい	地域に開かれた施設の確立を目指す
	実践結果	保育施設等に在籍していない子育て世帯の方を対象に、園内行事へ呼び込みを実施した。昨年度よりも来訪者人数が増加し、局所的なコミュニティではあるが、子育てネットワークのなかでの認知度も高まった。
	次年度方向性	離乳食講座・ちきんえっぐ・清瀬市地域事業に重点をおき、更なる来訪者人数の増加を目指すことで、中里どろんこ保育園へ足を運んでいただく機会を設けていく。
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ参加率の向上を図る
	実践結果	ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）や園庭開放含め、前年度よりも参加率が向上した。地域事業行事にも定期的にご参加いただくなど、認知度も高まった。

	次年度方向性	子育て広場などにチラシを貼りだしていただくことで、更なる来訪者人数の増加・認知度の向上を目指していく。
--	--------	---

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育の質の向上
	実践結果	園長大学・保育士大学からスタッフ自身が研修を選びとり、常に学びの向上を目指した。 清瀬エリア全体での合同研修も実現し、学びを深める機会を定期的に設けた。
	次年度方向性	清瀬エリアのリーダー層を対象とした合同研修を定期的実践していく。
2	計画・ねらい	多様性を認めるスタッフ集団
	実践結果	園内研修・個人面談を定期的に設けることで、自己理解・他者理解が共に深まるよう努めた。 建設的な話し合いはもちろんのこと、スタッフ自らが他スタッフを気遣う環境が構築されている。離職者1名（学生アルバイトが就職のため）。
	次年度方向性	全スタッフを対象とした個人面談を実施し、園内の組織化を確立していく。
3	計画・ねらい	基本的な接遇マナーを身につける
	実践結果	接遇研修の実施。 日常の中でも電話対応の手順を確認した。 また、来訪者へは気持ちの良い挨拶で迎え入れるよう、スタッフ全員で意識した。
	次年度方向性	接遇研修の内容を具体的にし、挨拶・電話対応・伝達に特化することで、より実践として活用できる内容にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境の充実
	実践結果	多少の前後はあったが、定期的に環境構成を見直すことができた（6月・9月・12月・3月）。 園内研修を通して、人的環境としての保育の質を高めた。
	次年度方向性	室内外の物的環境を整理して更新し、保育者の保育技術を磨くことで人的環境の充実を図る。
2	計画・ねらい	自然に特化した遊びの体験を実施
	実践結果	季節によって変化する環境を実際にとりいれていくことで、子どもたちが試行錯誤し直接体験する機会を実現した。
	次年度方向性	散歩先での自然物を取り入れた制作を意識していく。

〈6〉就学に向けての取り組み

1	計画・ねらい	小学1年生の授業を見学する
	実践結果	学習発表会へ数名のスタッフと参加し、1年生の学びの過程を知った。昼休みの校庭活動の様子を子どもと共に体験することで、小学校生活に見通しがもてるよう努めた。
	次年度方向性	積極的に近隣小学校へアポイントをとり、小学1年生で実施していく授業内容をもとに、年長児の保育に取り入れていく。円滑な就学を目指す。
2	計画・ねらい	子どもたちの小学校見学2回以上の実施
	実践結果	校庭見学2回、1年生との交流会を1回以上設けることができた。卒園児の姿を見ることで、小学校生活への期待を高めた。
	次年度方向性	引き続き、保育園側からも交流の機会を設けていく。

〈7〉命の大切さを知る教育

1	計画・ねらい	年齢に合わせた性教育の実施（3・4歳児）
	実践結果	命の大切さを知ると共に、相手への触れ方による快と不快の感じ方を知り、人との距離感を知ることでコミュニケーション能力を培えるよう目指した。
	次年度方向性	引き続き、3・4歳児を対象にした性教育を実施する。
2	計画・ねらい	誕生したことの尊さを再確認できる機会を設ける
	実践結果	5歳児における性教育では、法人指定の教材をもとに実施した。産道に似せた布製の袋を作成し、もう一度誕生の場面を再現することで、この世に生まれた不思議さや尊さを疑似体験した。
	次年度方向性	内容を変更し、自身を大切にす気持ち（自己肯定感を高める）を改めて感じる機会にしていく。生まれたことに感謝し、困難に立ち向かうときには、命を捨てる選択をしない「にんげん力」を培っていく。
3	計画・ねらい	鶏を捌いて食べ、命のありがたみを知る
	実践結果	実際に飼育している鶏を目の前で捌いて食べるまで体験し、「命をいただく」ことの本当の意味を知る機会を設けた。
	次年度方向性	今年度の反省点を抽出し、体験の工程や手洗いの順・回数を特に意識して実施していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	96人	108人	118人	120人	120人	598人
年度後半： 10~3月	36人	96人	108人	120人	120人	119人	599人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	208 人	217 人	328 人	227 人	202 人	226 人	227 人	228 人	197 人	193 人	179 人	180 人	2612 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	1人	4人	4人	4人	17人

（解説）0歳児は後半に向けて延長利用者が増加した。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	3人	1人	0人	7人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	2人	1人	3人						

（解説）一時保育利用が昨年度よりも増え、認知度が向上した。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15 人	看護師	2人	栄養士	3人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1	用務	1人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・事故防止委員会 ・ケース会議 ・怪我の処置の仕方 ・川のリスクマネジメント ・子どもとの関わり方について ・保護者対応の質の向上 ・全体研修（明日からできること） ・法人による虐待の定義（言葉選びについて） ・各係の振り返り ・発達別による事故防止について ・発達支援について ・接遇マナー研修 ・事業計画の振り返り ・質を上げる会議より抜粋
給食運営会議	月1回	アレルギー状況の進捗確認、喫食状況、マナー教室の共有等
事故防止委員会	月1回	自園・他園のインシデントや事故記録を元にリスク管理の質の向上を目指した
ケース会議	12回	同園児の一年間を記録することで、スタッフの発達支援による理解を深めた。清瀬市発達支援センターとことこの方と共同で、1回ケース会議を実施
乳児・幼児会議	月2回	近況確認・課題抽出・実践内容の共有等

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年6回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染症対策の徹底、衛生用品の補充、保健指導
安全対策係	ハザードマップの見直し、備蓄品の確認
防火管理者	機器周りの衛生、安全管理
食品衛生管理係	食品の衛生管理、アレルギー児の状態、書類管理
畑係	年間を通じた畑管理、実施記録の作成、可視化
生き物係	ヤギ、鶏など生き物の管理、餌など必要備品の在庫管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りをはじめ、運動会の手伝いや生活発表会では、おやじの会との共催で落ち葉プールを開催していただいた。
おやじの会	運動会では、見回りや用具の組み立てに貢献していただき、生活発表会ではどろんこサポーターズと共に落ち葉プールを展開した。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着関係を大事に育て、安心して過ごせる環境を目指した ・自主性が育まれるよう意識した関わりを行った
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物などに関わりを持ち、表現活動を多く取り入れた ・「共有」「連続」「可視化」の実践を意識した ・写真記録であるポートフォリオなどを用いて、育てて欲しい10の姿を意識した考察や学びを深めた
保育参加	<p>4～3月まで 合計14名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参加の参加者が徐々に増え、実際に保育を見ていただける良い機会となった。次年度は更に呼びかけを強化していく。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計102名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方の要望に合わせた内容に応じて面談を行った

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	素材の味を活かし、大きな食材にかぶりつくことで噛む力を養う
	実践結果	離乳期から大きめの食材にかぶりつくことで、自分の一口量を知るように導いた。また、よく噛むことで、咀嚼力の発達も同時に促した。
	次年度方向性	引き続き、大きな素材を意識した離乳食づくり・提供に取り組む。
2	計画・ねらい	素材を加工し、食の循環を知る
	実践結果	子ども自らが育てた野菜や、園庭に実る果物を食育活動に取り入れた。加工することで新たな発見に触れ、食への興味を高めることができた。
	次年度方向性	畑活動自体に更に力を入れて取り組み、加工する前の収穫から大きく携わっていく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムがもてる子どもの姿を目指す
	実践結果	散歩9時出発の定着が、もう少し課題として残っている。
	次年度方向性	引き続き、空腹感を感じ、食への意欲が高まるよう「散歩9時出発」を定着させ日中の活動を十分に行っていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月22日／11月28日に実施
歯科検診	6月1日に中里どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月27日に中里どろんこ保育園にて歯みがき指導を実施 ② 10月10日に中里どろんこ保育園にて風邪予防指導を実施 ③ 1月10日に中里どろんこ保育園にて性教育を実施
流行した感染症	① 12月にインフルエンザA、園児17名・スタッフ3名蔓延し、東京都多摩小平保健所へ報告 ② 2月に胃腸炎、園児30名感染報告有り。2月22日に終息
発作・痙攣等の対応	計100名に対し、計0回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・ 4月14日に中里どろんこ保育園にてエピペンロールプレイング研修を全スタッフ25名が新たに受講し習得済み ・ 本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、25名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・ 6月9日に中里どろんこ保育園にてAED使用訓練を全スタッフ25名が新たに受講し習得済み ・ 本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月30日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月22日、11月28日 歯科健診 各年1回／6月1日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月10日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	充実した室内環境の定着
	実践結果	子どもの興味・関心がどこに向いているかを観察し、定期的に室内環境の見直しを図った（年4回6月・11月・1月・3月に実施）。
	次年度方向性	引き続き、定期的に環境の見直しを実施する。
2	計画・ねらい	どろんこ遊び場の充実
	実践結果	定期的に土を足し、泥場の充実を図った。 鍋やスコップなど見立て遊びができる環境を充実させた（6月実施） ボールの数を増やしたことで、遊びの幅が広がった。
	次年度方向性	どろんこ遊びを通じた、続きのある保育ができるような環境を構築する （継続した泥だんごづくり等）
3	計画・ねらい	遊びの継続性の確保

実践結果	室内外共に、続きの遊びができる環境を構築した（5月実施） 定期的に環境の見直しを実施した。
次年度方向性	室内遊びにおいても、十分に継続した遊びが確保できるようなゾーンを1箇所以上設置する。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	すべり台	グラウンド	毎日	7月に完全撤去
2	タイヤの築山	グラウンド	毎日	7月に完全撤去
3	鉄棒（大・小）	グラウンド	使用都度	異常なし
4	レゴブロック作業台	幼児室	毎日	異常なし
5	作業台2つ	幼児室	毎日	異常なし
6	ままごと化粧台	幼児室	毎日	異常なし
7	オオムラサキ飼育小屋	グラウンド	侵入都度	異常なし
8	絵本コーナーテーブル	幼児室	毎日	異常なし
9	外用ままごとテーブル2台	グラウンド	毎日	異常なし
10	生き物コーナー台2つ	幼児室	毎日	異常なし
11	荷物かけ2台	玄関	毎日	10月に完全撤去
12	ベンチ3台	グラウンド	毎日	異常なし
13	お茶用の台	グラウンド	毎日	異常なし
14	一本橋	倉庫収納（幼児室）	使用都度	異常なし
15	遊び〇×ボード	幼児室	毎日	異常なし
16	鶏小屋	グラウンド	毎日	異常なし
17	ホワイトボード	幼児室	毎日	異常なし
18	外用玩具棚	グラウンド	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアル NO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・普通救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対
---	------	---

		応フ ローチャートに従った
2	実践結果	ケガ事故防止…危機管理マニュアル NO.3 (P8～) のケガ事故防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、S I D S 防止策を行いケガ発生時には対応フローチャートに従った
3	実践結果	不審者対策…危機管理マニュアル NO.3の不審者対策 (P14) に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従った
4	実践結果	光化学スモッグ…危機管理マニュアル NO.3の光化学スモッグ対策 (P15～) に則り、知識を身につけ、注意発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び清瀬市緊急連絡網に沿って情報を流した
5	実践結果	自園のヒヤリハット、インシデントをもとに検証・対策を積み重ね、怪我に対する危機管理をもって保育にあたった
6	実践結果	子どもの視覚から、遊びや生活の危険を伝えられるよう可視化を強化した
7	実践結果	防災…危機管理マニュアル NO.3の災害対策 (P 6 ～) に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・普通救急救命資格取得 (継続) 手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従った

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生は前年よりも少ない受け入れとなった。

中高生の夏の体験ボランティアでは、一日 5 名以内の受け入れとし、積極的な交流を図ることができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月1～20日	総合学園ヒューマンアカデミー チャイルドケアカレッジ こども保育専攻	1人	観察実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月1～2日	白梅学園高等学校	3人

11月28日	清瀬市立第三中学校	4人
--------	-----------	----

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 24名	12日 23名	9日 23名	14日 22名	10日 22名	8日 21名	13日 24名	10日 20名	8日 20名	12日 22名	16日 24名	21日 23名
園内研修	14日 24名	12日 23名	9日 23名	14日 22名	10日 22名	8日 21名	13日 24名	10日 20名	8日 20名	12日 22名	16日 24名	21日 23名
おはなしかごエリア研修 講師 鈴木裕子	9月29日・12月1日・1月26日に清瀬どろんこ保育園にて計41名のスタッフが出席 収支報告 費用 0円											

〈2〉外部研修への出席

園長大学・保育士大学にて研修を実施した

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ全員が一つの保育チームとなり、互いを育成し合う)

細やかなコミュニケーションをもとに相互理解を図り、頼り頼られる関係性を築いてきた。スタッフ同士が一丸となり互いの保育を確認し合い、伝え合うことで保育の質を高められるチームとなるよう努めてきた。また、自分の強みと弱みを認めることで相手の強みと弱みを認めることができるようジョハリの窓ワークを園内研修にて実施した。いかに自己開示をしていけるかに焦点をあて、自信をもって保育をしていける人間性を養ってきた。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

清瀬市のボランティア団体との交流が根付き、柳瀬川に生息している川魚と一緒に学ぶなど、地域を巻き込んだ保育が運営できた。青空保育では、参加者数が増加しなかったため、次年度は開催する公園の変更を検討している。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：伊藤記念公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：マルエツ、ファミリーマート、清瀬消防署、清瀬市役所、農協、郷土博物館 等
世代間交流	11月1日に清瀬中学校・清瀬第三中学校にて交流会を実施
異年齢交流	毎月水曜日に中里どろんこ保育園にて交流や合同保育を実施
その他活動	8月2日に中里どろんこ保育園にて異文化交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

清瀬第八小学校の一年生から招待を受け、交流会を通して、就学への憧れや期待を高めた。またスタッフ間の交流では、学習発表会に足を運び、小学1年生の学びの様子を体験した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月18日	清瀬第八小学校 1年生（全学年）	5名	学習発表会	職員間交流
2月21日	清瀬第八小学校 1年生	42名	交流会	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月開催されるケース会議にて計画を見直し、課題抽出を行った。写真や動画記録も併せて共有し合うことで、子どもの姿をより深く見立てて振り返る機会ができた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：62名

会議の開催が定着してきたことで、年間の流れに沿って対象児童の成長を月ごとに振り返ることができた。また、年1回発達支援交流センターとことこの職員にもケース会議へ参加して頂くことができた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

発達支援交流センターとことこ連携を図り、年間2回の巡回指導で子どもの姿を共有し、助言も頂いた。

実際に進学する小学校の先生が来訪し、子どもたちの様子を見ることで配慮事項などを細やかに引き継ぎすることができた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	0名	0名	4名	5名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	12名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み
自然食堂	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計3回実施済み

親子ランチ 交流	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	4名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	11名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 （支援セン ター主催）	月1回 公園名：伊藤記念公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	1名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	7名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

株式会社 学研データサービス R&C 評価事業部に依頼して受審済み

アンケート配布日：10月26日

アンケート回答率（スタッフ）88% / アンケート回答率（保護者）…44.3%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：2月2日に実施

保護者様からのアンケート回答率を伸ばせなかったことが、反省としてあがった。
スタッフアンケートに関しては、総体的に高い満足度であった。
保育の質を向上していくために、保育園からの通知はおたより配信を利用するなど工夫していく必要がある。

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：施設長、主任、幼児リーダー、乳児スタッフ、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

特になし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

特になし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：中里どろんこ保育園 施設長 小川 愛

2023年度 メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

生涯にわたる『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子を育てる』為に以下を基本方針とし、養護と教育を一体的に進めた。

- ・『にんげん力』を身に付けるために、遊びや野外体験、基本活動を通して経験を重ね、自分で考え行動する力を育んだ。
- ・子どもが自発的・意欲的に関わることのできる環境を構成し、主体的な活動や子ども相互の関わり合いを尊重した。
- ・自分のしたいことを満足するまでやり、思いを表出し、それを受け止めてもらうことのできる環境を構成し、一人ひとりが安心して生活できる場となるよう努めた。
- ・子育てに関わる全てのスタッフは、子ども一人ひとりを尊重し、命を守り、情緒が安定した中で、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられていくよう、その育ちを保證できるように努めた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どものありのままを認め、安心できる環境の中で、自分の思いを表出し、他者と協同しながら育ち合える関係を援助していく
	実践結果	・応答的な関わりを心掛け、子どもに寄り添い、気落ちを受け止めることで安心して自分の思いを表出できる環境を構築した。 ・週会議や園会議をはじめ、スタッフ間で子どもの姿や子どもを真ん中にした保育について話し合う場を持ち、子どもの興味関心に合わせた子ども主体の活動を行った。
	次年度方向性	昨年度より、子ども主体の保育、保育者は援助者ということを繰り返し確認しながら保育を進めてきた。一人ひとりのありのままを認め、安心できる環境の継続と自己肯定はもちろん、他者肯定ができる子を育てていく。
2	計画・ねらい	異年齢の子どもが混ざり合い、子ども同士が繋がる保育の実践
	実践結果	・保育園を一つの大きな家と捉え、全スタッフで全園児をみることを目標とし、好きな場所で、好きな遊びを、満足するまで遊び込める環境と異年齢で混ざり合い、子どもが自分で選ぶ活動の選択制を行った。
	次年度方向性	今年度は好きな場所で、好きな人と好きな遊びをして過ごす、子どもが選択できる環境を整えることができた。スタッフ間でも声を掛け合い安全確認に努めながら、次年度は活動の幅を更に広げられようしていく。
3	計画・ねらい	生活や遊びの中で連続性を保證する
	実践結果	・週日案や個別記録を使い、子どもの姿を継続して記録する。立案時には振り返りながら、長期的な見通しを持ち生活や遊びの連続性が保たれるよ

		うにした。
	次年度方向性	子どもの興味関心を知り、発達を理解しねらい（ねがい）を持った保育計画を立てることを意識し、保育の質上げへも繋げていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共育で～保護者の立場になって考える～
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 朝の受け入れ、お迎え対応では子ども、保護者と目線を合わせて話し、家庭での様子、園での一日の姿の伝達を丁寧に行う。特にお迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係作りを継続した。 保育参加の呼びかけを積極的に行い、園でのお子様の姿や子ども同士の関わり、異年齢生活やインクルーシブ生活を実際に見たり、体験したりすることで、理解を深めて頂けるよう努めた。
	次年度方向性	今年度の取り組みを継続して行い、日々丁寧な対応を行う。又、個別面談や保護者懇談会を利用し、個の姿と集団での姿、その中での成長を伝える場を持つ。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子ども同士の関わりが、手に取るように伝わる掲示や共有を行う
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳やタイムラインでの伝達に加え、ドキュメンテーションを用い、連続的な子どもの姿や、異年齢での関わり合いの様子、食育の様子など園生活の様子を掲示し、保育の見える化を継続して行った。又、子どもの姿が伝わる写真や掲示を意識し、保育者は言葉ではなく、写真から情景が思い浮かび、様子が伝わるよう子どもの姿を見抜く力を培った。
	次年度方向性	更なる保育の見える化の為に、保育スタッフだけでなく全スタッフは発信することを意識していく。又、大人目線での発信でなく、子どもが伝えたいことをドキュメンテーションや壁新聞にし、掲示するなど、子どもが行う発信を意識した取り組みを行っていく。
3	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境
	実践結果	いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境を継続できるよう心掛けた。
	次年度方向性	言われたからやるのではなく、自分事として捉え、一人ひとりが意識を高め、整理整頓と行き届いた環境を継続する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場となる地域に根付く保育園
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 園庭開放や青空保育では集団遊びや伝承遊びを取り入れ、園児との交流を深めたり、園生活の様子や保育の中での取り組みを伝えたりする場とな

		るようした。又、来園時には簡易アンケートを行い、利用者のニーズに合わせた支援内容の計画へと繋げられるようした。
	次年度方向性	今年度来園者は増加しているが、利用者のニーズに合わせた取り組みをするまでには行きつかず、ちきんえっぐ参加者への聞き取りや地域の親子の求める支援内容を探り、ニーズに合わせた活動を行っていく。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践結果	・園庭の畑を利用して、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工体験を年間で行い、実体験が伴う支援を行った。
	次年度方向性	園内の活動としては年間での体験が行えたが、地域支援としては単発の活動が好まれる傾向もあり、内容の見直しをし、単発の活動からリピートし月間、年間を通しての参加型支援となるようしていく。
3	計画・ねらい	・子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談の場となる
	実践結果	・ちきんえっぐだよりや園だよりの掲示場所を増やしたり、散歩先の公園で配布したり、入居するアトレ川崎と連携し HP や館内に掲載して頂くなど、園での取り組みを知ってもらう機会を増やせるよう努めた。 ・栄養士による離乳食相談会や子育て経験者、子育て支援員資格所持有者による子育て相談、系列の発達支援施設つむぎと提携し発達支援相談会を行い、子どもの発達や子育ての悩みを専門家に相談できる場を設け、子育て支援事業としての役割を広げていかれるよう取り組んだ。
	次年度方向性	今年度川崎区の子育て支援情報誌にちきんえっぐの予定を掲載するようになり、参加者増へと繋がった。掲示場所や配布場所を増やししながら、更に支援を必要とする人の利用に繋がるようしていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	一人ひとりが自走する
	実践結果	・スタッフ一人ひとりが自分で決めた課題、目標を適宜振り返り PDCA を回し続けながら、取り組んだ。 ・誰かがやってくれるのを待つのではなく、それぞれの担当業務の進捗を確認し合い、支援したり支援してもらったりしながら、園全体の業務を自分事として考えられるよう、各自が意識をしながら取り組んだ。
	次年度方向性	引き続き、自分でできることを探し自走する。又、若手スタッフには声を掛けサポートしながら、自走できるようなフォローをしていく。
2	計画・ねらい	保育者は援助者
	実践結果	・子どもの思いに寄り添い、受け止め、子どもを動かすのではなく、子どもの心を動かせる保育者となれるよう心掛けた。 ・子どもの心を動かす、子どもの気持ちを引き付けるため、素話や手遊び、歌遊び、シアターや絵本の読み方など、法人内の研修を利用し、保育の引き出しを増やした。又、学んだものを園内研修としてアウトプットす

		ることで理解を深めるとともに、園内の保育の質の向上に繋げていかれようにした。
	次年度方向性	自分で考えて行動できる子を育むために、必要な環境（物的・人的）を整え、ねらいを持った活動の実践を行う。
3	計画・ねらい	チーム保育を牽引するリーダーの育成
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質向上の為、園内研修を主導し、保育スキルの共有や日課や基本活動の意義を伝え、園内での理解を深めていくよう努めた。 ・子どもの姿を共有し、話し合い、意見を出し合い、互いの価値観を伝え、認め合う場を積極的に作り、子どもを真ん中にして語り合いながら、同僚性を培っていかれるようにした。
	次年度方向性	リーダーとして立つスタッフは、他者の手本となるのはもちろん、若手スタッフに寄り添い、個々の良さを伸ばしていかれる、一人ひとりが輝く場を施設長、主任と共に作っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事・実体験から食の循環を知る
	実践結果	稲の芽出し、植え付け、稲刈り、脱穀、精米までの一連の流れとして行うことで、実体験として経験できる機会を設けた。又、いわしの手開きや畑の野菜を使った調理、加工の過程を複数回経験することで連動性を持った取り組みとなるようした。
	次年度方向性	・農業計画を元に子どもたちと畑仕事を行い、季節の野菜や草花を収穫する喜びを味わい、収穫した食材を調理加工する。育てること大変さを知るとともに食材のありがたさを感じ、食の循環を知る機会を持つ。
2	計画・ねらい	給食残渣・残菜のリサイクル
	実践結果	毎日の残渣の確認をし、スタッフが園の状況を理解することで食の大切さを保健、食育の面からも伝えるようにした。コンポストは年度後半活用しきれず、残菜自体のリサイクルには繋がらず、次年度の課題となる。
	次年度方向性	・コンポストを使い、残菜を土に返す取り組みを子どもと共に行う。残食の行方を知ること「もったいない」という気持ちを育て、環境への意識を持つ

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	57人	64人	71人	66人	66人	360人
年度後半： 10~3月	36人	60人	62人	70人	71人	54人	353人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	227 人	221 人	274 人	202 人	177 人	274 人	141 人	162 人	184 人	169 人	188 人	168 人	2387 人
うち0 歳児	0人	1人	1人	1人	3人	1人	8人	5人	4人	6人	3人	4人	36人

（解説）3月は見込み人数で報告

一時保育利用状況

2023年度実施なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	4人	事務	1人	調理	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、行事について
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案・検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と対策の共有。子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有。
ケース会議	月1回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について
クラス会議	月1回	子どもの興味関心を知り、ねらいを持った計画の立案 安全に配慮したスタッフ配置。環境構成の見直し

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれに向けた保健指導の実施
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と不審者などの情報掲示、園内外のハザードマップの作製と更新
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施
食品衛生管理係	食育会議への参加、給食運営会議の計画や実施、食品の安全管理
畑係	年間の畑計画、プランター計画の主導と管理、子どもと行う作業計画

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ活性化の推進、計画、立案、とりまとめ、進行他
幼保小接続係	幼保小接続研修・小学校交流のとりまとめ、連携・接続の計画と立案
行事係	計画、立案、とりまとめ、進行他

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活について ・園での友達関係について ・発達について ・就学に向けて
保育参加	4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計8名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針
	実践結果	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を実践した。
	次年度方向性	今年度同様に『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』の継続。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理、加工する体験を通して、食や食材に興味を持ち、食の循環を知る
	実践結果	自分で育て、収穫し、調理、加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行った。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通し、子どもに伝えていくようにした。
	次年度方向性	今年度バケツ稲の栽培を行い、長期間で植える、育てる、収穫する、調理加工するまでを行った。実体験を通して食に興味を持つことにも繋がり、次年度も継続して行う。
3	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を身につける
	実践結果	給食の残食をコンポストで堆肥にし、再利用することやゴミを減らすことで身近にできることから、SDGsを知るきっかけ作りをした。
	次年度方向性	給食残渣は調理、施設長等一部のスタッフだけでなく全スタッフが把握し、と共に資源、食材の大切さを話し合う機会を持つようしていく。合わせて、コンポストを継続して行き、堆肥作りや再生栽培から食材を無駄にしないという意識だけでなく、知識も伝えていく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	0～1歳児 年6回（4月21日・6月23日・8月25日・10月25日・12月22日・2月22日） 2～5歳児 年3回（5月22日・9月14日・1月25日）に実施
歯科検診	6月14日にメリーポピンズアトレ川崎ルームにて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施

スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①6月に自園にて虫歯予防、歯磨き指導を実施 ② 7、8月に自園にて、夏の過ごし方、休息の取り方についての話をする（日々の保育の中で） ③ 1月に自園にて年長児を対象に性教育を実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月に自園にてエピペン使用研修を星野、上原、計2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、16名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・7月15日に鶴見どろんこ保育園にて救命研修を松下、ス山田、古田島計3名が、9月2日に自園にて救命研修を松岡、三井計2名が、合計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、7名が使用可能
その他保健に関する取組	・登園時の検温と、0歳児は午睡明けの検温を行った。又、登園の視診を丁寧に行い、健康状態の把握と管理に努めた。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底して実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月5日、10月6日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 0～1歳児 年6回（4月21日・6月23日・8月25日・10月25日・12月22日・2月22日） 2～5歳児 年3回（5月22日・9月14日・1月25日） 歯科健診 各年1回／6月14日、
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月17日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自由に行き来できる一つの大きな家
	実践結果	好きな場所で好きな遊びを楽しみ、安心して過ごせる環境の構成
	次年度方向性	好きな場所で好きな遊びを楽しみ、安心して過ごせる環境の構成の為に、子どもの興味関心を知り、発達を理解し、必要な環境を考え続けていく。
2	計画・ねらい	自然に触れて過ごし、実体験の伴う環境
	実践結果	・畑仕事では栽培の充実化を図り、生長を通して季節の変化を身近に感じる。 ・戸外活動では、季節の変化を感じたりや四季に触れて過ごしたりできることを踏まえ、散歩先の公園や散策先の設定をする。
	次年度方向性	今年度に引き続き、畑仕事や戸外活動では、引き続き季節の変化を感じたり、自然に触れたりしながら活動できるよう計画し、全スタッフは活動を率先して行い、子どもに背中を見せながら、実体験を通して伝えて行く。
3	計画・ねらい	経験の中で学び、身に付ける

実践結果	・子どもが実体験の中で危険を感じ、危険を予測した身体の使い方を身に付けていかれるよう、スタッフは子どもの姿を予測し、必要時には手助けができる位置で見守りながら、安全に配慮された環境を整えていく。
次年度方向性	全スタッフは子どもの興味関心、発達を知り、目の前の子どもを理解することで、子どもの行動を予測して動けるようになる。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行った。 ・年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練を合わせて行った。 ・入居するアトレ川崎の合同避難訓練に参加し、連携を図った。
2	洪水計画	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行った。
3	事故防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努めた。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直ししながら、安全配慮に努めていった。
4	不審者侵入訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけた。 ・入居するアトレ川崎の防災センターとの連携を図り、緊急時の体制を整えた。
5	光化学スモッグ	川崎市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行った。
6	救急救命講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習を行い必要時には全スタッフが正しい知識の元で使用できるよう努めた。
7	事故防止、設備点検チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有するようした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成の為、積極的に実習生・中高生の受け入れを行う。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子ども理解を深めていかれるようにする。又、保育者は実習生と向き合うことで自身の保育を振り返り、保育のプロとして子どもへ関わりや対応について考える機会とする。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14～25日	ヒューマンアカデミー	1人	見学実習
5月23 24日 7月4日 6日	日本児童教育専門学校	2人	見学実習
1月31日	横浜リゾート&スポーツ専門学校	3人	見学実習
2月6日～22日	国士舘大学	1人	インターンシップ

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	15日 12名	20日 12名	17日 15名	15日 15名	19日 13名	16日 14名	21日 15名	18日 14名	16日 12名	20日 16名	22日 16名	5日 16名
園会議内研修	15日 12名	20日 12名	17日 15名	15日 15名	19日 13名	16日 14名	21日 15名	18日 14名	16日 12名	20日 16名	22日 16名	5日 16名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月29日	川崎市子ども未来局	川崎市保育者とスタッフ研修（関係機関との連携により要支援児の対応）	2名	無
2月17日	公立大学法人神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	子どもの虐待プログラム	2名	無
3月5日（予定）	神奈川県福祉未来局	障害児保育研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デスマークインターンシップ	1月26～2月8日に1名のスタッフがアスモンズミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ一人ひとりが自走する

スタッフ一人ひとりがアトレ川崎ルームの顔として、日々の保育はもちろん、保護者対応や地域交流を自分事として捉え、園としてのねらいや課題を理解しながら実践できるようになる。又、園内では行事や研修をスタッフ主導で進めていくことで、自身で調べ得た情報をアウトプットすることで、より理解を深めるとともに他者に伝える伝え方を引き続き学び、自らそのPDCAを回すことで、変化し続けていく。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

- ・実体験の伴う地域支援
- ・園の置かれた駅前での利便性が良いという環境を最大限に活かし、地域の子育て支援拠点として地域の子育て家庭が集う場を目指す。
- ・入居するアトレ川崎や近隣の商業施設、同法人内に川崎西ロルームと連携を図り、地域に求められる子育て支援を実施する。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:スカイコート(アトレ川崎内)にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：アトレ川崎営業部、アトレ川崎防災センター、川崎駅前長室、川崎消防署、川崎幸消防署、赤ちゃん本舗、ユニディ、川崎駅前交番等
世代間交流	・高齢者施設の定期訪問や公園、銭湯の日や商店街ツアー、公共の場での交流
異年齢交流	幼保小接続の中での定期的な小学校との連携、地域の中高生による園訪問などのボランティア活動を行いながら、子ども達が年齢の枠を超えて関わり合う。その中で、社会性・協調性・思いやりの気持ちなど人と関わる力を育む。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校1年生の姿を見て知り、逆算した保育を遂行する。年長児を担当する保育者だけでなく、全スタッフは、小学校との接続研修や授業参加、子ども間交流に積極的に参加し、入学後の姿を実際に見て知り、知り得た情報をもとに、子どもの育ちの連続性が保証された接続を目指す。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月27日	藤崎小学校	1名	運動会見学	スタッフ間交流
5月27日	川中島小学校	1名	運動会見学	スタッフ間交流
5月27日	川崎小学校	2名	運動会見学	スタッフ間交流
9月5日	浅田小学校	1名	授業参観	スタッフ間交流
9月6日	川崎小学校	1名	授業参観・意見交換	スタッフ間交流
6月～12月	川崎区年長交流	9名	手紙交換	子ども間交流
3月（予定）	川崎小学校	11名	学校探検	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

- ・ 4～3月に計12回開催 参加者：毎月2～4名
- ・ 配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践していく。
- ・ 定期的につむぎからの訪問巡回や合同ケース会議の場を持ち、専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを学んでいく。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

- ・ 進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへと繋げていく。又、日ごろから全スタッフで全園児を見ることで、担当するクラスの子意外にも目を向け、信頼関係を築きながら、養護と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めていく。
- ・ 進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	10名	4名	185名	92名	50名	90名	29名	45名	15名	58名	39名	623名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計8回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	4名	2名	0名	0名	2名	0名	3名	2名	6名	6名	6名	23名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	6名	

勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：スカイコート（アトレ川崎内）にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	6名	2名	0名	6名	5名	5名	0名	0名	4名	4名	5名	41名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：14時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：施設長、主任、リーダースタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：104%

(省察) アンケートを通して園内、園と家庭での共有、連携不足について等、昨年度から課題としていたことの、改善状況と継続課題が見えた。保護者の立場を考えた対応、保育の見える化を意識してきたことで、保育に対するご理解は頂けているが、共有不足や連絡の遅れもあり、丁寧な対応には至らず、引き続き保護者との信頼関係の構築を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム 施設長 松下 杏

2023年度 春日どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

春日どろんこ保育園では、どろんこ会グループ法人保育理念「にんげん力、育てます。」と二大保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤にして、2023年度に園で大切にしたいことを「わくわくしよう、やってみよう」と「次の人に気持ちよく仕事をしてもらおう」とし、チームで運営を行った。

その結果、昨年度と同様に職員は個々にやりたいことを具現化し、保育園の日々の生活では職員も子どもも笑顔にあふれた雰囲気が見られるようになってきた。まだ全ての状況で自発性が見られているわけではないが、この温かみのある雰囲気が継続的にみられることは評価に値すると感じている。また、園の仕組みとしては、ミドルリーダーを中心として職員同士で話し合いを進める文化が醸成されつつある。この先もこの点は春日どろんこ保育園の文化として定着をさせていきたいと考える。昨年度と比較して掃除にも注力し、少しずつ園の中が整理されていっていることもまた今年度の特筆すべきことだった。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	個々の子どもの発達を職員が理解し把握する。
	実践結果	子どもの発達に関する知識や観察するポイントの研修を行った。 子どもの姿が保育記録に適切に記載され小学校接続や発信へつながった。
	次年度方向性	子どもの発達に関する研修を行った。保育の記録を継続的に行い小学校などへの接続につなげた。
2	計画・ねらい	子どもが自発性を持ち日々の日課や活動に参加し、体験を自分なりに表現する。
	実践結果	発達と個性と意思に合った日課や遊びを実現できるように環境を設定。 職員が本当に子ども中心で動いているかを振り返った。
	次年度方向性	子どもが体験を選べるように環境構成を行った。 子どもが自分で好む方法で表現できるように表現コーナーを新設した。
3	計画・ねらい	子どもが多様な人と関わり、協働して遊びが展開される。
	実践結果	大人が黒子の役割であることを認識し、子どもが自分たちの生活での決まり事を作っていき場面が増えた。子ども同士と一緒に遊ぶケースを作ることによって集団遊びが展開されていた。
	計画・ねらい	個々の子どもの発達を職員が理解し把握する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、家庭と保育園の両方で子どもが健全に保育をされる。
	実践結果	保護者が気持ちよく子どもを迎えられるお迎え対応として、各個人が保護者と話せる場をなるべく作った。方針を共有できる保護者懇談会、保護者が気持ちを話せる保護者面談などを行った。
	次年度方向性	話す場を作っていたがまだ物量が足りていないため、翌年度はより話せるように仕組みを進化させていく。
2	計画・ねらい	5S（整理整頓清掃清潔しつけ）を徹底した保育園となり来訪される保護者様が心地よく感じる。
	実践結果	整理整頓清掃清潔しつけのうち、整理整頓は概ね完了した。
	次年度方向性	清掃である点検に対する意識に個人差があるため、引き続き習慣化できるように進めていく。
3	計画・ねらい	子どもが成長している姿が多様なメディアツールで共有される。
	実践結果	おたより、掲示物、写真販売、外部発信ツールなど進めていたが頻度高く発信することができなかった。
	次年度方向性	より頻度高く発信できるように、テーマを決めて職員同士で進めていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育てセンター「ちきんえっぐ」を拠点とし、地域に開かれた子育て相談の場所として役割を全うする。
	実践結果	一時保育の受入れ、園庭開放、子育て相談と講話、イベント、子育て講座、育児相談会などを行った。
	次年度方向性	概ね計画通り進めることができた。いまだコロナ禍の影響があり集客できない日もあった。いつでも集客できるように準備をする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	全職員が「心理的安全性」を大切にし、職員間の言葉遣いや立ち居振る舞いに気を遣い、お互いに思いやりを持って気持ちよく働ける環境を作る。
	実践結果	自己肯定感を高め自己開示の研修、他者との関係を作るための研修を全職員向け、リーダー向けに行った。また議論の文化を重要視するよう都度働き掛けた。
	次年度方向性	自己肯定感を高める振り返りや他者との関係性を作るための研修はチームへの安心感を高められた。翌年度も改良しつつ進めていきたい。
2	計画・ねらい	全職員が保育のプロとして自覚を持ち、自分の知識をより深める。またそれを実行に移す。

	実践結果	子どもの発達に関する知識を深める研修、発達理論と実践をつなげる研修、若手勉強会、ケース会議など。また自分で外部研修へ行くよう促進した。
	次年度方向性	保育の内容、保護者対応、保育をチームで行うための勉強会など世代ごとにテーマを絞っての勉強会は効果的だったため次年度も進めていく。
3	計画・ねらい	リーダーはスタッフの声を拾い上げ課題を設定し、保育の質の担保と園務分掌の仕組みづくりを行う。
	実践結果	目標設定を職員自ら行い、達成のために園長・主任・リーダーと主に園運営における課題の設定を行い業務の仕組みづくりを進めた。
	次年度方向性	すべてのスタッフが目標達成をするため、よりチームで深く話せるように仕立てていく。
4	計画・ねらい	心地よい園を作る
	実践結果	5Sを徹底した。整理：要不要の区別 整頓：場所を決める 清掃：きれいな状態であることを点検する 清潔：きれいな状態を保つ しつけ：習慣化する
	次年度方向性	昨年度よりも物が整ったため、習慣化できるように進める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	持続し循環する環境を知る（SDGs）
	実践結果	調理の廃棄物を土に返す取り組みがスタートした。子どもが興味を持ち一緒に取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	もともと堆肥の醸成は進めていたので、食の循環についてより分量を増やせるように進めていく。
2	計画・ねらい	食べたい料理の原材料を育てる
	実践結果	食べたい料理を想像しながら作物を決め、畑の取り組みを進めた。子どもたちが収穫に向けて畑仕事を楽しむ姿が見られた。
	次年度方向性	子どもの意見を反映させることは活発な活動につながったため、次年度も進めていく。収量を上げられるようにより細かく畑のケアをしていく。

〈6〉チーム春日どろんことしての組織文化の確立

1	計画・ねらい	個々の職員の考え方、気持ち、知識、知恵を合わせ、組織の強みとする。
	実践結果	職員のいいところと得意分野を共有する場、個人の強みに併せた園務分掌を使用した。
	次年度方向性	職員のモチベーション向上に寄与することができたため次年度も継続する。

2	計画・ねらい	まずはやってみる。改善していく。
	実践結果	周りを巻き込みスモールスタートを実践、改善をして品質を上げていった。
	次年度方向性	まずはやってみることで次の打ち手が見つかったというケースが多く見られたため、次年度も継続していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	52人	144人	143人	168人	176人	185人	868人
年度後半： 10~3月	72人	144人	140人	170人	183人	185人	894人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	255 人	261 人	299 人	354 人	321 人	332 人	392 人	404 人	407 人	398 人	432 人	400 人	4255 人
うち0 歳児	4 人	4 人	5 人	10 人	10 人	7 人	14 人	28 人	25 人	26 人	32 人	30 人	195 人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	11 人	23 人	34 人	46 人	52 人	46 人	71 人	84 人	81 人	71 人	80 人	70 人	669 人
うち0 歳児	2 人	13 人	13 人	10 人	16 人	15 人	17 人	16 人	16 人	14 人	19 人	18 人	169 人

（解説）コロナ禍の影響はだんだんと影を潜め、昨年度と比較して徐々に利用者数は増えてきた

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	22人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務	0人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピテンシー ・ 保育の質向上に関わる勉強会 ・ 保育の振り返り、及び、次月に向けての意見交換 ・ 研修報告、保育の質を上げる園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー児確認・対応、食育計画確認、食事提供の改善ディスカッション
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故報告の共有と注意喚起、必要な事案を検討し日々の保育に活かす
ケース会議	月1回	発達に特性がある子どもについての情報共有、支援計画の振り返り
週案会議	週1回	各クラスの保育計画の全体統合
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、子どもの姿の共有
リーダー会議	月1回	園全体の関わるクラスを横断する議題の意思決定

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ

施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	清掃指導と衛生管理、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの見直しと更新
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消火・通報および避難訓練を定期的実施
食品衛生責任者	食材発注および給食提供食材の衛生管理と在庫管理
畑・田んぼ係	畑・田んぼの計画・管理、用具類の管理および補充
生き物係	生き物の世話の計画・管理
写真係	写真チェック・販売申請、卒園アルバム作成
保育環境整備係	子どもが遊び込める室内・園庭環境整備、提案、実施
備品発注係	消耗品・事務用品・保育材料の購入、管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭係	祭りの企画・運営、地域への広報
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業管理

子育て支援係	ちきんえっぐの活動計画、実施
--------	----------------

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児：ゆったりとした関わりの中で、子ども一人ひとりの気持ちや意欲を尊重し、健やかな発達を促した。また、安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、愛着関係を形成し、自己肯定感を育むよう取り組んだ。 ・幼児：個々の発達を把握し「見守る保育」を実践する中で、子どもが自らやってみたいと思えるような環境を整え、遊びによる満足感や充実感を得られる保育を行った。また、好きな遊びを見つけ、戸外や室内で友だちを意識して遊んだ。
保育参加	<p>4～3月まで 合計22名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施。「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	五感を使える体験を行い多様な味覚を育て、子どもも大人も心身ともに豊かになる。
	実践結果	畑仕事などの日課、日々の味見体験、出汁比べなどの行事を行った。
	次年度方向性	日課が少しずつ形になってきたが、畑への興味がそこまで強くない。翌年度はより多くの機会を子どもと一緒に作っていく。
2	計画・ねらい	持続可能な食環境を子どもが考えられる機会を作る。
	実践結果	食べこぼしの認知、バイキングにて自分が食べきれる量の把握、残食糧の可視化、堆肥作りなどを行った。
	次年度方向性	食べこぼしは学年が上がるごとに減っていったが、残食量はそこまで変化がない。畑への興味と合わせて子どもと一緒に考えていく機会を作っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月27日／11月5日に実施
歯科検診	7月16日、12月7日に春日どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施 年度途中より配信に切り替え
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	1月12、15日に自園にて性教育(命の教育)を実施 日々都度手洗い指導を実施
流行した感染症	9月 アデノウイルス感染症が発生。 12月 インフルエンザが流行。
発作・痙攣等の対応	ダイアップ使用なし、お預かり1名 救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	4月に園会議にてアレルギー対応研修を行い、参加者25名が受講。 欠席スタッフ計4名が翌週新たに受講し習得済み。 本日時点で、在籍スタッフ31名のうち、30名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし
その他保健に関する取組	各種ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月15日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／4月27日、11月15日 歯科健診 各年2回／7月6日、12月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理整頓・清掃・衛生管理
	実践結果	保護者への接遇の重要性を知るための研修。理想状態を作り共通認識を作ること、日々確認するべきことを徹底することをリーダーと共に確認を行った。
	次年度方向性	整理整頓が整いつつあるがまだ十分ではない。翌年度に重点的に取り組んでいく。
2	計画・ねらい	室内環境・屋外環境
	実践結果	物的環境と自然環境を子どもの発達に併せて適宜更新した。 室内では子どもの発達に合わせて一人ひとりできる環境を作った。 屋外では子どもが自分の好きなことを徹底するために火水土など十分な素材を用意した。また園庭に樹木を多く植え日陰をたくさん作り居心地のよい空間を作った。
	次年度方向性	園庭は子どもの興味に合わせて少しずつ整えることはできたが室内環境は改善を定期的に行えるように仕組みの見直しが必要。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ベンチ兼テーブル	園庭	毎日	異常なし
2	六角テーブル	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い火災・地震の避難方法を確認。（6月・11月は消防署と連携をした総合訓練を行う）災害緊急時にはアプリを使って園児情報を発信する。
2	事故防止	危機管理マニュアルのケガ事故の防止策に則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。ハザードマップを作成・半年に1度更新し、ケガや事故防止に努めていく。毎月の事故防止委員会で事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書の共有・分析、防止策を検討し再発防止に努める。
3	防犯対策	警察と協力し年2回不審者侵入訓練を実施し、不審者侵入時にはフローチャートに従う。日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。
4	光化学スモッグ pm2.5	危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグ・pm2.5の知識を身につけ、注意報発令の把握をしながら発生時には、光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従い対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生や中高生の職場体験・交流などの受け入れは、次世代育成・地域貢献のため積極に行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて保育・子育てで大切なこと、大事にして欲しいことなどを具体的に理解し易いように伝え、援助や指導を行う。また、実習生には保育の楽しさや魅力を熟練度に沿って伝えるように配慮し、次世代を担う実習生にとって保育の魅力を感じてもらえるようにする。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6/5-16	福岡こども専門学校	1人	責任実習
6/12-22	中村学園大学	1人	責任実習
8/7-18	中村学園大学	1人	責任実習
8/7-21	中村学園大学短期大学部	1人	責任実習

8/16-28	香蘭女子短期大学	1人	責任実習
8/17-28	福岡子ども短期大学	1人	責任実習
9/1-12	中村学園大学短期大学部	1人	責任実習
2/5-17	筑紫女学園大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
10/19~21	西日本短期大学付属高等学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 30名	19日 30名	23日 30名	21日 30名	18日 30名	22日 30名	27日 30名	17日 30名	22日 30名	26日 30名	28日 30名	31日 30名
園内保健研修	21日 30名	19日 30名	23日 30名	21日 30名	18日 30名	22日 30名	27日 30名	17日 30名	22日 30名	26日 30名	-	-
若手勉強会	-	26日 10名	30日 10名	29日 10名	25日 10名	29日 10名	27日 10名	24日 10名	22日 10名	26日 10名	23日 10名	22日 10名
リーダー勉強会	-	-	-	-	-	-	13日 6名	10日 7名	15日 8名	-	-	-

〈2〉外部研修への出席

- ・法人の意向により春日市への研修は参加者なし
- ・キャリアアップ研修は各自が独自に受けた。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 2名	16日 2名	20日 2名	18日 2名	22日 2名	19日 2名	17日 1名	21日 1名	19日 2名	16日 2名	20日 2名	19日 2名

施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉若手勉強会

毎月第4金曜日の14:00～14:30に、3年目までの職員を対象に月に1回勉強会を開催した。テーマは若手に身に付けてほしい項目に特化し研修の担当は4年目以降の職員が担当した。

〈6〉リーダー勉強会

隔月で教える立場の職員を対象に育成について学ぶ勉強会を開催した。テーマは育成について幅広く選定、職員の育成状況の確認、指導方針の統一、心理的安全性の構築方法、ファシリテーションの方法などの勉強を進めた。講師は園長が行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていけるよう実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：大谷ふれあい公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：白石商店、春日ふれあい文化センター、春日市商工会、春日市図書館、80dogs、三幸サイクル、サニー宝町店、パンドカンパーニュ、宝町郵便局、伯玄ガーデン、等
世代間交流	感染症予防の影響で実施なし。
異年齢交流	春日どろんこ史上初めての同窓会を開催
地域拠点活動	一時保育・ちきんえっぐ・地域行事への参加

銭湯でお風呂の日	なし
----------	----

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

下の計画について、小学校と相談・協議を4月より開始した。メインは大谷小学校と交流を図り、他小学校とも連携を進めた。スムーズな就学を目的とし、情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月29日	春日東小学校	2名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
6月2日	春日南小学校	1名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
6月5日	大谷小学校	2名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
6月22日	須玖小学校	1名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
6月27日	天神山小学校	1名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
6月28日	春日野小学校	1名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流
8月1日	職員間連携	1名	学校訪問と周辺確認	小学校見学 職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成した。家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばしていけるように支援し丁寧に関わった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

(4～3月に計12回開催予定 参加者：各回25名)

毎月1回 年間計12回開催。日々変化していく子どもの様子を記録し職員全員での共通理解を図った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

特に幼児クラスにおいては、就学を見据え必要に応じて関係機関との連携を図った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
150名	150名	150名	750名	150名	130名	600名	150名	150名	150名	450名	150名	3130名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	10名	2名	13名	4名	8名	3名	6名	0名	4名	2名	56名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：大谷ふれあい公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	-	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	1名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月23日、10月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：田中誠、森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：72.9%

頂いたご意見の中では、保育園の様子をもっと知りたいという声が多かった。お迎えにより多くの情報を伝達できるよう仕組みを整えたり、タイムラインでの情報発信や行事の際に子どもの姿をよりお伝えできるようにする方針を新たに決定した。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：春日どろんこ保育園 施設長 鈴木裕二

2023年度 宮下どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度においては「誰もが主役になれる場所」を大テーマとし、施設運営を行った。子どもが中心はもちろんではあるが、時には保育者が中心となり得意なことや個性を發揮しながら保育を実施した。保育者が楽しむ姿を見せることで、子ども達も意欲的に楽しみながら活動に取り組む姿が見られていた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「体験を経験に。」 様々な体験の場を用意していくことはもちろんのこと、量を増やすだけでなく、体験したことを生かせる場面を通して経験に繋げていくことが重要である。保育者は子どもにとって必要な体験やその先の経験を見据えた、ねらい、計画を立てていく。
	実践結果	体験を沢山行うことは大切であるが、いかに経験として自身の学びにつなげていくかが重要である。そのために、体験活動は日常的に組み込んでいき、繰り返し行っていったことで体験を経験に変える機会を設けることができた。
	次年度方向性	次年度においても、火・土・水を軸に自然体験活動等を積極的に実施していき、子どもたちの学びにつなげていく。
2	計画・ねらい	「保育の連続性」 保育園は子ども達が毎日生活する場であるため、日々の保育の連続性を大切にし、見通し持って生活が行えるよう環境設定や様々な機会を保障していく。毎日の活動については保育者が主で考えるのではなく、子ども達と話し合い散歩の行き先や活動の内容を決めていく。
	実践結果	保育の連続性とは何かを考え、「明日も楽しみに保育園に来たい気持ち」ではないかと考えた。子どもたちは日頃からブロックや製作遊びを楽しんでいるが、帰りには壊してから帰る決まりがあったためルールの見直しを行った。結果、作品を保管しておける棚を用意することで、翌日も「きのうの続き」ができるようになり、意欲的に登園する子どもの様子もみられるようになった。
	次年度方向性	次年度も上記の取り組みを続けていくと共に、子ども達と散歩先を決めることや、活動内容を子どもたちで決める等の関わりも行っていく。
3	計画・ねらい	「好奇心をくすぐる保育」 物事を探求しようとする「不思議」「もっと知りたい」「試したい」という感情が刺激されるような体験、仕掛けを用意していく。感動体験を繰り返すことにより、様々な事柄に挑戦する意欲や探求心、想像量を育む

実践結果	日々のゾーン保育の中で科学コーナーを設けたにより、日頃から物事や事象に対し「知りたい」「なぜだろう」と考える習慣が付くようになった。また、保育者もすぐに答えを出すのではなく、子ども自身で考えられるような言葉がけを行ったり、一緒に調べてみたりするなど子どもの興味関心が広がるような関わりを意識して行うことができた。
次年度方向性	次年度も日頃から科学に興味関心を持てるような環境構成を行っていくことで、科学以外の事象に対しても興味関心を持ち「なぜだろう」と考え探求しようとする子ども育てていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「一歩先を見据えた保護者対応」 保護者の気持ちに寄り添った対応を心掛けることはもちろん、保護者が求めている事柄に対し、複数の対応策を提示するなど一歩先を見据えた対応を行っていく。
	実践結果	日々の中ではお迎え時に保護者と園での様子や家庭での様子を聞いたり、共有したりすることができた。また、保護者面談月間を設けたことにより各家庭とより詳しく話をすることができ、子育て相談や日々の成長を伝え合うことができた。
	次年度方向性	今年度において面談月間は1回のみであったが、次年度は2回に増やすことも検討していく。2回開催できなくても、いつでも面談ができることや、必要に応じて保育者から面談のご相談等も行っていく。
2	計画・ねらい	「お迎え対応」 「012歳クラス」 エピソードなどを交えながら、お子様の園での様子を手に取るようにお伝えしてく。 「345歳クラス」 活動内容やお子様の姿の一部分をお伝えする「キーワード伝達」を行うことにより、ご家庭での会話作りのきっかけを提供する 乳児幼児クラス共に、子どもの体調面や様子の変化についてはより丁寧にお伝えすることで、家庭との連携を密に行っていく。 また、連絡帳やタイムライン等を活用しながら保育の様子を発信していく。
	実践結果	お迎え対応において幼児クラスではキーワード伝達を意識しながら行うことができた。乳児クラスにおいてはお子様の様子を手に取るようにお伝えし、保護者と除法の共有などをより詳しく行うことができた。
	次年度方向性	次年度も上記の対応を念頭に置きながら、お迎え対応の質向上を目指し保育者間で話し合っていく。
3	計画・ねらい	「ポートフォリオの活用」 保育園での様子をより詳しく丁寧にお伝えできるよう、ポートフォリオ等の活用も行っていく。子どもの様子だけでなく、園内環境設定や保育のねらい等にも触れることで、保護者にも保育活動におけるねらいや考えを共有していく。

実践結果	<p>幼児クラスでは、日々の取り組み内容を4期に分けてポートフォリオを掲示することができた。保護者は見やすい玄関に掲示したことにより、保護者の方へわかりやすく保育の取り組み内容をお伝えすることができた。</p> <p>乳児クラスでは定期的に行うことができなかったが、発表会に向けてポートフォリオ作成やスライドショーを作成し展示を行ったことで、日々の様子をお伝えすることができた。</p>
次年度方向性	<p>次年度は幼児乳児でフォーマットを統一し、配信頻度も合わせることで、より保育園の様子を保護者へお伝えできるように仕組化していく。</p>

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	<p>「地域の子育て支援拠点としての役割」</p> <p>地域の子育て拠点として、積極的に地域へ情報を発信していく。いつでも気軽に支援センターを利用できるよう、園舎周辺の清掃や日々の挨拶等を丁寧に行うことで、地域に開かれた園を目指していく。</p>
	実践結果	<p>子育て支援拠点として、ちきんえっぐでの様々な体験や情報提供などを行うことができた。また、市役所や図書館をはじめとする市の施設等にもお願いをし、継続的に地域に向けて周知を行うことができた。</p>
	次年度方向性	<p>市の施設だけでなく、地域のお店や子どもが集まる場所へも積極的に出向き、ちきんえっぐの案内を置かせていただけるようお願いをしていく。</p>

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<p>「保育者同士の学び合い」</p> <p>保育の質向上のために研修を受講することはもちろん、職員同士で知識を共有（アウトプット）することで相互の学びに繋げていく。研修を受けるだけでなく外部に向けた研修の実施や社内外に向けた取り組み発表等も行っていく。また近隣園の宮下どろんこ保育園とも連携し、研修の場や交換研修等も実施していく。</p>
	実践結果	<p>職員個人ではキャリアアップ研修をはじめとする外部研修へ積極的に参加する姿が見られた。園内研修においては職員の強みを生かし、保育のねらい研修やリズム体操研修を自主的に参加し学びあう姿も見られた。</p>
	次年度方向性	<p>次年度も研修の案内を職員間で共有し、学びの機会を増やしていく。また、会議の中で研修報告会を行うなどして学びあう姿勢や仕組みを維持していく。</p>

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	<p>畑仕事や生き物の世話に日々携わり、命の大切さや労働についての気づきを深めていく。</p>
	実践結果	<p>積極的に携わっていくが、継続してできていない。労働についても、なかなか参加できていない。</p>
	次年度方向性	<p>児童が自然にやってみたくなるような働きかけや、見守りの中で、自分で出来ることを見つけられるようにしていく。</p>

2	計画・ねらい	自分たちで育てた植物や野菜を使った活動を充実させ、食の循環を学んだり、調理や加工したりし、楽しさを知る。（クッキング、表現活動など）
	実践結果	積極的に畑活動をし、クッキングに繋げていくことができた。猛暑の影響や冬の時期の活動について、課題が残る。
	次年度方向性	畑活動の充実とともに、計画的に進め、一年を通して、畑活動ができるようにしていきたい。

〈6〉保育者の原体験

1	計画・ねらい	「火の取り扱い、野外調理を学ぶ」 保育者自身が火の取り扱いや効果についても学び、保育の中に焚火等の活動を積極的に取り入れていく。また、焚火を活用しせんべいや焼き芋、パン作り等を行うなどして「火×食育」活動にも繋げていく。
	実践結果	冬季では日頃から定期的に焚火を行い、収穫した野菜を焼いて食べたり、味噌汁を作って食べたりしながら食育活動を行うことができた。また、職員や子どもに対して焚火の研修を行ったことで、子どもだけでマッチを使用して火をおこしたり、薪をくべたりすることができるようになり、発表会で保護者へお見せすることもできた。
	次年度方向性	次年度も、イベントではなく日常から焚き火を行い、子ども自身が経験として学びながら火との距離感や自然の楽しさや恐怖感といった2面性を知ることができる体験を用意していく。
2	計画・ねらい	「水遊び、川・海遊びのプロとなる」 幼少期の水遊びは五感の刺激や水に触れる楽しさ、怖さなどを学ぶことが出来るため、積極的に活動へ取り入れていく。施設長を中心に川遊び研修や水辺のリスクマネジメント研修等をおこない、水遊びのプロを育成していく。
	実践結果	本年度においては施設長が中心となり、職員に川遊び指導者の研修の参加を促し、4名が川遊びの資格を取得することができた。その資格を生かし、5歳児を対象に川遊びのイベントを実施することができた。
	次年度方向性	次年度はイベントではなく日常的に川遊びを実施し、子ども自身が川に対するリスク管理を覚えながら、川の楽しさや危険性についても学んでいく。
3	計画・ねらい	「自然の中での不自由体験」 希望者を募り、施設長が管理する福島県下郷町の廃校（シルマンスクール）を利用して1泊2日の自然体験研修を実施。自然の中で時間を忘れ、不自由な体験を通して感性を高め、生きる力を培う。
	実践結果	上記イベントにおいては施設長を始めとする外部の団体が研修を企画し、福島県で研修を行った。自園からは5名の職員が参加し学ぶことができた。
	次年度方向性	次年度も自園研修だけでなく、外部研修にも目を向けて様々な学びを得る機会を設けていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人
年度後半： 10~3月	6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	104 人	137 人	112 人	121 人	91人	103 人	140 人	100 人	122 人	112 人	108 人	120 人	1370 人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	1人	1人	1人	23人	4人	6人	2人	6人	16人	19人	8人	87人
うち0 歳児	0人	0人	1人	0人	16 人	3人	5人	2人	3人	13人	14人	6人	63人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人
	事務	1人	施設長	1人	主任	1人
パート スタッフ	保育士	5人	用務員	1人	嘱託医	2人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	食育活動の提案や振り返り 食事環境についての振り返り、改善策の検討
事故防止委員会	月1回	自園、他園の事故記録簿を活用し、事故防止に向けての討議や ハザードマップの見直し等
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有、個別記録、振り返り
リーダー会議	週1回	担任、担当同士の情報共有、相談、計画立案

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生改善と疾病の予防措置、保育所の衛生全般の維持管理
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検、ヒヤリハット、インシデントの集計、分析
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生管理係	食品の取り扱いに関する業務、調理室、配膳用品の衛生維持管理
畑係	畑の年間計画の遂行、維持管理
生き物係	生き物の飼育、管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、運営

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	2023年度事業計画に基づいて保育を実施。
保育参加	4～3月まで 合計30名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計75名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	「子どもたちが食育を通じてSDGsの課題を意識し、体験を通じて学びを深めていく。」日々の食育活動を通して、残菜量の比較や環境課題についても学んでいく。また、コンポストの運用を通してリサイクルについても学ぶ。
	実践結果	コンポスト活用においては全クラスで実施することができた。 野菜くずを子どもたちでちぎり、乾燥させ混ぜ込む等の作業をしながら、SDGsについての話も伝えながら行った。
	次年度方向性	給食の残菜においては変化がいられていないため食育活動を継続しながら食べるものおいしさを知り、大切さを学びながら残菜減少に対する意識を強めていく。
2	計画・ねらい	「火×食材」 調理の原点、薪や炭を利用した調理方法を体験し、直火ならではの魅力を感じる。日頃から焚火を行い、火の取り扱いについても身に付けていく。
	実践結果	冬季では日頃から定期的に焚火を行い、収穫した野菜を焼いて食べたり、味噌汁を作って食べたりしながら食育活動を行うことができた。また、職員や子どもに対して焚火の研修を行ったことで、子どもだけでマッチを使用して火をおこしたり、薪をくべたりすることができるようになり、発表会で保護者へお見せすることもできた。
	次年度方向性	次年度も、イベントではなく日常から焚き火を行い、子ども自身が経験として学びながら火との距離感や自然の楽しさや恐怖感といった2面性を知ることができる体験を用意していく。
3	計画・ねらい	「食材の流通経路や加工方法について知り、興味関心を持つ」 朝の活動時に野菜の下処理や米研ぐ機会を設けていく。 定期的に保育室で米を炊き、出来上がる匂いと共にお腹が空く経験を増やしていく。
	実践結果	魚の解体ショーのイベントでは、施設長が自ら釣りへ行き釣ったヒラメを子どもたちの前で捌き、フライにして食べるすることができた。
	次年度方向性	子どもたちは興味関心を持ち、魚が苦手な子どもも積極的に食べていたため、解体等を含めた食育活動も行っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月21日／11月30日に実施
歯科検診	12月6日に宮下どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）

その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月1日に咳エチケット指導を実施 ② 8月1日に夏に流行る3つ感染症の話を実施 ③ 12月1日に手洗い指導を実施
流行した感染症	① 12月にインフルエンザ、園児37名・スタッフ6名蔓延し、本部へ報告
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に宮下どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ26名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ24名のうち、24名が使用可能

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施済み
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施済み
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施済
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月21日、11月30日 歯科健診 各年1回/12月6日

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「子ども自ら環境へ関わり、失敗や成功を経て経験を得る」 子どもが主体的に環境への関わりを持ち、自ら遊びを作り出すなど能動的に動きたくなる環境作りを行う。様々な失敗から経験を積んでいく幼少期においては、大人が先回りせず側で見守られる中で失敗や成功を繰り返し、自身の経験に繋げていく。
	実践結果	保育活動の中で、子どもが失敗するとわかっていてもあえて先回りはせず見守りを行った。また、失敗した際にもなぜできなかったかを子どもに問いかけ自身で考え学べるような言葉かけを行った
	次年度方向性	次年度においても同様の関わりを行っていく。また、全員が同じ対応を行えるように関わりの事例等を職員間で共有していく。
2	計画・ねらい	「四季を通して、地域の自然環境へ興味関心を持ち、関わりを深める」 四季折々の植物や生き物に触ることで感性を磨く。 保育者が教えるのではなく子ども自身の発見や気づきを大切に、探求心を深めていけるよう、見守りや援助を行う。
	実践結果	散歩の際には地域の自然に目を向けられるような言葉かけを行った。また、散歩先においても遊具のある公園ではなく、自然豊かな場所や道を選ぶなどしながら散策を行うことで沢山の自然に触れることができた。
	次年度方向性	次年度も保育のねらいに基づいて、豊かな自然環境を生かしながら保育を実施していく。
3	計画・ねらい	「園舎の環境美化」 早番や遅番だけでなく施設長や主任が率先し園舎内外の美化に努めていき、園児も巻き込みながら管理維持していく。綺麗な園舎を維持していくことで、保護者だけでなく地域の利用者にも心地よさを感じて頂く。
	実践結果	用務員、事務、主任、施設長が中心となり園舎内外の美化を維持していくことができた。
	次年度方向性	次年度も保育士だけでなく上記メンバーが率先して掃除を行い、園舎の美化に努め、気持ちの良い施設運営を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

特になし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	市が発信する光化学スモッグ情報を随時共有するとともに、園外で活動についてはマニュアルに基づいた対応を行った。 園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意する。
2	水辺のリスクマネジメント	川遊びの資格を有する職員が中心となり、川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を実施。プール活動時期においては事故防止だけでなく事故発生時のシミュレーションを行い有事に備えた。
3	応急救命	怪我の応急手当や心肺蘇生方法について学んだ。また、一部職員においては赤十字幼児安全支援員講習へ参加し資格を取得済み。
4	危険生物対策	危険生物や危険植物についての基礎知識を学び、戸外活動時におけるリスクを未然に防ぐことができた。また、危険生物に対する応急手当についても学ぶことができた。
5	防犯対策	不審者訓練実施や警察との連携を図ることができた。 消防計画に基づいた訓練の実施、振り返りを実施。
6	怪我防止	ヒヤリハット、ハザードマップの集計分析を行い、他園の記録も活用することで、自園で発生しうる可能性がある事故を未然に防いでいった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

問い合わせがあった際には丁寧に対応し、積極的に実習生や学校との交流を行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月24日～ 8月25日	東海大学	1人	ショートインターンシップ
10月2～ 10月16日	千葉こども専門学校	1人	責任実習
9月4～ 9日15日	清和大学短期大学部	1人	観察実習
12月18～ 12月28日	豊岡短期大学	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
4月27日	君津高等学校 園芸課	7人
8月4日	君津高等学校 書道部	10人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 24名	26日 24名	23日 24名	28日 24名	25日 24名	22日 24名	27日 24名	24日 24名	22日 24名	26日 24名	21日 24名	21日 24名
園内研修	28日 24名	26日 24名	23日 24名	28日 24名	25日 24名	22日 24名	27日 24名	24日 24名	22日 24名	26日 24名	21日 24名	21日 24名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域との関わりや交流を絶やさず行い、地域に開けた園としての役割を果たしていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：宮下公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：クリエイト、カリワラ、ローソン、セブンイレブン 大ちゃんラーメン、第一釣り具 等
世代間交流	月に1回、デイサービスみのりにて交流を実施
異年齢交流	11月10日に宮下どろんこ保育園にて交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

回数は少なかったが、小学校とも交流を実施することができた。

また、学校への通学路探検や学校についての話をするなど、小学校への期待感が持てるよう意識して活動を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月12日	周南学校	2名	周南学校	職員間交流
6月13日	周南学校	2名	周南学校	職員間交流
11月10日	周南学校	19名	宮下どろんこ保育園	職員間交流
1月22日	周南学校	4名	周南学校	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

気になる児に対しては個別支援計画を作成しケース会議等で共有している。また、ケース会議に限らず日頃から昼礼やクラス会議等で定期的に共有を行っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計10回開催 参加者：平均7名
毎月ケース会議の時間を設け子どもの共有や対応方法等の話し合いを実施

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

気になる児に対しては、児童要録だけでなく小学校の教諭と直接引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
66名	53名	10名	404名	64名	42名	412名	54名	55名	44名	64名	54名	1322名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	9名	16名	6名	14名	19名	16名	8名	6名	20名	12名	14名	12名	152名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	0名	0名	4名	0名	2名	10名	0名	8名	0名	2名	4名	32名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン)	月1回 公園名：宮下公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

ター主催)	0名	2名	0名	0名	2名								
-------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月2日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時30分

自己評価実施者：羽澤佑太、高橋美桜、佐藤宏美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：88%

利用者アンケートの回収については保護者へ積極的に声を掛け80%の回収率であった。
全体的に保護者の満足度も向上へ向かっているため、次年度も保護者に寄り添った保育運営を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）：0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 つつじヶ丘どろんこ保育園事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

つつじヶ丘どろんこ保育園は併設園として6年目を迎える。異なる年齢の子どもたちや発達支援つむぎに通う子どもたちが、自然に混じり合いインクルーシブをしながら園舎という大きな家の中で互いに存在を認め合い、共に遊び、相互に響き合う保育環境を大切に考えていった。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	続・原点回帰：子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動の実施をする。
	実践結果	どろんこ会の原点でもある異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・散歩9時出発・生き物の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育の意味を深めながら実践していった。
	次年度方向性	引き続き異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・散歩9時出発・生き物の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育を行っていく。
2	計画・ねらい	子どもが表現する環境を作っていく
	実践結果	身近な環境や経験から様々な美しいものや心を動かす出来事に触れ、子どもの感性を育むと共に感じたことや考えたことを自分でできる環境を作る言語表現や造形表現、音楽表現、絵画表現等の素材や道具などを子どもにとって活動できる環境を作った。
	次年度方向性	今年度のできた環境を大切にさらに多くの表現活動を広げていく。
3	計画・ねらい	子どもの興味・関心から保育を展開していく
	実践結果	保育者は定期的に子どもの環境マップを作成しながら、子どもの興味・関心を膨らませていくような保育を展開していく。また、中期・長期的視点で遊びが発展でき、子ども同士が対話しながら共同的な学びが得られるような保育を展開していった。
	次年度方向性	引き続き子どもの興味・関心を膨らませていくような保育を展開していく

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者との信頼関係を作り、より良い子育て環境を作る。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育の見える化」に力を入れた。 ・日々の子どもの活動をタイムラインやポートフォリオで作成しいつでも見られるようにしていくまた、保護者には面談や保育参加の機会を多く持った。 ・保護者懇談会の場で、保育者が大切にしている保育のポイントや日頃の活動の様子など分かりやすく伝えた。 ・うちのこアプリを活用し、子どもの育ちが分かるように伝えていった。
	次年度方向性	引き続き「保育の見える化」に力をいれていく。
2	計画・ねらい	保育参加、個人面談の実施
	実践結果	保護者にしっかりと寄り添い子どもの状況、時には課題について共に理解し、家庭と園とが同じ目線での育ちを保障した。
	次年度方向性	家庭と園とで同じ目線で育ちを保育参加、個人面談を引き続き取り入れ実施していく。
3	計画・ねらい	保護者との「共育て」の意識を高める。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを軸においた対話的なやり取りを通し、子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられる支援や情報提供をする。園で行っていること、大事にしていることを保護者と共有し、常に保護者と共に育てていくという意識を持てるよう、ドキュメンテーション型の発信（園内掲示・タイムライン）していった。
	次年度方向性	常に保護者と共に育てていく方向を大切にしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	選ばれる園を作り。
	実践結果	いつ見学者が来ても良いように、親切・丁寧な入園説明や案内など、どの職員でも自園の保育を自分の言葉で伝えられるようにすると共に、スタッフがやりがいを持ち、働きやすく、保護者・地域・自治体の方から愛され、評判がよい園づくりをしていった。
	次年度方向性	引き続き選ばれる園を作りをしていく。
2	計画・ねらい	園庭を活用した火・水・土の直接体験の提供
	実践結果	水遊び、どろんこ遊び、畑仕事、たき火など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を提供、体験していった。

	次年度方向性	今年度同様に園庭を活用した火・水・土の直接体験を多く取り入れていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践結果	・イベントだけでなく園庭開放や室内開放での子育て支援事業と、保育事業が混ざった環境の保証した。 ・保護者・来訪者がいつ見ても気持ちの良い環境を整え、選ばれる施設を目指していった。
	次年度方向性	引き続きイベントの他にも園庭開放等の子育て支援事業を継続していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー層の職員が若手職員の育成担当としての役割を担う
	実践結果	人材育成の役割をリーダー層の職員が担当し、職員の目標設定、業務確認、進捗確認のサポートを行う。また、保育の質の向上や職員のチーム保育を進めるための園内研修の企画、運営を担っていった。
	次年度方向性	今年度の成果を継続し園内研修の企画、運営を担っていく。
2	計画・ねらい	チーム力を高める
	実践結果	全職員が全ての子どもを見守り、保育する環境を作る。また、保育の質の向上、チーム保育作りに本気で向き合い、本音で話し合いができる関係を作っていた。
	次年度方向性	常にチーム保育大切に次年度も運営していく。
3	計画・ねらい	スタッフの MBO 目標設定から達成までマネジメントする。
	実践結果	スタッフが主体的に考え行動する中で、進捗状況を確認しながら、課題があれば何が原因か見極め働きかけていく。またスタッフの特性、個性、長所を活かしていったが、面談の時間を作るタイミングが難しい状況もあった。
	次年度方向性	スタッフの特性、個性、長所を活かしマネジメントをしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	一人ひとり目的をもって登園し、充実して過ごせる環境作りを行う。
	実践結果	・園舎、園庭も含めた「大きなみんなのお家」の中で、「居たい場所」「一緒に居たい人」の選択を担保した。 ・遊びの選択肢が充分にあるよう様々な素材を準備し、園庭でも様々な工

		夫や創造ができ、遊び込めるような環境作りと素材の充実を図った。
	次年度方向性	充実して過ごせる環境作りを今後も継続していく。
2	計画・ねらい	心地の良い環境を整えよりよい子どもの育ちへとつなげる。
	実践結果	・園内環境の整備・美観に努め、各係で子どもの育ちに関連付け日々を振り返り環境整備と連動して取り組んだ。
	次年度方向性	環境整備と連動を大切に継続していく。

〈6〉発達支援つむぎつつじヶ丘ルームの連携

1	計画・ねらい	同じ空間での生活
	実践結果	マンスリーで通所するお子さんも保育園の活動を共にし、保育園に通う子どもたちと同じ空間で生活できるようにした。
	次年度方向性	空間での生活を大切に継続していく。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を目指す。「誰もが自由に行き来する大きな家」
	実践結果	園の職員、つむぎの職員が壁をなくし、すべての子どもを一緒に見ていきそれぞれの目線で子どもを把握していくために振り返りや連携を強化した
	次年度方向性	「誰もが自由に行き来する大きな家」が当たり前の生活になってきたことを大切に継続できるようにしていく。
3	計画・ねらい	子どもをとらえる質の向上を目指す
	実践結果	子どもの動きや遊びを観察し、どのような心の動きがあるのか、どのような関わりがあるのかをエピソードとして記録し共有していった。
	次年度方向性	引き続き質の向上を目指していく。

〈7〉「見守る」「やって見せる」原体験を組み込んだ保育の実践

1	計画・ねらい	考える保育
	実践結果	実践予定内容「できる」「できない」ではなく、相手の姿を捉え「このやり方ならできる」「こんなやりかたもある」と他者肯定を基本とする視点を持つようにした。
	次年度方向性	引き続き継続して行っていく。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	施設長	1人	保育士	13 人	調理員	2人
パート スタッフ	保育士	4人	事務	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	保育の質向上に関わる勉強会、事例検討会、園内研修、ケース 会議、行事進捗
給食運営会議	月1回	献立、離乳の振り返り共有・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハ ット考察・分析・検証
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
コンピテンシー会議	月1回	自らの課題を認識し、チームとして解決に向けて話し合う
リーダー会議	随時	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
クラス会議	週1回	保育計画の振り返り・立案・子どもの様子の共有

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回 (4.7.10.1月)	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施 ・園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所 シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理 ・職員の検便
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6月/11月）の実施報告書確認 ・設備安全点検（5月・7月・9月・11月・1月・3月の25日） ・事故防止自主点検（4月・7月・10月・1月の25日） ・園内外、公園のハザードマップの更新（3月・随時）
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・防災用備蓄品の確認（6月・12月） ・自主点検チェック表（日常）
食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持、子どもたちを巻き込み活動をおこなう。
物品管理	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手籠の管理、落とし物の管理 ・衛生用具の管理（在庫管理、発注）
生き物係	ヤギ、ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持、子どもたちへの働きかけ

環境係（室内、園庭）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内外の園庭、遊具の清掃点検、施設の清掃状況の確認、指示 室内外の設備危険個所の点検 ・ 破損個所の補修、地震時の落下防止、遊具・設備・樹木等の安全点検
写真係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報の確認、写真販売、卒園アルバムの作成

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティア（どろんこサポーター）とも連携し準備運営を行って行く
環境改良チーム	保育環境の発展、整備をどろんこサポーターズと連携した環境改良の計画と実行

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<p>【0~2歳児】 身近な大人や、少し大きい子どもとの日常の中で、真似てみて学び取りながら一緒に過ごす心地良さや楽しさを味わった。自然の中で体を使った遊びを通し、手足や全身の協応動作が巧みになり、いろいろな動きができることから「やってみよう」の気持ちが育っていった。【3~5歳児】 身近な大人や友達とのやり取りの中で、豊かな言葉のやり取りや時には衝突もしながら人間関係を築いていく。また、遊びの中で共同・協同していく経験から自律の力も身につけていった。様々な心躍る経験を通し、身近な大人や友達と共有・共感し、個々がもつ感性を認め合いながら豊かな表現を育てていった。生活や遊びの中で、達成感や充実感を味わうことで、自分たちの力で行うために考え工夫するなどし、見通しを持って行動する力を養った。</p>
保育参加	<p>4~3月まで 合計24名 が参加済み （3月1日時点）</p> <p>・どのように過ごしているのか分かって良かった、給食が参考になった。いつも見られない子どもの姿が見られた。などの意見を頂いた。</p>
保護者面談および発達相談	<p>4~3月まで 合計8名 が参加済み （3月1日時点）</p> <p>・保護者の思いと子どもの様子を共有し、子どもの育ちや園の方針を理解してもらう機会とした。</p>

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践結果	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供した。
	次年度方向性	引き続き保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践結果	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていた。
	次年度方向性	給食会議の日々振り返りを大切に今後も会議をおこなっていく。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践結果	調理の原点、たき火を活用したクッキングを行っていく。たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わった。
	次年度方向性	調理の原点を大切に継続していく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月17日／11月22日に実施
歯科検診	5月24日／11月10日につつじヶ丘どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①5月8日につつじヶ丘どろんこ保育園にてはみがき指導を実施 ②11月27日につつじヶ丘どろんこ保育園にてはみがき指導を実施

流行した感染症	① 12月にインフルエンザA、園児26名・スタッフ3名蔓延し、多摩府中保健所へ報告 ② 2月にインフルエンザB、園児 名スタッフ1名感染報告なし。 3月終息
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	3月23日にキックオフにてエピペン研修を スタッフ17名に受講し習得済み
その他保健に関する取組	引き続きウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行い、消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月、10月に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/5月17日、11月22日 歯科健診 各年2回/5月24日、11月10日

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月20日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践結果	環境整備を分担し、月毎に振り返り・更新を行う。また子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続した。
	次年度方向性	環境作りの必要性を日々考え工夫しながら継続していく。
2	計画・ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭作り。
	実践結果	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち、虫が集まる園庭を目指した。
	次年度方向性	今年度に続き園庭作りを子どもたちとおこなっていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション(5台)	保育室	毎日	6月に解体・撤去
2	図書館用の机	エントランス	毎日	6月に解体・撤去
3	図書館用の本棚	エントランス	毎日	異常なし
4	おままごと机(2台)	ひえ、あずき組保育室	毎日	異常なし
5	かばん掛け	ひえ組保育室	毎日	6月に解体・撤去
6	ピーステーブル	幼児室保育室	毎日	異常なし
7	長椅子(4台)	縁側	毎日	異常なし
8	お茶台(2台)	縁側	毎日	異常なし
9	コップ台	縁側	毎日	異常なし
10	おままごとテーブル	園庭	毎日	5月に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践結果	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践結果	法人ルールに従い怪我が発生した時には、迅速に対応。病院受診は年間2件であった。ヒヤリハット事例収集は強化し、月の収集件数に拘り、分析、改善というPDCAサイクルによる安全対策を行ってきた。
4	実践結果	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探った。
5	実践結果	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練としスタッフ全員を対象とした。
6	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・スタッフは室内で過ごした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習受け入れ依頼があった学校等からは積極的に受け入れを行うことが出来た。実習の際には指導や振返りを丁寧に行うなどし、実習生に寄り添うことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月5日～6日	東京こども専門学校	1人	ボランティア実習
8月14日～26日	目白大学	1人	部分実習
8月14日～19日、8月21日～26日	日本児童教育専門学校	1人	部分実習
2月5日～9日	東京家政学院大学	1人	校外給食管理実習
2月13日～17日	東京家政学院大学	1人	校外給食管理実習
3月1日～3月	チャイルドケアカレッジこども	1人	責任実習

14日	保育専攻		
-----	------	--	--

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月3日～5日	調布市立第四中学校	5人
7月21日、24日 27日	東京都立府中東高等学校	1人
8月30日	広尾学園中学校	1人
9月12日～14日	調布市立神代中学校	3人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 26名	31日 26名	30日 25名	31日 25名	31日 25名	29日 25名	31日 26名	28日 23名	26日 23名	30日 23名	28日 22名	28日 22名
園内研修	20日 22名	18日 22名	15日 22名	20日 22名	17日 22名	21日 22名	19日 22名	15日 22名	21日 22名	18日 22名	15日 20名	3日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月	園長大学キャリアアップ研修	幼児保育	3名	有
2月	園長大学キャリアアップ研修	乳児保育	3名	有
2月	園長大学キャリアアップ研修	保護者支援、子育て支援	3名	有
2月	園長大学キャリアアップ研修	食育、アレルギー対応	3名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	今年度はなし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

- 1 個人・チームのあらゆる業務で目的を明確にして目標設定を行う
- 2 業務設計を行い、詳細な計画を立てる
- 3 業務ごとに振り返りの時期・日程を設定してPDCAのサイクルを一つひとつ回していく
- 4 リーダー層のスタッフが若手スタッフの育成担当とし目標設定、業務設計、進捗確認のサポートの役割を担う。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域との交流を積極的に行い地域に根ざした保育を目指し目標を立てていたが、未だ感染症による影響もありイベントの中止や規模縮小もやむを得ない状況であった。しかし、園庭開放や散歩先での交流等は引き続き積極的に続けていくことが出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:中原もみじ防災公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先 オオゼキ、滝坂小学校、つつじヶ丘駅、ふじ青果緑ヶ丘小学校、若葉小学校、京王フラワーショップ、島忠ホームズマクドナルド、チャイルド歯科医院、和菓子ささき、パオコーヒー植松種苗緑化株式会社、スバル、ポルシェ、上ノ原小学校、手紙舎

	ささき子どもクリニック、ベーカリ&カフェ・ルパ、調和図書館 等
世代間交流	感染症対策として先方の受け入れなし
異年齢交流	日常の中で毎日実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

今年度は学校側の規制も緩和され少しずつではあるが有意義な交流することができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月27日	緑ヶ丘小学校	2名	幼保小連携	職員間交流
2月5日	滝坂小学校 1年2組	20名	1年生交流	子ども間交流
2月20日	緑ヶ丘小学校	20名	校庭交流	子ども間交流
2月9日	緑ヶ丘小学校	2名	幼保小連携	職員間交流
2月27日	深大寺小学校	2名	幼保小連携	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

気になる児に対しては個別支援計画を作成しケース会議等で共有している。また、ケース会議に限らず日頃から昼礼やクラス会議等で定期的に共有を行っている。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

4～3月に計 12回開催 毎月の参加者：10名

会議の開催が定着してきたことで、年間の流れに沿って対象児童の成長を月ごとに振り返ることができた。また、発達支援つむぎとの職員もケース会議へ参加し連携することができた。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

気になる見に対しては、児童要録だけでなく小学校の教諭と直接引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16名	28名	57名	134名	40名	96名	199名	34名	14名	15名	37名	22名	692名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計9回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	3名	8名	0名	4名	2名	5名	2名	0名	7名	15名	15名	61名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計6回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	3名	7名	8名	0名	3名	0名	4名	0名	7名	32名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：中原もみじ防災公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して受審済み

アンケート配布日：11月2日～11月23日

アンケート回答率（スタッフ）… 94,4%/アンケート回答率（保護者）…32,9%

経営者ヒアリング・施設長ヒアリング・園審査：1月29日に実施

（省察）利用者アンケート後の第三者評価だったため、回答率が伸びなかった。

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：14時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：木下里佳 市川真己 、 、 、

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）アンケートの回収率を高めるところから取り組んだ結果、前年度よりも幅広く保護者様の声をいただくことができた。園内会議にてアンケート結果をもとに、改善できるところはすぐに着手した。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

「報告すべきご意見 0件」

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：つつじヶ丘どろんこ保育園 施設長 木下里佳

2023年度 前原どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

私たちは子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添い、人権を尊重しながら常に子どもたちに必要な体験、環境を考え、追求していきます。

「みんなが楽しい保育園」「子どものひらめき、ときめき、かがやきを大切にする保育」を園目標とし、あそびや生活、労働などを通して、子どもたちがにんげん力を身に着けられるよう保育を行います。

また、異世代交流、シニア交流など地域との交流を大切にします。

上記の基本方針を基に保育に取り組み、それらの取り組みに対する報告を以下に記載します。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ために日課、基本活動を実施する
	実践結果	園会議にて、日課に関するディスカッションを行い、スタッフ間で意思疎通し、計画を立て日課を定着することができた。
	次年度方向性	次年度も、引き続き継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する
	実践結果	調理から出た野菜くずでコンポスト肥料づくりを行い、その土を使いやトマト、カボチャ、サツマイモを植え、収穫できた。 畑に興味を持つ子どもが増え、土づくりについても学ぶことができた。
	次年度方向性	子どもたちが興味を持てるよう、引き続きコンポスト肥料づくりは継続して行っていく。 興味のある野菜を種から植え、収穫し頂く経験を増やしていく。
3	計画・ねらい	子ども主体の保育を実施する
	実践結果	子どもたちの「やってみたい」を叶える環境づくりとはなにかをスタッフ間で考え、部屋の環境（コーナー作り）について理解を深めた。 遊びを異年齢で分け、コーナーを作ったことで、落ち着いて遊びこめるようになった。
	次年度方向性	子どもの姿から、興味関心をくすぐるような環境づくりを行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	コンピテンシー「保護者の立場に立つ」を追求し、利用者に選ばれる園となるように努力する
---	--------	--

	実践結果	子育てについて保育園の考え方、保護者の考え方を園会議にてスタッフ間で話す機会を設けた。 保護者アンケートでの評価も上がってきており、一時保育でのご利用も増えるなど、保護者に選ばれる園となりつつある。
	次年度方向性	引き続き、保護者の立場に立ちながら、思いやりの気持ちを持ち、保護者から選ばれる園作りを行っていく。
2	計画・ねらい	接遇（相手の気持ちに寄り添い、もう最高にしあわせ！）と思える神対応の気持ちで接する
	実践結果	気持ちの良い挨拶を心掛け、3分間対応を通してのコミュニケーションをはじめ、タイムラインやポートフォリオ、連絡帳などでも日々の様子を丁寧に伝え、育ちをともに喜び協力していった。
	次年度方向性	お迎え伝達などで、待ち時間も子どもたちの様子がわかるような掲示物など、待ち時間の工夫も行いながら気持ちの良い対応を目指していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育園に関心を持ってもらう機会を積極的に設ける
	実践結果	地域の公民館やちきんえっぐ、園庭開放であそびにきた方たちへ宣伝したことで、関心を持つ方が増えた。また、職場体験や実習の受け入れを通しての交流の様子等の発信を継続的に行った。
	次年度方向性	今年度は一時保育利用者が増加、ちきんえっぐの活動に参加する家庭も増えた。 引き続き、丁寧ににかかわり利用者を増やしていけるような活動を用意していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	一人の保育を全体の保育へ（チーム保育）
	実践結果	チャット機能を使い、全スタッフで全園児の子どもの育ちを把握し情報共有をできる機会を設けたが、伝達漏れなども見られた。
	次年度方向性	引き続き、話し合いを密に行い、チーム保育を行っていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践結果	給食の残渣を記録しグラフで可視化や実際に秤に乗せるなどし、子どもが関心を持ち残渣が少なくなるよう環境を工夫した。 コンポストを設置し、調理くずやヤギ鶏の糞を利用した畑仕事用肥料の生産・利用を行い、野菜の栽培を行うことができた。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちと食の循環について学ぶ時間を大切にできるような活動ができるようにしていく。

〈6〉 職場環境の充実（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	働きやすい勤務環境を整備するとともに、職員との良好な関係性を築いていく
	実践結果	スタッフから出た改善点など週会議等で話し合い、対応策を出し合いながらより良い園づくりを行った。
	次年度方向性	受動的ではなく提案型で話し合える環境を引き続き行っていく。

〈7〉 地域が活かされた保育（施設長が力を入れて取り組むと決めた事柄）

1	計画・ねらい	地域の特徴や強み、資源を活かした保育を行う
	実践結果	沖縄のエイサーを保育活動で取り組み、こめ組が運動会で披露することができた。また、どろんこ祭りでは、獅子舞の演舞を鑑賞することで、興味関心の広がりが見られた。
	次年度方向性	沖縄で大切にしている文化を子どもたちと考える時間を設け活動に取り入れていく。
2	計画・ねらい	異世代交流や地域との関わりを大切にする
	実践結果	公民館にて地域の老人サークルの方たちと一緒に、リズム体操、ボール遊び、歌、と関わるすることができた。
	次年度方向性	引き続き、継続した関わり合いが持てるようにしていく。
3	計画・ねらい	異文化交流を行う
	実践結果	園に招いての直接的な交流はできなかったが、スタッフが英語に関する歌や遊びなど、子どもたちと一緒にいった。
	次年度方向性	次年度は、保護者や地域の方から異国について話が聞けるよう、計画を立てていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	12人	18人	18人	24人	24人	21人	117人
年度後半： 10~3月	12人	18人	18人	24人	24人	21人	116人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	100 人	105 人	116 人	126 人	90 人	118 人	146 人	123 人	123 人	106 人	93 人	90 人	1246 人+α
うち0 歳児	0人	5人	10人	19人	12人	18人	14人	17人	10人	13人	14人	14 人	132人 +α

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	6 人	6 人	21 人	42 人	40 人	43 人	52 人	57 人	52 人	42 人	59 人	60人 予定	460人
うち0 歳児	3人	2人	0人	1人	5人	15人	15人	18人	14人	16人	19 人	20人 予定	131人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
							事務	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	事務	0人
	用務	1人			嘱託職員	2人		

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
-----	------	------

園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修、自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、アレルギー対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録簿、インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	支援計画作成
リーダー会議	随時	職員間の連携や共有、保育運営に関する共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日・毎朝点検・改善、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	毎日・毎朝園内外においての安全を図る報告・注意安全管理対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画を作成し、防火管理上必要な業務を計画的に行う

食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をする
畑・田んぼ係	畑・田んぼの計画・管理、用具類の管理及び補充
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善を行う
美化委員会	美化委員会
写真係	写真チェック、販売申請、卒園アルバム作成
保育環境整備係	保育環境整備係
備品、発注係	消耗品、事務用品、保育材料の購入、管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポート
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口、管理
子育て支援係	ちきんえっぐの活動計画、実施

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> 希望する保護者へ個別面談の時間を設ける 希望する保護者へ保育参加を行う 支援が必要な子どもについての相談を受け付ける 就学、進級に向け、支援が必要な子どもについて保護者と共有する
保育参加	4～3月まで 合計6名 が参加済み (3月1日時点) ・保護者会で参加を呼び掛けた後からこめ組保護者の参加が増えた
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・進級、進学に向け現状を共有した

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	楽しく温かい雰囲気の中で、保育士、調理員ら全てのスタッフが子どもたちと一緒に食卓を囲む
	実践結果	全スタッフは毎日子どもたちと一緒に食事をした 温かいものは温かいまま食べるなど家庭と同じような食事を意識していった
	次年度方向性	今年度の活動内容を継続して行っていく
2	計画・ねらい	噛む力や素材の味を意識した調理方法で給食を提供する
	実践結果	給食会議等で保育者、栄養士等とて咀嚼する力、食事の大きさや固さなどを年間通して考えた
	次年度方向性	スタッフ間の話し合いを密にとりながら、スタッフ間で共有していく
3	計画・ねらい	食事を通して健康への意識を持つ
	実践結果	3色食品群や絵本や紙芝居、ペープサート、エフロンシアターなどを通して、食材の栄養素を知らせる機会を設けた
	次年度方向性	子どもたちの食への関心が広がるよう、継続して取り組んでいく
4	計画・ねらい	食材への関心を広げる
	実践結果	畑仕事で種まき、苗植え、間引き、収穫を経験して食べるまでの一連の流れを経験した
	次年度方向性	子どもたちの食への関心が広がるよう、継続して取り組んでいく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月26日／10月23日に実施
歯科検診	6月23日1月24日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・6月4日に前原どろんこ保育園にて歯磨き指導を実施 ・9月に前原どろんこ保育園にて手洗い指導を実施

流行した感染症	集団生活が原因で蔓延したと思われる感染症はなし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・ 3月23日前原どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ全員に実施 ・ 本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・ 5月、前原どろんこ保育園にて心肺蘇生研修を25名が新たに受講し習得済み ・ 本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月20日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／4月26日、10月23日

		歯科健診 各年2回／5月31日、1月24日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月18日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	温かな親しみとくつろぎの場
	実践結果	自己肯定感と保育者や友だちなど、人に対して安心感が持てるよう日々の関わりを大切にできるよう取り組んだ
	次年度方向性	引き続き、次年度も取り組んでいく
2	計画・ねらい	興味関心、発達に応じて自由に遊びや行先が選択できる
	実践結果	乳児は色、形、音、大きさなど様々な素材や玩具が自由に触られるようにする 幼児は活動内容や行き先を自分で選択できるようにする
	次年度方向性	次年度も引き続き子ども主体の保育を目指し、取り組んでいく
3	計画・ねらい	身の回りのことが一人でできるようなる
	実践結果	都度、子どもたちと一緒に考える時間を設け、身の回りのことを自分で行えるよう丁寧に関わった
	次年度方向性	引き続き、丁寧なかかわりを心がけ、子どもたちが自身で考え身の回りのことができるよう取り組んでいく
4	計画・ねらい	危険なことに気づき、危険から身を守ることができる
	実践結果	大きなケガにならないよう保育者が見守りながらも、必要以上に抑止せず子どもが自分自身で危険を認識できるようにするした
	次年度方向性	次年度も、引き続き取り組んでいく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	肋木	屋上園庭	毎日	異常なし 11月に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	避難訓練（年12回） 担当制ですべてのスタッフが責任を持ち実施するように行った
2	実践結果	総合避難訓練（年2回） 緊急事態を想定したアプリによる緊急安否訓練を年に2回実施した
3	実践結果	事故防止点検（年6回） 事故防止委員会でケガ、事故の検証を行いスタッフ間で共有した
4	実践結果	設備点検（年4回） 年4回問題なく行うことができた
5	実践結果	不審者侵入訓練（年2回） 2回ともスタッフのみで行ったため、次年度は警察官を要請し訓練を行っていく。
6	実践結果	防災点検（毎日） 毎日行うことができた
7	実践結果	防災定期点検（年2回） 計画通り行うことができた

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

中高生の受け入れはなかったが、保育養成校の学生の実習受け入れ、一般および学生の各種ボランティアの受け入れについては、前年度まで築いた関係を良好に保ち、養成校への訪問を継続していく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月5～16日	沖縄キリスト短期大学	1人	観察実習
8月17～30日	徳島文理大学	1人	責任実習
11月27～12月8日	沖縄子ども専門学校	1人	責任実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 25名	12日 25名	9日 25名	14日 25名	18日 25名	15日 25名	13日 24名	10日 24名	15日 24名	12日 25名	21日 25名	3日 25名
園内研修	14日 16名	12日 18名	9日 15名	14日 16名	18日 22名	15日 21名	13日 23名	10日 22名	15日 22名	12日 24名	21日 25名	3日 25名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月～3月	日本福祉総合研究所	キャリアアップ研修	9名	無
4月～3月	美ら島財団	キャリアアップ研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

散歩や商店街ツアーなど、基本活動の際、地域の方とのあいさつや交流を大切にすることができた。園で行われたどろんこ祭りには500名あまりの集客があり、保護者や地域の方に知ってもらう機会が増えたことで、一時保育や園庭開放など利用者の増加もみられた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：イオン、公民館、ニトリ、カインズ、うるマルシェ、メイクマン等
世代間交流	1月に前原公民館にて老人クラブとの交流を実施
異年齢交流	1月13日に高江洲小学校にて交流を実施
地域拠点活動	ちきんえっぐ解放 どろんこ祭りの地域参加
銭湯でお風呂の日	実施無し

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

会議等に参加したことで、小学校との連携も取りやすくなり、お招き会のお誘いを受けることにつながった。引き続き、連携をとっていくことを次年度は計画している。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月24日	うるま市役所	1名	保幼小連絡会議	職員間交流
6月9日	兼原小学校	1名	保幼小情報交換会	職員間交流
6月30日	ゆらてく	1名	保育施設長等研修会	職員間交流
7月31日	高江洲小学校	1名	保幼小連携連絡会議	職員間交流
8月16日	田場小学校	1名	保幼小連絡会議	職員間交流
12月13日	うるま市役所	1名	保幼小連絡会議	職員間交流
1月11日	高江洲小学校	2名 幼児20	保育参観（お招き会）	職員間交流・子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

毎月子どもの様子を職員間で共有しながら計画を作成、今後の関わりに繋げてきた。また、保護者とも連携を図りながら、保護者の意向も反映し、計画を作成した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：5名

現状の子どもの様子や課題について状況を確認しあう。現状を踏まえた支援を検討し、短期的な支援と長期的な支援を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

保幼こ小連絡会や、各小学校への引継ぎを実施。進級児童は担任から次年度担任へ個別に引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30名	30名	30名	362名	30名	48名	450名	30名	45名	30名	30名	30名	1145名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	6名	6名	6名	10名	12名	12名	18名	20名	20名	12名	8名	10名	140名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	3名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												

青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：前原公民館にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年11月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：内部監査室、施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：62%

【省察】

お迎え時の伝達を待たせてしまう、スタッフの言葉遣いなど丁寧でなかった件に関し、会議等で接遇について研修を行うなどし、改善に向け取り組んでいく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：前原どろんこ保育園 施設長 アイオメス 美和

2023年度 石川どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2017年度保育所保育指針にのっとりたうえて、法人理念に沿った保育の実践を目指す。

保育理念・・・「にんげん力。育てます。」

保育目標・・・「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

法人理念を柱とし、園児・保護者・地域・行政・保育者が相互的かつ協同的にかかわりあえるように努め、地域に根付いた保育を実践していく。

<目指す子どもの姿>

「やりたいこと」にあふれ、挑戦と失敗を楽しめる子ども

思いやりの気持ちと感謝の気持ちを持つ子ども

<目指す保育者の姿>

子ども主体の保育の実践のために「チーム保育」で取り組む

子どもも大人も成長を感じられる施設運営「成長を楽しむ」

「異年齢保育・インクルーシブ保育」の意味を保育者は理解し日常の中の子どもの育ちを意識し

「食にまつわる環境教育の実践」では地域性も含め食材や食の循環・環境への意識を育み

「小1を知る」ことで幼少期に身につけるべき力を小1から逆算して計画及び実施する。

そのために園は「保育の質の向上に向けた職員育成と研修の充実」を図り、保育者は個々に資質の向上及び専門性の向上に努め、個々の「得意」が活かされる保育の展開をめざす。

上記の基本方針をもとに保育に取り組み、それらの取り組みに対する報告を以下記載する。

<1> 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「原点回帰」 法人の保育の基本活動である異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・ヤギと鶏の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアーなど、職員は子どもたちに経験させる意味を理解した上で実施する。
	実践結果	保育所保育指針、保育運営マニュアルを活用した学びを園会議、リーダー会議、フロア会議、クラス会議へと連続性をもって共有した。 園内での保育観のすり合わせをすべてのスタッフ間で行う機会を設け、基本活動についてはほぼ定着している。
	次年度方向性	引き続き基本活動は継続して行い、スタッフはその意味を考え続け保育の質の向上に努める。

2	計画・ねらい	「子どもど真ん中」の子ども主体の保育の実践
	実践結果	年間・月・週・日案すべてにおいて「子どもど真ん中」の子ども主体の保育になっているかを常に意識して計画できるようになってきたが、実践には保育者のスキルが不足するなどの課題も残った。 園長・主任は計画から日々見直し、スタッフ全員が同じ意識で子どもの成長のための方向性を示すための指導に力を入れた。
	次年度方向性	子ども主体の保育実践のために、子どもの発達に応じた計画の立案と実践のPDCAを意識して行っていく。
3	計画・ねらい	考えを形にする、失敗も認めあい自己肯定感を育む人的・物的環境の整備を「チーム保育」として行う。
	実践結果	子どもも大人も共に積極的に挑戦し、安心して失敗できる環境を作りするために「環境」「音楽」「造形」「運動」の係に分かれ、年間計画を行う予定だったが、係の活動が思うようにならず、リーダーによる設定になってしまった。
	次年度方向性	チーム保育の実践を目指し、スタッフ個々の得意を活かせる係活動を実践する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共に考え、共に育てる仲間となる
	実践結果	朝夕の受け入れ時の丁寧な受け入れに加え、すべての保育者がすべての子どもについて話題を共有するために。チャットや画像も利用した。 情報を朝礼・昼礼・クラス、フロア、フリー会議で議題に上げ姿を共有し育ちを話し合う機会を意図的に持った。
	次年度方向性	すべての子どもをすべてのスタッフで保育を行うことを意識し、子どもの声、活動、育ちをたのしんで共有していく。
2	計画・ねらい	保育活動の見える化（デジタル・アナログツールの活用）
	実践結果	「うちのこアプリ」の活用や、園内掲示で日々子どもたちの活動内容を保護者にしっかりと「伝える」ことを意識した。 タイムラインは戸外活動や特徴のある活動の際は投稿が多いが、室内活動の場合は投稿が少ない傾向が見られた。
	次年度方向性	活動を可視化し子どもたちの育ちを保護者とも共有するために、活動記録となりうる記録の在り方の追及、ドキュメンテーションを学び保育に活かす取り組みを行う。
3	計画・ねらい	保護者の不安や悩みを受け止め対応を行い、安心して預けられる施設となる。
	実践結果	小さな子どもを抱えて仕事をする大変さを保育者はまず理解する努力を行った。 保護者と保育者の丁寧なコミュニケーションを通して、大小様々なお意見や問題点を拾うことを心掛けた。

		保護者懇談会の参加率は相変わらず低かった。
	次年度方向性	今年度の計画を継続し、懇談会への参加率を上げともに子どもを育てる仲間意識を高めていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子も含めた子育て拠点となる
	実践結果	自然食堂、芸術学校・自然学校などの活動の参加数が増え、園の認知は上がったと感じるが、交流の拠点となっているとは言えない。 年間利用家庭数は見学者を合わせると目標に近づいている。 園のHPや外部に向けた掲示は行えたが、市役所のボックスの活用はうまくできなかった。
	次年度方向性	次年度も効果的な広報活動を考え、子育ての拠点になれるよう引き続き取り組んでいく。
2	計画・ねらい	一時保育・病後児保育事業の円滑な運営
	実践結果	需要の高い乳児の一時保育をスムーズに行える職員配置を行った。 問い合わせ、利用前面談、当日の受け入れに何の情報が必要なのかをすべての保育者が理解し説明できるようにすることで、希望者の利便性と安心感を上げることに力を入れた。
	次年度方向性	次年度も継続して取り組んでいく
3	計画・ねらい	子育てスキル講座の開催
	実践結果	WEB 参加も含め、参加がない状態であった。
	次年度方向性	園での小さな単位の学びの場を設けるなど、子育て世代が参加しやすい環境を整える。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針と保育品質マニュアルを学び保育者の質を上げる
	実践結果	1年を通じて学ぶテーマを意識した。(具体的な計画は7職員計画参照) 日々の保育との紐づけ作業も行い、学びと保育の実践を意識した研修を計画的に実施した。
	次年度方向性	学びを続け、個々のスキルを上げることで保育内容の充実を目指す。
2	計画・ねらい	個々のMBOを設定し取り組んだ

	実践結果	保育者は面談や前年度の振り返りから個々の目標を設定し通年で取り組むテーマを決定した。 自主勉強会への参加や開催し、昼礼や園会議での講師を行う機会を持った。 個々のMBOについては前後期面談を実施し、継続的に振り返ることで目標を明確化した。
	次年度方向性	個々のスキルアップのためにキャリアアップ研修も計画的に取り組ませる。
3	計画・ねらい	保育者の「にんげん力」も育て、「チーム保育」の実践を目指した。
	実践結果	「自分で考える力」「好奇心や探求心」を保育者が率先して行っていくことで子どもと一緒に保育者もより良く育つ意識を目指した。 役割分掌を明確にし、提出物や行事も職員が責任をもって進めることができるようになった。
	次年度方向性	引き続き、自分でやれることを考えながら自律運営ができるような組織を目指していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「見守る」「やって見せる」 原体験を組み込んだ主体的な保育の実践を目指した
	実践結果	活動の中で生まれる子どもたちの主体的な意欲を汲み取り、原体験につなげていくことを意識した。海水からの塩づくりや野菜を育てて食べる体験などはおおむね実施できたが、日々の保育の中でもっと原体験を意識した保育は可能であったと感じている。
	次年度方向性	内容によって、準備の観点や支援の観点から大中小に活動を分け、リスト化して計画に具体的に取り組みことで100の経験を目指す。
2	計画・ねらい	豊かな自然環境も最大限に利用し「科学する力」につなげることを意識した。
	実践結果	沖縄における「季節の変化」を自然から感じることを意識したが、自然の中から様々なヒントをどう受け取るかは職員の経験に大きく左右されたと感じた。
	次年度方向性	職員が自然の中から科学につなげる体験を研修などを通じて身につけ、保育に落とししていく。
3	計画・ねらい	沖縄の「美ら海」と自分たちできることを考えた
	実践結果	散歩やごみ拾いを活用して子どもたちでもできないかを話し合った。毎日の給食で食べ残しを減らすことを意識し、食育や言葉がけで食べ物がごみに変わることはないような関わりを続けた。
	次年度方向性	次年度もごみ問題は身近な話題にすることで一年を通じて各年齢で関わり方を探していく。

〈6〉 伝統を大切にしながら興味の幅を広げていく

1	計画・ねらい	沖縄の伝統的な文化や風習に敬意をもって学ぶ機会を持ち、継承する責を子どもたちと保育者が担うことを意識した。
	実践結果	エイサーや組踊り、三線などの伝統文化だけでなく、沖縄ならではの行事の由来を理解し、地域交流も含め保育活動に組み込んだ。 SNSを通じ沖縄からの発信はいくつか行えたが、他園との交流が不十分であった。
	次年度方向性	四季を感じられる地域との交流を計画的に行う。
2	計画・ねらい	伝統の食文化を行事と合わせて触れる機会を持った。
	実践結果	沖縄の独特な食文化を子どもたちと調べ、使用する食材を畑で育てるなど、食の循環や環境を意識したが、食材をうまく育てることの難しさが一番の収穫であった。 給食残渣を前年比の70%削減達成予定。
	次年度方向性	カレンダーと行事、生活の関係性を意識した保育計画の作成。
3	計画・ねらい	沖縄戦の歴史に触れる機会を持つ
	実践結果	慰霊の日や、宮森小飛行機墜落事故について子どもたちと考え、平和学習を行った。
	次年度方向性	世界の情勢にも目を向け、戦争と平和について子どもたちと考える時間を設けていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	70人	108人	108人	144人	139人	144人	713人
年度後半： 10~3月	70人	108人	108人	139人	142人	144人	711人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	114 人	186 人	191 人	208 人	160 人	162 人	196 人	209 人	205 人	195 人	196 人	200 人	2222 人

うち0歳児	0人	2人	5人	5人	8人	8人	7人	9人	7人	8人	13人	8人	80人
-------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	-----

(解説) 年間通じて平均的に利用がある。繁忙期のみ月極利用を進めるなどして保護者のニーズに対応している。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	3人	0人	2人	0人	0人	4人	3人	17人	12人	23人	21人	30人	115人
うち0歳児	0人	0人	1人	0人	0人	2人	0人	4人	0人	6人	12人	15人	40人

(解説) 地域的に一時保育利用者は多くないが、年度後半には復職を控えた保護者からの問い合わせと利用が増えている。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	20人	看護師	1人	栄養士	0人	調理員等	2人
パートスタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	離乳食進捗状況・アレルギー確認、喫食状況確認

事故防止委員会	月1回	他園・自園の記録から危険予測をする
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
週会議	週1回	全クラスによる報告・連絡・検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定、健康診断、歯科検診などの実施。園内の衛生管理・清掃及びそれにかかる備品類の管理・発注。感染症予防
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理 救命講習実施。施設内外の設備点検及び事故防止点検の実施
防火管理者	消防計画の作成。それに基づく各種訓練の実施報告
食品衛生管理係	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑状況の管理・計画の見直し。用具類の管理及び補充
生き物係	飼育動物の健康管理及び飼育環境の整備

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う
運動会係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する保護者へ個別面談の時間を設ける ・希望する保護者へ保育参加を行う ・支援が必要な子どもについての相談を受け付ける ・就学、進級に向け支援が必要な子どもについて保護者と共有する
保育参加	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点) ・仕事の都合がつかず参加者数がなかなか増えなかった
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・進級、進学に向け現状を共有した

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食べることの楽しさや感謝の気持ちも育み伝えることを目指した。
	実践結果	子どもと食事を共にすることで言葉に頼らず行動でも表現し伝えた。 作る、触れる、味わうなどの食育体験をすべての年齢において計画的に行うことで、食事になるまでの流れや携わった人への感謝の気持ちが芽生えてきた。 意欲的に食事を摂れるような活動を保証し、意欲をもって食べる児を目指したが、活動内容によっては不十分な日もあった。
	次年度方向性	今年度の内容を継続して取り組んでいく。
2	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験をする。

	実践結果	自ら栽培したものを口にすることで、自然や命への興味関心を持つことを目指したが、十分な収穫がなかったことで栽培の難しさを知ることができた。 行事食・郷土食にも積極的に触れ合う機会を持ったが、経験が少ない献立は残食が多かった。 堆肥を作り、栽培から収穫や加工までの流れを子ども自身が体験し食の循環を考えるきっかけとしたが子どもによって興味にばらつきが多かった。 残食は前年度70%飲み込み。
	次年度方向性	一部の子どもだけでなく、より多くの子どもたちが食の循環に興味を持てるような関りを行う。
3	計画・ねらい	個々の子どもの発達を理解し適切な援助を行う
	実践結果	発達に応じた食事形態での提供、安全な食事の提供と介助が行える知識を持つために話し合いを多く持ち、離乳食やアレルギー食について取り組んだ。
	次年度方向性	今年度の内容を継続して取り組んでいく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月12日／10月19日に実施
歯科検診	8月17日／2月22日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月8日に石川どろんこ保育園にて歯磨き指導を実施 ② 9月14日に石川どろんこ保育園にて手洗い指導を実施
流行した感染症	集団生活が原因でまん延したと思われる感染症なし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に石川どろんこ保育園にてエピペン研修をスタッフ全員に実施。 ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、26名が使用可能

AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月12日に石川どろんこ保育園にて心肺蘇生研修を計25名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ27名のうち、25名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月10日、10月15日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/5月12日、10月19日 歯科健診 各年2回/8月17日、2月22日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	必要なものだけがある保育施設を目指し、掃除や管理の行き届いた保育環境を提供することを目指した。
	実践結果	衛生管理に配慮し園舎内外の清掃を行った。 環境係が中心となり、清掃の意義を理解し率先して実行し、気持ちの良い施設を維持している。
	次年度方向性	今年度の計画を継続し、気持ちの良い園舎を保っていく。
2	計画・ねらい	日々の遊びの中に子どもの育ちがあると考え、自由度の高い遊具の作成を保護者と協同行うことを目指した。
	実践結果	コーナーの設定を定期的に行うことで、子どもが遊びを選ぶことを目指した。可動遊具の設置は行うことができなかった。
	次年度方向性	遊具を作らずに子どもたちが選択できる遊びを考えていく。
3	計画・ねらい	子どもたちが常に主体性をもって遊びを選択できるような環境を整える。
	実践結果	目的を持った複数の戸外活動の準備が十分にできた日は子どもたちも満足して過ごすことができた。室内遊びを好む子どもへの遊びの保証は課題が残った。
	次年度方向性	前日から子どもたちに見通しを持たせることで、事前の職員配置を含む準備を行い、実践を目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ジャグ用テーブル	縁側	毎日	異常なし
2	ブロック用テーブル	幼児室内	毎日	異常なし
3	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
4	平均台	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災…危機管理マニュアルに則り、毎月の訓練を通して日頃より職員が緊急時の対応を身につける。対応フローチャートの活用
---	------	---

2	実践結果	怪我・事故防止対策…危機管理マニュアルに則り、安全点検の実施を行った
3	実践結果	怪我・事故発生時には対応フローチャートの活用。安全教育、S I D S 防止研修の実施。
4	実践結果	事故防止委員会で怪我・事故の検証と防止策検討。
5	実践結果	不審者対策…年2回の不審者侵入訓練により、緊急時の対応を身につける。
6	実践結果	発生フローチャートの活用。職員の笛携帯、登録者のみへの引き渡し徹底。
7	交通安全教室	6月実施済み。警察も招き交通安全について学び安全な戸外活動に役立てた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

前年度まで築いた関係を良好に保ち、養成校・近隣小中高校への訪問を継続する。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月12日～23日	沖縄中央学園	1人	保育実習 I
9月5日～7日	沖縄中央学園	2人	インターンシップ

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月27日～29日	伊波中学校	8人
12月19日～21日	美里中学校	11人
1月23日～25日	安慶名中学校	10人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 28名	12日 28名	9日 27名	14日 27名	11日 27名	8日 27名	13日 27名	10日 27名	8日 27名	12日 27名	9日 27名	21日 27名
園内研修	14日 26名	12日 26名	9日 26名	14日 25名	11日 25名	8日 25名	13日 25名	10日 26名	8日 26名	12日 26名	9日 26名	21日 26名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月～3月	日本福祉総合研究所	キャリアアップ研修	20名	無
4月～3月	美ら島財団	キャリアアップ研修	2名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	14日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉園内委員会の設置

活動の意味を理解して保育を展開することで保育内容の質を向上させるために「環境」「音楽」「造形」「運動」等の委員会を設定。保育者は策定会議において自らの所属を選択し、1年と通じて考え学び、その内容を他者と共有していくことを狙ったが、実際の運用が難しく、数回話し合いをしたのみで実質稼働したとは言えない状況であった。

次年度はより良い保育実践のために個々の得意を活かす委員会活動を目指す。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に受け入れられ愛され育つ実感をもてる日々のために、職員は積極的に地域との交流を行った。ちきんえっぐ活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②移住・転勤者向けの二本柱とし、それぞれのニーズに応えられるよう年間計画を作成したことで、②の移住者に向けたイベントが好評であった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原西公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：かねひで、ダイソー、ロクパン、交番、消防署、ローソン、ファミリーマート、等
世代間交流	毎月第3水曜日に近隣の高齢者施設にてこうりゅうを実施。
異年齢交流	8月、10月に近隣2か所の学童と交流を実施。
地域拠点活動	ちきんえっぐ解放 どろんこ祭りを地域へ開放 地域行事への参加は感染症の問題で参加なし
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（木）より開始する。

開園5年目となり、近隣小学校との連携もしやすくなってきた。まずは卒園児へのアプローチとして小学校へ訪問の関係を作り、そこから保育園と小学校との連携につなげた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月12日	うるま市役所	1名	保幼こ小連絡会議	職員間交流

6月6日	川崎小学校	2名	事業参観・情報交換会	6月6日
1月18日	川崎小学校 1年	2名	授業参観・情報交換会	職員間交流
2月7日	伊波小学校 1年	20名	お招き会	子ども間交流
2月21日	伊波学校	2名	情報交換会	職員間交流
2月21日	城前学校	2名	情報交換会	職員間交流
2月27日	宮森小学校	3名	お招き会	子ども間交流
3月12日	宮森小学校	2名	情報交換会	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

保護者と保育者で連携し子どもを取り巻くすべての大人が子どもの現状や育ちを共有した。

個別な配慮や対応が必要な場合は計画と現実の整合性を振り返りつつ、常に子どもの「今」に合わせた計画の立案を心掛けた。

放課後デイサービス等の利用者に関しては、各機関との情報共有のための機会を定期的に設けることで、保護者と各施設が情報を共有し子どものより良い育ちのための体制を目指したが、関係機関によって温度差があり、子どもの把握に難しさがあった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

4～3月毎月の計画を立て 年12回開催予定 参加者：園長・主任・看護師・担任など

子どもの姿の共有と保育の振り返りと次月に向けた関りについて話し合った。

毎月の施設間での情報共有に加え、必要に応じて保護者や専門機関、関係機関とも連携した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

安心して進級・進学できるように必要な情報の開示及び交流を積極的に行った。

行政・相談員・利用施設担当者・保育者との連携会議を年に2回開催し、十分な支援計画のもと保育を行い、情報共有をおこなうことで進級・進学へつなげることを目指した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1名	5名	6名	10名	12名	10名	22名	24名	4名	10名	16名	14名	134名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	2名	0名	0名	4名	2名	14名	0名	4名	14名	10名	51名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	6名	0名	2名	0名	2名	10名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：前原西公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月15日、10月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻： 8時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：内部監査室、施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：8月25日
アンケート回収率：75%

（省察）内部監査については指摘事項が大幅に減り、法人の理念に基づいた園運営に近づきつつあると言える一方で、利用者アンケートについては保護者より保育内容についての改善を求めるご意見もいただいた。
保護者が一番望んでいる「子ども主体の保育」の実践と、体験活動の充実のために職員はより一層のスキルアップと保育の質を上げることが求められている。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：石川どろんこ保育園 施設長 加藤 直子

2023年度 馬場どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

変容していく社会に柔軟に対応し、社会の一員として生き抜いていくために必要な「非認知能力」の獲得に向けて様々な子どもたちの直接体験の機会を数多く提供したり、異年齢保育を中心に仲間と協力し合ったり、葛藤したりするなどの経験を積めるようにした。また自己選択の場を設定したりして、子どもたちの「自分で考え行動する思考」を育んだ。これからも私たち保育者は、子どもたちを主体的な体験に導き非認知能力を育てることで、子どもたちの未来の可能性を広げていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施
	実践結果	戸外活動9時出発・午前午後2回散歩・畑仕事・生き物の世話・長距離散歩 朝の日課8:15～12:00を目一杯活動し日課・基本保育活動を行った。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	1. 畑仕事を実施し、3大食育方針を推進しその記録を発信した。 2. 子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける活動①糞・ゴミの堆肥化 ②種まき、間引く、獲る ③命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる） ④加工する＝梅・味噌・たくあん・梅干し・ケチャップ等を実施した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。
3	計画・ねらい	小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行
	実践結果	・実際に小学校1年生の授業を施設長・主任・リーダー・幼児担任を始めスタッフは自分の目で見て、全体的な計画の「おおむね6歳」で就学準備を見据えて保育内容を工夫した。 ・「5歳児と1年生の年間連携計画」を軸に、各自治体・教育委員会・小学校長へ働きかけて生きる力をより具体化し、教育課程全体を通しての育成を目指した。 ・園児と児童の子ども間交流を年2回以上で計画・実施して他者との協働の重要性を実感出来るようにした。 ・教職員間交流を年2回以上で計画・実施して子どもが主体的な判断の下に行動し、自立した人間となるように意見交換をした。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園での子どもの姿や日々の成長を保護者に共有
	実践結果	保護者向けにドキュメントやエピソード記録、またブログ等で自園活動の共有を行った。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	保育者と保護者のコミュニケーションを推進、目指す保育の共通認識、共通理解を図る。
	実践結果	保護者個人面談の強化月間を設け、互いの子育て観を知り合う機会を多く提供した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。
3	計画・ねらい	保護者の子育てを実践する力の向上に向けた支援活動
	実践結果	スタッフが作成した園内研修の資料を玄関に掲示し、保護者が自由に閲覧できるようにして、保護者の子育て力向上の一助となるよう工夫した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙・共有を維持し、更なる保育内容の充実・質の向上を目指す。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域行事への参画
	実践結果	地域との積極的な連携及び協働を図ると共に、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努め、地域との一体化を目指した。（ハロウィン・クリスマス会等地域行事に参画した。）
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動を目指す。
2	計画・ねらい	地域子育て支援の拠点としての確立
	実践結果	地域の掲示板掲示や子育て支援拠点との連携を強化し、地域子育て支援活動の啓蒙に努めた。様々な取り組みを丁寧に実施したことで、利用者が増加しリピーターも定着しつつある。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動を目指す。
3	計画・ねらい	孤立しない子育てへの支援
	実践結果	地域の乳幼児の親子が集うコミュニティの拠点となるよう、ちきんえっぐの取り組みをブログや「馬場どろんこ新聞」に掲載し、園のリアルな活動を地域の親子に発信することで、地域に開かれた子育て支援を目指した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な地域子育て支援活動を目指す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	主体的な学びの習慣
	実践結果	園会議内で読書の時間を設け、感想文作成の機会を設けることで、主体的な学び習慣の動機付けを行った。・園長大学®・保育士大学研修受講表の運用等で、主体的な自己研鑽の習慣を身に付けるようにした。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。
2	計画・ねらい	「接遇」理解と共通認識
	実践結果	相手の立場を想像した丁寧な保護者対応を目指し、園会議にて接遇をテーマに、レクチャーやディスカッション、ロールプレイングを実施した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。
3	計画・ねらい	スタッフが講師となる園内研修の実施
	実践結果	毎月交替でスタッフが、研修の企画、学び、資料作成、講義という一連の工程に挑戦した。最後まで諦めずにやりきるという成功経験を積むことで、人間力を向上させ質の良い保育を目指した。 アクティブラーニング中心の研修を行い、スタッフ間の相乗効果を発揮させ、園全体の人材成長に繋げていった。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	給食調理における廃棄を減らした。残渣の再利用など「捨てる」ではなく、「有効活用」の視点を持ち、給食残渣削減に努めた。
	次年度方向性	今年度同様、環境に配慮した活動を目指す。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る）・食材加工（梅・味噌・たくあん・干し柿・ケチャップ・マヨネーズ等）生き物の世話・魚を捌いて食べる命をいただく活動を行った。
	次年度方向性	今年度同様、環境に配慮した活動を目指す。

〈6〉利用者満足度向上

1	計画・ねらい	1.思いやり 2.誠実さ 3.謙虚さ 4.感謝 を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスの提供
	実践結果	【挨拶】 ・来訪者が施設に入った時に大きな声で挨拶をしているか ・手を止め、顔をあげて挨拶をしているか

		<p>【お迎え対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに保育士が対応に出ているか ・一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝えようとしているか ・複数の保護者がお迎えに来た際でも自ら満遍なく声をかけているか ・待った気がしないお迎え対応ができていないか 待たされたと思わせない仕掛けづくりをしているか <p>上記徹底を周知し、園全体で取り組んだ。</p>
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。
2	計画・ねらい	保育参加・保護者個人面談のアナウンス強化
	実践結果	保育参加及び保護者個人面談のアナウンスを強化、参加者を多く募ることで、園の保育を知ってもらいオープンな園を目指した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。
3	計画・ねらい	保護者の意見抽出、課題解決による信頼関係の構築
	実践結果	利用者アンケートによるマーケティングの実践、保護者のご意見や課題解決の実践を強化し、信頼関係を構築した。
	次年度方向性	新しいスタッフが加わり、新体制での保育が実施されることに伴い、保育の評価軸の啓蒙、共有を維持するため、次年度はさらに人材育成を強化する。

〈7〉表現活動の充実

1	計画・ねらい	毎月のアートの日開催
	実践結果	年1回毎に開催していたアートの日を毎月の行事とすることで、子どもたちの自由な表現活動の場を数多く提供した。大きな窓ガラスに絵の具を使って自由に絵を描いたり、ダイナミックにボディペインティングを楽しんだりして、子どもたちの心を動かす表現活動が行えるようにした。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。
2	計画・ねらい	年間100曲の歌に触れ、歌う
	実践結果	100の曲に触れられるようにした。様々な歌を歌うことで、多様な文化に触れたり、友だちとの一体感を感じたりしながら、歌の好きな心豊かな子どもを育てるようにした。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。
3	計画・ねらい	様々な楽器に触れる
	実践結果	多様な楽器に触れられる環境を用意し、子どもたちが様々な音色やリズムに触れることで自分の思いを自由に表出し、表現力を豊かにしたり、運動能力を高めたり出来るようにした。
	次年度方向性	今年度同様、幅広い表現活動の機会提供を目指す。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	60人	72人	84人	82人	84人	418人
年度後半： 10~3月	36人	60人	72人	84人	84人	84人	420人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	89 人	104 人	108 人	90 人	86 人	105 人	99 人	101 人	104 人	91 人	107 人	100 人	1184 人
うち0 歳児	0 人	2 人	0 人	1 人	2 人	2 人	0 人	5 人	2 人	0 人	1 人	0 人	15 人

（解説）特になし

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人												
うち0 歳児	0 人												

（解説）特になし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人		
パートスタッフ	保育士	2人	事務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営についての情報共有 ・ルール・役割分担決め
給食運営会議	月1回	調理・食事提供の改善案討議など
事故防止委員会	月1回	安全管理についての討議・ルール決め
ケース会議	月1回	ケース討議、保育・運営方法の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	施設内外の破損個所の補修、清掃状況の確認
安全対策係	避難訓練（地震・火事・不審者）計画、実施、記録

防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画実施
食品衛生管理係	食材の発注及び品質管理
畑係	農業活動の実践・記録
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画から実施、保護者との連携と地域告知など
研修チーム	研修受講管理及び、園内研修運営

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談強化月間を設け、面談を通じて園児の子育てや発達相談を実施した。 ・保育の見える化を目指し、玄関に畑活動や商店街ツアー・交流活動などを中心に写真掲示を行い、園の保育を積極的に発信した。
保育参加	<p>4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて多くの保護者にご参加頂き、園の保育を知っていただく機会となった。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計23名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月～1月に保護者面談期間を設けたことで多くの保護者にご参加頂いた。子育てについての相談や子育ての共通認識を得られる良い機会となった。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自身で考え選択し食を通じて人とかかわる。
	実践結果	これまでの食育の取り組みや口腔発達の知見を活かしつつ、「食べたい時に食べたい場所で食べたい人と食べたいだけ」食べるという、子どもの意思決定を基盤とする食育を進めた。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	1. 畑仕事を実施し、3大食育方針を推進しその記録を発信した。 2. 子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける活動①糞・ゴミの堆肥化 ②種まき、間引く、獲る ③命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる） ④加工する＝梅・味噌・たくあん・梅干し・ケチャップ等を実施した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。
3	計画・ねらい	火の暖かさや素晴らしさ、不思議さを感じ、火に親しむ
	実践結果	・焚火やクッキングを通じて火育を行う。・火の取り扱いを学ぶ機会を提供した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な食育活動を目指す。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月15日／11月9日に実施
歯科検診	6月8日／11月16日に馬場どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月30日に幼児保育室にて手洗いチェッカーによる手洗い・うがい指導を実施
流行した感染症	① 8月にはやり目、園児24名・スタッフ1名蔓延し、鶴見区福祉保健センター福祉保健課へ報告 ② 11月～2月にインフルエンザ、園児22名感染報告有り。
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・2023年3月に本園にてエピペン使用研修を保育スタッフ、調理スタッフ、事務スタッフ 計17名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、16名が使用可能 ・2024年3月のキックオフ会議にてエピペン使用研修を実施予定

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	---

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月15日、11月9日 歯科健診 各年2回/6月8日、11月16日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	設備的環境に加え、人的環境、時間的環境等、様々な側面から子どもを取り巻くすべての環境整備を行い、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定、自分で考え行動する力、生きる力を育てる土壌を構築す
---	--------	--

		る。
	実践結果	大人の目線や観点でなく、子ども自身が選び取り遊び込めるゾーン保育を基本とした。各ゾーニングのねらいを共有、発信し、記録化し、子どもの姿を捉え定期的に環境を見直した。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な環境整備を目指す。
2	計画・ねらい	大人の目線や観点でなく、子ども自身が選び取り遊び込めるゾーン保育を基本とする。各ゾーニングのねらいを共有、発信し、記録化していく。また子どもの姿を捉え定期的に環境を見直していく。
	実践結果	全てのスタッフが、子どもの自分で考え行動する力は、子ども同士の関わり合いの中で養われることを認識し保育を行った。
	次年度方向性	今年度同様、積極的な環境整備を目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	全保育室	毎日	異常なし
2	玩具棚	園庭	毎日	異常なし
3	草履箱	縁側	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って月1回の避難訓練（地震、火災を想定）と年2回アプリへの書き込み訓練実施
2	実践結果	設備点検・事故防止チェック実施（年4回）
3	実践結果	不審者対策訓練実施（年1回）
4	実践結果	ヒヤリハット事例の共有、検証、再発防止対策（随時）
5	実践結果	法人内の事故発生時、記録簿の全職員回覧共有（随時）
6	実践結果	ハザードマップ（園外・園内）の作成更新（随時）
7	実践結果	毎月法人内事故防止委員会会議実施（月1回）
8	実践結果	園内事故防止会議実施（月1回）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

次の世代を担う人材を育成することは保育所の重要な役割と捉え、横浜市立東高校ボランティア受け入れ・横浜市立上の宮中学校3年生との交流・上の宮中学校2年生に向けての職業講話等、積極的な受け入れと交流を行った。子どもにとっても地域の学生等とふれあう機会は育つ中で大切なことであるため、近隣学生の育成も含め今後も積極的な受け入れを継続する。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月8日	高知福祉専門学校	1人	園見学

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月14・21・24・25日	横浜市立東高等学校	9人
11月24・28・29日・12月1日	横浜市立上の宮中学校	144人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 19名	19日 19名	16日 18名	21日 18名	18日 17名	15日 17名	20日 17名	17日 18名	15日 18名	19日 18名	16日 17名	23日 17名
スタッフ研修	21日 16名	19日 15名	16日 16名	21日 16名	18日 13名	15日 12名	20日 13名	17日 15名	15日 16名	19日 16名	16日 17名	23日 17名

〈2〉外部研修への出席

出席なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

新型コロナウイルス感染予防対策の制限緩和に伴い、子どものコミュニケーション力向上や自分の住んでいる街を知る取り組みとして、積極的な地域交流を実践した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:馬場7丁目公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:丸高製麺、東横製畳、向谷交番、ファミリーマート、セブンイレブン、ローソン、北寺尾消防署、岸谷消防出張所、永島園芸、フジスーパー、宮本クリーニング、宇井酒店、三次青果店等
世代間交流	8月14日・21日・24日・25日に馬場どろんこ保育園にて東高等学校ボランティアを実施
異年齢交流	11月24日・28日・29日・12月1日に赤門公園等にて上の宮中学校交流を実施
その他活動	10月28日にみゆき商店街にてハロウィンを実施 12月16日にみゆき商店街にてクリスマス会を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

馬場小学校を中心に交流を行った。

卒園児の引き継ぎについては、個別に保育要録を作成、小学校に提出することで子どもの成長記録を共有、小学校教諭との情報交換の機会を作り、保育と教育の垣根を無くして育ちに繋げる活動を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月8日	馬場小学校 上寺尾小学校 旭小学校	14名	どろんこ祭り（本園）	子ども間交流
10月14日	馬場小学校	13名	運動会（馬場小校庭）	子ども間交流
1月12日	旭小学校	2名	架け橋期の教育充実に向けての座談会（旭小学校）	職員間交流
2月26日	馬場小学校 1年4組	11名	交流会（馬場小学校）	子ども間交流
3月15日	馬場小学校 1年生	3名	授業参観（馬場小学校）	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半期に一度、個別支援計画の作成見直しを行い、ケース会議にて共有。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：17名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

学校生活の質が高められるよう、保幼小連絡会・保育要録・個別の申し送りを実施した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6名	5名	68名	257名	59名	66名	136名	119名	141名	89名	52名	50名	1048名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施 ※(土)は東寺尾どろんこにて実施												
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ※(土)は東寺尾どろんこにて実施												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	5名	0名	0名	0名	4名	0名	2名	8名	10名	29名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計10回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	4名	4名	5名	17名
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00 にて実施 ※(土)は東寺尾どろんこにて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：馬場七丁目公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	13名	0名	0名	3名	0名	3名	19名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

NPSは昨年度より低下した。多様な体験活動の取り組みへの好評価のご意見がある一方で、スタッフの保護者対応について改善を求められるご意見が多数あり。次年度はさらに保育者一人ひとりの臨機応変な保護者対応力や、接遇力向上に努め選ばれる園を目指す。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：馬場どろんこ保育園 施設長 田中 三樹子

2023年度 読売ランド前どろんこ保育園事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

【基本方針】

にんげん力=生きる力のある心も体も逞しい子を育てる。

- ・センスオブワンダーが多発する最高品質の園外活動でTrial&Errorを繰り返し、そこで体験したこと、感じたことを表現することが好きな子どもを育てる。

開園4年目となり、スタッフも定着してきたことで、やらされる生活ややらされる活動ではなく、必要なこと、やりたいことを自分で考えて、判断して、行動する子どもが増えてきた。

大人が指示をしなくても、自分のことを自分でやろうとしたり、できない子をさりげなく助けてあげたり、1歳児であっても自分で帽子をしまい、袖をまくって手を洗う等が自然に身についてきた。これは、基本方針を常に意識し、目先のことではなく子どもの未来を見据えた最善の利益を追求してきた結果がすこしずつ文化として確立してきたからだと感じる。

また、恵まれた環境の中で、様々な活動を通して、心が揺れ動くセンスオブワンダーが体感できる経験を意識して行った。そういった経験を重ねることで、感じたことを人に伝えたいという子どもが増え、様々なツール（描画、言葉、身体）での表現が豊かになったと感じる。

新型コロナウイルスが収束し、地域活動も実際には開園以来初、多くの地域の方々に参加していただく行事を開催することができた。次年度は、さらに地域に必要な保育園になるよう地域のニーズに合った内容を検討していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施する。
	実践結果	子どもたちが、生きていくためにまた、生活していくために必要な営みを5歳児が中心に自分たちで考える時間を大切にしてきた。決まりだからただやるのではなく、なぜやるのか、どうしたらできるのかを重視し、1つひとつの活動の質にこだわった。系列園の多くのスタッフと交換研修を行う中で、自園の強み、弱みを冷静に知ることができ、日々改善に努めた。
	次年度方向性	質を下げないように継続するために、月1回の月案立案会議で1つひとつの活動の意義、発達に合った内容を考察して月案に入れていく。
2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた生きた保育計画の作成、振り返りとPDCAによる継続的な質の改善
	実践結果	・子どもの発達表を用いての発達のプロセスを理解したうえで、94名1人ひとりの発達、興味関心を担任間で話し合う時間を十分に取った。子どもの姿を尊重した保育計画をたてたことで、子どもがみるみる変わっていく姿を実感し、保育の面白さややりがいを実感できるようになった。
	次年度方向性	次年度も子どもを知るための会議を継続し、保育の質を上げていく。
3	計画・ねらい	小学校1年生を見て学び、逆算した保育を遂行する。
	実践結果	新型コロナウイルスが収束してきたことで、自治体の協力のもと、小学校の授業見学、先生方との意見交換の時間を多く持つことができた。保育園

		から小学校への接続が全く違う状況ではなく、少しでも無理なく接続できるように5歳児後半から小学校の話をしたり、学校体験に行ったりして、意識して生活ができるようにしてきた。卒園児の就学先の小学校に見学に行き、卒園後の子どもたちの様子を知ること、就学前の生活を改めて考え直した。小学校の先生との意見交換会などを通してア、園独自のプルーチプログラムを作成した。
	次年度方向性	次年度も小学校見学や先生方との意見交換会には積極的に参加し、小学校を知る努力をしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の立場に立つ」を意識し、感謝の気持ちや思いやりを忘れず、誠実さ、謙虚さを忘れず、保護者の心に入り込んだ接遇をする。 ・子どもの成長を共に悩み、共に喜び合える関係性をつくる。 ・子育てのヒントを提供しつつ、園の方針を理解していただく。
	実践結果	<p>まずは保護者と保育者が話しやすい関係性を構築するためにどろんこ祭りを共催で行ったり、懇親会で普段話せないことを意見交換したりする機会を意識して作った。</p> <p>保育参加や保護者面談も積極的にお声かけしていき、子どもの姿の共有に努めていった。</p>
	次年度方向性	毎年課題にあがる全てのスタッフの情報共有や同じ対応ができない部分は改善しきれていないので、引き続き仕組みを変えたり、個々の育成に力を入れたりしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施する。

1	計画・ねらい	読売ランド前どろんこ保育園を知っていただき、選ばれる園になる。
	実践結果	どろんこ祭りでは、地域の方々にご挨拶をして回り、チラシを300枚以上配布した。またちきんえっくご利用者にもご案内したことで500名の参加があった。
	次年度方向性	Instagramの更新を次年度は増やしていく。
2	計画・ねらい	保育、保育環境を地域に提供する。
	実践結果	<p>保育所機能の開放（施設及び設備の開放、体験保育等）を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育体験（自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育） ・園内、園庭解放
	次年度方向性	次年度も、継続していく。
3	計画・ねらい	子育てに困難を感じている方への支援
	実践結果	子育て等に関する相談は、園内解放にいらした際にできるだけタイムリーに対応した。
	次年度方向性	次年度も継続していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力 up
	実践結果	毎月の園会議では川崎市や神奈川県研修で学んだことをスタッフが講師となって全スタッフにアウトプットする機会を設けた。また法人内の勉強会ではミドルリーダーが、保育所保育指針の5領域や質の高い保育計画のたて方を1年通して学び続け、それを園全体で実践することで、子どもの姿に合わせた保育を意識してきた。
	次年度方向性	・リーダー層を巻き込んでの育成計画がたてられなかったため、次年度は計画的に行う。
2	計画・ねらい	常に運営方針を意識し、状況変化に応じて、主体的に判断、行動する自主、自立化の進んだ組織にしていく。
	実践結果	・法人の基本方針、日課・基本活動は、自然と習慣化されてきた。しかし、質を担保することの難しさはあり、子どもの成長に合わせてやり方は変えていく必要性を感じた。
	次年度方向性	毎月の学年会議で、子どもの成長に合わせたやり方を考察していく。
3	計画・ねらい	分野別リーダー育成
	実践結果	・スタッフの得意分野を生かした役割分担をしていったことで、内部監査、子育て支援の参加率等では成果が出た。
	次年度方向性	・清掃面で同じ人がいつもやっている傾向があるので、全員で分担してできる仕組みを作る。
4	計画・ねらい	1～3年目の若手スタッフの保育や業務に関する悩みを丁寧にヒアリングし、保育の面白さを体感できるようなサポートをする。
	実践結果	・定期的な会議は行わなかったが、園会議での研修の中で若手を中心とした学びを多く取り入れていった。
	次年度方向性	次年度も若手が多いので必要に応じて、研修を入れていく。

〈5〉環境実施目標 環境= SDGs を意識した生活をする。

1	計画・ねらい	畑の改良、ゴミの削減
	実践結果	1年通してヤギの糞でたい肥にするコンポスト作りを行う。
	次年度方向性	畑を全スタッフで行う仕組みを作る。
3	計画・ねらい	緑化運動
	実践結果	今年度は、春、秋に芝生を植えたが、管理が悪くうまく育たなかった。
	次年度方向性	次年度は再度、芝生管理に力を入れたい。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半：4~9月	36人	72人	82人	118人	117人	126人	551人
年度後半：10~3月	36人	72人	90人	120人	117人	126人	561人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	16人	17人	17人	17人	18人	18人	17人	17人	16人	17人	17人	17人	204人
うち0歳児	0人												

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤スタッフ	保育士	14人	栄養士	2人				
パートスタッフ	保育士	2人	栄養士	1人	事務	1人	嘱託医	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立の振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ前月の

		ヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
子育て支援会議	月1回	子育て支援活動の振り返り、参加者・人数の分析
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
食育会議／法人本部	年4回（5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回（5.7.11.2月/5.8.11.2月）	施設長
主任会議／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理系	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策系	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検
食品衛生管理系	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑系	年間を通じた食育計画案の作成と実施。畑の管理。
生き物系	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
どろんこ祭り系	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携

地域子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行、広報活動
-----------	--------------------

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで 合計19名 が参加済み (3月1日時点) ・希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計11名 が参加済み (3月1日時点) ・随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ食欲をかきたてる。
	実践結果	0～2歳は11:15、3～5歳児は11:45まで戸外で身体を動かして遊ぶことを重視した。遠距離散歩を積極的に行った。
	次年度方向性	遠距離散歩は無理のないよう少しずつ距離を伸ばしていく。
2	計画・ねらい	食事とはコミュニケーションである。好きな人と食べるからこそ楽しく美味しいのである。好きな場所で好きな友達と好きな時に食べる。
	実践結果	食べる場所、人、時間は自分で選択できるようにした。
	次年度方向性	可能な限り、指導食（子どもと一緒に食べる）を行う。
3	計画・ねらい	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
	実践結果	畑仕事を日課とする。採れたての美味しさ、加工する美味しさを味わった。
	次年度方向性	コンポストは年下児に引継ぎ、継続していく。
4	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験を行う。
	実践結果	鶏の卵を食べ、卵のうまなくなった鶏をさばいて食べる活動を通して、命の尊さ、食材の大切を学ぶことができた。
	次年度方向性	個々の感じ方、考え方が違う中で一人ひとりに合わせた導入や関わりの大切さを改めて実感したので次年度に繋げていきたい。
5	計画・ねらい	環境を意識し、生ゴミやヤギの糞からの堆肥作りを積極的に行う。

	実践結果	食品残渣量の管理、ヤギの糞・枯れ葉のコンポストを実践した。
	次年度方向性	次年度も継続する。
6	計画・ねらい	With コロナの中でも衛生面に配慮し、できる活動を模索していく。
	実践予定内容	新型コロナウイルスが収束し、ほぼ計画通りの活動を行うことができた。
	次年度方向性	次年度も継続する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月2日/6月8日/8月8日/10月17日/12月11日/2月8日に実施
歯科検診	6月27日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	以下の日程で園にて医師による健康相談を実施 5月2日、7月26日、9月27日、11月29日、1月31日 3月27日実施予定
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	特になし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日にエピペン研修を橋本愛海、進藤琉碧、吉田綾、星優花計4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ21名のうち、21名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 なし
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 なし
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 なし
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年6回／5月2日/6月22日/8月2日/10月19日/12月14日/2月7日に実施 歯科健診 各年1回／6月13日に実施
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月27日、10月日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った教育的意図を持った環境構成(室内・戸外)を考察し続ける。
	実践結果	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回子どもの興味・関心を理解するための会議を行った。
	次年度方向性	子ども観会議を継続。日々の環境整備の意識を高める。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。
	実践結果	様々な視点で点検できるように交代で行った。門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行った。
	次年度方向性	破損個所は修繕リストを用いて、進捗が見える化し、確実に修繕する。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践結果	清掃分担チェック表を見直すとともに、月1回全スタッフ清掃 DAY を実施。

	次年度方向性	定期的に清掃チェック票に乗っていない部分で清掃が漏れている部分を修正する。
--	--------	---------------------------------------

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	制作ワゴン	幼児室	毎朝	異常なし
2	パーテーション	幼児室	毎朝	異常なし
3	鶏小屋	園庭	毎朝	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	【防災】消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎月15日に行った。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否、施設状況・避難先を情報共有する体制をとった。
2	実践結果	【事故・怪我防止】・事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止に最善を尽くした。 ・インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしつかり行うことで事故を来然に防ぐ努力をした。 ・全園事故防止委員会を毎月一回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止を考察した。
3	実践結果	【防犯】年2回不審者侵入訓練を実施した。また 訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とした。
4	実践結果	【光化学スモッグ】光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモッグ注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示した。
5	実践結果	【里山管理】年に3回里山整備を行い、危険箇所や危険植物の確認や撤去を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

- ・中高生の保育園体験などの積極的受け入れ、異世代交流の機会をつくった。
- ・大学、専門学校の依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝えた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月21～9月2日	和光大学	1人	責任実習
2月6日～10日	東京家政学院大学	1人	調理実習
2月7日～21日	田園調布学園大学	1人	責任実習
2月13日～17日	東京家政学院大学	1人	調理実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月2日	台湾学校高校生	18名
11月22日	西生田中学校	7人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	27日 24名	19日 23名	22日 23名	27日 23名	24日 23名	28日 23名	26日 23名	30日 23名	21日 24名	25日 22名	26日 22名	21日 20名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月27日	川崎市こども未来局	年長児担当者連携連絡会	1名	有
5月9日	川崎市こども未来局	幼保小の架け橋プログラム研修	1名	有
6月2日	川崎市こども未来局	012歳の保育研修	1名	有
4月24日～5月1日	川崎市こども未来局	インクルーシブ保育研修	1名	有
6月20日	川崎市こども未来局	多摩区公私立援用し連携連絡会研修 口腔機能の発達と乳幼児期の食事の進め方	1名	有

6月16日	川崎市こども未来局	多摩区公開保育付きスタッフ交流 研修 段ボールを使って遊ぼう 4歳児クラス	1名	有
6月30日	川崎市こども未来局	食品衛生研修会	1名	有
9月19日	川崎市こども未来局	保育実習に係る保育士養成校と保 育所等との意見交換会	1名	有
9月20日	川崎市こども未来局	多摩区エリア別実技研修	1名	有
11月7日	川崎市こども未来局	多摩区栄養士等研修会 ナッジを活用した普及啓発	1名	有
11月28日	川崎市こども未来局	多摩区公開保育付きスタッフ交流 研修 遊びと生活～子どもの主体性を大 切にした保育～	1名	有
12月6日	川崎市こども未来局	園長連携連絡会	1名	有
12月21日	川崎市こども未来局	園内におけるチームワークと対話 の重要性	1名	有
1月17日	川崎市こども未来局	多摩区公私立保育所栄養連携連 絡会	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上 げる会議)	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	17日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
施設長養成研修	主任が年4回出席 4月20日/7月6日/10月5日/1月11日											
デモンクインターンシップ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉スタッフ個人別研修計画

- ・個々のキャリアプランを意識し、今年度の個人MBOを決定した。
- ・目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画をたて、外部研修、系列園でのOJT研修、他施設見学等積極的に組み入れていった。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていった。

また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していけるようにした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：寺尾台第1公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：café ゆいーと、読売ランド駅前交番、丸庵、日本女子大、イトマン、ニチイホーム、小田急バス営業所、COOP 寺尾台、アートヒルズ、けやき歯科、すわクリニック、鈴木歯科医院、多摩消防署、ニマイバシ、小田急 OX、読売ランド前駅郵便局等
異世代交流	10月14日に西生田小学校にて運動会で合同競技を実施
その他活動	1月12日に錦が丘公園にてクリーン活動を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

川崎市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また小学校を知るための取り組みを積極的に行った。5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って子ども間、スタッフ間の交流を深め、実態を知る。またアプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズ

ズになるような学びに向かう準備をしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月23日	南百合丘小学校	1名	南百合丘小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
6月30日	西生田小学校	1名	西生田小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
7月11日	百合丘小学校	1名	百合丘小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
10月16日	菅小学校	1名	菅小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
10月24日	南生田小学校	1名	南生田小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
10月26日	南菅小学校	1名	南菅小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
11月16日	西菅小学校	1名	西菅小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流
12月15日	生田小学校	1名	生田小学校授業参観、意見交換会	スタッフ間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてた。

月一回のケース会議で振り返りとスタッフ間の共有を行い、見直していった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計10回開催 参加者：5名

支援計画の振り返りと次月計画の確認スタッフ間で行いと支援方法の共有

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引き継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
82名	65名	67名	568名	71名	50名	82名	69名	92名	49名	45名	60名	1300名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	8名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	10名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：寺尾台第1公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：平塚有未・堤栞里

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：74%

（省察）スタッフによって対応が様々で同じ対応ができていないので、保護者の気持ちに寄り添った対応をするための園内研修を行った。また繁忙期になるとスタッフ間の情報共有がうまくできないことが課題なので、仕組みを変えた。

子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしてきたが、まだ保育計画に沿うことを重視して柔軟性に欠ける場面があったので子どもの人権チェックを年2回行った。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：読売ランド前どろんこ保育園 施設長 松久保 陽子

2023年度 守谷どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

チーム保育による異年齢保育、クラスを越えた選択制保育などに取り組んできた。昨年度に引き続き、担任のスイッチにより担任外の子どもを理解し関わる機会もつくってきた。

用務員が園庭や戸外活動で児と関ることや、事務員の保育 OJT・調理員の保育 OJT なども加え、全園児を全職員で育てる姿勢で一年間進めてくることができた。

保護者サポーターズとの協働も基本の形となり、大人の協働の姿が子ども達にフィロソフィーとして伝わっていることは園の大きな特徴となっている。地域の親子の来訪も多くなり、子育て基地としての機能も強くなってきている。職員間と保護者、そして地域に広げたチーム保育の実践を文化とし、さらに推し進めていき、みんなに愛される園創りをしていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育活動を深める
	実践結果	動物の飼育もはじまり、特に3歳以上児の日課活動を生活に盛り込むことは一歩進んだ。子どもの中で朝早く来たいという声が聞かれるようになっている。
	次年度方向性	日課の意図を理解して行うことで、やらされるのではなく「自ら行う日課」として職員皆で深化させていきたい。
2	計画・ねらい	選択制（発達別）異年齢保育の推進
	実践結果	本当に選択制が必要かという問いをリーダー間で話し合い、子どもの自己決定の機会を大切にしようという地盤が固まった。また保育内容も多様化した。
	次年度方向性	選択させることを目的とせず、自己決定の機会として捉えるように進めていく必要がある。選択肢の意図を含めて提示していきたい。
3	計画・ねらい	子どもの保育計画への参画
	実践結果	5歳児の午睡時間帯やサークルなどでは話し合う機会は持てたが、計画的に盛り込んでいくことは一部課題として残った。
	次年度方向性	自分たちの生活を自分たちで計画していくことで、主体的な姿を増やし、他者に対しても働きかける機会を増やしたい。参画の大切さや有能感を学んでほしい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝の気持ちをもって関わる
	実践結果	お迎え対応については課題として捉え、フォーマット展開やリーダー中心にOJTを実施した。
	次年度方向性	職員間のばらつきを標準化させつつ、リードできる職員が率先して行う取り組みも考えていく。
2	計画・ねらい	共育ちの実現
	実践結果	個人面談や保育参加が増え、昨年度超える人数と対話する機会が持てた。また保護者同士のつながりも強まった。
	次年度方向性	単発の機会ではなく、それをきっかけに伴走している関係性を作れるよう、保護者一人ひとりと丁寧に関わっていく。
3	計画・ねらい	保護者間コミュニティの形成
	実践結果	サポーターズ中心の活動や保護者との協働により、保護者間の結びつきは間違いなく強まった。行事などで保護者同士が関わる姿が多くみられた。
	次年度方向性	結びつきを強めることと、広げること、そして何より孤立させないようにオンラインも視野に入れて、交流の機会を増やす。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て世帯にとって、安心できる基地になる
	実践結果	利用者が仲間を誘ってきてくれることが増え、お気に入りの場所となってきた。
	次年度方向性	様々な価値観を持つ保護者がお互い心地よく過ごせるよう、施設としてどんなアプローチが必要か考えていく。
2	計画・ねらい	子育て支援センターちきんえっぐとして、利用者を増やす。
	実践結果	利用者数の目標値をもって年間運営してきた。結果として昨対比約200%の利用があった。計画通り、次年度からは質の向上に特化していく。
	次年度方向性	さらに利用者を増やしつつ、保育とのタイアップや地域の力を巻き込むようなアクションにつなげていきたい。
3	計画・ねらい	園紹介用資料作成
	実践結果	地域への発信場所を作り、活動を可視化したことで、地域の方から声をかけていただくことが増えた。
	次年度方向性	園を知ってもらい、地域の保護者支援の中で、理解者が入園希望につながるサイクルを作っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	各期の保育振り返り
	実践結果	園内研修としてドキュメンテーションの発表を行ってきた。自分たちの保育を可視化し定期的に振り返ることができた。
	次年度方向性	ドキュメンテーションの作成の意図を理解させつつ、ポイントを明確にするなど効率化させる取り組みを考えていきたい。
2	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育理解
	実践結果	園見学や入所面談など多くの職員が担当することで、自分たちの保育を自分で語る機会をつくってきた。
	次年度方向性	やるべきことの理解は出来ている。一方なぜそれを行っているか、行うことでの子どもの育ちはまだまだ深めていく必要がある。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力UP
	実践結果	園内研修とキャリアアップ研修中心に各自の学びから相互の学びへつなげてきた。
	次年度方向性	社内研修環境の変化により、利便性が上がった一方で、複数の職員で学ぶ機会が減った。相互の学び合いの機会増加に向けた取り組みが必要と考える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	伐採した樹木の活用
	実践結果	伐採した樹木の幹の部分相当量活用できた。不調となった自然を切って捨てるのではない形で考える良い機会になった。
	次年度方向性	自分たちの活用力を高め、冬場の薪などへの加工も含め安全に気を付けながらスキルを磨く。
2	計画・ねらい	木陰で遊べる環境づくり
	実践結果	木陰部分に遊べる環境を用意し、ミストなどを設置することで夏場も園庭活動を行うことが出来た。
	次年度方向性	年間で毎日遊べる園庭環境を園の強みとして、子どもの育ちや地域の憩いの場として広めていく。
3	計画・ねらい	井戸水の活用と上水道との違いを知る
	実践結果	子どもが使いやすくすることで、夏場中心に遊びの発展があった。子ども同士で違いを伝えあう姿も見られるようになった。

	次年度方向性	子どもたちに井戸水は何に使うことに適しているのかも含めて、自然環境について考える機会をつくっていききたい。
4	計画・ねらい	園庭で動植物に日常的に触れる体験
	実践結果	ヤギと鶏の飼育を開始し、子ども達や地域にも命に触れる有用な機会をつくることのできた。地域との調整も考慮すると大きな一手となった。
	次年度方向性	ヤギが死んだことでさらに子どもが学ぶ機会となったので、また新たな個体を飼うことで、命について子どもと一緒に考えていききたい。

〈6〉 チーム保育

1	計画・ねらい	担当スイッチ
	実践結果	担任のスイッチだけでなく、調理職員・事務職員の保育 OJT など実施することができた。多くの気づきにつながったので、これをチームの発展につなげたい。
	次年度方向性	OJT では感じたことをその場で伝えること。同時に受ける側はもっと自分たちの保育を伝え、対話する必要がある。
2	計画・ねらい	同僚性強化
	実践結果	新卒職員研修やリーダーによるメンバー1on1を実施することで、横のつながりを強化してきた。ここは継続したアプローチが必要と感じる。
	次年度方向性	リーダーによるメンバーへの関与を深めることで、関りを交わりに展開していききたい。またリーダーだけでなくメンバーひとりひとりにも役割があることを確認していく。
3	計画・ねらい	保育の相互評価
	実践結果	園内研修でのドキュメンテーション発表を用い、相互評価の機会を作ってきた。また年度末に他セクションの評価をディスカッション形式で実施した。事業計画に対しての振り返りも全体で行った。
	次年度方向性	保育発信とセットでフィードバックを行う。相互に認め合い、相互に是正していける仕組みを作っていく。

〈7〉 主体的な相互の学び

1	計画・ねらい	選択制園内研修
	実践結果	リーダー層中心に園内研修を実施。自分の考えを伝えたい思いから研修の主体的実施があったのは大きく変化した部分であった。
	次年度方向性	決まった職員が行うだけでなく、学びから発信へのプロセスの中で研鑽できるよう多くの職員に機会を与えていききたい。

2	計画・ねらい	自主研修の実施
	実践結果	保健関連の研修により、全職員の有事の対応の水準を上げた。 主任による志木どろんこ保育園とのリーダー研修は学ぶ意欲を形にすることが出来た。
	次年度方向性	研修機会の確保に課題がある。意欲が高まった時にいつでも学びの機会を活用できるように、とにかく情報周知を進めていく。
3	計画・ねらい	自分が選定した書籍を職員全体へ紹介する。
	実践結果	リーダー推薦の園内資料を購入。この紹介や発信まではできなかった。
	次年度方向性	インプットからアウトプットまでのきっかけとして書籍や動画を紹介する機会は継続して作っていく。

〈8〉 サポートर्सとの協働

1	計画・ねらい	協働での環境整備
	実践結果	昨年度に引き続き、今年度も環境整備が実施できた。 初参加も増え、保護者間の対話の機会として貴重なものとなった。
	次年度方向性	いつも参加してくれる保護者も貢献してもらいつつ、参加を迷っている方や情報を知らない保護者へアプローチしていかれるようにする。
2	計画・ねらい	サポートर्सからの参画を実現
	実践結果	絵本勝手箱は保護者起案として実践することで活用する利用者が増えた。 また行事の日の駐車場確保など、進んで動いてくれたことでスムーズな開催が出来た。
	次年度方向性	活動が形骸化しないよう、新たなアイデアが出やすい状態を作る。そして多くの人が活動に参加できるようにつなげていく。
3	計画・ねらい	園の保育・サポートर्स活動の可視化
	実践結果	サポートर्सが、写真で過去の活動が振り返れる仕組みができた。サポートर्स専用掲示板を玄関常設し入会や活動広報しやすくなった。
	次年度方向性	役職者を減らしたことで、動きが止まることがあった。個人の負担を分散させることが出来るよう、再度体制の見直しを行っていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	44人	90人	90人	90人	90人	83人	487人
年度後半： 10~3月	85人	90人	90人	90人	90人	84人	529人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	109 人	96人	125 人	141 人	108 人	121 人	136 人	108 人	117 人	99人	73人	90人	1323 人
うち0 歳児	0人	3人	25人	21人	16人	22人	21人	8人	15人	2人	6人	10人	149人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	施設長	1人	主任	1人	保育士	13 人	栄養士	2人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	1人	栄養士	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる園内研修 ・行事などの進捗確認や決定事項の共有 ・子どもの人権や虐待防止のチェック ・ドキュメンテーションによる定期的な保育の可視化と振り返り
給食運営会議	月1回	食育プロジェクトとして、月間のアクションプラン設定と振り返り
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント報告・ヒヤリハットの振り返りや数値検証。避難訓練の評価や事故防止の取り組み検討。
ケース会議	月1回	ケース内容に関してリフレーミングを実施。どう捉え、課題に対してどう関わるのか検討してきた。
クラス会議	月1回	各クラスの課題抽出と保育是正に向けての検討。
環境PJT会議	月1回	保育環境の再構成と整備について計画及び実施

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
防火管理者	毎月の避難訓練の総括。火器使用時の消防署への書類提出。
食品衛生管理係	給食食材の仕入れから提供。コストコントロールと残渣削減の取り組みを施設長と連携し総括。
環境チーム	物的環境の評価及び再構成のイニシアチブを握り担任と連携する。
研修チーム	研修情報の発信と各職員の受講情報の管理
生き物チーム	生き物の飼育全般の管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭りチーム	今年度は新型コロナウイルスの影響も緩和し、盛大に開催することができた。サポーターズとの協働で多くの参加者への対応も円滑に行うことができた。一方サポーターズとの伴走はペースを合わせる事が難しい課題も残った。
モリンピックチーム	内容としては異年齢や選択制という意図をもっと盛り込むことが必要だった。運動面は長けている児が多いので、もっと発展させるには備品なども考えていきたい。運営面では会場の駐車場確保が課題となる。
どろんこライフチーム	サポーターズからの意見集約も行い年間の総まとめとして早めの計画をし、動くことが出来た。保育者の連続的保育や発展的保育を強化することで、より一層の内容充実が図れる。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性とわがままについて ・偏食に対する対応 ・どろんこ会の保育が就学後にどうつながっていくのか ・インクルーシブ保育の効果について
----	--

保育参加	4～3月まで 合計17名 が参加済み (3月1日時点) ・コロナが落ち着いた影響もあり、前年度に比べて大幅に参加人数は増加したが、参加リピートの保護者が多く、新規参加までがなかなか繋がらない。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計102件 実施済み (3月1日時点) ・前年度の倍近くの参加。保護者との信頼関係を築く上でも、より丁寧な面談を心掛け、共育ち共育てを今後も目指していきたい。

〈2〉計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食育プロジェクト
	実践結果	毎月の発信やアクションは停滞した部分があったが、食育懇談会や支援センターとのタイアップなどは成果として積みあがった。
	次年度方向性	家庭と保育所の生活を分けず取り組んでいく。各大人のオリジナルでなく保護者と保育者の伴走型のアプローチで豊かな食環境を目指していく。
2	計画・ねらい	食の課題を生活全般との照らし合わせで考える
	実践結果	日常の野菜の下処理や畑仕事をプロセスに子どもの食の課題は改善していくことに気づくことが出来た。
	次年度方向性	長期的視野で体験を用意する。収穫や食べることは楽しいが、それ以外のプロセスこそ意味があることを伝えていく。
3	計画・ねらい	SDGs を視野に入れた食の循環の学びと実践
	実践結果	マグロの解体や五園合同収穫祭では生き物をさばいて食べるという貴重な直接体験が出来た。子どもにとって日常では体験できない内容で非常に関心を示した様子だった。
	次年度方向性	捌く・食べるということの先にある学びへ教育的視点を進化させていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月7日／12月3日に実施
歯科検診	9月11日に園内にて実施

保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月に園内にて手洗い指導を実施 ② 6月・12月に園内にて歯ブラシ指導を実施 ③ 12月に園内にて上着の着脱指導を実施
流行した感染症	11月にインフルエンザ、園児4名感染報告有り。11月末に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアップ使用 その他、計1名8月24日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に園内にて、エピペン研修を保育士3名、栄養士1名計4名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、21名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・6月10日、17日につくばどろんこ保育園にて普通救命講習Ⅲを計6名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ26名のうち、24名が使用可能
その他保健に関する取組	手洗いうがいの励行 自身の体調不良の申し出を推奨

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月7日、12月13日 歯科健診 各年1回／9月11日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	環境改良プロジェクト
	実践結果	定期的な評価や再構成に向けてのアクションが弱かった。結果として物的環境の充実が停滞していた。
	次年度方向性	プロジェクトの仕組みの整備と、メンバーの人選含め再度検討してスタートする。
2	計画・ねらい	子どもの参画による環境設定
	実践結果	子どもの意見を集約することや、サークルなどで環境について話しあう機会を持つことが少なかった。
	次年度方向性	保育者はきっかけを与え、子ども達が自ら関わり、自ら育つ環境を再度考えていく。
3	計画・ねらい	保護者との協働による環境整備
	実践結果	定期開催している環境整備を継続することができた。初参加もあり、子どもの過ごす環境に関わる機会の提供が出来た。
	次年度方向性	サポーターズの解散及び再募集を経て、さらに関わる人が増えるよう、情報の周知を強化させていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	各保育室	毎日	異常なし
2	名札入れ	玄関	毎日	異常なし
3	小さなマイホーム	1歳児保育室	毎日	異常なし
4	園庭デッキ	園庭	毎日	異常なし
5	荷物掛け	荷物掛け	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	年間計画に沿って、月1回の避難訓練（年2回の書き込み訓練）漏れなく実施した。
2	実践結果	事故防止チェックリストを活用し、定期的な点検を行い安全管理してきた。
3	実践結果	設備点検チェックリストの活用し、定期的な点検を行い安全管理してきた。
4	実践結果	毎月の法人事故防止員委員会における、施設長間での事故防止検討を行ってきた。
5	実践結果	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討と実践（数値データによる分析）をしてきた。
6	実践結果	法人内外事故記録簿の職員共有を定期で行い、自園の危機管理を検討しアクションにつなげてきた。
7	実践結果	ハザードマップ作成及び見直しを定期的に行い、戸外活動における危機管理を継続して行ってきた。
8	実践結果	園に対しての防犯の目、有事の際の相互協力ができるよう、町内会や近隣と定期的なコンタクトをとり、コミュニケーションを重ねた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年

開園三年目となり、学校との継続した連携に加え、新規の保育ボランティアの受け入れにより、園としての存在の認知と、受け入れ体制の充実を伝える機会となった。守谷どろんこ保育園の実習生が当法人に入社するなど、改めて園としての役割と影響の大きさを実感し、職員と振り返る機会としていった。継続的な受け入れ、将来の保育仲間を支える場となっていきたい。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月1～3日	江戸川学園おおたかの森専門学校	2人	保育ボランティア
2月1～14日	彰栄保育福祉専門学校	2人	責任自習
2月1～15日	彰栄保育福祉専門学校	2人	部分実習

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 25名	19日 26名	16日 26名	14日 25名	25日 25名	15日 26名	13日 26名	10日 26名	15日 26名	19日 26名	16日 26名	3日 26名
園内研修	21日 24名	19日 23名	16日 23名	14日 23名	25日 21名	15日 23名	13日 22名	10日 24名	15日 22名	19日 23名	なし	なし

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	実施 なし	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
主任・ミドル会議	実施 なし	19日 2名	22日 2名	6日 2名	24日 2名	21日 2名	5日 2名	24日 2名	21日 2名	11日 2名	22日 2名	実施 なし
全社員研修	1月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈3〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認を行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

積極的な関わりのもと、商店街ツアーや世代間交流を通して地域に広く知られるようになり、地域とのつながりが加速した。また交番や消防署では実際の現場や働く姿を見せてもらい、子どもの興味関心を広げる機会になると同時に、社会生活との関りを促進する機会となった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：ログハウス公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：守谷駅、イオンタウン守谷、取手警察署守谷地区交番、守谷消防署、守谷中央図書館、ブランチ守谷、アサヒビール茨城工場、小菅農園直売所、ヤマト運輸立沢センター等
世代間交流	月1回 いきいきプラザ・げんき館にて交流会を実施
異年齢交流	12月1日に黒内小学校にて交流会を実施
その他活動	8月25日に守谷どろんこ保育園にて異文化交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

昨年度のWEB交流の実施から、新型コロナウイルスの緩和も相まって、学校行事を通して子ども同士の直接的な交流につながったのは良い機会となった。

職員間交流に関しては、今年度の振り返りをもとに、職員間の引継ぎ、年間計画の作成に力を入れていくと同時に、年間計画をもとに小学校との連携を強め、園として職員間交流への積極的なアプローチを実施していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月22日	高野小学校	1名	授業参観	授業見学
10月31日	松ヶ丘小学校	1名	授業参観	授業見学

11月10日	松前台小学校	1名	授業参観	授業見学
11月17日	大野小学校	1名	授業参観	授業見学
11月21日	黒内小学校	1名	授業参観	授業見学
11月22日	黒内小学校	1名	授業参観	授業見学
12月1日	黒内小学校	5歳児 14名	秋祭り	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

保護者との情報共有をもとに、お迎え対応や面談などで家庭での様子、変化をこまめに聞きとり、更新や見直しにあたった。都度状況や成長を共有していきながら、密に保護者と連携を図ることができた。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：各回4名

個別支援計画をもとに、該当児の困っていることにリフレーミングすること、また好きや得意を認め、伸ばしていく視点を持つことで必要な支援を導き出していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

児童要録を提出し情報共有を行っていった。今後は小学校連携と合わせて、情報共有を重ねていき、相互理解を深めていきたい。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
62名	40名	59名	80名	93名	69名	234名	124名	106名	173名	160名	150名	1350名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	30名	20名	12名	17名	21名	16名	14名	28名	13名	37名	40名	40名	288名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	4名	10名	0名	0名	0名	0名	8名	13名	13名	9名	10名	67名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：ログハウス公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	10名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	2名	0名	0名	18名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：主任・乳児リーダー・幼児リーダー・事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：137.3%

回収率は例年通り高く維持することが出来た。NPSの数値は下がったが、一方支持者が増えていることが確認できた。今後は強みを生かし、課題をひとつひとつ改善していくことが必要なる。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

「報告すべきご意見 0件」

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：守谷どろんこ保育園 施設長 荒川 直志

2023年度 メリー★ポピンズ 登戸ルーム事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「日課」は定着することができた。さくらさくらんぼリズムを8時15分に開始し、月によって危局を変えることで子どもたちが楽しみにしながら参加できるようになった。時間が決まったことでその後の雑巾がけ・座禅・散歩の流れを確立することができた。

畑やプランターの野菜の生育が悪かった。計画的に追肥をしていくことが必要だと考えられるので、次年度はコンポストでの肥料づくりを継続して行っていきたい。

「接遇★神対応」は全スタッフが意識して行っていた。丁寧な対応と笑顔で接することで保護者の信頼が高まったと感じる。次年度も継続して行っていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	大人が教えねばならないことを知り、計画的に環境を用意する。
	実践結果	畑仕事・雑巾がけ・生き物の世話を通して子どもに伝えたいことは何か、丁寧に仕事をするの意味など保育者が一緒に行いながら教えていく。
	次年度方向性	ねらいやなぜやるのかについては子どもに伝えることで子どももスタッフも目的を持った行動を行えるようになる。定期的に園会議で環境設定について見直しを行う。
2	計画・ねらい	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し成長段階に合わせて就学前教育を行う。
	実践結果	午後散歩の時間の確保が優先されてしまったが、のびのび・音楽指導・体育指導は一人ひとりの子どもに合わせて指導することができた。
	次年度方向性	午後の活動の予定を月案会議の際に決めておく。音楽指導や体育指導は計画表を立案する。5歳児は興味・関心や習熟度に個人差が大きいので得意なものをのぼせるような計画を行う。
3	計画・ねらい	園長大学®保育士大学の研修を利用し保育者が学びあう環境を整える。
	実践結果	学園長大学®保育士大学の研修を生かせる場は少なかったが散歩のロールプレイ研修や虐待防止研修は子どものことや危険個所の共有散歩時の困った出来事を話し合う場を設けることができた。
	次年度方向性	子どもの年齢や発達の様子に合わせた環境設定に重点を置いて園会議にて研修や話し合いを行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者が感動するほどのお迎え対応をする。
	実践結果	保護者の気持ちに寄り添い、お伝えする子の成長が伝わるような対応を心がけた。何か質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で話し合い、意見を一致させてからお伝えした。どのスタッフに聞いても同じ回答が返ってくるような体制を整え、安心感に繋げた。
	次年度方向性	次年度はスタッフが変わるが、園の明るい雰囲気を引き継ぎ、丁寧な保護者対応を行っていく。新しいスタッフには今年度のスタッフの良いところを具体的に伝えながら指導を行う。
2	計画・ねらい	連絡帳アプリ、タイムラインの活用法を考え、成長を共有する。
	実践結果	アプリでの配信が多いため、お迎え対応時に配信されている手紙や写真に触れたり通路に掲示したりすることで見る習慣がつくようになった。お迎えの時にもタイムライン見てくださいと声をかけることが増え、タイムラインの感想を話してくださる保護者も増えた。
	次年度方向性	銭湯やクッキングなどの活動の際に持ち物がある場合はタイムラインを活用していく。アプリでのおたより配信については見ていない保護者の方に対してはお迎え時に配信の告知をする。
3	計画・ねらい	保育園の活動内容が手に取りようにわかる畑仕事や行事のドキュメンテーションを掲示する。
	実践結果	畑カレンダーを玄関入り口に設置したため、読売ランド前どろんこ保育園の畑仕事で何を行っているか伝わりやすくなった。
	次年度方向性	読売ランド前どろんこ保育園の畑仕事の様子だけでなく、園のプランターの状況も合わせて掲示を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	どろんこ会の活動内容を発信し続ける。
	実践結果	勝手籠バザーや水遊びや散歩、寺親屋など「たまっこカレンダー」を活用し勧誘した結果、問い合わせが増え、園に来ていただく地域の方が増えた。
	次年度方向性	「たまっこカレンダー」を見ている地域の方が多いため引き続き活用し参加者を増やしていく。
2	計画・ねらい	「勝手籠バザー」の取り組みをきっかけに育児講座を開催していく。
	実践結果	今年度は離乳食講座を開催した。栄養士の話に興味をもって聞いてくださり離乳食への知識が深まったということと保育園の給食編関心が深まった。
	次年度方向性	新入園児童に対する離乳食講座の開催。6月の懇談会後の離乳食講座の開催を計画する。

3	計画・ねらい	こども未来局保育事業部多摩区保育総合支援の「たまっこカレンダー」を活用し参加者を募る。
	実践結果	毎月掲載することによって地域の方からの問い合わせが増え、参加者も増えた。
	次年度方向性	次年度も継続して「たまっこカレンダー」を活用する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダースタッフが中心となり、園内研修を行う。
	実践結果	園会議の時間を使って、質会議やコンピテンシーを活用しリーダーに園内研修をする時間を用意した。 時間内で伝えきる等の機会を設け自信につながった。
	次年度方向性	園内研修においてはリーダーがファシリテーターの役割を担い、自分とは異なる意見を受け入れ、それぞれの個性を生かせることを目指す。
2	計画・ねらい	向上心のあるスタッフを育成する。
	実践結果	キャリアアッププランを見据えて、年に4回上長と面談をすることを目標にしていたが全員は4回行うことはできなかった。
	次年度方向性	保育士としてのやりがいや楽しさを感じられるようにスタッフ全員でお互いを認め合うチーム保育を行う。
3	計画・ねらい	園長大学®保育士大学の研修を通してスタッフ同士で学びあう。
	実践結果	研修を視聴する時間を設けることができなかった。研修を受けることで自分の保育を見直し、新しいことをはじめたいという気持ちが芽生えるのでキャリアアップ研修はよい学びの機会となっていた。
	次年度方向性	キャリアアップ研修の受講を利用して、研修受講者が自分の学んだことを園会議の中で報告を行い、学びを深める機会を設ける。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける。
	実践結果	子どもによって最適な環境設定を行うために月案会議の際に会議を行い見直した。
	次年度方向性	園会議において環境設定の研修を実施し、研修の学びを生かした環境設定を行う。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点で事故防止チェック・設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。

	実践結果	様々な視点で点検できるようにスタッフ全員が交代で行った。非常階段口のカギが閉まっているか注意喚起を定期的に行った。
	次年度方向性	室内外の安全点検はスタッフ全員が意識できるようにスタッフ全員が点検を行う。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践結果	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める。
	次年度方向性	棚の上の整理整頓に重点を置き、保育室を離れる際に見直すことを習慣化できるようにする。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4～9月	6人	10人	12人	14人	14人	13人	69人
年度後半： 10～3月	6人	10人	12人	13人	14人	13人	68人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	12人	15人	16人	16人	16人	16人	181人						
うち0 歳児	1人	12人											

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
------------	-----	-----	-----	----	-----	----	------	----

パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待防止研修
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、配膳方法、献立振り返り
事故防止委員会	月1回	インシデント、ヒヤリハット検証と分析
ケース会議	月1回	個別支援計画に基づいた振り返り
子育て支援会議	月1回	子育て支援行事参加者の統計と振り返り

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子どもたち及びスタッフの健康保持のために保健的環境の維持向上に努めた。
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検を定期的に行った。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消火設備点検、避難経路の確保と点検を行った。
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をした。
畑係	畑カレンダーの掲示・栽培の計画振り返り
生き物係	子どもたちを巻き込んで生き物の世話をを行う計画と振り返り

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者や地域の方は楽しみにして参加して下さった。計画的に準備を行うことができた。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら触れあいを多くもつことができた。 ・多様な経験を通して感じたことを伝えられる場を大切にした。 ・やりたいことを自分で選択し、好きな遊びを通して興味関心を深めていった。 ・子ども同士が話し合い、一つのを創り上げる楽しさを知る機会を用意した。 ・保護者の要望に対しては耳を傾け、保護者の悩みや迷いを整理できるような問いかけを増やした。 ・発達に気がかかるのある子どもの保護者の相談の際には、保護者の不安な気持ちや迷いを受け止めて、次の行動を選択できるように相談を行った。
保育参加	4～3月まで 合計59名 が参加済み (3月1日時点)

保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計7名 が参加済み (3月1日時点) ・今年度は発達支援に関する相談が増えた。
--------------	--

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員は給食の時間に子どもが食べる様子を見て食事の形状について見直しをする。
	実践結果	給食会議で保育者と残食量・苦手なメニューの把握をし、改善点を話し合う。
	次年度方向性	給食残渣は子どもたち参加して計量を行い、子どもたちの意識の向上を目指す。
2	計画・ねらい	おなかをすかせて食欲がわくように戸外で十分体を動かす。
	実践結果	0～2歳児は11:15 3～5歳児は11:30まで戸外で体を動かして遊ぶことができ、散歩の帰り道は「おなかがすいた。給食何かな？」と楽しみにして帰ってくるが増えた。
	次年度方向性	9時出発の長距離散歩の機会を増やし、食欲増進につなげていく。
3	計画・ねらい	畑仕事やクッキングを通して食に興味を持つ。
	実践結果	プランター野菜の充実を図る。 読売ランド前どろんこ保育園の畑仕事を通し収穫した野菜を園に持ち帰り取れたてのおいしさや、加工したおいしさを味わう。
	次年度方向性	今年度は畑の野菜の生育が悪かったので追肥を定期的に行い収穫の楽しみを増やしたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	0.1歳児 年6回(各月) 2.3.4.5歳児 年3回(4ヵ月に1回)
歯科検診	6月16日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施

スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月19日に「虫歯の話」を実施 ② 8月21日に「熱中症を防ごう」を実施 ③ 10月23日に「目を大切にしよう」を実施 ④ 12月18日に「てあらい・うがいの話」を実施 ⑤ 2月19日に「感染症を防ごう」を実施
流行した感染症	流行した感染症なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月21日にエピペン研修を11名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、17名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・6月28日に多摩区役所にて子どもの応急手当研修をスタッフ2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、17名が使用可能
その他保健に関する取組	<p>感染症流行時には消毒を行う。</p> <p>新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p>

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み

	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 0.1歳児 年6回(各月) 2.3.4.5歳児 年3回(4ヵ月に1回) 歯科健診 各年1回／6月16日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月20日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	プランターを設置し年間を通して野菜が育つ。
	実践結果	日当たりや風の影響で今年度生育が悪かった。
	次年度方向性	子どもと一緒に何を植えるとよいのか調べ、実践し記録を残していく。
2	計画・ねらい	子どもの成長に合わせて室内環境を改善する。
	実践結果	子どもの発達や興味に合わせて話し合いを行いながら整えていった。制作活動を集中して行える場所の設定や環境を整えることが課題として残った。
	次年度方向性	園会議で定期的に話し合いを行いその場で環境の改善を行う。
3	計画・ねらい	園内開放で利用できる室内環境を整える。
	実践結果	利用者に合わせて室内に過ごせる場を提供し、玩具や絵本など設置し自由に遊べる場所を提供した。
	次年度方向性	室内開放だけでなく、活動に参加してもらおう。一緒に活動する機会を増やしていきたい。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月1回行った。また、うちのこアプリにて災害時緊急連絡を使用し、園が情報発信などを行い、安否・避難状況・避難先の情報を共有する体制をとることができた。
2	実践結果	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止に最善を尽くした。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書の運営を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかりと行うことで事故を未然に防ぐことができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

高校生1名。実習生2名受け入れ。オリエンテーションでは子どもとの関わり方や園での約束事、保育の楽しさを丁寧に説明し、安心して実習に入れるように配慮した。

実習が始まる前には、目標やねらいをもって参加できるように話をする時間を作り、次世代を担う人材育成に貢献できるよう努めた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月14日～26日	児童教育専門学校	1人	部分実習
8月28日～9月22日	児童教育専門学校	1人	責任実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月20日	広尾学園中学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	20日 18名	18日 18名	15日 19名	20日 17名	17日 16名	21日 17名	19日 17名	16日 17名	21日 17名	18日 16名	22日 16名	21日 17名

園内研修	20日 18名	18日 18名	15日 19名	20日 17名	17日 16名	21日 17名	19日 17名	16日 17名	21日 17名	18日 16名	22日 16名	21日 17名
------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月9日	川崎市	キャリアアップ研修（保健衛生・安全対策）	1名	有 or 無
6月～10月	川崎市	キャリアアップ研修（マネジメント）	1名	有 or 無
11月～1月	川崎市	キャリアアップ研修（幼児教育）	1名	有 or 無
10月～11月	川崎市	キャリアアップ研修	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 （子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	22日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	22日 1名	19日 1名
全社員研修	11月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	参加者なし											
デモンクインインターンシップ	1月26日～2月8日に1名のスタッフがアスモンズミーネ保育園にて勤務											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

青空保育ではチラシの配布を積極的に行った。夏の公園は午前中人が少ないので夕方の時間帯

に行くことも検討したい。勝手籠バザーが認知され参加者が増えた。多摩区が発行している「たまっこカレンダー」を見て問い合わせで参加して下さる方が増えた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：登戸第1公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：多摩警察署、登戸駅前交番、小田急登戸駅、南武線登戸駅、八百源、マクドナルド、ファミリーマート、まいばすけっと、柏屋、多摩図書館、ミニストップ、等
世代間交流	9月11日に「お年寄りと遊ぼう」を実施
異年齢交流	10月31日に登戸小学校にて「小学校へ行こう」を実施
その他活動	10月12日にマジックショーを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

校庭で行っている体育の授業を見学させてもらうことで小学校に進級する楽しみを感じることができた。また避難訓練の際の小学校までの避難練習をする機会を作ることができ、スタッフも園児も災害時の避難を想定することができた。運動会で体育館をお借りしたお礼を校長先生にお会いして伝えることができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月15日	登戸小学校	40名	避難訓練（登戸小校庭）	小学校見学
10月31日	登戸小学校	13名	小学校に行こう	小学校見学 校長先生にあいさつ
10月3日	宿河原小学校 1年3組・4組	2名	授業参観（宿河原小教室）	スタッフ間交流 授業参観
10月17日	中野島小学校 1年1組	1名	授業参観（中野島小教室）	スタッフ間交流 授業参観

10. 要支援児

今年度、対象園児なし

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

9月に個別支援系カウの作成を行った。見直しは次年度4月に行う。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・4～3月に計12回開催 参加者：6名
きになるこどもの様子を月1回昼礼にて共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

児童要録を送付した。各小学校の先生が園を訪問し、もしくは電話にてこどもの状況を引き継いだ。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5名	2名	16名	176名	84名	40名	127名	52名	2名	23名	0名	0名	300名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒今年度実施なし												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒今年度参加者なし 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名	10名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育	月1回 公園名：登戸第1公園にて 以下日程にて実施												

(支援センター主催)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	2名	2名	0名	0名	0名	2名	3名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：穂坂、藤原、西山、名越

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

おおむね好意的な意見をいただくことができた。丁寧な保護者対応を行うことに重要性を感じた。法人の理念を生かした保育内容と活動を意識して行うことで、子どもたちの経験が増え成長を感じられることで保護者の方の満足度や安心感が得られることを実感したアンケート結果だったと感じる。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 登戸ルーム施設長 穂坂 晴美

2023年度 メリー★ポピンズ川崎西ローム 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

基本方針として、「子どもたちの命を守る」という部分に注力し、マニュアルの徹底、子どもたちの人権を守るという保育園として、守るべき、最低限のことを意識し、2023年度の保育園の運営に努め、保育者の努力のおかげで、無事に一年を終えることができた。

また、目指すべき子どもの姿として、「自分でできることを自分でする子ども」「活動を選択し、自分で考えて行動できる子ども」「感じたこと、考えたことを様々な素材、また、言葉で表現できる子ども」「様々なことに興味を持ち、また、その興味を広げることができる子ども」の4つの姿を挙げ、園会議等でも取り上げながら、皆で話し合ってきた。

明確な上記の4つの姿があったことで、保育園の子どもたちの姿を振り返ることもできた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生き物の世話、畑仕事などを通して、食材や食の循環・環境への意識を身につける。
	実践結果	移動保育の中で、やぎや鶏と触れ合い、今年度もカブトムシや散歩途中で採ってきた昆虫を飼育することができた。移動保育の中では、やぎや鶏の世話の仕方を覚え、積極的に行うことができていたが、昆虫の飼育では途中、世話をすることに飽きてしまい、世話をしなくなるなどの様子があった。また、死なせてしまった後も、どうして死んでしまったのか、どうしたら死なせずに飼育できたのかなども子ども同士で話す様子も見られず、継続的な活動や生死教育にはつなげることができなかった。 畑仕事や食育、食の循環等の環境教育では、畑仕事は2022年度では、冬に作物が畑になかったりした時期もあったが、今年度は継続的に畑仕事を行うことができた。食の循環では、コンポストも設置していたが、うまくシステム化することができず、畑仕事とつなげることができなかった。
	次年度方向性	保育環境の中に鑑賞台を設置することができたため、この環境をうまく利用し、金魚やメダカなどの飼育を行っていききたい。また、飼育した後、風景となることがないように、絵本や図鑑を用意し、エサやりなども子どもたちの日課の中に取り入れることで、日常的に生き物に関われる環境を増やしていく。また、食の循環に関しても、SDGsに子どもたちが興味を持っていることから、コンポストを稼働させ、そのコンポストから出た肥料を基に畑仕事もより活発化させていきたい。
2	計画・ねらい	9時に散歩に出発することで戸外活動を充実させ、戸外に出ることで出会うことのできる「Trial&Errorの事象」の体験の場を多く提供する。
	実践結果	戸外での活動は今年度も充実させることができ、9時出発も継続的に行うことで、9時に出発することでしか出会えない自然の素晴らしさを子ども

		私たちはたくさん体感することができた。長距離散歩でも川崎大師までの散歩も今年度行うことができ、そこを目標に一年間かけて準備することができた。
	次年度方向性	9時出発は継続的に行い、9時出発を行うことで、子どもたちがどのような発見をし、どのようなものに興味を持ったのか、継続して追うことのできる目を持てるスタッフを育てていきたい。また、長距離散歩も一年間かけて、行い、次年度は鶴見どろんこ保育園までの徒歩での遠足も実施していきたい。
3	計画・ねらい	異年齢の関わりの中で、他者との協働、感情コントロール、目標の達成という3つの要素が求められる場面の環境を構成する。
	実践結果	異年齢の関わりは保育環境も含め、スタッフ全員で悩んだ一年だった。子どもたちが安全に、かつ、「他者との協働」「感情コントロール」「目標の達成」をすることのできるようにするためにはどうするか園会議、週案会議、リーダー会議で何度も議題に挙げ、そのたびに変更していった。現在もゴールはしておらず、また、ゴールはないため、引き続き、“メリーポピンズ川崎西ロームでできる異年齢保育とは”を考え続ける。
	次年度方向性	次年度も継続して異年齢保育をどのように進めるか考え続ける。特に保育環境については、子どもたち同士の学びを大事にしながら、その中でも遊びこめる環境や誤飲誤嚥の危険性を排除した保育環境の設置は考え続ける。
4	計画・ねらい	地域の人との交流を目的にしながらも、自らお金を持ち、お金を払うことで、お金に対しての知識や意識を育むマネー教育に取り組む。
	実践結果	金融教育は、結果として、実践することはできなかった。子どもたちの興味をそこに持っていくことの重要性をスタッフ自身も大切に捉えることができず、金融教育を行っていくことで、子どもたちのどのような力が伸びるのか、また、これからの社会を考えた時に重要なことだということを伝えきれなかったことに原因を感じる。
	次年度方向性	次年度は、まず、数字にもっと興味を持てるようにし、その中で、子どもたち自身で、お金について学びたいという気持ちを育てていきたい。また、スタッフ自身にもその重要性、これからの社会に必要な力だということを伝えていきたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもたちの育ちを広め、遊びの中で子どもたちがどのようなことを学んでいるのかを伝える。
	実践結果	タイムラインを充実させ、一つ一つの行事、また、活動にも保育者としてどのような力を子どもたちにつけてあげたいのか、記載した上でタイムラインをあげるようにした。保護者にねらいを伝えていくことで、少しでも園運営への理解をしていただけるように努めた。
	次年度方向性	タイムラインの内容を SNS にもあげていくことで、自園を利用していない方々にも自園の保育を発信し、理解していただくようにする。
2	計画・ねらい	保護者との信頼関係の構築に努めるとともに、保護者とともに子育てを担っていくものとして、保護者との子育て相談にも積極的に応答する。

	実践結果	3分間対応で子どもたちの育ちを伝えることに意識し、保育者だけでなく、調理も保護者からの食事の相談を受けるなどそれぞれが保護者の話を親身になって聞き、また、話をするのができていた。 絵本の貸し出しも一年通して行うことができ、スタッフの絵本紹介を行うことで、絵本を通しての子育ての重要性も伝えていくことができた。
	次年度方向性	次年度は子どもの人数も増え、玄関での混雑が今年度以上に増えることから、スムーズな保護者対応と短い時間で子どもたちの育ちを伝えるスタッフの育成に努めることで、変わらず、園理解をしていただけるように努める。
3	計画・ねらい	行事や保育参加などへの積極的な参加を促し、子どもたちの育ちを一緒に喜ぶ。
	実践結果	保育参加の人数も増え、保育参加した後に、そのまま面談を行うことで実際に保育園での姿を見てもらった上で、子どもたちの今の姿を話すことができ、園での子どもたちの姿を保護者の方に理解してもらいやすかった。また、アンケート結果も良く、参加してもらうことで、園理解が深まったように感じる。
	次年度方向性	全家庭年一回の保育参加を目指し、どろんこサポーターズを中心に園の行事にも積極的に参加してもらえるようにしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	駅前型保育園という立地を生かし、近隣の商業施設との連携を築く。
	実践結果	昨年度より継続していた製作の掲示を継続して行うことができ、少しずつではあるが、保育園の存在を地域にアピールすることができている。
	次年度方向性	次年度はただ、製作を飾るだけではなく、各施設の運営内容と共同した製作を作成し展示し、保育園として取り組んでいるSDGsの活動に絡めることで、地域全体のSDGsの普及にも力を入れていきたい。
2	計画・ねらい	地域の子育て支援世代に対し、必要とされる保育園となる。
	実践結果	今年度も昨年度と比較して、多くはなかったが、ちきんえっぐの参加があった。ただ、今年度は、マジックショーや読み聞かせなども開催したことで、系列園や近隣園の子どもたちを招いて行ったことで、地域との絆を深めることができた。
	次年度方向性	マジックショーや読み聞かせを今年度よりも多く開催し、地域の子育て世代はもちろん、近隣園も招待することで、近隣園との交流を増やしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自治体、法人の研修を各スタッフ個人に合わせ、大人の間力UPを目指す。
---	--------	------------------------------------

	実践結果	外部研修に参加することはほぼなかったが、会議等では昨年度は主任、園長中心で考えてきた内容をスタッフ中心で行うように意識し、進めていくようにした。また、会議もディスカッション中心に行うことで、保育経験の少ないスタッフも発言がしやすい環境を整えるようにした。
	次年度方向性	次年度は園内研修を毎月スタッフが担い、自身が園の課題だと思える内容を取り入れることで、園の課題を自分自身の問題として捉えることができるようになるのではないかと考える。また、自身で学んだことをアウトプットする場があることで、より自分自身の学びを深めることができる。
2	計画・ねらい	研修を受講したスタッフが学んだことを他スタッフにアウトプットすることで研修での学びを深める。
	実践結果	質会議や週案会議など一つ一つの会議体で徐々にスタッフ中心で行うように意識した。しかし、まだまだ園会議など大きな行事は主任が中心で行うことが多くあった。
	次年度方向性	今年度は、ファシリテーションを主任中心で行っていたが、リーダーも育ってきているので、徐々に園長主任は内容を考える上で、相談は受けながら、実際の会議でのファシリテーションはリーダーなどスタッフ中心で行うようにしていく。

〈5〉 環境実施目標 SDGs への取り組み

1	計画・ねらい	障害、国籍を越えた多様性への理解
	実践結果	様々な施設に連絡を取り、交流を試みたが、施設として子どもたちとの交流を実施した経験のあるところがなく、今回は実施をすることができなかった。だが、園内で異文化交流などを行い、異文化への理解を深めることができた。
	次年度方向性	次年度は、自治体にも協力をお願いし、各障害者施設との交流ができないか相談していく。
2	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践結果	子どもたちも地域のゴミ問題に強く興味を示し、継続した活動を行うことができた。活動内容として、地域のゴミ拾いの実施、ゴミ収集業者との交流を行うことで、最後は生活発表会で子どもたちが学んだことを保護者に向けて発表することもできた。
	次年度方向性	この広がった興味を次年度はより深めていけるように、系列園にも活動内容を伝えていくようにする。 また、各公園内にゴミ捨て防止のポスターを掲示するなどゴミ捨て防止活動も伝えていく。

〈6〉 必要な物しか置かない施設

1	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても、気持ちのよい施設にする。
---	--------	----------------------------

	実践結果	断捨離を進め、必要なもの、必要でないものに分け、処分を進めた。整理整頓は、玄関での美化に努め、玄関は園の顔であることを一年通してスタッフにも伝え続けたことで、スタッフ自身も意識できるようになった。
	次年度方向性	引き続き、断捨離は進めていきながら、各保育室の美化にも努める。どうしても、普段の保育の中で、整理整頓も怠ってしまうので、子どもたちに整理整頓を促す前に、スタッフ自身の室内の整理整頓に努めるように意識できるようにしていく。
2	計画・ねらい	常に客観的な視点を持ち、整理整頓されているのか、清潔なのかを意識するようにする。
	実践結果	片づけ場所の明確化も進めていきながら、事務業務の明確化も進めた。消防署への総合避難訓練の申請方法なども明確化することで施設長以外でも申請を行うことができるようにした。
	次年度方向性	事務業務の明確化は次年度も進めていくことで、どのスタッフでも行うことができるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	33人	60人	58人	73人	77人	30人	331人
年度後半： 10~3月	36人	58人	55人	72人	78人	33人	332人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	78人	196 人	219 人	226 人	204 人	233 人	234 人	199 人	212 人	220 人	194 人	200 人	2415 人
うち0 歳児	11人	17人	5人	12人	5人	15人	15人	12人	15人	14人	12人	12人	145人

一時保育利用状況

（解説）一時保育事業の実施なし

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に関わる報告及び検討・保育についてのディスカッション・ロールプレイング
給食運営会議	月1回	児童の健康・アレルギー・クッキング等
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする。
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについてディスカッションを行う
週案会議	週1回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健計画の実施や嘔吐処理の仕方などをスタッフに伝える役割を担ってもらった。保健計画の遂行を毎月、意識できていないところがあったので、次年度は意識できるよう、マネジメント側としても伝えていく必要がある。
安全対策係	各点検の実施、また、ハザードマップの作成を中心に行った。ハザードマップはチャットを利用することで、スムーズにスタッフ全員に共有することができ、また、ハザードマップの更新も怠ることなく、行うことができた。
防火管理者	毎月の避難訓練を怠ることなく実施することができた。しかし、総合避難訓練の際の自治体報告を年間計画通り進めることができなかった月があったので、次年度は防火管理者だけでなく、スタッフ全員で意識できるようにしていく。
食品衛生管理係	アレルギー児も多い中だが、誤食の事故も一件もなく、調理のスタッフを中心としたマニュアルの徹底ができていたからこそその成果であると感じる。次年度も変わらず、誤食事故防止に努め、マニュアルを徹底した上で、安全な食の管理に努める。
畑係	年間の畑計画に沿って、畑仕事を行うようにした。どうしても、天候によって、実施できなかったものもあるが、昨年度と違い、秋から冬にかけて寒くなる時期も継続して畑の作物を切らすことがなかったことは大きな成果であると感じる。
SNS係	継続したSNSの発信を行うことができなかった。しかし、園内の発信媒体であるタイムラインの内容は充実していたため、次年度はタイムラインの内容をそのままSNSに生かしていける仕組み作りが必要になる。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者や商業施設と連携し、どろんこ祭りの準備を行うことができた。当日も多くの地域の方に来場してもらうことができ、園内の子どもや保護者だけでなく、地域の方にも楽しんでもらうことができた。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・9時出発を意識し、全クラス戸外での活動を充実させることを意識した保育を行うことができた。また、散歩先での活動にもねらいを持ち、ねらいを意識した上での散歩先選定もすることができていた。 ・各行事や活動を主体的に取り組むという部分では、保育者の働きかけも弱い部分もあり、全園児が取り組めていたかという点と取り組めていない部分があった。 ・異年齢の関りでは、一年通して、園全体で悩んだ課題である。特に室内での環境設定に合わせ、こどもたちの動きを制限せず、かつ、自由に交流させてあげるにはどうすべきか考え続けている。 ・保育者一人一人が自身のクラスを意識しながらも、でも、60名をスタッフ全員で保育をしていくということを意識し、それぞれの子どもを育ちを様々な場面で共有することができていた。
保育参加	4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践結果	次年度に比べ、前期は、畑仕事を十分に行うことができなかったが、年度の後半となり、畑仕事の重要性をスタッフ自身も捉え、継続して行っている。

		くことを意識することができた。子どもたちの会話の中でも畑仕事についての話も少しずつ聞かれるようになってきている。
	次年度方向性	畑仕事は継続して充実させながら、畑仕事からの食育活動に全園児が興味を持って取り組めるようにしていく。そのためには、導入活動を大事にし、継続した畑仕事にどれだけ全園児が関われるか、また、興味を持って成長を見守っていけるかが重要となる。
2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べることのできる環境作り
	実践結果	異年齢保育を実践していく上で、食べたいときに食べたい人と食べられる環境は常に提供していくように意識した。年度の後半になると、進級も意識したバイキング方式も取り入れて実践していくこともできていた。
	次年度方向性	次年度も引き続き、バイキング方式を取り入れ、子どもたち自身で食べたいものを選び取れる環境を取り入れていく。
3	計画・ねらい	日本、世界の郷土料理を知る。
	実践結果	食育活動に地域本来の郷土料理を取り入れることができなかった。
	次年度方向性	まずは導入から意識し、異文化交流などの行事と絡めることで、日本や世界の郷土料理を取り入れていくようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	0～1歳児：1回/2か月 2～5歳児：4回/年
歯科検診	6月7日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	季節の変わり目に定期的に幼児クラスを中心に手洗い指導を実施。
流行した感染症	流行した感染症なし
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用。園での発作、痙攣等の症状はなし。

エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日に園にてスタッフ13名受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、13名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	A E D 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 0～1歳児：1回／2か月 2～5歳児：1回／4か月 歯科健診 各年1回／6月7日
	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み

運営管理	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践結果	環境作りはスタッフ全員で一年通して、悩んだ部分だった。子どもの姿に合わせ、動線を考え、異年齢をおこなう上での誤飲誤嚥の危険性も加味した上での環境を設定するのは難しく、常に環境構成を工夫しながら行ってきた。
	次年度方向性	次年度も環境の重要性は変わらないと考える。子どもたちの興味関心も変わるため、今年度うまくいった環境もうまくいかなくなることは想定した上で、常に子どもの姿を見て、変化を加えることを楽しめるようにしていく。
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践結果	スタッフ全員が声の大きさを意識し、常に子どもたちの声を聞くことを意識することができた。しかし、子どもたちの声を意識し過ぎて、保育者同士の必要な言葉かけが足りず、連携不足になる場面が何度か見られた。
	次年度方向性	どんな言葉かけが必要で、どんな声掛けが不必要なのか今一度、スタッフ同士で話し合うことで、共通認識を持った上で保育に臨む必要がある。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	特になし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月、行うべき避難訓練を年間計画通りに実施することができた。
2	実践結果	点検すべき項目を点検し、施設長が行うのではなく、スタッフ自身が行うことで行うことで、子どもたちが生活すべき室内の安全管理に努めることができていた。
3	実践結果	特に子どもの命に関わるマニュアルの確認を定期的に行い、様々な場面でマニュアル通り実施できていたのかを確認するよう、意識した。

4	実践結果	川崎市のメール配信システムに登録し、特に災害等の発令に対し、最新情報を収集するようにした。
5	実践結果	自治体主催の救命救急講習も実施し、施設長やリーダーだけでなく、経験の浅いスタッフでも救命救急の場に立ち会った時に対応できるようにしていった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度、実習生の受け入れなし。

〈8〉中高生の受入

今年度、実習生の受け入れなし。

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 17名	26日 18名	23日 17名	28日 16名	25日 16名	22日 16名	27日 17名	24日 16名	22日 17名	26日 17名	16日 17名	21日 17名
園内研修	28日 13名	26日 14名	23日 13名	28日 12名	28日 12名	22日 12名	27日 13名	24日 12名	22日 12名	26日 12名	16日 11名	21日 11名

〈2〉外部研修への出席

今年度、実習生の受け入れなし。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

リーダー養成研修	第1回：4月20日に web にて1名（主任）が出席 第2回：7月6日に web にて1名（主任）が出席 第3回：10月5日に web にて1名（主任）が出席 第4回：1月11日に web にて1名（主任）が出席
デモンクインテンシブ	今年度、参加なし

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度、一番行った大きな地域交流としては、地域の子育て世代向けに行ったマジックショーや絵本の読み聞かせである。子育て世代へのアピールももちろんのことだが、系列園、地域の最寄り園も

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：西口さんかく公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：フローリストヒサマツ、三河屋、高力商店、相鉄ローゼン、二津屋豆腐店、シバタグミ、朋翔堂、リサイクルeco楽マーケット、川崎西口交番、光琳堂、肉の不二家、青山フラワーマーケット等
世代間交流	2月16日にひつじ雲にて折り紙などを使った交流を実施
異年齢交流	定期的に南河原中学校の畑を利用し、その際に中学生と交流。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校の業務の忙しさ、地域の保育園の増加の影響もあり、子どもたちが直接関わっての交流を行うことができなかった。また、インフルエンザの流行の影響で学級閉鎖もあったことにより交流を行えなかった影響の1つでもある。

だが、直接の交流はできなかったが、手紙をお互いに交換することで、間接的にでも交流は行うことができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月23日	実務担当者連絡会	1名	実務担当者連絡会	スタッフ間交流
6月23日	実務担当者連絡会	1名	実務担当者連絡会	スタッフ間交流
10月16日	南河原小学校	-	運動会にて体育館使用	スタッフ間交流
11月9日	幸町小学校	1名	授業参観	スタッフ間交流
1月24日	実務担当者連絡会	1名	実務担当者連絡会	スタッフ間交流
2月26日	幸町小学校	-	手紙交換	子ども間交流
3月1日	幸町小学校	-	手紙交換	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の作成を行い、常にケース会議を月一回実施していくことで、要支援児の保育の方向性を見直していくようにした。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：12名

園会議内、もしくは週案会議内でケース会議を行い、子どもの情報の共有に努めた。

なにより担任だけで悩むことのないように園全体で、課題に取り組むよう、意識した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

児童要録を中心に小学校への子どもの情報の引継ぎ。

個別計画を中心とした次年度への進級後の引継ぎ。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	190名	46名	50名	65名	15名	5名	17名	0名	15名	403名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：西口さんかく公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：12時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

(省察) スタッフ中心に利用者アンケートのご協力を促し、早い段階での100%の回答を頂くことができた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク (HP・メール・電話)、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ (事故含む)

報告すべきケガ (事故含む) 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月1日 作成者：メリー★ポピンズ 川崎西ロルム 施設長 岩本 亮

2023年度 八山田どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

当園は地域の中で、併設園の在り方を模索しながら取り組んできた。今年度は、特に地域や保護者を巻き込み多様性を尊重し子どもの育ちを考え併設園の質の向上を推し進めてきた。今後も、より良い併設園の形を目指して進んでいくことが求められる。

特に取り組んできたこととして、

- ① 子どもの保障される権利を尊重し、自分も他者も大切にできる価値観を育み、子どもの人権を尊重し気持ちに寄り添い、丁寧なまなざしを持って育んできた。
- ② 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を確実に実施した。
- ③ 体験を重視し、子どもたちが人・自然・もの・出来事と様々に関わる暮らしの中で、豊かな感性が育くみ、体験を通して探求の芽生えを育んできた。
- ④ 受容し安心して生活する場を保障し、自らの興味や関心に基づき主体性を大事にする保育を進めた。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人の大事にしている基本活動を理解し、保育に従事する。
	実践結果	基本活動「日課」の意義をスタッフが理解し、子どもと取り組んだ。 日課での子どもの育ちを言語化した。
	次年度方向性	日課に対しての日々の丁寧さを追求し、基本活動の大切さを発信し質の高い保育の有り様を模索していく。
2	計画・ねらい	スタッフが語り合う集団になる。
	実践結果	子どもの生活・遊びは学びであり「遊び」を通した子どもの育ちに気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てを言語化していった。
	次年度方向性	子どもが何に気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てをスタッフが言語化し、チームとして一人ひとりのお子さんを支える力にしていく。来年度も継続して進めていく。
3	計画・ねらい	養護的側面「一人の人として受け入れられる」教育的側面「資質・能力」を生活・遊びを通して育くむの両側面から充実を図っていく。
	実践結果	接続期カリキュラム「学ぶ力」「関わる力」「生活する力」のカリキュラムの再考をした。
	次年度方向性	語り合う文化を大事にしながら、子どもの面白い・子どもから教えられた等を日々の中で伝え合う文化の充実を図る。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者の綿密な連携をする。
	実践結果	随時、育児不安解消を目的とした子育て等に関する様々な支援を行い保護者が主体的に育児を行えるようにパートナーとして一緒に考え、共に子育ての楽しさを共有していきながら、地域の様々な方と繋がった。
	次年度方向性	今後も、保護者面談等での連携を図り、共に子育ての楽しさを共有していきながら、地域の様々な方と繋がった。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝えていく。
	実践結果	保育の過程や子どもの育ちの言語化・可視化し伝える機会をつくった。スタッフが日々3分間対応の中で様子を丁寧に伝えていった。
	次年度方向性	今後も継続して日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、家での様子も共有したりすることで、子どもが自ら育つ最善の環境と一緒に考え合える関係性をつくれるよう取り組んでいく。
3	計画・ねらい	送り迎えの際、ほっとできる場の構築。
	実践結果	大人が癒される場とは何か再考すると、子どもの様子を肯定的に捉えていく視点を持ち、3分間対応で伝えていくことを実践してきた。
	次年度方向性	来年度は、より対応の丁寧さを追求し保護者がほっとする場の構築を進める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園庭を開放し地域の方の癒しの場にする。
	実践結果	コロナ感染拡大予防のために、地域の方の利用は少なかった。
	次年度方向性	園庭を開放し、地域の方が地域の方と繋がる場を創生する。
2	計画・ねらい	保育園の様子を外部に発信していく。
	実践結果	ブログで保育園の様子を伝え、地域に開かれた子育て支援を行った。
	次年度方向性	来年度もよりブログでの発信を進めていく。
3	計画・ねらい	園と家庭・地域が協働し、いつでも気軽に集える場として地域の方が保育園を活用し、園が安心拠点として機能していく。
	実践結果	子育て等に関する相談や援助をした。
	次年度方向性	併設園を活かして、支援していくようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園の風土として保育士だけではなく、携わる全てのスタッフ・併設のつむぎスタッフと豊かな同僚性を育くむ。
	実践結果	保育に打ち込める環境、互いに認め合い尊重される関係性を基に働きやすい職場環境を作った。
	次年度方向性	その上で、語り合う文化の定着を図る。今後もスタッフは日常的に保育を語り、子どもを深く理解していくことを推進していく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針の理解を深める。
	実践結果	基本的な理解を再確認した。
	次年度方向性	「5領域」「指針」「環境構成」「養護」「教育」「接続期」「遊び込む」をキーワードにし深く掘り下げていく。
3	計画・ねらい	学びを広げていく。
	実践結果	自分の考えを積極的に表現した。 育ちや学びを保証していく中で必要なことを考えた。
	次年度方向性	更に充実していくために環境構成の視点から今後も深掘りしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践結果	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行う。作物の育つ様子を慈しむ姿が見られ収穫後も大切に食した。食品の加工を行う中で食材が変化する。不思議さを知り「知りたい」「やってみたい」が広がった。
	次年度方向性	食材の加工や畑仕事から、子どもたちが食の循環や環境への意識を身近なものとして感じられるよう活動を深める。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践結果	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるのではなく有効活用をする。皮付きのままの野菜の調理、野菜の調理、野菜の芯、出汁を取った後の昆布や鰹節を日常的に活用する。
	次年度方向性	食材を無駄にせず毎日の食事に大切に使われていることを実感する。
3	計画・ねらい	陸の豊かさを守る活動の実践をする。
	実践結果	園庭の整備や木陰を創りだせるように、常に手入れをしてきた。
	次年度方向性	来年度も継続していく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	多様性を子どもも大人も受け入れ、互いを認めあえる保育とスタッフ集団を作っていく。
	実践結果	今までの保育の在り方を考えではなく、新たな発見を見出す視点で子どもに携わる大人全てと一緒に保育を創り出す場を大事にしていった。
	次年度方向性	今後も生活を共にする中で、すべての子どもが互いを認めあい自分とは異なる個性や価値観を受け入れる心を育てていきたい。
2	計画・ねらい	一人ひとりの良さと違いを理解し、子どもの一人ひとりの健やかな成長を育てていく。
	実践結果	「試行錯誤= Trial&Error」ができる場を大事にしてきた。
	次年度方向性	子どもの健やかな成長を育てていく保育スキルを今後も構築していく。一人ひとりの子どもの姿を丁寧に見取り、適切な環境と関わりを整えていく。
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る
	実践結果	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の充実を図ってきた。 1日の生活のベースを共にすることで混ざり合う中での生涯にわたる生きる力を育ててきた。
	次年度方向性	多様性を認めあいながら、どろんこ会のインクルーシブ保育を実践していく。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	法人の食のこだわりを追求する。食育3大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことを実践する。
	実践結果	すべてのスタッフが子ども達の食事をすることが日常になっていることに加え共に食べることの楽しさや一人ひとりの食事の場面に丁寧に関わってきた。
	次年度方向性	今後も食事の場面を大事にし、丁寧に関わることを徹底していきたい。
2	計画・ねらい	豊かな食の体験の場の構築
	実践結果	様々な食育体験は、畑でとれた野菜を加工するなどして、子どもの発想や想いを丁寧に繋げていった。また、自分での盛り付けや配膳については子どもの発達に配慮しながら実践してきた。
	次年度方向性	子どもたち一人ひとりにより丁寧に関わる食事の場を創生していく。また、子どもの想いに気付く目をより培うようにする。
3	計画・ねらい	SDGs を考える場をつくる。

実践結果	残渣を出来るだけ少なくする活動やコンポストの活用等積極的に取り組むことができた。
次年度方向性	今後も子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動を進めていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	15人	16人	16人	16人	16人	14人	93人
年度後半： 10~3月	15人	16人	15人	16人	15人	14人	91人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	223 人	225 人	264 人	265 人	247 人	298 人	288 人	267 人	275 人	257 人	208 人	250 人	3067 人
うち0 歳児	9人	21人	53人	73人	73人	84人	72人	68人	61人	62人	58人	60人	694人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	2人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・AEDの使用訓練と消火器の使用法訓練 ・作業療法士のつむぎスタッフによる講習会
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有
フロアー会議	随時	月案・ねらいの確認・様子の報告
リーダー会議	随時	マネジメントの共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	グループの全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催した。
安全対策係	ケガ防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生管理係	衛生点検・給食提供マニュアル参照
畑係	畑管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者とともに企画し、運営した。
園庭改良係	より良い園庭の改良を推進した。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活での様子や理解を深めることに注力した。 ・面談の形にはこだわらず、声をかけ、察知できるよう心掛けた。
保育参加	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・希望する保護者が参加／保育参加アンケートにご記入いただいた。
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計60名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長と子どもと一緒に食べる。
	実践結果	身近な人と食べて美味しいと思う子を育ててきた。
	次年度方向性	昼食の時間を今後も大事に捉えて進めていきたい。
2	計画・ねらい	心地よい空間作りをする。
	実践結果	四季を感じる気持ち良い空間の、中で食事する経験を大事にした。
	次年度方向性	様々な発想を大事により、四季を大事に感じられる空間を創生していく。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践結果	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物をいかした食事を経験した。
	次年度方向性	より、日本の伝統食に子どもも興味をもち、作る経験から食べる経験を豊かにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月15日／11月9日に実施
歯科検診	6月7日に八山田どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	(ア) 6月1日に幼児室にて歯磨き指導を実施 (イ) 9月4日に幼児室にて手洗い・うがい指導を実施 (ウ) 1月5日に幼児室にて性教育を実施

流行した感染症	12月に胃腸炎、園児8名感染報告有り。12月20日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計1回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	4月14日に保育園にて保健研修をスタッフ計20名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、18名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	4月14日に保育園にて保健研修をスタッフ名計20名が新たに受講し習得済み 本日時点で、在籍スタッフ23名のうち、18名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月10日、10月6日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み

	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月15日、11月9日 歯科健診 各年1回／6月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	居心地の良い空間を創っていく。
	実践結果	子どもも大人も居心地の良い空間をつくった。
	次年度方向性	今後も動線も含め、居心地の良い空間を創っていくようにする。
2	計画・ねらい	試行錯誤しながら遊びこむ環境を創っていく。
	実践結果	「深く学ぶ」「深く観る」ことを大事に心揺さぶられる環境を大事に子どもと一緒に環境を創った。
	次年度方向性	興味関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協同的な学びを生み出す場を大事にしていきたい。
3	計画・ねらい	遊び込む場の見直しを図る。
	実践結果	夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。再構成できるスタッフの育成に取り組んだ。
	次年度方向性	遊びから学びが生まれる動的環境の空間づくりを行い。環境を子どもの興味関心また、スタッフの想いがその時期のあわせて再構成できるスタッフの育成を進めていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション		毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施した。 震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制を作れた。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備えることができた。マニュアルの徹底を心掛けた。
2	実践結果	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い事故防止の徹底を図った。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図った。
3	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告の分析をした。
4	実践結果	グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探った。
5	実践結果	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施し、また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とした。
6	実践結果	光化学スモッグ・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示するが、発令はなかった。
7	実践結果	リスク管理委員会によるリスクマネジメントをした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

保育に携わりたい・子育てに興味を持ってもらう為に積極的に中学校・高校の受け入れを実施し、学校単位・個人での参加を促していく。

- ① 年間を通した小中高生の保育園体験ボランティア活動の受け入れ
- ② 夏冬春休み期間中高生の職場体験ボランティア活動の受け入れ
- ③ 一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

保育養成校の学生の受け入れは、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、積極的に受け入れる。

- ④ 保育養成校の学生の实習受け入れ

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月21～9月1日	郡山女子短期大学	2人	本実習

2月13～27日	郡山女子短期大学	1人	観察実習
----------	----------	----	------

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 25名	12日 23名	12日 24名	21日 25名	10日 25名	15日 25名	13日 24名	10日 24名	8日 23名	12日 23名	20日 23名	21日 23名
スキルアップ研修	27日 10名		8日 5名				26日 10名	24日 12名				

〈2〉外部研修への出席

主催	研修名	出席	施設長推薦
令和5年度福島県保育士等キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	5名	無
令和5年度どろんこ会キャリアアップ研修	キャリアアップ研修	17名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育ての負担や不安、孤独感が高まっているため、保育園・地域・家庭が一体となって、子ども子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し地域の相談しあえる仲間であられるようにとの思いから、月1回「ちきんえっぐ」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 八山田こども広場にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：みどりや商店、フイェン、セブンイレブン、東邦銀行、郡山信用金庫、富田東郵便局、大東銀行、ミニストップ、郡山北警察署、柏屋ミニストップ、ヨークベニマル、ツルハドラッグ、かんのや、カインズ、あひるのクリーニング等
世代間交流	月1回 シニア交流として老人ホームへの訪問を行った。
異年齢交流	中止
その他活動	6月7日・9月1日保育園にて異文化交流を行った（カナダ・韓国）

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

21世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、こどもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続した。キーワードになっている「主体的・対話的学び」とへの教育のありかたを具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図った。以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（土）より開始した。小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図った。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行った。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月5日	富田東小学校	2名	支援学級教諭の木村先生 来園	来年度入学の要支援児 の情報共有

2月1日	行徳小学校	2名	普通級の教諭が来園	来年度入学児の情報共有
1月13日	明健小学校	1名	電話にて対応	来年度入学児の情報共有

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

【個別支援計画の作成・見直し】

支援児がいるため作成した。

【毎月のケース会議開催】

4～3月に計12回開催 参加者8名

【進級引継、および、小学校への引継】

小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：8名

日々の関わりを振り返りながら、毎月子どもの姿を共有し、今後についての見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。

担任以外の関わりの中で気づきを共有していくことで、多角的に見ていく中で状況を把握していった。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

進級の引継ぎに関しては、経過記録等の把握、伝達を行っている。

各小学校との接続に関してはスムーズに移行できるようアプローチカリキュラムを作成し小学校への接続を意識したカリキュラム構成の中内容の充実を図った。また、小学校へのスムーズな接続を図るために、保育所保育要録送付し個別に申し送りの伝達を行った。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8名	10名	9名	30名	10名	20名	25名	20名	30名	7名	5名	5名	179名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計5件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(火) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
3名	5名	5名	2名	2名	5名	8名	4名	2名	4名	3名	3名	46名		
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計6回実施済み													
	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
5名	7名	3名	4名	3名	4名	12名	4名	3名	5名	3名	2名	55名		
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月4日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：施設長・主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

戸外での活動等外遊びの充実等保育方針にある一定の理解を保護者の方から頂いている。雨の日の登園時の預かりに関してはご意見を頂いたがスムーズに誘導できるように周知していくことで解決できると考える。励ましの言葉をたくさんいただき、スタッフも励みになっている。今後も安心して預けられる施設を維持し、より質の向上も図っていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告する案件なし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガなし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：八山田どろんこ保育園 施設長 真島 里佳

2023年度 三筑どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会における日課、さくらんぼリズム体操・座禅・雑巾がけ・鶏の世話・畑仕事・異年齢保育等、「なぜやるか」「子どもにとって必要な経験か」と取り組む意味を一つ一つ考えながら、丁寧に取り組んだ。昨年から取り組んできたため、子ども同士の混ざり合う姿が多くみられ、異年齢保育が更に深まったように感じる。子どもも保育者も Trial&Error を楽しむことはできたが、活動の継続・連続性が弱いので、次年度は工夫していきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本活動の充実
	実践結果	リズム・座禅・雑巾がけからの鶏の世話・畑仕事を行い、散歩9時出発までの流れが定着し、丁寧に組み立てられるようになった。特に雑巾がけは隅々まで見事である。散歩も全クラス出発する日が増え、園外活動が増えた。
	次年度方向性	職員が共通理解をしたうえで、子どもたちに決まり(=毎日の仕事)を守ること、やりたくなくても皆のために働かねばならないことを教えていく。
2	計画・ねらい	保育環境の充実
	実践結果	定期的な保育の振り返りと環境の見直しを行っていったが、子どもの姿(発達や興味関心)を的確に捉えてなく、遊び込める環境になっていなかった。
	次年度方向性	子どもの興味がどこに向いているか、どのような仕掛けを行うことで更に力をつけていけるか等、見通しを持って活動の狙いを明確にした計画を立てられるようにしていく。
3	計画・ねらい	異年齢保育の充実
	実践結果	法人の取り組み「大きな家」を念頭に、異年齢保育の実施を行うことが出来た。定期的に室内環境を見直していったことで、子どもが自然と混ざり合うようになり、交友関係が広がっていった。
	次年度方向性	年上児への憧れや世話をしあげたいという思いを大切に、自ら友だちに関わり互いに成長できるような関係性を見守っていく。また、職員間で子どもの姿を語り合う場を作り、子どもの特性や様子を共有し、園全体で子どもを見守る体制を強化していく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	安心できる保護者対応（子どもの成長を丁寧に伝える）
	実践結果	保護者の気持ちに寄り添い、子どもの成長が伝わるような対応を心がけた。何か質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で意見を一致させてからお伝えするようにした。
	次年度方向性	保護者様の声を貴重なご意見として受け止めるようにし、できるところは積極的に改善を進めていけるようにする。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良い施設
	実践結果	園独自の園内の清掃・整理整頓のチェック表と法人指定のチェック表を使用し美的環境を保つよう心掛け、担当職員によるチェックや声掛けを行う
	次年度方向性	整理整頓と継続した掃除を行い、大人も子どもも過ごしやすく気持ちの良い環境維持に努める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現
	実践結果	コロナ感染症が5類になったことにより、夏頃からちきんえっぐイベントや園庭解放に訪れる家庭が増えてきた。自然食堂・芸術学校はリピーターも多く、ママ友ネットワークからのロコミが利用者増に繋がっている。
	次年度方向性	地域交流の場としての役割を果たすためにアナウンスに力を入れ、来園者の増加へと繋げていく。
2	計画・ねらい	保育園での取り組みの地域発信を強くする
	実践結果	ブログだけでなく、園前の掲示板へのポータルフォリオ掲示やちきんえっぐイベント参加者に、ママ友を誘ってもらうなど校区外まで情報提供してもらった。
	次年度方向性	自然食堂、芸術学校、園開放の参加(来訪)者は増えているが、自然学校、寺親屋の参加者は伸び悩んでいるので、満遍なく参加が増えるように工夫していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本活動の理解を深める。
	実践結果	やるべきことの理解は出来ているが一方で、なぜそれを行っているか、行うことでの子どもの育ちはどうなのかの部分をもだまだ深めていく必要がある。

	次年度方向性	日課、基本活動を通しての子どもひとりひとりの成長を追いながら、更に大人がどうかかわっていくべきかを職員間で話し合い、共通理解を深めていく。
2	計画・ねらい	人的環境の重要性について学び合い、実践に生かす。
	実践結果	・虐待防止研修、保護者対応のロールプレイを行い、他者へのかかわりの振り返りを行った。 ・保育者があそびを見せることで、子どもたちが興味をもち真似をして遊び出す姿があった。
	次年度方向性	・挑戦する経験や、活動に好奇心がもてるように仕掛けを工夫していく。 ・子どもが心地よく過ごす為に、どうかかわるべきかを判断し、養護的配慮が細かくできるように学び合う機会を作る。
3	計画・ねらい	コミュニケーション能力を高める。
	実践結果	「報告・連絡・相談」を徹底し、一人ひとりが考え、スタッフ同士で話し合う機会を持ち、子どもや保育の話だけでなく、常にコミュニケーションを取ることを大切にしてきた。また、会議の場でのデスクッショングループを少人数にし、意見が出やすいようにした。
	次年度方向性	引き続き「報告・連絡・相談」を徹底して、縦のつながりだけでなく横・斜めにもつながれるようにし、チーム保育の柱を築いていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	水と清潔な環境の大切さを知る。
	実践結果	水を止めて使えない不自由さと体験や、きれいに洗って清潔な場所と汚れた場所の居心地の違いを感じる体験を行った。
	次年度方向性	水の大切さを伝え、(衛生上の)美観を保つ取り組みを引き続き取り組んでいく。
2	計画・ねらい	自然の不思議さを知る。
	実践結果	夏の自然事象や秋の葉の色の変化、冬の氷・霜柱など、その瞬間を見逃さずに子どもに伝えられるように、職員の学びを深めた。
	次年度方向性	子どもの疑問に答えたり、科学に繋がる体験を計画できるよう更に学びを深めていく。
3	計画・ねらい	物の大切さを知る。
	実践結果	玩具や絵本など使用していて壊れた時は、子どもと一緒に修理する時間を作って一緒に行った。
	次年度方向性	絵本は大切に扱うようになったが、玩具は投げることがあるので引き続き大切に使うように伝えていく。

〈6〉「見守る保育」「指示をしない保育」の実践

1	計画・ねらい	保育の Trail&Error の実践。
	実践結果	・子どもが自ら考え、主体的に行動し、Trail&Error を繰り返しながら、自分の力でやり遂げることを大切にするために「見守る保育」を実践したかったが、手や口が出すぎてしまい、子どもが自ら考える機会が少なかった。 ・若手職員も「失敗を恐れない」が、自ら考え動くことは少なかった。
	次年度方向性	子ども(若手職員)の力を信じて任せられるリーダーの育成に努め、「指示をしない保育」に繋げていく。
2	計画・ねらい	乳児の育ちの理解と実践。
	実践結果	職員も子どもと一緒に Trial&Error を楽しみ、子どもの興味・関心を引き出していった。子どもの行動に対して何故だろうと疑問を持ち、行動の意味を考える時間をもった。
	次年度方向性	子どもと一緒に Trial&Error を楽しみ、興味・関心を引き出していくことは大事なことなので継続して取り組んでいく。職員間の連携を意識する。

〈7〉子どもも大人も自分らしくいられる場作り

1	計画・ねらい	居心地の良い場所を作る。
	実践結果	その子にとって自分らしさを発揮できる場所にいられるようにしたこと で、自分らしさが保障され、子ども・職員が同じ目線で共に語り合える関係性ができた。
	次年度方向性	引き続き、保育園を大きなひとつの家として、0~5歳児が室内外の好きな場所で好きなだけ遊び、自分らしく過ごせる環境を整えていく。
2	計画・ねらい	強みだけでなく、弱みも活かされる集団作り。
	実践結果	「こどもかいぎ」「おとなかいぎ」を実施し、仲間の価値観、物事の捉え方を知る機会としたかったが、定期的な開催ができなかった。
	次年度方向性	子どもも大人も「かいぎ」に参加したことで、相手の思いに気づいたり、自分のことを振り返ったりできて仲間意識が強まっているので、引き続き行っていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

年度前半： 4~9月	72人	144人	144人	144人	144人	144人	144人	792人
年度後半： 10~3月	72人	144人	144人	144人	144人	141人	144人	789人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	202 人	251 人	291 人	256 人	281 人	268 人	261 人	276 人	316 人	297 人	277 人	307 人	3283 人
うち0 歳児	0人	11人	13人	11人	14人	12人	17人	14人	20人	17人	13人	23人	165人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	1人	3人	2人	4人	14人
うち0 歳児	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	1人	2人	1人	3人	11人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園の課題・情報共有、研修報告、次月行事確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	事件事例をもとに再発防止策の検討やマニュアルの再確認
ケース会議	月1回	気になる子についての情報共有、支援計画書の見直し
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	日々の園内清掃と感染症拡大防止のため徹底した消毒・換気の確認、園内の衛生用品の管理
安全対策係	事故防止委員会で毎月のヒヤリハット・インシデント集計結果から原因分析、再発防止策の検討。ハザードマップの更新。
防火管理者	避難訓練の消防署への届出、避難訓練後の訓練実施内容の確認と振り返り。
食品衛生管理係	食育会議への参加、園内給食運営会議の計画と実施。給食関係の食品衛生管理、食材残渣の確認と給食の実態把握。
畑係	野菜苗の購入、季節の食物の栽培・収穫、畑の土作り
生き物係	飼育動物(鶏・虫)の健康管理、飼育環境の整備・改善

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	係が中心となって準備を進めていった。昨年の保護者アンケートの意見を参考に改善できるところは改善し、園舎内の配置の工夫を行い、昨年以上の集客ができて大成功だった。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育参観への参加を積極的に呼びかけ、実際の様子を一緒に見ていただくことで安心感をもってもらえるよう努めたが、参加が昨年より少なかった。 ・ お迎え対応に拘らず常に言葉をかけるように意識し、小さなコミュニケーションを大切にするようにした。
保育参加	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・梅干し・梅ジュース等、食材の加工し手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいったが調理の入れ替わりで落ち着かず、昨年より学びの機会が少なかった。 ・段ボールコンポストに挑戦する。取り掛かりが遅く、まだ堆肥として使用することはできていないが、発酵中のピートモスの温かさを感じることで子どもが達成感を感じている。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の解体を通して、食の循環をより近くで学べるようにしていく。 ・今年度に引き続きコンポストの作製を継続し、肥料として実用できるようにする。
2	計画・ねらい	食べる意欲を育てる。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の皮むき等年齢に合った活動を取り入れ、その日の給食やおやつに興味をもてるようにした。 ・翌日使用する野菜を夕方玄関に展示し、見て・触って感じることで翌日のメニューや食材に関心が持てるようにした。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・給食がどんな風に作られているか、調理室を更に身近に感じられるように工夫していく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	4月13日／10月14日に実施
歯科検診	6月7日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月7日に自園にて歯磨き指導を実施 ② 10月6日に自園にて手洗い指導を実施 ③ 10月14日に自園にてエプロンシアター「体のしくみ」を実施 ④ 1月16～17日に自園にて性教育を実施

流行した感染症	① 10月にアデノウイルス、溶連菌、園児16名感染報告有り ② 11月にインフルエンザA、園児23名、スタッフ1名、感染報告有り。11月30日に終息
発作・痙攣等の対応	計1名に対し、計2回ダイアアップ使用 その他、7月7日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月21日に園会議にてアレルギー・エピペン研修を主任が行い、新卒スタッフ10名を含む、計24名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ25名のうち、24名が使用可能
その他保健に関する取組	・ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。またこまめな換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/4月13日、10月14日 歯科健診 各年1回/6月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	発達に沿った室内環境の充実
	実践結果	指先を使った遊びや文字や数に触れることができる遊びなど、発達に合わせたコーナーを部屋別に設置する。また、子どもの興味・関心に合わせた室内環境の見直しを行った。
	次年度方向性	部屋の中での静と動のスペースが子どもの遊びに合わないと、ケガに繋がることがあるので、子どもの育ちの学びを深めながら、室内環境を整えていく。
2	計画・ねらい	遊びの継続性の確保
	実践結果	作った作品を飾っておけるスペースは作ったが、「明日(後で)またできる」という期待を持って置いておけるような環境までは設置できなかった
	次年度方向性	室内環境を見直し、子どもの遊びを過去・現在だけでなく、明日(未来)に繋げるコーナー設定を工夫していく。
3	計画・ねらい	どろんこ遊び場の整備
	実践結果	田植え前・稲刈り後は、田んぼで思う存分穴を掘ったり、水を入れて土を足したりして泥まみれになる体験ができていた。
	次年度方向性	築山の土が流れ、土が少なくなっているため土の補充を行い、思いっきりどろんこで遊べる環境を拓けていく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防経計画に基づき自衛消防隊を編成し、年間避難訓練に沿って毎月1回避難訓練を行う。うちのコアプリの災害時緊急連絡を利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練も合わせて行う。
2	実践結果	毎月の事故防止委員会でヒヤリハット・インシデントを共有し、事故防止に努める。
3	実践結果	マニュアルの確認と保育者間の連携の強化に努める。
4	実践結果	年2回の不審者侵入訓練を実施し、安全・防犯への意識づけを行う

5	実践結果	ハザードマップの作成・共有をする。定期的な見直し、更新が不十分であった。
---	------	--------------------------------------

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育に携わりたい・子育てに興味を持ってもらう為に積極的に中学校・高校の受け入れを実施した。

- ・ 年間を通した小中高生の職場体験の受け入れ
- ・ 夏休み期間の中高生の職場体験の受け入れ
- ・ 保育養成校の学生の実習受け入れ

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月26～27日	福岡医療秘書福祉専門学校	1人	観察実習
8月16～26日	香蘭女子短期大学	2人	観察実習
8月16～26日	西日本短期大学	1人	責任実習
10月16～26日	三幸学園 福岡リゾート&スポーツ専門学校	1人	責任実習
3月11～15日	平岡栄養士専門学校	1人	調理実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月28日	純真高等学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 25名	19日 24名	16日 24名	14日 24名	18日 24名	15日 23名	20日 23名	17日 23名	11日 23名	26日 24名	16日 23名	3日 23名

園内研修	21日 25名	19日 24名	16日 24名	14日 24名	18日 24名	15日 23名	20日 23名	17日 23名	11日 23名	26日 24名	16日 23名	3日 23名
------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
4月19日	福岡市保育協会	園長・実務研修	1名	有
8月4日	福岡市保育士会	主任保育士研修会	1名	有
2月17日	福岡市保育連盟	第36回福岡市保育研究大会	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 0名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域のつながりの希薄化、子育ての不安、孤独感が高まっているなか、保育園・地域・家庭が一体となって、子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組んだ。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 諸岡中央公園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先：三筑公民館、エネオス、業務用スーパー、お茶の山口園、コスモス、長浜ラーメンめんめん、イトマンスイミングスクール等
世代間交流	9月20日、3月6日に近隣の高齢者施設にて交流会を実施。
異年齢交流	諸岡中央公園・中尾公園にて近隣園と遊ぼうを実施
その他活動	2月2日に航空自衛隊にて職場体験を実施
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学時には保育所保育児童要録送付、支援学級への就学児については保育見学に来ていただく等、必要に応じて情報の申し送り等実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月4日	三筑小学校1年	10名	運動会见学 （三筑小校庭）	行事見学
10～11月	三筑小学校 他6校	24名	就学前健診 （各校体育館）	子ども間交流
1～2月	三筑小学校 他6校	2名	幼保小連絡会 （各小教室）	職員間交流
2月14日	三筑小学校 養護学級担当	2名	保育参観(見学) 三筑どろんこ保育園	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

ケース会議を園会議内で行い、多くの職員の参加で様々な角度から子どもを見ていけるように変えてみたが、職員への共有・連携がまだまだである。一人一人の子どもを見る目は育ってきているので、次年度も共有・連携を引き続き課題とし、子どもの困っているところを手厚く援助できるようにしていきたい。

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：施設長、主任、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：61.9%

(省察)

送迎時へのご意見や提案は引き続きあるものの、職員への信頼度への評価を感じた。

来年度も引き続き丁寧な対応を行い保護者様と信頼関係を深めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 メリー★ポピンズ 南砂ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

当法人が定める日課や基本活動に対する理解を深め、実践していくことで更なる活動の充実を図ってきた。写真等を活用した玄関掲示を行い、保護者様への園内活動の発信を増やす事で、子どもたちの姿を共有することができた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	原点回帰：日課の充実。 「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならぬこと」を理解し、計画的に環境を用意する。
	実践結果	子どもが選択できる環境や場面の設定は行うことが出来た。遊びの場面等大人が教えねばならぬことの見極める力を培っていききたい。
	次年度方向性	引き続き、子ども達が選択できる環境は発達に合わせて整えていきながら、大人がどこまで援助すべきなのか、どこは介入すべきなのかを見極めながら保育を行っていきけるよう、園内研修等で力を培っていききたい。
2	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが子どもへの対応や環境等について、子どもの姿から振り返り、課題を見つけ、保育をしていく。
	実践結果	園会議等で気になる子どもの姿を共有することで、事故やケガに繋がりそうな行動を事前に共有することが出来た。また、子どもの姿に合わせて環境を再設定することは通年を通して行うことが出来た。
	次年度方向性	園会議など設定された時間だけでなく、日々の昼礼等でも子どもの姿を共有し、気になる子だけでなく園全体で子どもの姿について話し合い、考える風土を作っていききたい。
3	計画・ねらい	1歳児から就学までに必要な経験、環境を考え、計画的にすすめる。
	実践結果	社内勉強会の質を上げる会議に出席した職員を中心に、5領域に関する園内研修を行い、知識を深めることが出来た。また、その領域に関するエピソード記録を作成することを通して、子どもの姿をとらえる力を養うことが出来た。
	次年度方向性	担任シャッフル等を行い、担当のクラスだけでなく、違う年齢の実際の姿や援助を経験し、見通しを持った連続性のある保育を園全体で行うことが出来るようにしていきたい。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園に安心して通っていただく為にも、笑顔で保育者の方を送り出し迎え入れ、日々の様子の伝え合いを充実させながら信頼関係を築いていく
	実践結果	丁寧なお迎え対応は行うことが出来ている。日々の子どもの姿の伝え合いも行う事が出来ている為、信頼関係は築くことが出来ていると感じている。
	次年度方向性	玄関が狭いこともあり、保護者様をお待たせしてしまうことがある為、丁寧な対応を心がけつつも、スムーズに送り出せるような対策等は考えて取り組んでいく。
2	計画・ねらい	保護者の悩みや不安を受け止め、共に考え、安心して預けられる施設となる。
	実践結果	新入園児を中心に希望者を募って面談を行った。園での生活や家庭での悩みを共有することが出来た。
	次年度方向性	引き続き、個人面談や保育参加は随時実施していく。
3	計画・ねらい	園への理解を深めると共に、待たされたと思わせない仕掛けづくりを行う。
	実践結果	玄関に週の子どもたちの様子の写真を掲示し、園での取り組みを知ってもらうと共に、待っている間も写真を見ることで待たされたと感じない環境を整える事が出来た。
	次年度方向性	引き続き、玄関掲示を行っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ・青空保育の充実
	実践結果	毎月のちきんえっぐやどろんこ祭りでの来訪者、園見学等は積極的に受け入れる事が出来た。
	次年度方向性	地域の方に更に参加して頂けるように活動内容等を見直していく。 引き続き、積極的に見学等を受け入れていく。
2	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問を通して、地域の保育園として親しまれる
	実践結果	よっちゃん家や江東の家（高齢者施設）、相撲部屋との交流を行う事が出来た。
	次年度方向性	地域の商店との交流を増やしていけるように、散歩や商店街ツアーを生かしていきたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフの意欲を取り入れた園内研修の実施
	実践結果	ディスカッションの多い会議を行う事が出来た。特に質会議に参加した職員を中心に、施設長ではなく職員が話しをする時間が多い会議、研修を行っていたように感じる。
	次年度方向性	ディスカッションだけでなく、自身の学びを発表できるような場を作っていき、学び合い、質を高めていける環境を整えていく。
2	計画・ねらい	経験の多様性とリーダーとしての意識の育成
	実践結果	行事や係としてリーダーの役割を担い経験することを、年数関係なく全職員が行く事が出来た。
	次年度方向性	引き続き継続して取り組み、今年度フォロワーだった職員もフォローする役割を少しずつ経験していけるようにしていく。
3	計画・ねらい	園目標に沿った目標設定を行い、一緒に考え進めていく(大人のにんげん力UP)
	実践結果	クラス内での会議を定期的に行う事が出来た。研修への参加もほぼ全職員がキャリアアップ研修への参加が出来た。クラス内での話し合いが年度末は行事の準備等で行えない時期もあった。
	次年度方向性	昼礼等も活用しながら、クラスの話し合いを年間通して行っていく。研修への参加は引き続き促していきたい。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食育活動を通して、食材や食の循環について知る
	実践結果	味噌づくり、梅ジュース・梅干し作りを通して食品の加工や循環について知る事が出来た。畑活動については秋ごろまでは、ほぼ順調だったが冬の野菜が上手くいかずに作物が無い状態になってしまった。
	次年度方向性	食の加工や循環については引き続き経験が出来るように、設定していく。冬野菜の植える時期などを再考し、適正化を図っていく。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践結果	夏頃は湿度や温度管理が上手くいかず、連続して失敗してしまっていたが、秋から冬にかけては成功し堆肥化する事が出来た。
	次年度方向性	水分量の調整方法や最適な温度湿度を知り、年間を通して安定して堆肥化できるようにし、調理ごみの削減に努める。

〈6〉 リスクマネジメント

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが子どもの個性と発達を理解し、安全を保障しながらも子どもたちの活動への意欲を大切にしたい保育をしていく
	実践結果	園内研修で5領域について学びなおす事が出来た。保育所保育指針についての研修は出来なかったが、不適切保育についての研修を行い、子どもへの関りについても学ぶ事が出来た。
	次年度方向性	引き続き、発達や関り等について園長大学等も活用しながら学び続けていく。
2	計画・ねらい	ヒヤリハット出しや事故防止委員会を通して、子どもの小さな変化・成長に気づき、再発防止策等から日々の保育に活かす
	実践結果	ヒヤリハットの記入数は増え、事故防止委員会にて防止策や子どもの姿についても共有が出来た。
	次年度方向性	引き続き取り組んでいく。特に子どもの姿に関しては、エピソード記録の作成を進め、内容を園会議で共有し、園全体で捉えていけるようにする。
3	計画・ねらい	法人の運営マニュアルや保育品質マニュアルに則って行動できるよう、マニュアルを理解する
	実践結果	内部監査に向けてマニュアルの重点内容を確認したり、おむつ替えの手順等を職員同士で確認しあったりすることで理解を深める事が出来た。
	次年度方向性	保育の質を高めるために、なぜそのルールが存在するのか、日課や行事の意味等についても深く考えて取り組んでいけるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	0人	10人	12人	10人	7人	6人	45人
年度後半： 10~3月	0人	10人	11人	12人	9人	7人	49人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	92人	121人	127人	144人	180人	166人	182人	181人	118人	174人	179人	180人	1844人

（解説）18時以降の園長保育利用者とする

一時保育利用状況
実施無し

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会
給食運営会議	月1回	各クラスの食事状況確認、献立振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの検証と分析
ケース会議	月1回	気になる子への関わり方と対応について
クラス会議	月1回	保育計画の立案、振り返り、子どもの様子共有

〈2〉 出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園児及びスタッフの健康保持のために保健的環境の維持向上に努めた
安全対策係	施設内外の設備及び遊具の安全管理、点検を設定
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検の実施
食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通じた計画案の作成と実施、畑の管理

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画立案、運営を行った
運動会係	運動会の計画立案、運営を行った
発表会係	発表会の計画立案、運営を行った

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点)
------	----------------------------

保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計24名 が参加済み (3月1日時点)
--------------	-----------------------------

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	空腹を感じられる子ども、意欲的に食べる子どもが増えるように、遊びこむ重要性を基に食事への関心を広げるようにする
	実践結果	毎月の給食会議にて子どもの喫食状況の把握、発達に合わせた環境の見直し等が行えた。
	次年度方向性	散歩の歩行距離を伸ばすことや、運動量を見直し、食に対する意欲が自然と高まるような環境を整えていく。
2	計画・ねらい	意欲的に食べる子どもが増えるように給食以外でも子どもたちの食への関心が深まるような活動を取り入れる
	実践結果	朝の野菜の下処理など子どもたちが野菜に触れる機会をクッキング以外でも提供する事が出来た。
	次年度方向性	引き続き野菜の下処理は継続しつつ、米研ぎ等出来る事を増やしていく。バイキングも引き続き行い、自分の食べられる量を知る事が出来るようにする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月13日／11月14日に実施
歯科検診	6月7日／11月8日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	①10月4日に歯科指導を実施 ②12月12・13日に性教育を実施
流行した感染症	① 4月にインフルエンザA型、園児名13名・スタッフ3名蔓延し、保健所へ報告 ② 2月にインフルエンザB型、園児5名感染報告有り。3月4日に終

	息
発作・痙攣等の対応	対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月23日に保育園にてエピペン研修を保育スタッフ2名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ16名のうち、14名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を随時行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月3日、10月2日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月13日、11月14日

		歯科健診 各年2回／6月7日、11月8日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく
	実践結果	5領域を中心に発達について学ぶことで、室内環境を整える事や、関りについて考える事が出来た。
	次年度方向性	室内だけでなく、戸外の自然物も環境の1つであるとしっかりと認識し、自然物に関われるような活動も展開していく。
2	計画・ねらい	子どもたちが気持ち良く自ら生活することを考えられるよう、保育者は清潔な環境を整える意識を持つ
	実践結果	衛生・清潔係を中心に清潔で整頓された環境を整える事が出来た。
	次年度方向性	清潔な環境はもちろん、発達段階に合わせた環境構成を話し合い、整えていけるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	毎月の事故防止委員会でインシデント、ヒヤリハット報告書を活用し、検証をしっかりと行うことが出来た。
2	実践結果	光化学スモッグが発生しやすくなる気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合はすぐに周知を行う事が出来た。
3	実践結果	水害に対する研修をスタッフで行い、対策や避難経路を共有する事が出来た。
4	実践結果	事故防止チェックリストを年4回、設備点検を年6回行い、怪我・事故防止に努めた。
5	実践結果	避難訓練を月1回行い、様々なシチュエーションでの訓練を行う事が出来た。

6	実践結果	不審者侵入訓練を年2回実施した。戸外活動時においても、見失い防止の観点と絡めながら、職員の意識や目線の配り方について話す事が出来た。
---	------	--

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

中高生の職場体験を積極的に受け入れ、子どもと関わる事の楽しさや、どろんこ会の理念を伝えられるようにしていった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6月19～ 7月1日	東京都市大学 人間学部 児童学科	1人	責任実習
7月5～6日	東京こども専門学校 保育科	1人	ボランティア実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月7日	都文館	1人
8月3～10日	都立第3砂町中学校	4人
7月21～24日	都立第2砂町中学校	2人
8月1日	江東区立有明西学園	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 12名	12日 14名	9日 13名	14日 13名	18日 13名	22日 13名	13日 13名	10日 13名	8日 13名	12日 9名	22日 10名	21日 10名
園内研修	14日 12名	12日 14名	9日 13名	14日 13名	18日 13名	22日 13名	13日 13名	10日 13名	8日 13名	12日 9名	22日 10名	21日 10名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
2月3～4日	東京都	キャリアアップ研修	3名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

定期的に子育てサロンに参加下さるご家庭が出来て、参加家庭同士の交流が少しずつ持てるようになった。まだ参加家庭が少ないため、増やしていけるような都営組も行っていきたい。また、高齢者施設や銭湯、相撲部屋など様々な近隣施設との交流が出来た事で、子どもたちもいろんな大人との交流を行う機会を持つ事が出来た。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:南砂第三砂町公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先:江東図書館、城東消防署、三和海産、南砂町郵便局、山響部屋、イオン、等
世代間交流	月に1回、江東の家にて高齢者との交流を実施
異年齢交流	11月7日、保育室にて高校生との交流を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

6月と1月に職員間交流を実施し、3月に子ども間交流を実施。

交流をする中で、小学校の雰囲気を経験し、期待感を持つ事が出来た。

小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所児童要録を送付し、児童の情報共有を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月14日	近隣の小、中学校	1名	第2砂町中学校（2年2組教室）	職員間交流
1月17日	近隣の小、中学校	2名	第7砂町小学校（1年1組教室）	職員間交流
3月12日	第二砂町小学校 1年	7名	第二砂町小学校（体育館）	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

現在の子どもの様子を踏まえながら、日々の関りや手立てを考えていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：4名

日々の関りを振り返りながら毎月の子どもの姿を共有し、今後について見通しを持った計画を話し合い、再検討を繰り返していった。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校へ保育所児童要録の送付をし、電話にて様子を丁寧に伝えた。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2名	4名	11名	16名	29名	40名	43名	11名	25名	5名	5名	5名	196名

実施項目	詳細													
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計11回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	8名	4名	4名	6名	4名	0名	14名	0名	4名	6名	50名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計5回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	4名	0名	0名	2名	0名	0名	6名	2名	0名	2名	16名	
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：南砂三丁目公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月9日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：14時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：75%

園と家庭との連携を密に図り、信頼関係を築きながら引き続き園運営を行っていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 南砂ルーム 施設長 仲宗根 冠

2023年度 メリー★ポピンズ 松山ルーム事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育所保育指針並びに社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針に則り、日々の保育を実践してきた。園の基本方針である「子どもも大人もありのままを受け入れ尊重しあい高め合う」という点においては、自己研鑽を各々が積むことができた。ただ、アウトプットする機会がやや少なく「高め合う」の段階には至らなかったため、次年度の課題としていきたい。また、園目標としていた「誰もが勇気を持って挑戦する」という点では、理念・方針に忠実に活動してきたゆえに、もっと大人（保育者）がチャレンジする姿勢を発揮できたのではないかという思いが残る。次年度に引き継ぐとともに、保育の更なる充実を図っていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	育てたい6つの力を意識した保育の実践 (どろんこ会グループの日課・基本活動の実践)
	実践結果	さくらさくらんぼリズムの8:15開始を始め、雑巾がけ・座禅に関しては、定着し日課としての意識付けは出来ている。火・土・水と関わる活動も、どろんこあそびや、園庭での焼き芋を実施することで取り入れることが出来た。
	次年度方向性	畑仕事の充実。食材と食の循環を知る。感じたこと・考えたことを表現する。などについて深めていきたい。
2	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、心情に寄り添い適切な環境を保証 (園内研修にて子どもの発達について学ぶ)
	実践結果	年度途中入園の0歳児に、低月齢児が多かったこともあり、1歳児と一緒に活動したり、散歩先の距離によって1・2歳児が合同で歩くこともあった。発達だけではなく、子どもの心情に寄り添い、無理に活動に参加させるようなことはせず、その都度臨機黄変に対応することは出来ていた。
	次年度方向性	更に発達についての理解を深め、異年齢で保育する際の活動のレパートリーを増やしていきたい。
3	計画・ねらい	食べさせる給食ではなく、楽しく食べる給食 (食材や食の循環を知る直接体験をする 畑活動・食材の加工・命をいただく)
	実践結果	バイキング給食を始めたことで、自分の食べられる量を把握できる子が増えてきたことと、スタッフが一緒に食べるようになったことで、楽しく食べる給食は実践できた。
	次年度方向性	畑活動の充実と、食の循環を知る直接体験に関しては、食物残渣を利用したコンポスト作りに取り掛かり、土作りから畑活動を始めていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応・子どもの育ちの共有 (3分間対応の充実・連絡帳の書き方の見直し・お迎え時にお待たせしない工夫)
	実践結果	3分間対応・連絡帳の書き方については、園会議で研修をし、改善に努めた。お迎え時にお待たせしない工夫としては、食育を始め活動の様子をドキュメンテーション・ポートフォリオにまとめ玄関掲示をしたり、子どもの作品を飾るなどの工夫をした。
	次年度方向性	3分間対応、連絡帳の書き方のレベルアップを図るため、子どもの発達に関する理解を深めていく。
2	計画・ねらい	保護者の皆さまと共に学ぶ (園長大学®・保育士大学の講座をご案内し、学びの場を共有する)
	実践結果	保護者との共有は叶わなかった。(学びのアイテムの共有をしっかりとっておくべきだった。)
	次年度方向性	子育てについての学びの場を模索し、共に学べる・語らえる場の提供について模索していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実践 (園庭解放・子育てサロン・青空保育・保育所体験・事業の告知をわかりやすく掲示)
	実践結果	ちきんえっぐに関しては、冊子を作成したり、告知のチラシを数か所に掲示して頂けるよう働きかけるなど、昨年度よりは活発に動いていた。ただ、集客には繋がらなかった。
	次年度方向性	今年度作成したものを活かすべく、広報活動に力を入れていく。また、地域の方に求められている事に敏感になり、必要としている人に必要な情報を届けられるよう意識を向けていく。
2	計画・ねらい	地域の様々な人との繋がりを大切にしたい子育ての実践 (異世代交流・小中学生との交流)・世代間交流(シニア交流)
	実践結果	小学生ボランティアの受け入れを実施。シニア交流も月に2回通所のデイサービスを訪問。また、清瀬高校の学生とのふれあいの機会が持てたことで新しい世代との交流を体験することができた。これをきっかけに、清瀬高校の新任研修の一環で3名の先生が保育所体験をし、子どもたちと触れ合ってもらった。
	次年度方向性	引き続き小学生ボランティアの受け入れを実施し、中学生との関わりも加えたい。清瀬高校とのつながりも大切に、色々な企画で関わっていききたい。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者自身のにんげん力UP (接遇力をあげる・保育者自身の感性を磨く)
	実践結果	保護者、来訪者、ご近隣の方々への気持ちの良い挨拶の実践を心掛け、成果は出ているように思う。保育者自身の感性を磨くという点においては、更なる努力を要する。
	次年度方向性	保育者自身の感性を磨くとはどういうことか。具体的に紐解き、実践していきたい。
2	計画・ねらい	リーダー育成 (主任・クラスリーダー・行事リーダー等、それぞれの立場に応じた指導の実践)
	実践結果	クラスリーダー、行事リーダーの役割は理解し実践出来ていた部分と、努力を要する部分が明確になった。
	次年度方向性	それぞれのリーダーが、自覚を持って動いている部分は見受けられるので、更に具体的な目標設定をし精度をあげていく。
3	計画・ねらい	コンピテンシーの追求 (自ら目標設定し、毎月の園会議にて振り返りの実践)
	実践結果	コンピテンシーリーダーを設定したことで、目標設定し実践するという仕組みは定着したように思う。
	次年度方向性	簡単な目標ほど継続が難しいので、当たり前のことを当たり前に実行し続けられるよう意識していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園庭の遊びの充実 園庭に「どろば(泥場)」作り
	実践結果	園庭の一角に泥場を設置し、思う存分どろんこ遊びを満喫する子どもたちの姿があった。
	次年度方向性	土の中から、ガラスの破片が出てくることもあるので、日常の管理を徹底し、充実したどろんこ遊びが体験できるよう配慮する。
2	計画・ねらい	異年齢の活動の充実 (保育室の使い方を見直す)
	実践結果	特に雨天の日には、通常使用しているクラスの隔たりを無くし、ゾーンを設定した保育の実践を意識した。「動」の活動スペース、「静」の活動スペースに分け、ブース毎にスタッフを配置し子どもたちは自由に行き来出来るようにした。
	次年度方向性	ゾーン保育の頻度を増やし、各ゾーンの精度をあげていく。(子どもの発達・興味を把握し提供できるようにする)
3	計画・ねらい	保育室内の玩具を見直し (子どもの発達・興味に沿った玩具選びと設置)
	実践結果	見直しの機会がととても少なく、変化の乏しい環境設定となってしまった

人数													
うち0歳児	0人												

(解説) 余裕活用型のため4～11月はビジター利用可能、12月以降はマンスリー定員数満了のためビジター利用不可。また10月利用者は1歳児の元マンスリー児。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	3人		
パートスタッフ	保育士	3人	事務	1人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修・ディスカッション
給食運営会議	月1回	・子どもの喫食状況の確認 ・離乳食・アレルギー児の進捗確認 ・その他必要事項の共有
事故防止委員会	月1回	自園のインシデント・ヒヤリハットを元に考察を行い、対策や 起こり得るリスクを検討
ケース会議	一回	要支援児個別計画の確認
クラス会議	月1回	・月案指導計画、行事内容の検討・立案 ・その他必要事項の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年3回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生管理全般
安全対策係	設備点検・事故防止点検の実施
防火管理者	防災計画の作成・設備点検の実施
食品衛生管理係	給食食材・提供食材の衛生管理、在庫状況の管理
畑係	年間農業計画の遂行状況の確認
生き物係	生き物の管理

〈4〉行事系の設置状況

系名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携・補助

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターの協力のもと、どろんこまつりの運営を共に実践したことで、保護者との距離が近くなり、対話しやすくなった。これをきっかけに法人として大切にしていることなど話しやすくなり、保護者からの声も聞きやすい関係性が気づけた。 ・インターホンや電話受電時に明るい声で気持ちのいい対応をするよう心掛けた。
保育参加	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月19日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計 35名 が参加済み (3月15日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<p>3大食育方針の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> (・調理員・保育者・施設長は子どもと一緒に食べる ・噛む力を育て、素材を味わえる ・子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる)
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に食べることは実践できた ・バイキングの実践は出来たが、自分で盛り付け・配膳するまでは至らなかった
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に食べる際の言葉かけを工夫する ・子どもたちが自分で盛り付け・配膳の実行
2	計画・ねらい	<p>畑・プランターで野菜を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら栽培に関わった野菜を食すことで、自然の恵み・命の大切さを知る ・野菜の栽培や下処理(野菜の皮むき等)に関わることで、食材に興味・関心を持つ
	実践結果	種まき・苗の植え付けは行ったものの、途中の管理・観察を丁寧に取り組めなかった
	次年度方向性	畑仕事を楽しみながら丁寧に取り組む
3	計画・ねらい	<p>食事から季節感を味わう</p> <p>(日本の四季や、風習に触れることで、季節を感じる)</p>

実践結果	野菜の下処理を日々行うことで、旬の野菜を伝えることは出来た。 節分やひな祭りなどの行事食から、風習に触れる機会も持てた
次年度方向性	旬の野菜・果物・魚に触れる機会として、商店街ツアー時に実際の店舗に並んでいる様子を見ることで、より深く感じる機会として欲しい

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月29日／11月30日に実施
歯科検診	6月7日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 6月8日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて歯磨き指導を実施（1歳児・2歳児対象） ② 10月30日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて手洗い指導を実施（全園児対象）
流行した感染症	① 10月にインフルエンザ、園児3名・職員5名に蔓延、同日感染5名未満のため報告なし ② 11月にウイルス性胃腸炎、園児8名感染報告有り。12月上旬に終息
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計3回ダイアアップ使用 その他、10月11日に救急車要請（熱性けいれん）
エピペン使用できるスタッフの状況	・4月にメリー★ポピンズ 松山ルーム事務所にてエピペン講習を保育士16名、事務1名の計17名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ21名のうち、20名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・5月15日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて BLS 講習を保育士9名、調理士2名、事務1名の計12名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ21名のうち、18名が使用可能
その他保健に関する取組	・感染症予防のための定期的な換気と消毒の実施

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
------	---------------	-----------------------

	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月28日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月29日、11月30日 歯科健診 各年1回/6月7日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	常に気持ちの良い環境で、衛生的に整備された施設のもと、心地よく過ごすことが出来るよう施設内の美化に努める (掃除チェック表を作成し、管理する)
	実践結果	玄関・保育室・トイレ等、掃除チェック表に基づき、美化に努めることが出来た
	次年度方向性	保育室の棚上、押し入れが乱雑になりがちなので、まとめて片付けるのではなく、都度片付ける習慣をつける
2	計画・ねらい	子どもたちの成長・発達に必要な物・事を常に意識し、保育環境の整備に努める

		(環境リーダーが定期的に保育室内外の環境をチェックし、全スタッフで検討し改善していく)
	実践結果	環境チェックの機能が稼働出来ておらず、検討の機会もあまり持てなかった。故に発達に必要な物の提供が不十分であった
	次年度方向性	環境リーダーを中心に、各クラス担任と密に話し合い、環境を整えていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

現在、手作り遊具・家具無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災 消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施
2	実践結果	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年4回、設備点検年6回実施し、事故防止の徹底を図った
3	実践結果	事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告の分析・共有、改善案を検討し実践
4	実践結果	防犯 年2回防犯チェックリストに従い確認し、不審者侵入訓練を実施した
5	実践結果	光化学スモッグ注意報の発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示するとしていたが、実施には及ばなかった

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

中学生の職場体験を予定していたが、受け入れ無し。

保育士養成校からの受け入れはあったが、人数が少なかったので、次年度は受け入れ人数を増やしていきたい。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月3日	日本社会事業大学	1人	見学実習

7月5日	東京こども専門学校	1人	見学実習
11月24日～25日	(社会人のため学校在籍なし)	3人	見学実習
2月13日～19日	東京都工科大学	1人	保育実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
7月24日～25日	東京都立清瀬高校	1人
7月31日～8月4日	東京都立青葉小学校	1人
8月3日～4日	白梅学園高校	1人
8月16日	法政大学第二高校	1人
8月22日	東京都立清瀬第三小学校	1人
8月29日	東京都立清瀬第八小学校	1人
12月25日～26日	東京都立青葉小学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 19名	19日 16名	16日 20名	21日 17名	18日 18名	15日 14名	20日 17名	17日 19名	15日 17名	19日 20名	20日 20名	26日 20名
園内研修	21日 19名	19日 16名	16日 20名	21日 17名	18日 18名	15日 14名	20日 17名	17日 19名	15日 17名	19日 20名	— 一名	26日 20名

〈2〉外部研修への出席

外部研修への参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
デモンクインターンシップ	希望者あり・選考参加、不採用											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

「選ばれる園作りを目指す」というテーマを掲げ、保護者・地域・自治体の方々から愛され、親しみを持って立ち寄って頂ける園となるよう意識して活動に繋げてきた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:松山公園にて ※計画では「ぞうさん公園」としていたが、行政からの通達で封鎖となり、9月から会場変更となる。
商店街ツアー	週1回 主な行き先:魚三九、ジンマート、清瀬梅園郵便局、小糸うどん、&PETIME、フラワーショップブンガコテージ、清瀬駅前交番、竹丘駐在所、肉の大丸、フードピアたけし、花いちもんめ等
世代間交流	毎月2回、全19回、近隣の通所デイサービス「サニーライフ」を訪問し、季節の歌や手遊びを披露するなど、交流を持った。
異年齢交流	6月16日に東京都立清瀬高校にてあじさいウィークを実施
その他活動	12月12日にメリー★ポピンズ 松山ルーム保育室にて異文化交流(韓国

	を知らう) を実施
銭湯でお風呂の日	対象児なし

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

小学校との子ども間交流・職員間交流なし

〈2〉具体的な連携

具体的な交流なし

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

今年度、対象園児なし

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・要支援児の対象園児は不在であるが、気になる園児について対応の共有を行った。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

・対象者なし

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	1名	0名	4名	10名	2名	0名	4名	4名	0名	2名	27名

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒子育て相談としての個別訪問は特に無かったが、園見学の際に、たずねられることはあったので、今後はその際の記録も残しておくようにする。
自然食堂	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み

親子ランチ 交流	参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	2名	4名	0名	0名	4名	4名	0名	2名	16名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週（水）10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	2名	6名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	8名	
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置 ※ご近隣の方に、頻繁にご利用頂けている様子。中には、市内どろんこ系列4園全てを定期的に回っているという方もおり、勝手籠の認知度が広がっているようである。													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 （支援セン ター主催）	月1回 公園名：団地裏公園（閉園後は幼児遊園）にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度は受審無し。

〈2〉園による自己評価の実施

2023年5月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時30分

自己評価終了時刻：12時30分

自己評価実施者：施設長、主任、分野別リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）開園2年目の園ではあるが、保護者の皆さまからは、比較的高い満足度の評価を頂く。基本に忠実に、日々丁寧に対応することを心掛けていたことで評価頂けたとしたら喜ばしいことである。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 松山ルーム 施設長 相沢 由美

2023年度 篠栗どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

篠栗どろんこ保育園 園目標「共に生きる人～生活を生活で生活へ～」

保育理念「にんげん力。育てます。」および、法人保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」に鑑み、乳幼児・保護者・職員・地域が相互的かつ協働的にかかわりあえるようにし、それぞれ一人ひとりの自主性を重んじ、篠栗町の地域に密着した教育機関・福祉施設を目指した。

篠栗どろんこ保育園が色々な背景のある子どもたちが集まる場であり、おとな一人ひとりも自分達のこども園での生活がスムーズで安定し充実した時間になるよう、それぞれがやさしさや思いやり、常に感謝する心もちをもって、子どもたちとの生活を丁寧に紡ぎだしながら相互扶助していけるようにした。こども園での暮らしぶりが全ての子どもやおとなにとって「安定した生活の場・時間・人」となるよう日々の保育内容が“生活を基本としたもの”となるよう種々に工夫し、園目標「共に生きる人」の実践への一歩を踏み出した。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	新規開園に際しては、子ども一人ひとりの姿に応じた養護をきめ細やかにし、実質的な体験を大切にしながら毎日の保育内容を丁寧に実践する。
	実践結果	環境を活かしながら四季を感じられる戸外活動や趣のある乳幼児の生活を送れるようにした。
	次年度方向性	引き続き日々の保育内容は生活を基本としたものにし、日常に彩りや趣、文化を感じられるような生活作りをする。
2	計画・ねらい	園内にとどまらず、様々な環境（ひと・もの・とき）に慣れ親しみ、子どもも大人も豊かな経験をする。
	実践内容	保育園周辺への近隣さんぽ、公園などの地域資源の利用、異世代間交流など行った。
	次年度方向性	さらに活動範囲の幅が広がり、地域交流も盛んになるようにする。
3	計画・ねらい	温かい言葉、温かい食事といった、子どもにとってうれしい人と温かい心配りに囲まれる、深い愛情を基本とした生活を送る。
	実践結果	かわいい歌、楽しいリズム運動、微笑みあふれる食育、心安らぐ触れ合い遊びなどを楽しんだ。
	次年度方向性	引き続き日常のうた・音・リズムに親しみ、彩りあふれる食育、文化を感

		じられるような生活作りをする。
--	--	-----------------

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	新規開園に際し、保育内容や保育目標、保育理念についての説明を丁寧にし、不安なく利用してもらえるように特に気を配る。
	実践結果	日々の会話を大切にしながら連絡帳アプリの活用、行事に係るポートフォリオの掲示などのヴィジブルに伝える工夫をした。
	次年度方向性	連絡帳アプリ（タイムライン）のフル活用をし、保育内容をさらによく見えるようにする。
2	計画・ねらい	幼保連携型認定こども園として、養護と教育が一体となった低年齢児の生活を丁寧に担保しながら、その様子を保護者と共有していく。
	実践結果	保育園部（特に3号認定の0～2歳児）は特に養護の観点を大切にし、1号認定と2号認定の幼児の生活と教育についてもお互いに共有しながら進められるようにした。
	次年度方向性	幼保連携型認定こども園として、保育園部及び幼稚園部の児童の保育及び教育について、異年齢保育を通してすべての児童・保護者・保育教諭・地域と連携しながら共有し、さらに充実させていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援を実現すべく、保育園や園庭を活用した支援活動を行う。
	実践結果	一時保育、子育て相談、そのほか園庭や保育室の解放を行った。
	次年度方向性	地域に開かれたこども園として、さらに地域へ認知してもらう努力をし、より具体的な地域子育て支援事業を行う。
2	計画・ねらい	子育て世帯を取り巻く様々な人との繋がりを見つけ、実際に繋がり、広がっていく場作りを行う。
	実践結果	篠栗どろんこパーク（異世代交流コミュニティ広場）を企画していたが、実施につながらなかった。
	次年度方向性	篠栗 Doronko+Tsumide パーク（※異世代交流コミュニティ広場構想の仮称）への他係、足掛かりとなるような活動内容を実践できるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	乳幼児の発達のだすじや連続性をとらえ、生活や遊びを明るく楽しく穏やかに展開しながら、子ども一人ひとりを大切にできる保育教諭として成長していく。
	実践結果	教育的な教育だけでなく、養護の懇切（温かい心配り）を教育として捉えた丁寧な生活、幼保連携型認定こども園教育保育要領に係る乳児期の育ちと3つの視点・幼児期の育ちと5領域や10の姿についての学びを得ながら、日々の保育実践は慌てず、焦らず、スローライフとなるよう工夫した。
	次年度方向性	引き続き、根底には養護の観点があり、そのうえで相俟って包括的な教育がある環境を工夫する。また、篠栗どろんこ保育園なりのヴィジブルであり且つ正当な保育評価を行えるようにする。
2	計画・ねらい	子どももおとなも一人ひとりが尊重される園を目指し、その人の持ち味やチームワークが活かされる保育・教育を行う。
	実践結果	畑や動物飼育の役割分担・ヴィジブルな保育内容開示などの取り組みは行えた。一方、動物飼育に係る環境整備や畑コンポストについては、実践に至るまでに時間を要した。
	次年度方向性	今年度、1年間の流れが理解できたうえで、次年度はこども園として2年目をスタートするにあたり、より役割分担を明確にし、スタッフ一人ひとりの持ち味が活かされるよう計画する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	保育事業および子育て支援事業の両方を通し、篠栗どろんこ保育園の環境そのものが地域における総合的な学びの場、相互的な育ちの場になることを目指す。
	実践結果	インタープリテーションを通じた保育アプローチ（自然事象や豊かな文化を基に「感じる体験」の展開）を行い、農作物や草花、樹木に囲まれ、子どももおとなも自主的に生活し、自発的に繋がりあっていける、そのような生き生きとした温かく美しい潤いのある園（その）となっていけるよう“生活”を基本とした保育内容を実践した。
	次年度方向性	引き続き“生活”を基本としながら、自然環境や自然科学を通じた保育実践を行う。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	102人	66人	124人	102人	102人	532人
年度後半： 10~3月	36人	102人	66人	155人	168人	126人	653人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	11 人	22 人	19 人	32 人	38 人	28 人	35 人	21 人	29 人	40 人	37 人	20 人	332 人
うち0 歳児	0人												

（解説）月により申し込みと取下げが随時あり、日によりスポット利用もあった為、利用人数に差が見られた。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	5人	4人	12人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

（解説）篠栗町内の利用のみでなく、県外からの利用もあった。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育教諭	17人	栄養士	1人	調理員等	1人	主任	1名
	施設長	1名						

パート スタッフ	保育士	1人	用務	0人	嘱託内科医	1人	嘱託歯科医	1人
	嘱託薬剤師	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育内容の充実を図る検討、園として取り組むべき課題への研修
給食運営会議	月1回	乳児の離乳食進行検討、乳幼児の喫食状況検討
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデント事例に鑑み、事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	週1回	児童処遇改善個別ケース検討（0～2歳児は全員対象）

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部よりの伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討、各種マニュアル等の改訂検討
食育会議	年4回	給食提供および食育に係る検討、各種マニュアル等の改訂
保健会議	年4回	園全体の保健に係る検討、各種マニュアル等の改訂
主任会議	年4回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション課題の取り組み共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上で実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈3〉 係の設置状況

係名	職務内容・役割
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検、園内外の環境整備状況の管理、備品の点検と補充を行った。
安全対策係	避難訓練及び消火訓練の実施、防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施、交通安全教室の実施を行った。
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行った。
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理を行った。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとった。
生き物係	飼育動物の健康管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとった。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行った。

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが安心し、期待を持ちながら登園できるように丁寧に保育教諭がかかわり、生活を基盤とした保育環境の構成・整備を徐々に進めた。 ・幼保連携型認定こども園としてスタート初年度であることから、予想される保護者の不安や戸惑いについては説明を伴いながら実践するようにした。頂いたご意見や疑問については建設的に対応するようになってきた。 ・法人ならではの活動や、日々の様子を連絡帳、タイムライン、口頭伝達、行事ポートフォリオ掲示などで伝え、日々の様子が分かりやすいよう工夫した。
保育参加	<p>4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月15日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での姿との相違や子ども同士のかかわりあい、同年齢他児だけでなく異年

	<p>年齢の様子をも見られる機会、保育者体験として有意義だった。</p>
<p>保護者面談および発達相談</p>	<p>4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月15日時点)</p> <p>・園運営や保育についての疑問、意見、子どもの発達相談など内容は多岐にわたるが、お迎え時の対応だけでは話しきれないことなどをゆっくり話す場として設けている。※次年度はより頻度を増して実施の予定。</p>

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<p>どろんこ会の食育方針 (1)調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる (2)噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する (3)子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる を基本として食欲と意欲を育てる) を基本として食欲と意欲を育てる。</p>
	実践結果	<p>子どもの成長発達に即した食育を推進した。</p>
	次年度方向性	<p>畑仕事を中心とした食にまつわる体験や活動を積極的に行う。</p>
2	計画・ねらい	<p>日常生活に密着した楽しい食育を充実させる。 分かち合う事の素晴らしさや大切さを感じられるよう工夫する。</p>
	実践結果	<p>大人も子どもも一緒に卓を囲む食事風景を目指し、年度途中より少しずつ“食卓”としての給食風景を確立していった。</p>
	次年度方向性	<p>年度当初より、食卓を子どももおとなもみんなて囲む風景が描けるよう、具体的な実践に繋げていく。</p>
3	計画・ねらい	<p>1年を通して安心できる環境のもと、縁側や戸外で気持ちよく食べる。 友だちや身近なおとなと親しみを持って、楽しく食べる。</p>
	実践結果	<p>季節の良い時季は戸外で食事を楽しめるようにし、年度途中より異年齢での食卓を楽しめるよう園全体で検討し工夫・実践した。</p>
	次年度方向性	<p>認定こども園へ移行し2年目になることで、園全体の規模感がさらに大きくなるが、“食卓”に関して引き続き些細な楽しみやかかわいさ、美しい文化にこだわっていく。</p>

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	7月4日／7月18日／12月5日／12月12日に実施
歯科検診	6月27日／7月4日／に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な歯磨き指導（立ち歩かず座って行う習慣付け）、正しい手洗いうがい指導手洗い指導、うがい指導を日常的に行った。 ・性教育（5歳児）を行った。
流行した感染症	2月にインフルエンザB型が園児4名、新型コロナウイルス感染症が園児2名感染報告有り、2月28日に終息した。
発作・痙攣等の対応	無し
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月23日に園にてキックオフ研修を全スタッフ計24名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ22名のうち、22名が使用可能
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のため、保育室の常時喚起や衛生管理、日々の子どもの健康状態を把握し拡大防止のための情報発信を適宜行った。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、元気な体づくりをしながら、同時に必要に応じて消毒を実施した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月 25 日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月 1 回／5 日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年 2 回／4・10 月
	身長体重測定	毎月 1 回／20 日
	児童健康診断	内科検診 年 2 回／6・11 月 歯科検診 年 2 回／6・11 月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年 2 回／4・10 月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月 1 回／園会議冒頭 5 分間
	利用者アンケート調査	年 1 回

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたち自身の生活やあそびは子どもたち自身でまかなう事ができるよう、乳幼児の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。
	実践結果	特に年度当初は追加修繕および工事未了箇所についての安全確保をした。
	次年度方向性	畑の再整備やコンポストの開始、動物柵の設置を継続的に行っていく。また今年度こども園に移行した後も旧幼稚園舎に不具合が見つかったため、次年度以降も安全を担保しながら修繕を行っていく。
2	計画・ねらい	新型コロナウイルスに係る外出自粛要請などの特別な措置が講じられた場合、活動内容の縮小や制限により子どもの育ちや学びが大きく阻害されないよう特に配慮し、新たな工夫や構想を以て健全な成長発達に確実に寄与していく。
	実践結果	園庭など戸外での活動を主とした感染しない環境と体作りをした。
	次年度方向性	戸外で大いに活動し、さらにダイナミックに遊ぶ中で丈夫な体作りとケガをしない所作を身に付けられるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。 また、大規模災害や広域惨害に備え、備蓄品の入れ替えや補充といった施設機能強化を継続して行った。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従い実践した。
3	防犯	危機管理マニュアルNo.3の不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従い実践した。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P.21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する見通しだったが、特に発生情報はなかった。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

次世代育成の観点から、実習生や研修生、地域ボランティア受け入れを積極的に行い、その一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助や指導を行う。

〈2〉実習生の受入

今年度の養成校より実習受け入れ要請は無かった。

〈3〉中高生の受入

今年度の近隣、中学校・高校よりこども園体験受け入れ要請は無かった。

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 24名	19日 24名	16日 24名	21日 24名	25日 24名	15日 24名	20日 24名	17日 24名	15日 23名	19日 23名	16日 22名	15日 22名
園内研修	21日 24名	19日 24名	16日 24名	21日 24名	25日 24名	15日 24名	20日 24名	17日 24名	15日 23名	19日 23名	16日 22名	15日 22名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月20日	篠栗町教育委員会	幼保小連携幼児教育交流会	1名	有
通年	福岡県・園長大学保育士大学(社会福祉法人どろんこ会)	保育士等キャリアアップ研修(乳児教育・幼児教育・保護者支援子育て支援・障がい児保育・食育アレルギー対応)	11名	無
11月28日	福岡県	保育所(園)長研修会	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：たけのこ広場にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：アイアイささぐり、村嶋饅頭店、篠栗交番、篠栗町立図書館、県立社会教育総合センター、JR 篠栗駅、西日本新聞エリアセンター篠栗、篠栗町観光交流拠点339Re、こがサイクル、等
世代間交流	12月21日に浜江苑にてクリスマスコンサートに参加
異年齢交流	2月28日に篠栗小学校にて見学交流会を実施
その他活動	1月17日に園庭にてどんど焼き（左義長）を実施
銭湯でお風呂の日	今年度は実施無し

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う。こども園における遊びや生活を通しての体験を中心とした総合的な指導と、小学校における時間割に基づき教科・教材を用いて学習を行う教育への円滑な接続に向け、アプローチカリキュラムの策定に取り掛かり、順次その改善を図る。また、児童等との交流、教師の意見交換や合同研究の機会を図る。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月27日	和田幼稚園	1名	篠栗町の保育を考える会 （篠栗どろんこ保育園）	保幼小連携発足へ先駆けて町内意見交換会
2月5日	和田幼稚園	1名	篠栗町の保育を考える会 （和田幼稚園）	保幼小連携発足へ向けて町内意見交換会

2月28日	篠栗小学校	20名	小学校探検・見学交流 (篠栗小学校)	子ども間交流
-------	-------	-----	-----------------------	--------

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：8名

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

町内や糟屋郡の地域での保幼小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行った。就学時健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていった。また、保護者の同意を得て家庭支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作っていった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名	1名	1名	0名	0名	●名	●●名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計4件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎月2回10:00～12:00 ⇒計24回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
どろんこ 芸術学校	年間6回10:00～12:00 ⇒計12回実施済み												
	参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計

どろんこ 自然学校	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
勝手籠設置	(月)～(土)7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回(第3火曜) 公園名:たけのこ広場にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年9月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時30分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

全体的に園の運営について概ね良き理解を示してくださっている意見が多く、引き続き誠意をもって子どもを真ん中にした共育でのパートナーとしての保育・保護者支援を行っていく。

昨年度の届出保育施設から、今年度の町立幼稚園から認定こども園への移行で、保護者の園への関心は高く、良い点も改善が必要な点も的確に指摘されていた。また日々のコミュニケーションや、保育者間での伝達不足などに対する不十分さに対する満足度の低さが垣間見られたため、より良いパートナーシップや信頼関係のもと運営ができるよう、より一層工夫を施す必要がある。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク(HP・メール・電話)、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：篠栗どろんこ保育園 施設長 平山 靖

2023年度 内箕輪どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育目標を「環境を通して、主体的に遊び・生活に取り組める子ども」として、それぞれの子ども
のこれまでの育ちに配慮しながら、スムーズに新しい環境に慣れ、法人ならではの活動を保護者の理
解を得ながら楽しむ中で、一人ひとりが自己発揮し、安心して生活できるよう、環境構成・かかわり
をスタッフと共に模索しながら構築してきた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの発達と子どもに対する理解を深める
	実践結果	一人ひとりの子どもの姿を多面的・肯定的に捉えるために、確実な事実の収集を行えるよう、園内研修でスタッフ同士の目線のすり合わせや随時ケース会議などを行ってきた。専門的な発達理論に照らし合わせた解釈を行えるよう、法人の研修内容を基に保育者同士で話す機会を多く持ちながら、様々な研修にて自らの知識の向上に努めてきた。
	次年度方向性	スタッフ同士で子どものことについて語り合う機会を多く持ち、エピソードの共有を行いながら子どもの感情や発達について引き続き多面的・肯定的に理解する。
2	計画・ねらい	子どもが育とうとする力を支えられるよう、知識や技術の向上に努める。
	実践結果	子どもの自ら育とうとする力が何なのか、大人の理想の押し付けになっていないかを園内研修や保育の振り返りの際に、考える機会を持ちながら適切な援助とは何かを職員同士で話し、チームで模索してきた。
	次年度方向性	自己研鑽、園内研修、法人内研修などを通して、一人ひとりのスキルアップを図り、現場でアウトプットし、振り返りを行うことを繰り返す。
3	計画・ねらい	子ども達が安心して過ごせる環境づくりを行う
	実践結果	大人同士の心地よい挨拶やコミュニケーションが行われるために、人間関係の構築、連携の仕組みづくりを行ってきた。新しい園舎が清潔で整頓されている環境を維持できるように互いにチェックしあう仕組みを作り、子どもが安心して過ごせるようにしてきた。
	次年度方向性	明確な役割分担の中で安全面と保育の展開両方を充実させ、子どもが安心して毎日の期待をもって過ごせるようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の可視化
	実践結果	つむぎ内箕輪ルームとも連携し、お迎え対応時にどういった話し方・内容であれば子どもの様子が伝わるかのケーススタディを行ったり、お迎え時の保育者配置の見直し、伝達の仕組みを構築したりと、保育者同士の連携を図った。また行事の開催方法の工夫、ポートフォリオの作成、連絡帳の

		ケーススタディ、保育参加・個人面談の推進を行ってきた。
	次年度方向性	引き続き、つむぎ内箕輪ルームとも連携し、様々なスタッフが多面的に一人ひとりの子どもを見ていることが伝わるお迎え対応、保護者同士の関係を深められる保護者懇談会を行い、積極的に保育参加・個人面談を勧める。また、連絡帳・タイムライン・エピソード記録などを用いて生活・遊びの共有を積極的に行う。
2	計画・ねらい	運営面の可視化
	実践結果	地域性や各保護者のニーズを適切に把握するため、保護者との直接の関わりの中で信頼関係を構築し、頂いた質問や意見には即座に対応し、安心感を得られるように努めてきた。保護者懇談会やタイムラインなどを活用して、保護者に園の動きを知らせられるようにしてきた。保護者懇談会では安全計画の内容を伝えた。
	次年度方向性	危機管理面・保健衛生面などの対応について先手で動けるようにする。現在行っている危機管理の方法などをより詳しく保護者に伝えて安心感を得られるようにしていく。
3	計画・ねらい	安心・信頼できる保護者対応
	実践結果	保護者一人ひとりとの信頼関係の構築、伝達方法の仕組化、どろサポの始動、行事の共催を通して、なるべくスタッフや園生活のことを身近に感じられるようにしてきた。
	次年度方向性	先を見越して予測できることや気付いたことについてなるべく園からの発信を行い、頂いたご意見やご質問については迅速かつ明確に返答する。思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の意を念頭に保護者対応を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域性、地域の文化、地域のニーズについて積極的に情報収集する。
	実践結果	八重原公民館、内箕輪運動公園、地域の店、消防署、図書館、子育て支援センターなど地域の園とのかかわりを持ち、周辺地域の施設・集団の情報収集を行ってきた。
	次年度方向性	地域に開かれた保育園・地域の核の拠点になる土台を構築するため、園児の生活と切り離すことなく園の子育て支援として以下の活動を行っていく。
2	計画・ねらい	心地よく過ごせる環境づくりに努める。
	実践結果	二重の門への入りづらさや、子育て支援室が2階にある理由をお伝えして、法人の意図に理解を頂き、スタッフそれぞれが電話・対面での対応では笑顔・明るい挨拶・明確な案内、返答でオープンな雰囲気づくりを意識して行った。
	次年度方向性	来訪・電話対応では常に受容的な雰囲気で受け入れを行い、衛生的で安全対策がなされているようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者が主体的に保育を楽しもうとする
---	--------	--------------------

	実践結果	ミドルリーダーを中心に、新しい環境や保育の面白さを感じられる研修の実施を行ってきた。スタッフ一人ひとりの個性が活かされるようにした。
	次年度方向性	保育の質を、結果ではなくプロセスを丁寧にみていくことは子どもの認知能力・非認知能力を共に大事にしていくことに繋がるため、園内研修や日々の話し合いの中で職員同士語り合い、一人ひとりが知識を広げながら研鑽していく。
2	計画・ねらい	建設的に対話ができる関係性の構築
	実践結果	保育についての研修だけでなく、リーダーはファシリテーションなど、職員同士のコミュニケーションについて研修内で取り入れたり、リーダー会議の中でスタッフ育成について話し合ったりしてきた。
	次年度方向性	一人ひとりが考え、学び、動く、自立した集団となるよう施設長がマネジメントを行う。
3	計画・ねらい	誰が見てもわかりやすい情報共有の仕組みづくり
	実践結果	社内チャットの活用やミーティングのメンバー・内容精査、リーダーを中心とした伝達のフローの確立を行った。
	次年度方向性	業務過多とならないよう、重複している業務の選定、一本化を行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境の構成について
	実践結果	生き物の世話、畑仕事、食育活動、清掃など一つひとつの活動が生活の習慣となってきたが連続性に欠けている。
	次年度方向性	食材の様々な加工、コンポストを用いたたい肥作り、畑仕事、木材の加工、命を頂くことなど一つひとつの活動が単体ではなく前後の活動とつながり、循環を知ることができる活動となるよう活動への意義付けを行う。
2	計画・ねらい	振り返りについて
	実践結果	生活についての振り返りはなかなか行えず、環境については受け身でいることが多いことが分かった。
	次年度方向性	掃除、食事、整理、暑さや寒さへの対応、自然物の加工による玩具づくりなど身の回りのものを活用した生活・遊びの充実について保育者も学びながら子どもたちと実践していく。

〈6〉インクルーシブ

1	計画・ねらい	園・つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする
	実践結果	会議などは共に行ってきた、併設という環境をどう活かすかを考えてきた。
	次年度方向性	園内研修で子どものエピソードを基にした考察の機会をつくる。多角的な視点を整理しながら、子どもに必要な援助を考える。

2	計画・ねらい	自然に協働する関係性の構築
	実践結果	普段の保育活動に留まらず、行事・研修・会議体・園内整備など施設内のおおむねの物事において共に協力し合う体制をとり、互いの専門性を活かしながら地域に必要とされる施設になる土台を築いてきた。
	次年度方向性	児童発達支援事業との併設園である強みを最大限活かせるように両施設のスタッフが共に子ども一人ひとりをよく見て必要な援助を行う。

〈7〉生活と共にある食育と畑活動

1	計画・ねらい	食が生活の中で孤立しない活動を行う。
	実践結果	畑仕事を生活の一部とし、室内での水耕栽培やプランター栽培などにも挑戦した。食育については、月一回のクッキングを楽しみにする姿があるが、日常的には関わるのが少なかった。
	次年度方向性	畑仕事に加え、給食の下準備、米とぎなどを行い、食にかかわることを日常的に行う。また、自分で決定すること、疑問を持ち調べること、日常的に調理にかかわること、人とのかかわりや他の興味・活動と繋げることを子どもが行えるように、遊び・会話・知識・所作・文化など様々な面からアプローチを行う。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	9人	18人	18人	24人	24人	15人	108人
年度後半： 10~3月	12人	18人	18人	24人	24人	16人	112人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	101 人	140 人	107 人	102 人	127 人	126 人	114 人	114 人	135 人	133 人	135 人	115 人	1584 人
うち0 歳児	0人	1人	0人	0人	3人	0人	2人	1人	0人	0人	0人	0人	7人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	4人
うち0歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

(解説) 余裕活用型の一時保育である。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	3人
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	事務	1人	用務	1人

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園運営に必要な情報の共有
給食運営会議	月1回	給食運営に関する情報の共有、課題の抽出・実行など
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故の分析、時季で予測される事故の注意喚起など
ケース会議	月1回	要支援児の支援状況、課題の整理、支援計画の立案など

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	保健衛生関係物品・書類の管理、清掃・消毒の状況とりまとめなどを行った。
安全対策係	事故防止委員会の運営、ハザードマップの見直しなどを行った。
防火管理者	防火管理者：岩森千花 消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み（避難訓練の立案・実行・省察なども含む）を行った。
食品衛生管理係	給食運営会議の運営、食品の安全に対する管理や啓発などを行った。
畑係	年間計画の遂行管理、畑の整備・管理を行った。
生き物係	動植物の世話の管理責任（観葉植物なども含む）として、日々の世話の確認と日別担当割り振りを行った。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとともに、園児・地域の子どもたちの行事を構築した（主導はどろんこサポーターズ）

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・新園であることから、予想される保護者の不安や戸惑いについてはなるべく先手で動けるようにし、頂いたご意見や疑問については即座に対応するようしてきた。 ・法人ならではの活動や、日々の様子を連絡帳、タイムライン、口頭対応、ポートフォリオなどで伝え、安心して子どもを預けられるようにした。 ・子ども一人ひとりが安心し、期待を持ちながら登園できるように保育者のかかわり、環境の構成・整備を行ってきた。
保育参加	<p>4～3月まで 合計13名 が参加済み （3月1日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での姿との相違や子ども同士の間関係、同年齢他児の様子を見られる機会として少しずつ認知されてきている。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計22名 が参加済み （3月1日時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園運営や保育についての疑問、意見、子どもの発達相談など内容は多岐にわたるが、お迎え時の対応だけでは話しきれないことなどをゆっくり話す場として設けている。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	子どもは食への意欲が高まるために毎日の食事の時間が充実したものである。
	実践結果	午前中の活動の充実化を図り、遊びこんだ充実感、達成感から空腹感を本能的に感じ、期待をもって食事に向かえるようにしてきた。「自分で決める」ことを大事に、配膳は基本的にバイキング形式で行い、定着してきている。

	次年度方向性	生活と遊びの中で意欲を持って食に関わる体験を積み重ねられる活動を行う。乳児期から子どもの言語面や認知面での発達や意欲を適切に見極め、「自分で決める」ことを推進していく。また口腔発達や手と口の協応等の発達についてもスタッフが理解を深め、誤飲・誤嚥事故の防止に努めながら、安全に食事をとれるようにする。
2	計画・ねらい	日常的にかかわる食育の推進
	実践結果	調理活動など直接的に食にかかわる体験だけでなく、コンポスト作成、栄養素を知る機会など多面的に食への興味を持てるように努めた。
	次年度方向性	毎日の野菜の下処理手伝い、米炊き、調理活動など直接的に食にかかわる体験を増やし、コンポスト、色や量の変化、においを感じられる配膳方法や遊び、腐敗を知ることなど多様な環境や遊び、ものづくりやものが無くなるまでのプロセスに触れながら、自然に身近で食育につながるきっかけを保育者がつくっていく。
3	計画・ねらい	日常生活の中で「食」を孤立させない
	実践結果	自ら栽培したものを自分たちで調理し食する一連の流れや、食具を使うことと遊びの中での手指の巧緻性などの繋がりを考えながら保育、食事の援助に当たった。
	次年度方向性	行事食・郷土料理などを食べて文化を知る機会、地域、科学、美しさを感じる感性、危機察知など様々なことと食が繋がっていることを意識して保育を行う。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月21日／11月29日に実施
歯科検診	6月13日に内箕輪どろんこ保育園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	・手洗い指導、うがい指導を日常的に行った。 ・性教育（年長児）を行った。
流行した感染症	1月にインフルエンザ、園児27名感染報告有り。1月6日に終息
発作・痙攣等の対応	計2名に対し、計2回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月24日に内箕輪どろんこ保育園にてキックオフ研修を開園スタッフ計28名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、25名が使用可能

その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政からのお知らせや注意喚起掲示 ・ 感染予防のため、保育室の衛生管理・日々の子どもの健康状態を把握し拡大防止のための情報発信を行う。 ・ 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	---

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月 ⇒4月10日、10月10日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回/20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回/6月21日、11月29日 歯科健診 各年1回/6月13日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時 ⇒4月21日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日~9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、玩具・用具などの衛生管理に努める。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃チェック、内部監査セルフチェックなどを基に室内外の環境が子どもにとって衛生的、安全であるかを確認し、不備があった場合には修繕、改善を行ってきた。 ・帽子や歯ブラシ園児個人の持ち物などは、衛生管理に特に配慮し、常に同じ場所に清潔に保管する。
	次年度方向性	上記の計画・ねらいを達成するとともに、「環境を通して」子どもの様々な力が育まれるように、五感を刺激する環境・粗大な動きを保證する環境・巧緻性のある遊びや生活体験の環境・共同性が広がる環境・連続、継続してかかわることのできる環境を構成する。また、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する
2	計画・ねらい	保育中の事故防止に努める。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動、睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中などの場面では、重大事故が発生しやすいことを踏まえ、施設長の巡回、保育同行を行ってきた。 ・事故防止チェック・設備点検などを確実に言い、不備があった場合にはすぐに対処してきた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の状態などにも踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員での連携（共通理解や体制作り）を図る。 ・引き続き、戸外活動、睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中などの場面では、重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境に配慮しチームでの連携を強化する。 ・事故防止チェック・設備点検などを確実に言い、不備があった場合にはすぐに対処する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデント、自園事故記録簿、他園事故記録簿を参照し、過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行ってきた。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげてきた。
---	---------	--

2	避難訓練・不審者侵入訓練	・様々な時間、場所をシミュレーションした避難訓練、不審者対応訓練を行ってきた。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）を行った。
3	事故・怪我の対応	事故・怪我においては、心身ともに苦痛を負った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応え事実を伝えるようにする。
4	光化学スモッグ	・自治体の通知方法を確認し、情報収集に努めた。
5	ハザードマップ	・君津市の各種ハザードマップ（地域の危険度マップ）を確認し、それに則り、避難訓練の計画を行い、自園のハザードマップも作成している。
6	安全計画	バスの置き去りについては使用する全バスに置き去り防止を支援する安全装置の装備の取り付けを行っている。 また、その他定期安全点検、安全指導、マニュアル遵守、訓練計画・研修計画をまとめた安全計画を策定している。
7	虐待防止	虐待防止研修について法人本部がスタッフ入社時に1回、施設内で年2回行う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習の実施はなかったため、近隣の保育士養成学校との連携を図れるようにしていく。

中学生、保育士養成校学生のボランティア受け入れを行い、子どもの面白さや保育の楽しさを感じ、保育業界への興味や期待を持てる体験となるよう努めた。

〈2〉実習生の受入

2023年度の実習生はなし

〈3〉中高生・ボランティアの受入

日程	学校名	人数
6月21～26日	八重原中学校	4人
8月7～8日	千葉経済大学	1人
8月19日	清和大学	1人
1月5日	外箕輪小学校	1人

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	21日 26名	19日 25名	16日 27名	20日 28名	18日 24名	15日 24名	20日 25名	17日 27名	15日 27名	19日 26名	31日 26名	31日 26名
園内研修	21日 22名	19日 26名	16日 24名	20日 28名	18日 21名	15日 26名	20日 21名	17日 30名	15日 30名	19日 26名	×	×

〈2〉外部研修への出席

外部研修への出席はなし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、地域に出かける中で積極的に挨拶や親子との会話をし、ちきんえっぐだよりを配布するなど、日々の小さい行動の積み重ねで認知度を上げ、集客数も伸びてきている。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：マクドナルド君津店、マツダ君津店、八重原郵便局、ローソン君津八重原店、八重原公民館、ジョイフル本田君津店、君津中央図書館、業務スーパー君津店、ジャパンミート君津店、ブックオフ君津店等
世代間交流	9月14日にウイステリアにて歌の披露と交流会を実施
異年齢交流	3月5日に八重原小学校にて授業参観を実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

八重原小学校への挨拶を行い、連携依頼、授業参観の実施を行った。また、小学校へ不安なく移行ができるように、連携・引継を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
5月18日	八重原小学校	1名	挨拶・年間の活動確認	職員間交流
1月15日	八重原小学校	130名	避難訓練	道順を知る
3月5日	八重原小学校 1学年	16名	授業参観・校内探検	子ども間交流
3月5日	八重原小学校 支援学級	2名	支援学級授業参観	職員間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

つむぎ内箕輪ルームと連携しながら、共に子ども達を見る中で要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿の変化を職員同士で共有し、多様な視

点から子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者・職員間で共有していく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：10名前後

ケース会議は、1か月の該当児の様子や変化、また翌月の援助について話し、全職員に共有を行った。子どもが自ら伸びようとする姿に大人が先手を打たず、どのように援助していくかを考えながら実践していった。併設園として『インクルーシブ保育』を謳っている中で、ほんとうに必要な援助・配慮を行うことはなにかを職員同士で話しあってきた。その結果、スタッフそれぞれの視点や思いを共有することができ、子どもを支援する協力体制の土台ができてきている。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

護者・自治体の関係機関との連携を図り、対象児の引継事項を「就学支援シート」にまとめ、小学校には保育児童要録と電話連絡での引継を完了している。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16名	32名	49名	326名	27名	80名	105名	104名	56名	79名	85名	80名	1039名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	月2回(金) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	4名	18名	7名	6名	8名	14名	16名	13名	16名	16名	16名	134名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	月1回(月) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	6名	0名	5名	3名	6名	0名	10名	2名	10名	10名	10名	62名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												

青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	1名	2名	1名	3名	0名	2名	0名	1名	1名	2名	13名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年4月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：岩森千花、小松聡子、木村智、大上さやか

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

全体的に園に対して理解を示してくださっている意見が多く、引き続き誠心誠意をもって子どもを真ん中にした共育でのパートナーとしての保育・保護者支援を行っていく。新園で尚且つ民営化の園ということで、保護者の園への関心は高く、良い点も改善が必要な点も的確に指摘されていた。また保育者間での伝達不足などに対するご意見もあったため、全スタッフに共有後是正計画を立て、実践してきた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：内箕輪どろんこ保育園 施設長 岩森 千花

2023年度 メリー★ポピンズ 海老名ルーム事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度のスタッフ育成の目指すべき姿をあげた。

「自分自身が自分自身で教育者としての教育力を高めていく」

「プライドをもって保育をする」

「保育者も五感を磨き、感性・教養を身に着ける」

この一年間は、様々な仕事環境で活躍してきたスタッフが集まり、今までの保育で培ってきた保育技術や保育環境の作り方を提示したり話し合ったりして、同じ方向性ややり方を模索することが活発に協議されて、実践につながった。「子どもにとって真に必要な機会」を「10より100の経験を」と、その幅を広げ、基本としている異年齢保育、さくらさくらんぼ体操、座禅、散歩9時出発、畑仕事、裸足保育、商店街ツアー、青空保育を実施して、毎日の生活から体験し学んでいく子どもたちの生活を大事に紡いだ。一方で、スタッフは、子どもたちの命・尊厳を守り、より質の高い保育を構築するために、毎月の園内研修や手話講座、小学校への接続研修や他多岐にわたるスタッフの自主的な学びをも共有して研鑽し、チームのボトムアップを図った。

つむぎとの併設園としては、園・つむぎのスタッフが混ざり合っ、すべての子どもたちを真ん中に置いて、保育を進めることができたことは1年間の何よりの成果であった。この取り組みはインクルーシブ保育の先進として、社会的にも注目され期待されている。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ることを第一とする。
	実践結果	子どもの保証される権利を尊重して、子ども自身が大事にされる実感を持ち、自分育てをしていく環境を人的・物的を精査して整えていった。一日の静と動のリズムが整い、子どもたちは自分のありのままを表現し様々な感情や行動、言葉で身近にいる友達や大人との応答関係が作られた。
	次年度方向性	丁寧な応答関係ある保育を心がけ、子どもの自尊感情が育ち、自分も他者をも尊重し大事にできる基盤を子どもの内に育てていく。
2	計画・ねらい	「子どものすることに、無駄なことは何一つない」との考えを保育者の中に定着させて、その時々の子どもの在りのままを受容し、子どもの背景をくみ取って寛容に対応する。駄々こねや反抗期を歓迎する ・子どものサインや発信を尊重する。大人の価値観を横において、子どもの本質に迫る。子どもの発言を肯定的に受容すると同時に、子どもには、自分の発言に責任を持たせ、「子どもに任せる保育」を忍耐と楽しみをもって行い、Trail&Errorの機会が日常に組み込む。

	実践結果	子どもの自発的な姿を尊重し、「10より100の経験」を心がけ、保育を実施した。「子どもに任せる保育」を展開し、大人は先回りをしないで、「気づくこと」「考えること」「あきらめないでやり抜くこと」「自己コントロールすること」を子どもの内のはぐくむ保育を展開した。自分自身を十分に表現でき、困ったときに助けを求めたり解決策を友達と図ったりと「生きる力」を育てていく素地が出来つつある。
	次年度方向性	保育者はさらに先回りをするのを避けて、子ども自身が誘発される「好きなこと」「やってみたいこと」を十二分に満たす関係性、保育を展開する。子どもの可能性をとことん信じて、その環境づくりをチームプレーで展開していく。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで戸外で遊ぶ ・生活、社会生活の範囲を広げる ・他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践、異年齢の関りなど、直接体験の中で ①他者との協働 ②感情コントロール ③目標の達成 の環境構成をし、見守る。関わる。教える。共感協働する。
	実践結果	進んで戸外に出かけた。散歩では、子どもの能力に合わせて徐々に距離を延ばして、子どもたち自ら社会生活の場を広げていった。毎日の散歩は自然の事象に触れ、様々な外界の刺激を吸収し、交通マナーや社会のルールを肌で感じ、直接体験の中で①他者との協働 ②感情コントロール③目標の達成の環境構成を試行錯誤し、毎日の生活の中で、子どもたちの達成感や充実感を感じ、その育ちをご家族の皆様と共有できるよう心掛けた。
	次年度方向性	・散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼ体操など基本としている活動を積極的に実施し、その質を高めていく

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育者はおもてなし（思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の心の満足度を図る。
	実践結果	保育や子どもの日常をお伝えすること、その育ちや喜びを言語化・可視化していった。子どもたちのひたむきな姿や発見した喜び、時には上手いかなかったことも、保護者様に共有しともに喜んでいただいたり考えて頂いたりすることが機会を作ることを意識してかかわった。園での子どもの姿を手取るようにお伝えすることや保育活動の案内、意図意味の説明はスタッフ間で共有しながら日々研鑽し、より良いサービスの提供ができるように努力する。
	次年度方向性	接遇研修の実施 保護者様の困り感やご要望を直接寄せていただく取り組み 玄関が狭いことへの工夫や快適な空間づくり お待たせする時間の短縮するための工夫 園内の協議事項として進めていく
2	計画・ねらい	最大の保護者支援：「子どもの安全が確保され、様々な体験を通して、体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を展開する。 ・いずれも、意味やねらいを深めながら実践する。PDCAを回し、常によ

		り良くなるためにまなび、努力する。プロセスを大事にする。保護者様との相互理解を図る
	実践結果	「子どもの安全が確保され、様々な体験を通して、の体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を十二分に展開する、は達成された。 毎日の散歩先や活動場所すべて、ハザードが作成されて引率の安全を確保できた。ヒヤリハット、インシデント分析を定期的に行い、事故やケガの防止に努めた。 様々な活動やルールのある遊びが展開されて、体を育て心も育てることにつながったと感じる。
	次年度方向性	子どもたちの毎日が生きいきと遊びこめることを保証できる生活と安全を多方面からサポートする。 ・子どもたちといきたい場所、遊びたい場所と方法など自発的な提案を促していく。体験して覚えること、感じることを引き出し、感覚と感性を培う ・保育者のリスクマネジメントと子どもたちと考える安全と危険を日常に展開する
3	計画・ねらい	2023年度・事業計画の明確化・どろんこ会保育の推進度の可視化・説明保護者様と保育や子どもの育ちの目指す姿や目標の共有を図り、相互の理解を図る
	実践結果	「6つの力」の育ちを子どもの姿（活動時の写真）を通して示した。・年度当初から提供することが出来れば、保護者様の安心につながっていったと感じる。 タイムラインでは、日々の活動の様子を子どもたちの姿からお届けすることができた。 事業計画・掲示をしたが、玄関先でゆっくり見ていただくことは難しかった。
	次年度方向性	ドキュメンテーション（可視化と子どもの姿の振り返り・解説）の掲示タイムラインでは、活動の内容にプラスして子どもの育っている姿やプロセスを解説して共有をする
4	計画・ねらい	保護者様の保育活動に対する積極的な参加を促す 保育活動に関心を寄せ、積極的な参加は、子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促す
	実践結果	保護者様のニーズに添った個別面談の実施・卒園面談を行った 保育参加に積極的に参加されるご家庭が複数件あった。
	次年度方向性	気軽に保育室の様子を見ていただけるように、ご希望で室内にいつでもご案内できるようにしていく どろんこ祭りなど、サポーターを募り、ともに保育園の活動や子どもたちの日常がより活性化できる協力体制をお願いしていく
5	計画・ねらい	卒園後も継続する保育 日々の活動やその中で親切で寛容な関りから、卒園の後も子どもたちや保護者の方の心のふるさととなる保育園を目指す
	実践結果	卒園面接では、卒園後も子どもたちの帰ってくる場所として、海老名ルームをご利用いただきたい旨お伝えした。これをかなえるため、子どもたち

		にとっても保護者様にとっても、気持ちの良い接遇を心がけた。
	次年度方向性	卒園児が来園した時の気持ちの良い接遇を通年行う 新しいスタッフも卒園児に配慮して名前を覚える。関心をもって受け入れていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信・「開かれた海老名ルーム」「つむぎの知名度・利用率を上げる」 ねらい：駅ビル型の利便性を活用し、いつでも子どもと共に受け入れられる安心基地を地域の子育て家庭に開放する
	実践結果	園開放、支援室の長時間解放と利用者増への取り組み・情報発信・利用しやすい受け入れ方法・遊具、遊びの工夫に努めた。 ・安心して利用できる環境づくりに努め、後半はリピーターが増えて気軽に利用していただく素地ができつつある。 ・駅前・併設園という利便性とニーズとで、入所をご希望されるご家庭の園見学が10月は300件を超えた。ニーズに沿った案内や説明ができるように、スタッフ間で役割分担をして進めた。
	次年度方向性	・園見学受け入れの当番制（スタッフ育成を兼ねる）：保育者1人ひとりが園外にも意識を向けて、保育園の社会的な役割を担っていく。 手順書の作成（案内の標準化）入所案内の読み込み 自園の保育の言語化と伝え方 視覚的案内の作製（デイリー・写真とねらい）をすすめる。
2	計画・ねらい	子育て相談の実施・地域家庭のニーズの把握 フォーマルな子育て相談と同時にインフォーマルな子育て相談を受け付けて、雑談や共に遊ぶ中で、子育ての悩みを聞き、保護者様が感じておられる気持ちの開放を図る
	実践結果	・話しかけから始まるインフォーマルな子育て相談の機会があった。自然食堂では、お子様の食の好みの傾向がわかり、食事を作りやすくなったという声が聞かれた。 園開放で、園の子どもたちと混ざるとスタッフの言葉かけが参考になったりつむぎのスタッフから情報をもらったりと一緒に過ごすということがメリットになっていることも感じた。
	次年度方向性	・園開放の担当の割分担制 ・スタッフのカウンセリング技術の習得・研修
3	計画・ねらい	・ビナガーデンズパーチ・地域向け催事への参加 海老名っ子を育てる意識付けと地域への貢献を図る
	実践結果	・11月ビナガーデンズパーチと文化会館コラボ行事「みんなの電車」に参加 ・ビル総合防災訓練参加
	次年度方向性	・実践結果に加えて、海老名市・絵画展に参加予定

4	計画・ねらい	地域公開講座の実施 保育の専門性を地域の子育て家庭に還元する 地域公開講座の実施：地域子育て支援事業計画表参照
	実践結果	地域公開講座は「ちきんえっぐ便り」で案内をかけていたが集客には至らなかった。 園長大学主催で「手話講座」を開催したが、地域の方をお招きするまでには至らなかった。
	次年度方向性	内容を精査して地域公開講座を実施する。年4回併設園ならではの内容・臨床心理士から「子どもの発達」に関する講座、どろんこ会が勧める「幼児期からの性教育」などを展開する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上を図る・対コミュニケーション能力を養う ・保護者様に安心感・信頼感をもって保育園を利用していただく ・保護者様が子どもの成長ぶりに目を見張る3分間対応を展開する保育の視点と丁寧で効果的な言葉を学ぶ。（保育ノートの活用と振り返り・話し合い） ・何よりも自分自身に対して、自尊感情を持ち、笑顔で何事にも楽しんでやりがいをもって、取り組める
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル研修 ・OJT研修 ・タイムラインや連絡帳の内容のふりかえりをし、質の良い発信方法を研鑽し実践していった。 ・保育のねらいや意図を語れる保育者集団作りを目指し、3分間対応では特に子どもの様子が手に取るように分かる申し伝えを意識したが、十分に伝達できない場面もあるため課題として取り組む。 ・ご意見やご提案への迅速な対応を心がけ、全スタッフで共有し自分ごととして対応した。
	次年度方向性	実践し課題を見つけP-D-C-Aを回して、保護者様が子どもの成長ぶりに目を見張る3分間対応を展開する保育の視点と丁寧で効果的な言葉を学ぶ。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修の開催：保育技術を身につける ・ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上 ・多様な見方、問題解決能力の向上
	実践結果	ファシリテーションの技法を全スタッフが活用でき、多彩で多角的な見方や発言を引き出すことができている。保育を語る上でも多様な見方や工夫された導入や保育展開に活かされていると感じ、チームでの話し合いが進み、保育を活性化して子どもたちの活躍の場が広がった。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上 ・多様な見方、問題解決能力の向上を更にめざし、園内に標準化していく
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> どろんこ会運営方針に沿った保育活動の推進 保育の質の向上 ・主体的な「にんげん力」ある保育者集団を育成する チャレンジ精神ある実際の保育活動の推進（企画・実行・ハザードの作り

		方・考え方)
	実践結果	<p>コンピテンシー追求</p> <p>「ダメと言わない保育」とは、またその保育を園の文化として定着させることを法人・虐待の定義と合わせて研鑽した</p> <p>「セカンドステップ」：ソーシャルスキルトレーニング・アンガーマネジメント技術の向上：子どもの「生きる力」を引き出す・選択肢の幅を広げる→中立的に考えることや問題の解決方法を学び、日常の実践に結び付けた。</p> <p>「保育マニュアル」「保育運営マニュアル」の読み合わせを行い、スタッフ間の共通理解を得ていった。</p> <p>保育活動の可視化と情報発信：ドキュメンテーション・ポートフォリオなどの掲示</p> <p>保育 WEB の活用</p> <p>保育活動の企画・実行・ハザード作成と継続性のある保育活動を展開した。ハザードづくりは担当者が内部監査室に相談をかけ、質の高い内容を標準化しつつある。</p>
	次年度方向性	内部監査チェック項目・全スタッフでの読み合わせ ハザードの整備と質の高い作成の標準化を図る
4	計画・ねらい	リーダーの養成
	実践結果	リーダー会議の自治と推進を進めた。
	次年度方向性	リーダー会議の自治・推進 リーダーを中心とした子どもを真ん中におく保育の推進 リーダーによる人材育成の推進
5	計画・ねらい	MBO の導入
	実践結果	保育者が主体的に業務の課題を抽出し、質の高い保育・業務の効率化・スタッフのモチベーションアップを図った。はじめて自分自身で目標を立て推進するスタッフが多かったが、明確な目標を立て実践、園運営保育活動に貢献していった。
	次年度方向性	運営ミッションや園事業計画をクラス担当や委員会や役割、行事担当の中に組み込み、目的や目標を達成しやすくしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生活を大事に
	実践結果	<p>「光・暗闇・外遊び」・（日体大 野井教授提）で子どもの生活リズムを整える</p> <p>子ども自身の生活を安定させるためには、「子どもたちの主体的に生きる力」を子どもの内に培う必要がある。保育者は子どもたちと関わる時には、共感協働し、認め、励まし、見守り、禁止しないで、叱らないで、暖</p>

		<p>かい応答関係を作る。子どもたちの自尊感情を高め、有能感・肯定感を育てる。</p> <p>背中を見せる保育・自己研鑽を怠らない日常の創造を日々確認して研鑽した。</p>
	次年度方向性	<p>子どもの保証される権利を尊重し、子どもの気持ちに寄り添い、丁寧な保育を紡ぐ</p>
2	計画・ねらい	<p>長距離散歩・自然遊び</p>
	実践結果	<p>「自然に勝る保育者はなし」・自然という生命力あふれる事象・物に触れ、自分自身の生命力を高める。様々なものに触れ、「なぜ」や「不思議」を引き出し、その性質や仕組みに興味関心を持つ保育が行われた。</p> <p>散歩・戸外遊び：小さい自然をどれだけ感じるか・感性の育ち</p> <p>自然とのかかわりを通して、（みる、聴く、触れる、味わう、嗅ぐ）を磨き、感じる力、受け取る力、感受性、豊かな感性を育てることを意識して保育を継続した。</p> <p>・長距離散歩：「歩くこと」は健康な身体を創るばかりでなく、子どもたちの前向きな姿勢や積極性、少し困難なことがらも体験しながら、適応したり回復したりする力を身に着けている。目的やそれを達成した時の達成感や充実感を毎日体で感じ、身の処し方、人生の生き方を学ぶことを保育者が理解して保育を丁寧におこなった。</p> <p>・公共機関を使って、社会体験の場を広げる。公共の場でのマナーやルールを体験的に学ぶことを茅ヶ崎海岸や3月弘法山で実施。</p>
	次年度方向性	<p>公共機関を使って、社会体験の場を広げる。公共の場でのマナーやルールを体験的に学ぶことを継続する。</p> <p>散歩・戸外遊び：小さい自然をどれだけ感じるか・感性の育ち</p> <p>自然とのかかわりを通して、（みる、聴く、触れる、味わう、嗅ぐ）を磨き、感じる力、受け取る力、感受性、豊かな感性を育てることに意味を持って保育にかかる。</p>
3	計画・ねらい	<p>表現：生活を歌いっばいに</p>
	実践結果	<p>・保育者は次に掲げることを知って、保育園の生活を情緒的に、リズム的に進めて、子どもが持つ生体リズム（呼吸や鼓動、歩行・手足の振りなど）を整える。</p> <p>・歌は人間の魂を揺さぶり、情緒・感情を豊かにし、悲しい時も嬉しい時もその人の心情に寄り添う。子どもたちにとって、言葉で表現できることはまだ少ないが、音楽に乗って体で表現することは容易い。まだ完成されていない言語表現も良い歌詞、良い言葉を耳で聞き、感覚として、子どもたちが歌に親しんだ。</p> <p>・季節の歌をその季節に歌う ・年齢にあった歌を歌う ・身振り手振りを加えて、子どもの表現の幅を広げる ・手話で歌をうたう ・輪唱・エコーソング・合唱の取入れ、合奏を取り入れた。</p> <p>雪が降ったときには、その景色に照らし合わせながら雪の歌を歌い、子どもたちの感覚、感性を育てようとする保育が展開された。</p>

	次年度方向性	多彩な音楽や歌、楽器遊びを取り入れて、子どもたちの表現活動の幅を広げていく
--	--------	---------------------------------------

〈6〉子どもの非認知能力を育てる。

1	計画・ねらい	子ども・スタッフのソーシャルスキルトレーニング ねらい：心の知能指数「EQ」を育て、集団生活の中でのコミュニケーション能力を培い、人間力を育てる
	実践結果	子どももスタッフも中立的な関りやブレインストーミング、「気持ち」「怒りの扱い」「問題の解決」の方法を園内研修で学び、保育実践や保護者対応に取り入れ、適切な「人間力ある」「対人コミュニケーション」を図ることに役立てた。
	次年度方向性	中立的な関りやブレインストーミング、「気持ち」「怒りの扱い」「問題の解決」の方法の学びの場を継続する。
2	計画・ねらい	子どものゾーン保育・保育者のゾーン保育「混ざる」「自己決定を助け合う」
	実践結果	子どもが混ざる・環境づくり スタッフもワンチーム・クラスを超えて混ざり合う 併設園としての良さを十分に生かして、インクルーシブな保育を展開し、スタッフ全員が子どもたちを見守り、守る支援から子ども自身が選び、自己調整力を学び取る保育を意識して活動した。
	次年度方向性	大人が距離を取り見守る様々な「もの」を増設して、子ども自身の生きる力が育つことを支援する。

〈7〉地域と育つ 海老名ルーム

1	計画・ねらい	世代間交流 新型コロナウイルス感染症発生から3年が経過し、人間関係の中で最も交流が難しくなったのはシニア交流ではないか。そして、このことは乳幼児期の子どもたちの成長や将来的な思考に大きな影響を及ぼすと想像される。 ねらい：お年寄りに子どもたちの歌や声・笑顔を届けて元気になってもらう。子どもたちは自分自身が「喜ばれる存在」と分かり、張り切って生活する糧にしたり思いやりの心を育てたりする
	実践結果	・月に1回お年寄りの施設に訪問した。子どもたちが垣根なくお年寄りに親しみ、大事な存在として応答する姿が回数を重ねるごとに増えていった。思いやりの気持ちを育み、お年寄りの方との交流を心待ちにした。歓迎されることで自身の自尊感情を育てていく子どももおり、貴重な経験であった。
	次年度方向性	・月1回のシニア交流の継続 ・地域のお年寄りとの文化交流をはかる

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	10人	11人	11人	11人	3人	52人
年度後半： 10~3月	6人	10人	11人	11人	11人	4人	53人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	42 人	34 人	38 人	57 人	57 人	60 人	36 人	40 人	56 人	64人	67人	70人	621人
うち0 歳児	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	1 人	3 人	3 人	1人	3人	3人	16人

（解説）年間を通して、延長保育の利用は少なかった。後半は0歳児の利用があったが、1歳児となり安定してお迎えまでの時間を過ごすことができていた。

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修・行事進捗・研修報告・個別ケース会議 ・課題の検討・安全対策
給食運営会議	月1回	献立の振り返りと喫食状況の確認・食育・クッキング・行事メ ニュー・保護者支援と発信・保育者との連携・環境への活動 (地産地消・残食削減など)・畑仕事との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と共有・事故情報の共有 と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有と保育方法の確認・検討 気になる子の情報共有と保育方法の確認・検討
昼礼会議・担任会議	週1回	指導計画案・週案・行事・子どもの様子・共有事項確認・他
朝礼	日1回	一日の確認(保育・行事)・子どもの様子・体調確認・来客確 認・アレルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤するスタッフのためにシッターノートに網羅する

〈2〉出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年5回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡 施設 の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理 感染症予防 対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危機管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検管理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト 帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的実施
食品衛生管理係	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 関連機関との連絡・調整 子どもとスタッフの畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信
生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
環境整備・備品係	美観・保護者がいつ見ても気持ちが良い施設 園内外の環境整備：子どもの生体リズムを整える環境づくり 室内に自然を取り込む、くつろげる環境設定
内監プロジェクト	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進
地域係	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務と広報係

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 懇親を図る 地域サービスとしての位置づけをする
スキル講座係	法人内・地域の子育て支援の企画と開催

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活について ・園での友達関係について ・発達について ・就学に向けての保育とご家庭との連携
保育参加	<p>4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3家庭の参加があり、園での子どもの様子を観ていただいた。方法や日時の選択の仕方やカレンダーの活用法など、各ご家庭への丁寧な案内をして、次年度につなげる。
保護者面談および発達相談	<p>4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒園面談、発達相談を含む

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする(3大食育方針)・空腹感を感じ、食べたい時や場所、ひと、食べたいものをたべたいだけ、子ども自身で選択する環境を作る
	実践結果	<p>日々の給食での積極的な参加・関り</p> <p>調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事の楽しさを分かち合い、かかわった。(3大食育方針)</p> <p>安心して心地よい雰囲気づくり・適温給食・他者との関りから学ぶことを知る・繰り返しから知る自己コントロールを学ぶ</p> <p>身近な大人や友達を模倣したり教わったりして食事のマナーや食具の正しい使い方を知る</p> <p>散歩・畑での労働・戸外活動で空腹を得る環境を作った</p>
	次年度方向性	給食残渣を、午前中の戸外活動や畑仕事の労働で、空腹になり、食事を心待ちにする日常を意識していく
2	計画・ねらい	<p>畑仕事と食育活動の連携</p> <p>畑で育った作物を食する過程を知り、おいしく食べ、自然(日光・水・温度・土・大気)の恵みに感謝し、お世話の大切さを知る</p>

	実践結果	年間計画による畑活動・クッキング・野外炊飯を実施した。
	次年度方向性	畑仕事を計画的に推進して、食育活動やちきんえっぐとの連動を図る。子どもの生活が点ではなく、意図された連続性や流れの中にあることを意識して保育を作る。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験
	実践結果	「リボベジ」・リボンベジタブル（再生野菜）の体験 保育者は子どもに真に体験させたいことを考えて、実践に移す。 ・魚の捌く、手で開く → イワシ、豆アジ を給食で頂く 調理と保育者の連携・ ・苗植えから収穫・余すことなく使い切るプロジェクト サツマイモなど一年を通して栽培する、葉や茎も食べる、蔓を燃料にする、製作に使うなど プロジェクト保育として、子どもの発案・意見から展開する保育を意識して実施した。
	次年度方向性	命をいただく体験を取り入れる
4	計画・ねらい	子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成する
	実践結果	幼児は5月から、あずき組も夏から段階的にバイキング給食に移行して、子どもたちが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」環境構成をつくった。陶器の茶碗や皿が割れる回数が多かったので、物の扱いが丁寧に行えることやスタッフの見守りの方法をさらに検討する
	次年度方向性	給食が子ども自身だけでなく、大きい子どもが小さい子どもへの給仕やとりわけ等を生活の中に自然に組み込まれていく取り組みを仕組む。 食器の破損の低減を図る
5	計画・ねらい	「今日の食材・産地」の発信
	実践結果	SDGs の観点から：「地産地消」「身土不二」「一物全体」「輸入品のマイル問題：添加物・防腐剤」を調理室から食育活動時に子どもたちに伝えていった。 食材産地をしめすボードづくりは時期限定になったので、子どもたちに食べることを強めるために継続したい。 食育活動は日々のタイムラインやポートフォリオでご家庭に発信することを意識して実施した。
	次年度方向性	「今日の食材・産地」の発信のみでなく、子どもの食に関わる発信を工夫して計画的に定期的にする（食育計画に記載）

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	5月15・16日／12月1日に実施
歯科検診	6月6日に園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ① 4名月14日に幼児室にて「手洗い指導」を実施 ② 6月2日に幼児室にて「歯を磨こう」を実施 ③ 7月1日に幼児室にて「水遊びを安全にする」を実施 ④ 10月16日幼児室にて「からだに仕組みについて知る」実施 ⑤ 12月1日幼児室にて「咳エチケット、健康に過ごす」実施 ⑥ 1月5日幼児室にて「幼児期の性教育」実施
流行した感染症	報告必要な感染症の流行なし
発作・痙攣等の対応	熱性けいれん計1名に対し、6月23日に救急車要請
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月20日にキックオフ会場にてアレルギー・エピペン研修をスタッフ計18名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、16名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・3月20日にキックオフ会場にてアレルギー・エピペン研修をスタッフ計18名が新たに受講し習得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月1日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／5月15・16日、12月1日 歯科健診 各年1回／6月6日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中の乳児2時間半、幼児3時間の戸外活動を毎日展開する。雨の日や風の日も安全に配慮しながら、戸外に出て、危険を回避する身の処し方や不便な日も快適に過ごす方法を実体験の中から学んでいく。 ・春夏秋冬の季節の移り変わりを肌で感じ、暑さから身を守ること、寒くても楽しく遊ぶ方法を体験的に学び、身体を育て、心を育てる環境づくりに努める。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・9時出発 ・畑仕事 ・草花遊び ・土手滑り ・川遊び ・樹木のある公園へ行くなど、自然や自然物と関わる毎日を考えて保育活動とする。 自然は一日として、同じ日ではないことを念頭に置いて、保育者自身も五感を働かせて、子どもと共に自然から学ぶ
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・春夏秋冬の季節の移り変わりを肌で感じ、暑さから身を守ること、寒くても楽しく遊ぶ方法を体験的に学び、身体を育て、心を育てる環境づくりに努める。

2	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」ことができる
	実践結果	ゾーン保育 異年齢の関りと活動 コーナー保育と環境設定←重点項目 日常の散歩活動 自然との関り：「子どもに必要な環境」「子どもが自ら選択し、主体的に行動できる環境」作りを保育者は遊びこむ子どもの姿を通して研鑽・試行錯誤して整える教材や遊具はプラスチックなどの石油製品を避け、自然物や本物の素材を提供し、子どもの感性や感覚を養い、工夫された教材や遊びを感じ取り、子どもたちは自分の気持ちや考え、友達に与える影響を考えながら試行錯誤する。保育者はその機会を保障する。
	次年度方向性	子どもがすぐに手に取れる様々な教材を用意し、子どもが選ぶ、好きを保障される保育の構築を図る
3	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちの良い施設・子どもの安全な動線が守られ、不要な危険が排除された空間づくり ・意識的な空間づくりをして、信頼される安心される「選ばれる園づくり」につなげる
	実践結果	衛生管理点検表や内部監査資料を基に、整理整頓や清掃状況の確認をする。：清掃点検表を作成して、もれなく行う。 保育者は足元に見える小さなごみをも自分事として拾い、細やかな気配りができる存在となる。また、ひとが嫌がることへも率先して取り組むことができる保育者集団となり、子どもの前に立つ。
	次年度方向性	大人が背中を見せ、整理整頓を心がけて、小さいことにも気にかけて体を動かすことができる、気働きができる習慣を作っていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

3/1現在 安全点検有する手作り遊具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止実践結果	事故の予防：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 見失い・置き去り概念の学び 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール、水の事故防止策 散歩引率など ・子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯実践結果	・安全対策係が計画立案・実施 ・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全スタッフで共有し実施する ・子どもへの安全教育の定期的な実施

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく。 ・ 広域避難場所：海老名小学校（保護者会で安全計画とともに周知した）
3	光化学スモッグ 実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体からの情報で判断、活動を加減する。 ・ 自治体からの情報を正確に得る。 ・ 子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題意識の芽生えにつなげた
4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルP. 6の確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止 実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の気づきの共有（保育者間で）と報告（施設長） 子どもの様子・玩具・遊具・屋上・公園・戸外移動時・保育者の保育、関わりと引率 ・ ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化や人的要素を敏感にキャッチして、書き込み・更新、更新日時を記録し、リスクマネジメントを図った
6	ハザードづくり 実践結果	・ 室内 ビル共用部 戸外・散歩コースのハザードマップの完備 ハザードマップ管理表で定期的な見直しを図った（4.7.10.1月）
7	苦情・ご意見対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 <p>保護者様のご意見を真摯に聴き（訊き）受け取った保育者はどのようなことにでも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とし取り組んだ。保育内容についての問い合わせは法人の理念やねらいをご説明しご理解を仰いだ。不足多くあり、次年度の課題とする。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

2023年度は実習生・中高生の受け入れはなし。次年度から受け入れ開始予定である。

〈2〉実習生の受入

2023年度受け入れなし

〈3〉中高生の受入

2023年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 17名	19日 17名	9日 17名	14日 16名	18日 20名	8日 21名	13日 19名	10日 18名	8日 18名	12日 18名	9日 18名	3日 18名
園内研修	14日 17名	19日 17名	9日 17名	14日 16名	18日 20名	8日 21名	13日 14名	10日 18名	8日 16名	12日 19名	9日 18名	3日 18名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月28日	園長大学®保育士大学	手話講座	13名	有
11月13日	園長大学®保育士大学	インクルーシブ保育研修	1名	有
11月17日	園長大学®保育士大学	ビジネスマナー研修	1名	有
12月1日	園長大学®保育士大学	子どもから学ぶインクルーシブ保育	1名	有
1月23日	杉久保小学校 海老名市教育委員会	海老名市杉久保小学校 ひびきあう教育研究発表会	3名	有
2月2日	社家小学校 海老名市教育委員会	海老名市杉久保小学校 ひびきあう教育研究発表会	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	10日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	年4回: 4/20 7/6 10/5 1/11 1名(主任保育士)が出席											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた保育園としてのPR活動をしながら、だれもが気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努め、子育て支援の拠点となることを目指して活動を進めた。園に通って下さるご家庭が増えてきており、地域の子育て世帯が子育てしやすくなり、子どもの健やかな育ちを共有できる園づくりの基盤を作っていった。自由に園を利用していただきながら、海老名ルームの保育に興味関心を持っていただき、地域に親しまれる園づくりを今後も展開していく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：海老名中央公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：フルールメサージュ、ロピア鮮魚、ロピア青果、海老名警察署、駅前交番、介護あれこれ広場、地球のステージ、小田急線、ロピア精肉、郵便局、クロネコヤマト、レンブレントホテル、FMカオン、JAさがみ、水道局、ノジマ、図書館、消防署
世代間交流	7月27日に海老名中学校にて交流会予定・先方のご都合で延期の上中止
異世代交流	10月5日に中央農業高校にて交流会予定・先方のご都合で中止
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施 武の湯

9. 小学校との子ども間交流・スタッフ間交流

〈1〉今年度の振り返り

就学へのアプローチカリキュラムを計画し、就学前に必要な経験や身につけておきたい生活習慣「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を確認しながら、1年間の保育活動を実施した。初年度のため、各学校へは電話でアポイントを取りながら、小学校見学や教スタッフ同士の交流、学習指導要領に基づいた研究授業に参加し、小学校を知って、園で必要なことは何かを把握して保育におろし、小学校へのスムーズな接遇に繋がるよう努力した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月23日	杉久保小学校 1年生	3名	国語授業参観 事例研究会・情報交換 （1年生クラス）	スタッフ間交流
2月2日	社家小学校 1年生	2名	国語授業参観 事例研究会・情報交換 （1年生クラス）	スタッフ間交流
2月20日	海老名小学校 1年生クラス他	子ども 9名	校長先生による学校案内	子ども間スタッフ間交流
2月20日	大谷小学校 3年生	9名	音楽 歓迎の歌	子ども間交流
3月4日	上星小学校 1年生各教室	4名	交流会 「ドキドキ☆なかよし ランド」	子ども間交流
3月5日	今泉小学校 1年生	4名	交流会	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

・受給者証の有無にかかわらず、前期6名、後期7名の支援計画を作成し、全スタッフの共有事項とした。要支援児含む子どもたちを混ぜて育て、「生きる力」を育てることを目的とした。
守る支援分ける・制限する・指定する支援をやめ、大人が距離をとることにより、けんかやトラブルを含む様々な子ども間での体験を十二分に体験し、経験を選び取って、好き・得意を選び取り、自分で人生を歩むための支援を見直しつつある。
スタッフ間の認識や調整力をステップアップしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：延べ102名

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

1月 希望制で卒園面談を行う。保護者様とお子様の育ちと小学校への準備を確認し、子ども自身の円滑な接続の支援をした。

年明け卒園児4名が入学する学校への訪問を開始した。

2月20日 海老名小学校、大谷小学校訪問・学校内見学等

3月4日 上屋小学校交流会

3月5日 今泉小学校交流会

2月20日 保育所児童保育要録を小学校に送付し、入学にあたって児童の申し送りを各小学校と連携しておこなった。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
名	20名	17名	50名	26名	23名	335名	57名	37名	21名	18名	50名	654名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	10名	0名	6名	16名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計11回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	6名	10名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：海老名中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	6名	4名	2名	0名	0名	5名	0名	0名	2名	2名	5名	28名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：14時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：松澤ひろみ、佐藤理沙、加藤明香、湯浅碧

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

・保護者様の満足度が高かった項目は「スタッフの気持ちの良い挨拶」「スタッフからお子さまへの言葉かけは分かりやすく適切か」「園の整理整頓状況、お子さまが活動するにあたり安全な環境か」「ご利用中の保育園を他の方に勧めたいか」で、「非常にそう思う」の値が高かった。一方で、「スタッフ同士の情報共有は適切に行われているか」との問いでは、7件のご家庭から不満との声があがった。

改善点をスタッフ間で話し合い、ご意見から次のような取り組みを図った。

商店街ツアーなど予定変更の案内を明確にしたり、スタッフ間の伝達がスムーズにいくフローを作り、引き継ぎミスの低減を図ったりした。

夏の活動・戸外活動については熱中症対策や子どもの負担などを十分考慮し実施の予定、夏場に製作など表現活動を入れこむなど、年間で子どもたちに経験させたい活動を網羅していく。

次年度も利用される方の立場に立ち、感謝の気持ちをもって接遇と活動などの分かりやすい説明に努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

・報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

・報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 海老名ルーム 施設長 松澤ひろみ

2023年度 香取台どろんこ保育園 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます」を軸に、だれもが自由に行き来できる“大きな家”となり、一人ひとりが尊重され認め合える風土の醸成を目指してきた。香取台どろんこ保育園・つむぎ香取台ルーム・つむぎ香取台放課後デイサービス・香取台どろんこ学童の4施設、隣接園として開園7年目を迎える万博公園どろんこ保育園を含め、共に連携を取りながら互いに学び続ける中で、インクルーシブ保育を一步一步実践し積み重ねている日々である。

職員一人一人が子どもたち一人一人と、そして大人同士も互いに向き合いながら日々の生活を過ごし、真のインクルーシブ保育とは何かを模索してきた。そこから学んだものを明日の保育に生かし、さらに進化していけるよう研鑽し次年度に繋げていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	“にんげん力”の礎となる心情・意欲・態度を育てていく
	実践結果	子ども自身が自らやってみて体験する中で、物事の判断や周りの状況に気づくことができるように援助していった。 子ども同士が複数で一つの活動に向かっていく中においては、主張や譲歩折衷など意見のぶつかり合いを通して関係性を深めながら、共通の目的を実現する経験を重ねていった。
	次年度方向性	人的環境・物的環境を整え、子どもたちの経験が保証されるよう、見守りの姿勢を職員間で徹底していく。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、自発的・意欲的に関われる環境を作っていく。
	実践結果	整理整頓を心掛け、子どもたちに必要なものは何か、必要なことは何かを見極めていった。
	次年度方向性	継続して何が必要かを見極める。職員同士で意見交換が活発にできる場やタイミングを意識し、できるだけ多くの機会を持つ。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の立案を行っていく。
	実践結果	発達状態を理解し、0歳児から就学までに必要な経験・環境の充実を図っていく。常に進化させながら、より良い経験・環境の場を提供していった。
	次年度方向性	引き続き発達の理解、必要な経験・環境の充実を図っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の視点に立ち、保育園として保護者に寄り添った細やかな支援を行う。
---	--------	-------------------------------------

	実践結果	保護者・来訪者への丁寧な対応（接遇） 保護者会・個別面談等
	次年度方向性	個別面談・相談等
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝え、育ちを共に喜び協力し合っていく。
	実践結果	3分間対応を通してのコミュニケーション、タイムライン、連絡帳等での日々の細やかな情報共有及びポートフォリオ等子どもの姿の記録と共有。
	次年度方向性	送迎時の対応の質上げ徹底
3	計画・ねらい	いつ来ても、どこを見ても気持ちの良い施設を作る。
	実践結果	整理整頓の徹底。美観を保つシステムの構築。
	次年度方向性	美観を保つためのシステム再構築

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとっての輪の入り口となる。
	実践結果	青空保育、自然食堂、寺親屋、芸術学校などを通して、地域の子どもたち同士・子育て家庭同士が繋がる機会を提供する。
	次年度方向性	子育て家庭同士が繋がる機会の提供。
2	計画・ねらい	園と家庭、地域とがつながりを深め、子育て支援拠点としての役割を担う。
	実践結果	子育て等に関する相談や援助。 地域集会所、店舗などへのアナウンス、商店街ツアー、職場体験や実習生の受け入れを通しての交流の様子、スキル講座の内容など活動の発信を継続的に行っていく。
	次年度方向性	園に集う子育て世代同士の橋渡し、子育て等に関する相談や援助。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもたちに関わる全てのスタッフが、互いを知り同僚性を育てていく。
	実践結果	個々のスキルを含め、好きなこと・得意なこと・見習いたいことを先輩や同僚から吸収し、互いに『気づき』合う、『育ち』合う集団として成長していく。
	次年度方向性	職員それぞれのスキル、互いのスキルを共有し合うことで「育ちあう」を実践していく。
2	計画・ねらい	個々のスキルを磨き、保育の中で活かしていく。
	実践結果	職員一人一人が自分の強み、得意な分野を認識する。 日々の保育の中でそれを活かしていけるよう、スキルアップしていく。
	次年度方向性	自己認識を深め、日々の保育の中でそれを活かしていけるよう、スキルアップしていく。

3	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP
	実践結果	学び続ける文化の醸成 学んだことを施設内・課内・部内・法人内で研修企画をし、アウトプットし自己変革につなぐ。
	次年度方向性	引き続き、学び続ける文化の醸成 新しい職員にもその姿勢を共有していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践
	実践結果	糞・ゴミの堆肥化、日課としての田・畑仕事、食材の加工、命をいただく（捌く・解体する）等の体験を通して食の循環・環境への意識を身に付ける。
	次年度方向性	環境への意識を育む環境保育の実践に力を入れていく。
2	計画・ねらい	研究学園都市「つくば」の様々な地域環境を活用し、あそびや体験に繋げていく。
	実践結果	自然から科学まで、あらゆる分野での機関が集中する「つくば」ならではの環境を活かし、子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていく。
	次年度方向性	地域環境を資源として活用し、興味関心の後押しをしていく。
3	計画・ねらい	3大食育方針を推進し、その記録を社外に広報する。
	実践結果	子どもが自分でできることを自分でするなど、子どもの意欲を育てる食事環境を設定する。 ブログ・インスタグラムで活動の様子を伝え、地域に伝えていく。
	次年度方向性	自分でできることを自分でするなど、子どもの意欲を育てる食事環境を設定していく。子どもの動線、職員の動線を都度都度整理し、発達段階にあった食事提供の仕方を共有していく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	チームとして、園全体の協力の輪を繋げていく。
	実践結果	自ら進んで取り組む姿勢を持つ。風通しの良い人間関係作りを心掛け、全体の中での自身の動きを見据えつつ、「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
	次年度方向性	2年目の香取台として更に「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
2	計画・ねらい	職員同士互いを認め合い、大人もインクルーシブの意識を持つ。

実践結果	それぞれのタレントを活かし、大人もインクルーシブの意識の中で育ちあっていく。
次年度方向性	職員同士互いに理解し合い、大人も子どももインクルーシブの意識の中で育ちあう

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	36人	88人	90人	108人	108人	66人	496人
年度後半： 10~3月	36人	89人	90人	107人	108人	71人	501人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	84人	116 人	133 人	125 人	144 人	98人	132 人	115 人	104 人	88人	85人	100 人	1324 人
うち0 歳児	9人	9人	19人	19人	13人	13人	20人	19人	19人	17人	18人	18 人	193人

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1	調理		事務	
	用務	1人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・研修報告、共有事項、活動の振り返り ・園内研修
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
クラス会議	週1回	翌週の活動計画、より良い保育をするための子どもへの関わり、配慮の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長

食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態の管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生管理係	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら準備・活動を共に進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援「ちきんえっぐ」開催

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の中での発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ・自信をもって自己表現する ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けあいながら自分たちで問題を解決し、相手の思いに気づくことができるようになる
保育参加	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	意欲的に食べられる子どもとなる
	実践結果	「お腹がすくまで遊ぶ」「美味しく楽しく食事をとる」「旬を味わう」「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食も全て手作りのものを提供していった。
	次年度方向性	上記5点は、引き続きの重点目標とし、年間計画にも組み込んでいく。
2	計画・ねらい	食への関心を広げる 食の循環を知る
	実践結果	子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる 素材の味を味わえる状態で提供する 自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く、解体する）体験を通して自然の恵み・命の大切さに気付く 行事食・郷土食などと触れ合い、伝統文化を知った
	次年度方向性	食の循環を知るという点では、次年度はぜひ自園で捌く体験をし、子どもたちと自然の恵み・命の大切さを考えていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月21日に実施
歯科検診	6月23日／11月17日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月14日に性教育を実施 ② 1月13日に食事指導実施 ③ 3月に手洗い指導を実施
流行した感染症	2月にインフルエンザ、園児19名感染報告あり。2月26日に終息
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月28日に香取台どろんこ保育園にてスタッフ名27名（保育園スタッフ19名、学童スタッフ名2名、つむぎスタッフ6名計27名）が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、15名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	・6月17日・24日に香取台どろんこ保育園にて救命救急講習をスタッフ13名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月20日、11月21日 歯科健診 各年2回／6月23日、11月17日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月13日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが安心できる環境を作る
	実践結果	安全を基本に、物的環境・社会環境・人的環境を整えていった。子どもたちが必要とする環境（例えば思い切り身体を動かせる広さ、教材や素材のストック、自然との触れ合い、子どもにとっての安心基地がある、安心基地となる等）を職員間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持つよう心掛けた。
	次年度方向性	引き続き物的環境・社会環境・人的環境を整えていく。子どもたちが必要とする環境を職員間でしっかりすり合わせ、深め、共通認識を持つよう心掛けていく。
2	計画・ねらい	創造的で自由に発展させられる環境を作る
	実践結果	一つの事象に対し、それがどう発展させられるか保育者自身が想像し、あらゆる角度から準備を進めていく。子どもたちと一緒に楽しみつつ、子どもたちの目線に立ちながら環境をアップデートしていく。また、その角度を広げるための研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図る。
	次年度方向性	発達段階、時期等考慮しながらゾーンを設定していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			
2				
3				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	<p>〈ケガ事故防止〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従った。</p>
2	実践結果	<p>〈防災〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行った。</p>
3	実践結果	<p>〈防犯〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行った。</p>
4	実践結果	<p>〈光化学スモッグ〉</p> <p>発令なし。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

初年度のため、実習数は少なかったが、エリアを広げ受け入れのアナウンスをしていく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月17～2月5日	大泉福祉専門学校	1人	部分実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 18名	18日 18名	14日 19名	13日 19名	10日 20名	14日 20名	19日 20名	9日 20名	14日 20名	15日 21名	21日 21名	21日 21名
園内研修	13日 18名	18日 18名	14日 19名	13日 19名	10日 20名	14日 20名	19日 20名	9日 20名	14日 20名	15日 21名	21日 21名	21日 21名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月23日	園長大学®保育士大学	保育所におけるセルフ防災研修	2名	有
2月27日	つくば市	幼保小連携・接続のための研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	21日 1名	20日 1名	22日 1名	20日 1名	15日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	21日 1名	20日 1名	22日 1名	20日 1名	15日 1名	21日 1名	21日 1名
主任・ミドル会議	20日 3名	11日 3名	22日 3名	20日 3名	24日 3名	21日 3名	19日 3名	21日 3名	21日 3名	18日 3名	22日 3名	22日 3名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の拠り所となるべく、交流の機会を増やし関係性を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：諏訪公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行先：セブンイレブン・万博記念公園駅・幸楽園・カフェバーディー・無印良品の家・ダイソー・沙紀バレエスタジオ・カスミ・アパホテル・アーデン音楽館・アート引っ越しセンター・日本測量協会測量技術センター・パワーコメリ・軽自動車検査協会・理想科学工業等
世代間交流	1月19日に香取台どろんこ保育園にてどんど焼きを実施
異年齢交流	12月1日か香取台小学校にて「あきのテーマパーク」実施
その他活動	11月9日に守谷どろんこ保育園にて合同収穫祭を実施
	7月12日に自園にて筑波大学ラグビー部と交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

開校した香取台小学校へのアプローチを開始。引き続き島名小学校等とも交流を深めながらエリアで連携をとっていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月30日	高山学園幼保小連絡会	2名	香取台小学校	職員間交流
9月19日	香取台小学校1年	3名	授業参観	交流
11月1日	香取台小学校	15名	運動会見学	見学
12月1日	香取台小学校1年	16名	「秋のテーマパーク」 1年生との交流	子ども間交流

2月14日	香取台小学校 1年	14名	体験授業	子ども間交流
-------	--------------	-----	------	--------

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の立案をもとに、職員間での共有と理解、配慮事項等のすり合わせなど行っていった。また、保護者との相互理解に努め、面談や情報の共有等支援を行っていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

- ・4～3月に計12回開催 参加者：園会議出席者
上記〈1〉の共有と、日常的な情報交換を心掛け質上げに繋げていく。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各担当に引き継ぐとともに、保育士・専門士すべての職員がかかわる意識を持てるよう研鑽していく。小学校へ配慮事項等丁寧に引き継いでいく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	8名	11名	183名	5名	14名	54名	29名	14名	2名	21名	15名	356名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	5名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	2名	6名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施												

	門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：諏訪公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	4名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	12名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年12月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時30分

自己評価実施者：篠崎理恵、入田鈴華、武笠杏奈、鈴木由美、瀧本美咲、横田亜矢子・橋本佳子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：92%

園の保育方針を理解され、協力的な回答が多かった。思いきり遊びたくさん食べる、子どもたちに真に必要な経験は何かを見極め望む声が多数上がった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：香取台どろんこ保育園 施設長 篠崎 理恵

2023年度 香取台どろんこ学童 事業報告書

(保育所における自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます」を軸に、だれもが自由に行き来できる“大きな家”となり、一人ひとりが尊重され認め合える風土の醸成を目指してきた。香取台どろんこ保育園・つむぎ香取台ルーム・つむぎ香取台放課後デイサービス・香取台どろんこ学童の4施設、隣接園として開園7年目を迎える万博公園どろんこ保育園を含め、共に連携を取りながら互いに学び続ける中で、インクルーシブ保育を一步一步実践し積み重ねている日々である。

職員一人一人が子どもたち一人一人と、そして大人同士も互いに向き合いながら日々の生活を過ごし、真のインクルーシブ保育とは何かを模索してきた。そこから学んだものを明日の保育に生かし、さらに進化していけるよう研鑽し次年度に繋げていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	“にんげん力”の礎となる心情・意欲・態度を育てていく
	実践結果	子ども自身が自らやってみて体験する中で、物事の判断や周りの状況に気づくことができるように援助していった。 子ども同士が複数で一つの活動に向かっていく中においては、主張や譲歩折衷など意見のぶつかり合いを通して関係性を深めながら、共通の目的を実現する経験を重ねていった。
	次年度方向性	人的環境・物的環境を整え、子どもたちの経験が保障されるよう、見守りの姿勢を職員間で徹底していく。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、自発的・意欲的に関われる環境を作っていく。
	実践結果	整理整頓を心掛け、子どもたちに必要なものは何か、必要なことは何かを見極めていった。
	次年度方向性	継続して何が必要かを見極める。職員同士で意見交換が活発にできる場やタイミングを意識し、できるだけ多くの機会を持つ。

〈2〉学童を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の視点に立ち、学童として保護者に寄り添った細やかな支援を行う。
	実践結果	保護者・来訪者への丁寧な対応（接遇） 保護者会・個別面談等
	次年度方向性	個別面談・相談等検討
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝え、育ちを共に喜び協力し合っていく。

	実践結果	3分間対応を通してのコミュニケーション、日々の細やかな情報共有及びポートフォリオ等子どもの姿の記録と共有。
	次年度方向性	送迎時の対応の質上げ徹底
3	計画・ねらい	いつ来ても、どこを見ても気持ちの良い施設を作る。
	実践結果	整理整頓の徹底。美観を保つシステムの構築。
	次年度方向性	美観を保つためのシステム再構築

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとっての輪の入り口となる。
	実践結果	保育園とともに青空保育、自然食堂、寺親屋、芸術学校などを通して、地域の子どもたち同士・子育て家庭同士が繋がる機会を提供する。
	次年度方向性	保育園とともに子育て家庭同士が繋がる機会の提供。
2	計画・ねらい	学度と家庭、地域とがつながりを深め、子育て支援拠点としての役割を担う。
	実践結果	子育て等に関する相談や援助。 地域集会所、店舗などへのアナウンス、商店街ツアー、職場体験や実習生の受け入れを通しての交流の様子、スキル講座の内容など活動の発信を継続的に行っていく。
	次年度方向性	学童に集う子育て世代同士の橋渡し、子育て等に関する相談や援助。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもたちに関わる全てのスタッフが、互いを知り同僚性を育てていく。
	実践結果	個々のスキルを含め、好きなこと・得意なこと・見習いたいことを先輩や同僚から吸収し、互いに『気づき』合う、『育ち』合う集団として成長していく。
	次年度方向性	職員それぞれのスキル、互いのスキルを共有し合うことで「育ちあう」を実践していく。
2	計画・ねらい	個々のスキルを磨き、保育の中で活かしていく。
	実践結果	職員一人一人が自分の強み、得意な分野を認識する。 日々の保育の中でそれを活かしていけるよう、スキルアップしていく。
	次年度方向性	自己認識を深め、日々の保育の中でそれを活かしていけるよう、スキルアップしていく。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP
	実践結果	学び続ける文化の醸成 学んだことを施設内・課内・部内・法人内で研修企画をし、アウトプットし自己変革につなぐ。
	次年度方向性	引き続き、学び続ける文化の醸成 新しい職員にもその姿勢を共有していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践
	実践結果	糞・ゴミの堆肥化、日課としての田・畑仕事、食材の加工、命をいただく（捌く・解体する）等の体験を通して食の循環・環境への意識を身に付ける。
	次年度方向性	環境への意識を育む環境保育の実践に力を入れていく。
2	計画・ねらい	研究学園都市「つくば」の様々な地域環境を活用し、あそびや体験に繋げていく。
	実践結果	自然から科学まで、あらゆる分野での機関が集中する「つくば」ならではの環境を活かし、子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていく。
	次年度方向性	地域環境を資源として活用し、興味関心の後押しをしていく。
3	計画・ねらい	3大食育方針を推進し、その記録を社外に広報する。
	実践結果	子どもが自分でできることを自分でするなど、子どもの意欲を育てる食事環境を設定する。 ブログ・インスタグラムで活動の様子を伝え、地域に伝えていく。
	次年度方向性	自分でできることを自分でするなど、子どもの意欲を育てる食事環境を設定していく。子どもの動線、職員の動線を都度整理し、発達段階にあった食事提供の仕方を共有していく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	チームとして、園全体の協力の輪を繋げていく。
	実践結果	自ら進んで取り組む姿勢を持つ。風通しの良い人間関係作りを心掛け、全体の中での自身の動きを見据えつつ、「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
	次年度方向性	2年目の香取台として更に「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
2	計画・ねらい	職員同士互いを認め合い、大人もインクルーシブの意識を持つ。
	実践結果	それぞれのタレントを活かし、大人もインクルーシブの意識の中で育ちあっていく。
	次年度方向性	職員同士互いに理解し合い、大人も子どももインクルーシブの意識の中で育ちあう

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

月極利用児童受託状況（保育園・延べ人数）

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	合計
年度前半： 4~9月	26人	11人	0人	16人	4人	0人	57人
年度後半： 10~3月	12人	6人	0人	12人	0人	0人	30人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	人	人	人	人	人	人	人	人	人	0人	0人	0人	人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	3人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	0人
	事務	0人						
パート スタッフ	保育士	0人	補助	1	調理		事務	
	用務	0人						

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・研修報告、共有事項、活動の振り返り ・園内研修
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
クラス会議	週1回	翌週の活動計画、より良い保育をするための子どもへの関わり、配慮の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議 ／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会 ／法人本部	月1回	施設長
食育会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議 ／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	年12回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態の管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生管理係	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら準備・活動を共に進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援「ちきんえっぐ」開催

4. 保育支援

〈1〉 保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の中での発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ・自信をもって自己表現する ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けあいながら自分たちで問題を解決し、相手の思いに気づくことができるようになる
保育参加	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計9名 が参加済み (3月1日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	意欲的に食べられる子どもとなる
	実践結果	「お腹がすくまで遊ぶ」「美味しく楽しく食事をとる」「旬を味わう」 「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食も全て手作りのものを提供していった。
	次年度方向性	上記5点は、引き続きの重点目標とし、年間計画にも組み込んでいく。
2	計画・ねらい	食への関心を広げる 食の循環を知る
	実践結果	子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる 素材の味を味わえる状態で提供する 自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く、解体する）体験を通して 自然の恵み・命の大切さに気付く 行事食・郷土食などと触れ合い、伝統文化を知った
	次年度方向性	食の循環を知るという点では、次年度はぜひ自園で捌く体験をし、子どもたちと自然の恵み・命の大切さを考えていきたい。

〈4〉 保健に関する実施結果（保育園）

実施項目	詳細
園児健康診断	6月20日／11月21日に実施
歯科検診	6月23日／11月17日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 12月14日に性教育を実施 ② 1月13日に食事指導実施 ③ 3月に手洗い指導を実施
流行した感染症	2月にインフルエンザ、園児19名感染報告あり。2月26日に終息
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月28日に香取台どろんこ保育園にてスタッフ名27名（保育園スタッフ19名、学童スタッフ名2名、つむぎスタッフ6名計27名）が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、15名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・6月17日・24日に香取台どろんこ保育園にて救命救急講習をスタッフ13名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ18名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月20日、11月21日 歯科健診 各年2回／6月23日、11月17日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月13日、10月19日に実施済み

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが安心できる環境を作る
	実践結果	安全を基本に、物的環境・社会環境・人的環境を整えていった。子どもたちが必要とする環境（例えば思い切り身体を動かせる広さ、教材や素材のストック、自然との触れ合い、子どもにとっての安心基地がある、安心基地となる等）を職員間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持つよう心掛けた。
	次年度方向性	引き続き物的環境・社会環境・人的環境を整えていく。子どもたちが必要とする環境を職員間でしっかりとすり合わせ、深め、共通認識を持つよう心掛けていく。
2	計画・ねらい	創造的で自由に発展させられる環境を作る
	実践結果	一つの事象に対し、それがどう発展させられるか保育者自身が想像し、あらゆる角度から準備を進めていく。子どもたちと一緒に楽しみつつ、子どもたちの目線に立ちながら環境をアップデートしていく。また、その角度を広げるための研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図る。
	次年度方向性	発達段階、時期等考慮しながらゾーンを設定していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			
2				
3				

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従った。
2	実践結果	〈防災〉 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報

		運用を行った。
3	実践結果	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行った。
4	実践結果	〈光化学スモッグ〉 発令なし。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

初年度のため、実習数は少なかったが、エリアを広げ受け入れのアナウンスをしていく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月17～2月5日	大泉福祉専門学校	1人	部分実習

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 3名	18日 3名	14日 3名	13日 3名	10日 3名	14日 3名	19日 4名	9日 4名	14日 4名	15日 4名	21日 4名	21日 4名
園内研修	13日 3名	18日 3名	14日 3名	13日 3名	10日 3名	14日 3名	19日 4名	9日 4名	14日 4名	15日 4名	21日 4名	21日 4名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月23日	園長大学®保育士大学	保育所におけるセルフ防災研修	2名	有

2月27日	つくば市	幼保小連携・接続のための研修	1名	有
-------	------	----------------	----	---

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	21日 1名	20日 1名	22日 1名	20日 1名	15日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	20日 1名	19日 1名	22日 1名	21日 1名	20日 1名	22日 1名	20日 1名	15日 1名	21日 1名	21日 1名
主任・ミドル会議	20日 3名	11日 3名	22日 3名	20日 3名	24日 3名	21日 3名	19日 3名	21日 3名	21日 3名	18日 3名	22日 3名	22日 3名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施(全スタッフ対象)											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の拠り所となるべく、交流の機会を増やし関係性を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名: 諏訪公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行先: セブンイレブン・万博記念公園駅・幸楽園・カフェバーディー・無印良品の家・ダイソー・沙紀バレエスタジオ・カスミ・アパホテル・アーデン音楽館・アート引っ越しセンター・日本測量協会測量技術センター・パワーコメリ・軽自動車検査協会・理想科学工業等
世代間交流	1月19日に香取台どろんこ保育園にてどんど焼きを実施
異年齢交流	12月1日か香取台小学校にて「あきのテーマパーク」実施

その他活動	11月9日に守谷どろんこ保育園にて合同収穫祭を実施
	7月12日に自園にて筑波大学ラグビー部と交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

開校した香取台小学校へのアプローチを開始。引き続き島名小学校等とも交流を深めながらエリアで連携をとっていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月30日	高山学園幼保小連絡会	2名	香取台小学校	職員間交流
9月19日	香取台小学校1年	3名	授業参観	交流
11月1日	香取台小学校	15名	運動会見学	見学
12月1日	香取台小学校1年	16名	「秋のテーマパーク」 1年生との交流	子ども間交流
2月14日	香取台小学校1年	14名	体験授業	子ども間交流

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の立案をもとに、職員間での共有と理解、配慮事項等のすり合わせなど行っていった。また、保護者との相互理解に努め、面談や情報の共有等支援を行っていった。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：園会議出席者

上記〈1〉の共有と、日常的な情報交換を心掛け質上げに繋げていく。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

各担当に引き継ぐとともに、保育士・専門士すべての職員がかかわる意識を持てるよう研鑽していく。小学校へ配慮事項等丁寧に引き継いでいく。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	8名	11名	183名	5名	14名	54名	29名	14名	2名	21名	15名	356名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒0件												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	3名	5名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計2回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	2名	6名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：諏訪公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	4名	0名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	4名	12名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年12月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時30分

自己評価実施者：篠崎理恵、入田鈴華、武笠杏奈、鈴木由美、瀧本美咲、横田亜矢子・橋本佳子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：92%

園の保育方針を理解され、協力的な回答が多かった。思いきり遊びたくさん食べる、子どもたちに真に必要な経験は何かの見極めを望む声が多数上がった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：香取台どろんこ学童 施設長 篠崎 理恵

2023年度 発達支援つむぎ 荻窪ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「にんげん力。育てます」の理念に基づき、子どもが主体的に活動を選択し、思考すること、体験すること、表現することを引き出す支援を基本方針とした。また、乳幼児期から就学後の姿を連続したものをして捉え、就学後も途切れない支援を行うことを目指した。支援内容は、法人が大切にしている座禅、異年齢保育、雑巾がけ、裸足保育、畑仕事、生き物との関わりについて更に深めていくことを目標とした。特に畑仕事に関しては、これまで蓄積した記録やノウハウをもとに、水まき、草取り、収穫などの動作から、一人ひとりの課題を抽出し、別の活動においても効果的な支援に繋げることができた。年間を通じて畑仕事を行うことで、土づくりから収穫をし、そして収穫した野菜を調理して食べるなど、身体機能面だけでなく、生活リズムや食育などの面から支援を捉え、子どもに様々な経験を提供することができた。感染症予防による欠席が増えた際には、支援が途切れないよう保護者と継続的に連絡を取り、電話、オンライン、或いは教材の送付などで外出できない子どもに少しでも自宅で楽しんでもらえるよう、一人ひとりに合わせた支援を提供することができた。開園9年目にあたり、園内の設備や備品等を見直し、本当に必要な物を厳選しながら整理整頓を心掛け、子ども、保護者、地域、自治体の方など来所したすべての方にとって安心し落ち着ける場所を目指した。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	年間を通じた畑仕事を通じて、実体験の中から様々な感触、運動を経験する（健康な心と体、思考力、数量や図形などへの関心）
	実践結果	土の手入れ、種まき、草取り、収穫、調理、肥料づくりなど、大人が育てた野菜を単に収穫するだけでなく、畑仕事に必要なサイクルを一貫して体験することができた。戸外で季節を感じながら、子ども自身が主体的に作物の成長に関わり、ときには他者と協力しながら、思考し行動する経験を提供した。畑仕事では、種を撒くことや作物を間引く際に、数や量の概念を自然に体感することができた。また、思うように育たなかったり、歪な形になったりと困難な場面で、どうすれば上手くいくのか、失敗を含めて経験する機会を提供した当初、野菜以外の植物（綿、ひょうたん等）も育てる計画であったが、野菜の成長が想定よりも遅かったため、育てる野菜を限定して取り組むこととなった。
	次年度方向性	年間を通じて子どもたちと一緒に畑仕事に取り組むことができた。土づくりから収穫、収穫した野菜の調理など身体機能、生活リズム、食育など様々な面で子どもの支援に活用することができていた。 畑が遠いため、年長グループを中心に支援に取り入れていたが、小さい子どもでもできる作業には積極的にお誘いして、様々な方に支援を提供できるよう検討していきたい。
2	計画・ねらい	生き物の飼育を通して生死を知る。命への理解、大切さや重みについて知り、思いやりの心を育てる（道徳性、共感性、責任感）

	実践結果	小さな生き物の観察や世話をすることは、子どもの豊かな心の成長を促すことができるため、カブトムシの土交換、メダカの餌あげ、飼育環境の掃除など、支援の中で実際に友達と協力しながら、責任感や仲間意識が芽生えるように支援を提供した。生き物が卵から幼虫へ、幼虫から成虫へと変化を見届け、ときには死に立ち会う経験から、命の尊さや大切さについて学ぶ機会を提供した。もともと生き物に興味を持つ子は、来所してすぐにカブトムシの様子やメダカの餌あげなどを積極的に行ってくれた。また、グループで土交換をする際には友達と順番を守ったり、道具を共有したりと自然と友達意識が芽生えていることを実感できた。
	次年度方向性	引き続き生き物の飼育を続けていく。現在、カブトムシ、メダカ、かたつむりの3種であるが、飼育スペースを拡張し、戸外活動の際に子どもが捕まえた生き物を自由に飼育できるスペースを確保していきたい。
3	計画・ねらい	協働でひとつの物を創り上げる経験（協同性、達成感、豊かな感性と表現）
	実践結果	支援中はスタッフが必要以上に介助したり、完成させたりすることを目的にせず、その過程で子どもがどのように考えたか、子どもが表現しようとしているものは何かを見極めるよう支援し、一人ひとりの表現を大切にしながら関わった。園入口やカフェの壁面を子どもたちが作った製作物で飾り付け、展示することで、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したり、諦めずにやり遂げた達成感や充実感を得られるよう支援することができた。年間を通して季節を感じるができる製作物が飾られていたため、来所頂いた方に楽しんでもらうことができていた。
	次年度方向性	来年度も子どもたちの表現を大切に、スタッフの押し付けにならないよう子どもたちが活動を選択する環境を用意していく。装飾に関しても継続して展示できるスペースを確保していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、子育てに関する相談や助言、支援方法についてアドバイスを随時行う
	実践結果	事業所内相談支援について契約時、または契約後も適宜保護者へ説明を行った。「就学について」「病院受診について」のテーマで、有益な情報発信を座談会形式で実施した。
	次年度方向性	年度途中で契約された方に対しても適宜情報発信を行っていたが、個別で行うことが中心だったため、契約状況なども踏まえて適宜座談会を計画、実行する。
2	計画・ねらい	卒園児の保護者を招いた座談会を開催し、情報交換の場を提供する
	実践結果	実際に保護者を招くことはできなかったが、過去に普通級、特別支援学級や特別支援学校へ進学した事例をもとに、それぞれの役割の違いや就学に向けて準備しておくことを情報交換することができた。
	次年度方向性	卒園する保護者に協力を仰ぎ、翌年度以降に座談会に協力いただけるようお願いする。座談会自体は継続して行う

3	計画・ねらい	当法人で行われている子育てスキル講座について、保護者や地域へ情報発信し参加を促す
	実践結果	法人の子育てスキル講座については、毎回チラシを掲示し保護者に声掛けをしながら参加を促してきた。徐々に講座自体の認知が拡がり、内容について聞かれるなど保護者からの反響もあった。
	次年度方向性	園長大学®・保育士大学で扱われる講座を保護者へも周知していく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園との連携を強化する。保護者と相談しながら園訪問の時期を検討し、支援に活用していく
	実践結果	つむぎでの様子だけでなく、実際に子どもの所属園に訪問し、生活の場面で課題や困り事を確認することができた。その結果、必要に応じて個別支援計画を更新し、支援の質を高めることができた。訪問時には、園の先生と具体的な支援の手立てについて共有するだけでなく、園の雰囲気や大切にしていることなど、園の特徴についても把握することを心掛けた。所属園の先生につむぎに来所してもらうなど、双方の情報交換を積極的に行った。
	次年度方向性	引き続き、園との連携を強化していく。つむぎに通っている子どもを生活の場面で評価することで支援に活用していく。
2	計画・ねらい	日帰りショートステイ事業を活用し、子どもや保護者にとってつむぎが安心できる場所になる
	実践結果	杉並区の児童通所受給者証を取得した子どもを対象に、日帰りショートステイ事業のサービス提供を行った。杉並区内の子どもが対象なため、積極的に契約時に周知を行った。児童発達支援事業だけでなく、保護者のレスパイトやきょうだい児の病院受診等、支援以外の部分でも保護者の要望に応えられるようにし、子どもにとってつむぎが楽しい場所、また行きたいと思えるような安心する場所になることを目指した。
	次年度方向性	つむぎ阿佐ヶ谷ルームや杉並区子ども発達センターと連携し、ショートステイを利用している子どもへの周知を行う。
3	計画・ねらい	自治体、所属園、他事業所等、関係機関との連携を強化する
	実践結果	関係機関と情報共有を行い、直接の訪問や来所、オンラインや電話での聞き取りを実施した。
	次年度方向性	所属園や杉並区、その他関係機関との連携を強化し、オンライン等も活用しながら情報交換をしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	い社内社外問わず、参加したい研修には積極的に参加を促す
---	--------	-----------------------------

	実践結果	スタッフの自己実現のため、可能な限り研修に参加できるよう心掛けた。シフト調整や業務分担を適宜行いながら園全体で研修に送り出せるよう配慮した。また、得た知識は毎回必ず園会議で共有し、アウトプットすることで知識の理解度を高め、スタッフの人前で話す力、表現する力を養うことができた
	次年度方向性	引き続き運営に必要な外部研修には参加させ、園長大学®・保育士大学の講義を事業所内研修に活用していく。
2	計画・ねらい	戸外活動でのスタッフの関わり方について、子どもの最善の利益を考慮し、スタッフ同士、共通見解を持ちながら支援の質を高めていく
	実践結果	戸外活動（畑仕事、公園遊び等）において、関わり方、見守りの仕方についてスタッフ毎に差が見受けられたため、動作分析におけるデータの蓄積によって知識を深め、全員で子どもの最善の利益を考慮し共通見解を持ちながら支援の質を高めていくよう工夫した。定期的に勉強会にて事例検討を行い、スタッフの支援の質向上に努めた。
	次年度方向性	ケース会議等で、戸外がもたらす効果をスタッフ間で共有する時間を定期的に確保する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	虫を飼育することは、幼児に「命への理解や思い」「思いやり」を育む効果があると言われている。また、飼育を通して他児と関わることで「仲間関係を育む」ことも期待できる(生命尊重)
	実践結果	夏季は限定的に飼育する生き物の種類を増やししながら、様々な生き物との触れ合いを提供することができた。興味関心を引き出しながら、生と死について考える機会を提供することができた。グループ支援の中で実際に生き物に触れ、世話をしながら、変化を他児と共有し、土交換や餌あげなど定期的に作業できる環境を用意することができた。
	次年度方向性	継続的に世話がができる生き物が少ないため、新しい生き物の飼育も検討していく
2	計画・ねらい	生き物に触れる力をコントロールすることで、自分の身体の使い方を知る
	実践結果	乳幼児期に力加減を誤ってしまったり、あるいは興味から意図的に乱暴に扱ったりと、生き物を弱らせてしまうことなどを飼育するうえで、さまざま経験を提供する。自分より小さな命を扱う上で「そっと」「優しく」「ゆっくり」など、子どもが自身の行動と合わせて考える状況を飼育下で作り出し、力をコントロールする経験を提供した
	次年度方向性	関われる子どもが限定的なので、どの子どもでも関わりを増やせるように生き物の種類を増やすことを検討する

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	185 人	1 7 8 人	178 人	191 人	207 人	191 人	189 人	189 人	196 人	190 人	186 人	190 人	2277 人
登録児 数	42人	42人	45人	47人	48人	48人	49 人	48人	48人	47 人	47人	47人	558人

(解説) 3月利用総人数は予測人数を記載

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者兼公認心理師・臨床心理士1名

保育士3名

児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人内の情報共有 ・ 児童発達支援管理責任者、各専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食など）を設け、資料を使った研修を実施 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修の実施
事故防止委員会 (施設内会議にて実 施)	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内で発生したヒヤリハット、インシデント、事故の分析と再発防止について共有 ・ 他園で発生した事故について共有 ・ 全国で発生した事故について事例検討

支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整 ・個別支援／グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援 管理者が必ず参加し実施
ケース会議	適宜	・個別／グループ支援での課題の抽出、スタッフの認識のすり合わせ、適切な支援内容の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ
杉並区情報交換会	年2回	施設長、児発管

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、隣施設との連携の推進
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	計画的な畑仕事の立案、畑の管理
生き物係	めだかやカブトムシ等生き物の飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

体験学習係	活動の立案、計画書／報告書の作成、必要備品の準備、当日の運営、（ハザードマップ外の場合）園外保育計画書の作成
-------	--

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

親子グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎに慣れることや安心した環境で他児と一緒に過ごす経験を積むことを目標に活動を設定した。 ・上半期は契約数が少なかったことや感染予防の観点から、参加する人数が少ない日があったが、年度末に向けて安定してグループの人数がそろうようになっていった。
グループ支援（3～5歳児）	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事や戸外活動など、自然の中で他児と協力し、ルールのある活動を通して、自信をつけることや達成感を感じることで、社会性の獲得を目標に支援を行った。 ・子どもの主体的な参加を促すため、活動は強制することなく子どもが自ら選択できるように配慮した。
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に基づき、一人ひとりに合わせた支援を提供した。 ・グループ支援以上に子どもの主体性を大切にし、スタッフは子どものやりたいことを実現できるよう手助けを行うように関わることができていた。
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計59名 が参加済み （3月1日時点）</p> <p>内訳：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内相談支援（Ⅰ） 40件 ・事業所内相談支援（Ⅱ） 19件
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、6月に前期モニタリング、11月、12月に後期モニタリング実施。 その他、希望があれば随時実施した
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・就学、就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している園と連携し、自施設における支援内容と園での様子の互いに共有

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑仕事を通じて食物を育てて食べる喜びを体験し、生産から消費までのサイクルを学ぶ
	実践結果	年間を通じて畑仕事を行える環境を整備した。真夏の時期は園から畑までが遠いため熱中症のリスクを考慮しなければならなかったが、それ以外の時期は通年で行っていた。畑の維持のためスタッフが交換でメンテナンスを行っていたが、定期的に行くことが困難だったため、来期は計画的に管理できるようにしていきたい。
	次年度方向性	通年で畑仕事を行えることは継続し、育てる野菜を絞ったり、植える時期を分けたりすることで、多くの子どもに畑仕事の機会を提供できるようにする。またスタッフにおいては計画的に畑の管理ができるよう担当者が調整するようにしていく。
2	計画・ねらい	収穫した野菜をそのまま食べたり、調理を行い提供したりすることで、食への興味、食らう力を育てていく
	実践結果	枝豆を子ども自身に収穫してもらい、調理して食べることができた。また、小松菜や大根など収穫できた野菜を持ち帰る中で、保護者から「嫌いだった野菜を食べることができた」などの感想を頂けた。感染症予防の観点から頻繁に開催はできていなかったが、興味関心を広げる関わりは行っていたと感じている。
	次年度方向性	情勢を見ながら、子ども自身が調理をしたり、グループで一緒に食べたりすることを推進していきたい。
3	計画・ねらい	指導の有無に関わらず、お弁当を持参した子どもと一緒に食事を取り、コミュニケーションの基礎を養う
	実践結果	感染症予防の観点から、子どもと一緒に食事を取ることはできなかったが、支援前後にカフェで過ごしている子や日帰りショートステイを利用している子と日常会話を取ることで、人と関わる楽しさを知ることができたのではないかと感じている
	次年度方向性	また食事が一緒に取れる状況になったときに、たくさんの方にカフェスペースを利用頂けるよう、過ごしやすい園づくりを目指していきたい

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	報告すべき感染症はなし
発作・痙攣等の対応	実施なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月26日につむぎ荻窪ルームにてエピペン・ダイアップ研修を荒川知子計1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ全員が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月26日に園会議にてAED研修を実施し、荒川知子計3名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ全員が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を実施。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
衛生管理	衛生点検チェックリスト	食育活動開始前：【食育活動】活動別チェックリスト 都度実施 ⇒ 実施していない日0日
	検便・細菌検査	毎月1日／5日／全スタッフ実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月28日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に活動を選択する
	実践結果	可能な限り、子ども自身がやりたいことを選択できるよう配慮した。子ども自らがどの公園に行くか、グループ支援では次回のどうするかなど子ども同士で話し合い、主体性を大事にしなから、その中で子どもの成長を促せる関わりを提供することができた
	次年度方向性	戸外でできる支援は必ず戸外で行うようにし、ただ戸外に行くだけでなく、どのような効果が得られるかを考えながら支援していく
2	計画・ねらい	年間を通して畑仕事の実施
	実践結果	いつ行っても畑仕事を行えるよう、計画的に作物の育成を行うことができた。収穫だけでなく、土づくり、種まき、堆肥づくり、間引きなど、畑が現在どのような状況で、どんな作業が残っているかをスタッフ全員で把握しながら管理していくことができた
	次年度方向性	年間通じて畑仕事が支援に取り入れられるよう計画的に進めていく。真夏の時期に畑まで通うリスクを考慮し、敷地内で育てられる植物も検討する
3	計画・ねらい	園の整理整頓
	実践結果	園内には様々な備品があるが、その備品をいま一度見直し、必要な物しか置かないよう備品管理を徹底することができた。必要な物はしっかりと揃え、日々のメンテナンスを徹底することができた
	次年度方向性	日々のメンテナンスを行いながら、経年劣化しているものは適宜更新し、いつでも安全で過ごしやすい環境を用意する

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	スクーターボード	グループルーム	都度	異常なし 7月31日に解体・撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNo. 3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手引き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い・災害発生時には対応フローチャートに従う
2	けが事故防止	危機管理マニュアルNo. 3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育を行い、ケガ発

		生時には対応フローチャートに従う
3	不審者対策	危機管理マニュアルNo. 3の不審者対策（P14）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNo. 3の光化学スモッグ対策（P15～）に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は実習生の受け入れはなかったため、次年度は積極的に受け入れていきたい。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 7名	15日 7名	22日 6名	13日 7名	9日 7名	28日 6名	28日 7名	7日 6名	1日 6名	10日 6名	2日 6名	6日 6名
園内研修	21日 6名	26日 6名	16日 5名	21日 6名	25日 6名	22日 5名	20日 6名	24日 5名	15日 5名	26日 5名	16日 5名	1日 5名
虐待防止研修						29日 6名					16日 5名	

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
5月26日	杉並区こども家庭センター	児童虐待対応基礎研修	1名	有
9月7日	杉並区こども発達センター	杉並区発達障害児地域支援講座	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度は利用児の所属する幼稚園、保育園、こども園に積極的に出向き、特徴や教育理念を把握しながら、実際に子どもたちが生活の中で必要なスキルを獲得することを目指し計画を行った。実際に園と連携し、園訪問、サービス担当者会議等、自治体や園の先生たちと情報交換しながら、訪問や電話での交流を多く行うことができた。また、地域の小学校や特別支援学校に見学に行き、小学校1年生の姿を学ぶことができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：読書の森公園にて
杉並区情報交換会	11月2日、3月4日に杉並区役所にて人材育成等の情報交換会を実施
杉並区実践報告会	12月17日に東京女子大学にて発表と講義を聴講

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

利用児の母体園の園訪問や電話での情報共有を積極的に行い、大人の関わり方や環境調整なども含

め連携を行った。生活の場面も観察することによってつむぎでの支援方法の参考とし、生活の中で具体的にどのような困り感があるか知るきっかけとなった。園訪問後は保護者と共有し、家庭でできる支援方法や今後の支援計画に反映させ、より良い支援に繋げることができた。

必要に応じて、近隣の医療機関を紹介し、就学後も医療と繋がることで、いざという時の相談先を確保するよう保護者支援も行うことができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月12日	桃井第2小学校 特別支援学級	1名	学校見学	職員間交流
9月11日	都立久我山青光学園	1名	学校見学	職員間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

新規利用児及び個別支援計画書更新の際に、保護者の希望や子ども自身が「やってみたい事」を丁寧に聞き取り、モニタリングを実施した。担当者と児発管を中心に策定会議を実施し、スタッフ間で必要な支援について見直しを行い、個別支援計画書の作成を行った。今後も子どもの自信につながるよう目標を設定し、点ではなく生活という線で支援を行うべく個別支援計画書の作成に努める

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への進学に向けて就学支援シートを作成し、小学校や特別支援学校と引継ぎを行った。具体的な支援方法や配慮事項などを中心に文書作成を行った

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	適宜												
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：読書の森公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	0名	0名	0名	0名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	5名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年8月16日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

5段階評価のうちすべての設問で4.5以上と高評価であった。自由記述のコメントにおいては、年度の途中でスタッフの変更があったことに対するご意見が数件見られた。安定したルーム運営に努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

なし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

「『好き』を感じよう・高めよう・学ぼう」の方針のもと、子どもたちのみならず大人や地域を巻き込んで活動と経験を積み重ねてきた。具体的な活動として子どもたちが自ら好きな活動や興味関心を深められるような環境を提供できるよう公園や畑、井の頭動物園・水生物園、地域の商店街等戸外を中心とした環境へ積極的に出向き子どもたちが「好き」を選び取れるよう支援を行った。また保護者さまやスタッフといった大人も興味関心を高めて学ぶ機会を設け、定期的な振り返りはもちろん活動を通じて学び育てたことをブログや研修等アウトプットしたり、地域講座の機会を設け、相互での学び合いの場ももったりすることができた。次年度は高め学んだことをきっかけに、自分たちの生活力を向上させていけるよう「ジブンのことはジブンで」取り組める環境を整えていくとともに、必要な経験や遊びを選び取れるよう支援を行っていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「成長を楽しむ」活動と支援の提供
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外にて畑仕事や生き物の世話、さくら・さくらんぼリズム、ぞうきんがけ、座禅といった日課を子どもの発達や興味関心に合わせて促し、取り組みを深化させることができた。 ・現地集合現地解散や活動と活動の合間など限られた時間を工夫して取り組めるよう環境を設定できるよう、保護者さまへわかりやすいツールや連絡方法をブラッシュアップしてご協力をお願いした。 ・火・土・水に関わる経験においては、火はコンロの火、土は畑や公園、水は川や夏の水鉄砲等発達を見極めたうえで取り組みを行った。また、火土水と関わりどのような学びや育ちが見られたかをブログやポートフォリオ等で発信した。
	次年度方向性	引き続き日課や火土水に関わる経験を定期的に設け、経験を通じて「成長を楽しめる」よう環境を設定していく。
2	計画・ねらい	人や植物、生き物と命あるものに関わり、生命を尊重する気持ちを育む生き物に関する興味、知的好奇心が湧くようなきっかけ作り
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事において定期的な手入れや収穫等を通じて、作物の育ちや実りの様子を観察し、獲れた野菜の大きさや重さ、におい等五感を感じて味わえるよう環境を整えた。 ・吉祥寺ルームで飼育されているエビ、ミスジドロガメの定期的なお世話や井の頭動物園・生物園等で実際に生き物に触れ合う経験を設定した。また事前に触れあう動植物を調べる事前学習や事後の振り返り等も行い、学びの定着化を図った。

		・他者と活動や環境を共にする時間や性教育等を通じて、自身の気持ちの共有や互いの存在を尊重し命を大切に学ぶの時間を設けた。
	次年度方向性	スタッフと共に子どもたち同士で学び合う経験をもとに、子どもたちの選り取る経験に応じてきっかけを作れるよう環境を設定する。
3	計画・ねらい	「好き」から深める活動の実施
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「好き」と感じたもの、「好き」を深めたい物事について利用児それぞれがその時間においてじっくり関わったり深めたりする時間を意図的に設けた。 ・「好き」を深めたり関わったりしたことでのどのような育ちや学びがみられたかを社内報やブログ、ポートフォリオ等で発信したり、事業所内相談支援において保護者さまへ育ちや学びについて深くお伝えする時間を設けたり等ツールを工夫して提供した。
	次年度方向性	「好き」に触れ深めてきた子どもたちがそれらを「ジブンでやりたい」といった意欲につなげていけるよう、多視点から活動や支援を深めていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	性教育の実施および取り組みの拡充
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年12月頃に胎児人形「ももちゃん」を使用して支援の中で子どもたちに命の育みと大切さについて伝え、前後の期間において利用児全員に性教育の情報提供や講座等の開催情報を伝えた。 ・就学に向けた保護者懇談会や月1回行われる「おはなしの会」においてそれぞれ1回ずつ話す場を設け、保護者とともに情報を共有する場を設けた。
	次年度方向性	あらかじめ人形が来る日を早めに把握し、スケジュールリングを行ったうえで必要な情報を必要な方々に選択してもらいやすくする。
2	計画・ねらい	就学に向けた保護者の不安を軽減する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフで学習指導要領およびアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの内容について2023年6月および12月に再読み込みおよび目線合わせを行った。 ・年3回程度就学に向けた保護者懇談会を実施し、就学における取り組みの見通しやアクションについて確認できる場を設けた。 ・日々の支援で就学相談の進捗や保護者の取り組みを確認し、適宜園訪問や就学支援シート等の関係機関との連携を図った。 ・年3回程度利用児と児童、スタッフと教職員の交流するため、小学校の訪問を行った。
	次年度方向性	より分かりやすく幼保小の接続期や姿がイメージできるよう、細かく方針を確認していく。
3	計画・ねらい	保護者の気持ちを整理できる場の設定

	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の方向性や日々の子育てにおける悩み等について、個別支援計画の更新時等を利用し事業所内相談支援を設定した。 ・ 保護者の意向や状況変化に応じて定期的に相談支援の時間を設け、様々な気持ちの整理の場として活用できるよう利用を推進した。
	次年度方向性	保護者の気持ちや意向を整理しながら、子どもに関係する様々なやり取りにおいて活用できるよう積極的な提案と促進を行う。
4	計画・ねらい	子育てに関する学びの場の提供
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回子育てにまつわるお話ができる「おはなしの会」を継続して行った。 ・ 2023年11月・12月にスタッフより子育てに関する講座を開催し、学びの場として保護者や地域の方々と共有することができた。
	次年度方向性	子育てを共にする保護者と学び合いを継続できるよう定期的な居場所づくりと様々な学びの場を作り上げる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域小学校とのつながりから小1を知る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフが学習指導要領およびアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの内容について2023年6月・12月に再読み込みおよび目線合わせを行った。 ・ 近隣の2校の小学校との連携を図り、小学校や教員との関わりを模索した。 ・ 2023年12月に小1の授業や様子をスタッフが見に行き、就学準備と逆算した保育・支援を考え、2024年の保護者懇談会において保護者へ伝えた。 ・ 2023年9月に支援において子どもたちと小学校へ行き、学校探検等を通じて児童との交流を図った。 ・ 2024年2月に教職員間交流において意見交換を行い、より良い子どもの支援や接続期の学びについて共有を行った。
	次年度方向性	定期的な訪問や交流を通じて、幼保小の接続期をより強固にしていくとともに、相互理解を深めていく。
2	計画・ねらい	地域につむぎの取り組み・育ちを発信する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野中央公園で「子ども管理人」として年4回程度公園内の管理を行った。 ・ 近隣の商店街やお店、武蔵野中央公園で子どもたちの作品や発信・活動について定期的に発信の場を設けた。 ・ 商店街や地域の寺院の清掃活動等を通じて、繰り返し地域とのかかわりを積み重ねた。
	次年度方向性	引き続き「子ども管理人」として公園管理を行うとともに、地域貢献活動を積み重ねて地域に愛される施設を築く。
3	計画・ねらい	地域での子育て支援の拡充

	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回武蔵野中央公園での青空保育を行い、法人や吉祥寺ルームを知っていただくきっかけを作るとともに、地域の子育て支援を行った。 ・月1回「おはなしの会」を地域へ開放し、だれでも参加可能とした。予約不要で気軽に子育ての話ができる機会を提供した。
	次年度方向性	いつも同じところ・時間・場所の安心感も大切にしながら、拠点へ出向きにくい方々への支援を拡充できるよう実施の形態やアクションを再考する。
4	計画・ねらい	法人内外との定期的なつながり強化
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野どろんこ保育園・三鷹どろんこ保育園との定期的な連携と子ども同士の混ざり合いの経験を提供した。また定期的に利用児の所属園へ園訪問に行き、他法人の幼保との連携も積極的に出向いた。 ・つむぎ阿佐ヶ谷ルーム・つむぎ府中ルームとのケース検討会や、所属課における研修会の開催を実施し、互いに学びあう機会を設けた。
	次年度方向性	定期的な法人内での連携や研修会等を通じて、相互理解の促進や学び合い共有するサイクルをより強固にしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力 UP
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフそれぞれが1年かけて「好き」を掘り下げ、学びなおす内容について考える。考えた内容については5月の園会議において発表し、定期的に進捗や中間発表を設けた。 ・学んだことに関して2024年1月～3月にかけて社内外にて研修企画およびアウトプットを進めている。
	次年度方向性	アウトプットしたことをそれぞれが「にんげん力」につなげていけるよう学びなおす意識を定期的を確認する。
2	計画・ねらい	保護者に幸せを感じてもらえる接遇と支援
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園会議やロールプレイ等を通じて、幸せと感じる接遇や支援について考える機会を持った。 ・特に保護者との振り返りや相談支援の場においては、目的とねらいに焦点をあててわかりやすく話すことができているかを日々の振り返りにおいて確認しあった。
	次年度方向性	相手のニーズや受け止め方などを理解しながら、繰り返し伝え方や表現の仕方を高めていけるよう意識していく。
3	計画・ねらい	途切れのない支援、自分で選ぶ・社会を生きる福祉を考える。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学齢期、青年期、壮年期の福祉サービスと現状をスタッフより共有を受け、イメージを持つ機会を設けた。 ・就労支援つむぎとの活動を通じて、大人や子どもとの混ざり合いや「働く」ことへのイメージづけなどを行った。
	次年度方向性	幼保の接続期だけにとどまらず、子どもたちの「その先」を意識しながら支援していくイメージを定期的を確認する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	続・食の循環を知る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の作物を収穫後調理や加工をし、食材の変化や食べた後についての食物の変化について調べ、体の中でどのような栄養や役割となるか支援を通じて学ぶ機会を設けた。 ・季節に応じて育てた野菜を活用し、日本の四季や天候の変化について触れ、1年間の流れやイメージが持てるよう促しを行った。
	次年度方向性	食すことだけでなく循環を意識して繰り返し経験していくことで、日々の生活や自らの体を育てていくことのイメージを高めていく。
2	計画・ねらい	廃棄を削減し資源を再生産する仕組みを知る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内におけるクリーンセンターに出向き、廃棄のその先を知る機会を設ける。 ・畑横にあるコンポストの変化にも子どもたちと目を向け、資源の循環を意識する機会を持った。
	次年度方向性	ごみの処理や資源の再利用について、様々な視点から知識に触れられるよう環境を設定する。
3	計画・ねらい	環境資源について学ぶ
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において使用している電気や水、ガス等の身近な資源についてどのように作られ提供されるかを支援の中で学び、実際に使用する機会を設けた。 ・地震や火事などといった災害において、資源の使い方や代用品を知り、資源の循環やより良い資源との付き合い方を学んだ。
	次年度方向性	自らの生活において資源の大切さや付き合い方を知り、活かしていけるよう定期的に意識できる機会を設定する。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	221 人	224 人	236 人	229 人	215 人	209 人	230 人	206 人	213 人	216 人	207 人	236 人	2642 人
登録児 数	52 人	55 人	55 人	53 人	53 人	53 人	53 人	53 人	52 人	52 人	52 人	52 人	635 人

(解説) 定員遵守しながら、積極的な振替の提案を行い、かつ振替提案時にも支援のねらいや目的を

お伝えすることで、保護者の通所イメージや目標に沿った支援を実行することにつながった。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当3名（公認心理師3名）

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・研修報告やその内容に関するディスカッション ・ケース検討 ・衛生管理手順の確認
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・前月の施設内インシデントおよびヒヤリハット事案の確認 および再発防止策に関する話し合い ・他園事故報告書の内容共有
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の新規・更新および変更作成が生じる場合に開催 ・支援担当者と児童発達支援管理責任者が必ず参加する。

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
食育会議／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長

保健会議／法人本部	年4回 (5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	定期的な消毒・換気の点検、感染対策の検討と提案、手洗い支援を法人の方針や感染状況に応じて行った。
安全対策係	事業所内または周辺の安全管理や清掃、危険箇所の点検や対策、定期的な安全点検の実施、利用者への注意喚起を行った。
防火管理者	月1回の防災訓練の計画立案および実施、消防計画の見直し、備蓄品の確認および補充を行った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	種まきや苗の選定や買い付け、畑仕事の計画と立案、収穫時期の検討や畑の様子をカフェに掲示し利用者へ周知した。
生き物係	アクアリウム（えび）の飼育管理、ミスジドロガメの世話、動物や植物の管理についての計画策定および実施を行った。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
吉南まつり係	大人神輿や山車を支援時に見学した。
地域連携係	地域資源の利用や情報の収集と連携を行った。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

異年齢で構成された支援 (主に3～5歳児)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に活動できる環境を用意した。 ・ゾーン保育を活用し、一人ひとりの好きなことを見極めて主体的な取り組みを促した。 ・異年齢での活動から他者や年上・年下との関わりや協調性・思いやりの心を
--------------------------	--

	<p>育めるよう環境設定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験から五感を使った表現や豊かな感性を引き出せるよう意識して支援を行った。 ・子どもたちが納得いくまで試行錯誤できるように見守る時間を意識して支援を行った。 ・「できた」経験を積み重ね、子どもの達成感や自信につながりやすい支援を設定し、実施した。 ・畑仕事や生き物の世話や清掃を定期的に行い、生命の尊さや生きるために必要なことを共に学ぶ機会を作った。 ・商店街にて買い物やウォークラリーを実施し、自分の地域を知ることやお店の方々とのコミュニケーションを促した。 ・調理活動で火と関わる経験や土に触れる活動、色水遊び等火・土・水に関わる活動を行い、自然の反応や気づきについて共に学びを深めた。 ・保護者へ活動の意図やねらいを丁寧に説明し、身につけたい力や子どもの成長について相談の時間を設けた。
異年齢で構成された支援 (主に未就園児)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に活動できる環境を用意した。 ・必要に応じて保護者と同室で関わる時間を設け、スキンシップや情緒の安定を図った。 ・規則正しい生活サイクルを身につけ、元気に活動できるよう時間設定を行った。 ・子どもたち同士の関わりに必要以上に介入せず見守ることで、感情のコントロールやコミュニケーションのやり取りを促した。 ・保護者との対話を繰り返し、共に子育てを考える時間を設けた。
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計98名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園訪問の事前共有や報告を行った。 ・日々の支援についての確認や子どもの様子について話し合った。 ・就学・就園についての相談や情報整理を行った。 ・子どもを取り巻く家族やその関係機関を含めた情報整理や関係機関連携を行った。 ・すべての支援に対し「相談支援記録」の保管を行った。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の振り返りやカフェでのやり取り、上記「事業所内相談支援」において適宜相談を実施した。
関係機関との連携	<p>4～3月まで 合計24名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学や就園に関する各関係機関との連絡調整を実施した。 ・保育園・幼稚園等と連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	収穫した野菜の加工を行う
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を作るうえでの土づくりや種、苗植えも子どもたちとともにやり、野菜の育ちや成長を定期的に見守る環境を設定した。 ・切って形が変わる様子や加熱して素材が変化の様子から、調理の工程や加工する流れを知り、食がどのように調理されていくか実体験をもとに学んだ。 ・できた調理品を食し、五感で味わい周りと共有する機会を持った。
	次年度方向性	様々な調理形態や加工の工程を子どもたちと共に学び知ることで食へのさらなる興味関心につなげていく。
2	計画・ねらい	季節の行事と連携した調理活動
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した野菜等を調理し、自ら作ったものを食す経験を通じて、新たな食への興味関心のひろがりが見られた。 ・季節を感じる調理活動を行い、日本の四季についてともに学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	どの季節にどのようなものが旬を迎え、それによる体への影響や学びについても触れる機会を設ける。
3	計画・ねらい	食べた後の食の仕組みや体の成り立ちについて知る
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・食物を食べた後に、体にどのように吸収され、体が作られていくか学ぶため、栄養素の学びをまとめたものから知る機会を設けた。 ・栄養素が体でどのように消化吸收し、どのように排泄されるかを調理で使用した食材等を用いて学ぶ機会を設けた。
	次年度方向性	自分の体を育てていく意識付けと共に、必要な栄養やエネルギーにも興味関心が育っていきけるよう学ぶ環境を整えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	新型コロナウイルス・インフルエンザA型感染報告あり
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能ルーム内研修にて共有した。
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月24日、10月24日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	ゾーン保育から遊びを選択する力や遊びこむ感覚を経験する
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋やコーナーなどは自由に行き来できる環境を設定し、自らの力で遊びや活動を展開する経験を設定した。 ・ゾーン保育での活動報告と環境設定について振り返りや園会議の時間を活用し定期的に子どもたちの育ちや学びについて共有した。
	次年度方向性	様々な道具や環境を設定する中で、子どもたちが自ら経験を選び取り、生活力につなげていけるよう意識していく。
2	計画・ねらい	素材から自由な発想を育む経験をする
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材や模造紙等を使用し、自ら決めた素材で自由に取り組む経験を定期的に実施した。 ・石や葉っぱ、野菜の端等自然のものも使用しながら、見え方や配置等を工夫して、五感を活用して十分に組み組めるよう環境を設定した。
	次年度方向性	子どもたちの興味関心や発達に応じて、様々な視点から自然のものや素材に関われるよう機会を提供していく。
3	計画・ねらい	ルーム内の美観を保つ
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の物品チェックや次月の活動計画時に必要な物品やおおまかな量の予想を立て、必要な分を必要なだけ持てるサイクルを回した。 ・定期的なメンテナンスや掃除については、年間計画に盛り込み、確実に必要回数実施できるよう日時を設定して実施した。
	次年度方向性	不要なものやいつか使うものなどの選別を行い、定期的に廃棄するサイクルから必要なモノ・コトを選別しやすくなるよう環境を設定する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	武蔵野市からの防犯・防災メールを随時確認し、その他注意報や警報の発令を意識しながら戸外活動をすすめた。
2	実践結果	防犯を含めた避難訓練を実施し、スタッフの勤務体制にかかわらず、緊急時に誰でも最善の対応ができるよう努めた。スタッフ全員が避難場所、避難経路、避難方法およびAED設置場所についても定期的に共有している。
3	実践結果	全スタッフがケガや事故に対して常に危機感を持ちつつ指導した。起きたケガや事故に対しては原因の究明を怠らず、再発防止に務めた。また、未然に防げることへの気づきを忘れず、常にケガや事故の起こりにくい環境設定を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は受け入れがなかったが、引き続き積極的に受け入れる体制をつくり、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材育成を担えるようにする。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 7名	10日 8名	8日 8名	7日 8名	9日 7名	7日 7名	13日 6名	7日 6名	5日 6名	4日 6名	2日 6名	6日 6名
エピペン研修												21日 6名
嘔吐処理研修		19日 7名								19日 6名		21日 6名
虐待防止研修	12日 7名						11日 6名					

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

近隣のお店や地域の方々との挨拶や清掃活動を通じて地域交流を深めることをテーマに実施した。お店での開店前準備等の職業体験を通じて、より地域とのつながりを深める活動を行い、さらに様々なお店や地域の方々との関係性を深化させていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：武蔵野中央公園にて
商店街ツアー	随時 買い物やウォークラリー等を通じて関係性を深める。
小学校探検	9月4日に武蔵野市内の小学校にて学校内探検を実施
教職員交流	2月28日に武蔵野市内の小学校にて教員とスタッフとの交流会を実施
その他活動	7月および11月に月窓寺にて七夕飾りと境内清掃を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学や就園および幼稚園・保育園等での子どもたちの姿をとらえて支援に活かすために定期的に複数回行った。また武蔵野どろんこ保育園や三鷹どろんこ保育園との定期的な混ざり合いや連携を通じて、保育や生活の場での支援や活動、子育てについてやり取りを行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
通年	該当児が通う幼稚園・保育園	原則1名	各幼稚園・保育園	行動観察 担当者や支援者との話し合い 必要に応じて個別支援計画書の変更
9月4日	武蔵野市立第三小学校	4名	武蔵野市立第三小学校	学校探検 副校長先生からのお話
12月11日～15日	武蔵野市立第一小学校	各日程1～2名	武蔵野市立第一小学校	小1の授業観察 休み時間・給食時の様子観察
2月28日	武蔵野市立第一小学校	2名	武蔵野市立第一小学校	教職員間交流
不定期	三鷹どろんこ保育園 武蔵野どろんこ保育園	各回1～2名	三鷹どろんこ保育園 武蔵野どろんこ保育園 つむぎ吉祥寺ルーム	行動観察 連携内容についての話し合い 畑仕事での利用児との混ざり合い 子育て支援施設と利用児の混ざり合い

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適性、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成した。おおよそ提示2ヶ月前に保護者へモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズ等について把握し、1ヶ月前には児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達をとらえ、適切な支援を考えた。

また子どもの成長や状況の変化等に柔軟に対応し、必要に応じて6ヶ月以下での個別支援計画の見直し

と作成を行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

10月頃より、保護者と相談の上、就学支援シートの作成を行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	随時実施した												
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～17:00 にて実施												
青空保育	月1回 公園名：武蔵野中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	中止	2名	2名	20名	7名	15名	20名	18名	10名	19名	12名	15名	140名
おはなしの会	月1回 実施場所：つむぎ吉祥寺ルームにて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	4名	2名	2名	2名	2名	3名	2名	2名	0名	1名	4名	28名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年9月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：田中 誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：96%

スタッフ全員が相談支援をできる体制を整え、支援時のみならず子どもの成長や学びを多角的に伝えることを意識して行った。利用者アンケートでは子どもたち同士の関わりが成長につながっている、様々な経験からチャレンジしていく意欲が見られるようになった、などのご意見もいただき、大人も子どもも楽しんで活動しながら学び、育つことへの大切さを実感した。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム施設長 石井 友貴

2023年度 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

これからは児童発達支援事業も選ばれ淘汰される時代になっていく。利用者に選ばれるようになるために、支援の質のみでなく、接遇の質の向上にも努め、誰でも満足する支援、感動する支援を目指していく。

- ①子どもの「生きる力を育む」ための日課・基本活動を実施する。座禅、雑巾がけ、戸外活動等の日課活動について、全年齢のグループで取り組んでいく。ただ日課活動をするだけではなく、意味・意義・療育的視点をスタッフが十分に理解し保護者に納得と理解を得られる説明ができるように努める。また、年齢に応じて、幼児は教育的側面、乳児は養護的側面を大切にしていく。
- ②小学校への見学、先生との情報交換などの連携を行い、アプローチカリキュラムを展開していく。保護者の意向や考えをしっかりと聴取、アプローチカリキュラムが先行して子どもの今の姿や育むべき力をないがしろにしないように十分注意する。その子、そのグループに合った柔軟なアプローチカリキュラムを展開する。
- ③ルーム内研修、他ルームや法人内保育園との事例検討や OJT 研修、他事業所との意見交換を定期的に行い、支援の質の向上に努める。また、大人の「にんげん力」の向上を目指し、知識だけではなく、相手の気持ちを押し量る事や、ルーム・会社で起こる事象を自分事として捉えられるよう努める。全職員が子どもの見本となる大人として成長することを目指す。
- ④環境整備、丁寧な接遇、保護者に伝わりやすいフィードバックを全スタッフが徹底して行っていく。また、利用者以外の地域の方との交流の機会を増やすため、地域と関わる場や機会を積極的に設定していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	支援内容の充実
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に活動に取り組めるよう、今その子が何を楽しんでいるのかをキャッチして支援に取り入れた。子どもの意欲や主体性を引き出しつつ、発達段階に合った支援を提供することに努めた。 ・グループ支援では、協同活動ができる環境設定やプログラムを用意し、子ども同士での話し合いや、役割をもって協力する経験重ね、皆で一つのモノを創り上げる経験が積めるよう努めた。 ・専門職や様々な経験があるスタッフによる勉強会を実施し、ルームスタッフ全員の支援の質が向上するように努めた。 ・就学後の支援について、全スタッフが小学校の見学に行き、実際の授業風景や内容を確認した。また、卒園児の保護者を招いて同窓会を行い、様々な小学校の宿題や授業の内容、保護者の悩みや子どもの様子を聴取した。それらの情報をもとに、就学を見据えた支援や利用している保護者への助言や支援を行った。

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりに合わせ、主体性や最善の利益を考慮して充実した支援内容を展開していく。 ・子どもが遊びを選択できる環境を整え、自ら考える力を身に着ける。
2	計画・ねらい	質の向上
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・他ルーム（府中、吉祥寺）とのケース検討、杉並区主催のポスター発表と参加を実施し、スタッフ全員の質の向上に努めた。 ・保育の質を上げる会議に参加しているスタッフより、内容の共有とスタッフ全員で取り組む課題を設定し、支援において子どもの見立て方を学ぶことや、コンピテンシーを用いてルームの良さを伸ばしていくこと、弱点を強みに変えていけるよう努めた。 ・グループ支援では活動のねらいと予想される姿を事前に話し合い、グループ支援後にはスタッフ間で振り返りと次回の活動内容の話し合いも行い、質の高い支援を提供できるよう努めた。 ・インシデントが起こった後にも原因を追求し2回目が発生することがないように全員で省みた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ同士の陪席は継続していく。 ・定期的な勉強会やケースの共有を行い、スタッフのアウトプットの場を設けていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者に信頼される
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・お出迎え、見送りはスタッフ全員で徹底して行った。 ・職員の異動が多く不安を感じる保護者の方がいたが、丁寧に引継ぎを行うこと、次の担当もスキルがあり、子ども思いの職員であることを伝え、寄り添う対応を心掛けた。 ・保護者の要望があった際や、悩みを抱えていそうな保護者にはスタッフから事業所内相談支援を提案して場を設け、保護者の話を聴取し、子どもにとって必要な支援や関わりについてお伝えした。保護者の不安や負担の軽減、一緒に子育てをするという意識で話をするすることで、保護者からの信頼を得ることに努めた。 ・インシデントやヒヤリハットが起きた際には、保護者が不安や不満に思わぬよう、起きた事柄を説明した上で謝罪を行い、次回来所時には必ずケガの確認と謝罪をすることを徹底した。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して全スタッフが子ども、保護者と面識をもつよう、日常的な支援として毎回の出迎え・お見送り対応を丁寧に行う。 ・事業所内相談支援の個別や集団は定期的実施していく。保護者サロンや対面で集まって話し合う機会を今年度以上に設ける。
2	計画・ねらい	誰が利用しても気持ちよく過ごせる環境
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園清掃表を用いて必ず昼と夜に清掃することを心掛けた。 ・保護者視線を常に意識し、ミーティングでカフェや部屋のどんな所が気

		<p>になるか全員で共有し清掃を徹底した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5階のベビーベッド横を保護者が利用しやすいよう、配置替えを行った。また、防災カーテンを撤去し、ブラインドにすることで清潔感のある環境構成を実施した。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・園清掃表を用いて清掃するスタッフが限られているため、意識して声を掛け合っていく。 ・継続して美観を意識する。
3	計画・ねらい	保護者同士・子ども同士の繋がりをつくる
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者座談会が2回、卒園児の保護者同窓会を1回実施した。 ・ペア活動や異年齢グループの支援は昨年度よりも多く行うことができた。ペア活動や異年齢グループは、実施した後に保護者からまた参加したいとの要望が多くあったため、次年度に繋げていく。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢グループを設立する。 ・個別支援をペア支援に増やしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

昨年度は新型コロナウイルスの影響で、地域の他事業所や近隣のお店や公共施設と繋がる機会が減ってしまった。2023年度は感染症の情勢を踏まえ、地域の核となるための様々なアイデアを出し合い、可能な限り地域との連携を広げ、深めていく。

1	計画・ねらい	他事業所との連携、情報交換
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区が主催するポスター発表に参加し、他事業所と連携を取った。 ・小学校の学校公開やアポイントメントを取ることで、全スタッフが見学に行くことはできた。また、見学した内容や様子をルーム会議で共有し、全員が小学校の現在を知ることに努め、フィードバックなどで保護者に発信をした。
	次年度方向性	継続して他事業所との連携や情報交換をする場に出向いていく。
2	計画・ねらい	地域におけた発信
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児が所属する保育園からの見学は2件あった。園訪問へ行き、支援内容だけでなく、法人のパンフレットなどをお渡しして説明も行った。 ・自ルームでの支援や取り組みを、ブログで毎月発信した。 ・地域の方がカフェを利用された際は、児童発達支援や法人についての説明を丁寧に行った。 ・ハリボテを作成し、商店街に飾ることができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログだけでなくアワリーの配信に力を入れていく。 ・戸外活動時には周囲の子どもを巻き込んでいく。 ・商店街や消防署との交流を増やしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

定期的にミーティングの時間を確保し、学び合いを深めていくことを継続する。学びの内容として、写真や動画を用いたケース検討や、多角的な視点から一人の子どもについての支援方法を検討する等、

手法を用いたケース検討会議を実施していく。それぞれの専門性を高め、日々の支援の内容の振り返りに加え、児童発達支援ガイドライン、保育所保育指針などを読み解く時間としても活用する。また、継続して全職員が資格を超えて様々な研修に自主的に参加していく。

1	計画・ねらい	ケース検討会議
	実践結果	毎月必ず行う予定であったが、職員の異動時期には滞ってしまった。来年度は職員が安定している中で毎月実施していきたい。
	次年度方向性	毎月のケース検討は実施していく。他ルームとの合同ケース検討会議は吉祥寺、府中だけでなく大勢のルームを巻き込んで実施していく。
2	計画・ねらい	勉強会の開催
	実践結果	各職員が休みの日に勉強したことや元々知識として持っているものを元に様々な勉強会を開催できた。
	次年度方向性	継続してそれぞれの得意分野を生かし、ミーティングの時間に発表することでアウトプットする力を身に付け、全員が他ルームに行っても積極的に発言・行動できるように進めていく。

〈5〉環境実施目標

小学校や法人外保育園の訪問に力を入れることのできた1年であったため、2023年度も継続して小学校への見学や教諭との情報交換、法人外保育園への訪問とケース検討に力を入れていく。また、家庭での生活で困りごとや悩みがある保護者には、家庭訪問を実施して具体的に家庭で取り組める支援方法を提案していく。

1	計画・ねらい	小学校との連携
	実践結果	・特別支援学級や通常学級の見学に全スタッフが行くことができた。また、小学校でボランティアをされている保護者から現在の小学校の様子を聴取することができた。
	次年度方向性	・小学校の教員と情報交換をする場を設けていく。近隣の小学校だけでなく、スタッフの知り合いから学校の先生の知り合いを呼ぶなど、コネクションを広げていく。
2	計画・ねらい	法人外保育園への訪問
	実践結果	要望が保護者の方から多くあったことで毎月1件以上行くことができた（8月を除く）。
	次年度方向性	法人内保育園との交換研修や近隣の他事業所との情報交換
3	計画・ねらい	家庭訪問（家庭連携加算）
	実践結果	家庭訪問については保護者からの要望がなく未実施となった。
	次年度方向性	保護者からの要望があれば家庭訪問を実施する。

〈6〉一人ひとりの支援の質の向上

1	計画・ねらい	一人ひとりが専門職として高いスキルを獲得する
	実践結果	研修会に各々参加し、スキルを身に付けているが、まだまだ全体的な視野は狭いように感じる。一人の子どもにしか目がいかないスタッフがいるこ

		とや、リーダーをしながら周りの子を見ることが難しいスタッフもいる。
	次年度方向性	全体的に俯瞰して子どもを見られるスタッフの育成が急務。子どもにとって今何が必要か判断し支援を提供できるスタッフを育てる。
2	計画・ねらい	勉強会への参加や会議内での発言回数の向上。
	実践結果	各々が発言できている。得意分野での発言ができるよう話を振り、スタッフの一人ひとりが自信を持って会議に参加できるように進めた。
	次年度方向性	継続して勉強会への参加の促しやアウトプット、発言回数の向上は進めていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	192人	185人	225人	227人	227人	202人	219人	207人	221人	210人	227人	231人	2573人
登録児童数	50人	52人	55人	58人	57人	58人	59人						

(解説) 4月から6月は補助金申請を行い、稼働数をあげずに行く予定であったが、4月の段階で登録者数が50人に到達している。次年度はもう少し緩やかに増やしていく。

〈2〉 開所時間

9時00分～17時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士3名

機能訓練担当1名(臨床心理士)

児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門職による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	自ルームヒヤリハット、インシデント共有と対策の確認。 他園の事故共有と自園で気を付けるべきことの確認。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	ノロウイルスやインフルエンザが起こった際の対処法についてみんな策定会議の際に確認することができた。4月にも実施している。

防火管理者	月に1度避難訓練を実施し、子どもたちや保護者に協力を仰ぎ、実際に避難所まで歩く練習を実施している。
食品衛生管理係	冷蔵庫の中の物を処分することが遅れた時もあったためミーティング内で確認していく。
畑係	月に2回は必ず行こうと計画を立てていた。8月は気温がかなり高く、子ども達と出るのは難しい状況であった。冬の野菜を計画的に植えることが難しい。
生き物係	エビとカブトムシの世話を実施。エビの餌やり当番表を作ることで子どもたちが自ら「エビの餌をあげたい」と声をあげてくれることが増えた。
体験学習係	1年に2～3回、全職員が順番に行う。今回は魚捌きや登山、酪農体験など新しいことに挑戦した1年だった。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

親子グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・母体園以外でのコミュニティの場として、子どもも保護者も安心して活動できる支援を実施した。 ・スタッフや保護者とのふれあい遊びやリズム体操などのスキンシップを行うことで情緒の安定や安全基地をつくること、基礎体力の基盤づくりを図った。 ・活動のねらいや目的、意図を丁寧に説明することや日々の子育ての悩み、不安に対する傾聴や助言を行うことで信頼を得られるよう努めた。 ・トイレトレーニングや母子分離を実施し、今後の生活で必要な身辺自立や親以外の信頼できる大人とのコミュニケーションを図ることに重きを置いた。 ・土に触れる畑仕事や絵具、氷遊び等を行い、実際に手や匂いで感じ、自然と混ざる楽しさを実体験で学んだ。
3～5歳児グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達や環境で安心して自分らしく過ごせる支援を実施した。 ・異年齢で過ごし、年下の面倒を年上の子が見ることや年上の行っている活動を見て年下の子が真似してみるなど、普段の枠組みでは見ることのできない発見が多くみられた。 ・商店街にて買い物やスタンプラリーを実施したり、図書館や公園に行ったりすることで、自分の地域を知ることや地域の方々とのコミュニケーションを促した。 ・子どもたち同士の関わりを大切に、見守る時間をつくることで子どもたちの力で問題解決ができるように進めた。保護者の方にも状況を説明し、詳しく起こった出来事を伝えることでどうして介入しなかったのか、なぜその場面では介入したのかを理解してもらい、安心できる場となるようにした。 ・保護者との面談や必ず全スタッフが挨拶することを心掛け、子どもをルーム

	全体で見ていることが伝わるよう配慮した。
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のあるものを主体的に選択できるような活動を設定した。 ・保護者のニーズと子ども自身の様子、そしてスタッフの見立てを元に支援を実施。保護者のニーズが高い場合にはそこに向かうまでのスモールステップの方法を伝えるようにした。 ・個別支援をペア支援に替えることも行い、2人組ならではのやりとりの深さや同年齢の子とコミュニケーションを楽しめるように進めた。 ・「やってみたい」「嬉しい」「できた」などポジティブな経験を積み重ね、子どもの達成感や自信につながりやすい支援を目指した。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計80名 が参加済み (3月31日時点) ・園訪問後や検査後のフィードバック、家庭からの依頼、性教育研修
関係機関との連携	4～3月まで 合計40名が参加済み (3月31日時点) ・主に保育園、幼稚園、こども園との連携、小学校とは1件実施。
意見・要望への対応	遺憾・不快であり退会を7月21日に希望する。 ・初回利用日の職員の対応が我が子に最後まで注視されず集団支援で来た子どもたちの対応に移ってしまったこと ・前回遊んだブロック作品が壊れていたことに子どもがショックを受けていた壊すことに対する事前の配慮不足 謝罪を行い、次回の対応策もお伝えしたが退会する運びとなってしまった。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食材や食の循環を認知する直接体験
	実践結果	コンポスト実施には至らなかった。しかし、畑で育てた野菜をその場で食べることや調理することを行うことができた。
	次年度方向性	コンポストの作成 畑で育てたものを調理することが当たり前の年になるようにする。
2	計画・ねらい	保護者へ食に関する助言を行う
	実践結果	ショートステイ利用の際は、お弁当を持参いただき咀嚼や嚥下を見て食事評価を実施している。継続していく。
	次年度方向性	保護者のニーズに沿って助言・指導を実施する。 ショートステイでのお弁当時には食事評価を実施していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	該当なし
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月6日につむぎ阿佐ヶ谷ルームにてエピペン研修を計6名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、5名が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・9月11日に杉並消防署にて AED 研修を全スタッフが実施。習得には至っていない。 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、7名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日：日曜、祝日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 日曜祝日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 日曜、祝日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月17日、10月16日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	気持ちの良い環境づくり
	実践結果	カフェスペースにゴミが落ちているか確認すること、テーブルが汚れていた場合はすぐに拭き取ることを徹底した。製作物を飾る際には時期に合っているか常に考え、必要に応じて処分していた。
	次年度方向性	継続してカフェスペースが子ども、保護者が気持ちよく過ごせるように配慮していく。また、季節に合わせた製作物の掲示、子ども達自身に環境を考えてもらうことや整えてもらうことを視野に入れる。
2	計画・ねらい	戸外での療育の展開と発展
	実践結果	公園に行くことや図書館、商店街など戸外に行くことが増えた。しかし、ねらいを持って行うことはまだまだ難しい職員が多い。戸外に出ることはとても難易度の高いものとする。
	次年度方向性	戸外に出ることで何がどう子どもにとってプラスに働くのか。見立てを保護者に説明できるようにする。果たして本当に戸外へ出ることが重要なのかを再度模索していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	看板	玄関	毎日	異常なし 10月1日に撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	非常災害に備えて消火設備などを点検するとともに、年間防災計画に沿って訓練を行い、避難経路や消防署への通報方法、災害緊急掲示板への書き込み方法の確認を行う。や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、避難訓練に子どもや保護者も参加してもらうことで、スタッフや利用者の防災に対する意識が高まるよう努める。
2	ケガ事故防止	支援の提供中に起きる事故やケガを防止するため、室内や屋外の環境の安全性について毎日点検する。また、月に一度全スタッフでルーム内の危険個所について見回りを行い、補修や破損した玩具の排除を行い、危険がない環境整備に努める。

3	不審者対策	外部からの不審者の侵入を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所として防犯マニュアルを定期的を確認するとともに、年間計画に沿って不審者訓練を行い、対処法について全スタッフで適切な行動をとれるように努める。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発令された際には戸外へ出ず、終了アナウンスを確認してから戸外に出るようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生やボランティアが自ルームにくることはなかったため未実施。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	1日 7名	1日 7名	1日 7名	1日 7名	1日 7名	1日 6名	2日 7名	1日 7名	1日 7名	4日 7名	1日 7名	1日 6名
ルーム研修	隔週 月曜 日 6名											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月19日	杉並区要保護児童対策地域協議会	児童虐待対応基礎研修(乳幼児編)	1名	無
6月26日	杉並消防署	応急訓練研修	6名	無
7月24日	杉並区こども発達センター	令和5年度支援事例検討会研修	1名	無
11月6日	一般社団法人こども発達支援研究会 担当：前田智行	こども発達支援研究会公開講座～第4回LDの理論と学習支援(基礎編)～	1名	無

12月11日	一般社団法人こども発達支援研究会 担当：前田智行	こども発達支援研究会公開講座～第2回 ASD の理論と支援(基礎編)～	1名	無
12月17日	杉並区こども発達センター	各事業所ポスター発表	4名	無
3月4日	杉並区保健福祉障害者政策課	児童発達支援事業所情報交換会	2名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	11日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	11日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
リーダー養成研修	該当なし											
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
デモンマークインターシッポ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

コロナウイルスでしばらく自粛していた活動を再開することを目標にしていた。今年は阿佐ヶ谷七夕まつりで行われるハリボテ製作に子ども達のほとんどが携わり、地域との交流ができたよう感じる。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：梅里中央公園にて
商店街ツアー	月1回 主な行き先：ピーコック、HARMONICA、アキダイ、ダイソー等
世代間交流	なし
異年齢交流	つむぎ阿佐ヶ谷ルームにて第5週に異年齢グループを実施
その他活動	七夕祭りに向けてハリボテ作りを実施。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度は昨年に続き、杉並第2小学校の見学に行くことができた。また、桃井第5小学校、永福小学校に初めて訪問することもできた。継続していくこと、また新たに小学校見学できるようアポイントメントを取っていく。幼稚園、保育園とは現在通われている児童の見学に行くことができているため、継続していく。医療機関と直接的な関わりはないが、発達支援事業所として杉並区の地域交流研修会に参加することはできている。継続して、地域交流の一環として病院が主催している研修会に参加していけるように努める。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
4月26日	桃井第五小学校	2名	学校見学	スタッフ間交流
6月5日	杉並第二小学校	6名	学校見学	スタッフ間交流
7月4日	永福小学校	3名	学校見学	スタッフ間交流
7月24日	就学前教育支援センター	2名	学校見学	スタッフ間交流
10月17日	高円寺学園特別支援学級くすのき	1名	学校見学	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年に1回は必ず更新することができている。また、保護者や園と連携を取り、必要に応じて園訪問を実施。訪問した際には、その都度個別支援計画書の見直し、作成を実施している。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

次年度、通常級に通われる9.5割の方が就学支援シート（すばる）の依頼があり、2月末の時点で全員お渡しを完了している。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
保護者勉強会（性教育）	12月23日（土）10:00～12:00 ⇒計12名の方と勉強会を実施済み												
青空保育	月1回 公園名：梅里中央公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	1名	1名	1名	0名	0名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	11名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年10月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：岡本 里保

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

（省察）全体的にポジティブな意見が多く見られた。同じ方が何度もアンケートに答えていたため、正確な回収率とはなっていない。また、同じ方が3～4回答え、マイナスな意見（内容が同じ）挙げるが多かったため、批判者率は前年よりも高く出てしまっていると考え。次年度も保護者が満足できるよう、過ごしやすい空間、質の高い療育を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

「報告すべきご意見 0件」

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

「報告すべきケガ（事故含む） 0件」

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム施設長 岡本 里保

2023年度 発達支援つむぎ 駒沢ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度のつむぎ駒沢ルームでは、『子どもも大人も「全力で自然体」で居られるルーム』『併設園としての深化』というテーマを大切に、活動を展開してきた。

受け入れを行う、行事や係りを共に担うなど、つむぎスタッフにとっては大きく環境の変化があった1年となった。大変なこともあった1年だったが、その中でもスタッフが「駒沢ごと」としての意識を高く持ち、保育、支援にあたる姿勢が見られるようになり、併設園としては大きく前進ができた1年だったと考える。

2023年度の良かった点、さらに良くした方が良い点を振り返り、2024年度もさらなる駒沢としての深化を目指していきたいと考える。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【マンスリー支援の充実、発展】 ・園児と共に生活を行い様々な友達と過ごすことで、互いの個性を認め合い協力し、時には葛藤を経験する。 ・1週間の中で連続性の支援を実施。「生活」をしっかりと見ていくことで、ジブンで歩く力、自然の中で遊び、ホンモノの体験をすること、着替えやトイレ、食事など生きていくうえで必要な力を育てていく。
	実践結果	・週に3日以上の利用を統一したことで、子ども同士の交流が深まり、つむぎの利用児では無く、園児として生活をする事ができた。 ・ジブンで歩くことが難しかった子どもも、ジブンの力で公園の行き帰りができるようになった。
	次年度方向性	引き続き、子どもの生きる力を育てていく。
2	計画・ねらい	【日課の徹底】 「自分でできることを自分でする」「怪我をしない強い体を育てる」為に「駒沢」に通う子ども全員が畑仕事、座禅、雑巾がけの実施。
	実践結果	●マンスリー支援 ・戸外活動9時出発の徹底は難しい日もあったが、スタッフ同士言葉を掛け合いながら9時の出発を目指すことができた。 園スタッフとも実現できるよう随時話し合いを行う。 ●キッズグループ ・活動開始時や子どもの状況を見て必要に応じて座禅を実施した。 ・活動終了時に雑巾がけの実施。 ・継続した畑仕事の実施をすることができ、月に1回(夏季を除く)は畑仕事を実施した。 ・プランターを活用し、毎日、毎週作物に触れ、成長を感じる事ができた。

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、座禅や雑巾がけの日課に取り組んでいく。 ・畑仕事を実施していくにあたり、スタッフの畑の知識も高めていく。
3	計画・ねらい	<p>【自分で考え、自分で選ぶことができる環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、選ぶことができる子どもを育てる為に、公園などの行き先を大人が決めるのではなく、子どもたちが自分で行きたい場所、遊びたいもの、過ごしたい人を決めていく。 ・大人が先回りをし、全てを教え手出しをするのではなく自分たちで考えられるような言葉かけや対応をしていく。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・行き先を選択できるようマップの作製を試みたが、公園の工事なども重なり取り組むことができなかった。 ・大人は子どもに対して「何して遊ぶ？」などの言葉かけをしていき、子どもが遊びを選べるような対応を心掛けてきた。よって子どもから「今日は〇〇がしたい」など自分でやりたいことを選ぶ姿が多く見られるようになった。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・行き先マップの作製。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>【接遇、神対応】</p> <p>「どろんこ会を選んでよかった」と思っていただけのように、スタッフ、保護者への気持ちの良い挨拶の徹底。</p>
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者、園スタッフ、駒沢に関わる全ての人へ気持ちの良い挨拶の徹底をすることができた。 ・スタッフ全員が駒沢の子ども、保護者と面識があるように、受け入れや見送り、「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」の挨拶を徹底することができた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き、利用者アンケートでも高い評価を得られるよう、スタッフ全員で丁寧な対応を行っていく。
2	計画・ねらい	<p>【他療育、園訪問の実施】</p> <p>どろんこ会の活動を伝える、また、他機関と繋がりながら全員で子どもを育てる為に、他療育、園訪問の実施を行っていく。</p>
	実践結果	園訪問：6園実施。2023年度の計画を達成することができた。
	次年度方向性	保護者に園、他療育の見学ができることを随時周知していく。
3	計画・ねらい	<p>【振り返りの内容の充実、お待たせしない待遇の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長を共に喜び共有していく。 ・活動時間を厳守することで、お待たせしない。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の出来事を写真や動画を使用し、その日の子どもの様子、表情がわかるように共有することができた。 ・活動開始時間をスタッフ全員が意識をし、時間を守って支援を行うことができた。
	次年度方向性	引き続き、保護者が駒沢を選んでよかったと思えるような保護者対応を心掛けていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【小1を知る】 5歳児と1年生の年間連携計画を軸に、「生きる力」を具体化し小学校へ働きかけていく為に小学校を知り、繋がる。
	実践結果	・小学校見学：2校実施。 ・園会議にて、小学校・特別支援学校の指導要領を読み解く研修を実施。
	次年度方向性	小学校見学：4校以上を目指す。
2	計画・ねらい	【近隣の施設の活用】 子どもが行ってみたい場所(警察署、消防署など)へ子どもと一緒にアポイントを取り、出向く。
	実践結果	子どもと出向くことは難しかったが、ハロウィンやクリスマスのイベントを通して交流をもつことができた。
	次年度方向性	現在繋がりがあがる施設と更に関係を深めていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【大人のにんげん力 up ①「駒沢」としての質向上】 スタッフ一人ひとりが接遇、衛生面、安全管理を意識し、駒沢の質向上に努められるようになる。
	実践結果	スタッフ一人ひとりが衛生面の向上の意識をもち、自ら掃除に取り組む姿が多く見られるようになった。よって、内部監査での衛生面の指摘項目は0となった(つむぎのみ)。
	次年度方向性	引き続き、利用する全ての方が気持ちよく使える環境を目指していく。
2	計画・ねらい	【大人のにんげんりょく up ②学び続ける姿勢】 ・子ども、保護者、自身のスキルアップの為に学ぶ姿勢を保ち続ける。 ・ルーム内のスキル向上。 ・それぞれのスキルを広め、ルームの知識、質向上に努める。 ・各自研修を受けたらスタッフに共有し、学びを他者に広めていく。
	実践結果	・園長大学の視聴の実施(4名以上)。 ・外部研修、各スタッフ年2回以上の参加。
	次年度方向性	2024年度は、園のスタッフに向けての研修を開くなど、つむぎからの発信を目指していく。
3	計画・ねらい	【チーム力の向上(互いを知り、頼り、高め合う)】 ・日々の業務の中で、子どもの様子、感動したこと、悩んだこと、発見など些細なことを語り、共有する。 ・日々の振り返りの中で、子どもへの理解を深め、支援の質の向上を目指す。
	実践結果	・毎週水曜日、ルーム会議を実施した。 ・活動の振り返りや、その日の子どもの様子を朝礼、終礼などで共有した。

	次年度方向性	引き続き、子どものことを全員で語り合える環境を目指していく。
--	--------	--------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	【気持ちの良い環境を維持する為の、職員の意識向上】 ・清掃、整理整頓の徹底(内部監査、衛生面指摘項目0を目指す)。 ・全職員が責任をもって自ルームを大切に持つ心を持つ。
	実践結果	・内部監査、衛生面指摘項目0の達成(つむぎのみ)。 ・内部監査に向けてではなく、スタッフが常に気になる箇所を見つけ、自ら掃除する姿が多く見られた。
	次年度方向性	引き続き、内部監査に向けて綺麗な環境にするのではなく、常に気持ちの良い空間を目指す。

〈6〉併設園としての深化、環境の工夫

1	計画・ねらい	【駒沢に関わる全ての人との「対話」を大切にしていく】 ・つむぎ、保育園などの枠にこだわらず、駒沢に関わる全ての子どもや大人と「対話」をしていき、互いを知る。 ・子どもも大人も混ざり合う。
	実践結果	・日々の保育の中での共有事項、子どもの成長などを、会話やチャットの中で共有、報告し合う関係性を構築することができた。 ・クラスの振り返りや保育の中で、マンスリー児や保育園児の成長やエピソードを語り合うことができた。 ・月に1回ケース会議、策定会を実施した。
	次年度方向性	引き続き、一人ひとりの子どもを理解し、駒沢としての保育、支援を深めていく。
2	計画・ねらい	【現在の環境に対して、混ざる為の工夫を試行錯誤していく】 併設園としての課題を、環境のせいにならない。
	実践結果	・園内、つむぎ内での事務連絡を共有し合うことができた。 ・マンスリー活動中、つむぎスタッフは園内で事務仕事を実施したことで、互いに仕事をしながら自然なコミュニケーションを図り、対話することができた。
	次年度方向性	引き続き、環境のせいせず、今ある環境の中で併設園として深化できるよう常に考えていく。
3	計画・ねらい	【駒沢としての質向上】 ・子ども、環境、保護者対応、駒沢に関わる人たちへの質向上を、「駒沢ごと」として考えていく。 ・日々の活動を共に考える。
	実践結果	・係(衛生、畑、防災など)を園、つむぎスタッフで一緒に行うことができた。 ・園会議、策定会議(つむぎ)、要支援児会議などを一緒に実施することができた。

次年度方向性	引き続き、係りや行事などを共に担っていく。
--------	-----------------------

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	222人	220人	234人	230人	238人	226人	233人	226人	232人	231人	232人	231人	2755人
登録見数	40人	40人	40人	42人	41人	41人	42人	43人	44人	46人	44人	46人	46人

(解説) 振替の提案を行ったことで、稼働率90%以上を保つことができた。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当3名(臨床心理士3名)

児童指導員2名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・安全管理、季節ごとの感染症予防
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの共有、改善案 ・ハザードマップの見直し

支援計画策定会議	月4回	・支援計画の見直し、決定
----------	-----	--------------

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面の管理。 ・月1回のエアコンなどの掃除の分担割り。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの共有。 ・インシデント、事故の再発防止策の話し合い。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と共に避難訓練の実施。 ・自主点検、備蓄点検の実施。
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダのプランターの整備。 ・計画的な活動の立案。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・カブトムシの飼育、世話の実施。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	<ul style="list-style-type: none"> ・駒沢どろんこ保育園や保護者との打ち合わせの実施。 ・祭りの企画、運営。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	意見要望などは得になし。 ・週3回以上の利用の徹底。 ・長距離散歩の実施。
キッズグループ	意見要望などは特になし。 ・戸外活動の実施の徹底。 ・子どもがやりたいことを尊重した活動内容の実施。
個別支援	意見要望などは特になし。 ・戸外活動への支援の実施。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談 発達相談	・半月に1回モニタリングを実施。
関係機関との連携	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・保育園訪問6件実施

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	【「食」を楽しみと感じる】 ・空腹感を味わった上で、自然と「食べたい」という気持ちになるように、9時出発を徹底し戸外での活動を充実させる。 ・友だちと食を一緒にすることで、食への興味が乏しい子どもも、友達食べている様子を実際に見ていくことで、食への興味関心を高めていく。
	実践結果	マンスリー活動時は給食を園児と共にとることができた。
	次年度方向性	命をいただく活動の実践
2	計画・ねらい	【食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践】 ・自らが畑で育てたものを収穫・調理・食べる経験をする。 ・「命をいただく」ということを体験し知る。
	実践結果	・1か月に1回の畑活動の実施をすることができた。 ・通年で、プランター栽培の実施をすることができた。 ・活動での調理活動の実施を年間4回実施することができた。

	次年度方向性	魚を捌くなど、命をいただく活動の実践。
--	--------	---------------------

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	特になし。
発作・痙攣等の対応	特になし。
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月21日に駒沢どろんこ保育園のキックオフにて、エピペンの研修を実施。スタッフ5名が新たに受講し習得済み。 ・ 本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 なし
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 なし
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 なし
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	【安全な環境】 子どもたちが安全に遊べる環境の確保。
	実践結果	・ 戸外、室内共に危険物が無いか確認の徹底したことで、内部監査の指摘無し。 ・ 事故防止委員会を園、つむぎ共に実施し、再発防止に努めた。
	次年度方向性	安全管理において、内部監査の指摘項目0を目指す。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	看板	玄関	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	法人の定める、マニュアルに則って行動を心掛けた。
2	実践結果	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努めた。
3	実践結果	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行った。また、質会議にて、避難訓練の質を高める為に話し合いを実施した。
4	実践結果	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるように努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

実習生の受け入れ無し。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 7名	12日 7名	9日 7名	14日 7名	18日 6名	8日 6名	13日 6名	10日 6名	8日 6名	12日 6名	16日 6名	3日 6名
園内研修	14日 7名	12日 7名	9日 7名	14日 7名	18日 6名	8日 6名	13日 6名	10日 6名	8日 6名	12日 6名	16日 6名	3日 6名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子 育ての質を上げる 会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

現在関係が築けている公園管理事務所やコンビニなど関係を築いていき、さらなる交流を目指す。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：駒沢公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：エーダンモール

世代間交流	9月21日に駒沢どろんこ保育園にて「イギリスと繋がろう」を実施
異年齢交流	8月1日に正和クラブにて伝承遊びを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

近隣の小学校への見学を実施。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月2日	弦巻小学校 支援学級	1名	授業風景	子ども間交流
6月24日	八雲小学校 支援学級	1名	授業風景	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- ・児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加。
- ・マンスリー児、保育園利用児の計画は園スタッフと共に策定会議を実施し作成。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シートを作成し、子どもの共有を実施。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施

ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：駒沢公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	1名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

自己評価開始予定時刻：9時30分

自己評価終了予定時刻：10時30分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

非常に高い評価を得ることができた。次年度も引き続き評価を得られるようスタッフ一同努めていく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 駒沢ルーム施設長 清水 郁

2023年度 発達支援つむぎ 目白ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

ルームスタッフ一丸となって徹底的に“つむぎだからこそ”を追い求めていき、必要な支援を提供していくことを心掛けた。

戸外活動、長距離散歩、畑仕事、生き物の世話、さくらんぼリズム、雑巾がけ、座禅などの「生きる力を育む」ために必要な日課・基本活動を徹底し、火・水・土をはじめとした10より100のホンモノの経験を通して、どろんこ会が掲げる「6つの力」を身に着けることができる環境設定を行い、つむぎだから成長できることを増やし、子どもの成長を見守った。

「子どもが自己選択すべきこと」と「大人が教えねばならぬこと」を把握し、計画的に環境を用意するために、スタッフは園長大学®保育士大学などを活用し、常に学び続けながら自身の支援を更新したり、ホンモノの体験を語ったりすることができるように「にんげん力。」を高め、常に背中を見せられるような人材を目指すことができた。

子どもへの支援だけでなく、保護者支援・接遇においても質の高いサービスを求め、最高品質の接遇を提供することで、「最高に幸せ!」と思われるような選ばれる施設を目指しながら運営し、保護者アンケートにて良い評価を頂くことにつながった。

また、地域の未来を担う子どもたちが地域と共に成長できるように、近隣の小学校、保育園、中学校、図書館、福祉施設、寺など様々な人や場所と連携を取りながら、混ざりあいながら、インクルージョンを実践することができた。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：日課・基本活動の実施。 ねらい：さくらさくらんぼリズムや雑巾がけ、座禅などの日課を当たり前 に実施し、継続して積み上げていく事で「強い心と体」の基盤を作ってい く。
	実践結果	すべてのグループで当たり前に行うことができた。継続して行うこ とで子どもたちの「強い心と体」を養うことができています。
	次年度方向性	継続して日課基本活動を当たり前に行っていく。ただ行うのではなく、次 年度以降は日課基本活動の質にも焦点を当てて取り組んでいく。
2	計画・ねらい	計画：設定されない・自分で考えて動ける環境づくり。 ねらい：自分で考え、選択して動ける力を付けるために、設定されない環 境の中で、自分の意見を持ち、活動を考え、周りも巻き込みながら自分の やりたい事を選択できる仕組みづくりを行う。

	実践結果	子どもたちがジブンで活動を選択し、やりたい事を全力で取り組むことで、「にんげん力」を育むことができた。意見を主張するだけでなく、他者の意見を聞いたり、巻き込んだりしながら活動を繰り返し広げることができていた。
	次年度方向性	欲しいものややりたい事をすぐにその場で選択できる環境を引き継ぎ整えていくことで、自己選択力をすべての子どもに身につくように支援をしていく。
3	計画・ねらい	計画：異年齢を主とした直接体験のグループ支援。 ねらい：支援を通して、①友だちとの協働②感情コントロール③目標の達成を子どもたちが育ちあいながら身につけていく。
	実践結果	異年齢での育ちあいを通して、上記3点をすべてのグループで身につけることができた。大人が教えるものではなく、子ども同士の関わり合いの中で学んでいる様子が見られた。
	次年度方向性	異年齢での支援の中で、大人が教えるのではなく、子ども同士の関りの中で身につけられるように見守りながら支援していく。
4	計画・ねらい	計画：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した支援と記録。 ねらい：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点から支援を考え、見守る支援を実践し、適宜ポートフォリオ等にて記録としてためていき、環境設定やスタッフが行う支援を更新していく。
	実践結果	毎月欠かさずにすべてのスタッフがそれぞれのグループ支援において、10の姿をとらえながらポートフォリオを作成し、支援の検証・更新を行うことができた。
	次年度方向性	報酬改定により、より一層スタッフが5領域への意識を高めつつ、どろんこ会の6つかや幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をとらえながら支援していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者や地域を繋げる場所になる。 ねらい：つむぎが保護者同士でつながる場、保護者と地域がつながる場になっていくために、ともに学び情報交換し、保護者もインクルージョンへ巻き込んでいく。
	実践結果	放課後等デイサービス座談会や就学座談会などのイベントを通して、保護者同士の交流を促すことができた。また、日々の支援においても、心地よく話しやすい空気づくりに努めた。
	次年度方向性	座談会だけではなく、日々のグループ支援においても保護者同士気軽に話し合える環境を目指していく。定期的にグループ内で座談会を行うなどできる方策をスタッフが自分たちで考え、実践していく。
2	計画・ねらい	計画：最高品質の接遇を目指していく。 ねらい：「つむぎって最高！」と常に感じられるような最高の接遇を心掛けていく。常に保護者の心に寄り添いながら、期待値を上回る保護者支援を目指す。

	実践結果	コンピテンシーなどを活用しながら、最高の接遇を目指すことができていた。保護者アンケートにおいても、前年度より良いご回答を頂くことができた。
	次年度方向性	現状の接遇を維持しながら、期待値を越える感動を提供できるように日々施設長・児童発達支援管理責任者・スタッフが研鑽をしていく。
3	計画・ねらい	計画：誰もが一息つける空間にする。 ねらい：子育てに限らず、悩みがあって目白ルームに来ると、ホッと落ち着ける雰囲気にするために物的にも人的にも環境づくりをしていく。卒園してもまた来たくなる施設になる。
	実践結果	保護者がカフェにいるときに、誰かが一言かけたり、相談に乗ったりしながら、人的にも物的にも安心できる環境をつくることができた。
	次年度方向性	保護者の悩みは一度の相談では終わりではなく、子育てをしている限り続くものであると理解し、何かあればすぐに相談できる場所づくりを心掛け、人的な環境の向上も目指していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域でのインクルージョンの実践。 ねらい：当たり前につむぎの子どもたちが街に溶け込んでいるようなインクルージョンが展開されることを目指していく。
	実践結果	戸外に出ること、様々な人と関わっていくことを心掛け、実践することができた。
	次年度方向性	インクルージョンに答えはないため、目白ルームなりのインクルージョンを常に考え、アクションプランを立て、実践していく。
2	計画・ねらい	計画：気軽に相談できる拠点として認められる。 ねらい：「いつ」「どこで」「だれでも」気軽に相談できる地域の拠点になる。特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。
	実践結果	社会福祉協議会などを含む地域の方々への情報提供や、一緒に活動することを増やし、気軽に相談できる場所としての認知が広まるよう周知してきた。
	次年度方向性	これまで以上に地域へのアウトリーチを増やしていき、認知を広め、誰もが気軽に相談できる場所として知られることで、困っている保護者の相談先として機能させていく。
3	計画・ねらい	計画：ホンモノの経験ができる場所として地域の方々にも認知される ねらい：施設内やつむぎ利用児にとどまらず、地域の人たちと共に活動を展開させることで、目白ルームが火・水・土などホンモノの経験ができる場所として認知されるようにアウトリーチを進めていく。
	実践結果	つむぎとしての活動の取り組みをブログで伝えたり、社会福祉協議会などを通して周知を促したりした。
	次年度方向性	つむぎ自体への認知度は上がってはいるが、ホンモノの経験ができる場所としての認知度はまだ低いため、ワークショップなどのアウトリーチを増やしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフの「にんげん力。」のさらなる向上。 ねらい：経験をその場だけの出来事と捉えるのではなく、未来の経験や成長に繋がるものとして捉え、子どもたちの「にんげん力。」の向上につなげていけるスタッフの育成をしていく。
	実践結果	常に子どもたちの未来という視点を持ちながら支援を組み立て、実践することができた。その積み重ねによる、スタッフの「にんげん力」の向上が見られた。
	次年度方向性	現状で満足するのではなく、子どもたちの「にんげん力」の向上のためのスタッフの「にんげん力」を向上させるために、様々な経験を自らしていく人材の育成を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：支援を楽しめる、好奇心やチャレンジ意欲をもったスタッフの育成。 ねらい：「楽しくなければつむぎじゃない」を根底に置き、子ども一人ひとりの「ワクワク」「ドキドキ」を追い求めていくことができるスタッフの育成をしていく。
	実践結果	常に「ワクワク」「ドキドキ」を追い求めながら年間通して活動を行うことができた。その結果、利用者アンケートの満足度の向上につながったと考えられる。
	次年度方向性	環境的に恵まれていない中で、できないからあきらめるのではなく、「kの環境でもどのようにしたら子どもがワクワクするか」を常に考えられる人材の育成を行っていく。
3	計画・ねらい	計画：機会を排除しないスタッフの育成。 ねらい：「危ないから子どもにやらせない」「子どもにはまだはやい」と安易に決めつけるのではなく、「どのようにすればよいか」という思考を持てるスタッフの育成。
	実践結果	安全管理を最大限に配慮しつつ、こどもの「やりたい」という気持ちをめいいっぱい実現することができた。
	次年度方向性	安全管理について毎年研修などを通して学び、再確認しながら子どもたちの「やりたい」気持ちを大事にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：食の循環、環境への意識を育む ねらい：畑仕事や食材加工、生き物の世話などを通して食の循環や環境への意識を高めていく。
	実践結果	昨年度と比較して、倍以上の畑・プランターの面積を確保し、加工し、生き物の世話を行った。
	次年度方向性	いつでも畑仕事や生き物の世話ができる環境を用意し、子どもたちが自分から環境について考えられるような仕組みづくりを行う。
2	計画・ねらい	計画：園庭をはじめとした植樹などにおける木陰づくり ねらい：省エネ、省電力、カーボンニュートラルなどを理解するためのきっかけづくりを行う。

実践結果	植樹による木陰づくりを行い、木や環境への意識を高めることができた。
次年度方向性	植樹をより充実させ、多くの子どもたちが関わることで、「自分たちが」という主体性に繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	197 人	197 人	196 人	206 人	213 人	191 人	212 人	217 人	211 人	224 人	203 人	220 人	2487 人
登録児 数	49人	50人	50人	51人	51人	49人	54人	54人	55人	58人	61人	62人	62人

（解説）感染症の流行に合わせて、増減が見られた。年度末に、次年度を見据えた利用申し込みが増えた。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当4名（作業療法士3名、理学療法士1名）

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回	・コンピテンシー

	※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質向上に関わる勉強会 ・研修報告やその内容に関するディスカッション ・ケース検討 ・衛生管理手順の確認
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自ルームでの事故やヒヤリハットの検証 ・他ルームの事例をもとにした安全管理研修
支援計画策定会議	適宜	個別支援計画作成時に開催し、支援に関わる全てのスタッフで子どもの支援方針を検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の清掃の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策を行い、計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を実行した。
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を行う。
食品衛生管理係	園庭のプランターの整備、体験学習時の衛生チェックなど、計画的な活動の立案や衛生管理を行った。
畑係	めだかやドジョウ、ザリガニ、金魚などの飼育管理、動物や植物に

	触れる機会の検討立案を行った。
生き物係	子どもたちと一緒に世話をするための活動計画、ブログで発信する活動やテーマを取りまとめた。
体験学習係	計画的な体験学習実施のための全体計画の立案と実践を行った。

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
アトリエ係	メジロックとのアート活動の窓口として連絡調整を行い、交流活動の推進を行った。
異世代交流係	地域活動の窓口として、各種地域行事の参加推進を行った。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

異年齢グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現して楽しい気持ちを共有する ・友達とのやり取りを楽しむ ・みんなで協力してひとつの事をやり遂げる ・人とのかかわりの場所を広げ、食の循環や環境への意識を高める
親子グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎが安心できる場所となるよう、保護者や友達と一緒に楽しみながら活動する ・体づくりを中心に親子のかかわり、友達のかかわりを様々な場面で経験する ・楽しい場所に、いつもの友達が来ているという安心感からお互いを意識しやり取りが増える
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれにあったペースで活動をおこなう ・安心できる環境にて、子どもの「やりたい」「できた」という気持ちを大切に支援を心掛ける ・子どもが自分で活動を選択するように環境整備をする ・同じ時間に活動している友だちと場を共有したり一緒に活動したりする
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望者に対し行った
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

関係機関との連携	4～3月まで 合計23名 が参加済み (3月1日時点) ・就学や就園に関する各関係機関との連絡調整を実施した。 ・保育園・幼稚園等と連携し、自施設における支援内容の調整を行った。
----------	---

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：自分で育てて自分で食べる。 ねらい：種や苗を植えるところから収穫までを経験すると同時に収穫した野菜から種を得ることを知る。
	実践結果	ほうれん草、ジャガイモ、人参、オクラ、枝豆、サツマイモ、小松菜など様々な野菜を育てて、自分たちで食べた。また、一部の野菜からは種を得ることもできた。
	次年度方向性	自分で育てて、自分で加工・調理をする経験を積み重ねることで食の循環について体験を通して学んでいく。
2	計画・ねらい	計画：食を通して様々な“楽しい”を経験する。 ねらい：様々な形での食を楽しむ。
	実践結果	季節の食材を味わい行事に即した調理や加工（梅ジュース・干し椎茸・夏野菜カレー・やきいもなど）を経験した。
	次年度方向性	楽しみながら、実体験を通して、食の循環を学んでいく。
3	計画・ねらい	計画：子どもと一緒に大人も食べる ねらい：保護者やスタッフと一緒に食べることで、「ともに生きる＝食べること」についての意識を高め、どろんこ会の食育の観点が日々の生活に般化されることをめざす。
	実践結果	ドジョウやちくわなど、率先して調理して食べることで、“調理して食べる”という概念を子どもに知らせることができた。
	次年度方向性	引き続き、スタッフが背中を見せながら調理して食べていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	① 9月に新型コロナウイルス、児童5名・スタッフ5名蔓延する。 ② 1月にインフルエンザ、児童2名感染報告有り。2月20日に終息

発作・痙攣等の対応	対応例なし
エピペン使用できるスタッフの状況	本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月16日、10月15日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：自分で考えて、自分で選択する環境づくり。 ねらい：自分で考え、行動できるようになるために環境設定を行う。
	実践結果	子ども主体で、子どもたち自分で考えて活動を考え、話し合い、実践することができた。
	次年度方向性	自分で考えるだけではなく、自分で考えたことを積極的に共有して他者と意見をぶつけ合える環境に更新していく。

2	計画・ねらい	計画：みんなで考え、話し合い、自分たちで決めていく力を育てる。 ねらい：自ら行動する力を育てるとともに、友だちと試行錯誤しながら活動を展開できるようにする。
	実践結果	友だちと意見を伝え合い、一緒に考えながら試行錯誤する活動を多く展開することができ、道徳規範意識に繋げることができた。
	次年度方向性	集団でのコンセンサスの取り方や意思決定のやり方など、人と人との関わりの中でのみ身につかない力を伸ばしていける環境設定をしていく。
3	計画・ねらい	計画：身近な生き物を通して生死が感じられる環境。 ねらい：生き物にとって良い飼育環境はどんなものかを考えたり、調べたりして、飼育物を自分の仲間のように身近に感じる。生き物へのより深い興味や理解、愛着が生まれ、生死に向き合うきっかけとする。
	実践結果	ドジョウ、メダカ、ザリガニ、クワガタ、金魚など様々な生き物を飼育し、生態系を調べながら生き物の生死について学ぶことができた。
	次年度方向性	鳥をさばく、魚をさばくといった活動を通して、引き続き生き物の生死と身近な食について学んでいく。

〈7〉 手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッフが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練する。 非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解しておく。
2	ケガ事故防止	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行う。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿を職員間で共有し改善策を出す。
3	防犯	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグに対する正しい知識を身につけ、注意報発令の把握に努める。発生時には、危機管理マニュアルに則って対応し行政判断を仰ぐ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は受け入れがなかったが、引き続き積極的に受け入れる体制をつくり、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材育成を担えるようにする。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 6名	11日 6名	8日 6名	13日 6名	10日 6名	14日 6名	12日 6名	9日 6名	14日 6名	11日 6名	8日 6名	8日 6名
ルーム内専門分野研修	19日 5名	16日 6名	21日 6名	18日 6名	15日 6名	15日 6名	19日 6名	16日 6名	21日 6名	18日 6名	15日 6名	15日 6名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域の様々な施設と連携を図り、交流の方法を探るとともに合同活動の実現へつなげることができ

た。

商店街やギャラリー、社会福祉協議会などと協力したり、ワークショップを行ったりしてつむぎが地域の一員になるような企画を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：上がり屋敷公園にて
商店街ツアー	適宜 主な行き先：椎名町商店街、池三商店街等
その他活動	毎月第4水曜日にメジロックにてアート活動を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

学校へ実際に訪問できるような企画を予定していたが、自治体との調整ができず実現が難しかったため、先輩保護者や職員の知識をもとに、保護者様に就学座談会という形式にてオンラインで周知する機会を持った。次年度以降、小学校との連携も強化していきたいと考えている。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月16日	王子特別支援学校	2名	学校見学	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適性、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成した。おおよそ提示2ヶ月前に保護者へモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズ等について把握し、1ヶ月前には児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達をとらえ、適切な支援を考えた。また子どもの成長や状況の変化等に柔軟に対応し、必要に応じて6ヶ月以下での個別支援計画の見直しと作成を行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

必要に応じて保護者と相談の上、就学支援シートの作成を行い情報の共有を図った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
青空保育	月1回 公園名：上がり屋敷公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年8月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：増田義之、平石友理

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：82%

子どもたち一人ひとりが常に輝ける場所でありたい。というスタッフの思いのもと質の高い体験型の支援を心掛けてきた。また接遇や保護者対応についても定期的に研修の機会をもち、スタッフ間での対応力向上に努めた。利用者アンケートではスタッフ間のチームワーク力の向上や楽しんで通えているといったご意見もいただき、さらによりよいルームを作り上げる意欲へとつながった。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 目白ルーム施設長 増田 義之

2023年度 発達支援つむぎ 横浜西ロルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人理念である「にんげん力。育てます」に基づき、発達支援つむぎ 横浜西ロルームでの子育て目標を「自分で考え、自分で決め、自分らしく生きていける人になっていく。自分と他人をお互い認め合い、助け合える関係を作れる人を育てる。またそれを支えられる地域を作り上げていく」と定め、基本方針とした。

加えて、2023年度施設運営方針である「学び直し、学び続ける園運営」および、運営本部 Missionである「大人のにんげん力 UP」「接遇★神対応」という指針に、注力しながら運営した。

また、それを達するために、

- ① 引き続き、支援形態にかかわらず、じっくりと子供一人ひとりと向き合える時間を確保し、支援を行った。
- ② 引き続き、信頼している大人達に見守られながら、子ども同士の関わりの中で、それぞれが自分らしく自己表現をし、時には喧嘩もしながら、各々の思いを伝え合えるようにした。
- ③ 地域の子育て拠点として、地域の人や施設（保育園・幼稚園・小学校など）と、子どもがその子らしいペースで育つために必要な環境について語り合える関係の構築を進めた。

の3つを重点施策として、スタッフ全員で取り組みを行った。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「戸外活動、畑仕事の充実」 ・地域資源を精査し、戸外活動を発展する
	実践結果	畑仕事は実施できなかった。一方で、室内でできるプランターの活動や生き物の飼育を継続することで、普段は食べない野菜でも、自分で調理したものであれば食べるという子どもの姿が見ることができた。地域のイベントに参加し、地域の店舗とやり取りをする機会を増やすことができた。
	次年度方向性	今年度、関係を作ることができた相手との関係の継続、および借用地ではない方法でも畑活動（主にプランター）を継続して行う。
2	計画・ねらい	「地域の中での支援の実施」 ・地域の人や近隣の施設の方と関り、社会性やコミュニケーションの向上のために、興味を持って人と関われる土台作りをねらいとして、子どもが地域の一員であることを知る。
	実践結果	散歩中や探索中に定期的に出会う地域の人に挨拶し、警察署に挨拶をしに行く等、相手見自らコミュニケーションに興味をもって行うことができた。
	次年度方向性	次年度も、人への関心、興味を持ちながら、相手との関わりを継続し、深めていく実体験を提供できる場を設けていく。

3	計画・ねらい	「自分で考え、決めることができる環境づくりの実施」 ・自分で考え、選択して決めることができる力を育てる為に、自分の遊ぶ場所ややりたいことを大人が先回りをして教えるのではなく、子どもが自分で考えることができる対応を行う。
	実践結果	下半期に入り環境について改めて話し合ったうえで、子どもにとっての遊ぶ場所ややりたいことの選択肢を増やせるよう工夫ができた。
	次年度方向性	大人が方向性を一致させ、環境に取り組んでいくことが有効であることがわかったため、次年度もまずは大人の方向性を一致させるようコミュニケーションを大切に、それが子どもに還元されるよう話し合いや工夫を続ける。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「振り返り内容の充実」 ・子どもの育ちゆく姿の喜びと悩みを保護者と一緒にわかちあう。
	実践結果	支援中に撮影した写真やビデオを見ながら振り返りを行った。
	次年度方向性	引き続き、支援後の丁寧な振り返りを実施するとともに、どろんこ会の理念やつむぎの方針等もご理解いただけるよう伝えていく。
2	計画・ねらい	「接遇から幸せを感じる対応を行う」 ・「つむぎを選んで良かった！」と感じられるような最高の接遇を心がけていく。
	実践結果	今年度は、去年度よりも利用児からの話を聞いて契約に至ったご家庭が多かった。
	次年度方向性	利用児の保護者が、自ら勧めたくなるような支援や接遇を提供していく。
3	計画・ねらい	「所属園、就学先など、各関係機関との連携」 ・関係機関との連携をとることで、子どもと保護者が安心して生活できる環境作りを行う。
	実践結果	保護者や就園先からのニーズ、スタッフからのご提案など、様々な形で必要に応じて行うことができた。
	次年度方向性	保護者からのご希望のみならず、引き続きスタッフからの提案も続けていくことが利用児にとって最善になると考え、継続する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「青空保育、子育て相談の継続した実施」 ・地域の子育て支援拠点として、誰でも気軽に相談できる地域の拠点となる。
	実践結果	実施月により参加家庭の数には変動があったが、継続や複数回参加されている地域のご家庭があり、事業所の周知や、地域の人との触れ合いの場となった。

	次年度方向性	継続して実施することで、もっと気軽に参加できる地域の家庭数を増やし、どろんこ会の目指す子育てへの賛同者を増やしていく。
2	計画・ねらい	「支援内容の発信」 ・行っている支援の発信を行い、認知度を上げる
	実践結果	青空保育、営業、つむぎ新聞（ルーム内）発行、Instagram 開設により、以前よりも認知度を上げる取り組みはできた。
	次年度方向性	引き続き、効果的な媒体を検討しつつ、西ロームの支援内容の認知度を上げていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「大人のにんげん力。の向上」 ・自分自身の成長を体感しながら、子どもの「にんげん力。」の向上につながる意識を持ったスタッフの育成を行う。
	実践結果	どのような自分でありたいかという気持ちを持つスタッフが多い一方、その思いと他者からのフィードバックを自ら求め、相手に伝えやすい環境が構築できず、上半期は難しかった。下半期は、上半期の反省を生かしながら、お互いに話し合うことができ、どのような自分でありたいのか、子どもに背中をみせることを含め、意識しながら支援やチームとしての経験を積み重ねることができた。
	次年度方向性	それぞれが自分と向き合うことをあきらめず、またお互いが話しやすい環境という土台を継続する中で、大人の人間力。も向上を続ける。
2	計画・ねらい	「スタッフ勉強会」 ・スタッフの経験や学びを、自ら発信することで、お互いがチームの一員であると意識していく。
	実践結果	3か月に1回ほどのペースで、スタッフが知りたいことを知識が持っているスタッフに教わる勉強会が実施できた。
	次年度方向性	スタッフからの主体的な勉強会を、2か月に1回程度で行いたい。
3	計画・ねらい	「小学校学習指導要領を知る」 ・小学校学習指導要領を理解し、就学後を見据え、就学前の支援を再考する。
	実践結果	一部のスタッフしか実際に小学校一年生を見ることができなかったが、アプローチカリキュラムも含め、就学後の内容を共有できた。
	次年度方向性	実際に小学校に出入りをする機会を増やしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	コンポストを活用し、食の循環を知る ・身近に行える環境活動の一步としてコンポストを設け、環境に関心を持つきっかけにする。
---	--------	---

	実践結果	プランターやペットボトルでの野菜作りの際に、コンポストの堆肥を利用した。コンポストに興味を持った子どもには、中を開けて見せて役割の説明を行った。
	次年度方向性	コンポストを継続し、それぞれの発達に合わせた説明をし、環境に興味に向くようにする。
2	計画・ねらい	生き物の世話を通して、生死を知る
	実践結果	カイコ、カニ、ダンゴムシ、テントウムシの世話を通し、生き物の環境について触れることができた。
	次年度方向性	カイコの飼育、子どもが捕まえた生き物の飼育を継続し、生死について触れる機会を提供する。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	89人	101人	100人	90人	99人	64人	58人	62人	65人	66人	58人	60人	912人
登録児数	22人	26人	23人	23人	21人	262人							

(解説) 上半期、児発管が不在のため、登録児数が伸び悩んだ。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

保育士1名

機能訓練担当1名(作業療法士1名、臨床心理士1名)

児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有
事故防止委員会	月1回	事業所内で起こったヒヤリハットやインシデント、事故の原因分析をし、再発防止策を検討する。
支援計画策定会議	46回	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整した。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が参加した（上半期は児発管が不在であったため、児発管参加は下半期のみ）。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	年2回	児発管
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。時期ごとの様子や感染症について、特に本児の体調や気温・室温に注意するよう声掛けをし、スタッフが意識できるようになった。
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。

	スタッフ間で危険箇所や点検の仕方を学び合いができた。
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を行った。防災訓練ではスタッフ間での疑問を話し合い、工夫を行うことでスムーズな避難を目指した。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。係のみならず、手が空いているスタッフが一緒に行うことで、係の仕事の流れを共有できた。
畑係	主に、プランター栽培の立案、実行を継続した。 畑仕事の後に食育と必ず繋がるよう立案をしていたため、食の循環に繋がった。
生き物係	動物や植物に触れ合う機会の立案、実行。またルーム内で、カイコ等の虫の飼育を主に行うことができた。
体験学習係	体験学習の立案、実行を行った。 普段行えない経験を話し合い、出勤スタッフの人数との兼ね合いも考えながら安全に体験学習を行うことができた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
青空保育係	毎月の青空保育の内容を立案、実行する。岡野公園で年間を通して実行ができ、参加者も去年よりも増やすことができた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

午前グループ	上半期 2～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした時間の中で、自分のことを自分で決める土台が培われるよう特に「養護」を重視して関わる事ができた。 ・集団生活の中で、自分のペースで遊ぶことを保障し、子どもが自分のことを十分に受け止められたと感じられるよう接することができた。
	下半期 2～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な養育者（保護者、スタッフ）から十分に受け止められた満足感から「他者への気づき」「関わってみたい思い」などが育まれるよう支援ができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で十分に遊びきったのちにルームに戻り、仲間と共に昼食を食べるなど、生活の中での支援ができた。
午後グループ	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが主体的に活動に取り組めるような人的・物的環境を整え、自らの行動を自分の意志で決定していけるように促すことができた。 ・ 遊びの中で、子ども同士がお互いを知ること、スタッフに見守られながら自分の気持ちを安心して表現することを大切に支援ができた。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の行動を決定する要素として、他者の気持ちや社会的なルール、その時の周りの状況など、色々なことに自ら気づき、行動を決定するための判断材料としていけるように支援を行った。 ・ 幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を、子ども一人ひとりのペースで獲得していけるようにスタッフ間で話し合いながら、工夫を行った。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフとの情緒的交流を密にとることで、人に対しての基本的信頼感を形成しながら他者意識を高めることができた。
事業所内相談支援	随時	4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点) 必要に応じて行うことができた。
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施ができた。
関係機関との連携	随時	4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属している保育園・幼稚園との連携を行った。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用した。

〈2〉 計画した年間行事の振返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・畑で収穫した野菜などを調理し、味わう。 食べたい人が、食べたいときに、作って食べる経験を重ねることで、食べる意欲を育む。 食品アレルギーの有無など、食の多様性を知りながら認め合う。
	実践結果	プランター栽培した野菜を自分で調理し味わうことができた。 子どもが自分で、調理の後に、食べる・食べないも選ぶことができた。
	次年度方向性	プランターでの栽培を続け、食の循環に繋がるよう、畑仕事を展開していく。
2	計画・ねらい	SDGs について考える 身近なところでの食の循環を知る。
	実践結果	コンポストに興味をもった子どもには、コンポストについて発達に応じて説明することができた。
	次年度方向性	コンポストを継続しながら畑仕事に活用していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ5名のうち、4名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み

	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月27日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「子どもたちが主体的に遊べる場」 ・子どもたちが自分のしたいことを見つけ、やり遂げやすい環境にすることで、より深い学びを得られるようにする。
	実践結果	室内環境を見直し、子どもの手が届く範囲に可能な限りの遊び道具や工作、文具などを設置した。また、自然物に触れる工作などで、自分で選ぶことができ、大人が使わないだろうと思いついていた物を使う姿などが見られた。
	次年度方向性	引き続き、大人の思い込みで出さない物を検証しながら取捨選択を行って物の厳選をしていく。子どもの興味ややり遂げたいと思える環境を構成していく。
2	計画・ねらい	「ハザードマップを作る」 ・普段活動している公園の危険個所を子どもたちと考え、自分の身を自分で守るという安全教育につなげる
	実践結果	ハザードマップは必要に応じて見直しを行うことができた。スタッフ間でもスムーズな共有ができた。また、子どもから自発的に「これは小さい子には危ないね」など、異年齢の心配をする発言が見られた。
	次年度方向性	主に5歳児には自分の身や友だちの身を守る話をするのができた。それ以下の年齢にも、危険について話す機会や気づく機会を設けていく。
3	計画・ねらい	「カフェスペースの充実」 ・つむぎ利用者も地域の方もリラックスできるような場所に整えていく
	実践結果	カフェスペースのアナウンスは行ったが、実際来所された地域の方の総数は少なかった。
	次年度方向性	もっと身近な場になるよう、SNSなどの告知も活用していく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	防火管理者が中心となり月1回実施した。たなお全利用児が年に1回は避難訓練に参加する機会を提供できた。
2	ケガ事故防止	安全対策係が中心となり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、スタッフ個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真を用い起こりうる事故やケガを検討することができた。
3	不審者侵入訓練	防火管理者、安全対策係が協力し、年に2回不審者侵入訓練を実施した。
4	光化学スモッグ	自治体情報をスタッフに即座の伝達し、マニュアルにのっとり、戸外活動を避けたり、切り上げて帰所したりという判断が迅速に行える体制を整えることができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育士養成校等から、実習受け入れの打診があった場合には可能な限り受け入れ、次の世代を担う保育・福祉への人材育成に寄与できるようにする。加えて、近隣の大学、高校、社会福祉協議会等からのボランティアの希望者、中高生の職場体験も同様に受け入れる。なお、多くの方に実習に来ていただくために、保育士養成校等に連絡し、顔の見える関係を作っていく。そうすることで、次世代の保育・福祉の人材育成を図るとともに、どろんこ会の目指す子育てを地域に広め、つむぎに通う子もそうでない子も地域で安心して生活していきやすくなるようにする。

1	実践予定内容	保育士養成校等からの実習受け入れ。
2	実践予定内容	近隣大学、高校および社会福祉協議会等からのボランティア受け入れ。
3	実践予定内容	職場体験の提案および調整。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉 中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉 施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	27日 7名	24日 7名	29日 7名	20日 7名	15日 7名	8日 6名	20日 5名	21日 4名	9日 4名	15日 4名	21日 5名	22日 5名

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子 育ての質を上げる 会議）	18 日 2名	16 日 2名	20 日 2名	18 日 2名	22 日 2名	19 日 2名	17 日 2名	21 日 2名	19 日 2名	16 日 2名	20 日 2名	19 日 2名
施設長勉強会	18 日 1名	16 日 1名	20 日 1名	18 日 1名	22 日 1名	19 日 1名	17 日 1名	21 日 1名	19 日 1名	16 日 1名	20 日 1名	19 日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
園長大学®・保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインターンシップ	希望するスタッフはいなかった											

〈3〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

〈2〉昨年度同様、青空保育を継続して行い、地域との交流のため、つむぎができることを考える機会となった。引き続き、つむぎから積極的に、安心して交流できる機会を作ることができた。

〈3〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：岡野公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	公園や散歩時に地域の人にご挨拶し、声をかけられることでの交流ができた
異年齢交流	日々の支援の中で実施した
地域拠点活動	つむぎカフェを開放し、地域の方の交流の場とした。少人数ではあるが、カフェ利用に訪れた地域の人がいた。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学支援シートを主な連絡ツールとし、利用児童がスムーズに就学先に適応できるように情報提供し、連携を図った。また、近隣小学校の地域に公開する取り組みについてはスタッフと子どもが積極的に参加することで、地域の一員として連携が図れるようコミュニケーションを取った。利用児の日常の様子を直接見学するために、園への訪問を数回行うことができ、担任や園の先生の困りごとにも対応することができた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月28日	横浜市立戸部小学校 通常学級、特別支援学級	1名	見学会・意見交換会 （横浜市立戸部小学校）	学級見学、スタッフ意見交換

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置いた。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成した。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにした。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得た。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行った。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをした。

〈1〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

個別支援計画の見直し時期にあわせて、対象児童のケース会議を実施した。原則半年に一度の頻度となるが、ケース会議実施中、次月の継続について判断し、必要に応じて継続的な開催をした。

〈2〉進級引継、および、小学校への引継

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を参考に、子どもの育ちゆく姿を小学校に伝えられるよう、就学支援シートを作成した。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	(月)～(土) 10:00～17:30 ⇒計3件相談実施済み												
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～18:00 にて実施												
青空保育	月1回 公園名：岡野公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	4名	5名	5名	2名	0名	10名	4名	6名	10名	13名	0名	2名	52名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年8月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

〈4〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

「お友だちにかかわるようになった」「気持ちの表現や言葉が増えた」「家ではできない活動の中で遊び方も上手になった」「放課後デイサービスの事業もお願いしたい」等の嬉しい言葉をいただくことができた。一方、「一人のスタッフだけ言うことが違う」といった、スタッフ間での情報共有や連携不足の指摘があったため、今後スタッフ間での情報共有やスムーズな連携が課題と考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

インクルーシブ保育の実践を行う中で、混ざり合う環境の構築に力を入れて取り組んだ。また、実践してみたことで、新たに発生した必要な環境の改善や、活動の計画立てを園とつむぎと合同で作成することを強化した年であった。結果、活動内容の共有やねらいを共通認識のもと保育、支援にあたることができている。

課題としては、計画立てをする前に、日々の振り返りを行う際の仕方（内容）については、子どもの姿から次の計画を立てていくための話し合う時間の抽出が十分ではなかったことが次年度の課題としてあげられる。

また、今年度はつむぎスタッフが保育を展開する機会は設けることができたため、次年度は更に、園スタッフが支援の必要な子どもに対して合理的配慮を行うための療育的目線を持ち関わるスキルの向上をしていけるよう、更に対話する時間を増やしていけるような体制を構築していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：支援内容の明確化を図る ねらい：支援内容の意図やどんな力や成長に繋がるかを明確化し、利用者の理解促進にも繋げる
	実践結果	支援後に都度フィードバックを行うと共に、書面や写真で支援の様子を伝えた
	次年度方向性	支援後に都度フィードバックを行うと共に、定期的に懇談会や事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）を利用し書面や写真で支援の様子を伝えていく
2	計画・ねらい	計画：PDCA サイクルの確立 ねらい：計画→実行→評価（振り返り）→改善のサイクルを繰り返し行うことで、継続的な業務の改善を促し質の向上へ繋げる
	実践結果	・保育週案を園と共に計画立てを行った ・準備や実行はなるべく全スタッフで行えるよう活動のねらいを周知し行った
	次年度方向性	・引き続き、振り返り、保育計画を園と共に行い、ビジターは支援毎の丁寧な振り返りをおこなっていく ・子どもの姿→読み取り→ねらい→環境構成・計画立ての手順を踏む
3	計画・ねらい	計画：原点回帰とゼロからの経験を行うことのできる環境の構築 ねらい：「生きる力」を育むための経験を積み重ねる
	実践結果	・日課、基本保育活動への参加（発達に合わせた参加の仕方を目指す） ・造形、感触遊び、調理、畑仕事、音楽、散歩、買い物、運動遊びなど、室内だけでなく戸外活動も含め様々な原体験を取り入れた

	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して遊びこめる環境を年間通して再構築していく ・少人数で過ごせる環境や時間を子どもの姿から構成していく
--	--------	---

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>計画：安心できる場の提供 ねらい：保護者同士が交流できる場を提供する。横の繋がりを作っていける場を提供し、保護者自身が安心して相談できる場所や人間関係を築いていけるような環境の構築を行う</p>
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・お話し会、座談会、リフレッシュ企画等の開催 ・常にカフェやルーム内が整理整頓されリラックスして過ごせる環境を維持してきた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き様々な企画の開催を行い、安心でき場所の提供、横の繋がりを作っていける場の提供を行う
2	計画・ねらい	<p>計画：事業所内相談支援の充実 ねらい：個別に相談できる場を設ける、同じグループ保護者間で学び合う時間や家庭でも行える支援を学ぶ機会を設けることで、支援の共通理解を深める</p>
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談は随時受付を行った ・支援員、児発管、施設長と相談内容により担当を適宜設定し実施した
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）の周知を行う ・個別相談は随時受付、実施していく
3	計画・ねらい	<p>計画：所属園、就学先、相談支援事業所等、各関係機関との連携 ねらい：関係機関との連携をとることで共通理解を得て相乗効果を高める</p>
	実践結果	保護者の同意のもと、所属園への園訪問と就学先への就学支援シートの作成及び情報共有を行った
	次年度方向性	引き続き、所属園への訪問、就学先への就学シートの作成及び情報共有を積極的に行い、相乗効果を高めていく
4	計画・ねらい	<p>計画：保護者の気持ちに寄り添った接遇を実施する ねらい：保護者の不安や悩みに早期に気付く視線をもつ</p>
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックは都度行い子どもの様子や育ち、行った支援を分かりやすくお伝えした。 ・日々のコミュニケーションの強化を図り何気ない会話ができる時間を大切にし、保護者の不安や悩みを早期に気付けるように努めた
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックは都度行い、子どもの様子や育ちや行った支援を分かりやすく伝えていく ・引き続きコミュニケーション強化を図り、保護者の不安や悩みに早期に気付けるようにする

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐ、相談支援つむぎとのコラボ企画 ねらい：地域の方が気軽に来られる場所となり、つむぎが行う支援の周知や相談場所、情報提供場所となる
	実践結果	・合同企画の開催を行った (就学に向けての話、先輩保護者を招いてのお話会、子育て相談会等)
	次年度方向性	合同で行う企画の開催(相談会、勉強会、交流会等) 就学に向けての話について先輩保護者を招いて行う
2	計画・ねらい	計画：支援室を利用する方への発達相談の機会の提供 ねらい：支援室と連携し子育てや発達の相談の窓口となる
	実践結果	日頃から事務所廊下の窓をオープンにし、気軽に声を掛けやすい雰囲気作りを行った
	次年度方向性	引き続き声を掛けやすい雰囲気づくりを行うと共に、支援員との連携を図り相談の機会を必要としている利用者の発信を逃さず随時相談に応じられるような体制を整えていく
3	計画・ねらい	計画：支援内容の発信 ねらい：行っている支援の発信を行い、認知度を上げる
	実践結果	ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示することや、ブログの発信、つむぎのパンフレットを関係機関に配架した
	次年度方向性	様々な利用者の方々から見えるスペースに活動内容を掲示する。活動内容だけではなく、つむぎの行っている支援のねらいや、どんな力や成長に繋がるかという「先を見据えた支援内容」をブログで発信していく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフ勉強会 ねらい：学びの発信をスタッフ自らが担っていくことで、受け身でなく発信する機会を重ねる、自らがチームの一員としての存在意義を高める
	実践結果	園会議時の定期的な勉強会の開催、講師は各スタッフが担当した 勉強会の主な内容は、自分の興味ある分野、得意な分野、チームとして必要なこと等をテーマとし開催した
	次年度方向性	つむぎスタッフ間だけでなく、園会議時に保育園スタッフに向けて行うことや、保護者に向けての勉強会も増やしていく
2	計画・ねらい	計画：体験学習の企画運営を行う ねらい：企画、運営を行うことでマネジメント力の向上を図る
	実践結果	各スタッフが年間1回体験学習での企画リーダーとしての役割を担った (事前準備やスタッフ分担、采配、当日の全体把握や調整を行った)
	次年度方向性	引き続き、企画、運営力の向上を図るため年間1回は企画リーダーを担い、内容をブラッシュアップしていく。

3	計画・ねらい	計画：園長大学®・保育士大学講座を活用した学び ねらい：多面的な支援を行うために幅広い分野を知り学ぶ、大人のにんげん力にも繋げる
	実践結果	受講後はルーム内でアウトプットする機会を設けた 園会議時に皆で同じ講座を受講する機会を設定し行った
	次年度方向性	園長大学®・保育士大学講座を活用した学びを全体として行った 次年度は更にその後チームで学ぶためディスカッション時間を設けていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：施設全体の自然資源の維持 ねらい：季節ごとの自然を存分に感じられる園庭を維持する
	実践結果	定期的に園庭の樹木の剪定を行い生活の中で四季を感じられるようにした (春は花や実が咲き匂いを感じたり、夏は木陰で涼む、秋は実りを感じ食に繋げたり、冬は寒い季節を越すための冬支度を行う自然の様子を感じられるような環境を設けた)
	次年度方向性	引き続き、定期的な園庭の樹木の剪定を行い、季節ごとの変化を子どもたちとの会話の中で言葉にしていき季節を感じられるようにしていく
2	計画・ねらい	計画：コンポストを活用し食の循環を行う ねらい：身近なエコ活動(食の循環)をできる機会を設けることで環境に関心をもつ機会に繋げる
	実践結果	給食後の残食を利用し堆肥として園の畑で活用した
	次年度方向性	子どもと一緒にいけるようコンポストについて発達段階に応じた説明を行い理解を深めつつ実施していく
3	計画・ねらい	計画：保護者を交えた環境整備の日の実施 ねらい：施設関係者全体を対象とした施設内のSDGsに取り組む
	実践結果	つむぎスタッフ、園スタッフで子どもたちが遊びこめる環境設定を模索し 設定→観察→改善を重ねてきた
	次年度方向性	園保護者、つむぎ利用保護者、園スタッフ、つむぎスタッフと施設関係者全体で施設の環境を考え整備を行う日を設けていく

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	188 人	196 人	221 人	202 人	196 人	204 人	221 人	211 人	212 人	218 人	195 人	200 人	2464 人
登録児 数	31 人	35 人	35 人	35 人	32 人	33 人	33 人	34 人	35 人	34 人	35 人	35 人	407 人

(解説) マンスリー、ビジター

保育所等訪問支援 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0 人	3 人	6 人	8 人	13 人	16 人	14 人	18 人	16 人	20 人	20 人	20 人	154 人

(解説) 訪問支援員1名+児童発達支援管理責任者による訪問日あり

相談支援事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1 人	1 人	1 人				1 人	1 人					5人
利用	26 人	9 人	12 人	4 人	11 人	10 人	7 人	5 人	6 人	12 人	13 人	8 人	123人
継続	6 人	11 人	15 人	16 人	9 人	16 人	7 人	13 人	4 人	8 人	8 人	5 人	118人

(解説) ・利用と継続の値については計画作成及びモニタリング報告書作成人数の累計

・発達支援つむぎと合同で就学に関するおはなし会を2回実施

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士 2名

機能訓練担当 2 名（作業療法士 1 名、公認心理士 1 名）

児童指導員 1 名

相談支援員 2 名

保育所等訪問支援員 1 名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育の質向上に関わる勉強会 ・リズム、歌の勉強会
給食運営会議	月1回	・食育活動の振り返り ・食に関するエピソード共有
事故防止委員会	月1回	・自園のヒヤリハットの検証 ・自園、他園の記録から危険予 測のディスカッション
支援計画策定会議	作成毎	・支援計画に伴う情報共有、支援方針、支援目標の設定
つむぎスタッフ会議	月1回	・体験活動の企画や検討事項の話し合い ・支援内容の共有、目標設定、配慮事項
マンスリー会議	月1回	・マンスリー児の週目標設定、様子の共有
ケース会議	月1回	・情報共有、支援内容の検討 ・園との連携・情報共有
朝礼・昼礼・終礼	毎日	・その日の確認と振り返り ・園との情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長

食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	・施設内の衛生管理、清掃の徹底、手洗いうがい指導などの感染症対策や歯磨き指導等、年齢に合わせた指導を行った
安全対策係	・事故防止委員会で月ごとのヒヤリハット、事故記録簿についての検討を行った ・保育の中での事例を園会議で取り上げ、スタッフの立ち位置や再発防止等ディスカッションを行い、危機管理意識を高めることができた
防火管理者	・保育園と協働で消防計画を作成し、自衛消防組織を編成した
食品衛生管理係	・つむぎカフェ内の調理場の安全衛生点検を行った ・調理活動時に使う食材の検食分の管理 ・つむぎカフェの冷蔵庫内の衛生管理
畑係	・保育園と協働で年間農業計画を作成したが植え付けと収穫のみとなった。水やりや草取りなど、育てていく過程の体験をもっとできるようにしていきたい
生き物係	・ヤギとニワトリの飼育のほか、フナやめだか他多数の生き物の飼育環境や仕組みづくりを行った
体験学習係	・体験学習の企画・運営

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・どろんこ保育園スタッフと共に計画から実施を行った
大井市民祭り	・ふじみ野市内の保育園や他の団体の参加との連携を図る

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・マンスリーは月～金まで送迎時に保護者の方と話をする時間を設けており、何か相談や悩みがあった際は都度伺える体制を整えた。希望される保護者や必要とされる保護者に関しては、事業所内相談支援加算制度を利用し、別途面談を設けた
ビジター	・毎回の支援後に振り返りの時間を設けて支援のねらいや子どもの様子の共有を行った。そこから更に個々の様子や相談があった際には担当スタッフが相談をお受けすることができる環境を設けてきた。希望される保護者や必要とされる保護者に関しては、事業所内相談支援加算制度を利用し、別途面談を設けた
体験学習	・様々な経験ができるよう体験を実施し、保護者の方と共に過ごす時間の提供を行ってきた
保護者面談 発達相談	・支援の振り返りやカフェでのやり取り、上記「事業所内相談支援」において適宜相談を実施した
事業所内相談支援	4～3月まで 合計26名 が参加済み (3月31日時点) ・要望があった際は迅速にお受けし対応した ・できる旨を周知し相談したい時にすぐに対応できる旨をお伝えした ・日々の支援について、子どもの様子について話し合った ・就学・就園についての相談を行った
関係機関との連携	4～3月まで 合計8名 が参加済み (3月31日時点) ・保護者より園訪問の要望があった際は先方に了解を得て訪問を行った その際様子の共有を行い個別支援計画にも反映させた

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：おいしく楽しく食事をする ねらい：食を通して、皆で食べることの楽しさを体験し、食を通してのコミュニケーションを図る
	実践結果	縁側給食を通して、季節を感じながら食べる場所の提供・自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定をおこなった
	次年度方向性	引き続き縁側給食を行い、季節を感じながらたべることや、自分で配膳することで満足感を感じ、楽しい食事の時間となるような環境設定を行っていく

2	計画・ねらい	計画：食の循環 ねらい：0からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践結果	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れてきた
	次年度方向性	プランターで野菜を育てたが、うまく育たず error になった経験も経たため、改めて挑戦していく
3	計画・ねらい	計画：空腹感を感じることで、食べる事に期待を持つ ねらい：食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じ食に対する意欲を高められるようにする
	実践結果	日々の日課、散歩、園庭遊び、畑仕事、生き物の世話など8：30からの活動に参加し、沢山体を動かすことで空腹感を感じられるようにした
	次年度方向性	8：30から利用できる体制を整え、日課はそれぞれの参加できることから参加したため、次年度は更に幅が広がり参加できる日課が増えていけるよう支援していく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
保健だより	毎月25日におたより配布を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
エピペン使用できるスタッフの状況	7月園会議にてエピペン使用の際の研修を全スタッフが受講済み 在籍スタッフ全員が使用可能
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	12月4日に1月15日にふじみのどろんこ保育園にて全スタッフ7名が救命救急研修に受講し習得済み、全スタッフが使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月8日、10月14日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践結果	大人が片付けている姿勢を見せていくよう意識した モノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行った
	次年度方向性	引き続き施設内の環境について、適宜話し合える時間を作ることや整備を行う日を設ける
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用した遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできるSDGsを行う
	実践結果	空の容器や空箱、画用紙の端切れなど自由制作時に子どもへ提供することでゴミとするのではなく遊びの資源にしてきた
	次年度方向性	再利用できる素材を子どもの手の届く場所に置き自由に使用できるようにする
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践結果	必要な物を揃え、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜行ってきた
	次年度方向性	引き続き定期的な環境点検を行い、必要なものを揃えていく

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として、相貌計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	実践結果	Twitter を利用し、保護者との緊急連絡掲示板の使用訓練実施
3	実践結果	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施 ケガ発生時、対応フローチャートに従い迅速に対応する ケガを未然に防ぐためにヒヤリハットの共有やインシデント発生時の検証を行い見直ししていく
4	実践結果	年2回の不審者侵入訓練実施 笛の所持、インターホンでの確認、地域と連携し安全・防犯への意識付け をしていく
5	実践結果	光化学スモッグの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する 久化学スモッグが発令された際は窓を閉め、室内で過ごす

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

看護実習生の受け入れを行った。

観察・交流実習ということで主に見学をしつつ利用者との交流を行った。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月20日～2月5日	学校法人 日本教育財団 首都医校 看護学部	4人	観察実習

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ	14日	12日	9日	7日	4日	8日	6日	10日	8日	12日	9日	8日

一自己採点	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名	7名
虐待防止研修	14日 7名									26日 7名		

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月5日～ 3日間	有限会社 プログレ	埼玉県児発管基礎研修	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
子育てスキル講座研修（エリア共通計画）	別紙「子育てスキル講座研修」チラシを参照 各自参加											
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。つむぎカフェでの地域子育て支援の催しを開催する予定ではあったが、コロナ過のため地域の方を招いての催しの実施ができなかった

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：亀久保公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：青山青果、セブンイレブン、ベルク、ビバホーム等
世代間交流	12月25日にふじみのどろんこ保育園にて文教大学サークル「zoom でクリスマス」を実施
異年齢交流	1月6日にふじみのどろんこ保育園にて伝承遊び会を実施
地域交流	5月13日に web にてホームステイをしている方と「世界と繋がろう」を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校を訪問する機会がもてなかった為、小学校との密な情報交換や、子どもたちの小学校への期待感を膨らませることができなかった。小学校までのルートを散歩コースに入れる等、できる限りで日中の活動に取り入れた。

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長6カ月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画を作成した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継に於いては必要に応じ、保護者を介して幼稚園・保育園の保育者と園訪問や電話にて様子の共有等、連携を実施する。小学校への引継としては、就学支援シートを保護者からの要望がある家庭には作成し引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒随時実施
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施
青空保育 (支援センター主催)	月1回 亀久保公園にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年11月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時45分

自己評価実施者：施設長、児童発達管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

全体的に利用者から支持を得られた結果であった。特に支援の質において、子どもの興味関心に寄り添った支援が行われていること、いろいろな体験ができること、スタッフの丁寧な言葉掛けに対しての満足度が高かった。その一方で、保護者同士の交流の機会がもっと増えるとよいという意見があった。今後は保護者の声を拾いながら、不足していることへの改善を行い、利用者の満足度が向上するようルーム運営を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ ふじみ野ルーム施設長 佐藤 愛香

2023年度 発達支援つむぎ池尻ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子どもが好きなこと、やりたいことを中心とした支援を展開していくことを基本方針として日々業務に従事してきた。活動の狙いや個人の支援目標を設定したうえで、活動の内容に関しては、子どもたちがやりたいことを組み込むようにした。特に、今年度は戸外活動に力を入れて、つむぎと言えは外活動ということが定着してきた。地域にも積極的に足を運び、商店街の方々や社会福祉協議会とのつながりを深めることができ、地域に根付いた施設作りに一歩近づいたように思う。

また、近隣の中目黒どろんこ保育園との連携をスタートさせたことで、インクルーシブ保育を考えるきっかけになり、つむぎに通う子どもたちにどのような環境を設定し支援をしていくとよいか、スタッフ一人一人が考えられたと思う。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「子どもが主体的に活動する」 子どもが自分で選び行動することで、自己効力感を得る。その中で、失敗しても立ち直る気持ちや新しいことに挑戦する気持ちも育てていく。
	実践結果	室内では、おもちゃ棚に玩具や材料を設置して、子どもたちがいつでも自由に選び取れるような環境を作った。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちが主体的に活動して、必要な経験ができるようにするために、職員が環境構成を考えていくようにしたい。
2	計画・ねらい	「子ども同士の関りを中心とした支援」 自分の気持ちや意見が相手に伝わる喜びを感じ、相手のことも受け入れられる思いやりの心を育てる。また、相手とは異なる意見のためぶつかる場面では葛藤を経験し、自制心を養う。
	実践結果	子どもたち同士で、どこで何をやりたいかということを事前に相談する機会を設けた。その結果、子どもたち独自のルール遊びが生じ、自然と協力する場面が見られた。職員も子どもの自主性を重んじ、必要に応じた声掛けができていた。物の取り合いや一番へのこだわりで、子ども同士のぶつかり合いも多々あり、気持ちを伝えてコントロールする姿も多く見られた。
	次年度方向性	引き続き、子ども同士のやりとりを大切にしながら、他者と関わる方法や自分の気持ちを制御する手段を身に付けていけるようにしていく。
3	計画・ねらい	「日課を取り入れる」 幼児期に必要な体づくりをしてケガをしない強い体の基盤作りをする。自制心を養うための感情コントロールの経験をする
	実践結果	戸外活動を中心に展開できたことで、目的地までの往復ができるようになるなど、体力をつくることができた。座禅を通して気持ちが落ち着くことを感じられる子どももいた。

	次年度方向性	必要に応じて、さくらさくらんぼリズム体操などを取り入れていながら、子どもたちの健康な身体づくりをしていきたい。
4	計画・ねらい	「ドキュメンテーションの作成」 活動の振り返りとしての活用し、つむぎの支援を的確に説明する
	実践結果	カフェの壁にその日の支援をまとめたポートフォリオを掲示して、フィードバックでは伝えきれていない内容を保護者の方に共有することができた。
	次年度方向性	引き続き、写真や記録に残していき、戸外活動の支援の実証報告に繋がるドキュメンテーションを作成したい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「保護者同士のつながりを作る」 同じ悩みを持った保護者と話したり、先輩ママとの繋がりができたりするような場を提供する
	実践結果	就学相談会を2回開催することができた。また、卒児会として、つむぎを卒所した子どもと現在つむぎを利用している子どもが交流できる場を設けた。
	次年度方向性	就学相談会のほかにも座談会や勉強会などを定期的に開催して、保護者同士のつながりができるようにしたい。
2	計画・ねらい	「園や他事業所との連携や共通理解を図る」 所属園や他事業所との連携を図り、子どもにかかわる機関全体で子どもを支援できるようにする
	実践結果	10件以上の園訪問を実施することができ、訪問後もお電話で困りごとや対応方法などの情報共有をすることができた。他事業所との連携も試みたが、時間や人などの体制が整っていないため上手くいかなかった。
	次年度方向性	報酬改定もあり他事業所との連携がとりやすくなったので、次年度は積極的に事業所間での連携を図りたい。
3	計画・ねらい	「カフェの充実」 日常から解放されてゆっくりと過ごすことができ、気持ちをリフレッシュできるような場所にする
	実践結果	ソファや机の配置を何度か変更し、居心地が良い居場所づくりを行うことができた。また、ポートフォリオを掲載し、待ち時間に支援の活動内容やねらいなどを見ることができるよう掲示した。
	次年度方向性	引き続き、過ごしやすい環境を設定しながら、雑誌や書籍を整理して入れ替えをしていきたい。
4	計画・ねらい	「事業所内相談支援の実施」 保護者の方の不安を軽減し、子どもについての共通理解を深めるため
	実践結果	事業所内相談支援という形にとられずに、普段からコミュニケーションをとることで、自然と子育ての不安や悩みを話していただく機会が多かった。
	次年度方向性	引き続き、保護者の方とは積極的に関わるようにして、いつでも相談できる場所となるようにしていきたい。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「外部へつむぎの情報提供をする」 つむぎを知ってもらう機会を作り。地域の方との関係性を構築する
	実践結果	相談支援事業所へパンフレットを郵送したり実際に訪問したりした。また、緑道での活動を積極的に行い、そこで出会う地域の方々とのコミュニケーションを大切にした。
	次年度方向性	ブログの内容を充実させて、つむぎの活動を多くの人に知ってもらえるようにする。
2	計画・ねらい	「子育て支援ネットワークを構築する」 地域全体で子育て支援の力を高められるようにする
	実践結果	地区の社会福祉協議会が開催するまちこま会や子育て支援ネットワーク会議に参加をし、地域とのつながりを作ることができた。また、子育て支援マップに掲載をすることで、世田谷区の子育て施設の一つとして紹介してもらうことができた。
	次年度方向性	社会福祉協議会とのつながりを維持しながら、地域の子育て支援に携わる機会を増やしていきたい。次年度開催予定のみちあそびの企画に参加する。
3	計画・ねらい	「青空保育を行う」 公園で過ごす地域の子どもたちと接し、発達相談へのきっかけ作りをする
	実践結果	定期的に青空保育を開催することができた。参加された方とコミュニケーションをとる中で、普段の子育ての悩みや不安をお聞きすることもあった。
	次年度方向性	開催場所や時間帯を変更したうえで、定期的に実施する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「法人内のつむぎや保育園への OJT を実施する」 法人の保育や他施設の支援を学ぶ機会を設け、支援の質を高めて幅を広げる
	実践結果	中目黒どろんこ保育園のスタッフとつむぎのスタッフが交換研修として互いの施設に一日勤務をすることで、保育園とつむぎの業務などについて知ることができた。
	次年度方向性	引き続き、スタッフ交流を進めながら、保育園とつむぎを併用する子どもについてケース検討を実施するなどの学びができるようにしたい。
2	計画・ねらい	「戸外活動の引き出しを増やす」 戸外活動でのスタッフの関わり方や遊びの広げ方について、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく
	実践結果	戸外場面の一部を切り取って、スタッフ全員で遊びの広げ方や言葉かけについて話すことができた。
	次年度方向性	ルーム会議などで定期的開催して、スタッフ個人の遊びの引き出しを増やせるようにしていきたい。

3	計画・ねらい	「食育や日課について学ぶ」 ねらいをしっかりと理解し、なぜやっているのかをスタッフ一人一人が語れるようになる
	実践結果	前半は、室内活動の後に雑巾がけを実施し清潔にすることの気持ちよさを感じたり、心を静めるために座禅を取り入れたりしていた。
	次年度方向性	日課として定着させることができなかったため、来年度はどのように支援の中に組み込んでいくかスタッフで話し合いたい。
4	計画・ねらい	「保護者支援の充実を図る」 どのスタッフが保護者対応をしても常に高いサービスを提供できるようにする
	実践結果	保護者から尋ねられたことや対応に困ったことを終礼の時に共有し、誰がどんな質問を受けても対応できるようにした。また、普段から積極的にコミュニケーションをとることで、相談がしやすい環境を作った。
	次年度方向性	引き続き保護者のとのコミュニケーションをとり関係性を構築することに勤める。また、ペアトレーニングなどの研修を受講し保護者に対してのアプローチ方法を獲得できるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「必要なものだけ置かれた状態にする」 整理整頓されて常に清潔な環境にしておくことで、利用者の方が気持ちよく過ごせるようにする
	実践結果	カフェや事務室など特に人目につくところは、整理整頓に気を配り、本当に必要かどうかを話し合ったうえで物を置くようにした。その結果、物が減り、スタッフを初め、子どもたちの行き来が以前より増えるなど誰にとっても過ごしやすい環境になった。
	次年度方向性	スタッフ間で話し合い、必要に応じて保護者の方の意見も伺いながら、よりよい環境づくりを目指していきたい。
2	計画・ねらい	「安心して安全な環境を維持する」 子どもたちが怪我無く安心安全に過ごせるようにする
	実践結果	倉庫に合ったものを子どもたちがいつでも取り出せるように配置したり、反対に関係のないものを指導室の戸棚から移動させたり、安全に配慮しながら、子どもたちに必要な環境はどのようなものかを考えながら設定することができた。
	次年度方向性	引き続き、子どもたちの発達段階に合わせた環境設定を行っていきけるようにしたい。物的環境だけでなく、スタッフがどのように配置すると子どもたちが安全に過ごせるかを考えるなど人的環境も考えていきたい。
3	計画・ねらい	「畑作業ができるスペースの確保をする」 より多くの食材を育て、食育が充実するようにする
	実践結果	ハウレンソウやカブ、小松菜を育てた。また、昨年度失敗に終わったトマトを今年度は多く収穫することができた。
	次年度方向性	子どもたちが育てたい野菜を育てる、育った野菜をどのように調理したいかを話し合うなどして、子どもたちが主体的に食の活動が行えるように環

		境を整えたい。
--	--	---------

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	170 人	166 人	178 人	151 人	167 人	212 人	159 人	162 人	164 人	164 人	164 人	180 人	2037 人
登録児 数	47人	49人	50人	50人	51人	49人	47人	45人	44人	45人	45人	47人	47人

（解説）例年に比べると問い合わせ数が減少し、登録児数が思うように伸びなかった。次年度は、地域のニーズや現状を把握しながら営業に力を入れて伸ばしていきたい。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
 保育士2名
 機能訓練担当スタッフ1名（公認心理師）
 児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・各種イベント、保護者会などの企画、進捗状況の報告 ・ルーム内専門士による指導技術の共有

		<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討 ・つむぎ内外から招いた講師の研修
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・法人保育園の重要事故を振り返る ・つむぎで起こった事故を振り返り、自園での発生を防ぐ ・自園のヒヤリハットを振り返り、再発防止策を検討する
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	年2回	児発管
食育会議／法人本部	年4回（5.8.11.2月）	施設長
保健会議／法人本部	年4回（5.8.11.2月）	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導 ・ルーム内の衛生環境を保つための管理と改善 ・疾病、感染症の予防対策 ・衛生管理、保健衛生のための研修の設定
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 ・計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起 ・インシデント・ヒヤリハットの管理 ・ハザードマップの作成と定期的な見直し
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進 ・避難経路の確保に対する注意喚起 ・防災グッズの点検と確認 ・消防署との連携

食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料水の管理 ・ 調理活動の際の衛生点検、安全管理 ・ 冷蔵庫の清掃管理 ・ 利用児のアレルギーに関する管理
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑道の整備に関する管理、計画的な活動の立案 ・ ベランダプランターの整備、計画的な活動の立案 ・ 作物の栽培計画 ・ 栽培活動に関する予算管理 ・ 子どもと共に活動することの提案 ・ 食育へ繋げることを前提とした活動の提案
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の世話に関する統括（イモリの水槽管理、カブトムシの世話、ザリガニの世話） ・ 新たな生き物との触れ合いの機会の充実 ・ 子どもたちと共に世話をしていくことへの提案 ・ 戸外での動物や植物に触れる機会の検討立案 ・ 「6つの力」⑤生死を知る、食の循環を知るを考える

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
地域連携係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の利用や情報の収集と連携 ・ 地域と連携した体験学習企画、実施 ・ 商店会との連携 ・ 区報の確認 ・ 地域小学校の学校公開やイベントの情報収集 ・ 青空保育の実施計画
中目黒どろんこ保育園連携係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の行事などへの積極的な参加 ・ 要支援児対応会議への出席 ・ 勉強会、スタッフ交流会の企画、実施 ・ 合同行事の立案

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

リトルグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい遊び、音楽遊び、感覚遊びを中心に、五感を使った活動ができるように設定した。 ・ 戸外での活動では、思い切りやりたいことができるように環境を設定し、毎回子どもたちは泥だらけになって遊ぶことができていた
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・物の貸し借りを通して、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気づいたりすることができた ・並行遊びから少しずつ友達を意識する様子が見られ、後半では自ら友達を求める姿もあった。
キッズグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士で話し合っ活動場所や活動を決めることで、自分の気持ちを伝える、相手の話に耳を傾ける経験を積むことができた ・子どもたちオリジナルの遊びが生まれ、支援のたびに同じ遊びを展開することで連続性が生まれた ・一番になりたい気持ちのぶつかり合いで、感情をコントロールする機会が多くもてたことで、自制心を養うことができた ・地域での活動や戸外活動で、多様な人々との関わりを持ち、地域交流を図ることができた
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計38名 が参加済み (3月1日時点)</p> <p>内訳：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内相談支援 (I) 20件 ・事業所内相談支援 (II) 18件
関係機関との連携	<p>4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点)</p>

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<p>「食育を実施する」</p> <p>食物を育てることから携わり、食材の変化や食の循環を知る</p>
	実践結果	<p>前半は、子どもたち自身の手作りポットを作るなどして、自分で種まき、水やり、間引きするなどの作業を行うことができた。食わず嫌いで全く食べたことがなかった野菜も、つむぎで育てたものだからということで初めて口にする子どもの姿もあり、保護者の方も驚いていた。</p>
	次年度方向性	<p>子どもたちが野菜のお世話をできるような環境設定や工夫をして、さらに食育への興味関心を高めていきたい。</p>
2	計画・ねらい	<p>「調理活動を行う」</p> <p>食材の加工を経験し、その変化に気付き楽しむ</p>
	実践結果	<p>梅から梅干し、梅ジュースを作ることができた。また、収穫したトマトを冷凍保存しておき、ケチャップづくりを行うことができた。どろんこ米と手作りケチャップで簡単オムライスを調理することができた。</p>
	次年度方向性	<p>次年度は、より一層食材加工、命をいただくという活動に力を入れていきたいと思う。</p>

3	計画・ねらい	「スタッフと一緒に食べる」 他者と食事をするという楽しさの体験をする
	実践結果	調理したものや調理前の収穫した野菜をスタッフとともに味わう機会を設けることができた。また、保護者の方にも実際に食してもらい、自分たちで育てた食材をみんながおいしいと言って食べてもらえた経験ができた。
	次年度方向性	引き続き、食事時間の楽しさ、食を通してコミュニケーションをとることの楽しさを子どもたちが実体験できるようにしていきたい。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・7月10日に施設内にて研修を実施。計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ5名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底するなど各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み

	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月27日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「遊具や教材配置の工夫をする」 子どもが主体的に関わることができるようにする
	実践結果	室内におもちゃ棚を設置し、いつでも選んで遊べる環境を設定した支援の実践を行った。また、生き物も自分たちで捕まえてきた生き物も目に入りやすいように、来所してすぐの事務所のカウンターに設置することで、子ども自ら興味をもって観察する姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、環境構成について職員一同で考えていき、子どもたちが自己選択、自己判断ができるような力を養えるような支援の提供をしていきたい。
2	計画・ねらい	「戸外活動の実施」 ホンモノに触れる機会を作り、生活に根付いた環境を大切にする
	実践結果	緑道でザリガニ釣りをしたり鯉に餌をあげたり、生き物に触れる機会は多かった。また、八百屋に野菜を買いに行くなどの機会もあり、ホンモノに触れる機会を多く設けることができた。
	次年度方向性	引き続き、ホンモノの経験を通して子どもたちに必要な生きる力をはぐくんでいけるように支援していく。
3	計画・ねらい	「施設内すべての整理整頓をする」 どこの場所であっても子どもが活動の場として選択できるようにする
	実践結果	来訪者がいつ来てもいいようにカフェの整理整頓を心掛け、水回りは清潔感が保たれるようにした。また、子どもたちがいつでも行き来しても危険がないように意識し、ルーム全体が支援の場所として使えるように環境設定した。
	次年度方向性	引き続き、施設内の環境づくりをしながら子どもたちを初め、利用者の方々が使用しやすいようなルームにしていきたい。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	なし			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	毎月1回／子どもを含めた訓練を2回実施。 声掛けの大切さに気付くことができた。避難経路である倉庫を常に整理しておくことができた。
2	ヒヤリハットの共有	毎日1回／朝礼、終礼時に実施。 徐々に危険予測ができるようになった。
3	事故防止委員会	毎月1回／施設内会議にて実施。 自園の事故やヒヤリハットを振り返り、再発防止に努めた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は、近隣の中学生のボランティア受け入れを実施した。子どもたちも初めて触れる花や出会う中学生に目を輝かせていた。次年度も引き続き、保育や福祉で働く人の次世代を担う人材を育成する場所となれるように、受け入れ体制を整えたい。

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
8月29日	世田谷区立桜木中学校	7人

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	13日 6名	11日 6名	8日 6名	13日 6名	10日 6名	14日 6名	12日 6名	9日 6名	14日 6名	11日 6名	8日 6名	14日 6名
自主研修	13日 6名		22日 6名		24日 6名			30日 6名				

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
12月10日	公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会	心の健康・文化フォーラム 子どもとともに心を耕し文化を造る場を考える	1名	無
5月～1月 月一回	こどもリハビリかめきち	0歳児の発達について（0～6か月） 神経発達症の子どもについて	1名	無
9月23日	日本心理臨床学会理事会	日本心理臨床学会	1名	無
11月15日	LITALICO 発達ナビ	ペアトレーニングセミナー	1名	無
12月22日	LITALICO 発達ナビ	保護者とコミュニケーションポイント解説セミナー	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
リーダー養成研修	該当なし											
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
デモンクインターンシップ	該当なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度は、地域に足を運ぶことを目標に交流を積極的に行った。池尻大橋駅商店街の方々にご協力いただき、商店街ツアーや、お買い物体験などを実施することができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：池尻三丁目公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：393バーガー池尻店、八幡煎餅、大橋薬局、石綿モータース、大一青果
異年齢交流	11月29日に下代田児童遊園にてつむぎ卒所生と交流会を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

目黒区立中目黒小学校、世田谷区立多聞小学校、の二校にご協力いただき、小学校見学を実施することができた。子どもたちが実際に小学校の施設を見学したり小学生と交流をしたりすることで、自分たちが小学生になる将来に期待を持てたのではないかと思う。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月20日	中目黒小学校	5名	学校見学	子ども間交流
10月22日	多聞小学校	1名	学校見学	スタッフ間交流
2月13日	多聞小学校	5名	学校見学	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年に1回は必ず更新することができている。また、保護者や園と連携を取り、必要に応じて園訪問を実施。訪問した際には、その都度個別支援計画書の見直し、作成を実施している。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

次年度、通常級に通われる半数の方が就学支援シートの依頼があり、2月末の時点で全員お渡しを完了している。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	随時												
青空保育	月1回 公園名：池尻三丁目公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	1名	2名	1名	2名	1名	0名	1名	8名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年9月4日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：内部観察室

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：90%

多くの利用者から貴重なご意見をいただくことができた。その中でも、子どもが楽しく通い、好きなことに熱中して取り組んでいる姿に満足しているというご意見をいただき、励みになった。今後、子どもがやりたい、好きということを中心とした支援を追求しながら保護者支援にも力を入れていきたいと思う。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ池尻ルーム施設長 外山 ちひろ

2023年度 発達支援つむぎ横浜東ロルूम 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～2023年度の基本方針を受けて～

2023年度のつむぎ横浜東ロルूमは法人理念「にんげん力。育てます」の下、学び続ける文化を醸成するために「大人も子どもも成長する」をスローガンとして、まず大人が勇気を持って自分自身を知り、変化していくことを目指した。そして、大人も子どもも互いの個性を知り、受け入れ、支え補い合い、みんなが横浜東ロルूमを「わたしの居場所」と思い、「我が事」として捉えられるように努めた。結果、これまでのやり方や考えに固執することなく、常に挑戦し、行動する気概が芽生え、食育活動や戸外活動、地域との関わりなど、新しい活動を数多く展開できたと考える。通所している保護者様からも、「家庭や園、他の療育では経験できない様々な活動を行ってもらえてありがたい」など嬉しい言葉をいただくことができた1年でもあった。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【自己決定力を育むことができる環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 自己決定力を育てていく為に、大人は声や表情、態度などで子どもを誘導せずに、子ども達が自分で感じたり考えたりする機会を子ども達が十分に活かせるようにする。 大人も主体性を持ち、考えながら実践し、その検証を個人だけでなくスタッフ全体で共有し検証していく。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> 戸外活動の散歩で、公園などの行き先や遊びの内容を大人が先回りして決めるのではなく、子どもが自分で行きたい場所、遊びを決められるよう、場所や遊ぶ道具の写真を子どもの発達に合わせ、掲示した。 毎日の活動の振り返りの中で、子どもの様子だけでなく大人の振り返りも共有し、意見を出し合った。 意見交換が活発にできるよう、会議だけでなく日常業務の中でも子どもの様子、感動したこと、悩んだことや発見など、些細なことを語り、共有した。
	次年度方向性	引き続き、子ども達が自分たちでどんな風に過ごすかを決め、その気持ちを言葉で伝え合えるよう、子ども達が自己決定力を育める環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	【食の循環を知る(畑仕事の充実)】 <ul style="list-style-type: none"> 土作りからプランター栽培と畑仕事を行ない、どのように作物が育っていくのかを学ぶ。 水やりや観察を日課とすることで、作物を自分で育てる楽しさやその成長過程を知る。 実際に収穫した作物で調理体験をし、自分たちで育てたものを自分たちで調理して食べる経験に繋げ、食への興味関心を広げていく。 作物や畑仕事について知識や技術をスタッフが学ぶことに加え、それら

		を得意とする保護者や地域の方々に教えや協力を仰ぎ、活動に関わってもらうことで、つむぎの理念や活動を知っていただく。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで年間を通して畑に行くスケジュールを決め、月に2回以上、畑仕事を実施した。 ・プランターを使用して、毎回の活動時に作物の成長を感じられるようにした。 ・収穫した作物を使用した調理活動を実施した。
	次年度方向性	引き続き、年間を通じて作物の作付けや収穫のスケジュールを決め、グループごとに何を植えるか、調理するかを、子どもたちが決める。
3	計画・ねらい	<p>【自分の過ごす場所を自分で整える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事、雑巾がけ、生き物の世話などを通じて、自分が過ごす場所を自分で整えるために、自分でできることを自分でする気持ちを育む。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズグループ、個別支援で分け隔てることなく、作物や生き物の世話や雑巾がけを活動に取り入れ、生き物の成長や発見などを大人も子どもも語り合った。 ・座禅やリズム体操を毎回行い、心と体を整える心地よさやそのとき感じたことを大人は率直に言葉にして伝えた。
	次年度方向性	引き続き、自分たちの過ごす場所を自分たちで整えるという当たり前のことを子どもたちが自主的に行えるよう、大人が背中を見せていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが保護者の気持ちに寄り添った接遇ができるよう、保護者が抱く不安や悩みに気が付ける関係性を築いていく。
	実践結果	毎回の振り返りで子どもの様子や育ち、活動を分かりやすく伝えていくだけでなく、挨拶はもちろん、何気ない会話やコミュニケーションを取る時間を大切にしたい。
	次年度方向性	引き続き、保護者一人ひとりの気持ちに寄り添えるよう、子どもだけでなく保護者においても些細な様子の変化にも気が付けるよう、日ごろからの関係性作りに力を注いでいく。
2	計画・ねらい	保護者同士の交流を深め、保護者がグループを「子どもを預ける場」ではなく「子どもの大切な一つの社会」と感じられるようにする。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りに関して子ども同士の関わりやグループ全体の成長などを、個別だけでなく保護者全体に伝えていった。 ・活動の裏で地域の情報共有や就学の相談会などを実施した。 ・つむぎを卒業した保護者を招聘し、実際の学校生活の様子を聞ける場を設けた。
	次年度方向性	引き続き、在籍児の保護者同士の繋がりだけでなく、つむぎを卒業した保護者を招聘し、世代を超えた交流や情報共有ができるような企画を実施していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	スタッフは積極的に外部と接触を持ち、また、地域への学びの機会を開催することでつむぎの一スタッフではなく、地域の専門士という自覚を持つ。
	実践結果	昨年同様に東京農場・ガッツビート西・その他、西区地域の機関との連携を中心とし、戸外活動時には青空保育を積極的に行った。
	次年度方向性	今年度に引き続き、地域に向けた子育て支援の一環として力を入れていく。
2	計画・ねらい	近隣の小学校を訪ね、子どもたちが自分たちの五感で小学校を感じる事ができる機会を持ち、こどもと児童、スタッフと教職員の交流を図る。
	実践結果	小学校を訪問し、教職員と意見交換し就学を見据えた支援活動を行っていくための情報を共有した。
	次年度方向性	次年度も戸部小学校との関係性を維持し、就学を見据えた支援を行ってゆくためのスタッフ成長の貴重な場とする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人も成長し、主体性を持って行動できるようになるため「考え、行動し、共有する場」を積極的に設ける。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の振り返りにおいて、子どもだけでなく大人の振り返りも行い、それぞれのねらいや課題について意見を出し合った。 ・スタッフ間で各自の MBO を発表。半年1回施設長との面談、振り返りの実施を行った。
	次年度方向性	大人も一人ひとりがプロとして成長できるよう、次年度も積極的に意見交換や指摘がし合える機会を設ける。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野や得意分野、興味あることを学びインプットして、スタッフに向けてアウトプットする。 ・自分が学び感じたことや吸収したことを多角的客観的に捉えることで、学びの定着を目指す。またそれを相互に行うことで、相乗効果や学びの深化を目指す。 ・多面的な支援を行えるよう、自身の専門分野だけでなく幅広い分野の知見に触れ、大人のにんげん力 UP を目指す。
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・園長大学®保育士大学の講座を積極的に活用し、スタッフは年間で受講する数やテーマ、発表時期などを決定し共有した。 ・スタッフで話し合っってテーマを設け、ルーム会議の時間を用いて園長大学®保育士大学の講座を視聴し、実際にどのように行動すれば自分たちの業務に落とし込めるかを話し合い、実践できる具体策を出し合った。
	次年度方向性	引き続き、より質の高い支援を行なえるよう、大人一人ひとりが成長するとともに、チームとして互いを高められるよう話し合いの場を積極的に活用していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	ルームを居心地よく、「行きたい」「また来たい」と保護者や子ども達に感じてもらえるよう、常に整理整頓され、清掃が行き届いた環境を保持する。
	実践結果	ルームに関する全てにおいてスタッフ一人ひとりが当事者である自覚を持ち、挨拶や清掃など、気持ちよく過ごせる環境をスタッフ全員が我が事として意識して日々の業務に当たった。
	次年度方向性	引き続き、利用者の方々が気持ちよく過ごせるよう整理整頓、清潔清掃を行ってゆく。
2	計画・ねらい	内部監査項目の指摘を5個以下とする。
	実践結果	継続的にルーム内の整理整頓の機会を持ち、内部監査項目に関して全スタッフに共有し日頃から意識してルーム環境を整えたが、指摘が8個であった。
	次年度方向性	引き続き日頃から意識してルーム環境を整え、次年度は5個以下を目指す。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	144人	128人	143人	181人	192人	177人	191人	171人	171人	183人	175人	175人	2,031人
登録児数	32人	32人	35人	38人	38人	39人	40人	40人	38人	39人	40人	40人	451人

(解説)

4月から6月にかけては振替体制が整わず利用総人数が150人を下回る結果となったが、それ以降は振替だけでなく個別提案なども行え、定期的にご来所いただけるようになった。引き続き、積極的に振替や個別提案を行い、健全な運営状況となるよう目指してゆく。

〈2〉開所時間

9時00分～17時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長1名
 児童発達支援管理責任者1名
 保育士0名
 機能訓練担当3名（言語聴覚士2名、作業療法士1名、理学療法士0名）
 児童指導員1名
 その他指導員0名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行なった。
給食運営会議	月1回	・開催される会議に参加し、議事内容の情報を共有した。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有をした。 ・再発防止策の確認を行った。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整した。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加し、実施した。

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ

保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	・ 事業所内、周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策を行った。 ・ 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。
防火管理者	・ 防災計画の立案、月1回の防災訓練を実施した。 ・ 消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を行った。
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	畑とプランターの整備、計画的な活動の立案をした。
生き物係	めだか、どじょうの飼育管理、子どもたちと定期的な水槽清掃などを行った。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
つむぎ夏祭り係	つむぎ利用者だけでなく、近隣施設や地域の方々にもご参加いただけ盛況であった。
サツマイモを掘って、たき火で焼きイモを食べよう係	自分の手で掘ったサツマイモをその場で洗い、たき火で焼いて食べるという経験を通じ、子どもたちの食への関心や興味をさらに高めることができた。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	調理活動を多く実施したことで、保護者の方々からは「いつもは食べないものを食べる姿が見られた」「みんなと一緒にだと楽しそうに食事をしていた」などのご意見をいただいた。
-------	--

キッズグループ	戸外や畑活動を多く実施したことで、保護者の方々からは「家ではできない体験ができて良い」「のびのび遊べていて楽しそう」などのご意見をいただいた。
個別支援	個別支援を1対1で完結する時間ではなく、集団に繋げる為のステップの時間とし、グループ活動と同じ空間で過ごし、お互いに活動の様子を見に行くなど、交流できる機会を頻繁に設けた。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計10名 が参加済み (3月15日時点)
保護者面談 発達相談	半月に1回モニタリングを実施
関係機関との連携	4～3月まで 合計6名 が参加済み (3月15日時点)

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	【食に対する興味・関心を高める】 自らが畑で育てたものを収穫し、調理して食べる経験をする。
	実践結果	・1か月に2回以上の畑仕事の実施。 ・調理活動で作るものは、子どもたちが主体となって決めた。
	次年度方向性	引き続き、自分たちで調理する食材を自分たちで育てるという食育活動に力を入れる。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 12月～3月頃・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症

エピペン使用できるスタッフの状況	本日現在6名が研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の施設内会議時 ⇒4月25日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子ども、保護者共に居心地が良く、また来たくなる環境を提供する。
	実践結果	日中の定期的な換気や消毒などの衛生管理を行い、整理整頓や清掃を日常的に取り入れた。
	次年度方向性	引き続き毎日および月1回の定期清掃を行い、定期的な棚卸で不用品の整理などを行ってゆく。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める、安心な環境をスタッフ全員で確保する。

実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が始まったら子どもも大人も全力で遊べるよう、打ち合わせや準備を事前に入念に行なった。 ・戸外での活動では全体把握を法人ルールに沿って行うとともに、公園到着時の危険物チェックの徹底、不審者などにも注意した。
次年度方向性	引き続き、ルームミーティングの時間などを利用したマニュアルの読み合わせや散歩ロールプレイングなどを行うことで、安全な活動を行えるよう努めてゆく。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	法人の定める、マニュアルに則って行動をした。
2	実践結果	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努めた。また、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議した。
3	実践結果	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにした。また、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備えた。
4	実践結果	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

臨床心理実習をはじめとする外部からの実習受け入れの依頼については積極的に受け入れ、保育園訪問実習など法人全体を通して実習地とし学びの場を準備し提供した。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月2日～10月6日	鎌倉女子大学児童学部児童学科	3人	療育実習

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	25日 6名	25日 6名	26日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 6名	25日 5名	26日 5名	25日 6名

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

全スタッフが東ローム周辺の地理、社会的資源に興味関心を持ち、探索する中で子どもと一緒に交流していける機会を設けた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：石崎川公園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	社会情勢を鑑みながらデイサービス施設訪問、銭湯で入浴など、世代を越えた交流を実践した。
異年齢交流	グループ支援の中で常に取り入れた。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学支援シートを主な連絡ツールとし、利用児童がスムーズに就学先に適応できるように情報提供し、連携を図った。

また、近隣小学校の地域に公開する取り組みについてはスタッフと子どもが積極的に参加することで、地域の一員として連携が図れるようコミュニケーションを取った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月28日	横浜市立戸部小学校 通常学級、特別支援学級	2名	見学会・意見交換会 （横浜市立戸部小学校）	学級見学、スタッフ意見交換

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施した。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置いた。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成した。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにした。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得た。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行った。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況などに変化

があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをした。

〈1〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催 参加者：5名）

策定会議だけでなくケース検討会を実施することで子どもへの理解をスタッフ全員で深めていき、支援内容の充実に繋げた。

〈2〉 進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継いだ。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	(月)～(土)13:00～16:30 ⇒計10件相談実施済み												
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：石崎川公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	1名	1名	1名	0名	0名	5名

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉 施設による自己評価の実施

2023年9月22日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：16時00分

自己評価実施者：田中誠

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：95%

- ・「他の療育にはない体験型の療育が受けられるのありがたいです」「先生たちがとても親身になって下さる」「先生たちがポジティブで元気をもらえる」など、嬉しい言葉を頂くことができた。
- ・「伝えたことが他の先生に伝わっていなかった」「同じことを複数の先生から連絡された」といっ

た職員間の情報共有不足の指摘があったので、2024年度は職員間の情報共有に力を入れていきたいと考える。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ横浜東ロルーム施設長 田川 信政

2023年度 発達支援つむぎ 府中ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度 運営本部スローガン「成長を楽しむ～子どもも大人も成長を感じられる施設運営」のもと、日課・基本保育活動を子どもと一緒にスタッフも取り組み、子どもと共に「にんげん力」の向上を目指すことを基本方針とした。その中で、子どもが自ら五感を使って感じ取り、考え、伝え合い、表現できるような支援を提供し、生きる力を育める環境を自分で選べる支援を実践した。

この時代を生きる子どもが地域社会の中で生きていく力を育める子育て支援事業所として、更なる認知度の向上を目指し、地域資源の開拓に努めた。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	リズム体操の充実 ・さくらさくらんぼリズムの見直しと定着
	実践結果	さくらさくらんぼリズム研修を実施し、理解を深めた。 日課の一つとして、さくらさくらんぼリズムを日常に取り入れた。 青空リズムと称して、戸外でのさくらさくらんぼリズムを実施したが定着には至らなかった。
	次年度方向性	・ピアノ伴奏ではなく歌伴奏でリズム体操を実施する。 ・誰もがどこでも歌って実践できるリズム研修を実施する。
2	計画・ねらい	戸外活動の展開 ・新旧の地域資源の精査 ・豊かな戸外活動への展開
	実践結果	スタッフは府中市について知見を広め、新旧の地域資源を精査したが、新たな散歩コースの開拓には至らなかった。 子どもが自主選択しやすい戸外マップの作成は2か所のみであった。 地域社会と豊かに関われる資源を開拓し、活用に向けて検討する
	次年度方向性	・ダイナミックな泥遊びを実践する。 ・長距離散歩コースを増やし、日課散歩のコースを拡大する。 ・健康な心と体を育める戸外資源を活用する。 ・保護者に戸外活動研修を実施し、戸外活動の効果を実証する。
3	計画・ねらい	食育活動の展開 ・食の循環や環境の理解 ・畑作業の発展
	実践結果	堆肥づくりは失敗に終わってしまい、食との循環環境にはならなかった。 畑の畝づくりから収穫、調理の流れをほぼ毎月体験できた。また、イワシの手開き体験も実施し、食の循環と環境について学ぶことができた。
	次年度方向性	・食育活動と堆肥づくりを関連付けて日常化する。 ・食の循環と環境についての学びを深める。 ・焚火を使用した食育活動を行い、火との距離の取り方を知る。 ・子どもが主体的に畑の手入れを実施できる環境を整える。

4	計画・ねらい	異年齢活動の発展 ・道徳心、規範意識の向上 ・協同性の向上
	実践結果	造形、感覚、運動、相談、発表などの表現活動を通して、集団活動に必要な「思考し判断する」体験ができる環境を設定し実施した。
	次年度方向性	・表現活動を通して、集団活動に必要な「思考し判断する」「ホンモノを扱う」体験ができる環境設定を実施する。 ・子ども同士で日本の伝統遊び（あやとり、こま回し等）をすることや、協同作業を行う中でたくさんの Trial&Error を経験する。 ・「小学生」を意識し就学を楽しみに感じられる環境設定を実施する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応、接遇の実施 ・保護者の不安軽減 ・保護者との信頼関係づくり ・安心できる環境
	実践結果	来所時のお迎えや見送り時など、スタッフの丁寧な対応について見直しを行い徹底した。 常にカフェや廊下、室内が整理整頓されている環境を維持できるよう努めた。
	次年度方向性	・スタッフの丁寧な対応を徹底し継続する。 ・その日に不必要なものは排除し、常に整理整頓されている環境を維持する。 ・リラックスできる雰囲気待ち時間を過ごせるよう、対応や環境について見直しを行う。
2	計画・ねらい	保護者サロンの実施 ・情報の共有 ・保護者の不安軽減 ・保護者同士の繋がりづくり
	実践結果	保護者勉強会（就学相談、就学、就園、放課後デイサービス、身辺自立、運動遊び、ビジョントレーニング）を実施した。
	次年度方向性	・計画的に保護者勉強会（就学相談、就学、就園、放課後デイサービスなど）を実施する。 ・スタッフが特別支援学校を見学し知り得た情報の発信と共に、特別支援学校に就学した保護者を招いて保護者座談会を実施する。 ・テーマを決めて定期的に座談会を実施する。
3	計画・ねらい	事業所内相談支援の充実 ・保護者の不安軽減 ・支援の共通理解 ・家庭支援
	実践結果	保護者との信頼関係を築けるように努めた。 電話相談も含め、継続した事業所内相談となるように努めた。 先輩スタッフに陪席し、スタッフのスキルアップを図った。
	次年度方向性	・保護者が気軽に話せるような雰囲気の中で対話を行い、定期的に利用したいと思えるように信頼関係を築く。 ・家庭で実践できる支援やヒントを伝える。 ・スタッフ全員が事業所内相談実施できるようにスキルアップを図る。
4	計画・ねらい	所属園との連携の充実 ・支援の共通理解 ・地域との連携

実践結果	保育園や幼稚園、他事業所などへの訪問や電話での連携を継続的に行い、子どもに対して多角的な視野のもとで支援した。
次年度方向性	・スタッフ全員が、子どもが所属する保育園や幼稚園、他事業所などへの訪問や電話での連携を継続的に行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・就学を見据えた支援の提供
	実践結果	近隣小学校の学校公開にスタッフが参加し、小学一年生の学校生活について知り学んだ。 近隣小学校の校庭開放を利用した。 府中市立若松小学校校内で体験学習を実施し、和太鼓クラブとの交流を持った。
	次年度方向性	・武蔵台学園（特別支援学校）、近隣小学校（特別支援学級、通常級）の学校公開等にスタッフが参加し、小学一年生の学校生活について知り学ぶ。 ・近隣小学校の校庭開放を利用し、小学生との関わりを持つ。 ・府中市立若松小学校校内で体験学習を実施し、和太鼓クラブとの交流を持つ。
2	計画・ねらい	市との連携 ・地域資源としての自覚 ・情報収集
	実践結果	府中市児童発達支援センターあゆの子主催の講習会に3回参加した。またあゆの子の相談員が来所し、情報共有会を実施した。 市内の相談支援事業所との対面会議は実施なかったが、電話での連携は継続的に実施できた。
	次年度方向性	・府中市児童発達支援センターの移転開設に伴い、センターの事業内容を把握理解し連携に努める。 ・スタッフは地域の子育て研修や子育て勉強会、子育てイベントに積極的に参加し、地域で求められている子育てについて情報収集を行う。 ・センターだけでなく市内の相談支援事業所や子ども家庭支援センターなどの機関との連携にも努める。 ・NPO 法人「ママチャリーズ」や、府中市発達障害児母の会「虹色てんとう虫」との関わりを深める。
3	計画・ねらい	カフェの充実 ・情報共有 ・身近な子育て支援事業所としての周知
	実践結果	利用待機者には「いつでも行ける」場所としてカフェの利用を積極的に周知したものの、来所するまでには至らなかった。 子育て支援情報や、勉強会資料を設置し内容を充実させた。 緑を増やし、環境を適宜見直し改善することに努めた。
	次年度方向性	・利用する誰もが、心地よい雰囲気の中、子育て情報を閲覧できる場であるように努める。 ・身近な子育て支援事業所と感じられるように、環境を適宜見直し改善していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「小学校学習指導要領を知る」 小学校学習指導要領の理解 就学後の姿を見据える
	実践結果	小学一年生の学習内容を読み解くスタッフ勉強会を実施した。就学前に何ができるかを話し合った。 保育所保育指針を読み解き、小学校学習指導要領と見合わせて、就学前にどのような力が必要なのかを学び、支援後の振り返りでは就学前に必要な力に焦点を当てて話し合った。
	次年度方向性	・スタッフ全員が小学校を見学訪問し、就学先についての学びを深める。 ・小学校学習指導要領を再度読み解き、成長と共にどのように学習が進んでいくのかを知り得た上で、就学前に必要な力は何かを再確認し、支援に展開する。
2	計画・ねらい	自己実現 ・やりたいことの実現 ・支援者としての自覚と成長
	実践結果	活動計画に取り入れた、スタッフの「共に成長を楽しめるやりたいこと」を計画から振り返りまで行い、丁寧な振り返りを実施した。
	次年度方向性	・スタッフの「やりたいこと」を活動計画に取り入れ、主体性を持って計画から振り返りまで丁寧にいき実現に向けて努力する。 ・子どもと一緒にスタッフの「にんげん力」が向上し成長できる活動や環境を考えて実行する。
3	計画・ねらい	ルーム内研修の充実 ・大人のにんげん力向上
	実践結果	園長大学®保育士大学や、他園見学、講習会などに参加した際はルーム内研修で共有した。 発表するだけでなく、資料としてまとめることでより自己研鑽が深まるように努めた。
	次年度方向性	・スタッフ一人一人が、職場や自身の課題を真摯に見立て、学ぶべきことを見極める。 ・目の前の子どもや保護者にどのように役立つかを考えながら学び続ける。 ・スタッフ勉強会で全員が講師を務める。人に分かりやすくアウトプットし、学んだ内容を整理して自己研鑽に繋げる。 ・園長大学®保育士大学を受講し、適宜報告会を実施する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	環境監査（内部監査）の学び ・共通理解 ・法令順守の確認 ・次年度を見据えた活動内容の検討
	実践結果	スタッフ全員で環境マネジメントマニュアルの読み合わせを行った。 基本理念や基本方針を理解したうえで、府中ルームでは畑活動から食育活動につなげることが有益な活動と捉え注力した。
	次年度方向性	・畑から収穫したものを使った食育活動の企画を子どもと一緒にやる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・室内または野外で食育活動を行い、あらゆる環境で「生きる力」が育めるようにスタッフも全力で取り組む食べ物を大切に消費する。 ・子どもが自分で考えて食べられる量を盛り付け、残渣削減に取り組む。 ・廃棄にかかる環境負荷を減らす。
2	計画・ねらい	生き物の世話 ・生死の理解 ・環境教育の実践
	実践結果	畑で捕まえた魚やザリガニの飼育する方法を子どもと一緒に考え、計画的に実践した。
	次年度方向性	・生き物の世話を通して、生命の不思議さや尊さに気づき、生命を感じながら生き物の特性に合った環境を探求できるように取り組む。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	219 人	192 人	201 人	201 人	194 人	212 人	211 人	216 人	217 人	217 人	194 人	230 人	2504 人
登録児 数	60 人	60 人	59 人	58 人	58 人	60 人	60 人	62 人	62 人	62 人	62 人	65 人	人

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長 1名

児童発達支援管理責任者 1名

保育士 3名

機能訓練担当スタッフ 1名 (作業療法士)

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	週1回 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議：適宜 ・会議、委員会、研修、勉強会の報告：適宜 ・スタッフ勉強会：適宜 ・必要なテーマの会議や委員会：適宜
全体会議	月1回 (第1月曜) 80分	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・ルーム内研修 ・支援内容検討会
グループミーティング	週4回 5分～10分	<ul style="list-style-type: none"> ・当日グループ支援の打ち合わせ 活動の目的、流れ、人員配置、配慮事項、見たい姿の確認
事故防止委員会	月1回 (第2火曜)	ヒヤリハットや事故報告書の共有、検証 自ルームにおける事故防止についての検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者と児童発達支援管理者が必ず参加 ・基本的には全員参加とし、全員が支援できる体制を整えた
支援の質をあげる会議	月1回	支援全般において課題を抽出し、課題の改善に向けて検討した 子育ての質を上げる会議の宿題に向けた話し合いを行った

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の消毒の点検 ・ 感染対策の検討と提案 新型コロナウイルスが5類となりってからの感染対策は、法人から出された対応を元に都度確認しながら行った。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハザードマップの適宜見直し 更新月には、できる限りマップの改定に努めた。今後は、ヒヤリハットやインシデント発生時の振り返りで、どこで起こったかをハザードマップで確認しながら都度見直しを実施する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内の安全確認 自身による危険を想定して適宜見直しを行った。見慣れてしまう事による見逃しを防ぐ為、係を決めて俯瞰的に点検することが必要である。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画の立案 防災訓練の実施はスタッフ全員実施計画を立て、振り返りや報告を行った。また、全員で取り組むことによって、防災の視点が多様になり意識が高まったように思われる。支援で利用した消防署への訪問は今後も継続していく。
食品衛生責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検食の保管および管理 ・ 食育実施における衛生の管理 係の固定はなかったが、活動のリーダーが適宜上記の役割を担った。運営マニュアルや品質マニュアルを参照にしながら実施し、スタッフ全員が衛生に関しての意識が高まっていると考える。
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑管理者との連絡調整 ・ 畑仕事および食育活動の計画 畑係を中心に、一年間の収穫予定を見通せたことで、畑仕事を滞りなく行った。また、スケジュール調整しながら、スタッフ全員で畑仕事から食育活動に繋げるように検討を重ねた。次年度の食育活動の土台にもなったと考える。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物に触れる機会の提供 エビ、魚、ザリガニを畑の水路で捕まえてルームで飼育している。昨年度の卒園児から引き継いだ今年度の年長児が中心となり行った。また子ども間で引き継いでいく。
広報係	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS およびブログ、創園の実践記録への発信 SNS およびブログは輪番制にて毎月発信することができた。実践記録への発信は未実施であった。
環境整備係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内の環境整備、清掃計画 ・ 備品在庫管理 MBO の目標に掲げたスタッフを中心に清掃・環境整備を実施した。定期全体清掃は月2回計画し、達成できた。今後は、輪番制として全員が把握して取り組めるようにする。
教材絵本管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材や絵本の管理 ・ 修理、見直し

	気づいたスタッフが適宜実施した。戸外支援が多いなか、真に必要なものを精査したうえで処分し整理した。
グループ支援係	・グループ支援の活動内容の立案・施設内会議への議案提示 翌月のグループ支援活動内容を年間活動計画に基づきながら立案した。社会情勢や、地域情報を鑑みながら検討を重ね、子どもにとって必要な体験を提供できるよう取り組んだ。
実績及び稼働管理係	・実績および日報入力・稼働動向管理の実施 実績および日報入力は輪番制、稼働動向管理は児発管が中心となり行った。稼働動向確認は、スタッフ全員で周知し確認できるようになってきている。今後も全員で取り組めるように努力する。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
体験学習係	7月、8月、9月、3月に体験学習を実施した。経験のある先輩スタッフが中心となって立案、計画、実行、振り返りを行った。今後は、スタッフ全員で体験学習に取り組み、立案から振り返りまで担当できるようにする必要がある。
企画立案係	7月、9月、10月、12月、1月、2月に保護者勉強会を実施した。事業所内相談加算Ⅱを利用しての参加となった。好評であったため、次年度はより計画的にテーマを決め実施していく必要がある。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

グループ支援	全て異年齢グループとして実施した。年長児が年少児を世話する姿や、リーダー的な姿は異年齢支援ならではの姿であったと考える。実際に、今年度の年長児は今までのリーダーを見て憧れており、やっと自分が担える喜びを感じながら日々の支援に取り組んでいた。今後は、発達支援における異年齢の必要性をより探求していくものとする。
個別支援	児の発達課題に応じた支援、また次のできることを強みに変えていく支援など、多角的な視点のもと支援を行った。今後は、感情コントロールエラーや合意形成エラーなどが経験できるよう、個別支援においても基本的には他児と一緒に過ごす時間や場面を用意し取り組んでいく。

事業所内相談支援	4～3月まで 合計68名が参加済み (3月1日時点) 「相談支援記録」を作成した。主な内容は、家庭での関わり方や、就学に向けての相談であった。
保護者面談 発達相談	事業所内相談加算を利用して保護者との面談を行った。家庭での困りごとに対する保護者支援の必要性を知ると共に、今後は、ルームでの支援を家庭支援にどう繋げていくか、検討を重ねることが必要である。
関係機関との連携	4～3月まで 合計40名 が参加済み (3月15日時点) 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行った。
意見・要望への対応	4月、口頭でのご意見があった。苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用した。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑仕事、調理 自然を感じる（センス・オブ・ワンダー）
	実践結果	時間をかけて畑で自分たちが育てた野菜を収穫して、どんな料理がいかを考えて自ら調理して食した。
	次年度方向性	・収穫した野菜からどのような料理ができるか、どんな料理を作り食したかを子どもが考えて計画する。 ・料理に必要な食材の買い物、役割分担、調理、そして食すまでを子ども主体で行う。食への関心を深めると共に「できた」「食べられた」経験を増やしていく
2	計画・ねらい	生を食す経験 ・命をいただくことへの理解
	実践結果	東京卸売センターに出向き、食についての知識関心を深めた。 魚を捌いて食すクッキングを実施した。
	次年度方向性	・子どもたちが自ら魚を捌いて食す調理活動をグループ支援と個別支援で実施する。 ・乳牛から生乳を搾って食す体験学習を実施する。
3	計画・ねらい	コンポストの充実 ・食材の循環理解
	実践結果	毎日々かき混ぜ、堆肥になっていく様子を観察したが、虫がわき、悪臭もあり失敗してしまった。衛生的に課題があり、一旦中止となってしまった。
	次年度方向性	・畑の畝にコンポストを設置し、堆肥になっていく様子を観察する。 ・子どもにとって身近になるような設置方法をルーム内で検討する。

		・できあがった堆肥で作物を育てる。
--	--	-------------------

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	報告すべきスタッフの感染症なし
発作・痙攣等の対応	預かりなし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講者なし
AED 使用できるスタッフの状況（AED 設置施設のみ）	AED 設置なし。非常時使用できるように、スタッフで使用方法の動画視聴済み。
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、必要時には消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	個人衛生点検簿／適宜	食育活動の際に実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月13日、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	教材や玩具の配置の整備 ・危機管理 ・美観への取り組み ・子ども主体の活動
	実践結果	必要なもの、 unnecessaryなものの整備や整理整頓を行った。 子どもが自ら考えて行動できる環境を整備した。
	次年度方向性	・常に整理整頓を意識する。 ・子どもが自分でやりたいことを考え、選択し、安全に取り組むためにはどうしたら良いかを判断して行動できる環境を整備する。
2	計画・ねらい	子ども用ハザードマップの作成 ・子ども主体の活動 ・危機管理
	実践結果	子どもが散歩時に自分で見ながら歩ける子ども用マップを2か所作成した。危機管理の徹底には至らなかった。
	次年度方向性	・子どもが自分で活動場所を選択できるよう、子ども用マップを作成し、取り扱いしやすい場所へ設置する ・危険箇所を分かりやすく記し、自分で危険回避できる力を育む。
3	計画・ねらい	清掃時間の確保 ・美観への取り組み ・危機管理
	実践結果	日々の清掃だけではなく、月に2回15分間スタッフ全員で集中清掃を行った。
	次年度方向性	・月2回の集中全体清掃を継続する。 ・危険箇所の早期発見に努め、修繕が必要な場合は早めに手配する。
4	計画・ねらい	子どもを見守る関わり ・子どもが自分で考えて行動する機会の保障
	実践結果	支援後には、スタッフの立ち位置について振り返りを実施した。
	次年度方向性	・支援の振り返りではスタッフ同士で意見を出し合い、一定の距離を保って見守る関わりができたか話し合う。 ・スタッフの立ち位置や声かけなどの事例検討を適宜行う。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	靴箱	支援室入口	毎日	異常なし
2	椅子	北島体験農園	月1回	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災 ・毎月、防災避難訓練を実施し、反省会を行った。子どもの安全な移動に
---	------	---

		注力するとともに、子どもの不安が増幅しないような対応を心がけた。 ・保護者や子どもたちにも変化が現れ、防災避難訓練への協力、子どもたちの避難時間の短縮など、訓練の効果が得られている。
2	実践結果	ケガ防止 ・ヒヤリハットな出来事の検証を日々実施し、けがを未然に防ぐ意識を高め、再発防止に努めた。 ・事故防止委員会の内容は自ルーム内のインシデントやヒヤリハットの事案が主であった。今後は法人内またはつむぎ内での事故報告を、必要に応じて施設内会議の議題にあげ、間接体験として捉えて話し合う必要がある。
3	実践結果	防犯 ・年2回の不審者侵入訓練を実施した。 ・笛は常時所持した。 ・施設周辺の変化は、建物管理者であるオーナーに適宜伝えた。
4	実践結果	光化学スモック ・光化学スモックの発令日は室内で過ごした。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

保育養成校の学生の実習受け入れの打診があり、1名受け入れた。実習生を受け入れることで、スタッフの支援を客観的に見直すことができ、深い学びとなった。

市報や SNS 等で実習やボランティアを受け入れているという情報を発信した。府中市社会福祉協議会を介したボランティア2名の受け入れあり、うち1名は現在も継続中。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月15日～26日	アルファ医療福祉専門学校	1人	保育実習

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	27日 7名	25日 7名	27日 7名	26日 7名	28日 7名	12日 7名	27日 6名	28日 6名	26日 6名	30日 6名	22日 6名	26日 5名
研修	28日 6名	25日 7名	27日 7名	26日 7名	28日 7名	12日 7名	30日 6名	28日 6名	26日 6名	30日 6名	28日 4名	26日 5名

〈2〉外部研修への出席

なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子 育ての質を上げる 会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 0名	19日 1名	16日 1名	20日 0名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

多様な世代との交流を積極的に行えるように心がけた。また市役所や市報、文化センターなどを活用し、情報収集に努めた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：美好町公園
商店街ツアー	近隣の商店街に出向き、食育で使用する食材購入や、保護者へのプレゼント、長距離散歩時のおやつ購入など、月1回以上のペースで実施した。お世話になったお店には支援内でお礼状を書き届けるなど、継続できる関わりとなっている。
世代間交流	市のイベントは未参加。北島体験農園にて子どもの祖父母世代の方々との交流を行った。
異年齢交流	卒園児や小学生と交流は、北島体験農園や、利用児の兄姉とのふれあいのみであった。
その他活動	7月、府中市児童発達支援事業所連絡会 スタッフ参加 11月、2月、府中市 発達障害者母の会「虹色てんとうむし」 スタッフ参加 12月、府中市児童発達支援センターあゆの子 相談員 来所にて談話 12月、ママチャリーズ主催音楽会 利用児参加 1月、ママチャリーズ主催 就学相談会 スタッフ参加

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

医療機関との連携はコロナ流行時と重なってしまい、電話で挨拶のみとなってしまった。幼稚園や保育園など利用児の所属園への連携は継続的に実施したケースが昨年より増加した。所属園との連携の効果を保護者が感じてくださり、継続的に実施することがより効果的であると実感されたことが要因と考える。今後は「連携の効果、内容」について検証し、保護者への周知もより濃く行えるように取り組む。小学校においては、就学支援シートだけでなく、今年度以上に校庭開放や学校公開に進んで参加し小学校側にもつむぎを身近に感じてもらえるような計画を行う。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月10日	府中第一小学校	2名	学校公開	スタッフ見学 副校長と談話
6月10日	府中第二小学校 特別支援学級	1名	学校見学	スタッフ見学 教員と座談会

10月23日	府中第一小学校	1名	特別支援教室見学	スタッフ見学 教員と座談会
12月12日	武蔵台学園	1名	電話連携	相談員と談話

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画書の作成や更新、園訪問による見直しなど、保護者への提示は遅滞なく実施することができた。策定会議は担当者と児発管の二者だけでなく、子どもに関わるスタッフが多く参加することで多角的な意見のもと、ルーム全体で支援するという形が定着した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への引継ぎは就学支援シートによるものが主であった。合計22名の就学支援シートを作成した。小学校特別支援教室教員との座談会内容を踏まえ、就学支援シートをコピーし、各支援先で共有できるよう保護者に伝えた。今後は、より一層小学校側視線での内容作成に努め取り組む。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	上半期に1件あり												
青空保育	月1回 公園名：美好町公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	7名	0名	3名	0名	2名	5名	5名	2名	6名	4名	2名	5名	41名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年10月6日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。
自己評価開始時刻：9時30分

自己評価終了時刻：15時30分
自己評価実施者：森谷太郎 青木友子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施
アンケート配布日：8月25日
アンケート回収率：100%

全体的には利用者から高い支持を得られた結果ではあった。しかし、前年度と比べると非推奨数が若干増えており、真摯に受け止め改善に必要な結果でもあった。支援内容において、子どもの興味関心に寄り添い、調理活動や戸外活動などの体験ができていくことにたくさんの支持の声をいただいた。特に畑仕事については、土や水に触れる機会が多く、実のある体験になっているというご意見を多数いただいた。一方で、支援担当スタッフを固定ではなく数名体制にしたことで、不安に感じるといったご意見もあり、ルーム全体で支援する大切さを、より丁寧に説明する必要性を感じた。今後も、保護者の小さな声を必ず拾いながら、不足していることへの改善を実施し、利用者の満足度がより向上するようなルーム運営を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 府中ルーム施設長 上田 朋子

2023年度 発達支援つむぎ 桶川ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度は、併設されているメリー★ポピンズ 桶川ルームとの連携をより一層強化していくことで、地域におけるインクルーシブモデルを確立していくことを目指してきた。その中でも事業計画における方針として目指してきた、①子どもの「生きる力を育む」を軸とした発達支援の提供、②子どもの「好み」に寄り添った支援、③就学を見据えた支援に係る小学校との連携、④畑仕事を通じた食循環への意識、⑤地域のセンター的役割を担える事業所の確立に関しては、各スタッフが連携しながら、基本方針以上の形で事業計画を拡大できた1年であった。

① 子どもの「生きる力を育む」を軸とした発達支援の提供

畑仕事やビオトープの設置、生き物の世話等、戸外活動を中心とした仕事や遊びを提供することで、原体験に繋がる活動を子どもたちに提供することができた。また、継続して上記活動を提供することで、子ども自身の好みの幅が広がり、自己選択ができる力を身に付けていくことができた。

② 子どもの「好み」に寄り添った支援

日常の生活場面による子どもに対する行動観察、及び保護者との日常的な対話の中から、子どもの好みの状況を常に把握し、好きを尊重した支援を展開していくことができた。また、スタッフが意識して情報収集に努めたことにより、日常場面でイレギュラーな対応が求められた際にも、子どもたちが落ち着いて過ごすことのできる環境を提供することができた。

③ 就学を見据えた支援に係る小学校との連携

近隣小学校への見学に関しては、園スタッフと合同で学校公開に参加することで実際の小学校一年生の活動、姿を確認し、就学を見据えた支援に結び付けていくことができた。また、つむぎ、メリーポピンズの両施設長が施設内でスタッフ向けにアプローチカリキュラムの研修を実施することで、園全体で小学校への接続の重要性を相互的に学ぶ環境を提供した。

④ 畑仕事を通じた食循環への意識

体験学習における畑での種まき、水やり、収穫、調理、加工を通して、食への興味や食べることの楽しさを経験できる環境を提供することができた。また、実際に火を使っての調理を行うことで、調理過程の中で熱さや危険等を学ぶことや、魚の調理を通して、生と死を通じた食循環を体験する活動を実施した。

⑤ 地域のセンター的役割を担える事業所の確立

併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームと協同、連携することで、スタッフ全員が専門性や個々のスキルの向上等、エンパワメントを図ることで、質の高い保育、支援を提供した。また、地域保護者に向けた子育て相談会を定期的に開催することで、地域に開かれた児童発達支援事業所としての基盤を築くことができた。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもたちが自己選択のできる環境設定 ねらい：選択、決定できる力を育み、「生きる力」を獲得する
	実践結果	つむぎの玩具や活動備品をすべて外に配置し、自由に使用できる環境を整備した。また、活動に関しても子どもたちに対して提案を行うことで、自分たちで選択する力を養うことを軸に支援を展開した。
	次年度方向性	マンスリーだけではなく、午後のグループにおいても保育園と合同での活動を展開し、環境に関しても活動を複数提示する形で設定する。子どもたち自身が選択した活動に合せ、スタッフが援助の段階を考え、子どもたちが「生きる力」を獲得できるようにする。
2	計画・ねらい	計画：戸外活動の充実 ねらい：乳幼児期における原体験を、戸外活動を通して感じていく
	実践結果	今年度は活動の機軸を戸外活動に置いたことにより、ほぼ毎日の活動を戸外で行うことができた。結果、戸外での活動を通して様々な実体験を子どもたちに経験してもらうことができた
	次年度方向性	今年度の方針、及び活動を踏襲しつつ、併設されたメリーポピンズ桶川ルームと合同で、より戸外活動の幅を広げていく
3	計画・ねらい	計画：保護者に対する支援の可視化 ねらい：事業所における支援内容を明確に提示していくことで、保護者と共に子どもたちの成長を感じる
	実践結果	戸外活動が中心となったが、活動を丁寧に説明することで、公園まで保護者が見に来る等、保護者と共に成長を感じることでできる場面を設定することができた
	次年度方向性	新しいアプリもリリースされるため、タイムラインを有効活用することで、活動の発信をより視覚的に提示していけるようにする

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者交流会の機会を提供し、安心して相談できる環境を設定する
	実践結果	保護者交流会を年間4回実施し、それぞれ専門士が自身の専門性に合せて話題の提供を実施した。また、うち1回はメリー★ポピンズ 桶川ルームと合同で実施し、つむぎ利用児保護者だけではなく、保育園保護者向けにも実施した。
	次年度方向性	今年度同様、保護者交流会に関しては適宜開催していくことで、保護者が気軽に相談できる環境を設定していく。
2	計画・ねらい	相手の気持ちに寄り添った関わりをすることで、安心できる場を提供する
	実践結果	保護者交流会の開催の他、事業所内相談支援の活用を促すことにより、スタッフが定期的に保護者の悩みや話を聞く機会を提供することができた。

	次年度方向性	保護者向けの座談会などを設定することで、スタッフと保護者だけでなく、保護者同士がかかわりを持っていける場を提供できるようにしていく。
3	計画・ねらい	事業所内相談の充実化
	実践結果	事業所内相談の件数は昨年度より増加しており、さらに事業所内相談から保育所等訪問の契約を頂くことができた。結果として支援の繋がりを途切れさせない形で事業所内相談を展開することができた
	次年度方向性	今年度を踏襲しつつ、次年度も積極的に事業所内相談を実施することで、保護者のニーズに応じた支援を展開していく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の関係機関との連携
	実践結果	地域の子育て支援センターや保健センターに挨拶に行き、どろんこ祭りの案内をすることで、関係連携機関との関係を切らずに施設運営を行った。
	次年度方向性	地域の関係連携機関と合同での保護者交流会や職員管研修等を実施することで、公民連携の中心的役割を担える施設を目指していく。
2	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する
	実践結果	地域の教育センターに在籍していたスタッフを中心に、地域連携の必要性に関して施設内にて研修を実施し、地域連携の重要性についての共有を適宜行った。
	次年度方向性	今年度の研修を踏まえ、各スタッフが地域の関係連携機関との連携に参加することで、学んだことを施設にてアウトプットできるようにしていく。
3	計画・ねらい	地域の子育てをしている保護者の安らぎの場となる
	実践結果	メリー★ポピンズ 桶川ルームに設置されているちきんえっぐにて月1回、心理相談を実施し、地域の保護者に向けて安心して相談できる場を提供した。
	次年度方向性	上述した心理相談に関しては周知の少なさもあったため、集客面で厳しさが残った。そのため、次年度に関してはポスター掲示やSNSでの発信を通し、多くの保護者が参加できるような形態を構築していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフに学びの機会を設けることで、支援の質の向上、及び獲得を図る
	実践結果	半数のスタッフが各々の専門性に基づき、子育てに関する施設内研修を実施した。また、都度支援の内容について振り返りを実施することで、各々

		が支援の質に関して学びを深める機会を提供することができた。
	次年度方向性	次年度はつむぎの全スタッフが自身の専門性に基づいた子育ての研修を、併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームも含めて実施することで、桶川ルーム全体の支援スキルの向上を目指す
2	計画・ねらい	小学校就学にむけた支援を理解する
	実践結果	質会議に参加したメンバーを中心に就学を見据えたアプローチカリキュラムの提案などを実施し、接続期に求められる支援に関する知識を共有した。
	次年度方向性	計画していた小学校訪問の回数が実際には下回る結果となったため、事前に小学校と密接に連携を取り合うことで、スタッフ全員が特別支援学校を含む学校へ見学、連携に行くことができるようにする。
3	計画・ねらい	日々の活動に対する適切な支援を学ぶ
	実践結果	普段の支援の振り返りを定期的実施することで、子どもの発達段階に適した支援を展開することができているかを都度確認した。また、支援技法、手法等は定期的にスタッフ間で研修を実施することで、自身の専門ではない手法の獲得を目指した。
	次年度方向性	今年度の実践に関しては継続しつつ、子どもの発達段階を踏まえた支援に加え、子どもの情緒に寄り添った支援を展開できるよう、常に行動観察を意識し、スタッフ間で情報共有ができる体制づくりを目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる、命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する
	実践結果	毎週の畑仕事の他、体験学習にて実施した苗植え、水やり、収穫や、魚をさばいていただく経験を通し、食の循環について学びの場を設けることができた。
	次年度方向性	畑仕事や食材加工に関しては今年度を踏襲しつつ、次年度の運営本部 mission でもある命を頂く経験をより発展させた形で子どもたちに学びの場を提供していく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する
	実践結果	調理室と保育者の連携を密接にすることで、子どもの情報共有を適宜行った結果、給食残渣は昨年度比で減らすことができた。また、食育などを通し、子どもたちと一緒に SDGs を意識しながらの給食提供を実施することができた。
	次年度方向性	給食残渣の数値としてはまだ改善の余地はあるため、調理室と連携しつつ実施していく。また、子どもたちとともにコンポスト製作などを行うことで、環境意識を持った保育を実施する。

3	計画・ねらい	木や竹、花などに触れる機会を作り木育を行うことで、環境保全の意識を持つ
	実践結果	地域のみどりの会の協力により、子どもたちと一緒に竹ぼっくりの制作等に取り組んだ。また、全国植樹祭に提供する苗木を育てる体験や、桶川花と緑をいっぱいにする会、と合同で、桶川駅の花植えに参加する等、地域と密接に関わりながら木育活動を展開した。
	次年度方向性	地域連携を密にしながら展開していくことができる活動になるため、今年度の活動を継続しつつ、活動の輪を桶川全域に広げていけるようにする。また、どろんこ祭りにおいても活動の紹介の場を設けるなどし、保護者の方々にも活動内容を周知していくようにする。

〈6〉地域のセンター的役割を担う施設づくり

1	計画・ねらい	子育て支援を中心とした各種講座の施設内における実施
	実践結果	保護者交流会を中心に、子育て及び発達に関する講座を保護者向けに展開することができた。また、メリー★ポピンズ 桶川ルームと合同での保護者交流会も実施し、つむぎだけではなく保育園保護者向けの講座も実施した。
	次年度方向性	次年度以降も今年度の方針を踏襲しつつ、自園の保護者だけではなく、地域の保護者の方々にも参加して頂けるような形での保護者交流会を実施していく。
2	計画・ねらい	スタッフのスキル向上と支援内容の質の向上
	実践結果	各スタッフが自身の専門性に基づき、支援計画策定会議にて意見や提案などをすることができた。また、施設長、児発管を含むスタッフの半数が保護者交流会にて自分たちの専門性に基づく発表を行った。
	次年度方向性	施設長等特定のスタッフだけではなく、全スタッフが保護者交流会にて発表を行うことで、それぞれの専門性について自分の口で語るようにしていく。
3	計画・ねらい	地域における各種会議、及び他施設見学の積極的な参加
	実践結果	同法人の発達支援センターつむぎ 浦和美園、つむぎつつじヶ丘へのスタッフ連携を中心に、他施設の運営、及び支援内容を学びに行く機会を設けることができた。一方で、他法人への施設見学は前年比で減少する結果となった。
	次年度方向性	次年度に関しても人員配置に問題はないため、交換連携も含め、他施設への連携を積極的に実施する。連携して得た学びを自園スタッフにアウトプットできる場を設け、連携が意義のあるものとする。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	227 人	206 人	224 人	239 人	243 人	212 人	221 人	221 人	230 人	221 人	209 人	227 人	2680 人
登録児 数	42人	42人	44人	43人	43人	45人	45人	44人	46人	44人	45人	45人	484人

(解説) 平日マンスリー、平日グループ、平日個別、土曜日グループ

平均稼働率は90%を超えており、最も低い5月においても85%以上の稼働率を確保できた。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当4名(作業療法士1名、心理指導担当職員3名)

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・各スタッフによる研修
給食運営会議	月1回	食育会議、給食提供時の環境調整、アレルギー提供管理、 衛星点検
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントレポートの分析、及び安全対策
支援計画策定会議	適宜	児童発達支援管理責任者を中心に、支援に携わるスタッフが 参加。基本人数3名以上で計画作成時期に合わせて開催。
つむぎ会議	月2回	マンスリー利用児の月間支援目標策定、環境調整に係る会議

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	年2回	児発管
併設園会議／法人本部	年2回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
主任会議 ／法人本部	月1回	児発管
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の掃除の点検、感染症対策の検討と提案等を実施し、結果として大きく流行した感染症はほとんど見られなかった
安全対策係	事業所内、及び近隣の安全管理に努め、計画的に安全点検を実施した。結果、設備が原因となる利用児の怪我や事故はなかった
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練を実施した。訓練終了後には反省点を含めた振り返りを実施し、常に対応をアップデートできるように留意しながら対応した
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案を行った
生き物係	屋上ビオトープの設置等、子どもが生き物に関われる環境を整備した
体験学習係	毎月の体験学習の計画、立案、実行を行い、集客に関しても平均70%の稼働率を獲得できた

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保育園と合同での実施。どろんこサポーターと協力し、運営することで、つむぎの利用児に関しても多くの利用児に会場に来て頂くことができた
運動会係	保育園と合同での実施。つむぎ利用児の参加は2家庭のみであったが、普段と異なる環境下においても活動に参加しようとする様子が見られた
生活発表会係	保育園と合同での実施。開催は土曜日であったが、ほとんどのマンスリー利用児が参加し、普段の様子を保護者の方向けに発信することができた

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<p>マンスリーに関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。</p> <p>以下、保護者に対する主な支援を記す。</p> <p>○日々の活動のお伝えを丁寧に実施し、送迎のタイミングで日々の悩みや成長した姿などの聞き取りを都度実施した。</p> <p>○保護者交流会を定期的に開催することで、日々の子育てに必要とされる研修と、保護者間での交流の機会を提供した。</p> <p>○定期的な事業所内相談支援を実施することで、保護者の方のご相談を時間をかけながらお聞きし、安心感を与えられるように実施した。</p>
空間共有グループ	<p>空間共有型支援に関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。一方、利用時間に関してはご相談を頂く機会があったため、今後の検討事案となる。</p> <p>以下、保護者に対する主な支援を記す。</p> <p>○グループ支援のため、保護者に対するフィードバックが全体に向けたものになることが多くあった。そのため、子どもたち一人ひとりの様子は適宜お伝えする等、時間を設けながら実施した。</p> <p>○活動内容に関しては戸外活動が中心になったことにより、保護者の方が見えない形で展開されることが多かった。そのため、支援の内容を写真やビデオなどの映像媒体に収め、活動内容を適宜お伝えできるように実施した。</p>

個別支援	<p>個別支援に関しては、利用者アンケートも含め保護者の方々より概ね肯定的なご意見を頂くことができた。一方、活動が戸外活動中心になったことにより、わかりやすい認知的スキルの向上を求める保護者の方に対する丁寧な説明が適宜求められた。次年度以降、アセスメントの段階でつむぎの特色を丁寧にお話しし、選んでいただける事業所の確立を目指していく。</p> <p>以下、保護者に対する主な支援を記す。</p> <p>○個別支援に関しても戸外活動中心の支援になったため、保護者の方にとってわかりやすい支援の展開という点では難しい面が残った。そのため、行った支援が子どもたちのスキルにどのような影響を及ぼすかどうかの丁寧な説明を行うことで、保護者の方の不安感を軽減できるように意識した。</p> <p>○個別支援を展開しつつ、子どもの状況に応じて集団支援への移行を促す等、常時丁寧なアセスメントを心掛けることで、保護者と子どもの状態の共有を実施した。</p>
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計31名 が参加済み (3月1日時点)</p> <p>スタッフ側からも積極的に話を聞く機会を設定する旨をお伝えすることで、昨年度より多くの利用児保護者の方々に相談支援の場を提供することができた</p>
保護者面談 発達相談	上記事業所内相談にて実施。
関係機関との連携	<p>4～3月まで 合計2名が参加済み (3月1日時点)</p> <p>・上尾桶川伊奈地域自立支援協議会子ども部会</p>

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を楽しめるような環境を設定し、食への興味・関心を広げる
	実践結果	体験学習では、自分たちで調理した食事、普段とは異なる外での食事等、子どもたちにとって食への興味関心が高まる環境を設定することで、食を楽しめるような活動を提供することができた
	次年度方向性	体験学習は一日の定員の関係上、すべての利用児に対して食への学びの機会を提供することが難しかった。そのため、次年度は週や月をとして食育の機会を提供していく
2	計画・ねらい	保育士、栄養士、専門士の全てのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う
	実践結果	食事提供に関しては、スタッフ同士で情報を共有することで、それぞれの発達に応じて刻みや食形態の変更など、柔軟に対応することができた。

	次年度方向性	他つむぎのSTなどにも協力いただき、発達の観点から見た口腔機能等の学びの機会をスタッフに提供する機会を設けていく
3	計画・ねらい	自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践結果	体験学習を中心に、自分たちで育てた作物を用いて、カレー作りや芋餅づくり等、調理し、食す機会を多く提供することができた。また、魚の解体を実際に見学する機会を設けることで、食の循環、及び命を頂くことに関する学びの場を設定することができた
	次年度方向性	自分たちで育てた作物の調理の機会をより一層強化していくとともに、魚だけではなく、鶏の解体等、大人が子どもに対して学びの場を提供していく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	流行した感染症は無し
発作・痙攣等の対応	今年度該当対応は発生せず
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月24日にメリー★ポピンズ 桶川ルームにてエピペン研修をスタッフ7名が受講。本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、7名が受講済み。残り1名に関しても個別でエピペン研修を実施
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・メリー★ポピンズ 桶川ルームと合同で、救急救命講習を受講し、本日時点で、在籍スタッフ8名のうち、8名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行った

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み

	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月1日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	整理整頓を意識した「必要なもの以外置かない」施設づくり
	実践結果	運営3部全体で実施した美観に対する取り組みもあり、施設全体で片付けの意識をもって運営に取り組むことができた。一方で、内部監査に関しては昨年度よりも多い指摘を受けており、細かい部分での修正が求められる
	次年度方向性	内部監査における指摘事項の是正を中心に、今年度受けた指摘事項を次年度は受けないように施設全体で課題に取り組んでいく
2	計画・ねらい	子どもの主体性を引き出す、自己選択、挑戦ができる環境づくり
	実践結果	併設するメリー★ポピングス 桶川ルームと合同での環境づくりに取り組み、つむぎでの玩具を保育園の部屋に設置する等、子どもが主体的に活動に取り組めるように物的環境づくりに取り組んだ
	次年度方向性	玩具に関しては昨年度に比べ充実してきたが、活動の動線に関してはまだ改善の余地があるため、次年度は子どもの活動文脈、及びスタッフの動線を考えた環境設定に取り組んでいけるとよい
3	計画・ねらい	ホンモノに触れる、経験のできる機会の提供
	実践結果	活動に関しては今年度よりほぼすべての活動を戸外活動に変更したため、子どもたち自身が様々な刺激に触れながら活動に取り組むことができた
	次年度方向性	つむぎ単体で考えた際、活動時間の問題もあり、戸外での活動場所が限定的になってしまうことがあった。次年度は園と合同での活動を増やし、桶川ルーム全体で戸外活動の選択の幅を広げていくことを目指す

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	棚	支援室内	毎日	異常なし
2	配線 BOX	職員室	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	物的環境面を含めた安全管理を、園会議を通してディスカッションする機会を設けることで、常にスタッフ全員が利用児の安全を鑑みた支援を提供できるように留意した。
2	危機管理	マニュアルの読み合わせ、BCPの説明を通し、受診を伴う事故発生等の流れの理解、及び病院への付き添い等を実施した。
3	救命講習の実施	併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームと合同で救命講習を実施し、年度途中で入職したスタッフ含め、全スタッフがいずれかの形で受講済みとなった。
4	防火管理	月一回の消火訓練、及び年2回の総合避難訓練を通じ、全スタッフが火災発生時の避難経路や避難体制の確認を定期的に行うことができた。
5	光化学スモッグ対応	光化学スモッグについての対応を確認し、発生時の動きについてスタッフ間で共有する機会を設けることができた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は、実習生を1名、施設実習として受け入れており、事業計画に記載して受け入れ方針に基づいて実習指導を実施した。主にマンスリー利用児の支援を担当することで、併設園ならではのインクルーシブな環境における児童発達支援の学びを提供することができた。一方で、中高生の受け入れに関しては、今年度は受け入れ人数が0人であったため、次年度以降、本社採用部とも連携しながら積極的な受け入れを目指していく。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月16～30日	草苑保育専門学校	1人	施設実習

〈3〉中高生の受入

今年度該当なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	14日 7名	12日 7名	9日 7名	14日 7名	18日 7名	8日 7名	13日 7名	10日 7名	8日 8名	12日 8名	21日 8名	3日 8名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月24日～ 8月10日 8月10日～ 8月31日 9月21日 9月22日	有限会社プログレ総合研究 所	令和5年度埼玉県サービス 管理責任者等基礎研修	1名	有
3月1日～ 3月22日 3月26日 3月27日	有限会社プログレ総合研究 所	令和5年度埼玉県サービス 管理責任者等実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子 育ての質を上げる 会議）	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
リーダー養成研修	今年度出席無し											
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

デモンストラティブ	参加者なし
-----------	-------

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認を行った。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

桶川市のみどりの会や上尾市の就労支援事業所ぷちとまと等、近隣の関係連携機関にもご協力いただき、どろんこ祭りでの出店等も実施することができた。また、併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームと合同で青空保育や商店街ツアーに参加することで、つむぎとしても多くの地域連携、地域交流の機会を設けることができた。次年度は更なる発展を目指し、子育て支援センターと合同で実施している心理相談等や保護者交流会等の頻度を増加する予定である。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：駅西口公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：フローラル池田、ヨークマート、マルエツ、JA、駅西口図書館、常念寺等
世代間交流	10月3日にメリー★ポピンズ 桶川ルームにて敬老会を実施
異年齢交流	7月4日にメリー★ポピンズ桶川ルームにて桶川西高水族館を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度は小学校との連携に複数回参加させて頂く機会があり、子ども、スタッフ両方が様々な形で交流をすることができた。また、新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、近隣地域の幼稚園、保育園に園訪問という形で連携することができた。さらに、つむぎふじみ野ルームにおける保育所等訪問事業にて桶川ルームの利用児を接続することができ、つむぎと保育園の間で途切れない支援を構築することができた。

次年度も交流に関しては継続しつつ、近隣の特別支援学校等にも交流を依頼、実施することで、より地域の中で連携の幅を広げていく。

〈2〉 具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月頃	桶川小学校	12名予定	小学校に行こう（桶川小校庭）	スタッフ交流
9月頃	朝日小学校	3名予定	園訪問	スタッフ間連携
11月頃	桶川小学校	12名	園訪問	スタッフ間連携
1月頃	朝日小学校 1年1組	15名	園訪問	スタッフ間連携
12月	カオルキッズ保育園	1名	園訪問	スタッフ間連携
2月下旬	桶川西小学校	10名	小学校訪問	子ども間連携

10. 個別支援計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画は、子どもの多様なニーズを総合的に把握するためにアセスメントを行い、障害別、特性や発達段階を丁寧に把握しそれに応じた支援目標を設定した。支援目標を達成するために必要な支援について「本人支援」「家族支援」「地域支援」などにおける具体的な支援内容を設定した。策定会議では、支援計画のみではなく日々の保育・療育状況の共有の場とし、他職種の視点からの意見が充実した会議を行った。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

併設されたメリー★ポピンズ 桶川ルームを利用しているマンスリー児に加え、保育園園児の中からケース会議が必要な児を抽出し、つむぎ、保育園の合同でのケース会議を実施した。また、実施されたケース会議の中で継続的な支援が必要だと想定される児の個別支援計画の作成を保育園スタッフとともに作成した。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

年長児に関してはすべての利用児に対して就学支援シートを作成し、就学におけた円滑な接続を目指した引継ぎを実施した。支援の必要な園児に行ってきた援助、支援内容を引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活に繋げることを目的に作成した。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細													
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計4件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計0回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：駅西口公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	12名	14名	0名	2名	0名	0名	0名	4名	0名	0名	0名	5名	39名	

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：12時00分

自己評価終了時刻：14時00分

自己評価実施者：伊藤貴大、吉見奈緒子、糸賀若奈、石川結帆

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：98%

利用者アンケートに関してはほぼ全員の利用児ご家庭にご回答を頂くことができた。また、結果についても概ね肯定的なご意見を頂いており、日頃の施設運営にご理解頂けていることが伺えた。一方で、他関係機関との連携に関しては例年ご意見を頂いているため、次年度以降より一層の強化が求められる。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 桶川ルーム施設長 伊藤 貴大

2023年度 発達支援つむぎ 北千住ルーム

事業報告書

(発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

今年度、Doronkoが目指す社会として、2023年度施設運営方針に基づきDoronkoが構想する社会をめざして支援を展開した。北千住どろんこ保育園と併設する児童発達支援事業所として、園児と一緒に生活できるインクルーシブな環境を最大限に活かし、保育園児とつむぎ利用児と一緒に生活し、多様性を認め合う子育てを継続して提供した。その上で、日々の日課として雑巾がけや生き物の世話、畑活動を大切に、原体験を積み上げる支援を行うことができた。小学校の接続においては特別支援学校の見学や架け橋プログラムなど就学に向けたカリキュラムの理解を深め、日々の支援や保護者支援に反映していった。

保護者支援においては日々の振り返りやコミュニケーションをとっていく中で、保護者の不安感や困り感が解決できるような支援や、保護者が心地よい環境を構成することができた。また、併設する北千住どろんこ保育園の保護者向けの子育て相談会を開催することや、メリー★ポピンズ 北千住ルームの保護者につむぎの周知を行い、地域に開かれた事業所として支援を展開した。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	続・混ざる子育て。併設園として互いの領域を超えて見守る支援を行う。
	実践結果	つむぎ利用児や保育園児双方の関わりが増え、スタッフ間でも双方の見守る意識が増えていった。利用児と園児の関係性が深まり、一緒に遊ぶ中で合意形成エラーやコミュニケーションを広げる場面が増えていった。
	次年度方向性	インクルーシブな環境での見守る、選択できる支援ができる環境設定やスタッフの支援の深めていく
2	計画・ねらい	「生きる力を育む」ための日課を、狙いを持った労働として意識を向上していく。
	実践結果	日々の雑巾がけや畑仕事などを誘いの中で取り組めることが増えていった。ビジターグループにおいても畑活動を積極的に取り入れ、成果物を収穫することで達成感を積み上げることができていた。その上で食育や友達との協働する力を育むことができた。
	次年度方向性	「生きる力」を育む、生活に沿った支援を提供していく。
3	計画・ねらい	見守る子育ての確立、尊厳をもって接する支援を行う。
	実践結果	過度に近い距離で支援するのではなく、友達同士の意見の違いや言い合いを経験できる支援を提供した。その上で、お互いの思いを伝え合う場面や話をする場面を見守り、一人一人の気持ちを受け止め、尊厳を守る支援を展開した。
	次年度方向性	話し合い、選択する活動を充実させ、合意形成エラーや協働性、主体性を育む支援を展開していく。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日々の困りごとの解決、家庭でできる支援を一緒に考えていく。
	実践結果	保護者との日々の振り返りの中で、実施している支援のねらいを保護者に共有し、実生活に活かすことができるように支援を行った。日頃からスタッフが話しかけコミュニケーションをとりつつ、日常の出来事や些細な悩みを話しやすい関係の構築を行うことができ、寄り添う支援を実施できた
	次年度方向性	日々の困りごとの解決、家庭でできる支援を一緒に考えていく
2	計画・ねらい	丁寧な言葉遣い、所作を行い、最上級の接遇を提供する
	実践結果	受け入れから帰宅するまで、心地よいあいさつやコミュニケーションを心掛けて行った。また保護者の困りごとや不安な気持ちが増さないように、親身に話を聞き、心地よい空間を提供することを心掛けた。
	次年度方向性	引き続き保護者が心地よく過ごすことができる空間づくりや、スタッフの所作、丁寧な心遣いを心掛け、最上級の接遇を提供できるようにしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	アプローチカリキュラムを知り、接続期の支援を展開する
	実践結果	架け橋プログラムや足立区の幼保小連携について、資料を確認することや特別支援学校の学校公開に参加し、情報収集を行い、スタッフに情報共有を行った。また就学支援として、日々の支援について小学校に向けた就学支援シートで上場提供を希望者には行った。
	次年度方向性	地域に根付いた事業所になる
2	計画・ねらい	地域の発達支援事業所や相談支援事業所との連携を強固にしていく。
	実践結果	並行して利用している事業所や相談支援事業所と連絡を密にとり、支援の様子や目標の情報共有をおこなった。地域に開かれた事業所として、空き状況や提供できる支援について情報共有を行った。
	次年度方向性	現在連携を密にとっている地域の発達支援事業所や相談支援事業所と、さらに連携を深め、研修やケース検討など地域を巻き込んだ支援の質の向上を強固にしていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた事業所づくり
	実践結果	園庭開放やチキンエッグ利用者に気軽に利用していただけるようにカフェのご案内を行った。また天候などにより保育園の保護者が安全に過ごしていただけるスペースとしても開放する場面があった。
	次年度方向性	誰もが自由に使えるカフェ、憩いの場所の提供を行っていく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	支援の専門性をアウトプットしていく
	実践結果	発達支援の視点を日々の振り返りや支援会議の中で、園のスタッフに共有し、日々の保育支援の中に反映していった。また法人の外部講師として法人外にアウトプットすることができた。

	次年度方向性	法人内のインクルーシブ保育・支援のモデル園になるために今までの支援を更新しながら、併設園全体の支援の質向上を図っていく
2	計画・ねらい	保育の視点の再認識、理解を深めていく
	実践結果	毎月の園会議の中で10の姿や5領域について、つむぎスタッフと園のスタッフが協力して研修を開き、理解を深めていった。またポートフォリオの作成や就学支援シート作成を行い、10の姿を踏まえた視点、理解を深めていった。
	次年度方向性	生活力や接続期に必要な支援の質向上が図れるように、保育所保育指針やガイドラインを読み込み、保育支援の視点を深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	誰もが分かりやすい、遊びやすい、過ごしやすい環境構成を行う。
	実践結果	幼児室、乳児室の室内環境や、園庭、畑などの園全体の環境を整え、道具やおもちゃが選択しやすく、使いやすい環境を保育園と協働で考えることができた。またカフェの環境を整え、保護者が落ち着いて過ごすことができるように美観を整えることができた。
	次年度方向性	必要な物のみがある選択しやすい美しい環境構成を行っていく
2	計画・ねらい	PDCA サイクルを活かした、日々の業務の更新
	実践結果	日々の業務を細分化しつつ、終礼などで振り返りながら業務のスムーズ化、ミスなどが減るような仕組みづくりなどスタッフから発信することが増えた。
	次年度方向性	一人一人が美観、環境設定を意識する集団意識を形成していく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	226人	243人	263人	252人	260人	238人	252人	242人	241人	233人	232人	250人	2932人
登録児数	42人	42人	42人	42人	42人	41人	42人	42人	42人	43人	43人	45人	48人

(解説) 今年度はマンスリー支援、ビジター支援含め、日々10名利用を厳守できるように、事前キャンセルや当日欠席の時の振替や、キャンセル待ちのスポット利用など、スタッフ一人一人が意識して利用者に声掛けを行った。また併設する北千住どろんこ保育園の園児でつむぎ利用希望の方に対して、事前に保護者に承諾を頂いたうえで、枠が空いた時にすぐにご案内し、支援を提供することがで

きた。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当2名（作業療法士1名、理学療法士1名）

児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・美観や環境設定、散歩時のリスク管理、水辺の事故防止、全体研修など保育、支援に関する研修
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育計画策定、食育活動の実施報告 ・日々の給食の喫食状況の確認、配膳方法の検討を実施 ・アレルギー児の対応確認、支援が必要な利用児への配慮事項の検討
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・事故報告書の分析、再発防止、ヒヤリハット、インシデントの報告
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整し実施 ・個別支援、グループ支援それぞれの担当者と児童発達管理責任者が必ず参加できる時間帯に実施
要支援児会議	月1回	個別支援計画を基に、園の保育者と共に子どもの姿を振り返り共有。その中で、子どもにとってよりよい関わり方について、見直し検討

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理系	日々の清掃、感染症予防及び情報提供、カフェや支援室、トイレなどの清潔が保てるように管理を行った
安全対策系	併設される北千住どろんこ保育園と協働し、事故防止に園内外に於けるリスク管理に努めることで重大インシデント防止に努めた。
防火管理者	併設される北千住どろんこ保育園と協働で消防計画を作成、毎月の避難訓練及び不審者侵入訓練を実施した。
食品衛生管理系	マンスリー利用児に於ける給食提供について、食事形態や食具などについて連携した。
畑系	併設する北千住どろんこ保育園およびメリー★ポピンズ北千住ルームの係同士で連携し、畑の配置、畝づくり、植える作物の確認など実施した。
生き物系	ヤギや鶏、亀、金魚、めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案を行った。
接遇系	職員の接遇に対してコンピテンシーと合わせた接遇力向上を図るための研修を実施した
環境設定系	室内や園庭環境の調整、棚や玩具などの選定や分かりやすい掲示の仕方などの検討し環境設定を変更していった

美観係	園内全体の美観、園庭の道具や園内の棚内の道具保管などの整理整頓、来訪者が見てきれいと思える園内になるように研修や日々の清掃チェックを行った
防災係	避難訓練担当者の割り振り、事故防止チェック、設備点検チェック、戸締り点検簿のチェックを実施した

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	併設園として一緒に企画、運営を行った。また保護者と協働的に準備・進行を行い、当日は約400名の来場者の方に楽しんでもらうことができた。
運動会係	つむぎスタッフが主導で当日の流れや前日までの準備物を確認しながら計画的に準備することができた。またマンスリー利用児全員の参加で実施することができた。
生活発表会係	併設園として日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催することができた。マンスリー利用児全員参加予定で、劇遊びや年長の集大成の発表の場、その他ブースの準備を行うことができた。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・併設する北千住どろんこ保育園と一緒に養護の視点を大切に、その中でも子どもの主体性に沿った支援を展開した。インクルーシブ保育の実践に力を入れ、生活に根付いた支援を実施し子どもの成長を共有できるよう、写真や動画を通して分かりやすく視覚的に伝える取り組みを実施した。
グループ支援	・子ども同士での関わりの中で主体的に考える力や協働性、合意形成エラーを形成する支援を展開した。特にホンモノの経験をする大切さが伝わるように戸外活動など注力し、成長の様子を保護者に伝えた。また、実生活の中での困り感に寄り添い、般化できることを共に考え支援を行った。子ども同士のやり取りや関わりから、気持ちの折り合いをつける経験や相手に自分の気持ちを伝える大切さ、伝わった喜びを感じられるように日々の支援を通して伝えた。
個別支援	・グループ支援を併用している子どもに関しては、グループ支援での様子を踏まえて個別支援の中で実施していることの共有を実施。子どもの発達段階に応

	<p>じて現状と成長過程の姿を伝え、日々の生活に般化できることを共に考え寄り添う支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体園での様子やご自宅での様子を聞き取り、園生活に取り入れられることや環境設定、言葉掛けについて共に考える支援を実施した。
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者から依頼があった際や支援後のフィードバックの時間だけでは話せなかった内容等に関して、別日に時間を設け、相談支援行った。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談及び発達相談については、適宜実施。支援時間の裏で面談を実施することもあった。併設する北千住どろんこ保育園の保護者向けに子育て相談会を実施。保育園の保護者から別で相談を受け、利用につながるケースもあった。
関係機関との連携	<p>4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花畑学園、墨田特別支援学校の学校公開に参加。参加内容を園会議などで周知を行った。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みを展開することで豊かな心を育む
	実践結果	コロナ禍からあけて、縁側での給食や自分たちで好きな場所で好きな人と食べる経験を積むことができた。またスタッフも一緒に食事をする中でお互いの食べる姿や感想を共有する場面を多く作ることができた。
	次年度方向性	引き続き食を豊かにできるように他者と一緒に食べる喜びや、自分で食事を盛り付け、配膳する喜びを継続して積み上げていく。
2	計画・ねらい	食育から五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践結果	日課での畑仕事や、調理活動など支援に取り入れ、つながる支援を行った。土とかがわる活動を多く展開したことや、好きな場所で食べることで、五感で感じながらスタッフや友達と共に食べることを行った。
	次年度方向性	畑仕事や調理を積み上げ、加工する工程などより様々な感覚を駆使して、ホンモノの経験を積み上げていく。
3	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践結果	魚の解体や、鳥の解体などを通して、食材になるまでの工程や、食事になるまでの過程を伝えた。また梅ジュースづくりなど加工する工程や出来上がったものを友達と一緒に食す経験も積むことができた。

次年度方向性	今年度実施した鳥の解体や、長期で作物を育成し、命をいただく活動の実践を行う。また収穫したものを加工する工程を経験し、調理を通して食への興味を広げていく。
--------	--

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	① 1月にインフルエンザA型、利用者数名・スタッフ1名感染報告あり。1月20日に終息
発作・痙攣等の対応	対応なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・8月6日に北千住どろんこ保育園にて救急救命講習を奥秋優太、中村紫穂、土屋雪帆、上総瑞歩、石井早貴、計5名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、スタッフの体調確認、手洗いうがいの徹底、室内の消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月28日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に遊びを展開できる空間設定
	実践結果	マンスリー支援では、子どもが、やりたいことを選択できる環境構成を保育園のスタッフと相談し設定した。見守る、見届ける保育の実施については、マンスリー支援だけでなく、グループ支援でも適度な距離感での支援を意識した環境設定を行った。
	次年度方向性	子どもが活動を主体的に選択でき、遊びを展開できる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	室内環境設定の見直し
	実践結果	子ども、保護者が安心して過ごせる場所としてつむぎ支援室、カフェの環境設定や清掃、美観を意識して行った。また地域の方々にも開かれた場所として園庭やカフェを開放し提供することができた。カフェの掲示物の選定や壁の装飾の見直しなどを図り、過ごしやすい環境を設定した。
	次年度方向性	引き続き過ごしやすい環境設定を都度見直していく
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源を活用し、生活に根付いた支援を実施する
	実践結果	地域の社会資源及び活用できる安全な環境を知り、支援で活用できるか検討した。ハザードマップの更新を定期的に行った。
	次年度方向性	子どもを取り巻く社会資源を活用し、生活に根付いた支援を実施する

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	テーブル	園庭	毎日	2月2日解体済
2	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
3	ブランコ	園庭	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防訓練・避難訓練では、危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施した。また、スタッフ全員が救急救命講習を受講し、緊急時の救急救命技能を取得し、非常時に迅速に対応できるようにした。
2	実践結果	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で毎日共有を行った。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施し、再発防止策を検討した。
3	実践結果	戸外活動を展開する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき対応した。
4	実践結果	不審者対応訓練を実施し、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応した。また、常時防犯意識を高めるため、特に戸外活動時等広い場所で子どもが活動していることを想定し、スタッフ間で活動場所に応じた対応を実施できるように共有を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

今年度は臨床発達心理士の実習生を 1 名受け入れた。半年間の長期の実習を通してマンスリー支援、ビジター支援と一緒に支援に入りながら、1 名のケース検討をスタッフと共に考え、支援目標から経過を追うところまでの一連の支援について理解を深めたうえで実習を行うことができた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月1日～1月30日	日本女子大学	1人	臨床発達心理士養成実習

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 6名	26日 6名	30日 6名	28日 6名	25日 6名	22日 6名	27日 6名	24日 6名	22日 6名	26日 6名	22日 6名	21日 6名
園内研修	28日 6名	26日 6名	30日 6名	28日 6名	25日 6名	22日 6名	27日 6名	24日 6名	22日 6名	26日 6名	22日 6名	21日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
8月1日～9月5日	公益財団法人 総合健康推進財団 関東支部 東京都サービス管理責任者等研修事務局	令和5年度 第1回東京都サービス管理責任者基礎研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設する北千住どろんこ保育園と共に、地域交流を図った。青空保育は散歩先にチラシを配り周知

し、毎回楽しみにしてくださる地域の方と交流を図った。併設園の周知を実施してきたことで園庭開放や見学などの来園者が増え、つむぎへの問い合わせにもつながった。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：千住旭公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：杉本青果店、フラワーショップアオキ、八百屋昇鈴 荻野青果店、亀井畳内装、千住消防署、平井フルーツ、青山フラワーマーケット、千住神社、北千住郵便局 等
世代間交流	8月8日に併設園にてなわとび作りを実施
異年齢交流	7月27日に併設園にて小学校を知らうを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度は保護者の希望の元、利用者の母体園へ園訪問を実施した。普段の園での様子や、生活にともなう支援の検討、情報提供等連携を図った。

近隣の特別支援学校の学校公開に参加し、支援学校の授業の様子や、主なスケジュール、支援の様子などを見学し、保護者やスタッフに情報共有を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月14日	東京都立花畑学園	1名	学校公開	見学
9月22日	墨田特別支援学校	1名	学校公開	見学
11月21日	おひさま保育園	1名	保育園訪問	スタッフ間交流
2月20日	千寿常東小学校	20名	給食交流会	参加・交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長6カ月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般の

状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画を作成した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継に於いては必要に応じ、保護者を介して幼稚園・保育園の保育者と連携を図った。小学校への引継ぎとしては、就学支援シートを保護者からの要望がある家庭には作成し、引継を行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計8件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2名	4名	2名	4名	4名	4名	0名	8名	0名	0名	0名	8名	40名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	4名	2名	50名	6名	10名	10名	4名	0名	0名	4名	90名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：千住旭公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	16名	15名	15名	10名	11名	20名	10名	15名	20名	20名	18名	20名	210名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年10月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：奥秋優太、土屋雪帆、宇津野絵里、石井早貴

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

今年度は全利用者の方から回答を頂くことができた。前年度よりも全体の評価が上がり、保護者が他者に勧めたいという評価も上がっている。また併設園でのマンスリー支援で、園児との交流や集団遊びの中で利用者の成長を感じられたという意見が多く寄せられた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 北千住ルーム施設長 奥秋 優太

2023年度 発達支援つむぎ 調布ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

今年度は、Doronkoが目指す社会として2023年度施設運営方針に基づき、日課・基本活動を重点的に実施する中で学び直し、学び続ける園運営を実施してきた。日課については原点回帰を行い、日課を支援に取り入れる目的を改めてスタッフと整理し、提供を行った。また、保護者にも法人が大切にしている日課および基本活動を子どもの姿と共に伝えることで理解していただくことに重きをおいてきた。

地域子育てを共に担う施設として地域から認められるよう、外部への発信に力を入れ、より地域と連携できるような体制を強化できた年であった。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	学び直し、学び続ける園運営を行う
	実践結果	毎月のコンピテンシーを実施後、ルームとしての課題を抽出。毎月ルームとして決めた目標を達成する中で振り返りを大切にする、ルーム勉強会の中で地域社会に目を向け同行を取りに行く中で、一施設として何ができるのかを試行錯誤して取り組んだ。
	次年度方向性	自律した園運営のための基盤が整った年であったため、そこからスタッフ一人ひとりが役割を自ら考え遂行し続けることができるように、運営していく。
2	計画・ねらい	人との繋がりを大切にする支援を展開することで接遇に繋げる
	実践結果	美観・接遇に力を入れ、毎月ルームとしての課題を抽出、実践してきた。その中でも大人のにんげん力について思考し、自分がしてもらって嬉しいことを相手に必ず返していくことを大切にすることができた。また想いを行動に移すことができるように伝え続けたことで、自発的な行動が増えた。
	次年度方向性	人との繋がりの中で、自ら考え行動できる人、相手を思い行動できる人を育成していく必要がある。
3	計画・ねらい	法人理念（日課）の追求を行い、「生きる力」を育む
	実践結果	日々の支援の中で、実体験を大切にする、10より100の経験を子どもと共にする中で、「生きる力」を育むことに繋がった。また、日課の追求を行う中で、原点回帰を行い、目的を整理し、何故大切なのかを考えることができた。

	次年度方向性	引き続き、様々な経験をより実体験を踏まえて行うことで「生きる力」を大人も子どもも育む必要がある。また日課に関しては、何を持って行うのかを支援を通して言語化して伝えていく必要がある。
4	計画・ねらい	小学校への理解を深める中で、逆算した支援の実施を行う
	実践結果	近隣小学校を実際に訪問し、地域の小学校の先生と連携を図ることで、昨年度よりもより深く繋がることができた。その中で、求められる姿を共有し、支援の中で取り入れられることについてスタッフ間で模索し、取り入れることができた。
	次年度方向性	地域の小学校を知ることから、より深く繋がれる仕組み（子どもが実際に訪問し体験するなど）を整える必要がある。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者から選ばれる事業所となる
	実践結果	対人調和力の向上の学びを深めた上で保護者支援に力を入れて実施した結果、保護者からの口コミで利用希望者が増えた。また、利用者アンケートの結果、他の方に事業所を勧めたいとの項目で昨年度と比較し、勧めたいと答えてくださる保護者が増加した。
	次年度方向性	引き続き、保護者支援に重点を置き、保護者から選ばれる事業所となるよう日々のコミュニケーションを大切に支援していく。
2	計画・ねらい	生活に根付いた支援の提案を行うことで、生活に汎化させる
	実践結果	支援の中で、着替えを取り入れることや、食育実施時に食具の選び方や使い方を支援するなど、身辺自立に向けた支援を実施。また、子どもの母体園である幼稚園保育園への訪問および、電話などでの連携を行うことで、生活に汎化できる支援を大切にした。
	次年度方向性	生活に根付いた支援を実施、自宅ですることができることを提案する中で、子どもの日々の生活の中での悩みに寄り添い支援していく。また、長く過ごす母体園での生活を大切に考え、連携を図っていく。
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がれる場を設定する（ピア・カウンセリングの活用）
	実践結果	子どもの発達段階に合わせてグループ支援を増やす中で、同じような悩みを抱える保護者同士がグループ支援の裏で繋がることができるように、スタッフが介入することで、話の輪が広がり、保護者同士が積極的に日々の悩みや情報を共有し、繋がる場面が増えた。
	次年度方向性	同じような悩みを共有できる場として、日々の些細な悩みを打ち明け合うことで、互いに寄り添える人を増やしていく。その中で、保護者の心が少しでも軽くなるように支援していく。
4	計画・ねらい	コンピテンシー、人権チェックの活用、自らを省みる

	実施結果	毎月コンピテンシーを実施することで、自分と向き合う時間を設定。またその中から事業所としての課題を抽出し共有、取り組むことで事業所としての課題にもスタッフ全体で取り組むことができた。人権チェックを実施する中では、日々の子どもの関わりを振り返り、支援の在り方について考え直す場となった。
	次年度方向性	毎月のコンピテンシーを実施後に、自らと向き合った後その中から、事業所としての課題を抽出することで、スタッフ全体で一つの課題に向き合い、客観的に事業所を見つめ直す時間を設定していく。
5	計画・ねらい	共感力を育み、保護者支援に活かす
	実施結果	相手の立場に立って物事を考え行動することができるスタッフを育成する中で、保護者にだけでなくスタッフ同士でも共感力や傾聴力が向上。また、どのように伝えることで相手に伝わるか、この伝え方で伝わったかなど伝わったかどうかまで追っていくことで、発信力が向上した。また、文章での伝え方への変化も見られ、文章力も向上した。
	次年度方向性	保護者支援に留まらず、サービス業を担う者として、引き続きしての立場に立って物事を考え行動できるスタッフ、また行動や発言を振り返ることのできるスタッフを育成していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て相談等の支援を実施している事業所として地域に周知し、地域に開かれた事業所へ
	実践結果	地域の子ども家庭支援センターとの連携を強化することで相談支援の件数が増加。また、利用待機者に対してグループルームの解放を行うことや子育て相談を実施する中で、待機し続けてくださる方が増えた。
	次年度方向性	地域の方が気軽に相談できる事業所となると共に、地域の幼稚園保育園との繋がりを強化する中で、子育ての悩みを相談できる事業所として名前が挙がることを目指す。
2	計画・ねらい	地域に事業所の存在や事業所の方針を発信し、開かれた事業所へ
	実践結果	ブログでの発信だけでなく、子どもたちと日々の支援の中で社会資源を活用し戸外活動を行い地域に積極的に出ていくことで、開かれた事業所へも繋がっている。 また、地域の会議に出席する中では、事業所としての取り組みを伝えることや見学会を実施し実際に見てもらうことで、方針を発信することができた。
	次年度方向性	事業所での支援や、子どもの姿を発信することで、より地域に開かれた事業所を目指すことや、子どもの成長から方針の理解や共感に繋がるように発信し続ける。
3	計画・ねらい	地域小学校への理解を深め、発信する

実践結果	今年度は、地域小学校と直接的な連携を強化。訪問学校を増やすだけでなく、小学校の先生と対話をし、事業所として卒園までにどんな子どもを育てているのか、小学校生活にどのように繋がるのかについて共有。保護者対象の勉強会を開催するだけでなく、卒園児の保護者を招いて座談会を実施。保護者が小学校をイメージできるように事業所として発信することができた。
次年度方向性	地域の小学校と直接的な連携を引き続き実施するだけでなく、就学に対する保護者の不安に寄り添い、少しでも取り除くことができるように支援していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自立したスタッフ集団の育成
	実践結果	事業所を運営する中で一人ひとりが自立できるように、役割を明確化しチーム支援の土台を作ることができた。
	次年度方向性	チーム全体で運営する中で役割や立ち位置を明確化し、自分の役割を全うすることで、チームとして向上できるような仕組みを強化する。
2	計画・ねらい	更なるにんげん力の向上により、保護者支援の幅を広げる
	実践結果	支援者である、私たち大人が心動かされる体験を重ねることで、にんげん力が向上し、子どもたちへの支援も直接経験できる場を設定することや、今までにしたことのない経験をさせてあげたいと思う気持ちが向上。子どもの姿から、保護者の保育（療育）に対する考え方も広がった。
	次年度方向性	子どもの成長した姿を保護者と共有、共感することで互いのにんげん力が向上するような仕組みを作る。まずはやはり、大人の「センス・オブ・ワンダー」を広げていく。
3	計画・ねらい	スタッフの遊びや活動の幅を広げる
	実践結果	一つの遊びを展開する力を広げる勉強会を実施する中で、日々の支援の幅を広げることができた。また様々な遊びを組み合わせ提供することで、遊びの幅をスタッフそれぞれが広げ、子どもに提供することができた。子どもが遊ぶ姿からも、私たち大人が考えつかないような遊びをしており、学びを得ることができた。
	次年度方向性	子どもに提案するだけでなく、子どもが実際に遊ぶ姿を見守る・見届ける中でスタッフの支援の幅を広げることができていることを、スタッフそれぞれが知り、学びを深めていくことに繋げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	SDGs の追求
---	--------	----------

	実践結果	日々の支援の中で子どもと一緒にSDGsに対する取り組みを行うことで、学びを深めることができた。また、勝手籠の洋服を直接寄付する体験やコンポストの実施、地域のごみ拾いや様々な実験を通して自然の不思議に直接触れる体験を行う中で、環境に対して考えることや、相手の気持ちを考える機会を設定することができた。地域の中で、人や社会と繋がりを知る体験からでは、子どもたちは人から感謝される気持ちを知り、温かい気持ちを体感することにも繋がった。
	次年度方向性	直接的な体験から、環境や人の気持ちといった抽象的なものを知り、考える時間を設定することで、互いの成長に繋げていく支援を展開していく。
2	計画・ねらい	子どもを取り巻く人的・物的環境設定を行う
	実践結果	子どもが主体的に遊びを選択できる環境設定づくりを行うこと、環境要因の中には私たち大人がもたらす影響が大きく関与していることを日々の支援の中で振り返ることで、子どもの過ごす環境にアプローチすることができた。
	次年度方向性	子どもの過ごす環境について、環境を設定しすぎず見守る。見届ける支援を大切に考えていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	218人	234人	234人	235人	239人	217人	232人	227人	222人	213人	201人	220人	2710人
登録児数	63人	65人	67人	69人	70人	68人	69人	69人	69人	70人	72人	72人	823人

(解説) 今年度は4月から稼働が上がる＝量的質的支援の確保に向けて、昨年度から取り組みを開始。4月から稼働率を上げることができた。また、1人当たりの利用回数を増やす取り組みとしてグループ支援の展開の拡大を実施。1人当たりの利用回数が増えたことで、より生活に根付いた支援を提供することにも繋がった。

利用待機となっている方へも、スポット利用を勧めるなど、可能な限り支援することで繋がり続けることや、次年度へと繋がる関係を築くことができた。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長・児童発達支援管理責任者1名（兼務）

保育士1名

機能訓練担当1名（臨床発達心理士1名）

児童指導員3名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・専門士による支援技術の共有 ・つむぎ内外から講師を招いた研修の実施
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月自ルームと法人全体で起きた事故、インシデント、ヒヤリハットの共有
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整して実施。 ・個別支援、グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理責任者が必ず参加し開催

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
保健会議／法人本部	年4回	施設長

	(5.7.11.2月/5.8.11.2月)	
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	感染の防止に努め、日々の喚起・消毒の徹底を行い記録に残す。子どもの来所時の手洗い・含嗽の言葉がけの実施。
安全対策係	園内外に於けるリスク管理に努めることで、日々のヒヤリハットの時点でスタッフ間での共有を行い、重大インシデントの防止に努めた。 ハザードマップの更新。
防火管理者	消防計画を作成、毎月の避難訓練および不審者侵入訓練を実施。
畑係	畑仕事の年間計画を作成。年間計画に基づき畑仕事を子どもと共に実施。また畑仕事から食育へと繋がる活動への展開。冬野菜の収穫が終了した後の畑仕事、畝づくりについても子どもたちと共に実施。
生き物係	メダカや昆虫の世話を子どもと一緒に実施するために。どのように取り組むかを考え実施。
家族支援係	年間計画と家族支援の目的を確認し、行事計画書の作成や当日の役割分担を実施。
美観・コンピテンシー係	毎月、事業所としての課題を抽出し目標を設定。振り返りを実施し大人のにんげん力の向上へと繋がる仕組みを整えた。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

異年齢グループ	子ども同士での関わりの中で、まずは友達と一緒に過ごすことが楽しいと感じられる、心地よさを感じられる場となるように段階を追って支援を展開。保護者には、人と過ごすことが心地よいと思ってもらえる、一人ではできないことが友達と一緒にあればできた喜びを感じられることは、社会に出た際の人と人との関わりでとても大切であることを伝える。グループ支援の中で、ホンモノに触れる体験をする中での成功、失敗体験はこれから先、小学校に向けてもとても大切な経験の一つとなることを伝える。その中で、保護者もグループ支援の大切さや必要性を感じていただき、振り替え実施時も他のグループでも受入
---------	--

	<p>れてくださる様子や、グループ支援の欠席率も低下した。</p> <p>グループ支援を通しての子どもの成長を嬉しそうに話してくださる場面も多く見られた。</p>
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、子どもが主体的に選び取ることができるような環境設定を行い展開。子どもの発達段階に応じて、現状と成長過程の姿を共有し、日々の生活に般化できることを共に考えて寄り添う支援の実施。 ・母体の所属園への訪問、様子の聞き取り、ご家庭での様子を聞き取り、円生活や家庭生活の中で取り入れられることや環境設定、言葉がけについて共に考える支援を実施。
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月31日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過程や母体園である幼稚園での日々の悩みや、家庭でできる支援について相談・助言を行う。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談および発達相談については、日々のフィードバックの時間や来所後支援までの時間を活用し実施。日々の何気ない会話から相談に発展するケースもあった。
関係機関との連携	<p>4～3月まで 合計26名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスおよび近隣の小学校、利用児の母体園である幼稚園、保育園に訪問し、子どもの様子や事業内容を共有。 ・利用児の就学先である小学校に就学支援シートを 件提出し、直近の様子および成長過程を共有。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みの展開をすることで豊かな心を育む
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に食材に触れ、感じたことを自由に表現し合うこと、友達と一緒に食べる中で、豊かな心を育むことへと繋がった。自由な表現の中には甘くて美味しいと感じた際には笑顔や身振り、発声で表現し、苦手だと感じる味には素直に眉間に皺を寄せ表現し伝えようとする姿が多く見られた。
	次年度方向性	食育を通して、豊かな心を育み、表現の自由や拡大へと繋げ、伝え合う喜びを感じられるように支援していく。
2	計画・ねらい	食育を通して五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事や食材に実際に触れることで、視覚・触覚・嗅覚・味覚・聴覚へと働きかけることに繋がった。畑仕事では、季節によって感じる温度や風の変化、虫の鳴く声の変化を感じることができた。 ・食育を通して育った感覚は、日々の生活や支援の中でも表現として現

		れ、感覚が豊かになっている。
	次年度方向性	感覚を豊かにすることで、変化に気が付くことができる子どもを育てていく。また感性が豊かになることで、表現の豊かさへも繋げていく。
3	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践結果	・畑仕事を通して自分たちで育て収穫する過程を経ることで、どのようにしてできるのか、できた際の喜びに繋がり食への興味が広がった。 ・収穫した食物を一緒に調理する過程で、違う形や色、味への変化を体験することに繋がり、そこから「どうして味が変わるのか、色が変わった」など興味から表現の拡大へも広がった。
	次年度方向性	食への興味を広げる中で、食以外での生活の質（遊びの広がりや発展など）が豊かになるように支援していく。
4	計画・ねらい	年間通して、畑仕事を実施し、食への興味関心、豊かな心を育む
	実践結果	実際に自分たちで畑仕事を実施する中で、食への興味関心の広がりや身体の土台を作ること、道具の操作がスムーズになり日常生活動作の自立に繋がるなど、様々な成長がみられた。また、畑を共同利用するオーナーさんとの関わりでは、社会性が広がり、オーナーさんに自分たちが育てたものをプレゼントするなど、関わりが広がった。
	次年度方向性	畑仕事を通して、日常生活を豊かにするだけでなく、社会性の広がりや様々な成長へと繋がるように支援していく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	通年、新型コロナウイルスや冬場にインフルエンザウイルス、胃腸炎が流行するものの、自治体報告まで至る感染症の拡大、流行はなし。
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月22日につむぎ調布ルームにてキックオフ研修を実施。 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、6名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・AED未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

	保護者に対して、食育を通して健康と食事の繋がりや、衣服の調整などについて日々の支援を通して適宜伝える取り組みを実施。
--	--

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月26日、10月18日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが主体的に遊びを展開することができる空間設定
	実践結果	遊びたい場所や玩具を子どもが自分で選んで決めることができるように設定することで、子どもの主体性を育む支援を実施。また、玩具と玩具を組み合わせて遊ぶなど、子どもが自ら展開する様子もみられた。
	次年度方向性	子どもら遊びを通して、自分で決めて行動する、また自分の行動に対して、責任を持てるように支援していく。その中で、子どもが主体的に行動できる環境設定や環境構成を工夫していく必要がある。
2	計画・ねらい	つむぎカフェの環境設定の見直し

	実践結果	カフェで過ごす時間も、遊びの時間や支援の一環と捉え、主体的に遊ぶことのできるような玩具を配置すること、玩具を一定期間で変更していくことで環境を見直していった。その結果、カフェで遊びを展開する様子や、子ども同士で遊ぶ様子、そこから保護者も繋がる様子がみられた。
	次年度方向性	カフェの環境を一定期間で見直すことで、子どもたちがよりカフェで遊びこめる環境を設定していく。今、子どもが何を求めているのかをカフェで過ごす様子からスタッフも見極めていく。そこから子ども同士、保護者へと繋がる輪を広げていく。
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源の活用を行う中で、生活に根付いた支援の実施
	実践結果	日々の支援の中で日常生活動作に繋がる様な遊びや社会資源を積極的に活用する中で子どもの社会性を育むことへと繋がった。地域環境を支援の中で活かすことでより広い視野から、子どもを捉えることにも繋がった。
	次年度方向性	引き続き、地域環境や社会資源を活かした取り組みを支援に取り入れる中で、子どもの自立や社会性を育む支援を行っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	スクーターボード	教材庫で管理	使用前後で点検	異常なし
2	掲示板	カフェ	毎日	異常なし
3	下駄箱	廊下	毎日	異常なし
4	パソコン台	事務所	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害に備えて、消火設備などの設備点検をすると共に年間防災計画に沿って訓練を行い、避難方法や通報および消火器などの使用方法、連携体制の確認を実施し、スタッフ間でも動きを確認。
2	実践結果	発生した事故や、事故に繋がる事例を収集し、スタッフ間で共有。大きな事故を防ぐことができた。
3	実践結果	外部からの不審者侵入および戸外活動時に不審者に遭遇する場面を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないよう不審者対応訓練を実施。防犯マニュアルを定期的に見直し、スタッフの防犯意識を上げることに繋がった。
4	実践結果	支援提供中に起こりうる事故や怪我を防止するために、室内外での安全性について環境を確認、点検に努め安全の担保を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

調布市市民活動センターと連携を図り、実習生およびボランティアを随時受け入れている旨を共有。2023年度はボランティアを1名受け入れ、子どもと一緒に遊ぶ中で児童発達支援事業所の役割を知ってもらおうと共に役割を伝達。地域の中学校から、職業体験の依頼あり。同地区のつつじヶ丘泥んこ保育園と併設される、つむぎつつじヶ丘ルームでの受け入れが妥当と判断し、連携し受け入れてもらう。

〈2〉実習生の受入

受入なし

〈3〉中高生の受入

受入なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	19日 7名	10日 8名	14日 8名	5日 7名	2日 7名	6日 7名	26日 6名	8日 6名	6日 6名	24日 5名	7日 6名	6日 6名
ルーム内研修	19日 7名	10日 8名	14日 8名	5日 7名	2日 7名	6日 7名	26日 6名	8日 6名	6日 6名	24日 5名	7日 6名	6日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月3日	東京都社会福祉協議会 調布市人材育成センター研修	障害者の家族支援～きょうだいの困難と生きづらさを考える～研修	2名	有
6月10日	東京都社会福祉協議会 調布市人材育成センター研修	福祉職の学びのススメ～実践研修のすすめ～研修	1名	有
6月19日	東京都社会福祉協議会 調布市人材育成センター研修	発達が気になる子どもの家族支援研修	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根付いた、開かれた事業所となるべく地域の社会資源を活用し、地域交流を実施。青空保育や商店街ツアー、職業体験を通し、子どもが地域の方々と積極的に交流を持つ機会となるように設定し実施した。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：高速下第6公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：花屋、ドーナツ屋、コンビニエンスストア、肉屋、パン屋、交番、駅等
世代間交流	1月17日に、つむぎ調布ルームにて、一緒に遊ぶ中で育む支援を実施
異年齢交流	近隣公園に行く中で、近隣保育園児との交流。グループ支援の中で、異年齢グループを設定し異年齢交流を実施。また家族支援を通して、きょうだい児にも参加していただき、異年齢交流を実施。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

今年度、子ども間交流を目的に地域の小学校と連携を図ったが、日程調整が難しく直接的な子ども間交流まで至らなかった。次年度は子どもが直接的に交流できるように設定。

スタッフに於いては、地域の小学校を訪問するだけでなく今年度は、訪問学校を増やし広げる取り組みを実施。小学校の環境および授業内容等、先生から直接話を聞きスタッフ間で勉強会をした上で、保護者勉強会へと繋げる。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月3日	南白系台小学校	1名	南白系台小学校	スタッフ間交流
6月10日	府中第一小学校 ひばり学級	1名	府中第一小学校	スタッフ間交流
6月29日	府中第二小学校 仲よし学級	1名	府中第二小学校	スタッフ間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長期間を6か月とし、個別支援計画の見直しを図るため、モニタリングにて保護者と直近の子どもの様子、子どもを取り巻く環境の変化などを共有。その後、環境および日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定。支援内容について検討し個別支援計画を作成。計画書をもって保護者と共有を図った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級、引継ぎに於いては、必要に応じ保護者を介して幼稚園・保育園と連携。小学校への引継ぎとしては、就学支援シートを活用し引継ぎに変えて実施した。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計 件相談実施済み

勝手籠設置	(月) ~ (土) 9:30~17:00 にて実施
-------	---------------------------

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年10月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

利用者アンケートを実施し2024年1月に評価結果を掲示。同時にスタッフアンケートについても実施し、自己評価結果を開示。昨年度と比較して、アンケート結果から、つむぎ調布ルームを勧めたいかとの項目にて、勧めたいと回答いただく方が増加した結果 NPS の数値が向上。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

〈1〉報告すべきご意見

0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎつつじヶ丘ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

今年度基本方針である「子どもも大人も共に認め合い、共に育ち合い、にんげん力を育む」のもと、保育園と発達支援の各所属の壁を越えて、併設園として子どもたちが安心して過ごせる「大きな家」を目指した。日々の支援や様々な行事の中で園児とつむぎ利用児が自然に混ざり合い、関わりあえるよう、環境設定や大人の関わり方について振り返り、共有し合いながら子どもの姿に合わせて活動を展開するように努めた。年度途中にスタッフの入れ替わりがあったが、子どもや保護者への支援の質が低下しないよう、スタッフ同士で協力したって乗り越えた一年となった。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して楽しく通うことができる。 子どもの発信を受け止め、応答的に関わる。
	実践結果	個々のありのままの姿を受け止め、気持ちや状況を考慮して応答的に関わることに努めた。 家庭と連携を取り、子どもの体調や家庭での様子、保護者の状況などの情報をスタッフ間で共有し、対応の統一を図った。
	次年度方向性	子どもの発信を受け止め、応答的に関わることで安心して楽しく通う。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の定着を図る。大人が子どもに背中を見せ、計画的に環境を用意する。
	実践結果	子どもが遊びや経験を選択できるよう、環境設定や言葉がけを行った。日課活動への取り組みは、子どもの心情に合わせて取り組める範囲で参加を促した。大人がやって見せる姿、手本は積極的に見せた。
	次年度方向性	日課・基本保育活動の定着を図るために、計画的に環境を用意する。
3	計画・ねらい	人と関わる力を育む。子ども同士で伝え合い、関わり合える環境を用意する。
	実践結果	指示にならない言葉がけを意識し、見守りや関わるタイミングはスタッフ間で情報共有して統一するよう努めた。子どもとスタッフの関わりがメインだが、園児と関わる機会も増えてきている。
	次年度方向性	人と関わる力を育み、子ども同士で伝え合い関わりあえる環境を用意していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者にとって居心地が良い場所となる。全スタッフが自信を持って挨拶・お迎え対応する。
	実践結果	登園時には笑顔で挨拶をし、家庭での様子を丁寧に聞き取るよう努めた。お迎え対応の際には、保護者の困りごとなどを聞き取る時間を設け、保護者への支援にも注力した。
	次年度方向性	保護者にとって居心地が良い場所となるよう、全スタッフが自信をもって保護者対応を行う。
2	計画・ねらい	安心して子どもを託すことができる場所となる。保護者が知りたい情報を提供する。
	実践結果	就学についての座談会や保護者会を開催し、様々な情報の提供を行った。日々の振り返りの中でも、保護者から質問があった際は丁寧に聞き取り、確実な情報を調べて提供した。
	次年度方向性	子どもを安心して託せる場所となり、保護者にとって必要な情報を提供していく。
3	計画・ねらい	地域との連携 地域全体で子育てを共にし、子どもの成長につながるあらゆる手段を活用する。
	実践結果	小学校への訪問を行い、就学への見通しや期待を持てるようにした。散歩の際は、すれ違う方にスタッフが積極的に挨拶をし、児との関わりが持てるようにした。
	次年度方向性	地域と連携し、子どもの成長につながる手段を活用していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	相談したい時に、いつでも相談できる場所となる。誰でも子育てや発達に関する相談ができることを周知する
	実践結果	利用している保護者のみならず、園児の保護者とも子育てについて話をする機会を設けた、園に所属しながらつむぎの利用を開始する方も数名いた。
	次年度方向性	子育ての相談を受ける場所として認知される。
2	計画・ねらい	地域の人たちがつながる場所となる。いつでも行きたくなるよう、つむぎカフェを充実させる。
	実践結果	ちきんえっぐでカフェを利用することで、地域の方にカフェスペースをご利用していただいた。利用するかたがくつろげるよう、整理整頓清掃を心掛けるとともに、地域の子育てイベントの掲示も行った。
	次年度方向性	地域の方々がつながる場所となるよう、環境を整えていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	続・原点回帰：「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握する。子どもの成長に必要な経験について学び直す場を設ける。
	実践結果	水曜日のつむぎ会議の際に、子どもの成長に必要な経験・活動について話し合いを行う。園との行事や日々の支援の中で実施できるものは、スタッフ全員で共通認識を持ちながら取り組んだ。
	次年度方向性	子どもがしたい経験を自ら選んで遊べる環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	自身の意見や考えを持ち、主体的に動く
	実践結果	支援や子どもへの関わりについて、会議だけでなく日々の中で意見を出し合った。施設長や児発管を中心にアドバイスを行い、スタッフが主体的に動く環境設定を行うよう努めた。
	次年度方向性	大人のにんげん力を向上させ、主体的に動くスタッフを育成する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	誰もが心地よく過ごせる場所 大人も子どもも一緒に掃除・整理整頓を行う。
	実践結果	カフェスペースの掃除は、毎日の掃除で丁寧に行った。支援の中で、使った道具の片づけ、雑巾掛けなどを行い、子どもも大人も気持ちよく過ごせる環境整備に努めた。
	次年度方向性	誰もが気持ちよく過ごせる環境を維持していく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。日課である畑仕事を通して、子どもたちが食の循環を体験する。
	実践結果	畑仕事で野菜を育て、収穫し調理の活動につなげた。野菜がうまく育たないこともあり、次年度の課題とする。コンポストの取り組みは年度の終盤から取り組み始め、つむぎ利用児だけでなく、園児も巻き込んで取り組むことができている。
	次年度方向性	野菜の栽培について、土壌の状態や追肥の時期などをスタッフが把握し、子どもに伝えていく。
3	計画・ねらい	室内環境・園庭環境の充実を図る。子どもたちが遊び込める環境作りを行う。
	実践結果	マンスリー児は子どものその日の状況に合わせ、戸外・室内での活動を展開した。園の園庭係と一緒に、園庭整備も行った。ビジター児について、散歩・園庭・畑仕事・制作など季節や子どもの状況に合わせて支援を実施した。

	次年度方向性	子どもが自ら選んで遊びこめる環境作りを行っていく。
--	--------	---------------------------

〈6〉 つつじヶ丘どろんこ保育園との連携

1	計画・ねらい	子どもの成長を共に喜び合う 保育園・つむぎスタッフがチームとして子育てをする
	実践結果	つむぎ利用児のその日の様子で、普段と違う際は園スタッフとの合同チャットに情報を共有し、全スタッフが子どもの様子を把握したうえで関わられるように努めた。子どもの成長を感じるエピソードについて、日々のスタッフ同士の会話の中で共有し、皆で子育てをする意識を持つように心がけた。
	次年度方向性	保育園・つむぎスタッフが一つのチームとなり子育てをしていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	192人	186人	205人	206人	195人	199人	200人	214人	213人	20人	人	人	人
登録見数	35人	36人	35人	37人	36人	36人	36人	39人	40人	39人	39人	39人	39人

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
保育士5名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの振り返りと取り組みについて毎月話し合 いを行った。 ・保育の質向上のための勉強会の実施。 ・毎月テーマに沿ってスタッフによる研修を園と合同で行 う。
給食運営会議	月1回	<p>摂食の進行状況や子どもたち食べるようや配膳状況の共有。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育計画に沿った活動の振り返り。
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット集計表を使い、事故やヒヤリやっとの共有、振 り返り、対策を話し合う。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・各利用児に対し、概ね6か月に1回実施。 ・児童発達支援管理責任者が中心となり、担当スタッフとと もに策定会議を行い、個別支援計画を作成した。
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・園とつむぎ合同で要支援児の姿・個別計画の立案・子ども の様子を共有した。
リーダー会議	週1回	園とつむぎ合同でリーダーが集まり、園全体の運営に関する 事項の共有を行った。
つむぎ会議	週1回	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援の内容や業務の伝達、園と共有すべきことな ど、つむぎの運営に関する内容の共有と話し合いを行った。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回	施設長

	(5.7.11.2月/5.8.11.2月)	
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康維持、温度、湿度、換気確認。 ・感染症発症の予防策を実施。 ・園内の清潔区域(調乳室、調理室)と汚染区域(トイレ、おむつ交換場所、シャワー室、沐浴室、トイレ後の着替え場所、感染症流行時居室)の安全と衛生管理を行う。 ・スタッフの検便提出状況の管理。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(毎月)、不審者侵入訓練(6月、11月)の実施報告書作成。 ・設備安全点検の実施(4, 7, 10, 1月の25日) ・事故防止自主点検の実施(4, 7, 10, 1月の25日) ・園内外、公園のハザードマップの更新(4, 7, 10, 1月)
防火管理者(統括園長)	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画作成と届け出。 ・安全対策係の任命。 ・自衛消防組織編制。 ・防災用備蓄品の確認(6, 12月) ・自主点検チェックの実施(日常)
食品衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理、点検作業の実施。 ・食育会議の計画と実施。 ・「作業手順書」ち「作業結果の記録」の作成。
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画のもと、子どもとともに取り組む。種や苗の購入。 ・食育計画との連動と進捗把握。 ・各クラスの畑仕事のマネジメント。
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤギの健康チェック。 ・餌、岩塩等の発注。 ・年間休日の当番表作成と実施管理。 ・ヤギ、鶏小屋の整備、補修管理。
物品管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手籠の管理、落とし物の管理、頂いた物の管理。 ・衛生用具の管理(在庫管理、発注)
環境係(室内、園庭)	<ul style="list-style-type: none"> ・室内外の園庭、遊具の清掃点検、施設の清掃状況の確認、指示。 ・室内外の設備、危険個所の点検。

	・破損個所の補修、地震時の落下防止、遊具、設備、樹木などの安全点検。
写真係	・個人情報の確認、写真販売の実施。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・どろんこサポーターズと連携し計画、実行。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のご要望に沿い、つむぎマンスリー利用児保護者のみで保護者会を実施。 保育参加：4月～3月まで 保育参加 合計6名。 ・「普段の子どもの様子が見られてとても良かった。」「どのようなことに対して難しさが見られるかよくわかり今後の参考になった。」などの感想をいただいた。 ・振り返りの際に、日課を含む、各活動のねらいや支援内容を分かりやすくお伝えすることを心掛けた。
グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味関心に合わせて環境設定を行い、ねらいを明確にし、継続した支援が提供できるようスタッフ間で連携をとって実施。 ・散歩、生き物の世話、畑仕事などの戸外活動の機会をできるだけ多く設け、成功体験を通して挑戦する意欲を育めるよう支援を行った。 ・子ども同士で話し合うなど、子どもが主体で活動を実施できる機会を設けていった。
グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して通え、共に子育てを楽しめる環境となるよう支援を提供した。 ・保護者同士がつながり、情報の共有や悩みなどを話せる環境を作れるようスタッフの配置や関わり方に配慮した。 ・子どもたちの成長を共に喜び合える支援を提供できた。
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別での支援でも、子ども同士が関わり、戸外で活動できる機会を設けていった。 ・保護者の気持ちに寄り添い、少しでも安心して通っていただけるよう時間の

	調整や要望にできる範囲で答え、継続して通っていただけるよう配慮した。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計23名が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・就学相談会や保護者会を通して情報の提供や保護者同士でつながる機会を提供した。 ・個別支援計画のモニタリングの際に、十分な時間を確保し、ヒヤリングだけでなく保護者の悩みや困りごとなどを丁寧に聞く時間を設けた。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対して実施。 ・来所時や電話での相談対応を行った。
関係機関との連携	4～3月まで 合計3名が参加済み (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・ビジター利用をしている子どもの保育園や幼稚園への訪問や電話でのやり取りを通して連携を取り、個別支援計画に反映し、支援につなげて行った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食に対する興味・関心が育まれる
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・調理活動に向けて、導入の段階で食材の写真や特徴などを掲示し、子どもの興味関心へとつながる取り組みができていた。 ・目の前で調理したものを食べる経験を通して食材への興味と調理されたものへの関心が高まっている様子がみられた。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・食べるだけでなく畑仕事を日課として定着させ、食材や食の循環を子どもが経験できるよう実施していく。
2	計画・ねらい	食べる意欲が育まれる
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で育て、収穫したものを調理して食べる機会を設けた。 ・給食の時間は、自分の食べたいもの食べたい分だけとり、完食する経験が積めるよう環境調整を行った。
	次年度方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事から調理活動へとつながる支援を行っていく。 ・食を通して子ども同士の関わりが生まれるよう、スタッフは介入しすぎず、子ども自身でできることを任せ、手伝いが必要そうな時には子ども同士で助け合える環境を作っていく。
3	計画・ねらい	みんなで一緒に食べる楽しさを感じる
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の時間にスタッフも一緒に子どもと食事を摂り、やりとりや会話を楽しみながら食事をする環境を設けられるよう努めた。

	次年度方向性	・他者とのやり取りを楽しみながら食事をする環境を整えていく。
--	--------	--------------------------------

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがい指導を実施し、感染症予防について学ぶ機会を設ける。 ・2月に園と合同で性教育を実施し、命の大切さに触れる機会を設けた。
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ① 12月にインフルエンザA型に児童2名・スタッフ1名感染する。 ② 2月にインフルエンザB型に児童2名感染する。
発作・痙攣等の対応	対象児なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・本日時点で、在籍スタッフ6名全員が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・本日時点で、在籍スタッフ6名全員が使用可能
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して安全に過ごせる環境
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフで掃除する日を週1回設け、スタッフ一人ひとりが掃除と整理整頓を徹底する機会を設けた。 ・園庭・園舎内の安全設備の確認を行うと共に、美観に対するスタッフの意識が高まり、子どもたちが安全に気持ちよく過ごせる環境を整えようと努力した。
	次年度方向性	・毎日の掃除や週1回の全スタッフで掃除をする日や、行事や来訪者を向かい入れる際だけでなく、常にゴミが拾い、整理整頓できるような環境を整える。
2	計画・ねらい	子どもも大人も「自分で考え、自分で行動する」
	実践結果	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で子どもの様子を共有し、子ども一人ひとりの発達に合わせた関わり方や距離感を保てるよう統一を図った。 ・言葉での指示や誘導を控え、子ども同士で関わり合い、話し合う時間を見守り見届けることにより自分たちで考える機会へとつなげた。
	次年度方向性	・子どもが自分で考える機会を十分設けられるよう、失敗を恐れて先回りせずに子どもを信じてやらせてみるができるようスタッフ間で共有し合い取り組んでいく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練、消防計画を行う。定期的に火災。地震発生時のマニュアルの読み合わせを行い、避難方法の確認を行う。火災時には対応フローチャートに従う。（危機管理マニュアル№3 災害対策）
2	実践結果	・ヒヤリハット、インシデントの検証を行い再発防止に努め、その都度保育の見直しを行う。また、スタッフ間の共有を強化しスタッフ全員で共通意識をもつ。事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施。怪我発生時にはフローチャートに従う。（危機管理マニュアル№3 ケガ事故防止策・安全点検）
3	実践結果	・不審者対策：6月と12月に防犯訓練マニュアルに従い不審者侵入訓練を実施、確認する。不審者侵入時は、フローチャートに従う。（危機管理マニュアル№3の不審者対策）
4	実践結果	・光化学スモッグ対策に則り、知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時は対応フローチャートに従う。（危機管理マニュアル№3の光化学スモッグ対策）
5	実践結果	・室内ハザードマップ、戸外ハザードマップ、公園内ハザードマップをスタッフがいつも見返すことができる場所に設置し、危険な箇所や変更した際は、速やかにハザードマップに追加記載していく。
6	実践結果	・消防署に依頼し、乳児、幼児の救命救急講習を自園で受ける。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生とボランティアの依頼があった際は、積極的に受け入れを行うよう努めたが、中高生の依頼はなかった。実習生を通して、保育園に併設されている児童発達支援を知ってもらう機会へとつながった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
1月15日～17日	首都医校 看護学部	4人	観察実習
1月22日～24日	首都医校 看護学部	4人	観察実習

〈3〉中高生の受入

今年度受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ ー自己採点	27日 7名	30日 7名	30日 7名	29日 6名	31日 6名	29日 5名	30日 5名	29日 6名	28日 6名	31日 6名	29日 6名	31日 6名
園内研修	20日 7名	18日 7名	15日 7名	20日 6名	17日 6名	21日 5名	19日 5名	16日 6名	21日 6名	18日 6名	実施 なし	
講師： 佐藤早紀	4月20日に園会議にて「チーム保育」について研修。7名のスタッフが出席											
講師： 中村大地	5月18日に園会議にて「内部監査」について研修。7名のスタッフが出席											
講師： 小野美紅	6月15日に園会議にて「感染症」について研修。7名のスタッフが出席											
講師： 福田ひまわり	7月20日に園会議にて「環境」について研修。6名のスタッフが出席											
講師： 中村大地	8月17日に園会議にて「子どもの権利」について研修。6名のスタッフが出席											
講師： 堀池朗生	9月21日に園会議にて「保育における安全管理」について研修。5名のスタッフが出席											
講師： ローズ亜紀	10月19日に園会議にて「虐待防止」について研修。5名のスタッフが出席											
講師： 中村大地	11月16日に園会議にて「感染症」について研修。6名のスタッフが出席											
講師： 小野美紅	12月21日に園会議にて「保護医者対応」について研修。6名のスタッフが出席											
講師： 正木碧	1月18日に園会議にて「行事の振り返り」について研修。6名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

今年度参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
デノマークインターンシップ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：中原もみじ防災公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：オオゼキ、島忠ホームズ、マヨテラス等
世代間交流	コロナにより高齢者施設への訪問は未実施。
異年齢交流	日常の中で毎日実施。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

近隣へ訪問し、校舎内や教室に入って雰囲気子どもと一緒に確認する。また、校庭を借りて遊ぶ関わりも実施。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
2024年1月	調布市立滝坂小学校	2名	小学校教室内	子ども間交流
2024年2月	調布市立緑が丘小学校	2名	小学校校庭	校庭で遊ぶ

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が個別支援計画の作成を行い、全利用児の計画書を指定期間内に保護者へ提示をすることができた。保護者にとって分かりやすい計画書の作成に努め、説明の際は、疑問や不安な点が残らないよう丁寧かつ分かりやすい説明を心掛けた。スタッフ間の情報共有を密に行い、個別支援目標に沿った支援を提供することができた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学に向けて、就学支援シートや児童連絡票を作成し、保護者と連携をとった。利用児が居住する自治体からの行動観察の依頼を受け入れ、調整を行った。利用児が学校生活を円滑に送れるよう就学先の自治体と学校と連携し、情報の共有を行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒該当なし
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年9月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：田中誠、森谷太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：75%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

該当なし

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

該当なし

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎ 宮下ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

宮下どろんこ保育園と併設ということで、施設全体で見守っていく基盤作りをしながら、みんなでインクルーシブ保育を目指していった。園との共有がなかなかできない中で、大きな行事の進め方に、迷う場面も見られたが、子どもたちにとって、今何が必要なかを話し合っていくことができた。

2024年度は、支援の在り方や、ケース会議などの進め方を見直しながら、よりインクルーシブ保育をすすめていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	関わり合う。(人・物・地域)
	実践結果	積極的に散歩に出かけ、距離を伸ばしていった。行き先が増えてきたこともあり、地域との関りを持つことができた。
	次年度方向性	引き継ぎ、積極的に散歩に出かけ、商店街ツアーなども通して、地域との関りも大切にしていく。
2	計画・ねらい	子どもの姿から、必要な支援を見極め、近づきすぎず、やりすぎず、適度な関わり方を習得する。
	実践結果	一人ひとりに合わせ、丁寧な支援をすることができた。保護者の気持ちも大切にしながら関わっていった。
	次年度方向性	全体的に、子どもたちが、自由に活動を選択できるよう、安全面を十分に確保した上で、見守っていく支援に切り替えていく。また、園職員との連携を取りながら、同じ目的をもった支援ができるようにしていく。
3	計画・ねらい	日々の振り返りを充実させ、日々つながる保育を展開する。
	実践結果	職員間で連携を密に取り、しっかり共有していくことで、つながりのある支援を心掛け、実現していった。
	次年度方向性	引き続き、連携を取りながら、園の職員とも共有し、インクルーシブ保育を目指していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者が安心して相談できる関係を築く。また、必要に応じて事業所内相談を提案し、しっかりと話せる時間を設けていく。
	実践結果	保護者とのコミュニケーションを大切にし、丁寧なかかわりを持ちながら、安心して預けてもらえる施設を目指していくことができた。
	次年度方向性	引き続き、丁寧に向き合っていくとともに、日々の様子や家庭での様子と

		のすり合わせをし、関係性を築いていく。
2	計画・ねらい	迅速、丁寧、真摯な対応を行う。
	実践結果	常に、迅速、丁寧、真摯な対応を心掛け、今自分たちで出来る最大の支援を考え、取り組んでいくことができた。
	次年度方向性	インクルーシブ保育を心掛け、園の職員と共有していきながら、施設全体で関わっていくことができるようにしていく。
3	計画・ねらい	快適な環境を心掛け、選ばれる園を目指していく。 (丁寧な送迎対応、清潔、安全な空間作り、活動の視覚化)
	実践結果	ポートフォリオなどで普段の様子が分かるような掲示をして、視覚的にも過ごしやすい環境を心掛けていった。
	次年度方向性	ポートフォリオの充実。おすすめの本、玩具などの紹介をしながら、関係性を丁寧に築きあげていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	他事業所等との連携を図る
	実践結果	他事業所と併用している児童もいるので、見学に行き、密な連携を取っていくことで、より、丁寧な支援を心掛けていくことができた。
	次年度方向性	引き続き、連携を取りながら、一人ひとりにあった丁寧な支援をしていく。
2	計画・ねらい	子育て支援センター「ちきんえっぐ」と協力し、地域の子育て拠点となるように、イベントの実施や子育て情報の発信をする。
	実践結果	計画は立てていたが、土曜保育の体制の変更もあり、なかなか実現できず、終わってしまった。
	次年度方向性	少人数でも、計画的に地域の子育て支援が出来るような働きかけをしていきながら、進めていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	報告、連絡、相談の徹底をする。 (スタッフ間の共有や連携が当たり前に行える)
	実践結果	職員間の連携をとり、進めていったが。連絡ツールの混雑もあり、確認しきれない場面も見られた。
	次年度方向性	連絡ツールの簡潔にし、確認しやすくしていくとともに、連携の取り方を見直していく。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育の展開と方法についての学びを深める。
	実践結果	インクルーシブ保育を目指し、意識しているが、それぞれの想いのすれ違いを感じた。

	次年度方向性	インクルーシブ保育について学び、共通のねらいを持って支援が出来るようなケース会議を展開していく。
3	計画・ねらい	専門知識やスキルの向上を目指す。
	実践結果	それぞれのスキルアップのため、積極的に研修等に参加することができた。
	次年度方向性	つむぎだけの研修ではなく、園全体でも一緒に学べる場を作り、施設全体でのスキルアップを目指していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話に日々携わり、命の大切さや労働についての気づきを深めていく。
	実践結果	積極的に携わっていくが、継続してできていない。労働についても、なかなか参加できていない。
	次年度方向性	児童が自然にやってみたくなるような働きかけや、見守りの中で、自分で出来ることを見つけられるようにしていく。
2	計画・ねらい	自分たちで育てた植物や野菜を使った活動を充実させ、食の循環を学んだり、調理や加工したりし、楽しさを知る。（クッキング、表現活動など）
	実践結果	積極的に畑活動をし、クッキングに繋げていくことができた。猛暑の影響や冬の時期の活動について、課題が残る。
	次年度方向性	畑活動の充実とともに、計画的に進め、一年を通して、畑活動ができるようにしていきたい。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	記録の継続（エピソード、ポートフォリオなど）
	実践結果	丁寧な記録や、ポートフォリオの制作に取り組んでいったが、制作する時間を確保することが、なかなか困難だった。
	次年度方向性	引き継ぐ気活動していく中で、時間の使い方を計画的にし、無理なく進めていけるようにしていく。
2	計画・ねらい	記録を読み解き、環境構成や遊びを考える。
	実践結果	一人ひとりの寄り添った支援をしていく中で、活動を制限してしまう場面もあった。
	次年度方向性	安全面や、一人ひとりの発達状況を配慮していきながら、制限せずに活動できる環境づくりをしていく。
3	計画・ねらい	子どものケース共有をする。（スタッフの共通意識）
	実践結果	話し合いは、日々の振り返りなどで行っているが、なかなか共通理解が出来ていない箇所も見られた。
	次年度方向性	共有していくべき内容を簡潔にまとめて、ケース会議を充実化していく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	223 人	239 人	249 人	245 人	249 人	229 人	250 人	202 人	214 人	206 人	221 人	220 人	2747 人
登録児 数	33人	33人	33人	33人	33人	33人	34人	34人	34人	34人	34人	34人	402人

(解説) 10月以降、児発管不在により、新規契約なし。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当2名(作業療法士1名、理学療法士1名)

児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回120分	・保育園と合同で行う。つむぎ及び保育園各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動実施報告、喫食状況確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	事故のケーススタディ、改善策、各月のヒヤリハット、インシデント分析
支援計画策定会議	適宜	支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

ルーム会議	月1回	利用児の様子、行事進捗、園内研修
ケース会議	適宜	情報共有、支援内容の検討
朝礼、昼礼、夕礼	毎日	その日の確認と振り返り、情報共有

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、 近隣施設との連携の推進
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食 品サンプルの管理
畑係	園庭、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案、畑の環境 整備
生き物係	魚の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案、ヤギや鶏の健 康管理、飼育環境改善

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを丁寧に行っていく中で、保護者との信頼関係を大切に、丁寧な支援を行っていった。 ・一人ひとりの発達を、常にスタッフで話し合い、共有し、寄り添った支援を心掛けていった。 ・保育園との連携をしていくことで、インクルーシブ保育を目指していった。
ビジターグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達や特性に合わせた支援を話し合い、進めていった。 ・他事業所との連携を取りながら、支援をしていった。
ビジターペア	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達や特性に合わせた支援を話し合い、進めていった。 ・他事業所との連携を取りながら、支援をしていった。
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発達や特性に合わせた支援を話し合い、進めていった。 ・他事業所との連携を取りながら、支援をしていった。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを通して、家庭での様子を伺いながら、一人ひとりに合った支援を目指していった。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	思いきり身体を動かし、「おなかがすいた」という延長上で、食事ができるように促していく。
	実践結果	散歩の距離が伸びていくことで、体力もつき、食事に関心を持てるようになり、食べようとする姿も増えてきた。

	次年度方向性	引き続き、たくさん体を動かしていく活動を取り入れていながら、食べられるものが増やしていけるようにしていく。
2	計画・ねらい	食事づくりや食事準備に関わり、日々食への興味関心を高める。
	実践結果	バイキングも、発達によっては、保育者と一緒にやっけていながら、自分でやってみようとする姿が見られた。
	次年度方向性	食に対する関心も出てきているので、クッキングや食育体験に、積極的に参加していく。
3	計画・ねらい	食事時間を楽しいものとしてとらえられるように、孤食をさけ、食べる意欲を養う。
	実践結果	友だちと一緒に食べることを喜び、どこで食べるかも、自分で選んで準備している姿も見られた。
	次年度方向性	友達と一緒に、楽しんで食事がとれるような働きかけをし、関りを見守っていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
歯科検診	ビーバー号を利用して実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	併設されている保育園にてインフルエンザが流行する。 児童1名感染
エピペン使用できるスタッフの状況	・キックオフでエピペン研修をスタッフ6名受講し習得 ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み

	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月、10月に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもたちが自発的に行動できる環境を、常に考え工夫していく。
	実践結果	安全面を考慮するあまり、自発的な活動を制限してしまうこともあった。
	次年度方向性	子どもたちが、自分で考えて活動を選ぶことができるよう、保育者の動きも変えていけるようにしていく。
2	計画・ねらい	大人の意識の徹底、継続（整理整頓）
	実践結果	常に心掛けているが、見落としてしまうこともある。
	次年度方向性	引き続き、施設内の美観を心掛けながら、意識的に整理整頓を行っていく。
3	計画・ねらい	静かに過ごしたい空間の確保をする。（落ち着ける場を保障する）
	実践結果	一人ひとりの発達や特性に合わせた落ち着ける空間を見つけていった。
	次年度方向性	工夫していく中で、孤立していかないよう配慮していきながら、安心できる場所を作っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	サークルベンチ	玄関前ホール	毎日	異常なし 5月に解体・撤去
2	L字パーテーション	玄関前ホール	毎日	異常なし

				6月に解体・撤去
3	本棚	一時保育室	毎日	異常なし 6月に解体・撤去
4	タオルラック	幼児縁側	毎日	異常なし 6月に解体・撤去
5	スタッフ下駄箱	つむぎ支援室入口	毎日	異常なし 6月に解体・撤去
6	水槽棚	縁側	毎日	異常なし 6月に解体・撤去
7	トイレサンダル棚	幼児トイレ前	毎日	異常なし 7月に解体・撤去
8	ブランコ	つむぎ支援室	利用無し	利用無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	非常災害に備えて消火設備等の必要な設備の点検や備蓄品の管理、また、年間消防計画に沿って訓練を行い、避難方法や関係機関などへの連絡体制の確認を行った。それらを定期的に保護者に周知した。 支援地経中に起きる事故や怪我を防止するために、室内や屋外の環境の安全性について毎日点検し、必要な補修等を行い、危険を排除することに努めた。
2	ケガ事故防止	発生した事故事例や、事故につながりそうな事例の情報を収集し、スタッフ間で共有した。 緊急時における対応方法について、マニュアルに従い、全スタッフが対応方法について理解し、予め計画された役割を実行できるように訓練を行った。
3	防犯	外部からの不審者の侵入を含め、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所として防犯マニュアルを定期的に確認するとともに、関係機関と連携して防犯に関わる安全確保への取り組みを行った。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、自治体などにより発信される情報をチェックし、発声時には屋外での活動を控えた。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

地域の学校とつながり、作業療法士を目指すにあたり、発達支援の分野での作業療法士の役割や多職種との連携を学び、就職を考える際にこのような分野があるということを知ってもらうために、2020年度より、見学実習を実施している。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
8月3～9月2日	学校法人君津あすなろ学園 千葉医療福祉専門学校	24人	見学実習

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	10日 6名	10日 6名	12日 6名	10日 6名	10日 6名	11日 6名	10日 6名	10日 5名	11日 5名	10日 6名	13日 8名	11日 7名
園内研修	22日 4名	27日 4名	24日 5名	22日 5名	26日 5名	30日 4名	28日 4名	25日 4名	23日 4名	27日 4名	24日 4名	23日 4名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
10月20日	千葉県	児童発達管理責任者基礎研修	1名	無
10月23日	千葉県	児童発達管理責任者基礎研修	1名	無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
施設長勉強会	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	0名	0名	1名	1名	1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

マンスリー利用児は、保育園と一緒に活動していったので、様々な地域交流を行っていくことができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：宮下公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ローソン、丸亀製麺、だいちゃんラーメン、ワンちゃんラーメン、セブンイレブン、栄楽、クリエイト、ジョイフル本田、びーとるランド、駐在所、周南公民館、等
世代間交流	毎月一回 老人ホームみのりにて実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

回数は少なかったが、小学校とも交流を実施することができた。

また、学校への通学路探検や学校についての話をするなど、小学校への期待感が持てるよう意識して活動を行った。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月12日	周南学校	2名	周南学校	職員間交流
6月13日	周南学校	2名	周南学校	職員間交流
11月10日	周南学校	19名	宮下どろんこ保育園	職員間交流
1月22日	周南学校	4名	周南学校	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

お子さまの発達の様子、環境及び日常生活全般に応じて、適切な療育目標を設定し、目標に応じた内容を検討する。今年度は、児発管不在だったため、面談等はできなかったが、振り返りなどで、丁寧に対応していった。

〈2〉 進級引継、および小学校への引継状況

就学相談を利用して連携機関や小学校と、個々の細かな様子や情報の共有を行い、就学後も安心して生活ができるように努めた。

また、年長児には、就学支援シートを作成し、学校側に引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細													
施設開放	(月)～(金) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み													
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計24回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	9名	16名	6名	14名	19名	16名	8名	6名	20名	12名	14名	15名	155名	
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	2名	0名	0名	4名	0名	2名	10名	0名	8名	0名	2名	4名	32名	
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00 にて実施													
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行													
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：宮下公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	22名	14名	9名	390 名	40名	25名	367 名	40名	24名	26名	34名	30名	1021 名	

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年7月、11月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻： 9時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：内部監査室、羽澤佑太

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：95%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見：0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む）：0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 子ども発達支援センターつむぎ浦和美園 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

どろんこ会の支援方針を基に戸外活動の充実を図り、安心できる環境の中で好きなことを十分に楽しむ活動を大切に展開した。

生きる力を育む活動として日課に取り組み、リズム遊びや雑巾がけ、生き物の世話などが定着しており、実体験を通して得られる全てを全身で感じ、心づくり、身体づくりを育んでいる。

園庭解放や近隣施設との連携を図ってきたことで、センターへ来ていただく機会を増やしている。今後も地域で育つ子どもたちが互いを理解し受け入れていく場となるように、地域に開かれたセンター運営を目指していく。

また、年間を通じて「つむぎ de ほっとカフェ」の講座を行った。スタッフ全員が自身の専門性を伝える場を設けることで、自身の学びを深め、発信力へつながった。継続して、おとなの人間力の向上を図り、地域に根差した講座開催を今後も行っていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：日課の充実 ねらい：大人が背中を見せていき一緒にいき、生きる力を培う
	実践結果	一年を通して、散歩の充実、雑巾がけ・畑仕事などの日課を積極的に行っており、子どもも一日の流れとして活動に乗っていた。夏は暑さなどのリスクも考え、散歩や畑仕事の時間を短縮して行うなどの工夫をしてきた。
	次年度方向性	年度を通して継続して日課に取り組み、活動の中に定着させていく。畑仕事や動物の世話を通して、本物に触れることから得られる実体験を大切に、大人も子どもも自ら考えて動いていく力を育んでいく。
2	計画・ねらい	計画：食から繋がる活動、環境教育の充実 ねらい：ISO4001受審を経て、継続した実践を行っていく
	実践結果	畑仕事を通して、種まきから育成、収穫を経験し食の循環を知ることが出来た。畑で取れた野菜も、活動の中ですぐに調理して食べる機会も増え、食への興味や拡がりが見られた。
	次年度方向性	田んぼを拡大し田おこしから稲刈りまで児発・放デイ共に取り組む経験が出来た。食への意識が高まり、収穫して食べることへの興味は上がったが、毎日の仕事になっていたかは今後の検討が必要と感じる。農業計画の見直しを行い、より充実した環境教育を図っていく。
3	計画・ねらい	計画：保育所等訪問支援の拡大 ねらい：全スタッフが小学校含め関係機関との連携に努めていく

実践結果	年度初めに訪問スタッフと一緒に様々なスタッフが保育所等訪問支援に同行し、連携の場を知ることが出来た。特別支援学校の見学会などにも参加し、センター以外の生活の場を知ることにも出来た。
次年度方向性	継続して、全スタッフが関係施設へ出向きつむぎ以外の子どもたちの生活の場を知りより良い支援につなげていく。併用利用や放デイ利用に伴い、児発から放デイへの以降や、保育園、幼稚園などの関係施設との連携を担っていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：快適で清潔な施設づくり ねらい：接遇を学び、気持ちの良い環境を提供
	実践結果	主任会議や保育の質会議、施設長会議内で環境の見直しについての学習を行い、それをセンター会議内で共有していくことでスタッフ全体として意識を高めてきた。 清掃チェック表なども使用し、環境の美化に努めながら、センター会議内で接遇マナー研修も行い、保護者や来訪者の方に対しても快適に過ごしてもらえるように努めてきた。
	次年度方向性	継続して美観を保ち、必要なものがいつでも取り出せる環境づくりを行い、皆が安心して過ごせる場を目指していく。
2	計画・ねらい	計画：丁寧な対応 ねらい：施設を利用する全ての方がまた来たいと思える接遇を学び実践する
	実践結果	センター会議内で電話対応マナーや、接遇マナーを学ぶ機会を設け、全職員が来訪者の方に気持ちよく利用してもらえるように努めてきた。 問い合わせなどに対しても、遅くとも次の日には折り返せるように、職員間での情報共有も行ってきた。
	次年度方向性	施設を訪れる方に心地よさを感じていただけるように、スタッフ全員で接遇を学び、情報共有を行っていく。
3	計画・ねらい	計画：子育て相談・地域講座開催 ねらい：保護者同士が繋がる場づくり、相談し合える場づくり
	実践結果	つむぎカフェの開催やおおぞら保育の定期的な実施が行えていた。その中で様々な専門職種が講座を行うことで、子どもの特性を知ったり専門性を伝えたりする機会を設けた。保護者の事業所内相談も増え、相談しやすい場の提供も行えてきたように感じる。
	次年度方向性	地域講座は内容をさらに充実させ、関係施設への情報提供を行っていく。保護者や地域と共に学び合える場を提供していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：他園交流 ねらい：地域の保育、教育機関との連携から同年代の子どもとの仲間づくり
---	--------	---

	実践結果	保育所等訪問支援を通して、他園との関係を築いていくことが出来、そこから園庭開放や子ども同士の交流の場が生まれていた。まだ子ども同士の関わりとしては少ないが、センターという場を知っていく機会としては良い機会が作っていったように思う。
	次年度方向性	近隣施設からセンターを訪れる回数が増えた。園庭解放や生き物との触れ合いから、子ども同士の関わりに発展していくように環境づくりを行っていく。
2	計画・ねらい	計画：つむぎカフェ開催 ねらい：保護者がくつろげる場、語り合える場づくり
	実践結果	月に一度のつむぎカフェの開催を実施。毎月様々な専門職のスタッフが内容を考え、保護者に発信していくことで、自身の子育ての悩みや相談をする機会を設けることが出来た。子どもの話だけではなく、保護者同士の何気ない話をする機会も大事にしてきた。
	次年度方向性	保護者同士の繋がりや子育てについて話せる場の提供を図っていく。保護者からの提案を受けながら、安心して集える場を作っていく。
3	計画・ねらい	計画：保育所等訪問支援の活用 ねらい：地域における中核的な支援機関になる
	実践結果	保育所等訪問支援で対象児以外の相談を受け、療育相談に繋げるきっかけづくりを行ってきた。そこからセンターへの利用や療育への興味を持っていただけるように橋渡しをしてきた。継続して訪問先の相談に対応していきたい。
	次年度方向性	ご利用方法や内容等を丁寧にお伝えしていく。関係施設との連携を図り、家庭、訪問先、つむぎでの情報共有を具体的に行い、より充実した丁寧な支援を担っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：学びの発信 ねらい：保護者、関係施設、地域に向けて学習会を開催する
	実践結果	各職員が自身の専門性をセンター会議内で発表し合うことで、再度自身の仕事を振り返る機会を作った。そこで自分の思いを言語化する経験を積み、保護者へもつむぎカフェで発信することで各職員が発信力を付けていけるようにしてきた。
	次年度方向性	継続して「つむぎ de ほっとカフェ」の講座を実施する。内容の充実を図り、学び合いの場を定着させていく。
2	計画・ねらい	計画：コンピテンシー活用 ねらい：自身の MBO を含め目標を具体化し実践する。
	実践結果	毎月のセンター会議でコンピテンシーを活用し、自身の強みや問題点を振り返る機会を設けた。その中で各自が自分の課題を明確にし、自己成長に繋げていけるようにしてきた。
	次年度方向性	自信を振り返る取り組みとして継続的に実施し、子ども理解、社会人としての学びを深め自己研鑽に繋げていく。

3	計画・ねらい	計画：保育所等訪問支援との連携 ねらい：小学校接続に向けて地域を知っていく
	実践結果	保育所等訪問支援のスタッフと一緒に幼稚園や保育園、小学校などの関係機関を訪問することが出来た。その中で、センターとは違う環境で生活する子どもたちの様子を見ることで、また違った狙いや関わり方を考えることが出来た。
	次年度方向性	継続して全スタッフが地域に出かけていき、つむぎ以外の生活の場を知ることにより充実した支援につなげていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：身体づくり・心づくり ねらい：大人が背中を見せて、日課に取り組む
	実践結果	日課である雑巾がけやリズム活動、畑仕事などを大人が率先して行うことで子どもの興味や関心を高められるように取り組んできました。様々な遊びを提供し、一緒にやってみることで自身の身体の使い方に気付いていくように活動を行ってきた。
	次年度方向性	実体験の中で得られる全身で感じられる経験を継続して活動に取り組んでいく。
2	計画・ねらい	計画：園庭緑化 ねらい：安心して過ごしやすい園庭づくりを行っていく
	実践結果	年度初めにクローバーの種まきを行う。夏に向けて生えていたが冬にかけて根付くことは難しかった。季節に合わせて、虫ハウスやミストハウス、日よけのシェードを出すなど、安心して遊べる環境を作れるように意識してきた。
	次年度方向性	季節を感じられる園庭を目指し、土壌改良や緑化計画を実践していく。
3	計画・ねらい	計画：食の循環・環境教育 ねらい：環境にまつわる学びを深め、豊かな環境づくりを行っていく
	実践結果	ISO4001の内容や、畑を通じた食の循環サイクルを子どもたちと一緒に取り組めるように活動を展開してきた。給食残差を減らせるように、調理法の工夫なども行ってきた。
	次年度方向性	育てた野菜を収穫したり食したりする活動が充実しているので、命をいただくことや豊かな環境づくりに向けての取り組みを学び合っていく。

〈6〉地域に開かれた施設づくり

1	計画・ねらい	計画：学びのアウトプットから地域連携へ ねらい：定期的な講座開催を通して地域に開かれた場となっていく
	実践結果	今年度のつむぎカフェは保護者への発信が中心となっていたが、少しずつ保護者の知り合いの方などにも参加をしていただけた。あおぞら保育では近隣の方や他園の子どもたちも参加してくれる様子が見られ、広くセンターを知ってもらえる機会が出来た。

	次年度方向性	年間を通じて「つむぎ de ほっとカフェ」の開催を行い、近隣施設にも参加を促し、共に学び合える場になっていく。
2	計画・ねらい	計画：地域交流 ねらい：近隣施設とのつながりを広げていく
	実践結果	保育所等訪問支援でつながった保育園や幼稚園、近隣施設向けにつむぎの見学会を行う。複数園からの見学希望があり、実際のセンターの様子を職員の方たちに見てもらえる機会を設けた。
	次年度方向性	センターに迎えるだけでなく行き来できる関係性を築き、子ども間交流を図っていく。
3	計画・ねらい	計画：体験活動の充実 ねらい：児発と放デイ、地域が交じり合って活動する機会の拡大
	実践結果	小学生の長期休暇期間は活動や給食を一緒に行うことで、異年齢での活動を充実させてきた。普段は関わらない児発と放デイの子どもたちもお世話をしたりあこがれをもったりしながら一緒に過ごす姿が見られた。
	次年度方向性	「大きな家」であることを意識し、センター全体でより良い支援に向かってインクルーシブな環境づくりを目指していく。

〈7〉 実体験を通して自己選択、自己決定をする力を育む

1	計画・ねらい	計画：畑・戸外活動の充実 ねらい：日課に取り組み、生きる力を育む
	実践結果	実際に畑に出て種まきや水やり、収穫を経験し、自分たちで育てた野菜や果物を食べる経験を行えた。なかなか継続的に活動を行えない部分もあったため、日課として日々行うという点では課題が残った。生き物の世話や散歩を通しての体力づくりなどは日々行っていた。
	次年度方向性	サークル活動の充実を図り、子どもと一緒に考えて行動する集団となっていく。
2	計画・ねらい	計画：園庭・室内環境整備 ねらい：遊び込める環境のなかで、好きなことを見つけていく。
	実践結果	子どもたちの興味や発達に合わせて室内や園庭の環境を変化させていけるように話し合いを行ってきた。季節を感じていけるように制作物や壁面などを通して環境を作ってきた。
	次年度方向性	個々の状況に応じて環境を変化していく柔軟性をもたせ、安心して好きなことに打ち込み、仲間づくりに発展させていく。
3	計画・ねらい	計画：食育活動の充実 ねらい：食べてみたいという気持ちを育む
	実践結果	畑で取れた収穫物をすぐに食べるような活動も行った。取れたてのものをすぐに食べることで食材にも興味を持っていけるように活動を広げてきた。普段給食では野菜を食べられない子ども達も食べてみたいという気持ちが広がってきていた。
	次年度方向性	戸外活動を充実させ空腹を感じ食へ向かう意欲を育てていく。今後も自分で育て収穫した野菜を食べたり、楽しい食事を体験したりする場を作って

		いく。
--	--	-----

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	616 人	611 人	670 人	689 人	703 人	654 人	703 人	755 人	745 人	728 人	714 人	986 人	8574 人
登録児 数	95人	99人	104 人	103 人	106 人	109 人	118 人	118 人	122 人	122 人	122 人	122 人	1340人

(解説) マンスリー・ビジターグループ・個別支援

放課後等デイサービス 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	219 人	223 人	245 人	235 人	240 人	209 人	215 人	198 人	206 人	196 人	178 人	236 人	2600人
登録児 数	43人	43人	43人	43人	45人	45人	43人	43人	43人	42人	42人	42人	517人

(解説) 月～金グループ活動・土曜日個別支援・土曜日グループ

保育所等訪問支援 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	24 人	28 人	34 人	28 人	24 人	24 人	25 人	33 人	27 人	28 人	38 人	23 人	336 人

(解説) 関係機関との連携強化を図り、訪問先、訪問件数が広がった。家庭、訪問先、つむぎが一体となって支援の方向性を合わせていった。

相談支援事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0 人	0 人	2 人	3 人	5 人	3 人	1 人	2 人	2 人	2 人	2 人	5 人	27 人

継続	16 人	25 人	21 人	17 人	23 人	26 人	19 人	25 人	22 人	18 人	21 人	36 人	269 人
----	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

(解説) 地域連携を図り、より充実した情報提供を行った。新規受け入れの拡大を図った。

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名 児童発達支援管理責任者2名

保育士9名 看護師1名

機能訓練担当 (言語聴覚士2名、作業療法士1名、理学療法士2名、心理担当職員1名)

児童指導員5名 栄養士2名 事務1名 用務1名 相談支援2名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・虐待研修・人権研修 ・情報共有
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、献立検討、衛生管理、情報共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント検証、重大事故検証
支援計画策定会議	適宜	支援計画に伴う情報共有、支援方針、目標設定
ケース会議	月1回	子どもの情報共有、支援計画、活動の検討及び見直し実施

〈2〉出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管

併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	施設内の衛生管理、清掃の徹底、備品管理、安全管理、感染症対策を行った。
安全対策係	消防計画に則り、避難訓練、不審者侵入訓練、引き取り訓練を実施。毎月防災会議を開き、避難訓練計画立案や振り返り、有事に備えて役割等の周知、訓練での実施を行った。
防火管理者	災害対策や消防計画に則り、避難訓練の実施検討、自主点検の実施を行った。園会議内で防災に関する研修を行った。
食品衛生管理係	給食提供食材の安全、衛生管理の実施。献立検討、喫食状況確認、給食会議開催を担い、安心安全な食の提供に努めた。
畑係	月一回の係会を行い、毎月の収穫物や種まきなどの活動を発信した。子どもたちと取り組むにはどのようにしたらよいかを検討し、実践に努めた。
生き物係	生き物のエサや資材、衛生管理、休日当番表などを担った。子どもたちが清掃しやすい環境づくりや直接触れ合える場の提供に努めた。
体験学習係	うちわ作り、エイサー・太鼓体験、プレイパーク、五平餅作りを実施。親子参加での実施含め、盛況だった。

〈4〉 行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	7/29実施。434名参加（外部参加154名） 多くの参加をいただき大盛況での実施となった。近隣からの参加も多く、つむぎを知って頂く機会となった。開催時期が猛暑となり空調等検討が必要。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2歳児から5歳児が交じり合って生活する環境設定の中、それぞれの発達に応じた支援の提供に努めた。 ・ 保護者交流会を開催し、子育て相談や先輩保護者とつながる機会を図った。
放課後等デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に保護者とモニタリングを行い、保護者の要望のもと学校とも情報共有をして、家庭、学校、つむぎが一体となって支援を行った。 ・ 実体験の中でさまざまなコミュニケーション力を育てている様子を伝え、保護者と共に成長を共有した。
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計30名 が参加済み (1月31日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご希望に沿い随時実施
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時実施

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	<p>計画：大人と一緒に食を楽しむ環境づくり ねらい：暖かく楽しい雰囲気の中で安心して食べられる場を作る</p>
	実践結果	大人や友だちと一緒に給食を食べることで、周りの人が食べている様子を見て、自分も食べてみようという気持ちが少しずつ育っていた。気候が良い時は率先して縁側給食やシートを敷いて好きな場所で食べる活動を行えた。
	次年度方向性	楽しみながら食事をとることを大切に、安心して食べられる環境づくりを行っていく。
2	計画・ねらい	<p>計画：収穫物を味わう ねらい：畑仕事を通して自分で収穫した野菜を食べてみる</p>
	実践結果	取った野菜をその場で食べたり、電子レンジで調理して食べたりする活動を行えた。給食室に持っていき給食に使用し、揚げ物にして食べやすくしてもらうことで食べることが出来る様子も見られた。
	次年度方向性	畑仕事を日課とし、作物の生長を楽しみにしながら年間を通して携わっていく。
3	計画・ねらい	<p>計画：縁側給食の充実 ねらい：季節を感じながら自主的に食に向かう環境づくり</p>
	実践結果	積極的に縁側給食を実施出来た。子ども達も好きな場所を選び好きな子と一緒に給食を食べる活動を楽しんでいた。

	次年度方向性	寒暖の差を感じながら食へ向かう気持ち作りを行い、準備から片付けまで自分で行う環境を整えていく。
--	--------	---

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
児童健康診断	6月21日／12月20日に実施
歯科検診	実施なし
保健だより	毎月25日におたより配布を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	① 6月21日につむぎ会場にて内科健診を実施 ② 12月20日につむぎ会場にて内科健診を実施 ③ 2月13日～19日までつむぎにて手洗いチェッカーを実施
流行した感染症	特になし
発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月23日につむぎにてエピペン研修をスタッフ25名、3/30までにスタッフ6名、計31名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ30名のうち、30名が使用可能
その他保健に関する取組	危険な虫の周知や刺された際の対応、流行しやすい感染症の周知などの研修を行った。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み

	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月28日、10月31日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月21日／12月20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月20日、10月20日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：遊び込める環境づくり ねらい：自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備
	実践結果	「環境を見直す会議」を設けていたが、各グループで都度実施していた。常設と子どもの状況に応じて設置するものを使い分けることで子どもの発達に沿った活動が展開されていた。ハザードの見直し担当を毎月分担することで、職員全体で現状を把握し必要性の意識につながった。
	次年度方向性	戸外活動の充実のもと、季節を感じながら室内環境の見直しを行っていく。環境を見直す会議を定期的に行い、子ども発達に沿った環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：園庭緑化 ねらい：季節を感じながら好きな遊びを見つけていく
	実践結果	緑化計画は、むしったり踏んだりすることで育てきれなかった。一方、園庭での築山づくりや崩すこと、泥水遊びや泥沼での遊びの充実が見られた。園庭改良を継続して行っていく。
	次年度方向性	園庭全体の改良を検討し実施していく。土の入れ替えや植物のコーナーなど子どもたちがより豊かに過ごせる環境づくりを行っていく。
	計画・ねらい	計画：全身で感じられる経験 ねらい：戸外活動の充実を図り、実体験からさまざまな経験を得る

実践結果	散歩の行先が拡がり、毎週の商店街ツアーではさまざまな場所を訪れていた。自分の足で歩くこと、友だちと行動すること、園外に出ることで交通ルールや公共の場での過ごし方などの経験にもつながった。
次年度方向性	継続して戶外活動の充実を図り実体験から得られる経験を重ねていく。公共の場に出ることから社会性の向上を育てていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーテーション	室内	毎日	異常なし
2	配膳台	室内	毎日	異常なし
3	机	室内	毎日	異常なし
4	下駄箱	玄関	毎日	異常なし
5	ベンチ	園庭	毎日	異常なし
6	虫ハウス	園庭	毎日	異常なし
7	竹玩具	園庭	毎日	12月28日撤去
8	荷物棚	2階	毎日	異常なし
9	ヤギ小屋	園庭	毎日	ささくれあり 都度補修

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	設備点検チェック 年4回/4, 7, 10, 1月の25日実施
2	実践結果	事故防止チェック 年4回/4, 7, 10, 1月の25日実施
3	実践結果	防災自主点検・備蓄品点検含む 年2回/6, 12月の25日実施
4	実践結果	避難訓練（消火） 毎月1回/15日実施
5	実践結果	不審者侵入訓練 年2回/6, 12月の25日実施
6	実践結果	事故防止委員会 毎月1回/15日実施

7	実践結果	光化学スモッグ さいたま市からの発令共有実施
---	------	---------------------------

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

学生が安心して学べる環境を整え、積極的に受け入れを行った。実習期間中は日々の目標を全体で共有し、毎日の振り返りの中で個度尾たちとの関りや実習内容の確認を丁寧に行った。実習地訪問では、担当教諭との意見交換を行い、学生の把握と共に就職相談などを行う機会とした。施設内研修で実習生受け入れの研修を行い、施設全体で丁寧な対応を学び実践に努めた。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
6/5～6/30	目白大学	1名	臨床実習
7/3～7/14	埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	2名	保育実習
7/18～8/10	目白大学	1名	臨床実習
7/24～	東京未来大学福祉保育専門学校	1名	施設実習
8/14～8/29	東京未来大学	2名	施設実習
10/2～10/18	淑徳大学	1名	施設実習
10/19～11/1	東京未来大学福祉保育専門学校	1名	施設実習
10/20～11/2	埼玉福祉保育医療専門学校	1名	施設実習
11/6～11/21	浦和大学	2名	施設実習
12/11～12/17	東京福祉専門学校	1名	見学実習
2/13～	川口短期大学	1名	施設実習
2/13～		1名	施設実習

〈3〉 中高生の受入

日程	学校名	人数
11月18日～(月1日)	さいたま市立大宮国際中等教育学校	2人

7. スタッフ研修

〈1〉 施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 31名	21日 31名	23日 31名	21日 31名	25日 31名	22日 31名	20日 31名	24日 31名	22日 31名	19日 31名	16日 31名	3日 30名
人権・虐待研修	21日 31名						20日 31名					
BCP 研修									22日 31名			
専門士研修		21日 31名			25日 31名	22日 31名	20日 31名	24日 31名	22日 31名	19日 31名		
リズム研修			23日 31名									
接遇研修					25日 31名							

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月3日～7月16日の2日間、演習5日間	有限会社プログレ総合研究所	埼玉県相談支援従事者初任者研修	1名	有 or 無
9月19日26日の2日間	有限会社プログレ総合研究所	埼玉県サービス管理責任者等基礎研修	1名	有 or 無
11月16日	一般社団法人さいたま市食品衛生協会	食品衛生責任者実務講習会	1名	有 or 無

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	19日 1名	24日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	24日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	24日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	24日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
デンマークインターンシップ	該当者なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

新入スタッフは月次報告を通して子どもとの関りや業務内容の見直しを行い、先輩スタッフからのアドバイスを受けていった。実際の場面を検証することでより具体的な振り返りや気づきにつながり、支援の方向性が明確になった。また、毎月月次報告として提出することで、自身の振り返りや傾向に気付く機会となり、方向性のすり合わせにつながった。

〈5〉地域講座の講師

毎月の会議内でスタッフ向けに講座を行い、内容を再度検討して次月の「つむぎ de ほっとカフェ」で保護者向け講座を開催した。個人での学び、スタッフ間での共有を通してさらに学びを深め、自身の言葉で伝える機会となった。次年度は、近隣施設や地域の方の参加を集い開催していく。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

青空保育、「つむぎ de ほっとカフェ」が定着し、参加者が増えている。地域に根差した施設を目指し、近隣施設との交流を深めていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名:美園台公園にて

商店街ツアー	週1回 主な行き先:イオンスタイル、シャトレゼ、フラワーショップオリオン、郵便局、さいたま市美園図書館、イオンモール(フラワー&ガーデンイオン浦和美園店)、浦和美園駅前交番、浦和美園駅、等
世代間交流	1月9日につむぎにて伝承行事(太鼓・獅子舞)を実施
異年齢交流	10月30日につむぎにてきりりつばさ保育園とハロウィン交流を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

保育所等訪問支援を通して多くのスタッフと関係機関に訪問し支援内容の共有や方向性のすり合わせを行うことが出来た。継続して連携強化を図り、相談や情報共有が円滑に行えるように協力体制を図っていく。小学校訪問が増えたことからより充実した移行支援を行っていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名(会場)	内容
4/17,4/21,4/24, 4/25,5/9,5/29,5/ /30,6/9,6/13,6/ 19,7/4,7,11,9/5 ,9/14,9/9,9/15, 11/9,11/13,11/ 17,12/12,1/15, 2/15,2/16,2/21	大門幼稚園	6名	大門幼稚園	保育所等訪問
6/12	岩槻ひまわり幼稚園	1名	岩槻ひまわり幼稚園	保育所等訪問
4/27,6/29,9/21, 11/30,2/2,2/8	北川口幼稚園	3名	北川口幼稚園	保育所等訪問
5/10,6/21,8/23, 10/12,12/19,2/ 8,2/14	あいう園美園浦和美園 駅前保育園	2名	あいう園美園浦和美 園駅前保育園	保育所等訪問
4/28,5/18,5/19, 6/27,7/3,8/22,9 /7,9/19,10/23,1 1/16,12/11,1/2 9,2/12/9,2/20	しらさぎ幼稚園	5名	しらさぎ幼稚園	保育所等訪問
5/16,6/23,8/28, 10/27,12/22	チャイルドルーム東浦和	1名	チャイルドルーム東浦 和	保育所等訪問

5/23,9/1,2/6	さいたま市立常盤保育園	1名	さいたま市立常盤保育園	保育所等訪問
4/21,5/22,7/12,8/2,9/20,11/29,1/10	ブライト保育園 浦和美園	1名	ブライト保育園 浦和美園	保育所等訪問
4/11,5/12,6/6,6/30,7/18,8/17,8/18,8/24,9/11,10/17,10/24,11/2,11/22,12/27,1/25,1/30	遍照浦和美園保育園	2名	遍照浦和美園保育園	保育所等訪問
5/11,7/13,10/6	大谷口幼稚園	1名	大谷口幼稚園	保育所等訪問
5/26,6/26,8/31,11/13,1/19,2/5	こばとの里こども園	4名	こばとの里こども園	保育所等訪問
4/19,5/12,6/2,6/19,7/31,8/9,8/21,10/4,10/30,11/21,12/6,12/20,1/16,1/26,2/7,2/21	きらりつばさ保育園	5名	きらりつばさ保育園	保育所等訪問
4/4,5/31,6/28,8/25,11/1,11/13,1/31	美園にじのこ保育園	2名	美園にじのこ保育園	保育所等訪問
4/5,5/15,6/14,7/5,7/19,9/6,9/27,11/8,11/15,1/30,2/9	浦和美園まりーな保育園	2名	浦和美園まりーな保育園	保育所等訪問
5/25,7/10,11/21	きぞろ幼稚園	1名	きぞろ幼稚園	保育所等訪問
5/8,5/15,6/20,7/28,8/30,10/13,11/6,12/5,1/24,2/29	みらい保育園	2名	みらい保育園	保育所等訪問
4/12,5/24,6/7,7/10,7/14,8/14,8/16,9/13,10/11,10/25,11/22,12	あいう園浦和美園ウイングシティ保育園	3名	あいう園浦和美園ウイングシティ保育園	保育所等訪問

/27,1/17,2/13				
4/14,6/5,7/24,12/15	いちご保育園	1名	いちご保育園	保育所等訪問
6/16,7/7,8/9,10/19,11/20,1/9	ステラさいたま大門保育園	1名	ステラさいたま大門保育園	保育所等訪問
7/26,11/27,1/16	さいたま市立常盤保育園	1名	さいたま市立常盤保育園	保育所等訪問
4/12,6/15,7/20,9/25,12/7	汽車ポッポ保育園	1名	汽車ポッポ保育園	保育所等訪問
4/18,6/7,8/2,10/4,12/19	かわぐちこころ保育園	1名	かわぐちこころ保育園	保育所等訪問
4/3,4/6,5/2,6/2,7/27,8/21,10/20,10/31,12/1,12/21,12/26,1/5	小鳩保育園	4名	小鳩保育園	保育所等訪問
4/7,8/3,10/16,12/8,1/17	浦和みその保育園	2名	浦和みその保育園	保育所等訪問
5/17,6/23,7/26,8/30,10/10,12/13,1/23,2/28	きらり遊愛保育園	1名	きらり遊愛保育園	保育所等訪問
6/1,9/22,12/18	あさひ保育所	1名	あさひ保育所	保育所等訪問
7/14,9/26,12/14,2/13,2/27	岩槻若葉幼稚園	1名	岩槻若葉幼稚園	保育所等訪問
8/23,9/25,10/10,11/10,12/28,1/22,2/22	保育園おおきなぞうさん浦和美園	1名	保育園おおきなぞうさん浦和美園	保育所等訪問
10/5,12/4,2/19	緑ヶ丘幼稚園	1名	緑ヶ丘幼稚園	保育所等訪問
8/1	浦和たいよう保育園	1名	浦和たいよう保育園	保育所等訪問
11/7,1/12	木の実幼稚園	1名	木の実幼稚園	保育所等訪問
11/27,1/23	浦和明の星幼稚園	1名	浦和明の星幼稚園	保育所等訪問

2/5	岩槻本町保育園	1名	岩槻本町保育園	保育所等訪問
7/10	さいたま市立川通小学校	1名	さいたま市立川通小学校	保育所等訪問
5/11,7/4	白岡市立西小学校	1名	白岡市立西小学校	保育所等訪問
6/29	さいたま市立美園小学校	1名	さいたま市立美園小学校	保育所等訪問
7/13,7/19	さいたま市立新和小学校	2名	さいたま市立新和小学校	保育所等訪問
9/5,11/30,12/14,2/2	さいたま市立大門小学校	2名	さいたま市立大門小学校	保育所等訪問
10/10	さいたま市立浦和特別支援学校	1名	さいたま市立浦和特別支援学校	保育所等訪問
10/13	さいたま市立美園北小学校	1名	さいたま市立美園北小学校	保育所等訪問
11/9	さいたま市立大東小学校	1名	さいたま市立大東小学校	保育所等訪問
11/17,	さいたま市立三室小学校	2名	さいたま市立三室小学校	保育所等訪問

10. 個別支援計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

計画的に保護者からモニタリングを実施し、スタッフモニタリング、策定会議を通して目標の見直しを行った。必要に応じて6か月以下の計画の見直しを行い、子どもの発達に即した計画の提案を行っている。保護者のニーズ、子どもの発達、子どもの願いを鑑みて支援を行いながら、次回の支援計画の内容をスタッフ間で検討し内容の充実に努めている。

〈2〉 進級引継、および小学校への引継状況

幼保小連絡協議会への参加、就学支援シートの作成、潤いファイル作成の協力を行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細													
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施													
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒随時実施													
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～18:00 にて実施													
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：美園台公園にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	17名	8名	15名	0名	6名	3名	6名	6名	20名	2名	0名	5名	88名	

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年6月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：18時00分

自己評価実施者：田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：児発・放デイ100%

気持ちの良い挨拶が出来ているかの項目では、児発、放デイ共に高評価をいただいた。継続して丁寧な対応、施設内の美観に努めていく。また、つむぎを他の方へ勧めたいかの項目でもそれぞれ高評価をいただいた。地域に開かれた施設を目指すうえで励みになり、更なる質の向上に努めていくことを目標にしていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって

寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：子ども発達支援センターつむぎ浦和美園
施設長 橋本千穂

2023年度 発達支援つむぎ 八山田ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに則りどろんこ会グループの理念「にんげん力・育てます」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤に地域に根ざした児童発達支援事業所になっていく。

保育園と併設された児童発達支援事業所としてインクルージョンの実践、一人ひとりが受け止められ、多様性を互いに認め合い、活かしあえるようなインクルーシブ保育を行っていった。

- ① 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操、散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施した。
- ② 異年齢の関わりの中でホンモノの経験・体験をもとに他者との協働や感情のコントロールを繰り返し積み重ねていき、他者との思いや考えを共有する中で目標達成ができる環境を構成した。
- ③ 併設している八山田どろんこ保育園と混ざりながら共に過ごし、「やってみたい」という気持ちを大切に、自然・物・人・事・生活に積極的、意欲的に関り生きる力を育んだ。
- ④ 開園3年目になり、現在よりも地域の方々とコミュニケーションを豊かにしていき、スタッフ一人ひとりが地域の一員である自覚を持ち、地域に根差した事業所となるよう努めた。
- ⑤ 日頃の挨拶や振る舞い気配りを大切に、保護者、利用者、来訪者、誰が見ても綺麗な環境、気持ちの良い空間作りをしていき、地域に愛され選ばれる施設を目指した。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

法人の大事にしている日課、基本保育活動を理解し実践していく中で、つむぎ 八山田ルーム・八山田どろんこ保育園が協働し、戸外活動や遊び、生活を通して子ども同士のかかわり、大人とのかかわりを通して、生きる力を身に着けていけるよう支援していった。

1	計画・ねらい	インクルージョンでの支援の充実をさせていく。
	実践結果	日課や保育活動から、子どもの主体性を考え、個々に合わせて配慮、支援をしていき、全ての子どもが受け入れられながら生活をした。
	次年度方向性	引き続き、主体性と丁寧な関わりを意識して支援の質を上げていく。
2	計画・ねらい	TRIAL & ERROR の保証をしていく。

	実践結果	戸外活動、火・水・土の活動の充実を図っていく。 一人ひとりの「やってみたい」を大事にし、様々な葛藤や試行錯誤をしていける環境や配慮を行った。
	次年度方向性	引き続き、子どもが挑戦したくなるような環境設定をしていき、その中で様々な葛藤が味わえるようにしていく。
3	計画・ねらい	スタッフ同士の語り合う風土をつくる。
	実践結果	子どもの姿を日々語り合いながら、支援の方向性を確認した。
	次年度方向性	引き続き、ねらいを持って支援にあたりスタッフ同士の語り合う風土を創っていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が安心して利用ができるよう、コミュニケーションを取り、悩みや課題を一緒に考え、保護者に寄り添った支援をしていく。関係機関との連携を図り、地域全体での支援をしていく。

1	計画・ねらい	フィードバックの質の向上。
	実践結果	子どもの様子をエピソードで話していき、その日その日のフィードバックではなく、連続した支援の中での成長や課題を保護者様に伝える力をつけた。
	次年度方向性	様子をお伝えするだけではなく、今後の見通しを知らせながら振り返りをしていく。
2	計画・ねらい	事業所内相談支援
	実践結果	保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達の各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に家族支援を行った。
	次年度方向性	引き続き、利用者のニーズを保護者と面談をしていき丁寧に支援していく。
3	計画・ねらい	関連機関との連携（関係連携加算）
	実践結果	相談支援、保育園、幼稚園と他機関との連携を図り、地域全体で支援をした。小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチも行った。
	次年度方向性	継続して他機関との連携を図り、地域で支えていけるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

保護者が安心して子育てができるよう、日頃から保護者とのコミュニケーションを豊かにする。日々の支援を外部に発信し、保護者や地域の方に知ってもらい子育て支援の拠点となる。

1	計画・ねらい	SNS・ブログによる配信
	実践結果	活動内容や取り組みを地域に発信していった。外部からも施設の様子を見えるよう、SNSを利用した。
	次年度方向性	インスタグラム、ブログの発信を継続し、つむぎの発達支援を知ってもらい、利用に繋げていく。
2	計画・ねらい	T SUMUG I カフェの周知・園庭開放
	実践結果	地域の方が気軽にカフェや園庭に集い繋がる場を提供していったが、利用数は伸びなかった。
	次年度方向性	カフェから繋がれる場となるように、誰もが集える場所として周知していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

子どもの最善の利益を考え、サービスとスキルの向上

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインの理解。
	実践結果	研修会を開き、それぞれの理解を深め、再確認する場を設ける。また、自ルームでの支援のあり方を考えた。
	次年度方向性	引き続き、インクルーシブ保育を実践していくため学んでいく。
2	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標設定をしていく中で、自己分析、自己研鑽をしていき、プロとしての自覚を持つ。
	実践結果	コンピテンシーの追及、MBOにて目標の設定をする。また、都度振り返り面談を行い、目標に対して進捗確認を行った。
	次年度方向性	目標を立てたうえで、適宜進捗を確認し達成していけるようバックアップする。
3	計画・ねらい	学び続ける集団。
	実践結果	積極的にスキル講座や勉強会に参加していき自身のスキルアップを目指していった。園長大学・保育士大学の視聴を行った。
	次年度方向性	引き続き社内で学ぶ機会を設定し、外部研修にも積極的に参加できるように環境を整える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践結果	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行った。

	次年度方向性	引き続き畑仕事や食材加工の経験を重ねられるように努力する。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実行する。
	実践結果	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活動をした。
	次年度方向性	食材の循環サイクルに興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にする。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	多様な子どもたちとのかかわり、受け入れられる経験を積む。
	実践結果	多様な子ども、大人との関わりの中で生活や遊びから受け入れられる経験を積んでいき、自己肯定感を高めた。
	次年度方向性	一人ひとりに合わせた支援を追求し、最適な環境の中でインクルーシブを実現していく。
2	計画・ねらい	多様性を認め合い、一人ひとりの成長に合わせた支援をしていく。
	実践結果	その子の最善の利益を考え、その子に必要な配慮を考えた。
	次年度方向性	お互いを知り、受け止め合い葛藤を味わえるようにしていく。
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る。
	実践結果	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の拡充を図った。専門性を生かし、実践した。
	次年度方向性	引き続き併設園の強みを活かし、連携していきながら支援の質の向上を図る。

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進めていく。
	実践結果	食育3大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことの実践をした。
	次年度方向性	食べる事に対する理解を深め、子どもの発達の理解を深めながら食育に繋げていきたい。
2	計画・ねらい	SDGS を考える場をつくる。

実践結果	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進めた。
次年度方向性	コンポストの運用活用を更に充実させていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	222 人	220 人	244 人	221 人	214 人	229 人	210 人	214 人	216 人	217 人	236 人	220 人	2663 人
登録児 数	22人	23人	23人	22人	23人	23人	23人	23人	24人	24人	25人	26人	327人

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

社会福祉士1名

理学療法士1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育園と合同で行う。つむぎ及び保育園各クラスの様子、 行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検

事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修・ヒヤリハット・インシデント
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する
ルーム会議	適宜	利用者の様子・行事進捗
ケース会議	適宜	情報共有・支援内容の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理系	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策系	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生管理系	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	計画の立案・調整・実施
運動会係	計画の立案・調整・実施
生活発表会係	計画の立案・調整・実施

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるよう配慮を行った。 ・戸外活動を通して異年齢や友だちとやり取りを楽しみ、遊びを見つけられるように環境を作り、丁寧に関わった。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びに取り入れた。 ・異年齢のかかわりの中で、生活や遊びに達成感や充実感を味わう経験を保証した。 ・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てた。
ビジターグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作った。 ・見通しを持てるようにかかわり、身の回りの事を自分で行っていった。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたりして遊びにとりいれた。 ・集団の中での簡単なルールや約束を守るようにしていった。 ・遊びを通して興味関心を広げ、友だちとのかかわりを増やす。 ・友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし新しい考えを生み出した。
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達課題に合わせて、就学に向けてアプローチを行った。
事業所内相談支援	3月まで合計55名 が参加済み (3月1日時点) 利用者のニーズを保護者との面談を通して支援した。
保護者面談 発達相談	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施した。
関係機関との連携	4～3月まで 合計15回 (3月1日時点) <ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長と子どもと一緒に食べる。
	実践結果	身近な人と食べて美味しいと思う子を育んだ。
	次年度方向性	食の循環・SDGsを含め、子どもとスタッフが一緒に考える食育をしていく。
2	計画・ねらい	食べたいもの、好きなものが多い子を育てる。
	実践結果	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を生かし食事を体験した。
	次年度方向性	引き続き、縁側給食や園庭給食で子どもが心地よく食事できるよう整備に力を入れる。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践結果	食の循環野菜等の栽培や収穫をし、自ら食べられるように環境を設定した。
	次年度方向性	イチゴジャム作りや梅仕事、七夕などの行事食で、子どもが食の旬を五感で感じることができるよう引き続き力を入れる。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した児童への保健指導、又は、取組等	①6月1日に幼児室にて歯磨き指導を実施 ②9月4日に幼児室にて手洗い・うがい指導を実施 ③1月5日に幼児室にて性教育を実施
流行した感染症	12月に胃腸炎、園児8名感染報告有り。12月20日に終息。
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフ	・3月に八山田どろんこ保育園にて保険研修をスタッフ名3名 ・本日時点で、在籍スタッフ4名のうち、3名が使用可能。

の状況	
AED 使用できるスタッフの状況 (AED 設置施設のみ)	AED 設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機 管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年実施済み
	フロン点検 (簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月6日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創っていく。
---	--------	----------------

	実践結果	安心でき居心地の良い空間から隣り合う空間(0歳から5歳)の行き来を大切にす。夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。ありのままを受け止められている環境を考えていった。
	次年度方向性	環境の再構成を目標に良い環境を目指していく。
2	計画・ねらい	遊び込む場の見直しを図る。
	実践結果	夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。再構成できるスタッフの育成を行った。
	次年度方向性	引き続き、遊びこむことによる興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大事にする。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	パーティション	各クラス	毎日	異常なし
2	丸テーブル	地域の窓	毎日	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ、事故防止対策	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年4回設備点検年6回を行い事故防止の徹底を図るまた、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る インシデント・ヒヤリハット報告の分析 グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る
3	防犯対策	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とする
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごすようにする。 発令無し。

5	危機管理	リスク管理委員会によるリスクマネジメント
---	------	----------------------

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。近隣中学校および高等学校、大学校、専門学校などから実習受け入れ依頼が来るよう、自治体や学校に周知していった。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
7月3～7月14日	仙台医療秘書福祉専門学校	1人	観察、参加実習

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
受け入れなし		

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 6名	12日 6名	12日 6名	21日 6名	10日 5名	15日 5名	13日 5名	10日 4名	8日 4名	12日 4名	20日 4名	21日 4名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
令和5年11月14日(火)～15日(水)	福島県社会福祉事業団	令和5年度 福島県サービス・児童発達支援責任者実践研修	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	21日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
主任(児童発達管理責任者)・ミドル会議	20日 2名	19日 2名	22日 1名	20日 1名	24日 2名	21日 1名	19日 1名	24日 1名	21日 1名	18日 1名	22日 1名	実施 無し
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育ての負担や不安、孤独感が高まっているため、保育園・地域・家庭が一体となって、子ども子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組んだ。地域の方が自由に園を利用し地域の相談しあえる仲間であられるようにとの思いから、月1回「ちきんえっぐ」を発行し、年間計画のもと地域交流を行った。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：八山田子ども広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問
異年齢交流	青空保育・体験活動参加・小学校交流
その他活動	子育て相談

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図った。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行った。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施した。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
12月5日	富田東小学校	2名	支援学級教諭の木村先生来園	来年度入学の要支援児の情報共有
2月1日	行徳小学校	2名	普通級の教諭が来園	来年度入学児の情報共有
1月13日	明健小学校	1名	電話にて対応	来年度入学児の情報共有

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容を検討し作成していった。また、6カ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実践し、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供した。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：8名予定）

策定会議だけでなく、ケース会議を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深めていき、支援の内容を充実させた。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体、関係機関と連携を図り、就学支援シートを作成し小学校への接続をスムーズにすると共に放課後等デイサービスへの接続にも円滑に行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：施設長・児童発達支援管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

貴重なご意見をお寄せいただきまして、心より感謝申し上げます。今後の運営に生かしてまいります。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 八山田ルーム施設長 阿久津 祐太

2023年度 発達支援つむぎ 新羽ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

子どもたちが主体的に活動を選び、意欲的に行動することができるように必要な関わりの中で安全基地を広げていくことや大人も一緒に遊びながら経験を増やし、徐々に距離を保って見守ることで子どもたちとの関わりの中で自己決定が行えるよう心がけた。また、戸外活動を通して感覚刺激を受けることや季節ごとの遊び、ヤギの世話や畑仕事などそれぞれの活動を継続したことで子どもたちの表現活動やルール理解、他者との協働から自己コントロール力を身に付けていくことにつながっていった。さらに、保育園と共に活動する中で混ざり合いながら子どもたちの育ちを見てくことや日々の振り返りを行い、共に協力し合いながら活動することを実践したことで子どもたち自身が他者に関わるようになることや、言葉・身体での表現の広がり、生活動作の体得など様々な成長につながった。

課題として活動のねらいや計画と子どもたちの選択などを踏まえて見通しをもって計画することが難しい場面があった。今年度の経験を活かしながら子どもたちの育ちの検証、予測から活動のねらい、計画を立てることで支援の質の向上を図っていきたい。また、継続した活動を行う難しさがあったため、情報収集を行いスタッフのスキルを向上させることや生き物の世話や畑仕事から調理活動など継続した活動を行えるようにしていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	戸外活動の充実をはかり、子どもたちが主体的に活動に参加する。
	実践結果	子どもたち自身で散歩先を選択できるように環境を整え、活動内容や一緒に活動したい人を選び選択できるようにした。遊びに使うものを一緒に準備することで遊びの広がりにつながった。
	次年度方向性	自己決定を行える環境を引き続き整えていく。継続した遊びや遊びの経験を増やしていくことで遊びの幅が広がり子ども自身の経験を増やしていくことを目指す。活動の振り返りやねらいを考え、情報共有を行うことで遊びや活動の内容を深めていくことにつなげる。
2	計画・ねらい	他者とコミュニケーションをとることが好きになり、自ら関わろうとする意欲を引き出す。
	実践結果	子どもの要求時に先回りすることではなく、指さし・サイン・言語模倣・相手の伝え方などを伝えることで表現方法の獲得につながった。大人だけでなく子ども同士でやり取りする機会を作り、他者とのコミュニケーション機会を増やしたことでやり取りの中で自己表現する様子が増えた。
	次年度方向性	子どもの選択や表現を丁寧に受け止め応答することでコミュニケーションや他者とのやり取りに自信をつけ主体的に他者と関わる環境を作る。
3	計画・ねらい	他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる。

実践結果	子どもが安心できる状況・環境を判断しながら、集団参加や他者との交流を図れるようにした。子どもの興味関心を見極め、大人と一緒に活動に入りながら他児を交えて活動することで他児と過ごす時間が増えることや徐々に子ども同士のやり取りにつながっていった。
次年度方向性	保育園と協力しながら大人と子どもの信頼関係を広げ、安心して活動できる場所を増やし、大人が適切な距離で支援を行うことで子ども自らが他者と関わる機会を増やしていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	同じ年齢や同じ地域の保護者同士で関わりを持てるよう保護者同士の交流を深める場所を提供する。
	実践結果	月に1度体験学習やおはなし会を開催し、保護者同士の交流が行えるように企画内容を考え、実践した。
	次年度方向性	月に1度の体験学習とおはなし会は継続し、保護者同士の交流が行えるようにする。保護者交流のニーズを聞きとり保護者も使いやすい事業所を目指す。
2	計画・ねらい	子育ての悩みや不安を相談しやすい場所となるよう事業所内相談支援を必要に応じて実施する。
	実践結果	年3回保護者同士が気軽に話せる交流の場としておはなし会を開催し、保護者同士で情報交換を行うことやテーマについて話すことを行った。振り返りの時間やモニタリングでの様子から保護者の心境の変化や体調も変化に気づけるようにした。保護者に寄り添いながら必要に応じて事業所内相談を行った。
	次年度方向性	子どもと保護者の変化に気づいた時には、受け入れや振り返りの時間にて状況を聞き、必要に応じて事業所内相談を行う。日頃から話しやすい雰囲気づくりや信頼関係の構築に努める。
3	計画・ねらい	地域の中で生活をするため、保育園・幼稚園への移行支援、小学校との連携を行う。
	実践結果	所属する保育園や幼稚園、他事業所への見学・相談を訪問または電話にて子どもの様子の共有を行った。就学についての不安に寄り添えるよう、近隣小学校の見学を実施した。
	次年度方向性	所属する保育園や幼稚園、他事業所との連携を引き続き行う。近隣小学校への見学を行い、就学相談にて保護者の不安や悩みに寄り添えるようにする。掲示などを用いて情報をわかりやすく知ることができるようにする。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所として地域に開かれたルーム運営を行う。
	実践結果	青空保育のチラシを作成し、配布を行った。ルーム見学時にも園庭開放や自然食堂、ちきんえっぐが実施されていることを伝えた。

	次年度方向性	常にチラシを持ち歩き、散歩先でであった親子にも知っていただく機会を作る。ルームパンフレットに青空保育や自然食堂などの情報を記載し、わかりやすく案内できるようにする。
2	計画・ねらい	誰が見ても気持ちの良い環境を目指すため、清掃や整理整頓・挨拶に努める。
	実践結果	ルーム内や受け入れ場所、園庭などの整理整頓を行った。散歩時に地域の方や来園者に挨拶を行った。
	次年度方向性	引き続き整理整頓を行い、環境を見直しながら誰でも使いやすいルームにする。来園者には手を止めて挨拶を行い、丁寧で親切な対応が行えるようにする。
3	計画・ねらい	新規利用者の獲得に向けて支援のねらいをブログで外部に発信する。
	実践結果	毎月ドキュメンテーションを作成し、話し合いで子どもの姿やスタッフの関わりの共通理解を高め、ブログの内容を深めた。ブログから新規利用者につながる事が難しかった。
	次年度方向性	ブログを行っていることを発信する。子どもの育ちやスタッフの関わりを通じて支援の内容をわかりやすく伝えることを心掛ける。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、子どもに必要な言葉かけ、関わりを見極めることができるスタッフを目指す。
	実践結果	子ども一人ひとりの様子や気持ちに合わせて必要な言葉かけや支援量を調整することを行った。興味関心や信頼関係に応じて活動場所の選択や支援内容を考えた。
	次年度方向性	ドキュメンテーションやリフレクション、日々の情報共有を通してそれぞれの視点からの情報を集約し、子どもにとって必要な支援を考え実践する。
2	計画・ねらい	よりよいインクルーシブ保育を行うため、保育実践の学びを深める。
	実践結果	インクルーシブについて動画や研修にて学びを深めた。保育園と協力しながら実践の中で必要な支援、保育を考えた。
	次年度方向性	インクルーシブについての学びを深めるとともに、多種職種で情報共有を行い、日々の支援に落とし込む。
3	計画・ねらい	来園者がまた来たいと思えるよう接遇マナーを向上する。
	実践結果	見学者や来園者に対して対応者でなくても挨拶を行うことや、来訪予定を確認し、スリッパや場所の準備を行った。
	次年度方向性	丁寧な対応を引き続き行う。質問時に対応できるよう、ルームの説明や案内が誰でも行えるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を高める
	実践結果	ヤギと共に散歩に行くことやヤギ小屋掃除をスタッフが率先して行うことで関心を持ち、子どもたちの実践につながった。ヤギ糞から作ったたい肥を畑に加え、育った作物を調理した。
	次年度方向性	経験できなかった利用児もいるため、日々の取り組みに落とし込み、食材や食の循環を学ぶ機会を作る。
2	計画・ねらい	給食では自分で食べられる量を理解し盛り付け、残渣を減らす取りくみを行う
	実践結果	一人ひとりの食べられるものや量の情報共有を行い、自分の食事摂取量の理解につなげた。子どもの様子に合わせて自分で盛り付けられるようにした。
	次年度方向性	給食をスタッフやきょうだい児（すべての学年の園児）と共に食べることで食への興味を広げる。自分で配膳を行い、できることを増やしていく。
3	計画・ねらい	調理活動を通して食材加工を知る
	実践結果	畑で育てた作物を使用し、調理活動を行った。体験学習にも調理活動を取り入れ、畑から調理までつながる活動を意識した。利用時間帯によっては関わる機会が少ないこともあった。
	次年度方向性	支援時間にかかわらず、全員が活動を経験できるようにする。スタッフの知識を増やし子どもたちに実践を通して伝えていく。

〈6〉チーム保育の充実

1	計画・ねらい	子どもの興味関心が広がるよう遊びの充実を深める
	実践結果	子どもがどんなことに興味を持っているのかを観察することや保護者との情報共有を行い、遊びを広げていくことを行った。好きなもの、遊びをきっかけに信頼関係を築くことができた。
	次年度方向性	子どもの興味関心を引き出すかわりを行う。大人からの関わりだけでなく、子ども同士での学び、遊びの広がりを目指す。
2	計画・ねらい	すべての子どもを全員でみるために保育園スタッフと振り返りを行う
	実践結果	保育園スタッフと振り返りを行い、翌日以降の保育、支援の内容を考え実践につなげた。互いの子どもの様子を伝え、情報共有を行うことで活動の中で保育園スタッフとの関わりが増えた。振り返りの行い方は今後も検討しながら行う必要がある。
	次年度方向性	情報共有を行い、分け隔てなく保育・支援を実践していく環境を整えていく。
3	計画・ねらい	併設園として園と共に行事の計画を行い、園行事の参加方法を検討する

実践結果	運動会、生活発表会を保育園と合同で行った。利用児の得意なことなどを伝えそれぞれに合った参加方法を検討した。準備から片付けまで一緒に行った。
次年度方向性	行事参加を継続していく。情報共有を行うとともに、内容も合わせて提案していけるよう、日々の保育・支援を継続していく。

〈7〉 真のインクルーシブ保育に挑戦する

1	計画・ねらい	子ども同士のやりとりが広がるよう自然と関わり合える環境作りをする
	実践結果	保育園スタッフと協力し合いながら日々の活動を行うことや遊びのきっかけづくりを繰り返していくことで自然と子どもたち同士で関わり合うことができていた。
	次年度方向性	子どもが安心して遊び、学び合える環境を作る。大人がきっかけを作るが子ども同士でのやり取りを広げられるようにするためにはどうしたらいいかを考えていく。
2	計画・ねらい	保育園スタッフと情報共有を密に行い、子どもの理解を深める。
	実践結果	振り返りを行うことや特性、得意なこと好きな遊びの姿などを共有することで日々の活動を共に考え子どもの育ちに活かしていくことができた。それぞれのスタッフの知識量に差があるため、引き続き情報共有を行っていく。
	次年度方向性	振り返りを継続し、子どもの姿の共有から日々の活動に落とし込む。情報量や知識の差を勉強会などを用いて質を上げていく。
3	計画・ねらい	将来を見据えたねらいについて保育園スタッフと共通認識を持てるよう目指したい姿について考察を深める。
	実践結果	保育園のケース会議、つむぎの個別計画更新のための策定会議に互いのスタッフが参加することで今後どのように保育・支援を行っていくかの共通理解のもと話し合いが行えた。
	次年度方向性	日々の振り返りを含め、ケース会議や策定会議など情報共有を行い、共通理解をもって保育・支援にあたり、子どもの成長につなげていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	219人	216人	224人	198人	192人	180人	206人	190人	192人	178人	176人	180人	2351人

登録児 数	34 人	33 人	33 人	32 人	31 人	31 人	32 人	32 人	31 人	31 人	31 人	32 人	383 人
----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------

(解説) 昨年度からの利用者が継続しているため登録児数が安定している。リハセンや利用者からの勧めて見学に来ることも有るが新規利用まではつながらなかった。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名
 児童発達支援管理責任者1名
 保育士1名
 機能訓練担当1名(言語聴覚士1名)
 児童指導員1名
 その他指導員1名(臨床心理士1名)

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・行事反省及び確認 ・地域・畑活動の進捗状況の確認 ・事務連絡、討議事項
給食運営会議	月1回	運営マニュアルに則り、子どもの様子の共有、食育活動の振り返り
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月間のヒヤリハット、インシデントの分析、検証 ・特に検討しなければならない事例について、職員の連携や行動を検証 ・月ごとの事象の確認(プール遊び、感染症、下痢嘔吐など)保険計画と合わせて検証
支援計画策定会議	65回	子どもの育ちと課題について話し合い、次期計画を立案する
クラス会議	適宜	・つむぎと保育園の子どもたちの状況把握

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の対応の意思統一 ・ 重要と思われる案件の確認
--	--	--

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	利用児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理の常時点検など
安全対策係	ハザードマップの作成・修正・追加
防火管理者	避難訓練計画の作成・消防計画に則り、火災・自身・自然災害時の対応、不審者対応の訓練の実践及び省察など
食品衛生管理係	アレルギー児対応
畑係	畑、プランターの管理。栽培・収穫・調理の実施
生き物係	ヤギ小屋掃除、ヤギの世話
体験学習係	体験学習の立案・準備・遂行

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	事前準備をどろんこサポーターズの方々と打ち合わせを実施し、開催。近年コロナが流行していたため久しぶりの開催であり、どろんこ祭りを経験している職員が少なかったため開催に手間取ることもあった。来年度以降は円滑な準備、開催に向けて計画する。
運動会係	保育園と合同にて新羽小学校体育館にて実施。参加する利用児に合わせて参加方法を検討し、実施ができた。保護者からも肯定的な感想を多くいただく。行事内容の検討から相談し、積極的に意見を出していくこと目指していく。
生活発表会係	保育園と合同にて自園で実施。参加児童に合わせてリハーサルを行うことや参加方法の検討を保育園スタッフと共に準備を行い、実施した。次年度以降も発表内容なども積極的に意見を伝え行き、協力していく。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を通して、運動機能の向上を図る ・ 保育園児とも共に過ごしていくことで他児への意識が高まり、子ども同士での関わり合う場面が増えた ・ おはなし会を通して、保護者同士の交流が深まった
平日グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中の子どもの様子に合わせて活動選択を実施 ・ 体験活動や調理活動を取り入れ活動の連続性を図る ・ 小集団での活動により子ども同士のやり取りが深まり、共に活動を行う意識が高まった
ロンググループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を通して運動機能の向上を図る ・ ヤギの世話や一緒に散歩に行く活動を通して生き物の世話への意識が高まった ・ 体験学習に連動した活動を行うことで体験学習につながる活動ができた
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの課題を保護者と話し合い、必要に応じて実施 ・ 子どもの様子に合わせてスタッフを配置した
事業所内相談支援	<p>4～3月まで 合計5名 が参加済み (3月1日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達や家出の関わりについて保護者が悩んでいるときに実施 ・ 幼稚園、保育園の見学後に園の様子を報告

保護者面談 発達相談	・発達検査後に結果を考察し、今後の支援の方向性を検討する面談を実施
関係機関との連携	4～3月まで 合計3名 が参加済み (3月1日時点) ・併用利用の幼稚園・保育園に訪問し、情報の共有・支援の方向性・具体的な対応方法の検討を行った

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑仕事を通して、食べ物への興味を広げる
	実践結果	畑・プランターを活用して作物を栽培した。ヤギに食べられる、育ちが悪いなどもあったが、作ったものを体験学習に使用し調理体験までつなげることで次回以降の畑仕事への意識向上につながっていた
	次年度方向性	畑仕事を習慣化する。ルームに関わる全員で作物を育て、継続した活動にする。
2	計画・ねらい	他児と共に食事をする中で、食事への意欲を高める
	実践結果	大人も子どもも一緒に食事をする中で食事への興味関心が高まった。他児の真似をして自分で配膳することもできるようになった。
	次年度方向性	他児と共に食事をしながら食への興味関心を高めていく。また、食具の使い方や食事の姿勢なども合わせて学べるようにする。
3	計画・ねらい	食育活動を通して、五感を刺激し、感性を豊かにする
	実践結果	畑で育てた作物を使用し、調理活動を行った。調理方法も自分たちで考えながら試行錯誤する様子があった。調理過程での食材の変化を感じていた。
	次年度方向性	畑から調理までの連続性のある活動を通して活動を経験していく。子どもたちからの意見を取り入れながら協働して行う活動にする。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	① 8月に感染性胃腸炎、児童13名・スタッフ1名（保育園児、保育

	園スタッフ含む) 蔓延し、港北区福祉尾見センターへ報告する ② 1~2月にインフルエンザA及びB、児童15名(保育園児含む) 感染報告有り。2月26日に終息
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルームにてエピペン研修を新任スタッフ名5、現職スタッフ31名(保育園スタッフ含む) 計36名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ36名(保育園スタッフを含む)のうち、36名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況(AED設置施設のみ)	該当なし
その他保健に関する取組	ウイルス感染症のため手洗い指導を個々に行った。 感染症の流行時には細部にわたる消毒清掃を実施し、換気を徹底した。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回/15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検(簡易)	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日実施
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿/毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の施設内会議時 ⇒4月25日、10月25日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間 実施済み

	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み
--	------------	-----------------

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自分で考え、自分で行動する
	実践結果	公園の写真カードを見ることや自分でひらがなを読んで行先を決めることや、友達と一緒に公園に行くなどそれぞれの選択をしていた。繰り返し同じ公園に行くことで場所の理解を高めることで自己選択の機会が増えていく様子があった。
	次年度方向性	子どもたちの小さな反応を見逃さないようにする。安全面を確保しながらも子どもたちが自分で活動を選べる環境を作る。
2	計画・ねらい	他者と協働する
	実践結果	大人からの関わりだけでなく、子ども同士での関わりが増えるように見守る距離を保つことで自然に他者と協働して生活する様子が増えた。
	次年度方向性	他者との関わりが増えるよう、見守る距離を子どもの様子に合わせていく。見守るだけでなく、きっかけを作り徐々に子ども同士の関わりを増えるようにする。
3	計画・ねらい	戸外で遊ぶ
	実践結果	散歩に行く目的（遊びたいこと）を一緒に考え、達成できた経験を重ねてくことで自然と子どもたちが戸外で遊ぶ意欲が高まった。戸外での遊びの広げ方や遊びを繰り返し行うことなどにはまだ課題がある。
	次年度方向性	戸外で遊ぶだけでなく目的やねらいを明確にし、大人が共通理解をもって支援を行うようにする。戸外で実施できることの幅を広げ子どもたちに伝えていく。子どもたちの発見を見逃さない。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	ロフト	2歳児室	毎日	異常なし
2	パーテーション	各クラス	毎日	クラスにより適宜撤去し、7月までに完全撤去完了
3	帽子入れ	縁側	毎日	11月に完全撤去

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練実施
2	実践結果	防災設備点検実施
3	実践結果	年2回不審者訓練実施
4	実践結果	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録に基づいて、事故防止の検討を実施
5	実践結果	園内外のハザードマップの修正・追加を実施
6	実践結果	光化学ガススモッグ注意報や熱中症には十分注意し、指数などを参考にしながらもどのように遊ばせることが子どもの要求を満たすことになるのかをスタッフ全員で考え日々行動した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実習生・中高生の受け入れがなかった。今後も実習を受けられる体制を整えておく。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	28日 6名	26日 6名	23日 5名	28日 4名	24日 4名	21日 5名	24日 5名	22日 6名	19日 6名	24日 6名	21日 6名	21日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月13～14日	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会	令和5年度神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 実践研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に開かれた子育て支援施設として、併設の新羽どろんこ保育園と共に地域交流を実施。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：新田公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ヨネヤマプランテーション、あおば、よつや、イオン、新羽駅前交番、消防署等
世代間交流	月に1回老人ホーム
異年齢交流	他保育園、学童と交流

その他活動	消防教室を実施
-------	---------

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

就学支援シートを作成し、児童発達支援の支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項について情報提供を行う。幼稚園・保育園への移行支援として訪問及び自動連絡票の作成を行い、情報共有、配慮事項などについて話をした。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
7月10日	箕輪小学校	1名	小学校見学	スタッフ間交流
8月23日	横浜保育室プリンプ リンルーム	1名	保育園見学	スタッフ間交流 様子の共有
11月21日	パレット保育園	1名	保育園見学	スタッフ間交流 様子の共有

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

6か月に1回のモニタリングを保護者で行い、子どもの育ちや課題、保護者の困りごとや要望について話をする。計画内容と子どもの姿にずれが生じている際には6か月を待たずに計画書の更新を行う。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

就学支援シート3名作成。児童連絡票を2名作成。小学校や幼稚園との引継ぎを保育園スタッフと共にに行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	6名	12名	20名	14名	16名	16名	22名	17名	24名	28名	28名	203名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	12名	0名	8名	2名	6名	21名	4名	4名	6名	63名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：新田公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	10名	中止	中止	中止	2名	2名	8名	2名	4名	中止	4名	40名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年9月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

好意的な意見が多くあり、子ども自身が楽しく通っていることや通いだしてからの子どもの成長を感じている意見が多かった。保育園との連携を振り返りの際に伝えていくことを継続していく。午後のビジターの時間が戸外活動を行うには短いので伸ばしてほしいという意見があったが来年度以降の

支援時間で検討していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 新羽ルーム施設長 吉田 侑加

2023年度 発達支援つむぎ 生田ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年度は、新しく保育所等訪問支援事業を開始し、子どもたちに途切れない連続した支援を提供するための大きな一歩となった。家庭や園、学校の先生とも情報共有を行い、時には専門的なアドバイスをを行いながら、子どもたちへの関り方や環境についてともに考え、試行錯誤しながら実践した。

また家庭や園、学校との密な連携を取り合うことで、少しずつ信頼関係を構築することができ、地域との繋がりが強化され始めた一年であった。

- 1 子どもの生きる力を育むために、子どもの発達年齢に応じた方法で日課活動を行う。
毎月の会議の中で階層構想図を作成し、日課活動を保育所保育指針の5領域や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と照らし合せ、発達との関連性について知ることができた。スタッフ間での積極的な話し合い、畑カレンダーなど視覚的にわかりやすいツールを作成するなど環境を整えた結果、子どもたちが主体的に取り組む姿が見られた。
- 2 食の循環や環境への意識を育み、環境教育の実践を行う。
今年一年を通して、スタッフ向けSDGs勉強会を実施。支援の中でどのようにして取り組んでいくのかをスタッフ全員で学びを深めた。活動の中で、コンポスト作りや地域でのごみ拾い、地域に生息する川魚を見て知る経験やゴミ処理場見学などを実施し、子どもたちと一緒に食や環境の循環を意識しながら取り組むことができた。
- 3 小学1年生を知り、小学校での生活や学びを見通した支援を行う。
近隣小学校での小学1年生の授業参観や担任との意見交換会や学校長との意見交換会に参加した。またルーム会議内での小学校学習指導要領について学ぶ機会を設定し、連続した切れ目のない支援の必要性や幼児期の過ごし方がどの子の土台を作る大切な時期だということを改めて知ることができた。だが、スタッフ全員が逆算した支援を意識して取り組めていないため、来年度も継続して小学1年生について学ぶ機会を設定し、ルーム全体で逆算した支援を意識して取り組めるように努めていく。
- 4 スタッフ自身の学びを深め、大人のにんげん力を培う。
ルーム会議内での学びの時間やスタッフ発信の勉強会を実施することができた。だが、下半期に入りその環境の場を設定することが出来ておらず、勉強会の頻度が減少した。来年度は、スタッフの専門性を活かした勉強会を実施しルーム全体の学びを深め、支援の質を高めていく。
- 5 利用者の気持ちに寄り添った接遇を行う。
接遇についての勉強会を実施。また美観に対してもスタッフ全員が意識し、誰が来ても気持ちよく過ごせる空間を維持できるように努めた一年であった。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【計画】日課活動の階層構想図作成 【ねらい】日課活動が支援として成り立つことを知る。また、日課活動を保育所保育指針の5領域や幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿と照らし合せ、発達との関連性を知る
	実践結果	毎月のルーム会議内で日課活動について階層構想図を作成しながら、10の姿や5領域との関連を学ぶ機会となった。また作成した階層構造図を、カフェ内に掲示し、保護者にも日課活動に取り組む意味や発達との関連性を伝えることができた。
	次年度方向性	日課活動をより支援の中で取り入れ、幼児期に育ててほしい10の姿を体得できるよう取り組む
2	計画・ねらい	【計画】養護的支援と教育的支援 【ねらい】対象児の発達年齢やその日のコンディションによる物的及び人的環境の適正化
	実践結果	上半期はその日の支援に来る利用児たちの発達段階や最近の支援時の様子などを鑑みながら、当日の支援内容や環境構成についてスタッフ同士で話し合い、振り返りを実施することができていた。下半期については、振り返りの内容が次回に活かせていないことや環境構成についての話し合いが不十分であった。
	次年度方向性	毎月のルーム会議内で、今月取り組む食育や活動についてのねらいの共有を行う。また当日の支援についてのねらいや環境構成について朝礼時に、支援者が共有を行う。
3	計画・ねらい	【計画】地域の中での支援 【ねらい】地域の方々と関わり、社会性やコミュニケーションの向上をねらいとして、子ども自身が地域の一員であることを知る。
	実践結果	商店街での買い物や商店街ツアー、地域の公園でのゴミ拾いを実施した。自ら質問する姿や、ゴミ拾いをして地域の方から話かけられる場面が見られ、地域社会と交流することができた。
	次年度方向性	引き続き地域社会との交流を設定し、人と関わり、働くことの楽しさを知る経験を積む。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【計画】事業所内相談の実施 【ねらい】保護者の不安感の軽減、子どもの発達の共通理解を深め、保護者とのコミュニケーションを豊かにする
	実践結果	事業所内相談を含め、発達支援事業で提供できるサービス内容を利用者にも周知した。事業所内相談を行った全件数9件。
	次年度方向性	引き続き事業所内相談を実施する。 子どもの発達の共通理解を深め、保護者の不安感の軽減ができる場となる。
2	計画・ねらい	【計画】母集団、進学先、併用先事業所及び関係機関との連携 【ねらい】子どもの姿を多角的に知り、連携による共通理解を図る

	実践結果	保護者の許可のもと所属母集団と連携を行い、その内容を個別支援計画に追記して保護者に同意を得るとともに、他機関と連携しながら支援を行った。
	次年度方向性	引き続き保育所等訪問支援や関係機関との連携を行い、訪問先の園や小学校、家庭と密な情報共有を行う。
3	計画・ねらい	【計画】保護者交流会の実施 【ねらい】利用者同士及び保護者とスタッフとのコミュニケーションの充実
	実践結果	利用者にアンケートを実施して、利用者のニーズを把握した。そのうえで保護者交流会を企画、実施した。同じ悩みを持つ保護者同士が情報交換を行う姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き保護者交流会、保護者勉強会など保護者同士が繋がれる、学べる場を設定する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【計画】SNSによる発信 【ねらい】当施設の活動内容を広く社会に伝え、つむぎへの関心度の増加へと繋げる。
	実践結果	自施設の紹介、活動内容、利用者の様子、行事のアナウンス、利用の空き状況、そして発達に関するヒントなどを月1回のブログ、月3～4回SNSで発信した。その結果、SNSを見てのカフェ利用が増加し、地域の保護者の子育て相談に繋がった。
	次年度方向性	毎月、発達相談会の開催を実施する。 発達相談会を開催し地域との繋がれる場を作る。
2	計画・ねらい	【計画】青空保育の実施 【ねらい】地域の子育て世帯へ「青空保育」をいう体験の提供、発達相談のきっかけ作りと相談のハードルを下げる。
	実践結果	毎月第4土曜日の午前11:00～11:30に生田緑地で行った。絵本の読み語り、パネルシアター、さくらさくらんぼリズム体操、季節の製作などを実施した。また、参加者に当事業所のパンフレットを渡して、随時、発達相談やカフェ利用のアナウンスを行った。
	次年度方向性	引き続き、地域の子育て世代と交流しながらともに、子育ての時間を共有する。またつむぎを知ってもらい、相談会に気軽に参加できるきっかけとなる。
3	計画・ねらい	【計画】地域向けの企画（チャイティの会） 【ねらい】保護者自身のリラックスを感じる機会となる。また、企画参加によって、つむぎカフェの利用が身近になる。
	実践結果	チャイティの会は年4回実施した。今年度は、お子様も一緒に参加する形式ではなく、地域で子育てする保護者達で集まり、交流できる場として開催したが、合計2名の参加となった。
	次年度方向性	自施設や系列園のちきんえっぐで、毎月発達相談会を開催し地域との繋がれる場を作る。またSNSや系列園、地域にチラシを掲載し、地域の方が多く参加できるよう発信する。

4	計画・ねらい	【計画】 勝手籠の設置 【ねらい】 勝手籠の周知及び利用の促進
	実践結果	勝手籠を設置し、多くの利用者や地域の方が利用していた。中には玩具等が入っていることがあるため、利用方法の周知について見直す必要がある。
	次年度方向性	引き続き勝手籠を設置する。また SNS で発信し地域の方に正しく利用していただけるように促す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【計画】 小学校学習指導要領の学び 【ねらい】 小学校の学び、特に小学1年生の生活及び学習を知る
	実践結果	2023年5月のルーム会議で小学校学習指導要領についての勉強会を実施した。2023年6月のルーム会議で利用児の自治体のアプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムを学ぶ予定であったが、全スタッフには実施できていない。
	次年度方向性	小学校での学びや就学先を知る為に、全スタッフが小学校に出向き、授業の様子を実際に見て学べる環境を設定する。またルーム会議内で小学校学習指導要領について学び、逆算した支援について考える機会を設定する。
2	計画・ねらい	【計画】 普通救命講習の受講 【ねらい】 救命を学び、リスク管理の能力向上を目指す。
	実践結果	勤務時間外ではあるが、普通救命講習をスタッフ1名受講した。AEDの使い方、心肺蘇生、応急手当の仕方を覚え、ルーム内で共有することができた。
	次年度方向性	引き続き、ルーム内で受講についての案内を実施する。
3	計画・ねらい	【計画】 園長大学®保育士大学の講座からの学び 【ねらい】 大人のにんげん力を高める
	実践結果	興味関心がある講座を各自で受講した。学んだ内容をルーム会議で共有し、支援に活かせることはできた。下半期は学ぶ機会の設定が少なく、各自で学び、共有することができていない。
	次年度方向性	ルーム会議内で、園長大学®保育士大学を利用し学ぶ機会を設定する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	【計画】 SDGs の基礎知識を知る 【ねらい】 環境への意識を高め、支援の中でどのように SDGs の視点を取り入れていくか、継続していくかを考える
	実践結果	月に1回、ルーム会議内で SDGs の時間を設けた。SDGs の基礎知識を学び、コンポストの作成やごみの分別についての視覚化や、ゴミ処理場見学などの活動を実施し、子どもたちも一緒に学び体験した。

	次年度方向性	「衣」を1年間のテーマとして、学び、体験し、紡ぎ、形にする活動を実践していく。
2	計画・ねらい	【計画】子どもと一緒にゴミ拾い 【ねらい】子どもと一緒に環境問題を考える。
	実践結果	いつも利用している近隣公園や散歩コースのゴミ拾いを実施した。子どもたちが拾ったゴミを視覚化し、利用児が環境を意識している姿が見られた。
	次年度方向性	引き続き、支援の中でごみ拾いを実施し、環境への意識を高める。
3	計画・ねらい	【計画】施設内の緑化 【ねらい】緑の増加によるスタッフの疲労感の軽減
	実践結果	観葉植物やプランター、植木、寄せ植えなど緑化を積極的に行った。子どもたちが意欲的に水やりをする姿が見られた。
	次年度方向性	プランターや観葉植物のほかに、観賞用の花を増やしていき、四季や緑あふれる温かみのある施設を目指す。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	52人	49人	60人	55人	50人	64人	54人	58人	97人	90人	100人	119人	848人
登録児数	10人	12人	13人	13人	13人	12人	13人	15人	18人	19人	20人	22人	22人

(解説) 下半期に入り登録者数が徐々に増加した。地域での戸外活動やSNSでの発信を行い支援の見える化に注力したことや区役所で配布されている事業所一覧に自施設が掲載されるようになったことが要因として考えられる。

放課後等デイサービス 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	25人	24人	23人	43人	40人	38人	37人	42人	39人	41人	41人	52人	445人
登録児数	4人	5人	7人	8人	8人	8人	9人	9人	9人	9人	11人	12人	12人

(解説) 登録者数が緩やかに伸びた。区役所から配布されている事業所一覧からの問合せや保護者の

ご紹介での契約に繋がったケースが多い。

保育所等訪問支援 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	0人	0人	0人	0人	0人	7人	12人	13人	18人	17人	19人	20人	106人

(解説) 夏季休暇明けから保育所等訪問支援の利用希望者が増加。進入・進級に備えての利用希望している家庭が多い。

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当1名(臨床心理士1名)

児童指導員2名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・ケース会議や支援内容 ・階層構造図
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体での事故、インシデント、ヒヤリハットなどを共有した。 ・月に自ルームで起こったインシデント、ヒヤリハットについて、その要因分析を行い、対策を検討した。
支援計画策定会議	複数回	支援計画作成に伴い、担当者と児童発達支援管理責任者が必ず参加して行った。

〈2〉 出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 系の設置状況

系名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の清掃や週一、月一掃除を実施。感染対策の検討と提案、保健指導などを行った。また受け入れ時に母集団でどの感染症が流行しているのかの確認を行った。その結果、ルーム内でのインフルエンザや新型コロナウイルスの感染拡大を防止できた。
安全対策係	事業所内または周辺の安全管理に努め、危険箇所や計画的な安全点検を行い、不備については都度改善を行った。その結果、施設内外の設備における利用児のケガや事故はなかった。
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練を実施した。都度、訓練実施の振り返りを行い、「実際に起こった場合はどうか」と言う視点で、防災訓練への向き合い方を強化した。
食品衛生管理係	調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理などを行った。また、食材の管理や消費期限などにも配慮して調理活動を行った。
畑係	読売ランド前どろんこ保育園の畑や自施設でのプランターで生育計画及び管理を行った。また、子どもが畑仕事に対して主体的に関わることが出来るよう、畑カレンダーを作成した。
生き物係	今年度は蚕、カブトムシの幼虫を飼育して羽化させることはできた。図鑑を近くに置くことで、子どもたちが自ら調べ、餌をあげるなど生き物の世話をすることができた。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
体験学習係	体験学習の立案、計画、実行、振り返り
企画立案係	保護者会の立案、計画、実行、振り返り

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

放課後等デイサービス	学校生活での心身共に疲れた状態で、通所する姿が多く見受けられた。そのため、スタッフが子どもたち一人ひとりに寄り添い、話し合いながら子どもが発信した「やりたいこと」を活動の中で実施しながら、安心して過ごせる環境を用意した。また進級に伴い退所する保護者、利用児ともにつむぎがひとつの「居場所」となっていたため、支援を受けられないことへの不安な思いについての相談があった。そのため保育所等訪問支援についての説明やカフェ利用、発達相談会についての案内を行った。
児童発達支援 乳児、幼児	つむぎでの活動に慣れることを重視しながら、子どもたちのペースを大切にした支援を実施した。後半ではお互いを意識する姿、お互いが関わる姿が見られた。また、保護者との日々のコミュニケーションの中で、育児や進級に伴う不安があった際は、子育て相談や事業所内相談を実施し、保護者支援を行った。
保育所等訪問支援	母集団、つむぎ、家庭での子どもの様子が異なることについての相談から、保育所等訪問支援に繋がった。母集団で過ごしている子どもたちの様子を観察し、困り感を見定めながら直接的な支援を行った。また保護者への振り返りや担任の先生達との情報共有を密に行い、連携した支援を実施することができた
事業所内相談支援	・2023年4月～2024年3月まで 合計7名 事業所内相談支援のサービスがあることを案内して以降、長期休み明けの園や学校への行き渋りに対する保護者の疲労や子どもに対する接し方についての相談内容が多くあった。話を聞いていく中で不安が軽減し、保護者自身の捉え方が前向きになるなどの変化が見られた。
保護者面談 発達相談	・日々の育児や母集団での様子、就学への不安や悩みについて事業所内相談の枠組みの中で実施するケースや、来所することが難しい保護者には電話での発達相談を実施した。保護者と向き合いながら気持ちを受け止め、相談内容に応じて、保育所等訪問支援や関係機関との連携を行った。
関係機関との連携	・4～3月まで 合計4名が参加済み 利用児の通学通園先での、情報共有や自施設の支援についての説明を行った。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	【計画】放課後等デイサービス利用児のおやつ作り 【ねらい】「食は与えられる」ことではなく「主体的なこと」であることを知る
	実践結果	おやつメニューは自施設で事前に作成するが、場合によっては子どもたちの提案を受け入れ、おやつ作りを行った。おやつを作る過程での食材の変化や準備する、片付けるなどの役割分担、自分で作った達成感などを感じ、主体的に取り組む姿が見られた。
	次年度方向性	食や食材の循環を理解し、自分を含めたすべての命を大切に作る気持ちを養う。食事の大切さや食事の選び方について理解し、生活の中に取り入れる。
2	計画・ねらい	【計画】児童発達支援利用児の料理活動 【ねらい】食の五感に触れる
	実践結果	「食材がある」という状態から、調理過程を経て食するまでの「食の五感」を得られるよう、利用児の好きな場面から調理活動に参加することができた。また、食することを最終目的とはせず、全行程の中から利用児の発達の視点を拾い上げ、保護者にフィードバックを行った。
	次年度方向性	様々な食べものを見る、触る、食べる経験を通して自分で進んで食べる楽しさを知る。他者と食べる楽しさを味わう。身近な食材を使って調理を楽しむ。食を通じて命の大切さ、循環を知る。
3	計画・ねらい	【計画】畑仕事の日常化 【ねらい】野菜が育つ過程に関心を向け、野菜の世話を労働として捉える
	実践結果	読売ランド前どろんこ保育園の畑仕事、プランターでの畑仕事を行った。植え、世話、収穫、食する、畑の後始末という一連の過程が食に繋がることを伝えながら、畑仕事を行ったが、畑や野菜の成長への興味関心が子どもたちまたはスタッフ間でもばらつきがあった。
	次年度方向性	引き続き、まずはスタッフが畑仕事についての理解や興味関心を持てるように研修会を行う。子どもたちにも興味関心を持てるような環境構成を行い、ルーム全体が畑仕事の大切さを理解する。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	なし

発作・痙攣等の対応	なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に自施設にてスタッフ7名、受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ7名のうち、7名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月21日、10月4日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	【計画】必要な教材及び遊具を揃える 【ねらい】主体的に遊び込む環境の整備
	実践結果	適宜、遊具や教材を見直し、季節や活動に応じて入れ替えを行った。 子どもが自分で選び、主体的に遊ぶことが出来るよう、子どもの発達に応

		じて、適宜、遊具や教材の配置を行った。
	次年度方向性	子どもたちが自ら選び取れる環境について、支援開始前、支援終了後に必ずスタッフ間で話し合いを行い、環境設定についての効果や子どもたちの様子についての振り返りを行う。
2	計画・ねらい	【計画】 定期的な廃材の用意 【ねらい】 SDGs の視点を持ちながら「捨てるもの」が表現として生まれ変わる体験
	実践結果	定期的に廃材を集め、子どもたちや自作の虫網や虫かご、剣や盾を作るなど、創意工夫を凝らしながら、廃材での表現活動を行った。だが廃材からSDGs への視点をもった活動には繋がっていない。
	次年度方向性	廃材の再利用や循環についての視点を持ちながら、活動を実施する。
3	計画・ねらい	【計画】 地域という環境資源の活用 【ねらい】 より豊かな戸外活動の展開
	実践結果	地域に出向き、新たな公園、施設での活動を行った。また、商店街に積極的に働きかけ、商店街ツアーを実施（定食屋の仕込みの見学や、花屋の見学等）し、地域資源を多く活用することができた。
	次年度方向性	地域で働く人や場所に親しみをもち、地域で生活していることを意識できるように、商店街ツアーや近隣の保育園、小学校と交流するなどの活動を行う。

〈7〉 手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災への対応 地震や火災、河川の氾濫などを想定して月1回の避難訓練を行う。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高める。また、防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識が高まることを期待する。
2	実践結果	ケガ事故防止への対応 活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について話し合う。また、ヒヤリハットをスタッフで出し合い、事故を未然に防ぐ物的及び人的環境や活動場所の検証を行う。
3	実践結果	防犯防止への対応 不審者訓練を年2回行った。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行った。

4	実践結果	光化学スモックへの対応 光化学スモックの知識を身に付けた。実際に光化学スモック注意報は発令されなかった。
---	------	---

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

今年度、実習生や中高生の受け入れはなかった。今後は実習やボランティアを受け入れができることを周知して、積極的な受け入れを行う。

〈2〉実習生の受入

なし

〈3〉中高生の受入

なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	6日 8名	11日 6名	8日 8名	6日 9名	3日 8名	7日 7名	12日 5名	2日 7名	14日 6名	26日 5名	1日 6名	3日 5名
マナー研修 講師：施設長	9月28日に生田ルームにて4名のスタッフが出席											
ストレス対応 講師：古田ゆりあ	2月1日に生田ルームにて4名のスタッフが出席											

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月23日	特定非営利活動法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	令和5年度神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 補足研修〔前期開催コース〕	1名	有
10月13日	多摩消防署	応急手当講習 普通救命講習Ⅲ	1名	無
2月14日	特定非営利活動法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	令和5年度神奈川県サービス管理責任者・児童発達支援管理者 基礎研修〔後期開催コース〕	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

今年度の地域交流のテーマは「新しい交流」であった。地域向けのチャイティ会を保護者向けの内容に限定したこと、また平日に設定したことで、参加率が減少してしまった。地域交流では、同じ公園先で近隣園との園児と遊ぶことが増え、子どもたち同士の交流を行うことができた。系列園では読売ランド前どろんこ保育園だけではなく、メリーポピンズ登戸ルームでの活動の場を増やし、インクルーシブ保育を実践することができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：生田緑地（中央広場）
商店街ツアー	週1回 主な行き先：ホームセンタースズキ、かりん、ふね、ひろ寿司等
チャイ会	年4回 生田ルームにて実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

保育所等訪問支援を開始し、小学校や園との連携を多く行うことができた。また小学1年生の姿や担任の先生、また校長先生との意見交換を行い、つむぎの役割を確認するなどの連携をおこなった。

自治体の幼小接続のアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムを十分把握することはできなかったが、幼小接続の視点を踏まえ、就学支援シートを作成して連携を行った。

●幼稚園・保育園との連携

利用児の母体園の園訪問を行い、大人の関わりや環境調整なども含め、支援の方向性等の連携を行った。利用児の発達課題の整理を行うとともに、保護者支援に繋げた。

●医療機関

近隣のクリニックへの挨拶を行い、早期発達支援の重要性や不安や悩みを抱える保護者への支援の必要性を理解し、協力してくださるクリニックと繋がることできた。今後も地域全体での連携できるよう働きかけてく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月11日	西菅小学校 1年1組	2名	小学校1年生を知る	授業参観 校長との意見交換
10月16日	菅小学校 1年1組	2名	幼保少連携 授業参観	担任との意見交換会

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

新規利用児及び個別支援計画書更新の際には、保護者の希望や「見たい姿」をモニタリングするとと

もに、利用児の発達段階を鑑み、利用児自身が「何に困っているか」「何が得意なのか」など、保護者の言葉を借りて「利用児」に視点をあてたモニタリングを行った。モニタリングの策定会議では児童発達管理責任者及び担当スタッフ等で策定会議を行い、利用児のストレングスに焦点をあてた個別支援計画書を作成した。今後も達成可能な目標を設定して、生活に寄り添った支援を行うべく個別支援計画書の作成に努める。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校への進学に向けて就学支援シートを作成して、具体的な内容の伝達とともに、幼稚園や保育園から小学校という生活のフィールドが変わるに伴って、配慮事項などを中心に連携した。また、放課後等デイサービス利用児、また児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する利用児においては、保育所等訪問支援を希望する家庭が多く、園や小学校に訪問してコーディネーターの先生や担任との連携を行った。今後も日頃から連携を行い、園や小学校との関係性がより深くなるよう努める。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細													
子育て相談	(月)～(土) 9:00～17:30 ⇒計7件相談実施済み													
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～18:00 にて実施													
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：生田緑地 中央広場にて 以下日程にて実施													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	7名	3名	4名	0名	0名	7名	3名	2名	0名	0名	3名	3名	33名	

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年10月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：10時00分

自己評価終了時刻：12時00分

自己評価実施者：渡邊朋子、田中誠、辻美怜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月15日

アンケート回収率：100%

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 生田ルーム施設長 辻 美怜

2023年度 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

児童発達支援では園とのインクルーシブ保育を活かし、子どもにとって最善の利益を常に考え、園児との交流を通して「生きる力」を育むための支援を実施してきた。

放課後等デイサービスでは、多機能型事業であることを活かし就労支援へと繋げた。また園児との交流や地域貢献活動を通じ、利用者の未来を意識しながら「ホンモノの経験」を提供し、人との関わりと働くことへの意欲が向上するよう支援を行った。

児童発達支援、放課後等デイサービス共に、園児との交流機会を多く提供していくことで、対人意識が高まり、年齢関係なく関わりを持つことができた。小学校や特別支援学校とも交流できたことは、子どもだけでなくスタッフにとっても学びを深める契機となった。また畑仕事、散歩、空き地での交流活動等、法人の理念に倣い、戸外を中心に活動できたことは強調したい成果である。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：児童発達支援と放課後等デイサービス共に、武蔵野どろんこ保育園との交流。 ねらい：園児との交流を通して、周りを意識しながら行動し戸外活動を通して社会性を身に付けていき、学びを深めていく。
	実践結果	2年目を迎え、園児もつむぎの友だちを意識して一緒に遊ぶことも増え、お互いに意識しあいながら、生活を送ることができるようになってきた。放課後等デイサービスの利用者も園児の勢いに負けずに一緒に遊ぶことも増えてきている。
	次年度方向性	継続して交流を行っていく。 児童発達支援では、マンスリー、土曜活動内で園児との交流を行い、周りを意識して取り組める環境を用意していく。 放課後等デイサービスでは、園の行事や掃除の手伝いや園児との触れ合いを通して、働き達成感を持てるようにしていく。
2	計画・ねらい	計画：支援内容の充実。日課の充実。 ねらい：遊び、労働を通じた支援を中心に、協働性、自立性へと繋げていく。
	実践結果	共に過ごしていく中で、同じグループ内で同じ物事を行う、一つの物を共有して使用するなど少しずつ協働性意識も出てきた。 放課後等デイサービスでも園の催し物の手伝いや園児に向けてのプレゼント製作などを行うことで、達成感を持って活動を行うことも少しずつ出来ていた。
	次年度方向性	マンスリー活動内で、園が考えた遊びに参加するだけで、つむぎ発信が少ない。つむぎの子も参加しやすい遊びから園児との交流を深め、一緒に楽

		しめた経験を増やしていけるよう支援を行っていく。 放課後等デイサービスでも人のためになるプログラムを提示、選択してもらい達成感を持てるよう支援していく。
3	計画・ねらい	計画：地域交流 ねらい：地域と繋がり構築し、仕事の楽しみを見出していく。
	実践結果	地域との交流機会は、放課後等デイサービスでの地域清掃などで声をかけていただくこともあったが、繋がりを構築出来ていない。
	次年度方向性	児童発達支援事業では散歩時に積極的に挨拶を行い地域につむぎを知ってもらう。 放課後等デイサービスでは地域貢献のため清掃などを行うとともに、製作物を福祉施設に配布するなど、より地域との繋がりを持てるプログラムを提供していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：関係機関との連携 ねらい：保育園及び幼稚園、関係機関、他事業所、学校などへの訪問などによる連携を通して、保護者に伝えていく。
	実践結果	小学校、特別支援級、支援学校、放課後等デイサービスの情報を回収し、学校見学や小学校体験を行うことができた。回収した情報は保護者に向けて発信も出来たが、資料による発信のみに終わっている。
	次年度方向性	保護者懇親会や研修会を開催し、直接話をし、保護者間での情報共有や学びの場に繋げていく。
2	計画・ねらい	計画：ポートフォリオの作成、掲示 ねらい：日々の活動状況を掲示し保護者によりわかりやすい報告を行っていくと共にスタッフの支援への意識を高めていけるよう努めていく。
	実践結果	毎月全員が10の姿に合わせたポートフォリオを作成することは出来たが、共有までには至らなかった。
	次年度方向性	次年度も継続してポートフォリオを作成し、子どもの姿を追い、今子どもにとって必要な経験はなにかを全員で話し合い、支援の質向上にあてられるようにする。
3	計画・ねらい	計画：保護者の気持ちに寄り添った接遇 ねらい：保護者にとって安心でき、学べる空間づくり
	実践結果	懇親会や研修会未実施。支援中に相談を聞き、話をする事は出来た。
	次年度方向性	支援中の待ち時間などを活用し、学べる場、落ち着ける場を提供できるよう話し合いを行い、また支援とは別にゆっくり話をする時間を設けるなど保護者にとって安心できる場となれるよう環境を整えていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：毎月発達相談室開催 ねらい：利用者だけでなく、地域の根付くために、一般向けの相談会を開
---	--------	---

		催し、つむぎを知ってもらう機会を作る。
	実践結果	利用者への相談は適宜聞き取り時間を取ることは出来ていたが、地域の方に向けての相談会は開催することが出来なかった。
	次年度方向性	武蔵野どろんこ保育園のちきんえっぐだよりを活用し、地域に向けて相談会の発信をしていく。
2	計画・ねらい	計画：支援内容の発信 ねらい：つむぎ武蔵野の認知度をあげる
	実践結果	ブログ、インスタグラムを通して、外部に支援内容をお伝えすることは出来た。他事業所の方が見ていることも多く、今後も継続して行っていく。
	次年度方向性	SNS を通じて外部に発信は出来ているが、保護者周知が徹底されておらず、見ていただけていないことがある。ブログ、インスタグラムの保護者周知を徹底していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフの支援の質向上、園長大学®・保育士大学講座を活用した学び ねらい：毎月園会議にて、発達について研修発表。講座を通して、支援の質だけでなく、大人のにんげん力 up へと繋げていく。
	実践結果	毎月の園会議の中で、研修会を実施。各スタッフにやりたい研修内容を決めてもらい発表。インプットからアウトプットに繋げ学びを深めることが出来た。
	次年度方向性	継続して園会議での研修会を実施する。合わせて園長大学®・保育士大学講座を活用し、個々で学びを深めていく。
2	計画・ねらい	計画：小学校、中学校、高等学校、就労先を知る。 ねらい：地域を知ること、就学、就労へと繋げていけるようにする。
	実践結果	武蔵野どろんこ保育園と共に、小学校見学や体験会に参加し学校を知ることが出来た。また特別支援学校への見学にも行き、各スタッフにとって学校を知る良いきっかけとなった。
	次年度方向性	継続して学校公開や体験会に参加し、学校を知る機会を設けていく。また卒園児がいる学校にも行き、卒園後も繋がりを持てるようにしていく。
3	計画・ねらい	計画：毎月事故防止委員会を開き、危機意識を高める。 ねらい：危機管理能力向上
	実践結果	毎月、前月起きた法人内の事故、インシデントの共有、自ルールのヒヤリハットを確認し、周知徹底を行った。法人内の事故は全て自ルームでも起こりえることと伝え、全スタッフが危機意識を持って支援に当たることを徹底した。
	次年度方向性	継続して周知徹底を行っていき、自ルームでの事故を無くせるよう各スタッフが危機意識を高めていけるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：畑環境の整備 ねらい：整備することで、使い勝手をよくする。またつむぎの畑だけでなく、園の畑、就労の畑も一緒に整備管理していき、全員で意識して整備を行っていく。
	実践結果	武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ武蔵野と共に管理を行い、年間を通して整備された環境にはなった。年間を通しての野菜の栽培を行うことは出来なかった。
	次年度方向性	継続して整備していき、自ルームの場所だけでなく、畑全体の管理を全員で行っていくことを意識していく。また年間を通しての畑の栽培が出来るよう年間計画を立てていく。
2	計画・ねらい	計画：地域資源開拓 ねらい：地域資源を開拓することで、地域交流だけでなく、つむぎの認知度を上げる。
	実践結果	散歩時の挨拶、地域清掃を通して、地域の方から声をかけていただくことも少しずつだが出てきた。地域の施設などの開拓は出来ておらず、資源を開拓するまでには至らなかった。
	次年度方向性	子ども、利用者にとって繋がりを持てる地域資源（公共施設等）を見つけ、様々な経験を伝えていけるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	125人	117人	121人	115人	114人	112人	114人	98人	115人	111人	97人	110人	1349人
登録児数	24人	25人	26人	25人	24人	23人	22人	22人	21人	21人	21人	21人	275人

（解説）武蔵野どろんこ保育園スタッフと一緒に全体を見守る体制は整ってきた。各スタッフの意識がつむぎ利用児だけに目が行くのではなく、全体を把握し、園児との関りを持ちながら、園児含め全体を見守ることが出来るようになってきた。土曜支援では友だちとの関りを増やすために、グループ支援のみを実施。戸外にも積極的に出て、友だち、園児との交流機会を多く提供することが出来た。欠席が多く、利用数自体を伸ばすことは出来なかった。来年度は振り返りを意識して稼働数を伸ばしていく。

放課後等デイサービス 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	28人	33人	28人	29人	38人	26人	25人	27人	32人	29人	36人	40人	371人

人数														
登録児 数	7人	6人	6人	6人	6人	6人	6人	7人	7人	7人	7人	7人	7人	78人

(解説) 園児との交流機会や畑仕事などを実践し、働くことへの意欲、達成感は少しずつ養ってきている様子はある。継続して支援をしていく中で、より将来に向けて学べるプログラムを提供していく。また園児や就労支援つむぎ武蔵野の利用者との交流機会も提供することで、人との関りを意識したプログラムを実施することが出来た。

自主通所ということもあってか登録数自体は伸びていないため、SNS などを通して、放課後等デイサービスの魅力を今後伝えていく。

保育所等訪問支援 実施状況

未実施

相談支援事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	4人
継続	0人	1人	0人	0人	0人	1人	2人						

(解説) 定期的に相談支援を行うことで、日頃の家での様子、園での様子を知り、支援内容の検討、家庭で出来ることを伝えるなど良い繋がりを持つことが出来た。まだ相談支援を知らない利用者もいるため、適宜声掛けを行っていく。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

児童指導員5名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会

	定会議にて実施	・施設長会議、児童発達管理責任者会議、保育の質を上げる会議の内容報告など
給食運営会議	月1回	・保育園と共に実施。つむぎ利用児の食事状況共有
事故防止委員会	月1回	・毎月の自ルームとつむぎ全体で起きた事故、全園で起きた事故、インシデント、ヒヤリハットの共有
支援計画策定会議	随時	・マンスリー、グループ、放課後等デイサービスそれぞれの担当者と児童発達管理責任者が参加し、個々の目標を決めていく。
園会議	月1回	・行事打ち合わせ、リズム体操研修、つむぎスタッフによる研修等

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起 ハザードマップを用いて危険カ所を出し、事前に注意喚起を行う。
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進

	就労支援との合同での防災訓練を実施。就労の利用者、放課後等デイサービスの利用者を含めて実施
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理
畑係	畑の計画的な活動の立案 夏野菜は計画的に行えたが、冬野菜がうまく育てることができなかった。
生き物係	動物や植物に触れる機会の検討立案 園で飼っているうさぎやニワトリとの触れ合い、川で採ったザリガニを子どもと共に成長を見守っている。

〈4〉行事系の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に準備・進行を行う 児童発達支援では祭りに参加し、放課後等デイサービスの利用者は準備を一緒に行うことで、仕事の一環として祭に参加した。
運動会係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に実施。子どもの日々の成長を、会を通して保護者に見てもらう。 マンスリー児が参加し、園児との交流場面を見せることも出来た。
生活発表会係	武蔵野どろんこ保育園と一緒に日々の成長を保護者に伝える場として開催。マンスリー児が参加し、保護者に日々の取り組みを見せることが出来た。

4. 支援・処遇

〈1〉保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終わりに、フィードバックを行い、出来たこと、課題となる点などを伝えたいので、家で出来ることなどを伝えている。 ・希望者には別途面談を行い、不安軽減へと繋げていった。
幼児グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・自園での困りごとなどを踏まえ、課題を抽出し、保護者と主に課題解決に臨む。 ・支援中に保護者との会話を大切に、待ち時間を有意義の時間になるよう取り組んだ。

放課後等デイサービス	・連絡帳を介して、ご家庭での様子、学校の様子、休日の過ごし方などを把握し、連携を密に取っていった。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計6名 が参加済み (3月1日時点) ・定期的に相談支援を行うことで、日頃の様子、園での様子を知り、支援内容の検討、家庭で出来ることを伝えるなど良い繋がりを持つことが出来た。まだ相談支援を知らない利用者もいるため、適宜声掛けを行っていく。
保護者面談 発達相談	・支援計画作成に当たり、半年に1回モニタリングを実施。 ・希望者には随時相談実施。
関係機関との連携	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・各関係機関と連絡を取り合い、会議を実施。ご利用者の状況を把握し、その後の支援に取り組んでいくことが出来た。

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	園児・スタッフ共に食を楽しむ
	実践結果	マンスリー：午前活動でしっかり体を動かしたうえで、お腹を空かせ、給食を提供することは出来た。 土曜活動：畑の食材などを使って、調理活動を行うことが出来た。お弁当を持参してもらい、スタッフと一緒に食べることは出来なかった。 放課後等デイサービス：畑の食材などを使って、調理活動を行うことが出来た。
	次年度方向性	継続して食が楽しめるよう体を動かすことを大切にしていく。畑から調理へと繋げていくことを大切にする。 土曜活動時にはお弁当を持ってきてもらうなどして、子どもとの交流だけでなく、保護者との会話の場にも出来るよう行っていく。
2	計画・ねらい	畑仕事を通じた食育
	実践結果	夏野菜に関しては、苗植え、草抜き、間引きなど利用者含め全員で管理ができ収穫に繋げることも出来た。冬野菜では動き出しが遅くうまく育てることが出来なかった。収穫物を販売にあてることも出来なかった。
	次年度方向性	年間を通して畑仕事が出来るようにしていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	該当なし
発作・痙攣等の対応	該当なし
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月23日に武蔵野どろんこ保育園にてスタッフ1名が新たに受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・AED未設置
その他保健に関する取組	<p>感染予防のため、衛生管理に努める</p> <p>新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p>

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生点検チェックリスト	食育活動開始前
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月12日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	自己選択できる環境作り
	実践結果	友だちとのやり取りが生まれるようプログラムをたて、複数プログラムをたてることで、自己選択に繋げることが出来た。
	次年度方向性	継続して自己選択できる環境を用意し、自分自身で学びを深めていける環境を構築していく。
2	計画・ねらい	地域を知る
	実践結果	学校情報を知ることは出来た。 戸外活動は多く行うことは出来ていたが、まだ地域との関係性は構築できず地域情報を得ることは出来なかった。
	次年度方向性	継続して戸外活動を行っていく中で、地域との繋がりを意識したプログラムを行っていく。
3	計画・ねらい	室内環境（心地よく過ごせる環境整備）
	実践結果	保護者に就学後サービスや学校情報を伝えることは出来たが、活動中の待ち時間などを有意義に過ごせる環境を構築することは出来なかった。
	次年度方向性	待ち時間を有意義に過ごすことが出来るよう何を求めているのかを聞き取りし寄り添いながら環境整備にあたる。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	・防災 毎月避難訓練を実施。室内活動時、戸外活動時など様々な想定し行った。
2	実践結果	・ケガ事故防止 毎月施設長会議にて、前月起きた法人内の事故、インシデント、ヒヤリハットを共有。ヒヤリハットについては毎日ルーム内で起きたことを共有し意識し支援にあたることが出来た。
3	実践結果	・防犯 防犯訓練を年2回実施。室内時の防犯だけでなく、戸外活動時の防犯についても話し合うことが出来、全員が意識することが出来た。
4	実践結果	・光化学スモッグ 危機管理マニュアルに則り、ルーム会議にて共有。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実績なし。実績はないが、継続して受け入れ態勢は整えていき、今後の人材育成に繋げていく。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	1日 5名	1日 5名	5日 5名	8日 5名	3日 5名	2日 5名	7日 5名	7日 5名	9日 5名	4日 6名	4日 7名	2日 7名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
9月12日	公益財団法人 総合健康推進財団	東京都サービス管理責任者更新研修及び児童発達支援管理責任者更新研修	1名	有
10月3日	公益財団法人 総合健康推進財団	東京都サービス管理責任者更新研修及び児童発達支援管理責任者更新研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認を

した。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

方針：地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である武蔵野どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を実施していく。放課後等デイサービスで、保育園、地域施設と連携をしていき、繋がりを意識したプログラムを実施していく。

振り返り：青空保育、世代間交流を園と一緒に行うことは出来たが、つむぎが主となって行うことが出来なかった。異年齢交流では法人内での交流は出来ていたが、地域との交流までは至らなかった。来年度はつむぎが主となり、地域との交流機会を作っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：おおぞら公園にて
世代間交流	毎月フローラ田無（特別養護老人ホーム）と実施
異年齢交流	不定期開催。放課後等デイサービスに来ている利用者と保育園児との交流を、武蔵野どろんこ保育園内もしくは空き地にて実施。就労支援つむぎ武蔵野と春・夏休みにて交流を実施。

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

2022年度に出来なかった小学校交流を園と一緒に行うことが出来た。交流会を行うことで実際に就学後の動きや授業を体験することを出来た。各学校見学に行くこともでき、状況を知ることができたが、学んできた内容を保護者に伝えることが出来ていないため、来年度は懇親会などを開き、各学校の情報をお伝えできるようにしていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月27日	田無特別支援学校	1名	田無特別支援学校	スタッフ交流
11月7日	上向台小学校	16名	展覧会（体育館）	子ども間交流
11月10日	石神井特別支援学校	1名	石神井特別支援学校	スタッフ間交流

2月16日	上向台小学校 1年4組	16名	授業体験（上向台小学校）	子ども間交流
-------	----------------	-----	--------------	--------

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

半年間に一度更新を行って行く中で、子どもの発達成長度合いや支援内容の変更に応じて更新を行っていった。自ルームだけで完結してしまうことが多く、通っている園、センター、他事業所への聞き取りをし、共に支援をしていく意識が大切と改めて感じた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

年長児は2名。進学先の小学校、学童の先生と話をし、引継ぎは園と共に出来ているが、進学した後のフォローが大切と感じている。卒園後も学校公開の参加や担任との連携を行って行く。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計3件相談実施済み

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年8月15日と2024年1月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時0分

自己評価終了時刻：17時0分

自己評価実施者：森谷太郎、田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：76%

多くのご意見をいただく中で、まずは子どもが楽しく通えているとお声を多くいただきました。ご意見の中には地域交流、保護者向け懇親会、研修会などが実施されていないのご意見もいただいているため、次年度の課題としていく。何よりも子ども自身が楽しく通える場所であることを大前提とし、保護者、地域の方にとっても行きたい場所を思える施設運営を目指していく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 武蔵野ルーム施設長 御殿谷 雄二

2023年度 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム

事業報告書

(発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

インクルーシブ保育の実践に力を入れ、新園の為スタッフの連携、支援時間の拡大、子ども同士の関わりを大切にし、環境づくりに取り組んだ。

マンスリーの支援時間を16時までと長く設定し、保育園で共に生活することを中心とし支援を行っていった。過ごす時間が長いことで自然とスタッフ間の関わりが円滑になっていく姿や、子ども同士自然と関わりあう姿が増えて行った。また、インクルーシブ保育に関して市や近隣事業所からの認知も高まり、地域の中で連携しあいその子にあった支援の場を提供することができた。

法人としての日課活動や、環境構成に関してはスタッフ間での見直し、実践などが難しい部分もあり、次年度に向けての課題である。一人ひとりが主体的に選び取れる環境構成を園・つむぎスタッフの多角的な視点を取り入れながら創りあげていきたい。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：園とつむぎ共に連携し、日々の保育・行事を計画実行していく ねらい：園、つむぎスタッフの連携を深める。 PDCA サイクルを通して業務の改善をし、質の向上へと繋げる。
	実践結果	1年を通してスタッフ間での関わりが円滑になり、係等で連携し行事の企画運営を行うことができた。日々の保育の返りは下期から行うことができた。
	次年度方向性	毎日の振り返りの時間設け、日々の保育の見直し子どもの様子の共有を密に行っていき保育の質をより高めていく。
2	計画・ねらい	計画：日課・基本保育活動の充実 ねらい：さくらんぼリズムや畑仕事、雑巾がけなどの活動を通して「生きる力」を育てていく。
	実践結果	さくらんぼリズムや雑巾がけは時間を決め計画的に行うことができた。子どもだけでなく、大人も共に行いながら学ぶことができた。
	次年度方向性	畑仕事に関しては園庭の環境などもあり、年間を通して計画的に取り組むことが難しかったため、今年度の振り返りを活かしながら子どもたちと共に畑仕事に取り組み生活の一部として行っていけるようにしていく。
3	計画・ねらい	計画：好きな場所を選び、行き来できる「大きな家」づくり ねらい：遊びを通して Trial&Error を経験する。
	実践結果	社用携帯のチャット等を活用し、園全体で見失いのリスクを減らし、行き来できる環境を創っていくことができた。
	次年度方向性	園庭・室内環境の見直し、改善を行うことが今年度できなかった為、子どもの発達に合わせ計画的に環境の見直し、改善を行っていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保育・支援の可視化 ねらい：支援内容の意図やどんな成長に繋がるかを明確化し、保護者の理解促進に繋げる。
	実践結果	写真販売を通して日々の支援の姿を保護者の方に見て頂く機会をつくることができた。また、支援の振り返りの際に写真や動画を用いて生活の様子を伝えた。
	次年度方向性	生活発表会等行事のポートフォリオだけでなく、日々の生活の姿を年2回程度ポートフォリオなどで伝える場をつくっていく。
2	計画・ねらい	計画：迅速、誠実、丁寧な対応 ねらい：保護者の立場に立ち、懸命かつ丁寧に、安心・信頼ができる対応を心掛ける。
	実践結果	日々の支援の振り返りを丁寧に行うようスタッフ間で心がけることができた。挨拶に関しては利用者アンケートなどでも全保護者の方が満点の評価をして下さっていた。
	次年度方向性	次年度も継続して心地よい挨拶や丁寧な対応を心がけ、利用者の方の満足度に繋げていく。
3	計画・ねらい	計画：整理整頓、常に清掃が行き届いた園内環境 ねらい：必要・不必要な物を精査し、誰が見ても心地良く感じるような美観を意識した環境をつくる。
	実践結果	清掃分担はあったが、連携が難しく室内が整った状態を維持することが難しく、棚などに不要な物が置かれている姿も見受けられた。
	次年度方向性	日々の保育の中での片づける習慣をつけていく。また、掃除分担も見直し、各スタッフ連携しながら綺麗な環境を維持していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域の事業所との連携を図る ねらい：地域の児童発達支援事業所との情報交換、支援の質向上を図るための連携を深める。
	実践結果	地域の事業所に開所の挨拶をしに伺った。つむぎの支援の内容を伝える中で、事業所同士で特色にあったニーズのご利用者の方を紹介することができた。
	次年度方向性	地域の事業所との連携をより強化し、ひとり一人にあった支援を行う事業所を選ぶことができるような環境を創っていく。
2	計画・ねらい	計画：放課後等デイサービスとの連携を図る ねらい：円滑な接続を行い、就学後の不安を軽減できるようにする
	実践結果	放課後等デイサービス5カ所に開所の挨拶をしに伺った。 パンフレット等を元につむぎの支援について伝えることができた。
	次年度方向性	継続的に事業所と連携を図り、就学後の不安を軽減することができるよう努めていく。

3	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐとの共同企画の実施 (青空保育・芸術学校・寺親屋等) ねらい：地域の方が気軽に足を運ぶことができる場所となり、つむぎについて認知度を高める。
	実践結果	寺親屋の中で「子どもの発達・手作りおもちゃ」に関する講座を専門士のスタッフがちきんえっぐのスタッフと連携し企画運営を行った。
	次年度方向性	次年度もちきんえっぐスタッフと連携しイベントの企画運営を行っていく。また、土曜日の支援の空き枠の時間を使って近隣の公園にて青空保育の実施を検討していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：子どもの人権をテーマにした園内研修の実施 ねらい：研修を通し日々の保育の振り返りを行う。子どもの人権について理解を深める。
	実践結果	園会議内で2回人権に関する研修を実施。 日々の保育の中での関わりの見直し、スタッフ間でディスカッションを行った。
	次年度方向性	次年度も人権に関する学びや、子どもとの関わりの振り返りの場を設け、保育・支援の見直しを行い子どもに対して丁寧な保育を展開していく。
2	計画・ねらい	計画：アプローチカリキュラムをテーマにした園内研修の実施 ねらい：アプローチカリキュラムについて理解を深め、就学前に必要な経験について対話し、スタッフ間で共通認識をもつ。
	実践結果	園会議内で10の姿、アプローチカリキュラムに関する研修を1回実施。 特に年長児に対して就学に向けてどのような活動や経験が必要か見直し、保育の中で視点を取り入れることができた。
	次年度方向性	座学での講義だけでなく、小学校との連携を深め学校見学などに様々なスタッフが伺い、学びを深めていく。
3	計画・ねらい	計画：建設的に対話ができる関係性の構築 ねらい：子どもだけでなく、スタッフ間での互いの理解を深める 対話を通して、学び直し学び続ける施設運営を行う。
	実践結果	会議内でのアイスブレイクやロールプレイなどを通して、スタッフ間での相互理解を深めることができた。
	次年度方向性	今年度は園内研修を施設長、主任がメインで行っていた為、次年度はリーダースタッフなどが行える場を増やしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：循環を意識した環境教育の実施 ねらい：自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける。
	実践結果	畑仕事を係のスタッフが主となり行うことができた。 種の収穫など循環を意識した取り組みはできなかった為、今後の課題である。

		る。
	次年度方向性	年間を通しての農業計画、次年度も見据えながら収穫や種まきを行っていく。今年度に引き続き、循環を意識した取り組みを行っていく。
2	計画・ねらい	計画：自然の豊かさを感じられる活動・行事の実施 ねらい：ホンモノの体験を通して自然との関わり方を知る。
	実践結果	近隣の公園などを通して四季や自然を感じる体験を取り入れることができた。目的地が公園であることが多く、散策できるコースの開拓が不足していた。
	次年度方向性	近隣に山もあるため、親子での体験活動などの場で山登り等自然を感じる活動を計画していく。
3	計画・ねらい	計画：食と生活の繋がりを意識した活動の実施 ねらい：食と生活の繋がりについて活動を通し知る。
	実践結果	冬の時期にヒヤシンスの水耕栽培を実践した。 個別支援の際にプランターを使い野菜を育て食す体験を行った。
	次年度方向性	より食や生活に根付いた畑仕事を行っていく。収穫だけでなく調理、加工する機会を個別支援、マンスリー支援共に増やす。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	計画：自然に協働する関係性の構築 ねらい：PDCA サイクルを意識し、対話しながら園、つむぎ連携し行事・研修の企画運営を行う。
	実践結果	行事の係等で話し合いを行いながら、企画運営を行うことができた。計画から実施の期間が短くなってしまったこともあった。
	次年度方向性	今年度行事を行っての良かった点・改善点をもとに早い段階で話し合いを行い、スタッフ間で連携し計画的な行事の企画運営を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：共に関わりあう保護者支援 ねらい：双方のスタッフが双方の保護者と関わり、園・つむぎの垣根を越えて保護者支援を行っていく。
	実践結果	朝の受け入れなどでは双方のスタッフが受け入れを行い保護者と関わることもできた。また、生活発表会などの行事を通して双方の保護者との関わりを深めることができた。
	次年度方向性	次年度も継続して朝の受け入れ等を双方で行っていく体制を整えていく。必要に応じて子どもの発達等の相談、面談等につむぎスタッフも同席し、多角的な視点で保護者支援を行っていく。

〈7〉豊かな感性と表現

1	計画・ねらい	計画：様々な本物の素材・画材に触れることのできる場づくり ねらい：ホンモノの素材に触れ、思いを表現する楽しさを知る。
---	--------	---

	実践結果	水、絵の具、氷、葉っぱや木の实などに触れ表現する機会をつくることができた。室内の制作ゾーンをつくったが素材の使い方などを上手く子どもたちに伝えることができなかった。
	次年度方向性	制作ゾーンの見直し、四季に合わせた素材を置くなど環境をつくり見直しを行う。水や絵の具などの素材に興味をもつ姿が今年度多く見られたので、日々の保育の中で触れることができる機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	計画：音に触れ、音に親しむことができる活動の実施 ねらい：身近な音に興味を持つ。歌を通して四季を感じる。
	実践結果	鉄、プラスチック、木材など散歩先や園庭で触れる中で音を鳴らして楽しむ姿が見られた。リズム体操は習慣化していたが、四季の歌を歌う機会は少なかった。
	次年度方向性	行事等で歌を歌う際に意欲的に取り組む子どもたちの姿が見られた。次年度は日々の生活の中で歌を歌う機会を取り入れ生活力の体得を目指していく。
3	計画・ねらい	計画：振り返りサークル対話の実践 ねらい：自分の気持ちを言葉や身振りで表現する経験を重ねる。
	実践結果	帰りの会の場で今日の活動の振り返りを子どもたちとおこなうことができたが、人数が多くなかなか意見がでない場面も見受けられた。
	次年度方向性	日によって少人数で対話できる機会をつくり、自分の気持ちを伝える場や他者の思いを聞く場を保育の中でつくっていく。 行事等子どもたちの話し合いから内容を決めていく。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数		130人	136人	139人	162人	173人	188人	175人	158人	165人	183人	180人	1789人
登録児数		8人	9人	10人	11人	12人	13人	15人	14人	14人	14人	14人	121人

(解説) マンスリー、ビジター

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
 保育士1名
 機能訓練担当1名（公認心理士1名）
 児童指導員3名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・保育所保育指針から抜粋 (表現、環境、10の姿、アプローチカリキュラム等)
給食運営会議	月1回	・食育活動の振り返り ・食のエピソードの共有
事故防止委員会	月1回	・自園のヒヤリハット、インシデントの検証 ・自園、他園の記録から危険予測のディスカッション
支援計画策定会議	作成毎	・支援計画に伴う情報共有、支援方針、支援目標の設定
ケース会議	月1回	・情報共有・支援内容の検討 ・園との連携・情報共有
朝礼、終礼	毎日	・その日の確認と振り返り ・園との情報共有

〈2〉 出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回	施設長

	(5.7.11.2月/5.8.11.2月)	調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導を行った。
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起を行った。 園内・外のハザードマップを作成した。
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進を図った。
食品衛生管理係	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を行った。
畑係	園庭のプランター整備、計画的な活動の立案、畑の環境整備を行った。
生き物係	ヤギの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案、飼育環境の改善を行った。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ保育園スタッフと企画運営を行った。
運動会係	内箕輪どろんこ保育園と共に行う。1人ひとりの成長の姿を保護者の方に見てもらうことができた。
生活発表会係	内箕輪どろんこ保育園と共に行う。子どもたち一人ひとりが主体的に参加することができる内容を連携し立案することができた。
卒園・入園式係	内箕輪どろんこ保育園スタッフと企画運営を行った。 会場内の装飾づくりを主として行うことができた。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・マンスリーは月～金まで送迎時に保護者の方と話をする時間を設けており、何か相談や悩みがあった際は都度伺うことができる体制を整えることができた。また、マンスリー支援内の要望等は都度対応することができた。
ビジター	・毎回支援の後に振り返りの時間を設けて支援のねらいや子どもの様子の共有を写真など用いて行った。そこから更に個々の様子や相談があった際には事業所内相談支援加算制度などを説明し別途面談を設ける体制を整えた。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計0名が参加済み (3月1時点) ・マンスリー利用者が主であったため、日々のフィードバックの際にご家庭の様子を伺い、家庭との連携が図れるよう支援することができた。
保護者面談 発達相談	・支援計画の作成にあたり、半年に1回モニタリングを実施 ・都度フィードバックの際に発達等に関する相談に対応することができた。
関係機関との連携	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点) ・幼稚園などと連絡を取り合い会議の実施。ご利用者の状況を把握し、その後の支援に取り組んでいくことができた。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：好きな人と好きな場所で食べることができる場づくり ねらい：食べる時間が楽しい物になるよう、四季に合わせた環境設定を行う。
	実践結果	縁側やテラスを使って縁側給食を実践することができた。春や秋などの時期は遠足先で給食を食べる機会を設け、四季を感じながら食す機会をつくることができた。
	次年度方向性	遠足先の環境を事前に調べ、四季を感じながら食すことができる場所をスタッフ間で考え、今年度に引き続き食を楽しむ経験を大切にしていける。
2	計画・ねらい	計画：日常にかかわる食育の推進 ねらい：食との関わりを身近に感じる。
	実践結果	食育体験の際は野菜の下処理を行うことができたが、日々の中で取り組むことができなかった。また、コンポストも秋から実践したがスタッフ間、子どもに対して定着が現状していない。
	次年度方向性	調理スタッフと連携し、朝の野菜の下処理やコンポストの実践を推進し、食育との連動を図っていく。

3	計画・ねらい	計画：戸外で目一杯遊び、空腹の延長で食事の時間を迎える ねらい：戸外で体を動かし、お腹が空き食事を取り、午睡を行うなど生活リズムの安定を図る。
	実践結果	新園だったこともあり、散歩が習慣化、定着するまで時間を要した。 下期にかけて散歩先を計画的に伸ばすことができたが、散歩先のルートや場所の見直しは今後の課題である。
	次年度方向性	子どもたちの発達、姿に合わせた散歩先や距離などの見直しを行い、歩くことの楽しさを感じることができ散歩をスタッフ間で話し合い考えていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
発作・痙攣等の対応	ダイアアップ使用対象児なし 救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月22日に内箕輪どろんこ保育園会場にてエピペン研修を実施。 ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月19日、10月17日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：園内全体を通し、静と動を意識した環境づくり ねらい：個々の発達を理解し、誰もが安心して過ごすことができる環境を創っていく。
	実践結果	室内の環境が区切られていない中で、動のエリアは定着し子どもたちも理解し遊ぶ姿が見られた。静のエリアの環境構成が難しい部分があった。
	次年度方向性	今ある施設環境を活かした環境構成をスタッフ間で話し合い考える場を作っていく。静のエリアは今後の課題の為、個々に合わせた環境構成ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓された環境をつくる ねらい：子ども自らが片付けたいと思える環境を創る。
	実践結果	玩具の場所が定着せず、大人も子どもも片付けが難しい様子であった。室内の棚の上など常に整理整頓された環境を維持することができなかった。
	次年度方向性	子どもだけでなく、まずはスタッフが日々の保育の中で片づける意識・習慣を身に着けていく。
3	計画・ねらい	計画：連続性のある遊びを行える環境づくり ねらい：明日やりたいことなど期待を持ち登園できるような保育環境を創っていく。
	実践結果	作品棚を作り設置することができた。手に取れる位置の棚ということもあり、翌日に続きを行う予定だった作品が壊れているなどの場面もあった。
	次年度方向性	作品棚やおもちゃの設置場所など見直しが必要である。また、様々な遊びを広げることができるゾーンを作り、継続的に遊びの探求ができる場を作っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

現在手作り遊具・家具の設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練を実施した。
2	実践結果	園スタッフと連携し、防災設備点検の実施した（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践結果	年2回の不審者訓練を実施した 警察との連携（不審者情報共有、交通安全教室 年10回実施）
4	実践結果	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故の防止 事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修を実施した。
5	実践結果	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新を図った。
6	実践結果	光化学スモッグ発生時には、自治体などより発信される情報をチェックし、発生時には屋外での活動を控えるよう子どもに伝え、対応した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

実績なし。実績はないが、継続して受け入れ態勢は整えていき、今後の人材育成に繋げていく。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	21日 5名	19日 6名	16日 7名	21日 7名	18日 7名	15日 7名	20日 6名	27日 6名	15日 6名	19日 6名	29日 6名	31日 6名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月22～23日	千葉県健康福祉障害福祉事業課	児童発達管理責任者基礎研修	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	19日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	19日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
リーダー養成研修	第1回：7月6日に1名出席 第2回：10月5日に1名出席											
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

内箕輪どろんこ保育園と連携を図りながら、地域の学校や施設との関わりを深めることができた。また、子育て支援センターちきんえっぐのスタッフと連携をとり、子どもの発達に関する寺親屋を1回実施することができた。子どもの発達に関する相談もあり、専門士の視点を活かして伝えることができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：青い鳥、ローソン、ジョイフル本田、ブックオフ等
世代間交流	老人ホーム ウィステリア八重原にて交流会を3回実施
異年齢交流	小学校訪問を1回実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

小学校との連携計画を経てるのが遅れてしまったこともあり、1回のみでの連携となってしまったため、次年度は事前に打ち合わせを行い連携の計画を立て、年数回の連携の機会を設け子どもたちが小学校への就学の期待が持てるようにしていきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
3月5日	八重原小学校 （支援級も含む）	1名	八重原小学校	子ども間交流 教育現場見学
3月11日	君津特別支援学校	2名	君津特別支援学校	教育現場見学

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

最長6ヶ月とし、個別支援計画書の見直しを図るため、モニタリングを実施。環境及び日常生活全般の状況に応じて適切な支援目標を設定し、支援内容を検討し個別支援計画書を作成した。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進級引継ぎに於いては、ご希望の家庭に就学支援シートを作成し支援内容の引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	（月）～（土）9:30～16:30 にて実施
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30 随時実施
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00 にて実施
青空保育 （支援センター主催）	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年12月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：内部監査室 森谷 太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

新園ということもあったが、全体的に満足度が高かった。マンスリー支援の中でのご要望などもあり、改めて支援の見直しをスタッフ間で行うことができた。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎ 海老名ルーム

事業報告書

(発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

新園の中で子ども同士が関わり合う事を大事にし、保育園の中で支援する土台を作り上げる事が出来てきた。また、保育を共に行き、園スタッフと協力してインクルーシブな環境に近づくことが出来た。

しかしながら、保育と療育の融合として、機能訓練などの専門性を保育の中に活かすことは次年度の課題として残った。それは、施設長自身が未経験の中で具体的なイメージに繋げる事が出来ず、スタッフ達を導くことが出来なかった事が要因の一つとして考える。

相互支援とはその役割のみを互いに担えるだけではなく、自分たちの支援を共有し、どちらのスタッフであってもその支援の方向にあった関りを自分の専門性を活かし、自ら考え、実行していく姿と考え、次年度は導いていきたい。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【計画】併設園の生活環境を活かし、支援は生活を共にする中で実施する。 【ねらい】利用児全員が生活を共にする中で成長する姿をスタッフが支援し、その為に自分は何が出来るかを常に考える。
	実践結果	つむぎだけの支援時間は必要な機能訓練等に限り実施してきた。主に生活環境の中で利用者の理解を深め支援を行うことが出来た。
	次年度方向性	今年度よりも自分たちの理解や支援内容を園スタッフと共有し、利用者のみならず園児全体に支援の視野を広げていきたい。
2	計画・ねらい	【計画】生活環境に専門性を活かし、子ども一人ひとりの理解を園と一緒に深める。 【ねらい】作られた園の流れにつむぎを入れるのではなく、作る時点から利用児全員を想定して生活環境をスタッフ全員で作っていく。
	実践結果	乳児・幼児・リーダー会議等を通し、お互いに意見の交換等を重ねてきた。どろんこ祭り、世代間交流や読売ランド前どろんこ保育園の研修を通し、園スタッフと共に生活環境を作っていく時間を持つことが出来た。
	次年度方向性	運動会・生活発表会等の園の行事や商店街ツアーなど保育園内での活動全般につむぎスタッフが積極的に企画から参加出来るようにすすめていきたい。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【計画】「安心して子どもを預けて仕事に行ける」「今日もがんばった」と一日の始まりと終わりを気持ちよく送迎時に感じてもらえる。 【ねらい】関りの始まりは常に挨拶から。送迎という短い時間に気持ち良い接遇を感じていただく。
---	--------	---

	実践結果	施設長個人として実践を日々意識して取り組むことが出来たが、ルーム全体としてはスタッフ室に居て業務をしている時に挨拶を更に意識する事が出来たと感じる。
	次年度方向性	施設長自身がこの目標をスタッフにより強く意識を持って伝えていき改善していきたい。
2	計画・ねらい	【計画】併設園を利用する全ての保護者を支援対象とし、園と連携した保護者支援を行う。 【ねらい】併設園として多角的な視点から子育て相談を受け、保護者支援をおこなっていく。
	実践結果	保護者面談にも園スタッフと共に同席し、必要な意見等を発信する事が出来たが頻度としては多くなかった。
	次年度方向性	園スタッフと共に保護者支援について実施できる内容を検討し、幅を広げていきたい。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【計画】専門性を活かした情報発信や地域の子どもと交流を持てる場を持つていく。 【ねらい】スタッフ全員がルーム内だけではなく、地域の子育てという広い視野で自分の専門性を活かしていく。
	実践結果	専門性を活かした外部発信等を行えなかったが他事業所との連携など地域の子育て支援に繋げる繋がりを持つことが出来た。
	次年度方向性	海老名市内の事業所間で行う勉強会等には積極的に意見を出し地域全体の子育て支援につながるよう活動していきたい。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【計画】併設園という環境下の支援をスタッフが自分の言葉で語れるようになる。 【ねらい】併設園という環境の強みにこだわった支援を考え、実践できる人材に成長していく。
	実践結果	スタッフは併設園としての支援とは何なのかを日々悩みながら保育に参加してきた。単独で行えるような支援の取り組みが頭の中に残りながらも「個別支援のみのサービスは提供しない」という生活につながる併設園にしかできない支援を目指す方向ですすめられた。
	次年度方向性	自分たちが行う支援を繋げる事で自分だけ行う支援から園全体で行う支援に視野を広げていき、その中に専門性を活かしていけるよう取り組んでいきたい。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	【計画】畑仕事、調理から食事と言う食の循環を通して子ども達の食に対する学びや意識を深める。 【ねらい】食育を深める事で食事に対する姿勢や、食べ物の尊さから残渣
---	--------	--

		が減っていくなど子どもの成長につなげていく。
実践結果		食の循環を通し、食べ物への扱いや残すことへの申し訳なさなど、個人個人の成長の中で変化を感じた場面も多い。
次年度方向性		引き続き、畑仕事など食育を通して食の意欲が高い子そだてを実践し、残渣の減少など環境に繋がる流れを大切にしていきたい。

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録児 数	0人	8人	12人	11人	15人	16人	17人	19人	20人	21人	22人	22人	22人
利用総 人数	0人	60人	115 人	118 人	147 人	166 人	185 人	179 人	184 人	172 人	170 人	204 人	1700人

（解説）5月より開園の為、4月は登録数、利用数共に0となる。6月時点でメリーポピンズ海老名ルームとの併用児に関しては契約が完了する。問い合わせは平日の午前中が多かった。海老名の地域特徴として3歳児未満お父さまも受給者証の取得がスムーズで、プレで指摘を受けたお父さまが生活の流れ、対人の経験を一年間積みたいというご希望が多かったものとする。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士3名

機能訓練担当1名（理学療法士1名）

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童情報の共有 ・マニュアル読み合わせ ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育会議の策定 ・食育活動実施の内容 ・喫食状況（残食記録）の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策の策定 ・全事故防止委員会での内容共有
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・献立の内容改善、提案 ・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成見直し ・食育計画策定
保健会議	年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策やガイドラインの作成、改善

		・保険計画策定
子育ての質を上げる会議	月1回	・子どもの理解を深める。

〈3〉 係の活動報告

係名	活動内容と報告
衛生管理係	毎日の消毒の点検や感染症の流行時期は予防や基礎知識の伝達講習などを実施した。
安全対策係	園内、周辺地域の安全管理を意識し適切なハザードマップの作製、修正を実施する事が出来た。
防火管理者	防災計画の立案をし、月1回の防災訓練を実施した。また、振り返りを通し、緊急時の対応についてルームで考察した。
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理を実施した。
畑係	計画的な畑仕事の立案をし、子どもの興味が畑から離れないよう園内にも畑地図を作製するなど取り組んだ。
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会を立案し実践した。
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策を園会議内で指導した。

〈4〉 行事係の設置状況

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ未設立。新園としてスタッフが協力して実施し、次年度に繋がる振り返りをおこなった。
運動会係	実施場所の調整など係が中心となって周りを巻き込み実施した。来年度に繋がる振り返りをおこなった。
生活発表会	中途スタッフが多い中で「生活発表会とは」を考えながら実施までたどり着いた。保護者からのアンケートにはご意見も多く、次年度に繋がる振り返りの機会を持っていた。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・園と生活を共にし、日課・基本保育活動を通して一日の流れに少しずつ慣れていけるよう支援をおこなった。 ・子どもが活動を選択できる環境を整え、安心して過ごすことが出来るよう支援した。 ・子ども一人一人の理解を深め、スタッフと関係性を構築していけるよう関わった。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる環境、見守られる環境は他園の見学も通しスタッフが考える機会を持てた。今後も日々、環境と子どもの繋がりを見ながら必要に応じて環境構成を考えていきたい。
ビジター	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・母園とは違う集団の中で生活を共にし、日課・基本保育活動をマンスリー同様に経験した。 ・子どもが活動を選択できる環境を整え、安心して過ごすことが出来るよう支援した。 ・子ども一人一人の理解を深め、スタッフと関係性を構築していけるよう支援した。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・互いにに関わり合い、人と関わる中で集団性や社会性を養っていけるよう支援し、その支援が母集団に繋がる事を意識して関わる事ができた。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援は1対1の時間ではなく、集団に繋げる為の個人に必要な経験とし実践した。 ・個別支援は選択の1つであり、利用時間を個別支援だけに制限することはせず、個別に配慮しながら集団に繋げていけるよう支援した。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施した。（1家庭2件） ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施予定だったが未実施。支援の選択として保護者に周知していくことで利用に繋げていきたい。
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡会に出席した。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェに対するご意見を頂き、本の設置など改善案を検討したが環境は正に至っていない為、次年度、待合室の環境構成にも取り組んでいきたい。

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	・自ら食べ物に食らいつく。食べる事が大好きな子どもを増やす。
	実践結果	・床や机を清潔に保つ取り組みは達成できなかった。
	次年度方向性	人員等の理由により、良い食事環境を考える事が難しいスタッフも居たため、今いるスタッフで何が出来るかを考え、実践できるスタッフ育成を行っていききたい。
2	計画・ねらい	食の循環を知り、命を頂いていることを感じる。
	実践結果	メリーポピンズ海老名ルーム以外の児童にも畑仕事の機会を提供し、食の循環を経験する場を持つことが出来た。
	次年度方向性	本年度に引き続き、全ての子どもに食の循環に携わり、命を頂くことを感じられる経験を用意していききたい。

〈4〉 保健に関する実施結果

スタッフ健康診断	年1回を実施した。
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）に提出した。
流行が予測される感染症	感染症発生時に随時、適切な情報共有を通して感染拡大防止に努めた。
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・5名 園会議内で実施した。 エピペン・・・5名 園会議内で実施した。
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 来年度、未受講の新入スタッフ1名は5月1日までに受講予定
AED 使用できるスタッフ （AED 設置施設のみ）	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ1名5月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行い、室内の温湿度などマニュアルに準じた環境を意識する事が出来た。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月13日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉 実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	「ほっ」とくつろげるカフェスペースを常に用意する。
	実践結果	カフェスペースなし。待合室は清潔に保つことが出来た。
	次年度方向性	待合室環境の改善を検討していく。
2	計画・ねらい	子どもたちが毎日、自発的に遊びを選択し、遊びこめる環境を整える。
	実践結果	新園で中途スタッフが多い中、他園研修等を通し環境構成に取り組むことが出来た。
	次年度方向性	引き続き、定期的に現環境を子どもの様子を踏まえて振り返り改善を図っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	安全管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた運営管理を行った。
2	危機管理	事故発生時に危機管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた危機管理を行った。
3	救命講習会の実施	脱水症状、大きなけが、心臓マッサージなど応急処置に関する基礎的な知識を学び、事故発生時に適切な対応が出来るようにした。
4	防火管理	防火管理者の選任と所轄消防署への届け出の提出 消防計画を作成し、内容をスタッフと共有した。 法人が定めた防災訓練のスケジュールに沿って訓練の実施を行った。
5	光化学スモッグ	横浜市からの情報を確認し、スタッフへ共有する。戸外活動中であった場合は日陰への誘導や帰園など適切に判断し、対応した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

併設園という環境下で子どもたちが障害の有無に関わらず、互いに関わることで成長する姿から子どもたちを発達という知識で捉えるのではなく成長を考える機会を持ってもらうことが出来た。

〈2〉実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
10月1日～3月31日	東海大学大学院	2人	臨床心理実習

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシ	7日 20名	12日 21名	9日 21名	7日 23名	18日 24名	8日 25名	13日 25名	10日 25名	8日 23名	12日 23名	9日 23名	8日 23名

一自己採点												
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
7月14・27日	かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク	児童発達管理責任者補足研修	1名	有
11月21・29日	かながわ福祉サービス振興会	児童発達管理責任者基礎研修	1名	有
2024年1月30日	かながわ福祉サービス振興会	児童発達管理責任者基礎研修 演習	1名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	19日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	19日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
リーダー養成研修（主任会議）	2023.7.6 2023.10.5 2024.1.11 1名参加											
全社員研修	9月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											
デンマークインターンシップ	参加なし											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

隣の保育園や幼稚園、商業施設との関わりを持ち、コミュニケーションを大切におこなった。海老

名ルームが保護者や地域に開かれた講座や座談会などを開催できなかったが、海老名市の集いに参加するなど繋がる関係性を構築してきた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：海老名駅周辺の公園にて
商店街ツアー	週1回 ビナウォーク・池田牧場など
世代間交流	プラチナコミュニティ ココファン
異年齢交流	小学校訪問
その他活動	海老名市の福祉事業所との会合に参加

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

近隣小学校への訪問を通して連携を始めていく。就学支援シートによる引継ぎのみに頼るのではなく訪問相談支援の開始に繋がるよう、関係機関との基盤を作ることが出来た。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
1月23日	杉久保小学校	1名	杉久保小学校	教育現場見学
2月2日	社家小学校	1名	社家小学校	教育現場見学

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

生活場面より子どもの様子を確認し、他職種の視点から子どもの理解を深めたうえで長期目標から逆算した短期目標を設定し、支援をおこなった。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計2件相談実施済み
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年2月19日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時30分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：内部監査室 森谷 太郎

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

全体的に満足度は高かったが振替の実施など開園して半年経つ中で感じられた感想を確認する機会となり、その後のサービス品質の改善に役立てる事が出来た。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月1日 作成者：発達支援つむぎ 海老名ルーム施設長 庄司 宜史

2023年度 発達支援つむぎ 香取台ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

つむぎ香取台ルームは「地域とともにあるルーム」を目指し、当法人の掲げる保育理念・保育方針に基づき、利用するすべての児童に野外体験や100のホンモノの経験を提案し、実践しながら、一人ひとりの「やってみたい」を重視し、支援を行ってきた。しかし、保護者や地域を対象とした支援や子育て相談の実施は少なく、次年度へ課題となる。

インクルーシブな社会の実現を図るため、香取台どろんこ保育園・学童のスタッフと連携、保育や支援、情報共有を密に行ってきた。次年度を見据え、保育や学童のスタッフと連携、協働し、利用する子どもたちが安心して過ごせる場にするため、丁寧な保育や支援、環境構成を図った。さらなるインクルーシブな社会の実現に向け、インクルーシブ保育に取り組んでいく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：信頼関係の礎を築く ねらい：信頼関係を築くことで、安心した状況下で支援を行うことができ、子ども本来の力を引き出すことに繋がる。
	実践結果	下半期に入り、保育の日課にサークル対話が定着している。サークル対話だけではなく、子どもとのコミュニケーションを丁寧に行ってきた。
	次年度方向性	4月から、サークル対話を定着させ、大人や子ども同士の対話を充実させ、信頼関係の礎を築き、安心して通うことのできるルーム・保育園を目指していく。
2	計画・ねらい	計画：子どもの成長・発達を見据えた支援 ねらい：子ども一人ひとりに適した支援を行う。
	実践結果	つむぎガイドラインを基に園庭や戸外を積極的に取り入れた支援を行ってきた。子どもの様子や興味に合わせ、室内も有効活用し、子どもの「やってみたい」を重視した支援と臨機応変に対応してきた。また、つむぎ会議や昼礼、日々の情報共有を行い、保育園スタッフとの連携も図った。
	次年度方向性	園庭や戸外を活かした内容を支援に取り入れ、子どもたちにホンモノの経験・100の経験をさせていく。
3	計画・ねらい	計画：子どもの主体性、にんげん力を育むことのできる環境設定 ねらい：主体的に活動を行い、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつ。
	実践結果	保育園のスタッフと連携し、遊びや活動のコーナーを構築し、会議などの場を用いて振り返り、再構築を図ってきた。必要な道具やモノに関しては揃っていないモノもあるため、設置、管理を含め次年度への課題でもある。

	次年度方向性	保育園のスタッフとの連携をさらに強め、つむぎスタッフの専門性や知識、子どもの発達を見据えた環境構成を積極的に取り入れていく。必要な道具やモノに関しては、作業療法士のスタッフのアドバイスなどから、子どもの発達に見合ったモノを準備していく。
4	計画・ねらい	計画：畑仕事や日課の充実、自然を活かした支援 ねらい：日課の経験、自然の中でホンモノに触れることを通して、興味をもつことから実際に取り組んでみることに繋げていく。
	実践結果	天候不良や地盤の関係もあり、作物が実らないことがあった。つむぎ利用の子どもの日課の参加は子どもによって個人差が見受けられた。
	次年度方向性	畑仕事は全スタッフが畑や農業に関する知識や技術を高め、積極的に取り組む姿勢を子どもたちに見せていく。地盤などは少し改善を図り、子どもたちが毎日畑仕事に取り組める環境を用意していく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者とのラポール形成 ねらい：保護者とのコミュニケーションを丁寧に行い、安心して継続した支援ができることを目指す。
	実践結果	開所時から緩やかに利用する子どもが増え、保護者と丁寧に関わることができた。支援後の振り返りだけではなく、家庭での様子や所属園での様子を伺うことも行ってきた。次年度は積極的に事業所内相談を勧めていく。
	次年度方向性	保護者との関係性をより高め、子育ての相談だけではなく、ロコミなどから地域の方に広めていただける接遇や支援を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：保護者交流会や勉強会の実施 ねらい：保護者の交流の場として実施するとともに子育てや教育に関する不安を取り除く。
	実践結果	保護者や地域の方に向けた活動は未実施であった。スタッフと構想や計画はしており、次年度早々に保護者を交えた活動を予定している。
	次年度方向性	保護者を対象にした交流会や活動を計画し、準備をしている。2カ月に一度など定期的実施していく。
3	計画・ねらい	計画：「事業所内相談」の充実 ねらい：特定の利用者だけではなく、すべての利用者に定期的に相談できる機会を設け、子育てに関することや悩みについて話すことができる場となり、スタッフとして信頼関係を構築していく。
	実践結果	実施がほとんどなく、周知があまりできなかった。保護者との振り返りの中で、事業所内相談に該当するケースも見受けられたため、次年度に向け、周知を進めている。
	次年度方向性	全利用者（保護者）に対して、周知を徹底していき、継続した相談の機会を図っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：保護者・地域の方を対象とした子育て相談会の開催 ねらい：子育ての楽しさ、アドバイスをを行い、継続した支援を行っていくとともに地域向けの相談会開催はルームの広報ともなり、集客に繋げていく。
	実践結果	地域の方に向けた活動は未実施であった。スタッフと構想や計画はしており、次年度に地域の方や保護者を交えた活動を予定している。
	次年度方向性	保護者を対象にした交流会や活動を計画し、準備をしている。広報を近隣の企業や教育機関などに積極的に行い、2カ月に一度など定期的実施していく。
2	計画・ねらい	計画：地域の方を交えた体験学習の実施 ねらい：つむぎで行っている支援を体験学習という形で地域の方の参加を告知し、ルームの広報、集客に繋げていく。
	実践結果	未実施であった。土曜日の利用者との調整が必要であり、支援を最優先した年度であった。実施していくかは検討が必要であり、次年度の課題となる。
	次年度方向性	次年度、4回ほど計画をしている。体験学習の参加から、つむぎの支援を知っていただき、単発的な利用から継続した支援に繋げていく。
3	計画・ねらい	計画：地域に向けた作物の販売・有効活用 ねらい：ルームとしての畑仕事の広報、販売より地域の方との交流を図る。
	実践結果	未実施であった。天候不良や地盤の弱さなどがあり、作物があまり実らず、収穫ができていない。次年度に向け、地盤などの改善
	次年度方向性	地盤などの改善を図り、スタッフや子どもたちが毎日畑仕事に取り組める環境と作物の収穫・販売に向けて準備をしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：大人のにんげん力UP ねらい：スタッフ一人ひとりの支援・保育の質を高め、子どもの成長に貢献する。
	実践結果	子どもの発達の様子や支援後の振り返りについて、会議の場を用いて情報共有ができた。月日を重ねる毎に園庭や戸外を活かした支援が増えてきた。
	次年度方向性	支援プログラムが変更となり、支援内容の検討が必要になる。つむぎガイドラインを基に園庭や戸外での支援を取り入れていき、会議の場などで共有を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：子どもの成長を楽しむことができる。 ねらい：子ども一人ひとりの全体像を把握し、その子に合った支援を提供する。
	実践結果	園会議などを用いて、子どもの様子を振り返る機会や成長を共有する時間を設けてきた。利用する子どもが増え、今後どのように振り返りや共有を行っていくかは課題である。

	次年度方向性	会議の時間は限られているため、日々の昼礼や週末のつむぎ会議など、月毎に対象児童を決めて計画的に振り返りを行っていく。引き続き園会議の場を用いる。
3	計画・ねらい	計画：事業形態にとられないスタッフの連携と協働 ねらい：壁のないコミュニケーションをとり、香取台として地域に貢献していく。
	実践結果	開所時から壁を作らず、保育と支援、スタッフ間の連携を積極的に行ってきた。日々の情報共有や会議の議案など保育や支援に関する内容など多角的な視点を取り入れている。
	次年度方向性	次年度、児童数が増えるためよりスタッフの連携が必要となるため、日々の情報共有や業務の分担などを密に行っていく必要がある。シフト表や動向表を用いて、スタッフの動向を確認していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践 ねらい：食への興味をもてるよう、育てることから始めいく。
	実践結果	田植え・稲刈り、焚火などを積極的に行い、食への興味に繋がる活動を取り入れることができた。しかし、畑仕事が日課とはならず、子どもによって経験できる機会は個人差があった。
	次年度方向性	畑仕事が日課となるよう、畑の整備を徹底して行い、食のサイクルが身近に感じられる環境を構築する。室内で栽培できるものなどを取り入れ、天候や地盤などに左右されない環境を検討していく。
2	計画・ねらい	計画：研究学園都市「つくば」の様々な地域環境を活用し、遊びや体験に繋げていく。 ねらい：香取台の活動から地域発展に繋げていく。
	実践結果	地域への発展は少なく次年度の課題となった。 散歩や公共交通機関を利用し、子どもたちの活動の幅は広がっている。
	次年度方向性	つくば市の様々な機関や企業との関係性の構築が必要である。保育園と連携を図り、保育行事や交流を用いて、関係を構築していく。 放課後等デイサービスの利用児に関しては、積極的に公共交通機関を利用し、社会体験のための計画をしていく。
3	計画・ねらい	計画：3大食育方針を推進し、その記録を社外に広報する。 ねらい：香取台の活動を広報し、行ってみたいと思ってもらえることで集客に繋げる。
	実践結果	園内では様々な活動を行ってきたが、広報はできず、次年度の課題である。
	次年度方向性	子育て支援室「ちきんえっぐ」の活動を含め、発信の計画を立てていく。

相談支援事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人						
継続	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人						

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名
 児童発達支援管理責任者1名
 保育士2名
 機能訓練担当2名（言語聴覚士1名、作業療法士1名）
 児童指導員1名

3. 運営報告

〈1〉 施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・スタッフによる勉強会の実施 ・活動の振り返り及び共有、子どもの姿の共有
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育計画実施内容の確認 ・喫食状況の確認 ・アレルギー児童への対応
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデントの分析 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策の検討 ・ハザードマップの見直し
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童の策定会議の実施 ・支援の方法、目標設定

ケース会議 (保育園同時開催)	月1回	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童の様子共有、支援の方向性の検討 個別計画の振り返りと、次月の課題抽出
週会議 (保育園同時開催)	週1回	<ul style="list-style-type: none"> 週案について各クラス振り返り 児童の対応、環境などの検討事項についての共有、対策
つむぎ会議	週1回	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童の様子共有、支援の方向性の検討 個別計画の振り返りと、次月の課題抽出 活動内容の計画
虐待防止委員会	9月・2月	<ul style="list-style-type: none"> 適切な対応、支援の確認 身体拘束、虐待防止についての定義の確認、防止策の検討

〈2〉出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	月1回	児発管
併設園会議／法人本部	年4回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉系の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> 看護師スタッフや担任スタッフが主となり。健康面や衛生面に関する情報の共有。日々のうがいや手洗いを子どもやスタッフに対して清潔にすることを習慣を図った。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> 園内、戸外活動先の危険箇所の抽出、ハザードマップの見直し定期的に変更を行ってきた。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の実施。消火訓練の実施。 ポスター掲示をし、近隣の方へ周知。

生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物や植物の世話・管理 ・ 生き物や植物に触れる機会の計画
------	---

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	・ 7月開催。どろんこサポーターズを筆頭につむぎ・保育園スタッフが協力し、地域に向けてのポスターによる周知、実施内容の立案、準備等を行った。祭り当日は多くの参加者が訪れた。
運動会係 (保育園合同)	・ 10月実施。園庭で行い、つむぎ利用児も運動会に参加。次年度は利用日数に関係なく、多くの利用児の参加を促す。
生活発表会係 (保育園合同)	2月実施。つむぎ利用児のプログラム参加。次年度は利用日数に関係なく、多くの利用児の参加を促す。

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ つむぎスタッフ、保育スタッフの連携により子どもたちへの関わりが増え、戸外での遊びや活動が広がり、子どもの興味関心の幅も広がった。 ・ 子どもの様子からスタッフに対する信頼関係の高まり、安心感が見られ、子どもの主体性や選択性が高まった。 ・ 子ども同士の関わりが積極的に行われ、子ども間のコミュニケーションが活発に見られた。
個別支援	・ 子どもの「やってみたい。」を尊重し、用意された活動だけではなく、子どもの意見や思いを積極的に受け入れ支援を行うことができた。支援時間の制約の中でも室内だけではなく、散歩や園庭、戸外での支援を心掛けた。
放課後等デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童スタッフとの連携から、長期休暇の活動の立案から実施することができた。 ・ 子ども同士の信頼関係の高まり、安心感が見られ、子どもの主体性や選択性が高まった。 ・ 子ども同士の関わりが積極的に行われ、子ども間のコミュニケーションや遊びが活発に見られた。
事業所内相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～3月まで 合計0名 が参加済み (3月1日時点) ・ 3月、1名実施予定。

保護者面談 発達相談	4～3月まで 合計4名 が参加済み (3月1日時点) ・ 保育園在籍の児童からつむぎ利用児の子育てに関する相談を実施。
関係機関との連携	・ 医療機関との情報共有。 ・ 香取台小学校児童クラブとの情報共有、見学実施。
意見・要望への対応	4～3月まで 合計1名 が参加済み (3月1日時点) ・ 放課後等デイサービスの送迎、サービス提供時間の延長希望について

〈2〉 計画した年間行事の振り返り

- 別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	計画：空腹感を感じられる子ども、意欲的に食べられる子どもとなる ねらい：生活リズムの獲得、整える。
	実践結果	午前中の活動を散歩や園庭など、身体を動かすことを大切にし、空腹感を感じられるための活動を提供してきた。
	次年度方向性	散歩や戸外活動だけではなく、室内や保育の活動の中で絵本や知識等を活かし、子どもたちの空腹感を感じられることに繋げていく。
2	計画・ねらい	計画：食への関心を広げる・食の循環を知る。 ねらい：作物や食への興味を広げていくことで新しいことにチャレンジする。
	実践結果	田植え・稲刈り、焚火などを積極的に行い、食への興味に繋がる活動を取り入れることができた。しかし、畑仕事が日課とはならず、子どもによって経験できる機会は個人差があった。
	次年度方向性	畑仕事は全スタッフが畑や農業に関する知識や技術を高め、積極的に取り組む姿勢を子どもたちに見せていく。地盤などは少し改善を図り、子どもたちが毎日畑仕事に取り組める環境を用意していく。

〈4〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
保健だより	毎月25日におたより配布を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回 (全スタッフ対象)
流行した感染症	① 2月にインフルエンザ、児童2名・スタッフ2名 (つむぎ)

発作・痙攣等の対応	対象なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・3月21日に香取台どろんこ保育園にてエピペン研修を実施予定。 ・本日時点で、在籍スタッフ6名のうち、6名が使用可能
その他保健に関する取組	5歳児対象に性教育指導 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月14日、10月19日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	計画：整理整頓の徹底。「必要なもの以外置かない」 ねらい：居心地のいい環境を構築し、安全性の高いルームを目指す。
	実践結果	初年度であったため、必要なモノは徐々に揃えていった。利用者アンケートの結果から、整理整頓の項目は高い数値をいただいた。
	次年度方向性	様々な児童の利用が増え、児童の個性・興味に合わせ、今後も揃えていく必要がある、
2	計画・ねらい	計画：子どもの主体性を引き出す、自分で選び、挑戦ができる環境づくり。 ねらい：自分で選択できる力を身に着けるとともに思考力、判断力、表現力を育む。
	実践結果	保育園のスタッフと連携し、遊びや活動のコーナーを構築し、会議などの場を用いて振り返り、再構築を図ってきた。必要な道具やモノに関しては

		揃っていないモノもあるため、設置、管理を含め次年度への課題でもある。
	次年度方向性	保育園のスタッフとの連携をさらに強め、つむぎスタッフの専門性や知識、子どもの発達を見据えた環境構成を積極的に取り入れていく。必要な道具やモノに関しては、つむぎのスタッフのアドバイスなどから、子どもの発達に見合ったモノを準備していく。
3	計画・ねらい	計画：「ホンモノに触れる、経験のできる機会の提供。 ねらい：子どもの「やってみたい」を広げ、子どもの成長する機会を多く提供する。
	実践結果	園庭環境を活かし身体を動かす、虫や材料を集めるなど自然に触れることを大切にしてきた。
	次年度方向性	園庭での経験が多かったため、戸外に出向き、自然体験だけではなく社会体験なども行っていく。

〈7〉 手作り遊具安全点検結果

設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践結果	〈防災〉 危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践結果	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践結果	〈光化学スモッグ〉 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。 つくば市においては、「光化学スモッグ注意報」が発令された場合には市役所から保育園・幼稚園・義務教育学校・公共施設・駅・郵便局等に情報を流し、運動の自粛や看板の設置などの対策をとっている。人体への影響が心配される場合、光化学スモッグ警報が発令される。「光化学スモッグ

		注意報」連絡体制に伴い、香取台どろんこ保育園でもそれに従い、発令中の間の外出を自粛する。
5	実践結果	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS 防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

受け入れなし。

〈2〉実習生の受入

受け入れなし

〈3〉中高生の受入

受け入れなし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	14日 6名	19日 6名	14日 6名	13日 6名	10日 6名	14日 6名	19日 5名	9日 5名	14日 5名	15日 6名	21日 6名	21日 6名
虐待防止研修	14日 6名						7日 5名					
救命救急講習 講師：つくば 消防本部中央 消防署	・6月17日・24日に香取台どろんこ保育園にて救命救急講習をスタッフ5名が受講し習得済み。 ・AED、本日時点で在籍スタッフ6名のうち、5名が使用可能。											

〈2〉外部研修への出席

出席なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
施設長勉強会	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	20日 1名	17日 1名	21日 1名	21日 1名
全社員研修	9-10月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

つむぎが主体となる活動は実施できていない。保育園の計画に準じ、異年齢やシニア交流が行えた。保育園と合同開催のどろんこ祭りでは、初年度に関わらず、多くの集客があった。次年度、保育園の子育て支援室「ちきんえっぐ」と連携し、地域の方との交流を図っていく。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：諏訪公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行先：セブンイレブン・万博記念公園駅・幸楽園・カフェバーディー・無印良品の家・ダイソー・沙紀バレエスタジオ・カスミ・アパホテル・アーデン音楽館・アート引っ越しセンター・日本測量協会測量技術センター・パワーコメリ・軽自動車検査協会・理想科学工業等
世代間交流	1月19日に香取台どろんこ保育園にてどんど焼きを実施
異年齢交流	12月1日か香取台小学校にて「あきのテーマパーク」実施
その他活動	11月9日に守谷どろんこ保育園にて合同収穫祭を実施
	7月12日に自園にて筑波大学ラグビー部と交流を実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

保育園の幼保小連携により、香取台小学校への学校見学や1年生との交流の機会を得ることができた。しかし、つむぎ主体の計画からは外れてしまい、次年度の課題となった。

実現可能な計画を立て、香取台小学校に留まらず、近隣の小学校と特別支援学校との連携を図っていく。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月20日	茨城県立伊奈特別支援学校	1名	茨城県立伊奈特別支援学校	学校見学・説明
2月14日	香取台小学校 1年2組	1名	発表会鑑賞	子ども間交流

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

児童発達支援管理責任者が主体となり、保護者に対してモニタリングを行い、対象児の支援に携わっているスタッフを含めて、策定会議を定期的に行うことができた。

計画書の期間にかかわらず、子どもの発達や支援の様子を必要に応じて適切な支援や目標の再設定を行い、適切な個別支援計画を作成することができた。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校と直接的な連携は難しく、就学支援シート等の文書で引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 ※保育園に準ずる
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み ※保育園に準ずる
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 ※保育園に準ずる
ちきんえっぐだより	毎月1日発行 ※保育園に準ずる

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年2月6日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：15時00分

自己評価実施者：森田 隆之介、篠崎 理恵（保育園施設長）、入田 鈴華（保育園主任）

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

登録人数が少なく、アンケートの回収率は100%であった。アンケート項目の数値やご意見に関しては改善案を立てており、今後も丁寧に対応していくことが望まれる。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

2023年度 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

開所から立ち上げの一年となった。併設園のメリー★ポピンズ 北朝霞ルームと地域に根付く併設園、インクルーシブ保育を目指しながらより良い施設づくりの構築を行った。子ども、職員共に混ざり合うこと、自己決定が出来るにんげん力を身に着け、土台となる仕組みづくりの園運営を行ってきた。課題となった場面は職員間のコミュニケーション不足で在り、互いが互いの子どもを看る、当たり前のように子どもに接することの意識づけに各職員ばらつきがあったことである。子どもの最善の利益を考えながら何が一番良いか一人ひとりが判断し、話し合うことが出来る環境を今後も作っていく必要がある。

利用家庭が少ない中でも自己評価アンケートでは保護者からの満足感も得ることが出来ていた。保護者に信頼し、安心して預けてもらえる施設であり続けることに今後も見据えて継続していきたい。

つむぎ内のチームワークはより良い関係となり、コミュニケーションをよく取りながら運営することが出来た。課題としては職員のやりたいことを拾い切れておらず、やりたい支援のピックアップから実現までが出来る環境を整えていく必要がある。自分らしさを支援に取り入れながら大人のにんげん力アップの向上を図っていく必要がある。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもの主体性を育み、自己決定から発信までの過程的支援の確立 ねらい：子どもが自己決定から周りに意見を伝える過程の自信をつける
	実践結果	言葉だけの自己発信ではなく自己表現するまでの過程を支援として見通しを持ち、子どもたちに伝える支援の方向性は確立出来た。
	次年度方向性	継続的に行っていく。中途採用等、新しい職員が入職した際も同じ方向性で支援を行えるようすり合わせていく。
2	計画・ねらい	計画：日課・基本保育活動の促進 ねらい：子どもの生きる力を育み、身に付ける
	実践結果	基本保育活動の推進は取り組めたが、日課の活動が定着せず取り組めない日も多かった。
	次年度方向性	職員配置やゾーン保育を適宜見直ししながら子どもたちが自主的に活動できる環境を随時配置できるよう工夫しながら園と一緒に取り組んでいく。
3	計画・ねらい	計画：異年齢活動の充実化 ねらい：集団活動で必要な思考し、判断する力を身に付ける
	実践結果	異年齢活動の充実は出来ていた。常に異年齢で過ごし、時に必要な際には異年齢だけに捉われずクラス単位で動くことも出来ていた。

	次年度方向性	継続的に取り組みながら次年度も進んで異年齢活動を行っていききたい。
--	--------	-----------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：事業所内相談支援の活性化 ねらい：保護者の安定した相談窓口を確立する
	実践結果	数家庭事業所内相談支援を個別で受けた。
	次年度方向性	複数家庭に向けての交流会や座談会などに取り組みなかったため、保護者のニーズに応えながら随時開催を検討していく必要がある。
2	計画・ねらい	計画：保護者間交流の環境づくり ねらい：保護者の育児に対する不安軽減
	実践結果	土曜日のビジター支援の中で親子支援や、マンスリーではお迎えのFB時など保護者間で交流しやすい環境や、声掛けを随時行った。
	次年度方向性	偏りがないう全家庭に保護者交流会などの案内をしながら環境を配置していく必要がある。
3	計画・ねらい	計画：所属園、就学先、相談支援事業所等、各関係機関との連携 ねらい：同じ方向性を持った支援を行う
	実践結果	所属園、就学先には積極的に交流を行い、子どもの日頃の様子を共有したり、こういった支援が良いか話し合う機会を持つことが出来た。
	次年度方向性	交流に消極的な園もあるため、子どもの最善の利益に配慮しながら保護者を通して方向性を明確にした交流や、情報交換を積極的に行っていききたい

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：小学校、自治体、相談支援事業所等の関係機関の連携強化 ねらい：地域に根付いた子育て支援事業所としての確立
	実践結果	開園当初、周知活動に回る機会があったが再訪するまではなかなか取り組みなかった。朝霞市の取り組みで朝霞市内児童発達支援事業所交流会の「アサカツ」に参加し、他事業所との交流の場を持つことが出来た。
	次年度方向性	他事業所と交流できる機会に継続的に参加しながら子どもの就学先となる機関とも積極的に繋がってやりとりしていききたい。
2	計画・ねらい	計画：地域に根付いた子育て相談場所、情報提供の場となる ねらい：つむぎが地域に浸透するための取り組み
	実践結果	地域への浸透は難しく、1名カフェの利用はあったが継続しなかった。
	次年度方向性	ちきんえっぐの来訪者等にカフェの利用や児童発達支援の施設概要を説明する等知ってもらえる機会を増やしていく
3	計画・ねらい	計画：つむぎの取り組み内容を地域に発信 ねらい：つむぎとしての活動を地域に広め、地域の理解を得る

実践結果	毎月ブログに活動内容をあげながら SNS で発信を行った。ルームパンフレットを配る際にブログの QR コードがあることを随時お伝えした。
次年度方向性	ブログ活動や青空保育でも地域の方につむぎの活動を伝えながら地域の理解を深めてもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：研修、勉強会の充実 ねらい：一人ひとりのスキルアップ、情報共有
	実践結果	園会議で勉強会を行ったり、職員が講師となって全体に知識を共有する等の機会を持つことが出来た。
	次年度方向性	全職員では取り組めなかったため、偏りなくみんなが発表できる機会を持ちながら次年度は取り組んでいきたい。
2	計画・ねらい	計画：リーダーの育成 ねらい：スタッフ間の連携強化
	実践結果	リーダー層の職員はいるがリーダーとして育成するまでには至らなかった。職員が自主的に動いてみんなに指導する立場に回ってくれるなどの姿は見受けられた。
	次年度方向性	リーダーとして役割を決め、自主的に動きつつ周りにリーダーとしての役割を認識してもらう立ち回りが出来るよう配置を行う。
3	計画・ねらい	計画：子どもの成長を見逃さず一緒に喜びを分かち合えるスタッフの育成 ねらい：子どもの成長に気づきをもって支援にあたり保護者へ共有する
	実践結果	自主的に休憩中に子供の成長について会話で盛り上がりたり子どもの話を真ん中に交流を取る機会が多かった。また FB で保護者へ写真や動画を使って様子を伝えることが出来ていた。
	次年度方向性	継続的に保護者へ FB で伝えながら子どもの成長について話し合う機会を設けていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：季節感ある環境づくり ねらい：子どもが四季に関心をもって日常を過ごせるようになる
	実践結果	制作を通して四季を感じる、散歩にて植物や気候に関心を持つ機会を設けたが子どもが実感して目を向ける機会は少なかつたように感じる。
	次年度方向性	四季を感じるタイミングを戸外や制作だけにとどまらず、しっかり子どもたちに歌や手遊びを通して導入を行いながら意識して四季を感じられるよう配慮した支援を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環へ意識を育む環境の配置、実践する ねらい：子どもの食通に対する意識づけ
	実践結果	畑で育てた野菜を食べる機会は設けることが出来た。捌いて食べる経験は魚の解体を通して経験することが出来た。

	次年度方向性	ミッションにもある鶏を捌くことを通して経験するだけでなくどのような過程で鶏を捌いて命を頂く経験をするか鶏だけに捉われず色々な活動を通して知る機会を設けていく必要がある。
3	計画・ねらい	計画：散歩コース、公園等の地域清掃活動 ねらい：綺麗な環境配置を子どもが身をもって体験し、実践する
	実践結果	散歩の行き帰りで清掃活動に励む機会を設けたが十分な回数ではなかった。子どもたちが公共の場を綺麗にする心づかいが身に着くよう経験や活動を十分な回数行えると良い。
	次年度方向性	公園を使用する前に職員がゴミを拾うなどのチェックを行っているためどれだけの量のゴミが落ちているか子どもと共有する機会を設けても良い。

〈6〉運動遊びの推進・内容の充実化

1	計画・ねらい	計画：運動あそびの推進 ねらい：丈夫な体づくり
	実践結果	戸外に出た際、職員発信の運動遊びは出来たが子ども発信の運動遊びは消極的なように感じた。子どもからこんな遊びをしてみたいなどの発信が出来るよう事前に声掛け、想像力が膨らむような支援をしていく必要があった。
	次年度方向性	子ども中心の発信が出来るよう大人はきっかけづくりをしていく必要がある。すべて答えを教える支援ではなくどうしたらやりたいことが出来るのか子どもが中心となって考え、話し合える場の環境を整えていく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数		16人	24人	43人	47人	46人	57人	74人	69人	87人	106人	110人	633人
登録児数		2人	5人	5人	6人	7人	9人	9人	10人	11人	11人	11人	111人

(解説) 契約数がなかなか伸び悩んだが保育園と併用している子どもを増やすことで契約数は少なくても稼働率を上げることが出来るので今後、併用できる子どもの利用獲得を目指していきたい

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
 保育士1名
 機能訓練担当1名（臨床心理士1名）
 児童指導員2名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・都度必要な情報共有、研修、勉強会
給食運営会議	月1回	毎月の給食に関する共有事項
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故報告書に関する振り返り
支援計画策定会議	適宜	新規利用者の計画、計画更新のための策定会議
連携関係者会議	1回	就学児に関する報告会

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	年2回	児発管
併設園会議／法人本部	年2回	施設長
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長 調理スタッフ
保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	今年度該当なし
安全対策係	今年度該当なし
防火管理者	統括施設長が委任
食品衛生管理係	今年度該当なし
畑係	今年度該当なし
生き物係	今年度該当なし
体験学習係	今年度該当なし

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	保育園担当者と一緒に計画を進めた

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	・契約を増やすなどの相談を随時受け入れ、新年度に替わるタイミングで転園先をどうするか都度面談にて確認、相談を行った
ビジターグループ	・新規受け入れを行い、集客がなかなか難しいことが現状であった。周知活動を行いながら契約を新規受け入れていきたい。
個別支援	・保護者のニーズや受け入れ状況などを見ながら支援を行った。個別ということにこだわらず子どもが自己決定をしながら友達と関わる、一緒に遊ぶなどの支援を促すことが出来た。
事業所内相談支援	4～3月まで 合計2名 が参加済み (3月1日時点) ・座談会など取り組めなかったため、希望する家庭のみ個別に相談を受ける機会があった。
保護者面談 発達相談	・随時受け付けた

関係機関との連携	4～3月まで 合計11名 が参加済み (3月1日時点) ・契約者すべての相談支援事業所、所属園、就学先、家庭と連携を図りながら 随時必要な対応を行った。
----------	--

〈2〉 給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	畑の野菜を使った食育活動
	実践結果	マンスリー児は日頃から畑仕事や野菜を収穫、食べるまでの経験を重ねることが出来た。ビジター児は畑仕事や食べるまでの経験を培う機会が少なかった。
	次年度方向性	すべての子どもが平等に畑仕事や食育に携わる機会を持ち、ビジターの子 どもも食育に取り組める環境を配置する必要がある。
2	計画・ねらい	子どもが好きなタイミングで好きな場所で食べることの楽しさを味わい、 食への関心を広めていく
	実践結果	子どもの特性によって食に興味がある子ども、興味が薄い子どもなど様々 であったが興味関心が薄い子どもに対しての支援や促しが現場の状況によ り満足に行えない場面が多々あった。
	次年度方向性	給食の時間もしっかりした支援が行えるよう保育園と打ち合わせながら満 足な支援をして子どもの成長、発達に繋がる支援を行っていく必要があ る。

〈3〉 保健に関する実施結果

実施項目	詳細
流行した感染症	① 11～1月にインフルエンザA型、B型の児童3名・スタッフ1名 蔓延した。 ② 10月に溶連菌、児童1名感染報告有り。
発作・痙攣等の対応	計0名に対し、計0回ダイアアップ使用
エピペン使用できるスタッフ の状況	・研修の実施なし ・2024年3月21日にエピペン研修を実施予定
AED使用できるスタッフの 状況 (AED設置施設のみ)	・本日時点で、在籍スタッフ5名のうち、5名が使用可能
その他保健に関する取組	マンスリー児は手洗いチェッカーの実施を行った。

〈4〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒4月は該当なし(開所前)、10月27日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈5〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	園庭、室内の整理整頓を徹底する 子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践結果	子どもが実践する前に大人の片づけ状況がひどくなかなか修正が効かなかった。大人の意識から変えていくべきであった。
	次年度方向性	大人のにんげん力が上がるよう余裕がない現場でも片付けや整理整頓へ目が行くよう日頃からお互い声を掛け合って意識を高めていく必要がある。
2	計画・ねらい	好きな遊びを気の合う友達と一緒に遊ぶ
	実践結果	大人が促さなくても子どもたち自身の力で気の合う友達を見つけ、一緒に遊ぶ機会を設けることが出来ていた。
	次年度方向性	継続的に行っていく。
3	計画・ねらい	生活の中で感じたもの、心を動かされたことを自由に描いたり作ったり表現できる環境を設定する
	実践結果	ビジターでは絵の具を使ったり、制作に取り組んだり表現する活動が十分に取れた。マンスリー児は園と一緒に戸外活動に出ることも多く、生活

		の合間で表現する場を持つ機会が少なかった。
	次年度方向性	戸外活動のなかで表現する機会があっても良いので職員間で遊びの提案を共有しながら工夫した配置の中で子どもたちが自由に描いたり作ったりする環境を配置していく。

〈6〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具 設置なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	防災：毎月避難訓練の実施を行った
2	実践結果	ケガ事故防止：事故報告書が上がった際には再発防止委員会を立ち上げ、ケガ事故防止に努めた。またヒヤリハット、インシデントの見直しを適宜行った。
3	実践結果	防犯：年2回、不審者訓練を行い、子どもと職員の防犯に関する意識づけをおこなった。
4	実践結果	光化学スモッグ：自治体が管理する光化学スモッグ発令情報に登録し、警報や注意報に目を向け、都度戸外に出ないなどの対応を行った。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

該当なし

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	30日 5名	31日 5名	30日 5名	31日 6名	31日 6名	30日 6名	31日 5名	30日 5名	28日 5名	31日 5名	29日 5名	30日 5名
園内研修	28日	26日	23日	28日	25日	22日	27日	24日	22日	26日	19日	21日

	5名	5名	5名	6名	6名	6名	5名	5名	5名	5名	5名	5名
園内研修 講師：施設長	4月～11月につむぎ北朝霞ルームにて5～6名のスタッフが出席 収支報告											
	事業計画にて計上した予算						実際の支出					
	出費なし			0円			出費なし			0円		
				0円						0円		
	合計			0円			合計			0円		
園内研修 講師：村上	11月～1月につむぎ北朝霞ルームにて5～6名のスタッフが出席 収支報告											
	事業計画にて計上した予算						実際の支出					
	出費なし			0円			出費なし			0円		
				0円						0円		
	合計			0円			合計			0円		
	出費なし			0円			出費なし			0円		

〈2〉外部研修への出席

該当なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長勉強会	19日 1名	24日 1名	21日 1名	19日 1名	19日 1名	20日 1名	17日 1名	15日 1名	20日 1名	24日 1名	21日 1名	21日 1名

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

併設園のメリー★ポピンズ 北朝霞ルームと一緒に地域への周知活動を行った。またその中で青空保育の担当をつむぎが担うことで地域との交流の場をつむぎが持つことで地域への発信と繋がった

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：北朝霞公園にて
商店街ツアー	週1回 主な行き先：オリンピック、花よし、朝霞ベーカリー、駅、消防署等
世代間交流	おせわ〜くの都合により新型コロナウイルス管セイン予防のため未実施
異年齢交流	1月に中学生ボランティアを実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

周知活動も兼ねて積極的に各連携機関にアプローチ、見学、やりとりを重ねた。マンスリー児の所属園での様子を見ることで日頃の支援に活かせる姿であったり園の先生と本児の支援に関する方向性を決めることが出来た。次年度も新規受け入れがあった際には都度連携を図りながら子どもの最善の利益を真ん中においた支援を実践していきたい。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
9月25日	たちばな保育室北朝霞教室	2名	保育園訪問	子どものモニタリング スタッフ間交流
10月5日	たちばな保育室朝霞台教室	2名	保育園訪問	子どものモニタリング スタッフ間交流
12月14日	朝霞市立第十小学校 特別支援学級	2名	小学校訪問	スタッフ間交流 学級見学

2月19日	さくら保育園	2名	保育園訪問	子どものモニタリング スタッフ間交流
-------	--------	----	-------	-----------------------

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画の見直し時期になると保護者へモニタリング、策定会議、新しい計画の作成と段階を踏んで作成に取り組んだ。児童発達支援管理責任者だけでなくスタッフ全員で子どもの計画を見直し、作成までローテーションで計画の見直し、作成まで行うことが出来た。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

進学先の小学校訪問、該当児童の各連携機関の関係者会議を行い、就学を見据えてどのように支援していくか、またはその後の経過観察などの情報共有を行いながら引継ぎを行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年11月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：13時00分

自己評価終了時刻：13時45分

自己評価実施者：施設長兼児童発達支援管理責任者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：125%

利用者が少ないこともあって回収率とアンケートの内容が良好であった。つむぎ北朝霞ルームを利用してから子どもの育ちに変化が見られたと実際に満足頂いているご意見も頂戴することが出来た。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉 報告すべきご意見

該当なし

〈2〉 報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月1日 作成者：発達支援つむぎ 北朝霞ルーム施設長 小酒井 菜央

2023年度 発達支援つむぎ 田無ルーム 事業報告書 (発達支援つむぎにおける自己評価)

1. 2023年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

2023年7月に開園し、想定を上回る市民の方に来訪頂きつむぎを知ってもらうことができた実感している。開園初年度は一人でも多くの方に、つむぎを知ってもらうこと、児童発達支援の理解を深めることを目標にしていたため、順調な滑り出しとなった。

また、幼稚園、保育園、他の児童発達支援事業所と交流することができ、子どもたちの生活の様子や西東京市の福祉サービスとの連携も持つことができた。利用してくださる全ての方にとって、サービスの輪が広がっている手ごたえを感じている。

マンスリーコース、ビジターコース共に西東京市の方を中心の多くの方に契約や見学予約を頂いている。また、4月以降の通所を見据えて問い合わせも増えており、順番にご案内している状況である。我々の支援方針や理念、また子どもたちにとって最善の利益を追求していくことを丁寧に説明しながら、今後も支援が必要な子どもに一人でも多く通って頂きたいと考えている。

開園年度のためスタッフが少しずつ増えている中で、子どもたちの数も徐々に増え、その特性に配慮しつつ、支援の在り方や環境設定はスタッフで話し合いながら柔軟に変化させてきた。今後もスタッフ同士で意見を出し合いながら、子どもたちが楽しく、安心して通える場所を目指す。そして、将来、子どもたちが自分の力で困難を乗り越えられるよう、現在の支援に満足することなく知識や経験、連携を強化する。

事業所の雰囲気に関して来所いただいた方に意見を頂戴しながら、カフェの利用方法や美観について更に良いものにしたいと改善を続けてきた。現状、有難いことに満足頂いている声を頂くことが多い。これに慢心せず、引き続き、来所してくださる全ての方にとって、安心できる場所、また通いたいと思って頂ける愛される事業所になるよう、挨拶や立ち居振る舞いなど接遇のレベルを高め、開園時の美観を維持し続けられるよう全スタッフで高い意識を持つ。

<1> 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	近隣の園、施設と協力し、つむぎに通う子どもたちに様々な人との関わりや環境を用意する（社会生活との関わり）
	実践結果	近隣の環境については開園前から十分に調査することができていた。また少しずつ行ける公園の種類を増やしたり、遠足を企画したりするなど、現状に満足することなく、子どもたちに様々な機会を提供できるよう努めた来訪頂くことが多い高齢者の方々にも、事業目的や子どもの特性などを丁寧に説明し、適切な距離感や言葉かけで関わってもらうことができた 次年度も同様の方針で行う
	次年度方向性	来所するすべての方につむぎの理念や方針について理解を求めながら、今後も環境を整備する
2	計画・ねらい	子どもの「したい」「やりたい」を実現する（自立心、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現）

	実践結果	支援内容をスタッフが一方的に提示するのではなく、子ども同士話し合う時間を設けたり、一人ひとりの気持ちや意見を反映させたりと子どもと一緒に活動を用意することができた やらされた経験ではなく、子どもたち自身が「やってみたい」と思った活動を思う存分経験できるようスタッフが配慮し、集団場面であっても、一人に焦点を当てすぎないように、それぞれが主体的に活動に参加できるよう支援を行うことができた
	次年度方向性	子どもがしたいことを尊重する声掛け、言葉やサインなど子どもの発達に合わせて表出方法を変えながら支援を行っていく
3	計画・ねらい	畑仕事ができる環境を用意し、様々な感触、運動を経験する。また収穫した作物を使い食育へ繋げる（健康な心と体、思考力、数量や図形などへの関心）
	実践結果	土に触れ、水をまき、雑草を取るなど年間を通じて、畑仕事に取り組む機会の提供を行った。給食提供園であるため食べ残し等を活用し、コンポストの作成も行い、食の循環に関して経験の中で学ぶことができた。 そのような食への関心を引き出した結果、偏食の多い子たちも少しずつ新しい食べ物に挑戦したり、食べられるものを沢山お代わりしたりなど、食への姿勢に変化が生じたと感じる
	次年度方向性	近隣の畑を契約し、実際に畝を作ったり耕したりなど、本物の経験をさせたいと考えている。現在行っているプランターの栽培も、身近な畑仕事として継続しながら食への意識を高めていく
	計画・ねらい	生き物との触れ合いを通して生死を知る。命への理解。思いやりの心を育む（道徳性、共感性、責任感）
	実践結果	虫かごを片手に公園へとでかけ、そこで見つけた昆虫を園で飼育し、生き物との触れ合いなど、原体験を通して生死を知ることができた。生き物の飼育を通して、命の尊さや他児と協力することなど社会性も高めることができた。
	次年度方向性	虫、メダカ、エビなど継続して飼育しながら、大きな動物（ヤギや鶏）と触れ合える経験を提供したい

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育て全般に関わる相談、及び支援の目標や経過を共有する
	実践結果	事業所内相談支援（月1回）の制度を保護者へ周知し、子育てに関わる相談、つむぎでの様子の共有等を実施
	次年度方向性	契約時に丁寧に説明し、掲示等でもお知らせする
2	計画・ねらい	在籍園、行政機関、他事業所などへ訪問または電話による連携を通じて、多角的な支援を提供する
	実践結果	訪問及び電話で連携ができることを保護者に周知し、連携後は内容をスタッフ及び保護者と共有した 連携内容を個別支援計画書に追記し、必要に応じて適宜個別支援計画書の

		見直しを行った
	次年度方向性	所属園と連携しながら継続する
3	計画・ねらい	保育所等訪問支援を行い地域のニーズを調査しながら規模を拡大していく
	実践結果	初年度であったため制度の理解や自治体との情報交換を密に行った
	次年度方向性	受給者証発行の仕組みや制度の必要性を保護者へ周知し、利用開始に繋げる

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	多くの方に気軽に来所してもらえよう、開かれたカフェスペースを目指し、情報交換の場として活用してもらう
	実践結果	利用いただく方に簡単なアンケートを実施し、意見を取り入れながら、カフェスペースの機能を充実させることができた カフェ内には地域の子育て支援に関わるチラシを置き、保護者同士がはやりやすく、過ごしやすい環境にできたと感じている 契約の有無に関わらず子育てに関わる相談を行えるよう、スタッフは地域の子育て資源や教育に関する情報収集に努めた
	次年度方向性	今後もカ地域の方にカフェを利用して頂き、誰にとっても過ごしやすい居場所づくりを維持する。
2	計画・ねらい	青空保育を実施し、地域につむぎを知ってもらう
	実践結果	不定期になってしまったが、つむぎを知ってもらうきっかけになるよう、近隣公園に向いた時には他園の先生と情報交換させていただいた。また子どもたちも自然と一緒に遊ぶことができていた
	次年度方向性	どろんこ保育園と一緒に計画し、次年度中には自園だけで定期的を開催できるように努めたい
3	計画・ねらい	勝手籠を設置し、地域との交流を促進する
	実践結果	建物の構造上、設置には至らなかったが、利用してくださる地域の方々から、着られなくなった子ども用の衣類を提供頂き、活用させてもらうことができた
	次年度方向性	共用部分に出さなくても設置できないかの検討。または代替案の検討を進める

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領から支援の基礎を学ぶ
	実践結果	毎月テーマを設定し、児童発達支援事業を行う上で必要な知識を共有することができた。読み合わせとつむぎの支援がこれらの指針に沿った物になっているか、振り返りながら質の高いサービスを追求した
	次年度方向性	スタッフ自身が研究テーマを設定し、毎月スタッフに向けてアウトプットする機会を設定する
2	計画・ねらい	リスク管理（事故、病気、怪我）の知識とその対応について知識を深める
	実践結果	熱発、怪我、嘔吐など想定される子どもの状態に対して、全スタッフが落ち着いて対応できるようロールプレイングを実施した また重大事故が発生した際の初期対応など、スタッフ全員でリスク管理について学ぶ機会を設けた
	次年度方向性	同内容で継続し、中途入社スタッフへ向けても入職時に実施する
3	計画・ねらい	コンピテンシーを基盤とした法人の日課や活動を知り、実践する
	実践結果	法人で大事にしている日課や活動を勉強会や研修を毎月実施した。新しいスタッフにもその意義や支援方法について周知徹底することで、サービスの水準を一定に保つことができた 年齢にとらわれず子どもの発達に沿ったものに内容を見直しながら支援に取り入れていくことができた
	次年度方向性	コンピテンシーや子どもの発達特性について理解を深める機会を設定する

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物や植物の世話を通して生命の尊さに気づき、労わる気持ちや大切に する心を育む
	実践結果	戸外活動で自然の変化など身近な事象に興味を持ち、自然のものを活用した 支援を充実させることができた 生き物や植物の世話を子どもが主体的に行えるよう環境調整し、生命の尊 さや子ども自身が心の動きに気づけることを大切にできるよう努めた
	次年度方向性	飼育できる生き物の種類が限られるため、近隣園に出向き、ヤギや鶏との 触れ合える機会を提供する
2	計画・ねらい	危険をすべて排除してしまうのではなく、怪我を通じて自分の身体の使い 方や力のコントロールができる環境を用意する
	実践結果	子どもが自由に遊べる環境を用意するが、リスクを排除し過ぎてしまうの ではなく、安全な環境の中で怪我をしても重大事故にならないような設定 を意識することができた 経験を通して、子どもが何度も挑戦し諦めずに達成することや、身体の使 い方が上手になるよう努めた

次年度方向性	引き続き、同様の環境を設定する
--------	-----------------

2. 施設運営

〈1〉 児童利用状況

児童発達支援 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	—	—	—	15人	56人	108人	138人	156人	193人	208人	230人	240人	1344人
登録児数	—	—	—	5人	3人	10人	5人	4人	5人	4人	4人	2人	42人

(解説) 2023年7月開所のため、それ以前の数値はなし。また3月は見込みの数を記載。

保育所等訪問支援 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総人数	—	—	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(解説) 開園初年度のため児童発達支援に注力し、本年の保育所等訪問支援は地域のニーズや制度の理解に努めた

相談支援事業 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	—	—	—	—	7人	4人	4人	6人	3人	0人	2人	2人	28人
継続	—	—	—	—	0人	7人	9人	11人	2人	0人	0人	21人	50人

(解説) 2023年8月開所のため、それ以前の数値はなし。また3月は見込みの数を記載。

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
 保育士3名
 言語聴覚士1名
 公認心理士1名
 社会福祉士2名
 栄養士1名
 相談支援専門員1名

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修） ・つむぎ内外から講師を招いた研修を実施
給食運営会議	月1回	月毎の献立の検討、代案の検討、食に関する子どもの情報共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故報告の共有、改善検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加
ケース会議（マンズリー見の共有）	毎日	・事例検討、ケースの情報共有、支援方法の検討

〈2〉出席した施設外会議（Web参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議／法人本部	月1回	施設長
施設長勉強会／法人本部	月1回	施設長
児発管会議／法人本部	年2回	児発管
食育会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	調理スタッフ

保健会議／法人本部	年4回 (5.7.11.2月/5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	スタッフ

〈3〉 係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、プランターの整備、計画的な活動の立案、実施
生き物係	メダカとエビの飼育管理、子どもが世話をする支援方法の立案、実施、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	遠足の企画、準備、実施

〈4〉 行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
地域交流係	他園との連携、企画の立案、遂行、カフェの運用

4. 支援・処遇

〈1〉 保護者面談 および発達相談・児童の保護者への支援および意見要望への対応

マンスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張が強い児童には短い時間から慣らしていくなど、保護者と相談しながら環境に慣れるように配慮した ・年齢で分けることなく、異年齢での交流を常時行いながら、リーダーとフォロワーの関係を意識して活動を設定した ・悪天候以外の日には毎日戸外活動を実施した ・給食は一人ひとりの発達に合わせた食具の促し、食材の加工に配慮した
-------	--

親子グループ	・2歳児2名でスタートしたが、すぐにマンスリーへ利用変更になったため2カ月程で終了となった。今後もニーズに合わせて設定する
個別支援	・個別支援計画に基づき、子どもに合わせた支援を実施 ・活動は子どもの希望を尊重し、戸外を中心に行った ・個別支援であっても、他の子どもたちと関わる機会を設け、集団に場面における課題も合わせて支援を実施
事業所内相談支援	・7～3月まで 合計15名 が参加済み (3月1日時点)
保護者面談 発達相談	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	7～3月まで 合計10名 が参加済み (3月1日時点) ・西東京市児童発達支援センターひいらぎの研修参加 ・契約児の所属園へ園訪問を実施

〈2〉計画した年間行事の振り返り

別紙「2023年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	食事を通じたコミュニケーション
	実践結果	スタッフは役職、資格関係なく、子どもと一緒に食事を取り、コミュニケーションの楽しさを共有することができた
	次年度方向性	次年度も食事が楽しいと思えるような関わりを心掛ける
2	計画・ねらい	畑仕事を通じて自然の興味、食への関心を広げる
	実践結果	プランターで野菜を育てた。コンポストで堆肥を作り、土づくりから行ったものの、建物の改修工事もあり日当たりが悪くなってしまったため、発芽はしたが収穫には至らなかった。その代わりに、水耕栽培でできる豆苗など畑仕事に変わる活動を提供することができた
	次年度方向性	現在、市と協議中ではあるが、畑を借りて実際に畝づくりや収穫を行う予定である。借りられるまでの間は引き続きプランターを活用していく
3	計画・ねらい	子どもが「食」そのものを楽しめるように関わる
	実践結果	食への意欲を最大限に高められるよう、午前中は精一杯遊び、お腹を空かせられるように環境を用意した 障害児一人ひとりに口腔発達に合わせた食事形態にすることでリスク管理を徹底した

		食具操作が未発達段階では手づかみを推奨していきながら、発達に応じて食具操作を支援することができた
	次年度方向性	児童発達支援ならではのきめ細やかな支援を引き続き目指していく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
流行した感染症	無し
発作・痙攣等の対応	ダイアアップ使用なし 救急車要請なし
エピペン使用できるスタッフの状況	・6月にキックオフミーティングにてエピペン、ダイアアップ研修を計9名が受講済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、9名が使用可能。中途職員は3月に研修予定
AED使用できるスタッフの状況（AED設置施設のみ）	・6月にキックオフミーティングにてAED研修を計9名が受講し習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ10名のうち、9名が使用可能。中途職員は3月に研修予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を実施。また消毒・換気を徹底した

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時 ⇒7月3日、10月2日に実施済み ・4月は開園前のため7月に変更
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもが自己選択できる環境づくり
	実践結果	子ども自身がやりたいと思ったことができる環境設定を目指し、その中で子ども同士のやり取りが生まれ、自然とコミュニケーションが取れるように環境づくりを心掛けた
	次年度方向性	ただ遊びの選択肢を用意するだけでなく、ケガが発生しにくい構造や子ども同士の関わり合いが生まれる配置を心掛ける
2	計画・ねらい	清潔で快適に過ごせる環境づくり
	実践結果	毎月、園会議内で施設内の設備や備品の検討を行いながら整理整頓を実施 不要な物は整理する一方で、利用される方やスタッフの意見を取り入れながら、必要な物は設置を検討し、誰に取っても快適に過ごせる環境を目指した
	次年度方向性	開園時の美観を保てるよう整理整頓や清掃を継続する
3	計画・ねらい	地域の情報を集める
	実践結果	地域の社会資源、公共施設、学校情報、就労情報など、様々な情報を集め保護者へ提供した 必要な情報を多く集めるため、積極的に戸外活動に出向くことができた
	次年度方向性	相談支援事業と連携し、新しい情報を常に更新し続ける

〈7〉手作り遊具安全点検結果

手作り遊具・家具 なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震が発生した場合を想定し、毎月防災訓練を実施 ・非常時に備え、備蓄品の確認を実施 ・発生時はフローチャートに従って実施
2	インシデント・ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント、ヒヤリハットを毎月ルーム内で共有し、要因分析と防止対策を検討 ・発生時はフローチャートに従って実施
3	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練（室内時、戸外時）を年2回実施。笛の所持、合言葉の確認等を実施 ・発生時はフローチャートに従って実施
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグ発生時の対応をルームで共有 ・自治体から発令される注意報に従い、戸外活動の予定は室内活動へ変更 ・発生時はフローチャートに従って実施

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

開園年であったため実習生・中高生の受け入れはなかった。次年度以降、受け入れていけるようスタッフの育成に力を入れていく。

7. スタッフ研修

〈1〉施設内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	—	—	—	1日 9名	1日 10名	6日 10名	2日 10名	21日 10名	2日 10名	6日 11名	3日 10名	3日 10名
虐待防止研修	—	—	—			25日 7名					21日 8名	
施設内勉強会	—	—	—	20日 7名	28日 9名	25日 9名	23日 8名	27日 7名	22日 8名	26日 8名	21日 8名	22日 8名

〈2〉外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
1月30～31日	公益財団法人 総合健康推進財団	令和5年度 東京都サービス管理責任者実践研修及び児童発達支援管理責任者実践研修	1名	有
11月21日／1月11日	東京都社会福祉保健医療研修センター	令和5年度 東京都相談支援従事者初任者研修	2名	有
12月7～18日	東京都福祉保健財団	令和5年度 東京都強度行動障害支援者要請研修	2名	有

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
施設長勉強会	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	16日 1名	20日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

地域に根差す事業所となるよう、交流を大切にしたい年であった。世代間交流、異年齢交流、インクルーシブな交流、近隣交流など積極的に環境を設け、多くの方と交流をすることができた。スタッフが地域のイベントに参加しながら学びの機会も確保することができた。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
世代間交流	ほぼ毎日つむぎカフェに地域の方が訪れてくださり、年間で1600名以上の方と交流することができた
異年齢交流	マンスリーにて毎日実施

9. 医療機関・幼稚園・保育園・小学校との連携の計画

〈1〉今年度の振り返り

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図った。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるように実施。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図った。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるように実施。
- ⑥ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努めた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
11月14日	明成幼稚園 年長クラス	2名	園訪問	スタッフ間連携
1月19日	はこべら保育園	2名	園訪問	スタッフ間連携
2月28日	NICOT 富士見台	1名	園訪問	スタッフ間連携

10. 個別支援計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認している、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置いた。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成した。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるように記載した。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得ながら実施。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行った。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しを行った。

〈2〉進級引継、および小学校への引継状況

適宜ケース会議を行い、子どもの最善の利益を考え、より質の高い支援を提供できるよう複数のスタッフで多角的に検討することができた。子どもの情報共有（子どもの様子、生育環境）、支援計画、活動の検討と見直しを行った。年長児は就学支援シートを作成し、就学後に必要な支援について情報共有を行った。

11. 子育て支援事業

実施項目	詳細												
子育て相談	(月)～(土) 9:00～17:00 随時受付を行った												
青空保育	月1回 公園名：西原自然公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	—	—	—	0名	0名	0名	3名	2名	0名	0名	2名	3名	10名

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年9月8日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：9時00分

自己評価終了時刻：17時30分

自己評価実施者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

開園直後のアンケートとなったため対象者は限られていたが、回答頂いた皆様から高い評価を頂き大変満足している。今後も皆様からの機会にお応えできるよう、スタッフ一丸となって質の高いサービスを追求する。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 田無ルーム施設長 井坂僚